SETSUNAN UNIVERSITY

SYLLABUS

2015 法学部 授業計画

法律学科

法　学　部

（学部略号：J）

Faculty of Law

法律学科
（学科略号：J）
Department of Law

法学部　教育目標

法学部法律学科は、幅広い教養と法学・政治学・法政策学に関わる専門的知識に裏打ちされ、論理的に問題解決ができる能力を有し、主体的に社会貢献をなしうる人間力を持った人材を養成することを目的とする。

授　業　計　画

科目名	担当者	ページ
ア		
アジアと日本	河原匡見	11
イ		
インターンシップⅠ	石井三恵	503
インターンシップⅡ	石井三恵	504
エ		
英会話Ⅰ	ｽﾃｨｰﾌﾞ ﾄﾏｼｪﾌｽｷｰ	385
英会話Ⅰ	ダンカン ホワイト	386
英会話Ⅰ	ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｼﾞｮﾝｽﾄﾝ	387
英会話Ⅱ	ｽﾃｨｰﾌﾞ ﾄﾏｼｪﾌｽｷｰ	388
英会話Ⅱ	ダンカン ホワイト	389
英会話Ⅱ	ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｼﾞｮﾝｽﾄﾝ	390
英語Ⅰ	大神雄一郎	391
英語Ⅰa	神崎舞	319
英語Ⅰa	本多善	320
英語Ⅰa	籔井恵美子	322
英語Ⅰa	山本尚子	323
英語Ⅰa	岩永道子	324
英語Ⅰa	西谷継治	325
英語Ⅰa	松下乃亜	326
英語Ⅰa	松浦茂寿	328
英語Ⅰb	神崎舞	329
英語Ⅰb	本多善	330
英語Ⅰb	籔井恵美子	332
英語Ⅰb	山本尚子	333
英語Ⅰb	岩永道子	334
英語Ⅰb	西谷継治	335
英語Ⅰb	松下乃亜	336
英語Ⅰb	松浦茂寿	338
英語Ⅰd	高橋章夫	339
英語Ⅰd	有本好一郎	340
英語Ⅰd	田中健二	341
英語Ⅰd	金原真由美	343
英語Ⅰd	田村康子	345
英語Ⅰd	大江麻里子	346
英語Ⅰd	松浦茂寿	347
英語Ⅰd	中本明子	348
英語Ⅱ	大神雄一郎	392
英語Ⅲ	栢木敦子	393
英語Ⅳ	栢木敦子	395
英語Ⅰc	高橋章夫	349
英語Ⅰc	有本好一郎	350
英語Ⅰc	田中健二	351
英語Ⅰc	金原真由美	353
英語Ⅰc	田村康子	355
英語Ⅰc	大江麻里子	356
英語Ⅰc	松浦茂寿	357
英語Ⅰc	中本明子	358
英語で学ぶ工学入門（ものづくり編）	森脇俊道	397

科目名	担当者	ページ
英米法	家本真実	12
エンプロイメントデザインⅠ	石井三恵 富岡直美 水野武	506
エンプロイメントデザインⅡ	石井三恵 富岡直美 水野武	508
オ		
応用情報処理	藤木健史	13
カ		
海外語学研修	齋藤安以子	398
会社法Ⅰ	牛丸與志夫	14
会社法Ⅱ	牛丸與志夫	16
家族と地域の法社会史	牧田勲	17
環境法	浮田徹	18
キ		
北河内学－摂南大学と北河内を知る－	尾山廣	399
キャリアデザインⅠ	石井三恵	510
キャリアデザインⅠ	水野武 津村英二 富岡直美 橋本朗子	511
キャリアデザインⅡ	石井三恵 富岡直美 橋本朗子 水野武	513
キャリアデザインⅢ	石井三恵 安久典宏 富岡直美 水野武	514
教育課程論	大野順子	533
教育経営論	朝日素明	535
教育原理	小山裕樹	537
教育実習Ⅰ	朝日素明	539
教育実習Ⅱ	吉田佐治子	540
教育実習Ⅲ	吉田佐治子	542
教職実践演習（中・高）	吉田佐治子	544
教育社会学	大野順子	546
教育心理学	吉田佐治子	548
教育相談	吉田佐治子	549
教育方法論	林茂樹	550
教師論	朝日素明	552
行政救済法Ⅰ	金谷重樹	19
行政救済法Ⅱ	金谷重樹	20
行政と政策	中沼丈晃	21
行政法の基礎理論Ⅰ	金谷重樹	23
行政法の基礎理論Ⅱ	金谷重樹	24
教養化学	竹内健治	401
教養経済学	浅羽良昌	402

科目名	担当者	ページ
教養数学	黒木和雄	404
教養物理	西谷幹彦	405
近世日本の法文化	牧田勲	25
近代日本政治史	河原匡見	26
金融商品取引法	牛丸與志夫	27
金融論	堀篤史	29

ク

くらしと経済	堀篤史	407
グローバリゼーション	河原匡見	30
グローバル社会論	河原匡見	31

ケ

経営学入門	庭本佳子	408
経済学Ⅰ	堀篤史	410
経済学Ⅱ	浅羽良昌	411
経済学入門	堀篤史	413
経済刑法	小野晃正	32
経済と法	浅羽良昌	414
刑事政策	島田良一	34
刑事訴訟法Ⅰ	島田良一	35
刑事訴訟法Ⅱ	島田良一	36
刑事法概論	島田良一	37
刑事法概論	小野晃正	38
刑事法概論	島田良一	40
刑事法概論	小野晃正	41
刑法各論Ⅰ	小野晃正	43
刑法各論Ⅱ	小野晃正	45
刑法総論Ⅰ	小野晃正	47
刑法総論Ⅱ	小野晃正	49
契約法	家本真実	51
健康科学	藤林真美	416
健康論	藤林真美	418
現代の民主主義	松永信一	52
憲法Ⅰ（基本的人権）	浮田徹	53
憲法Ⅰ（基本的人権）	家本真実 浮田徹	55
憲法Ⅱ（統治機構）	浮田徹	57
憲法概論	浮田徹	59
憲法概論	松島裕一	61

コ

公共政策の基礎	中沼丈晃	63
国語学	橋本正俊	420
国語学Ⅰ	橋本正俊	421
国際関係史	河原匡見	65
国際関係論	河原匡見	66
国際私法Ⅰ	小山昇	67
国際私法Ⅱ	小山昇	68
国際社会と法	糟谷英之	69
国際社会の法律英語	糟谷英之	70
国際人権法	糟谷英之	71
国際組織法	糟谷英之	73
国際取引法	小山昇	74
国際取引法Ⅰ	小山昇	75
国際取引法Ⅱ	小山昇	76
国際法の基礎理論	糟谷英之	77
国際ボランティア論	浅野英一	78
コミュニケーション能力開発	松田剛典	516
コミュニケーション能力開発	松田剛典	517

サ

債権法	大川謙蔵	79
債権法Ⅰ	大川謙蔵	81
債権法Ⅱ	大川謙蔵	82
財政学	柿本尚志	83
裁判員制度特別講義	家本真実	84
裁判制度特別講義	家本真実	85

シ

時事英語Ⅰ	里井真理子	422
時事英語Ⅱ	里井真理子	423
自然地理学	原秀禎	424
市民社会論	森康一	86
社会科・公民科教育法Ⅰ	大野順子	554
社会科・公民科教育法Ⅱ	大野順子	556
社会科・地歴科教育法Ⅱ	井上正英	558
社会科・地歴科教育法Ⅰ	井上正英	560
社会学Ⅰ	武田祐佳	425
社会学Ⅱ	武田祐佳	426
社会調査実習	中沼丈晃	87
社会調査の方法	西浦真喜子	427
社会と人権	有馬善一 林田敏子 松島裕一	428
就職実践基礎	亀田峻宣	430
就職実践基礎	亀田峻宣	431
就職実践基礎	西座由紀	432
就職実践基礎	橋本朗子	433
就職実践基礎	松田剛典	434
就職実践基礎	松田剛典	435
就職実践基礎	西座由紀	436
就職実践基礎	亀田峻宣	437
商行為法	牛丸與志夫	89
少年法	島田良一	90
消費者と法	城内明	91
情報処理Ⅰ	星山幸子	359
情報処理Ⅰ	星山幸子	360
情報処理Ⅱ	星山幸子	361
情報処理Ⅱ	星山幸子	362
商法総則	牛丸與志夫	92
商法総論Ⅰ	牛丸與志夫	93
商法総論Ⅱ	牛丸與志夫	94
親族法	古川行男	95

科目名	担当者	ページ
人文地理学	原　秀禎	438
心理学Ⅰ	河俣英美	439
心理学Ⅱ	河俣英美	440

ス

数的能力開発	亀田峻宣	518
スポーツ医学の基礎	岡﨑和伸	441
スポーツ医学の理論と実際	渡辺一志	96
スポーツ英語Ⅰ	松下乃亜	442
スポーツ英語Ⅰ	松浦茂寿	444
スポーツ英語Ⅱ	松下乃亜	445
スポーツ英語Ⅱ	松浦茂寿	447
スポーツ英語Ⅲ	松浦茂寿	448
スポーツ英語Ⅲ	中本明子	449
スポーツ英語Ⅳ	松浦茂寿	450
スポーツ英語Ⅳ	中本明子	451
スポーツ栄養学	堀　美幸	97
スポーツ科学概論	藤林真美	363
スポーツ科学実習Ⅰ	藤林真美 堀　美幸 村上陽一郎	452
スポーツ科学実習Ⅰ	内部昭彦	453
スポーツ科学実習Ⅱ	藤林真美 岡﨑和伸 村上陽一郎	454
スポーツ科学実習Ⅱ	内部昭彦	455
スポーツ科学実習Ⅰａ	藤林真美 堀　美幸 村上陽一郎	365
スポーツ科学実習Ⅰａ	内部昭彦	366
スポーツ科学実習Ⅰｂ	藤林真美 岡﨑和伸 村上陽一郎	367
スポーツ科学実習Ⅰｂ	内部昭彦	368
スポーツ教育学	近藤　潤	456
スポーツ指導者入門	横山喬之	457
スポーツ社会学	石井信輝	98
スポーツ心理学	石井信輝	99
スポーツ政策論	石井信輝	100
スポーツと法律	石井信輝	101
スポーツトレーニングの基礎	岡本香代子	458
スポーツの歴史	近藤　潤	102
スポーツビジネス	大川謙蔵	103
スポーツプログラミング	岡本香代子	104
スポーツ文化論	河瀬泰治	105
スポーツマネジメント	石井信輝	106

セ

政治学Ⅰ	松永信一	107
政治学Ⅱ	松永信一	108
政治学概論	中沼丈晃	109
政治過程論	松永信一	111
政治史	河原匡見	112
政治と政策	中沼丈晃	113
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅野英一	459
生徒指導論	朝日素明	562
西洋女性史	小宮山直子	114
西洋の裁判の歴史	小宮山直子	116
西洋の人権の歴史	小宮山直子	118
世界史概論	林田敏子	460
世界の政治	森　康一	120
世界の政治と社会	森　康一	121
選挙と政党	松永信一	122
専門演習Ⅰ	小山　昇	123
専門演習Ⅰ	金谷重樹	124
専門演習Ⅰ	牛丸與志夫	125
専門演習Ⅰ	糟谷英之	126
専門演習Ⅰ	木村秀一	127
専門演習Ⅰ	牧田　勲	128
専門演習Ⅰ	小島俊朗	129
専門演習Ⅰ	河原匡見	130
専門演習Ⅰ	古川行男	131
専門演習Ⅰ	松永信一	132
専門演習Ⅰ	中沼丈晃	133
専門演習Ⅰ	浮田　徹	134
専門演習Ⅰ	石井信輝	135
専門演習Ⅰ	島田良一	136
専門演習Ⅰ	家本真実	137
専門演習Ⅰ	城内　明	138
専門演習Ⅰ	小野晃正	139
専門演習Ⅰ	萩原佐織	140
専門演習Ⅰ	大川謙蔵	141
専門演習Ⅰ	松島裕一	142
専門演習Ⅱ	小山　昇	143
専門演習Ⅱ	牛丸與志夫	144
専門演習Ⅱ	糟谷英之	145
専門演習Ⅱ	木村秀一	146
専門演習Ⅱ	河原匡見	147
専門演習Ⅱ	中沼丈晃	148
専門演習Ⅱ	古川行男	149
専門演習Ⅱ	浮田　徹	150
専門演習Ⅱ	城内　明	151
専門演習Ⅱ	石井信輝	152
専門演習Ⅱ	金谷重樹	153
専門演習Ⅱ	牧田　勲	154
専門演習Ⅱ	小島俊朗	155
専門演習Ⅱ	松永信一	156
専門演習Ⅱ	小野晃正	157
専門演習Ⅱ	島田良一	158
専門演習Ⅱ	家本真実	159
専門演習Ⅱ	萩原佐織	160
専門演習Ⅱ	大川謙蔵	161
専門演習Ⅱ	松島裕一	162
専門日本語ＦⅠ	中岡樹里	369

科目名	担当者	ページ
専門日本語ＦⅡ	中岡樹里	370

ソ

総合法学Ⅰ	小山昇	163
総合法学Ⅱ	小山昇	164
相続法	古川行男	165
租税法Ⅰ	小島俊朗	166
租税法Ⅱ	小島俊朗	167
卒業研究	小山昇	168
卒業研究	金谷重樹	169
卒業研究	牛丸與志夫	170
卒業研究	糟谷英之	171
卒業研究	木村秀一	172
卒業研究	牧田勲	173
卒業研究	小島俊朗	174
卒業研究	河原匡見	175
卒業研究	古川行男	176
卒業研究	松永信一	177
卒業研究	浮田徹	178
卒業研究	石井信輝	179
卒業研究	島田良一	180
卒業研究	家本真実	181
卒業研究	城内明	182
卒業研究	萩原佐織	183
卒業研究	大川謙蔵	184
卒業研究	松島裕一	185

タ

ダイバーシティとコミュニケーション	石井三恵	461
体力測定とスポーツ相談	堀美幸	186
多文化共生とは	河原匡見	187
多文化共生論	河原匡見	188
担保物権法	古川行男	189

チ

地域調査入門	中沼丈晃	190
地域とスポーツ	石井信輝	192
地域連携教育活動Ⅰ	浅野英一	462
地域連携教育活動Ⅱ	浅野英一	463
チームビルディング	水野武	464
地誌学	稲田克二	465
知的財産法	関堂幸輔	193
知的所有権法	関堂幸輔	195
地方財政論	柿本尚志	197
地方自治と政策	中沼丈晃	198
地方自治と法	金谷重樹	200
中国語Ⅰ	馮艶	466
中国語Ⅱ	馮艶	467
中国語Ⅲ	兪鳴蒙	468
中国語Ⅳ	兪鳴蒙	469
地理学Ⅰ	原秀禎	470
地理学Ⅱ	原秀禎	471

ツ

罪と罰	島田良一	201

テ

哲学Ⅰ	池田清	472
哲学Ⅱ	池田清	473

ト

倒産法	萩原佐織	202
道徳教育の研究	小山裕樹	563
独占禁止法Ⅰ	木村秀一	204
独占禁止法Ⅱ	木村秀一	205
特別活動の理論と方法	林茂樹	565

ニ

日本語会話ＦⅠ	髙井美穂	371
日本語会話ＦⅡ	髙井美穂	372
日本語上級会話ＦⅠ	髙井美穂	474
日本語上級会話ＦⅡ	髙井美穂	475
日本語上級作文ＦⅠ	中岡樹里	476
日本語上級作文ＦⅡ	中岡樹里	477
日本語上級読解ＦⅠ	古川由理子	478
日本語上級読解ＦⅡ	古川由理子	479
日本語総合ＦⅠ	古川由理子	373
日本語総合ＦⅡ	古川由理子	374
日本語読解ＦⅠ	中岡樹里	375
日本語読解ＦⅡ	中岡樹里	376
日本語能力開発Ⅰ	田中教子	519
日本語能力開発Ⅰ	細川知佐子	520
日本語能力開発Ⅰ	丹下暖子	521
日本語能力開発Ⅰ	髙嶋藍	522
日本語能力開発Ⅱ	田中教子	523
日本語能力開発Ⅱ	細川知佐子	524
日本語能力開発Ⅱ	丹下暖子	525
日本語能力開発Ⅱ	丹下暖子	526
日本語表現作文ＦⅠ	中岡樹里	377
日本語表現作文ＦⅡ	中岡樹里	378
日本語文法ＦⅠ	中岡樹里	379
日本語文法ＦⅡ	中岡樹里	380
日本史概論	佐伯智広	480
日本事情ＦⅠ	門脇薫	381
日本事情ＦⅡ	門脇薫	382
日本女性史	牧田勲	206
日本政治論	松永信一	207
日本の外交の歴史	森康一	208
日本の人権の歴史	牧田勲	209
日本の政治	松永信一	210

ハ

発育発達論	岡本香代子	481
犯罪学	島田良一	211

科目名	担当者	ページ
犯罪被害者と法的救済	小野晃正	482

ヒ

ビジネスマナーⅠ	橋本朗子	527
ビジネスマナーⅡ	石井三恵	529

フ

フィットネストレーニングの理論と実際	堀美幸	212
物権法	家本真実	213
武道論	横山喬之	484
不法行為法	城内明	214
文学	松尾佳津子	485
文学Ⅰ	松尾佳津子	486

ヘ

ヘルスエクササイズの理論と実際	岡本香代子	215

ホ

法学概論	金谷重樹	216
法学概論	小山昇	217
法学基礎演習Ⅰ	小山昇	218
法学基礎演習Ⅰ	金谷重樹	219
法学基礎演習Ⅰ	牛丸與志夫	220
法学基礎演習Ⅰ	糟谷英之	221
法学基礎演習Ⅰ	木村秀一	222
法学基礎演習Ⅰ	牧田勲	223
法学基礎演習Ⅰ	小島俊朗	224
法学基礎演習Ⅰ	河原匡見	225
法学基礎演習Ⅰ	古川行男	226
法学基礎演習Ⅰ	松永信一	227
法学基礎演習Ⅰ	中沼丈晃	228
法学基礎演習Ⅰ	石井信輝	229
法学基礎演習Ⅰ	島田良一	230
法学基礎演習Ⅰ	城内明	231
法学基礎演習Ⅰ	小野晃正	232
法学基礎演習Ⅰ	萩原佐織	233
法学基礎演習Ⅰ	大川謙蔵	234
法学基礎演習Ⅰ	松島裕一	235
法学基礎演習Ⅱ	小山昇	236
法学基礎演習Ⅱ	金谷重樹	237
法学基礎演習Ⅱ	牛丸與志夫	238
法学基礎演習Ⅱ	糟谷英之	239
法学基礎演習Ⅱ	木村秀一	240
法学基礎演習Ⅱ	牧田勲	241
法学基礎演習Ⅱ	小島俊朗	242
法学基礎演習Ⅱ	河原匡見	243
法学基礎演習Ⅱ	古川行男	244
法学基礎演習Ⅱ	松永信一	245
法学基礎演習Ⅱ	中沼丈晃	246
法学基礎演習Ⅱ	石井信輝	247
法学基礎演習Ⅱ	島田良一	248
法学基礎演習Ⅱ	城内明	249
法学基礎演習Ⅱ	小野晃正	250
法学基礎演習Ⅱ	萩原佐織	251
法学基礎演習Ⅱ	大川謙蔵	252
法学基礎演習Ⅱ	松島裕一	253
法思想史	松島裕一	254
法思想史Ⅰ	松島裕一	256
法情報学	砂金伸一	258
法政キャリア特別講義Ⅰ	小山昇 石井信輝 牛丸與志夫 大川謙蔵 河原匡見 松島裕一	260
法政キャリア特別講義Ⅱ	木村秀一	261
法政キャリア特別講義Ⅱ	松島裕一 前田剛志	262
法政キャリア特別講義Ⅱ	小山昇	264
法政キャリア特別講義Ⅲ	松島裕一 前田剛志	265
法政キャリア特別講義Ⅲ	中塚賢	267
法政キャリア特別講義Ⅲ	小山昇	268
法政キャリア特別講義Ⅳ	松島裕一 前田剛志	269
法政キャリア特別講義Ⅳ	大仲淳介	271
法政キャリア特別講義Ⅳ	金谷重樹 大川謙蔵	272
法政キャリア特別講義Ⅴ	牛丸與志夫	273
法政キャリア特別講義Ⅴ	松島裕一 前田剛志	274
法政キャリア特別講義Ⅴ	大仲淳介	276
法政キャリア特別講義Ⅵ	松島裕一 前田剛志	277
法哲学Ⅰ	松島裕一	279
法哲学Ⅱ	松島裕一	281
法とジェンダーの歴史	小宮山直子	283
法と社会	松島裕一	285
法の基礎	木村秀一	287
法律英語	糟谷英之	288
法律職・公務員特別講義Ⅰ	中塚賢	289
法律職・公務員特別講義Ⅱ	金谷重樹 大川謙蔵	290
法律職・公務員特別講義Ⅲ	松島裕一 前田剛志	291
保険法	牛丸與志夫	293

マ

マーケティングと歴史	武居奈緒子	487
マスメディアと世論	松永信一	294
まちを調べる	中沼丈晃	295
祭りと地域の法社会史	牧田勲	297

科目名	担当者	ページ
ミ		
身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中沼丈晃	488
民事再生法	萩原佐織	298
民事訴訟法Ⅰ	萩原佐織	300
民事訴訟法Ⅱ	萩原佐織	302
民事法概論	大川謙蔵 萩原佐織	304
民事法概論	小山昇	305
民事保全・執行法	萩原佐織	306
民法総則	城内明	308
モ		
ものづくりインターンシップ基礎	奥野竜平	490
ものづくりインターンシップ基礎	川野常夫	492
ものづくりインターンシップ実践	奥野竜平	493
ものづくり海外インターンシップ	川野常夫	495
ヤ		
役立つ金融知力	陸川富盛	497
ユ		
有価証券法Ⅰ	木村秀一	309
有価証券法Ⅱ	木村秀一	310
ラ		
ライフステージと法	大川謙蔵 萩原佐織	311
リ		
リーガルリサーチと公的書類	家本真実	312
レ		
歴史学概論	佐伯智広	499
ロ		
労働組合法	前田剛志	313
労働保護法	前田剛志	314

専　門　科　目

科目名	アジアと日本	科目名（英文）	Asia and Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	河原　匡見
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	本講義では、政治史を、特定の国または地域の、特定の時代について学んでいく。今年度は、日本の近代政治体制の確立過程をみていく。そして、現在のアジア諸国と日本の関係の背景的要因のうち、最も影響の強いこの時期の政治史を学ぶことによって、それが現在の両者の関係とどのように関わっているのかをより深く考える材料を提供したい。
到達目標	現代日本の法制度の基礎が確立された明治前期の経緯を学ぶ。
授業方法と留意点	講義形式で行う。毎回ワークブック形式のレジュメを配布するので、聴講しながら、それを完成させて理解を深めていく。また、より詳細な解説については各自の判断でノートすること。
科目学習の効果（資格）	歴史を見る眼と日本の近代政治の展開に関する基礎知識の習得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認調査	高校時代に歴史科目を履修した人は教科書を読み直してみましょう。
2	学問としての政治史	歴史を見る眼について	配布した資料で復習してください。
3	西洋からの衝撃と体制の動揺（1）	開国と江戸幕府の終焉（1）	配布した資料で復習してください。
4	西洋からの衝撃と体制の動揺（2）	開国と江戸幕府の終焉（2）	配布した資料で復習してください。
5	新政府の樹立と中央集権化（1）	新政府の樹立と旧勢力の抵抗	配布した資料で復習してください。
6	新政府の樹立と中央集権化（2）	中央集権の強化（1）	配布した資料で復習してください。
7	新政府の樹立と中央集権化（3）	中央集権の強化（2）	配布した資料で復習してください。
8	新政府の外交政策（1）	初期外交と国境画定交渉	配布した資料で復習してください。
9	維新政策への反抗と政府の対応（1）	民衆・旧士族の反抗	配布した資料で復習してください。
10	維新政策への反抗と政府の対応（2）	自由民権運動（1）	配布した資料で復習してください。
11	維新政策への反抗と政府の対応（3）	自由民権運動（2）	配布した資料で復習してください。
12	国家財政の強化と体制の整備	松方財政と諸法制度の整備	配布した資料で復習してください。
13	立憲体制の確立	国会の開設と初期議会	配布した資料で復習してください。
14	新政府の外交政策（2）	条約改正交渉および大津事件について	配布した資料で復習してください。
15	総括	講義のまとめ・期末試験の説明	配布した資料で復習してください。

関連科目：政治学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の成績によって評価する（なお、定期試験を必ず受験することが単位取得の最低条件である）。
学生へのメッセージ	歴史を知らない、あるいは興味を感じない学生が増えているともいわれていますが、せめて自分の国の近代以降の政治の歴史についての知識をしっかりもってほしいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	

科目名	英米法	科目名（英文）	Anglo-American Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家本　真実
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本で生活していくうえで、他国の法制度の知識が役に立つことはあまり多くないかもしれません。しかし、他国の法制度を学ぶことは、日本の法制度に対する理解を深め、さまざまな法的問題の解決法を探ることにもつながります。そこでこの講義では、日本の法制度にも大きな影響を与えている英米法の基礎概念とアメリカの法制度を学んでいただきたいと考えています。講義では、英文の文献や映画などの映像資料も多用します。
到達目標	本講義では、アメリカ法の特徴を理解し、憲法および民事法の全体像を把握していただくことを目標とします。
授業方法と留意点	要点を記したレジュメを中心に授業をおこないます。「英語なんて見たくもない」という方にはお勧めできない授業ですが、アメリカという国や英語に興味がある方には、法という視点からアプローチする楽しさを感じていただけるかと思います。 教科書を使用せず、配布するレジュメを基に講義をおこないますので、単位取得のためには講義への出席が必須だと考えてください。 講義内容は、受講生の皆さんの理解度によっては変更することがあります。
科目学習の効果（資格）	英米法の基本的な考え方、アメリカの歴史や社会、法制度についての知識を得ることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 訴訟社会、アメリカ？	この講義の内容や目的、講義の進め方について 訴訟社会といわれるアメリカの裁判について	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
2	英米法とは	英米法の歴史と、アメリカ合衆国の生い立ち、その法体系	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
3	判例法とは	アメリカ法の特徴である判例法主義について、具体的な事例を基に学ぶ	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
4	アメリカの憲法（1）	アメリカにおける連邦と州の関係とそれぞれの権限を	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
5	アメリカの憲法（2）	アメリカの立法と行政のしくみ	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
6	アメリカの憲法（3）	アメリカの憲法（権利章典）に関する判例を読む	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
7	アメリカの銃問題と憲法(1)	映画『ボウリング・フォー・コロンバイン』を通してアメリカの銃問題について学ぶ	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
8	アメリカの銃問題と憲法(2)	映画『ボウリング・フォー・コロンバイン』を通してアメリカの銃問題について学ぶ	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
9	アメリカの民事訴訟手続き（1）	アメリカの民事裁判手続きに採用されているディスカバリー（証拠開示手続き）について	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
10	アメリカの民事訴訟手続き（2）	クラスアクション（集団代表訴訟）について	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
11	アメリカの民事法（1）	アメリカの民事裁判と懲罰的損害賠償	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
12	アメリカの民事法（2）	映画 ”Hot Coffee” を題材に、民事裁判の問題点を考える	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
13	アメリカにおける市民の司法への参加（1）	映画 ”Hot Coffee” からわかるアメリカの陪審制度	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
14	アメリカにおける市民の司法への参加（2）	アメリカの民事・刑事陪審制度について	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
15	アメリカの法学教育と法曹	アメリカの法学教育の概要と法律の専門家について	全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと

関連科目	国際関係の科目、英語系の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アメリカ法判例百選	樋口範雄他編	有斐閣、2012 年
2	アメリカ憲法入門	松井茂記	有斐閣、2012 年
3	入門・アメリカ司法制度	丸山徹	現代人文社、2007 年

評価方法（基準）	受講者数が小規模の授業になることが予想されますので、授業中に意見や感想を求めたり、課題を提出していただいたりします。そうした授業中のやり取りや提出された課題の内容と受講姿勢を 40%程度、学期末試験の成績を 60%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。授業中の不要な私語については減点の対象とします。
学生へのメッセージ	アメリカや英語に興味があり、積極的に学ぼうという姿勢を持つ学生（他学部の学生を含む）を歓迎します。授業中は私語を慎んでください。講義内容は、進行具合や受講生の様子によっては変更する場合もあります。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	

科目名	応用情報処理	科目名（英文）	Advanced Information Processing
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木　健史
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	プレゼンテーションソフトは、研究成果や調査結果の報告、商品企画の発表など、様々な用途で用いられており、コンピュータ社会にとって重要なツールである。本講義では、プレゼンテーションソフトを応用的に活用するスキルを学ぶ。
到達目標	Powerpoint の応用的活用をマスターする。
授業方法と留意点	毎回コンピュータによる実習を行い，関連する演習課題に取り組む．習熟度合いに応じて，講義内容は適宜変更する場合がある．
科目学習の効果（資格）	ビジネスシーンを想定したスライド作成スキル以外に、簡易的な画像処理技術、ポスター制作スキルなども習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法要	特になし
2	PowerPoint 基本操作１	基本操作の復習	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
3	PowerPoint 基本操作２	基本操作の復習	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
4	PowerPoint　スライド作成１	PowerPoint のスライド作成を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
5	PowerPoint　スライド作成２	PowerPoint のスライド作成を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
6	PowerPoint　スライド作成３	PowerPoint のスライド作成を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
7	製作発表１	各自作成した課題を発表する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
8	PowerPoint　画像処理１	PowerPoint を活用した画像処理を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
9	PowerPoint　画像処理２	PowerPoint を活用した画像処理を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
10	PowerPoint　画像処理３	PowerPoint を活用した画像処理を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
11	PowerPoint　応用１	PowerPoint, Word, Excel　などを連携した応用を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
12	PowerPoint　応用２	PowerPoint, Word, Excel　などを連携した応用を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
13	PowerPoint　応用３	PowerPoint, Word, Excel　などを連携した応用を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
14	製作発表２	各自作成した課題を発表する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
15	まとめ	まとめ、およびフォローアップを行う	特に困難な箇所の確認と復習

関連科目：情報処理 I，情報処理 II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回授業時に出す課題（100%）をもとに評価する。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。
学生へのメッセージ	毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので，可能な限り欠席や遅刻をしないこと．欠席するとそれ以降の授業の理解が困難となる．もし万一欠席したときには各自の責任で授業課題を自習しておくこと．
担当者の研究室等	11 号館 6 階　経営学部事務室
備考	

科目名	会社法Ⅰ	科目名（英文）	Corporate Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛丸　與志夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	会社は、企業活動の担い手であり、会社法の知識は、社会人として、当然に知っておくべき常識である。会社の種類は、会社法上、４種類ある。すなわち、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社である。そのうち、日本の経済において最も重要な役割を果たしている形態は、株式会社である。そこで、授業では、株式会社に対する法規制を中心に講義したい。会社法について、きめの細かい講義を行う。本講義は、会社法全体を概観する入門的な講義である。
到達目標	会社法の　全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することを目指す。
授業方法と留意点	授業では、できるだけ、解りやすく基本的な知識の説明を行う。新聞記事や最近の判例を紹介し、会社法の運用の現実の動きをみていく。ポケット六法は、必ず、授業中、携帯すること。
科目学習の効果（資格）	会社に就職する者にとっては、必須の知識である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	会社法総論・会社法総則	会社法の現代化、会社法の歴史、会社の意義と能力、会社の種類と分類、会社法の法源、会社法の規制理念、会社法総則	教科書２ページ～４０ページ
2	株式会社序説・株式会社の設立	株式会社序説、株式会社の設立の総説、定款の作成、出資、設立時役員等の選任・解任等、募集設立の場合、株式会社の成立、発起人等の責任、設立の無効	４２ページ～６５ページ
3	株式と株主（１）	株式の概念、株主の権利および義務、株券、株主名簿	６６ページ～８６ページ
4	株式と株主（２）	株式の譲渡、自己株式の取得、株式の担保化、株式の消却・併合・分割・無償割当て、単元株制度	８６ページ～１０７ページ
5	募集株式の発行等・新株予約権	総説、募集株式の発行の態様、募集株式の発行等の手続、違法な募集株式の発行等の是正、新株予約権	１０５ページ～１３２ページ
6	機関・株主総会	機関の意義と機関設計、株主総会の権限・招集・議事、株主の議決権、決議、決議の瑕疵、種類株主総会	１３３ページ～１５０ページ
7	取締役・取締役会（１）	総説・取締役	１５０ページ～１５５ページ
8	取締役・取締役会（２）	取締役会、代表取締役、取締役と会社との関係	１５５ページ～１６４ページ
9	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人、委員会・執行役	会計参与の権限・職務、監査役、監査役会、会計監査人の権限・職務、委員会、執行役	１６４ページ～１８０ページ
10	役員等の損害賠償責任、株主による経営の監督是正	役員等の会社に対する責任、役員等の第三者に対する責任、違法行為の差止請求権、代表訴訟提起権	１８０ページ～１９２ページ
11	計算、定款の変更、事業の譲渡等	計算規定の目的と原則、計算書類等の作成と承認、剰余金の配当等、資本金・準備金の額の変動、定款の変更、事業の譲渡等	１９３ページ～２１６ページ
12	持分会社	合同会社、合名会社、合資会社	２１７ページ～２２３ページ
13	社債	社債の意義、社債の種類、社債の発行、社債の管理	２２５ページ～２３６ページ
14	組織再編行為	企業の結合と組織再編序説、組織変更、合併、会社分割、株式交換・株式移転 合併、会社分割、株式交換・株式移転の手続 合併、会社分割、株式交換・株式移転の無効	２３７ページ～２９０ページ
15	会社の消滅と倒産処理、外国会社	更生、解散、通常清算、特別清算、外国会社	２９１ページ～３１４ページ

関連科目：民法Ⅰ（総則）、金融商品取引法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プライマリー会社法（最新版）	藤田勝利・北村雅史編	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中の授業態度、期末の筆記試験を総合して行う。
学生へのメッセージ	出席することが重要です。授業中は、私語をしないで下さい。ポケット六法は、授業には、必ず、携帯して下さい。会社法は比較的、他の法律の知識を前提にしておらず、完結していますので理解しやすい

担当者の 研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	特になし。

科目名	会社法Ⅱ	科目名（英文）	Corporate Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　與志夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	会社は、企業活動の担い手であり、会社法の知識は、社会人として、当然に知っておくべき常識である。会社の種類は、会社法上、４種類ある。すなわち、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社である。そのうち、日本の経済において最も重要な役割を果たしている形態は、株式会社である。そこで、授業では、株式会社に対する法規制を中心に講義したい。本講義は、会社法の知識の応用力をつけるための講義である。
到達目標	会社法の知識について応用力をつけることを目的にしている。
授業方法と留意点	授業では、練習問題を解きながら応用力を養いたい。ポケット六法は、必ず、授業中、携帯すること。
科目学習の効果（資格）	会社に就職する者にとっては、必須の知識である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	会社法総論・会社法総則	会社法の現代化、会社法の歴史、会社の意義と能力、会社の種類と分類、会社法の法源、会社法の規制理念、会社法総則	教科書２ページ～４０ページ
2	株式会社序説・株式会社の設立	株式会社序説、株式会社の設立の総説、定款の作成、出資、設立時役員等の選任・解任等、募集設立の場合、株式会社の成立、発起人等の責任、設立の無効	４２ページ～６５ページ
3	株式と株主（１）	株式の概念、株主の権利および義務、株券、株主名簿	６６ページ～８６ページ
4	株式と株主（２）	株式の譲渡、自己株式の取得、株式の担保化、株式の消却・併合・分割・無償割当て、単元株制度	８６ページ～１０７ページ
5	募集株式の発行等・新株予約権	総説、募集株式の発行の態様、募集株式の発行の手続、違法な募集株式の発行の是正、新株予約権	１０８ページ～１３２ページ
6	機関・株主総会	機関の意義と機関設計、株主総会の権限・招集、株主総会の議事、株主の議決権、決議、決議の瑕疵、種類株主総会	１３３ページ～１５０ページ
7	取締役・取締役会（１）	総説・取締役	１５０ページ～１５５ページ
8	取締役・取締役会（２）	取締役会、代表取締役、取締役と会社との関係	１５５ページ～１６４ページ
9	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人、委員会・執行役	会計参与の権限・職務、監査役、監査役会、会計監査人の権限・職務、委員会、執行役	１６４ページ～１８０ページ
10	役員等の損害賠償責任、株主による経営の監督是正	役員等の会社および第三者に対する責任、違法行為の差止請求権、代表訴訟	１８０ページ～１９２ページ
11	計算、定款の変更、事業の譲渡等	計算規定の目的と原則、計算書類等の作成と承認、剰余金の配当等、資本金・準備金の額の変動、定款の変更、事業の譲渡等	１９３ページ～２１６ページ
12	持分会社	合同会社、合名会社、合資会社	２１７ページ～２２３ページ
13	組織再編（１）	企業の統合と組織再編序説、組織変更、合併	２７２ページ～２９０ページ
14	組織再編（２）	会社分割	２７２ページ～２９０ページ
15	組織再編（３）	株式交換・株式移転	２７２ページ～２９０ページ

関連科目：民法Ⅰ（総則）、金融商品取引法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プライマリー会社法（最新版）	藤田勝利・北村雅史編	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中の授業態度、期末の筆記試験を総合して行う。
学生へのメッセージ	出席することが重要です。授業中は、私語をしないで下さい。ポケット六法は、授業には、必ず、携帯して下さい。会社法は比較的、他の法律の知識を前提にしておらず、完結していますので理解しやすい。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	特になし。

科目名	家族と地域の法社会史	科目名（英文）	History of Family and Community in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	牧田　勲
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　地理歴史）　【施行規則に定める科目区分】日本史　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	近年、女性のＭ字型就労、アンペイド・ワーク、ストーカー問題、少年犯罪の凶悪化、引きこもり、パラサイト・シングル問題、高齢者ホームレスの増加、年金問題など、家族をとりまく問題が次々にもちあがっている。いずれも解決に時間がかかる難題ばかりであるが、本講義はこうした現在の家族問題を念頭におきながら、日本史の中における過去の家族問題を考察しようとするものである。家族を手がかりに、その時代の社会構造や地域について理解してもらえたらと思う。
到達目標	現在、家族はいろいろな意味で揺れ動いている。家族をめぐるさまざまな問題の歴史的背景、現状を知ってもらうことが第一の目標である。その上で、今後自らそういう問題に直面した時の対応や解決を考える「導きの糸」にしてもらいたい。
授業方法と留意点	講義形式でおこなう。適当な教科書がないので、随時史料や関連文献を配付したり、紹介する。民法の親族法・相続法を選択していることが望ましいが、日本史の知識があれば、とくに家族法をとっていなくともよい。
科目学習の効果（資格）	間接的ながら、公務員試験、各種試験に繋がっている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	戦国期の法と社会	政略結婚の時代	家族をとりまくさまざまな問題に対する関心をもつこと。
2	近世の都市と家族(1)	不倫の結末	講義ノートの整理復習
3	近世の都市と家族(2)	「かぶき者」の時代	講義ノートの整理復習
4	近世の都市と家族(3)	道楽息子のなれのはて	講義ノートの整理復習
5	近世の都市と家族(4)	捨てられた子供たち	講義ノートの整理復習
6	近世の都市と家族(5)	駆け込む女たち	講義ノートの整理復習
7	近世のキャリア・ウーマン	大奥女中の生活	講義ノートの整理復習
8	近世の家族と道徳	儒教の中の女性	講義ノートの整理復習
9	東と西の農村	地域差と家族	講義ノートの整理復習
10	近世農村と同族	本家と分家	講義ノートの整理復習
11	東の結婚・西の結婚	若者仲間とかけおち	講義ノートの整理復習
12	近世農村の相続	姉家督と末子相続	講義ノートの整理復習
13	地域と家族	「家」の地域差	講義ノートの整理復習
14	現代の家族	漂流する家族の今を考える	講義ノートの整理復習
15	おわりに	講義のまとめ	講義ノートの整理復習

関連科目：「近世日本の法文化」、「法と社会」、民法、憲法など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績とレポートによる。
学生へのメッセージ	日本史に関心のある諸君の選択を希望する。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　牧田教授室
備考	

科目名	環境法	科目名（英文）	Environmental Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浮田　徹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	環境にまつわる法と制度を周辺の事情なども含めて学習します。 国家と環境の関係について、法律学的な検討だけでなくその他環境法の総合的理解に必要な観点から考察を加えます。
到達目標	環境という広い領域の中の、法律・行政に関わる部分を学び整えます。
授業方法と留意点	講義形式です。領域の性質上、他専攻の教員による講義の協力も予定しています。
科目学習の効果（資格）	新司法試験の選択科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・講義の進め方、環境法を学ぶにあたっての前提事項の確認など	予習：特になし 復習・学習：講義ノートふり返り
2	環境法概説	・法哲学的にみた「環境」とは	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
3	環境法と権利①	・環境法における実定法的「権利」とは	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
4	環境法と環境行政①	・環境法、環境行政の歴史①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
5	環境法と環境行政②	・環境法、環境行政の歴史②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
6	環境と訴訟①	・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
7	環境と訴訟②	・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
8	環境と訴訟③	・新しい形態をとる環境訴訟	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
9	環境政策と基本法①	・環境基本法の制定とその内容①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
10	環境政策と基本法②	・環境基本法の制定とその内容②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
11	環境に対する事前の措置①	・環境影響評価法の導入とその仕組み①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
12	環境に対する事前の措置②	・環境影響評価法の導入とその仕組み②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
13	領域を越えた環境問題①	・環境問題のグローバル化	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
14	領域を越える環境問題②	・領域を越えた環境問題の解決	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
15	まとめ	環境法・環境行政・環境政策	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り

関連科目：憲法 I、憲法 II、行政法などの公法科目と関連します。法哲学、行政学や、民法(不法行為など)、民事訴訟法などとも関連します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の小課題、期末試験を基本として評価します。詳細は講義初回に配布するプリントを参照すること。
学生へのメッセージ	資料等は適宜配布します。その他詳細については初回に配布するプリントを参照すること。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	

科目名	行政救済法Ⅰ	科目名（英文）	Administrative Remedy Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	金谷　重樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	法治主義ないし法の支配の下においては、すべての行政活動は適法に、しかも国民・住民の権利利益を最大限に尊重して行われなければならないが、この行政、神ならぬ人が行うことから、時として違法な行政が行われることがあり、それを放置することは法治主義ないし法の支配に反する。また、財産権については、正当な補償の下、公共の福祉のために剥奪・制限することが認められている。そこで、この授業では、このような行政活動に起因する被害の補填制度について説明する。
到達目標	公務員試験及び行政書士をはじめとする各種試験に合格する力を培う。
授業方法と留意点	プリントを配付します。配付したプリントは毎回必ず持参して下さい。
科目学習の効果（資格）	公務員試験を受験する諸君にとっては行政法は必須であり、また多くの国家試験においても行政法は必須です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	「行政法の基礎理論Ⅰ・Ⅱ」で学んだことの復習	行政法の基礎理論Ⅰ及びⅡのプリントを通読しておくこと。
2	行政救済制度	国家補償と行政争訟の説明	事前にプリントを読んでおくこと。
3	行政上の損害賠償制度	不法行為責任と債務不履行責任	事前にプリントを読んでおくこと。
4	国家賠償法（１）	国家賠償法第１条の説明その１	事前にプリントを読んでおくこと。
5	国家賠償法（２）	国家賠償法第１条の説明その２	事前にプリントを読んでおくこと。
6	国家賠償法（３）	国家賠償法第１条に関する判例その１	事前にプリントを読んでおくこと。
7	国家賠償法（４）	国家賠償法第１条に関する判例その２	事前にプリントを読んでおくこと。
8	国家賠償法（５）	国家賠償法第１条に関する判例その３	事前にプリントを読んでおくこと。
9	国家賠償法（６）	国家賠償法第２条の説明	事前にプリントを読んでおくこと。
10	国家賠償法（７）	国家賠償法第２条に関する判例	事前にプリントを読んでおくこと。
11	国家賠償法（８）	国家賠償法第１条と第２条の重複適用など	事前にプリントを読んでおくこと。
12	行政上の損失補償（１）	特別の犠牲	事前にプリントを読んでおくこと。
13	行政上の損失補償（２）	特別の犠牲に関する判例	事前にプリントを読んでおくこと。
14	国家補償	行政上の損害賠償と損失補償の狭間	事前にプリントを読んでおくこと。
15	まとめ	これまでの講義内容のまとめ	これまでのプリントを通読しておくこと。

関連科目：できるだけ民事訴訟法の基本を理解しておいて下さい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	学期末に試験を行い、その結果によって評価します。内容は、原則として、○×又は穴埋め方式です。
学生へのメッセージ	とにかく私語をしないこと。私語は授業の進行と他学生の受講を妨害する悪質な行為であるから、私語を止めない学生は退室させます。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　金谷教授室
備考	

科目名	行政救済法Ⅱ	科目名（英文）	Administrative Remedy II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	金谷　重樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	法治主義ないし法の支配の下においては、すべての行政活動は適法に、しかも国民・住民の権利利益を最大限に尊重して行われなければならないが、この行政、神ならぬ人が行うことから、時として違法な行政が行われることがあり、それを放置することは法治主義ないし法の支配に反する。そこで「行政救済法Ⅰ」では、違法な行政活動によって人々が受けた被害の補填制度を説明したが、この授業では違法な措置や排除や是正を求める制度を説明する。
到達目標	公務員試験及び行政書士をはじめとする各種試験に合格する力を培う。
授業方法と留意点	プリントを配付します。配付したプリントは毎回必ず持参して下さい。
科目学習の効果（資格）	公務員試験を受験する諸君にとっては行政法は必須であり、また多くの国家試験においても行政法は必須です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	「行政法の基礎理論Ⅰ・Ⅱ」及び「行政救済法Ⅰ」で学んだことの復習	これまでのプリントを通読しておくこと。
2	行政争訟制度	行政上の不服申立と行政事件訴訟	事前にプリントを読んでおくこと。
3	行政上の不服申立（1）	不服申立の対象と不服申立の種類	事前にプリントを読んでおくこと。
4	行政上の不服申立（2）	不服申立の要件	事前にプリントを読んでおくこと。
5	行政上の不服申立（3）	審理手続きの概要	事前にプリントを読んでおくこと。
6	行政上の不服申立（4）	審理手続きの特色と効果	事前にプリントを読んでおくこと。
7	行政事件訴訟（1）	行政事件訴訟の種類	事前にプリントを読んで焼くこと。
8	行政事件訴訟（2）	取消訴訟	事前にプリントを読んでおくこと。
9	行政事件訴訟（3）	無効等確認の訴え	事前にプリントを読んでおくこと。
10	行政事件訴訟（4）	義務付け訴訟と差し止め訴訟	事前にプリントを読んでおくこと。
11	行政事件訴訟（5）	当事者訴訟・民衆訴訟・機関訴訟	事前にプリントを読んでおくこと。
12	行政事件訴訟（6）	訴訟要件（原告適格・訴えの利益など）	事前にプリントを読んでおくこと。
13	行政事件訴訟（7）	訴訟手続の概要その１	事前にプリントを読んでおくこと。
14	行政事件訴訟（8）	訴訟手続の概要その２	事前にプリントを読んでおくこと。
15	まとめ	行政法の総まとめ	これまでのプリントを通読しておくこと。

関連科目：できるだけ民事訴訟法の基本を理解しておいて下さい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	学期末に試験を行い、その結果によって評価します。 内容は、原則として、○×または穴埋め方式です。
学生へのメッセージ	とにかく私語をしないこと。私語は授業の進行と他学生の受講を妨害する悪質な行為であるから、私語を止めない学生は退室させます。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　金谷教授室
備考	

科目名	行政と政策	科目名（英文）	Public Administration and Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	民主主義の国家の憲法は、議会が法律をつくると定めている。しかし現代においては、法律に反映されるべき政策は行政なくしては立案も決定もできない。しかも、行政府の官僚が大きな影響力を持っている。そこでこの講義では、まず議会と行政、政治家と官僚の関係を明らかにしたうえで、日本の行政組織のあり方を確認し、国の秩序の柱となる産業政策について日本の戦後政策の特徴を理解する。
到達目標	民主主義の現代社会において、国民による選挙で選ばれた存在ではない官僚がどれくらい大きな力を持っているのか、逆に国民の世論が官僚の行動にどのように影響を与えているのか理解する。
授業方法と留意点	講義の目的は具体的な事例を解釈することにある。それには(1)理論と知識を学び、(2)事例を理解し、(3)理論や知識で事例の意味を考えるという３段階が必要になる。
科目学習の効果（資格）	講義は大学にふさわしいものとするが、公務員試験で問われる知識に関しては注意を促すので、志望者は積極的に受講してほしい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	映画『13 デイズ』に見る政治と行政(1)	キューバ危機をめぐるアメリカ政府の動きを見て、政策決定における政治家と官僚の関係を考える。	レジュメ p.1 の復習 『13 デイズ』の視聴
2	映画『13 デイズ』に見る政治と行政(2)	第１回の続き。	レジュメ p.2 の復習 『13 デイズ』の視聴
3	1930 年代アメリカの映像に見る政治と行政	アメリカのニューディール政策の光景を見て、政策決定における行政の役割が拡大・深化した理由を探る。	レジュメ p.3 の復習
4	行政国家と政治行政融合論	現代国家が「行政国家」と呼ばれる理由と、行政国家の現実を説明する政治行政融合論を学ぶ。	レジュメ p.4-5 の復習
5	ふたりの米大統領の言葉から考える政治と行政	ふたりの米大統領の対照的な言葉を読み、行政が素人仕事から政策の専門職になった背景を知る。	レジュメ p.6 の復習
6	メリットシステムと政治行政二分論	専門家としての官僚を採用するメリットシステムと、その理論的根拠となった政治行政二分論を学ぶ。	レジュメ p.7 の復習
7	行政組織を見る視点	行政組織を見る上で基本となる「ラインとスタッフ」「独任制と合議制」の区別をできるようにする。	レジュメ p.8 の復習 レポート課題の作成
8	日本の中央行政機構(1)	内閣を中心とする日本の行政機構全体の組織を把握する。	レジュメ p.9-10 の復習 行政組織法の整理
9	日本の中央行政機構(2)	政治家たる大臣をトップとし、官僚がほとんどの職を占める各省の組織を把握する。	レジュメ p.11 の復習 行政組織法の整理
10	産業政策としての護送船団方式	産業育成を目的とした日本の省庁による「護送船団方式」と呼ばれる戦後の産業政策の構造を知る。	レジュメ p.12-13 の復習
11	護送船団方式の実際と批判	医薬品販売や携帯電話メーカーの業界における護送船団方式の実際とそれへの批判を把握する。	レジュメ p.12-13 の復習 新聞記事資料の確認
12	護送船団方式以後の産業政策	英会話教室の業界を例に挙げて、近年の産業政策が消費者重視に移行しつつある背景を探る。	レジュメ p.13-14 の復習 新聞記事資料の確認
13	トラック運送業界に見る護送船団方式とその崩壊	「宅急便」が風穴をあけたトラック運送業界のケースを見てみる。	レジュメ p.14-15 の復習 読物資料の確認
14	業界との関係と行政組織の変化	業界との関係の基本方針によって行政組織のあり方がどう変化するのか知る。	レジュメ p.16 の復習
15	金融庁設立に見る業界監督官庁の変化	金融業界を所管する省庁が大蔵省から金融監督庁を経て金融庁となった背景を見てみる。	レジュメ p.17 の復習 新聞記事資料の確認 期末試験の対策

関連科目：「公共政策の基礎」の発展科目である。地方の政策については「地方自治と政策」で扱う。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（毎回の課題ペーパーの点数の累積）と期末試験の点数の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	中身の濃い授業をコンパクトに進めます。
担当者の	11 号館 9 階　中沼准教授室

研究室等	
備考	

科目名	行政法の基礎理論Ⅰ	科目名（英文）	Administrative Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	金谷　重樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	私人の活動がいわゆる「私的自治の原則」を基盤にしており、一定の法の柵の中であればその活動は個々人の自由な判断と責任に委ねられているのに対し、国や自治体による行政活動は必ず法に基づき、従って行われなければならないという「法治主義」ないし「法の支配」の下に置かれている。そこで、この授業では私人の活動と行政活動とが法的にどのように異なる扱いを受けているかについて、身近で具体的な事例を挙げながら、平易に解説する。
到達目標	公務員試験及び行政書士をはじめとする各種資格試験に合格できる力を培う。
授業方法と留意点	プリントを配付します。配付したプリントは毎回、必ず、持参して下さい。 行政法という題名の法律は存在しません。そこで、授業は理論的な内容が多くなりますが、諸君においても、講義には必ず出席し、講義の内容を理解するように努力して下さい。
科目学習の効果（資格）	公務員を志望する諸君にとっては行政法は必須であり、また多くの国家試験においても行政法は必須です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	行政の意味と様々な身近な行政活動	身近な行政について具体的に思い浮かべておくこと。
2	私人の活動と行政主体の活動	法治主義・法の支配	事前にプリントを読んでおくこと。
3	行政法の姿と形（1）	成文法源	事前にプリントを読んでおくこと。
4	行政法の姿と形（2）	不文法源	事前にプリントを読んでおくこと。
5	法律の留保	行政活動と授権規定	事前にプリントを読んでおくこと。
6	行政目的を実現する手法	私人の私的目的実現手法との相違	事前にプリントを読んでおくこと。
7	行政指導	協力の要請	事前にプリントを読んでおくこと。
8	行政上の契約	私法上の契約との相違	事前にプリントを読んでおくこと。
9	処分（1）	処分の意味	事前にプリントを読んでおくこと。
10	処分（2）	処分の種類	事前にプリントを読んでおくこと。
11	処分（3）	処分の効力その１	事前にプリントを読んでおくこと。
12	処分（4）	処分の効力その２	事前にプリントを読んでおくこと。
13	処分（5）	処分の取消と撤回	事前にプリントを読んでおくこと。
14	処分（6）	瑕疵の治癒・附款　その他	事前にプリントを読んでおくこと。
15	まとめ	これまでの講義内容をまとめる。	これまでの講義内容を復習しておくこと。

関連科目：憲法と民法総則は、履修するだけでなく、充分に理解しておくこと。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	学期末に試験を行い、その結果によって評価します。内容は原則として○×又は穴埋め方式です。
学生へのメッセージ	とにかく私語をしないこと。私語は授業の進行と他学生の受講を妨害する悪質な行為であるから、私語を止めない学生は退室させます。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　金谷教授室
備考	

科目名	行政法の基礎理論Ⅱ	科目名（英文）	Administrative Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	金谷　重樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	この授業では、「行政法の基礎理論Ⅰ」で学んだ行政主体がその目的を実現する特有の手法の中で最も一般的な「処分」以外の手法について学ぶとともに、法治主義と相容れない行政裁量の問題、権限の代行という行政活動における実務上の問題、行政の説明責任を全うするための情報公開の問題、行政活動に対する民法の適用範囲の問題などの重要な個別的な問題を解説し、その上で行政上の義務の不履行に対する権力的措置について説明する。
到達目標	公務員試験及び行政書士をはじめとする各種試験に合格する力を培う。
授業方法と留意点	プリントを配付します。配付したプリントは毎回、必ず、持参して下さい。 行政法という題名の法律は存在しません。そこで、授業は理論的な内容が多くなりますが、諸君においても、講義には必ず出席し、講義の内容を理解するように努力して下さい。
科目学習の効果（資格）	公務員を志望する諸君にとっては行政法は必須であり、また多くの国家試験においても行政法は必須です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	「行政法の基礎理論Ⅰ」で学んだことの復習	事前に行政法の基礎理論Ⅰで学んだことを復習しておくこと。
2	拘束的計画・即時強制	処分との相違、行政調査など	事前にプリントを読んでおくこと。
3	行政裁量（1）	裁量と司法審査	事前にプリントを読んでおくこと。
4	行政裁量（2）	行政手続法	事前にプリントを読んでおくこと。
5	権限の代行	権限の委任、代理、専決、代決	事前にプリントを読んでおくこと。
6	情報公開	情報公開法と情報公開条例	事前にプリントを読んでおくこと。
7	行政法関係（1）	公法関係と私法関係その１	事前にプリントを読んでおくこと。
8	行政法関係（2）	公法関係と私法関係その２	事前にプリントを読んでおくこと。
9	行政法関係（3）	公法関係と私法関係その３	事前にプリントを読んでおくこと。
10	行政上の義務違反に対する措置（1）	行政罰	事前にプリントを読んでおくこと。
11	行政上の義務違反に対する措置（2）	行政上の秩序罰　その他	事前にプリントを読んでおくこと。
12	行政上の強制執行（1）	行政上の強制執行と民事上の強制執行	事前にプリントを読んでおくこと。
13	行政上の強制執行（2）	行政上の強制執行の種類	事前にプリントを読んでおくこと。
14	行政組織	国の行政組織と地方の行政組織	事前にプリントを読んでおくこと。
15	まとめ	これまでの講義内容（行政法の基礎理論Ⅰ及びⅡ）のまとめ	これまでのリントを通読しておくこと。

関連科目：憲法と民法総則は、履修するだけでなく、充分に理解しておくこと。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	学期末に試験を行い、その結果によって評価します。内容は原則として○×又は穴埋め方式です。
学生へのメッセージ	とにかく私語をしないこと。私語は授業の進行と他学生の受講を妨害する悪質な行為であるから、私語を止めない学生は退室させます。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　金谷教授室
備考	

科目名	近世日本の法文化	科目名（英文）	Law and Culture in Tokugawa Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧田　勲
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　地理歴史）　【施行規則に定める科目区分】日本史　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	わが国の近代化は、西欧諸国の大きな影響のもとに進められた。これは法文化においても例外ではなく、わが国は多くの西欧法を継受することで、法の近代化をおしすすめてきたのである。その中で、伝統的な法文化は、一部の例外を除いて捨て去られた。しかし、近代社会が目指したものをよりよく理解するためには、それに先立つ前近代社会の事情を是非とも知っておく必要があるだろう。本講義では、日本の近世社会の種々相を明らかにしながら、そこに現れる諸個人・諸集団の軋轢や調整といった近世の法現象や法文化を紹介する。
到達目標	日本の前近代法のさまざまな特徴を知り、もって近代法や現代法との違いに気が付き、現代の法が過去の反省や止揚の上に成立していることを理解してもらうことが最大の目標である。
授業方法と留意点	講義および板書による説明が中心である。適宜関連する史料を配付し、参考文献等も紹介する。講義に合うよい既存の教材がないので、毎回出席し集中して講義を聞くことが望まれる。
科目学習の効果（資格）	教職課程履修者にとっては重要科目。間接的には公務員試験や諸資格試験にも繋がっている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	幕藩体制の概観	近世社会の構造	高校教科書の江戸時代の部分を読んでおくこと、家庭でのノート整理
2	近世の法文化	身分制社会の諸相 法の多元性	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
3	徳川の平和	幕府の支配と民衆	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
4	将軍と大名	近世の主従関係	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
5	江戸の役人世界	近世行政の特質	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
6	藩支配の多様性	お家騒動あれこれ	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
7	近世社会における犯罪の種々相	八百屋お七の悲劇	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
8	近世の犯罪と法①	主殺し・親殺し・子殺し	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
9	近世の犯罪と法②	日本左衛門と鼠小僧	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
10	近世の紛争①	犯罪者の末路	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
11	近世の紛争②	土地と金をめぐる争い(1)	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
12	近世の紛争③	土地と金をめぐる争い(2)	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
13	幕藩体制と公議輿論①	坂本龍馬と舟中八策	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
14	幕藩体制と公議輿論②	大政奉還と五箇条の御誓文	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
15	近世日本の法と社会	講義のまとめ	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習

関連科目：憲法・刑法・民法などの法学科目などすべての歴史系諸科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績による。
学生へのメッセージ	法文化史は、日本史の知識を基礎として、その上に法学的視角から歴史にアプローチしようというものであるから、最低限高校の日本史教科書程度の知識をもっていること。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　牧田教授室
備考	

科目名	近代日本政治史	科目名（英文）	Modern History of Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	河原　匡見
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	本講義では、政治史を、特定の国または地域の、特定の時代について学んでいく。今年度は、日本の近代政治体制の確立過程をみていく。そして、現在のアジア諸国と日本の関係の背景的要因のうち、最も影響の強いこの時期の政治史を学ぶことによって、それが現在の両者の関係とどのように関わっているのかをより深く考える材料を提供したい。
到達目標	現代日本の法制度の基礎が確立された明治前期の経緯を学ぶ。
授業方法と留意点	講義形式で行う。毎回ワークブック形式のレジュメを配布するので、聴講しながら、それを完成させて理解を深めていく。また、より詳細な解説については各自の判断でノートすること。
科目学習の効果（資格）	歴史を見る眼と日本の近代政治の展開に関する基礎知識の習得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認調査	高校時代に歴史科目を履修した人は教科書を読み直してみましょう。
2	学問としての政治史	歴史を見る眼について	配布した資料で復習してください。
3	西洋からの衝撃と体制の動揺（1）	開国と江戸幕府の終焉（1）	配布した資料で復習してください。
4	西洋からの衝撃と体制の動揺（2）	開国と江戸幕府の終焉（2）	配布した資料で復習してください。
5	新政府の樹立と中央集権化（1）	新政府の樹立と旧勢力の抵抗	配布した資料で復習してください。
6	新政府の樹立と中央集権化（2）	中央集権の強化（1）	配布した資料で復習してください。
7	新政府の樹立と中央集権化（3）	中央集権の強化（2）	配布した資料で復習してください。
8	新政府の外交政策（1）	初期外交と国境画定交渉	配布した資料で復習してください。
9	維新政策への反抗と政府の対応（1）	民衆・旧士族の反抗	配布した資料で復習してください。
10	維新政策への反抗と政府の対応（2）	自由民権運動（1）	配布した資料で復習してください。
11	維新政策への反抗と政府の対応（3）	自由民権運動（2）	配布した資料で復習してください。
12	国家財政の強化と体制の整備	松方財政と諸法制度の整備	配布した資料で復習してください。
13	立憲体制の確立	国会の開設と初期議会	配布した資料で復習してください。
14	新政府の外交政策（2）	条約改正交渉および大津事件について	配布した資料で復習してください。
15	総括	講義のまとめ・期末試験の説明	配布した資料で復習してください。

関連科目：政治学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の成績によって評価する（なお、定期試験を必ず受験することが単位取得の最低条件である）。
学生へのメッセージ	歴史を知らない、あるいは興味を感じない学生が増えているともいわれていますが、せめて自分の国の近代以降の政治の歴史についての知識をしっかりもってほしいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	

科目名	金融商品取引法	科目名（英文）	Financial Instrument and Exchange Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　與志夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	金融商品取引法は、大衆投資家を保護する法律であるとともに、実質的に大企業に対する国家による規制を行うものである。第二次大戦後、アメリカ合衆国の 1933 年証券法および 1934 年証券取引所法を参考にして、導入されたものである。証券市場で株式が取引される大企業を規制するものであり、会社法を補完する重要な商事特別法である。大企業や金融商品取引業者に就職する予定の者は、受講が望ましい。
到達目標	金融商品取引法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することを目指す。
授業方法と留意点	金融商品取引法は、金融商品取引特有のテクニカル・タームが多く、また、条文が長く、難解である。できるだけ解りやすく説明するので、忍耐強く、勉強してください。ポケット六法は、必ず、授業中、携帯すること。
科目学習の効果（資格）	上場会社や金融商品取引業者に就職する者にとって必須の講義である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	金融商品取引法の全体像	金融商品市場の基本的な仕組み 金融商品取引法はどのようなことを規制しているか 金融商品取引法はどのような範囲に適用されるか	教科書１ページ～２４ページ
2	有価証券の取引方法	有価証券の上場 有価証券取引の仕組み 金融商品取引所	教科書２５ページ～３９ページ
3	企業内容の開示規制（1）	開示規制の内容 有価証券を発行する際の開示ー発行開示制度	教科書４０ページ～６２ページ
4	企業内容の開示規制（2）	上場会社等が行う定期的な開示ー継続開示制度 財務情報の正確性を確保するための制度 虚偽の情報開示を行った者はどのような責任を負うか	教科書６２ページ～８７ページ
5	金融商品取引業者の規制（1）	金融商品取引業の意義 開業の規制と登録制度 金融機関と金融商品取引業務 金融商品仲介業制度	教科書８８ページ～１０４ページ
6	金融商品取引業者の規制（2）	外務員の規制 金融商品取引業者の誠実公正義務 顧客に対する情報提供に関する規制 特定投資家への適用除外	教科書１０５ページ～１１５ページ
7	企業支配に関する開示制度（1）	公開買付（ＴＯＢ）	教科書１１６ページ～１３３ページ
8	企業支配に関する開示制度（2）	株券委等を大量に保有する者の開示義務とはー５パーセントルール 委任状勧誘規制	教科書１３３ページ～１５２ページ
9	投資信託および集団投資スキーム（1）	投資信託および集団投資スキームの経済的意義 投資信託の仕組みと規制 投資法人の仕組みと規制	教科書１５３ページ～１６１ページ
10	投資信託および集団投資スキーム（2）	投資助言と投資一任 集団投資スキーム持分の規制	教科書１６１ージ～１６４ページ
11	不公正な取引の規制（1）	詐欺的行為を禁止する１５７条 インサイダー取引（内部者取引）の規制	教科書１６５ページ～１８５ページ
12	不公正な取引の規制（2）	相場操縦の規制	教科書１８５ページ～１９４ページ
13	不公正な取引の規制（3）	金融商品取引業者による不公正取引	教科書１９４ページ～２０６ページ
14	法の実現	罰則と課徴金	教科書２０７ページ～２０９ページ
15	デリバティブ取引	デリバティブ取引とは デリバティブ取引の例 金融商品取引法上のデリバティブ取引の定義とは 市場デリバティブ取引、店頭デリバティブ取引、外国デリバティブ取引とは	教科書２１０ページ～２１７ページ

関連科目：会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学べる金融商品取引法第３版	近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子	弘文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法：講義中の授業態度、期末の筆記試験を総合して行う。

（基準）	
学生への メッセージ	出席することが重要です。授業中は、私語はしないでください。ポケット六法は、必ず授業中に携帯してください。金融商品取引法は、法律の条文ばかりではなく、政令・省令・金融商品取引所の規制も重要ですので、忍耐強く勉強してください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	

科目名	金融論	科目名（英文）	Money and Banking
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀　篤史
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	グローバル化の中で、金融システムは刻々と変化しています。この授業では金融システムの現状だけではなく、そのあり方についても説明していきたい。
到達目標	金融における仕組みについて、経済学のアプローチから理解できるようにする。
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義形式で行う。金融論に必要なマクロ・ミクロ経済学の知識は講義の中で適宜説明する。
科目学習の効果（資格）	経済学検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	金融論で何を学ぶのかを説明する。	
2	金融取引の基礎	金融取引の理解に必要なミクロ経済学の知識ついて説明する。	紹介する文献を読む。
3	金融取引　金融機関	信用リスクや銀行や証券会社の種類、業務などについて説明する。	前回の内容を復習しておくこと。
4	金融市場	様々な金融市場の仕組み、特徴を説明する。	前回の内容を復習しておくこと。
5	日本型金融システム	日本の金融システムの特徴について説明する。	練習問題を解いておくこと。
6	金融システムの設計(1)	情報の非対称性の問題について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。
7	金融システムの設計(2)	スクリーニング機能やモニタリング機能について説明する。	練習問題を解いておくこと。
8	金融政策の理論(1)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。	紹介する文献を読んでおく。
9	金融政策の理論(2)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。	練習問題を解いておくこと。
10	金融政策の理論(3)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。
11	金融政策運営(1)	最近の金融政策の仕組みについて説明する。	紹介する文献を読んでおく。
12	金融政策運営(2)	最近の金融政策の仕組みについて説明する。	紹介する文献を読んでおく。
13	グローバル経済における金融政策	外国為替市場について概観し、変動相場制における金融政策について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。
14	ファイナンスの基礎	デリバティブやオプションの基本的な仕組みについて説明する。	前回の内容を復習しておくこと。
15	まとめ	全体のまとめを行う。	練習問題を解いておくこと。

関連科目	マクロ経済学、ミクロ経済学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末テストを中心に評価する。
学生へのメッセージ	経済学の他の科目と同様に、金融論も積み重ねが大事です。毎回出席することが不可欠です。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	グローバリゼーション	科目名（英文）	Globalization
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河原　匡見
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	いま国際社会において“グローバリゼーション（グローバル化）”が急速に進んでいる。その結果、さまざまな領域における世界的規模での相互依存の深化と競争の激化という現象が同時に進行している。そして、経済や文化などの領域での画一化が進む一方で地球規模の問題が起きており、「世界の一体化」を進展させているようにもみえるし、より「対立の深刻化」を引き起こしているようにもみえる。本講義では、現代の国際社会の変容を読み解く上で重要な“グローバリゼーション（グローバル化）”という現象の内容やそれがもたらす問題をさまざまな視点から解説していく。
到達目標	グローバル化の現状をさまざまな統計資料などによって学び、また現代世界の構造の政治経済的な要因を欧米列強の植民地活動の歴史や南北問題の経緯から学ぶ。
授業方法と留意点	講義形式で行う。また必要に応じて、ワークブック形式のレジュメや参考資料を配布するが、しっかり聴講して必要であればノートをとるように心がけてほしい。
科目学習の効果（資格）	国際社会の現況およびその背景的要因を知ることで、世界の動きをみる“眼”を養うとともに、問題解決への意識を育む。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認調査	時事問題、特に国際問題に目を向ける習慣をつけてください。
2	“グローバリゼーション”とは	基礎的な概念の説明	配布した資料で復習してください。
3	グローバリゼーションの現状	各種データによる解説	配布した資料で復習してください。
4	グローバリゼーションの発展の経緯（1）	“基層”の形成過程の説明（1）	配布した資料で復習してください。
5	グローバリゼーションの発展の経緯（2）	“基層”の形成過程の説明（2）	配布した資料で復習してください。
6	グローバリゼーションの発展の経緯（3）	“基層”の形成過程の説明（3）	配布した資料で復習してください。
7	戦後のグローバリゼーションの展開（1）	国際分業の拡大・相互依存の浸透	配布した資料で復習してください。
8	戦後のグローバリゼーションの展開（2）	南北問題の顕在化と深刻化	配布した資料で復習してください。
9	戦後のグローバリゼーションの展開（3）	新自由主義の浸透と反発	配布した資料で復習してください。
10	戦後のグローバリゼーションの展開（4）	世界金融危機（2007-）　〈前編〉	配布した資料で復習してください。
11	戦後のグローバリゼーションの展開（5）	世界金融危機（2007-）　〈後編〉	配布した資料で復習してください。
12	グローバリゼーションと地域統合（1）	世界各地のさまざまな地域統合の動きを紹介・解説する（1）	配布した資料で復習してください。
13	グローバリゼーションと地域統合（2）	世界各地のさまざまな地域統合の動きを紹介・解説する（2）	配布した資料で復習してください。
14	グローバリゼーションと日本	グローバル化の趨勢への日本の対応	配布した資料で復習してください。
15	総括	講義のまとめ・期末試験の説明	配布した資料で復習してください。

関連科目	政治・国際関係に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の成績によって評価する（なお、定期試験を必ず受験することが単位取得の最低条件である）。
学生へのメッセージ	私たちの住む世界の重要な動きに、ぜひ関心をもってほしいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	

科目名	グローバル社会論	科目名（英文）	Global Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河原　匡見
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	いま国際社会において“グローバリゼーション（グローバル化）”が急速に進んでいる。その結果、さまざまな領域における世界的規模での相互依存の深化と競争の激化という現象が同時に進行している。そして、経済や文化などの領域での画一化が進む一方で地球規模の問題が起きており、「世界の一体化」を進展させているようにもみえるし、より「対立の深刻化」を引き起こしているようにもみえる。本講義では、現代の国際社会の変容を読み解く上で重要な“グローバリゼーション（グローバル化）”という現象の内容やそれがもたらす問題をさまざまな視点から解説していく。
到達目標	グローバル化の現状をさまざまな統計資料などによって学び、また現代世界の構造の政治経済的な要因を欧米列強の植民地活動の歴史や南北問題の経緯から学ぶ。
授業方法と留意点	講義形式で行う。また必要に応じて、ワークブック形式のレジュメや参考資料を配布するが、しっかり聴講して必要であればノートをとるように心がけてほしい。
科目学習の効果（資格）	国際社会の現況およびその背景的要因を知ることで、世界の動きをみる“眼”を養うとともに、問題解決への意識を育む。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認調査	時事問題、特に国際問題に目を向ける習慣をつけてください。
2	“グローバリゼーション”とは	基礎的な概念の説明	配布した資料で復習してください。
3	グローバリゼーションの現状	各種データによる解説	配布した資料で復習してください。
4	グローバリゼーションの発展の経緯（1）	“基層”の形成過程の説明（1）	配布した資料で復習してください。
5	グローバリゼーションの発展の経緯（2）	“基層”の形成過程の説明（2）	配布した資料で復習してください。
6	グローバリゼーションの発展の経緯（3）	“基層”の形成過程の説明（3）	配布した資料で復習してください。
7	戦後のグローバリゼーションの展開（1）	国際分業の拡大・相互依存の浸透	配布した資料で復習してください。
8	戦後のグローバリゼーションの展開（2）	南北問題の顕在化と深刻化	配布した資料で復習してください。
9	戦後のグローバリゼーションの展開（3）	新自由主義の浸透と反発	配布した資料で復習してください。
10	戦後のグローバリゼーションの展開（4）	世界金融危機（2007-）　〈前編〉	配布した資料で復習してください。
11	戦後のグローバリゼーションの展開（5）	世界金融危機（2007-）　〈後編〉	配布した資料で復習してください。
12	グローバリゼーションと地域統合（1）	世界各地のさまざまな地域統合の動きを紹介・解説する（1）	配布した資料で復習してください。
13	グローバリゼーションと地域統合（2）	世界各地のさまざまな地域統合の動きを紹介・解説する（2）	配布した資料で復習してください。
14	グローバリゼーションと日本	グローバル化の趨勢への日本の対応	配布した資料で復習してください。
15	総括	講義のまとめ・期末試験の説明	配布した資料で復習してください。

関連科目	政治・国際関係に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の成績によって評価する（なお、定期試験を必ず受験することが単位取得の最低条件である）。
学生へのメッセージ	私たちの住む世界の重要な動きに、ぜひ関心をもってほしいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	

科目名	経済刑法	科目名（英文）	Economic Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	・経済刑法では、経済活動を規制する刑罰法規につき、刑事実体法、刑事手続法、および、刑事学などの観点から、経済犯罪をめぐる諸問題について総合的に検討する。 ・本年度の講義は刑事実体法の諸問題に力点をおきつつ、学生にとっても身近な事件を素材に経済刑法全体についてなるべくわかりやすく考察することにしたい。
到達目標	・経済犯罪とは何かを説明できるようになる。 ・論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解を説明できる。 ・財産犯に関する公務員試験の問題を素早く解けるようになる。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、学生と教員間の双方向理解を確保するために随時質疑応答も行うので、シラバスに記した回の事前予習を教科書を通じて行うこと。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず参照すること。
科目学習の効果（資格）	・ビジネス科目ともいうべき本科目を学習することで、卒業後の進路に応じ、企業実務、行政実務及び警察実務においてすぐにでも役立つ経済刑法上の基本知識が身につく。 ・公務員試験に出題される刑法の問題を素早く解けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 刑法の基礎理論（復習） 経済刑法の概念	・文献紹介 ・刑法の機能と解釈 ・罪刑法定主義 ・経済刑法とは何か ・刑法各論と経済刑法の関係	・教科書の入手 ・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
2	経済刑法と刑罰	・法人の刑事責任 ・両罰規定 ・自由刑と罰金刑の併科 ・行政処分と刑罰の併科	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
3	経済犯罪の国際化	・経済のグローバル化 ・国際経済犯罪 ・国際法上の経済犯罪 ・国内犯と国外犯 ・代理処罰	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
4	マネー・ロンダリング	・マネーロンダリングの意義 ・やみ金融と組織犯罪処罰法 ・犯罪収益移転防止法	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
5	経済犯罪の監視と捜査	・公正取引委員会 ・証券取引等監視委員会 ・捜索と差押え、逮捕と勾留 ・個別法の犯則調査	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
6	会社法上の罰則	・会社法の目的 ・特別背任罪 ・預合いの罪 ・取締役等の贈収賄罪 ・利益供与の罪	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
7	証券取引をめぐる犯罪	・金融商品取引法の目的 ・不公正取引の禁止 ・風説の流布 ・相場操縦 ・インサイダー取引 ・損失補填	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
8	独禁法違反の犯罪 破産犯罪	・独禁法の目的 ・不当な取引制限 ・入札談合 ・破産法の目的 ・倒産処理と犯罪 ・詐欺破産罪	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
9	民事執行制度をめぐる犯罪	・民事執行制度の趣旨 ・執行妨害の罪	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
10	悪質商法と消費者保護	・消費者保護法制 ・ネズミ講とマルチ商法 ・預託商法 ・霊感商法 ・内職商法 ・催眠商法 ・点検商法と次々商法	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
11	欠陥商品・不当表示をめぐる犯罪	・不法行為法と製造物責任法 ・過失犯と製造物責任 ・食品と不当表示 ・不正競争防止法	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
12	補助金と公的資金の不正受給 政官財の癒着と賄賂罪	・補助金適正化法上の犯罪 ・賄賂 ・公職選挙法違反	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
13	脱税	・租税犯罪の意義 ・租税ほ脱犯の既遂時期 ・重加算税と二重処罰の問題	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
14	カード犯罪	・カードの不正使用	・事前：教科書該当箇所の精読

	コンピュータ犯罪	・スキミング ・不正アクセス	・事後：要点をノートに整理
15	情報の刑法的保護	・企業秘密の漏示 ・偽ブランド商品と知的財産の保護	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理

関連科目	刑事法概論、刑法総論Ⅰ・Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ、刑事学、会社法、独占禁止法、知的財産法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新経済刑法入門（第2版）	神山敏雄＝斉藤豊治＝浅田和茂＝松宮孝明/編著	成文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑事法（第5版）	三井誠＝曽根威彦＝瀬川晃/編著	有斐閣
2	経済刑法	山口厚/編著	商事法務
3	経済刑法	芝原邦爾	岩波書店（岩波新書）

評価方法（基準）	・原則として定期試験の得点により成績の評価を行うが、質疑応答の内容も成績に加味することがある。
学生へのメッセージ	・企業をめぐる犯罪を多く取り扱うので、民間企業志望者を大歓迎する。 ・公務員の職務に関するテーマが多いので、公務員志望者はできるだけ受講すること。
担当者の研究室等	11号館10階　小野准教授室
備考	

科目名	刑事政策	科目名（英文）	Criminal Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	刑事政策とは、社会現象としての犯罪をあらゆる角度から実証的に検証し、犯罪防止のための対策、刑罰の内容などについて学ぶ学問である。
到達目標	刑事政策に関する基本的な知識を習得する。
授業方法と留意点	下記で指定した参考書およびそれをもとにしたレジュメを中心に授業を行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方に関する説明、文献・参考書の紹介。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
2	犯罪者処遇①	警察、検察、裁判の各段階における犯罪者処遇について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
3	犯罪者処遇②	警察、検察、裁判の各段階における犯罪者処遇について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
4	刑罰について	刑罰の種類や内容について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
5	死刑について	死刑制度について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
6	施設内処遇について	刑事施設（刑務所、拘置所など）における処遇について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
7	社会内処遇について	保護観察、仮釈放、更生緊急保護などについて解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
8	保安処分について	触法精神障害者の処遇について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
9	累犯障害者について	累犯障害者について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
10	高齢者犯罪について	高齢者犯罪について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
11	交通犯罪について	交通犯罪対策について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
12	性犯罪について	性犯罪対策について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
13	薬物犯罪について	薬物犯の実態や薬物犯罪対策などについて解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
14	時事問題について	実際に起きた事件などについて刑事政策的観点から解説を行う。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
15	まとめについて	重要論点の再解説。	配布レジュメ・資料を見直すこと。

関連科目：刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、少年法、刑事法概論など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビギナーズ刑事政策（第２版）	守山正・安部哲夫編著	成文堂
2	刑事政策	川出敏裕・金光旭	成文堂
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績(80%)と授業中に随時行う予定である小テストの成績(20%)で評価する。
学生へのメッセージ	犯罪はなぜ起こるのか、犯罪を防ぐためにはどうしたらよいか、犯罪を行った者の処遇はどうすべきか、などといった問題について、自分なりに検討してみてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	第１０回から１４回までについては、状況に応じて適宜順番を入れ替えることがあります。

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	科目名（英文）	Criminal Procedure Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	本授業では、刑事手続のうち、捜査段階について、学説・判例の状況を踏まえながら解説する。一般的に、新聞・テレビ等で刑事事件に接する際、とかく捜査機関あるいは犯罪被害者の視点で報じられることが多いように思われるが、本授業においては、刑事訴訟法が「公共の福祉の維持と個人の基本的人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現する」ことをその目的としていることにも鑑み、捜査機関のみならず被疑者・被告人あるいは裁判官の視点にも立った解説を行う予定である。
到達目標	我が国の刑事手続に関する基本的な知識を修得する。
授業方法と留意点	下記で指定した教科書及びそれをもとに作成したレジュメを中心に授業を行う。
科目学習の効果（資格）	司法試験、裁判所事務官採用試験など。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	教科書の入手
2	刑事訴訟法の基礎	刑事手続概観、刑事手続の関係者	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
3	捜査に関する一般規範	比例原則、令状主義、強制処分法定主義など	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
4	捜査の端緒	職務質問、自動車検問などについて	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
5	被疑者の身柄拘束①	逮捕・勾留について	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
6	被疑者の身柄拘束②	逮捕・勾留に関する諸問題	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
7	供述の採取①	被疑者・参考人の取調べ	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
8	供述の採取②	被疑者・参考人の取調べに関する諸問題	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
9	証拠物の収集①	捜索・押収・検証などについて	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
10	証拠物の収集②	捜索、押収、検証などに関する諸問題	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
11	その他の捜査方法	写真撮影、秘密録音、おとり捜査などについて	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
12	被告人の防御①	黙秘権、弁護人選任権、接見交通権などについて	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
13	被告人の防御②	黙秘権、弁護人選任権、接見交通権などに関する諸問題	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
14	捜査の終結	事件処理、起訴後の捜査について	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
15	まとめ	重要論点の再解説	重要論点の確認

関連科目：刑事訴訟法Ⅱ、刑法総論、刑法各論、刑事政策、少年法など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事訴訟法	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	判例教材刑事訴訟法（第４版）	三井誠編	東京大学出版会
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績(80%)と授業中に随時行う予定である小テストの成績(20%)で評価する。
学生へのメッセージ	刑事訴訟法では、捜査・公判における現実の「場面」が問題となります。問題となっている「場面」において、もし自分が警察官・検察官だったら、裁判官だったら、あるいは被疑者・被告人・弁護人だったらどう考えるか、それぞれの視点に立って考えてみてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	六法は必ず持参してください。

科目名	刑事訴訟法Ⅱ	科目名（英文）	Criminal Procedure II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	本授業では、刑事手続のうち、公訴・公判段階について、学説・判例の状況を踏まえながら解説する。一般的に、新聞・テレビ等で刑事事件に接する際、とかく捜査機関あるいは犯罪被害者の視点で報じられることが多いように思われるが、本授業においては、刑事訴訟法が「公共の福祉の維持と個人の基本的人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現する」ことをその目的としていることにも鑑み、捜査機関のみならず被疑者・被告人あるいは裁判官の視点にも立った解説を行う予定である。
到達目標	我が国の刑事手続に関する基本的な知識を修得する。
授業方法と留意点	下記で指定した教科書及びそれをもとに作成したレジュメを中心に授業を行う。
科目学習の効果（資格）	司法試験、裁判所事務官採用試験など。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	教科書の入手
2	公訴提起①	公訴提起に関する基本原則について	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
3	公訴提起②	公訴提起の手続について	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
4	訴因制度	訴因について	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
5	訴因変更①	訴因変更手続について	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
6	訴因変更②	訴因変更手続について	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
7	公判手続①	公判手続に関する基本原則について	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
8	公判手続②	公判準備について	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
9	公判手続③	公判期日における審判手続について	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
10	証拠法①	証拠法の諸原則について	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
11	証拠法②	伝聞法則について	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
12	証拠法③	違法収集証拠排除法則について	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
13	証拠法④	自白法則について	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
14	裁判	裁判の手続、確定とその効力、一事不再理などについて	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
15	まとめ	重要論点の再解説	重要論点の確認

関連科目：刑事訴訟法Ⅰ、刑法総論、刑法各論、刑事政策、少年法など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事訴訟法	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	判例教材刑事訴訟法（第４版）	三井誠編	東京大学出版会
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績(80%)と授業中に随時行う予定である小テストの成績(20%)で評価する。
学生へのメッセージ	刑事訴訟法では、捜査・公判における現実の「場面」が問題となります。問題となっている「場面」において、もし自分が警察官・検察官だったら、裁判官だったら、あるいは被疑者・被告人だったらどう考えるか、それぞれの視点に立って考えてみてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	

科目名	刑事法概論	科目名（英文）	Introduction to Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＩＪ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業は、いわゆる「刑事法」（刑法・刑事訴訟法・少年法・犯罪者処遇法）について、その基本的な内容を理解することを目標とするものである。具体的内容であるが、どのような行為が「犯罪」として処罰されるのか、刑事手続の内容（犯罪捜査・刑事裁判）とはどのようなものか、刑罰にはどのような種類があるのか、成人の刑事手続と少年の保護手続との違いはどこにあるのか、などといったことについて実際に起きた事件の解説等も交えながら授業を進めていく予定である。
到達目標	「刑事法」を学習していく上での基本的知識を修得する。
授業方法と留意点	下記で指定した教科書及びそれをもとに作成したレジュメを中心に授業を行う。 なお、レジュメは大学の「教材・提出フォルダ（webbox)」から各自ダウンロードして印刷してください。
科目学習の効果（資格）	法学検定など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	教科書の入手
2	刑法概説①	刑法とはなにか？	レジュメの穴埋め
3	刑法概説②	刑罰の役割と機能について	レジュメの穴埋め
4	刑法概説③	罪刑法定主義と刑法の解釈について	レジュメの穴埋め
5	刑法概説④	「犯罪」とはなにか？	レジュメの穴埋め
6	刑法概説⑤	「犯罪」の成立要件その１：構成要件	レジュメの穴埋め
7	刑法概説⑥	「犯罪」の成立要件その２：違法性	レジュメの穴埋め
8	刑法概説⑦	「犯罪」の成立要件その３：責任	レジュメの穴埋め
9	刑法概説⑧	故意と過失について	レジュメの穴埋め
10	刑法概説⑨	刑罰と保安処分について	レジュメの穴埋め
11	刑法概説⑩	量刑について	レジュメの穴埋め
12	刑事訴訟法概説①	刑事訴訟法とはなにか？	レジュメの穴埋め
13	刑事訴訟法概説②	捜査について	レジュメの穴埋め
14	刑事訴訟法概説③	公訴提起・公判手続と少年事件について	レジュメの穴埋め
15	刑事政策概説	犯罪者の処遇などについて	レジュメの穴埋め

関連科目：刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、少年法、刑事政策など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学ぶ刑事法（第５版）	井田良	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑法学・総論	井田良	有斐閣
2	入門刑事手続法（第６版）	三井誠・酒巻匡	有斐閣
3	入門刑事法（第５版）	三井誠・曽根威彦・瀬川晃	有斐閣

評価方法（基準）	定期試験の成績によって評価する。ただし、受講態度等を考慮することがある。
学生へのメッセージ	この授業は、大学で刑事法を勉強していく上でのいわば「入り口」にあたります。ですから、教員においてはできるだけ平易な解説を心がけるとともに、学生においてももしわからない点などがあれば臆せず質問するようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階 島田准教授室
備考	六法は必ず持参するようにしてください。

科目名	刑事法概論	科目名（英文）	Introduction to Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	・法学部の専門科目には、「刑法総論」、「刑法各論」、「経済刑法」、「刑事訴訟法」、「刑事政策」、「現代社会と刑事法」のほか、これらの応用講義が用意されている。これらの科目で学習する内容をまとめて「刑事法」と呼ぶことができる。 ・本講義の内容は、この「刑事法」を広い視点から俯瞰ないし概観しようというものである。すなわち、どのような行為をすれば犯罪と刑罰に問われるのかを学ぶ刑事実体法（刑法）、および、刑法の内容を実現させるのに必要な刑事手続法（刑事訴訟法）の解釈論から、刑罰の正当化根拠や効果を学ぶ刑罰論、犯罪者や犯罪被害者をどのように社会で処遇するかという刑事政策、犯罪原因の解明とその対策を講じる犯罪学など、その取り扱う内容は多岐にわたる。 ・本講義では、刑事法上の諸問題を具体的に検討し、刑事法への関心を高めることで、刑事法学全体の見取り図を得ることを目的とする。
到達目標	１．刑法の全体像をできるだけ具体的に把握するとともに、刑法総論と刑法各論の異同を理解する。 ２．刑事手続、刑罰制度、犯罪動向の現状、犯罪者処遇、および、被害者救済などの問題点について、基本的な知識を身につける。 ３．刑法、刑事手続法、刑事学の基本的な考え方に触れ、各分野のしくみ、はたらき、機能などを大まかに理解する。
授業方法と留意点	・授業は講義形式で行うが双方向の理解を確保するため、適宜、質疑応答を行うことがある。 必要に応じて紙媒体の資料を交付する。 ・刑事法は近年相次いで法改正がなされているので、最新の六法を持参すること。たとえば、平成 27 年版ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）や判例六法（有斐閣）など。
科目学習の効果（資格）	・この科目と、2 回生以降で配当される「刑法総論」、「刑法各論」、「刑法応用講義Ⅰ」および「刑法応用講義Ⅱ」をしっかり受講すれば、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、警視庁警察官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験で出題される刑法の問題を解けるようになり、得点源とすることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	刑事法とは何か　?刑法、刑事手続法、刑事学の違い	本講義概要の説明 文献紹介	事前：教科書の入手 事後：要点をノートに整理
2	刑法①	刑法のあらまし 犯罪についての基本的な考え方 学派の争い	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
3	刑法②	刑法総論 ・犯罪成立要件 刑法各論 ・保護法益による犯罪の分類	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
4	刑法③	交通刑法 ・交通刑法の大改正と近年における重罰化傾向の是非	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
5	刑法④	経済刑法 ・自由主義経済体制と経済犯罪の整備	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
6	刑罰論	刑罰の正当化根拠 ・死刑存廃論	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
7	刑事手続法①	刑事手続法のあらまし 捜査法 ・任意捜査と強制捜査をめぐる諸問題	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
8	刑事手続法②	公訴の提起と公判法 ・起訴状一本主義 ・訴因の変更	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
9	刑事手続法③	証拠法 ・違法収集証拠排除の原則 ・伝聞法則	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
10	刑事手続法④	刑事司法制度改革? ・裁判員制度 ・検察審査会制度 ・法テラス	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
11	刑事学①	刑事学のあらまし ・わが国の犯罪状況	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
12	刑事学②　日本の刑事手続	犯罪学 ・犯罪原因論 ・女性犯罪 ・老人犯罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
13	刑事学③	刑事政策 ・犯罪者処遇論 ・少年犯罪と法	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
14	刑事学④	被害者学 ・犯罪被害者支援と修復的司法	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
15	新しい犯罪現象と刑事立法	ストーカー デート DV その他	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理

関連科目：刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、現代社会と刑事法、刑事政策、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法応用講義

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑事法（第５版）	三井誠＝曽根威彦＝瀬川晃/編著	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法入門（第４版）	大塚仁	有斐閣
2	入門刑事手続法（第６版）	三井誠＝酒巻匡	有斐閣

	3	刑事政策	川出敏裕＝金光旭	成文堂
評価方法 （基準）	・期末試験の成績による。 ・ただし、必要に応じて授業内で実施する理解度テストの成績や質疑応答の内容も評価に加味することがある。			
学生への メッセージ	・新聞（朝刊や夕刊）の社会面、あるいは、インターネット上のニュースなどに掲載されている犯罪記事を読みましょう。 ・授業に出席したときは、何かを得て帰るように努めてください。 ・法学を体得するには、自らの手を動かして問題を解く、あるいは講義内容をまとめてみるなどの復習がもっとも効果的です。教科書を漫然と読むだけでは講義内容の中身は身につきません。とにかく手を動かしましょう。 ・公務員を目指している学生がいれば、勉強の仕方など、ご相談に乗りますので、気軽に声をかけてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室			
備考				

科目名	刑事法概論	科目名（英文）	Introduction to Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＩ
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業は、いわゆる「刑事法」（刑法・刑事訴訟法・少年法・犯罪者処遇法）について、その基本的な内容を理解することを目標とするものである。具体的内容であるが、どのような行為が「犯罪」として処罰されるのか、刑事手続の内容（犯罪捜査・刑事裁判）とはどのようなものか、刑罰にはどのような種類があるのか、成人の刑事手続と少年の保護手続との違いはどこにあるのか、などといったことについて実際に起きた事件の解説等も交えながら授業を進めていく予定である。
到達目標	「刑事法」を学習していく上での基本的知識を修得する。
授業方法と留意点	下記で指定した教科書及びそれをもとに作成したレジュメを中心に授業を行う。 なお、レジュメは大学の「教材・提出フォルダ（webbox)」から各自ダウンロードして印刷してください。
科目学習の効果（資格）	法学検定など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	教科書の入手
2	刑法概説①	刑法とはなにか？	レジュメの穴埋め
3	刑法概説②	刑罰の役割と機能について	レジュメの穴埋め
4	刑法概説③	罪刑法定主義と刑法の解釈について	レジュメの穴埋め
5	刑法概説④	「犯罪」とはなにか？	レジュメの穴埋め
6	刑法概説⑤	「犯罪」の成立要件その１：構成要件	レジュメの穴埋め
7	刑法概説⑥	「犯罪」の成立要件その２：違法性	レジュメの穴埋め
8	刑法概説⑦	「犯罪」の成立要件その３：責任	レジュメの穴埋め
9	刑法概説⑧	故意と過失について	レジュメの穴埋め
10	刑法概説⑨	刑罰と保安処分について	レジュメの穴埋め
11	刑法概説⑩	量刑について	レジュメの穴埋め
12	刑事訴訟法概説①	刑事訴訟法とはなにか？	レジュメの穴埋め
13	刑事訴訟法概説②	捜査について	レジュメの穴埋め
14	刑事訴訟法概説③	公訴提起・公判手続と少年事件について	レジュメの穴埋め
15	刑事政策概説	犯罪者の処遇などについて	レジュメの穴埋め

関連科目：刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、少年法、刑事政策など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学ぶ刑事法（第５版）	井田良	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑法学・総論	井田良	有斐閣
2	入門刑事手続法（第６版）	三井誠・酒巻匡	有斐閣
3	入門刑事法（第５版）	三井誠・曽根威彦・瀬川晃	有斐閣

評価方法（基準）	定期試験の成績によって評価する。ただし、受講態度等を考慮することがある。
学生へのメッセージ	この授業は、大学で刑事法を勉強していく上でのいわば「入り口」にあたります。ですから、教員においてはできるだけ平易な解説を心がけるとともに、学生においてももしわからない点などがあれば臆せず質問するようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階 島田准教授室
備考	六法は必ず持参するようにしてください。

科目名	刑事法概論	科目名（英文）	Introduction to Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨ
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	・法学部の専門科目には、「刑法総論」、「刑法各論」、「経済刑法」、「刑事訴訟法」、「刑事政策」、「現代社会と刑事法」のほか、これらの応用講義が用意されている。これらの科目で学習する内容をまとめて「刑事法」と呼ぶことができる。 ・本講義の内容は、この「刑事法」を広い視点から俯瞰ないし概観しようというものである。すなわち、どのような行為をすれば犯罪と刑罰に問われるのかを学ぶ刑事実体法（刑法）、および、刑法の内容を実現させるのに必要な刑事手続法（刑事訴訟法）の解釈論から、刑罰の正当化根拠や効果を学ぶ刑罰論、犯罪者や犯罪被害者をどのように社会で処遇するかという刑事政策、犯罪原因の解明とその対策を講じる犯罪学など、その取り扱う内容は多岐にわたる。 ・本講義では、刑事法上の諸問題を具体的に検討し、刑事法への関心を高めることで、刑事法学全体の見取り図を得ることを目的とする。
到達目標	１．刑法の全体像をできるだけ具体的に把握するとともに、刑法総論と刑法各論の異同を理解する。 ２．刑事手続、刑罰制度、犯罪動向の現状、犯罪者処遇、および、被害者救済などの問題点について、基本的な知識を身につける。 ３．刑法、刑事手続法、刑事学の基本的な考え方に触れ、各分野のしくみ、はたらき、機能などを大まかに理解する。
授業方法と留意点	・授業は講義形式で行うが双方向の理解を確保するため、適宜、質疑応答を行うことがある。 必要に応じて紙媒体の資料を交付する。 ・刑事法は近年相次いで法改正がなされているので、最新の六法を持参すること。たとえば、平成 27 年版ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）や判例六法（有斐閣）など。
科目学習の効果（資格）	・この科目と、2 回生以降で配当される「刑法総論」、「刑法各論」、「刑法応用講義Ⅰ」および「刑法応用講義Ⅱ」をしっかり受講すれば、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、警視庁警察官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験で出題される刑法の問題を解けるようになり、得点源とすることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	刑事法とは何か　?刑法、刑事手続法、刑事学の違い	本講義概要の説明 文献紹介	事前：教科書の入手 事後：要点をノートに整理
2	刑法①	刑法のあらまし 犯罪についての基本的な考え方 学派の争い	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
3	刑法②	刑法総論 ・犯罪成立要件 刑法各論 ・保護法益による犯罪の分類	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
4	刑法③	交通刑法 ・交通刑法の大改正と近年における重罰化傾向の是非	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
5	刑法④	経済刑法 ・自由主義経済体制と経済犯罪の整備	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
6	刑罰論	刑罰の正当化根拠 ・死刑存廃論	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
7	刑事手続法①	刑事手続法のあらまし 捜査法 ・任意捜査と強制捜査をめぐる諸問題	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
8	刑事手続法②	公訴の提起と公判法 ・起訴状一本主義 ・訴因の変更	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
9	刑事手続法③	証拠法 ・違法収集証拠排除の原則 ・伝聞法則	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
10	刑事手続法④	刑事司法制度改革? ・裁判員制度 ・検察審査会制度 ・法テラス	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
11	刑事学①	刑事学のあらまし ・わが国の犯罪状況	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
12	刑事学②　日本の刑事手続	犯罪学 ・犯罪原因論 ・女性犯罪 ・老人犯罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
13	刑事学③	刑事政策 ・犯罪者処遇論 ・少年犯罪と法	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
14	刑事学④	被害者学 ・犯罪被害者支援と修復的司法	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
15	新しい犯罪現象と刑事立法	ストーカー デート DV その他	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理

関連科目：刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、現代社会と刑事法、刑事政策、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法応用講義

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑事法（第５版）	三井誠＝曽根威彦＝瀬川晃/編著	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法入門（第４版）	大塚仁	有斐閣
2	入門刑事手続法（第６版）	三井誠＝酒巻匡	有斐閣

	3	刑事政策	川出敏裕＝金光旭	成文堂
評価方法 （基準）	・期末試験の成績による。 ・ただし、必要に応じて授業内で実施する理解度テストの成績や質疑応答の内容も評価に加味することがある。			
学生への メッセージ	・新聞（朝刊や夕刊）の社会面、あるいは、インターネット上のニュースなどに掲載されている犯罪記事を読みましょう。 ・授業に出席したときは、何かを得て帰るように努めてください。 ・法学を体得するには、自らの手を動かして問題を解く、あるいは講義内容をまとめてみるなどの復習がもっとも効果的です。教科書を漫然と読むだけでは講義内容の中身は身につきません。とにかく手を動かしましょう。 ・公務員を目指している学生がいれば、勉強の仕方など、ご相談に乗りますので、気軽に声をかけてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室			
備考				

科目名	刑法各論Ⅰ	科目名（英文）	Applied Criminal Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	・刑法各論は、各種の犯罪類型における犯罪の成立要件と適用の限界について考察する学問である。 ・刑法各論Ⅰでは、保護法益論と刑罰法規の解釈、および、個人的法益に対する罪（生命、身体、自由、財産に対する罪）について概説する。 ・刑法各論は刑法総論よりも具体的でわかりやすいが、個別犯罪の適用範囲や限界について細かな議論をする必要があり、適用する条文の検討に注意を要する。
到達目標	・保護法益の種類を説明できるようになる。 ・個別の犯罪の成立要件の範囲について正確に理解する。 ・刑法各論（とくに、個人的法益に対する罪）をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる。 ・刑法各論に関する公務員試験の問題を素早く解けるようになる。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、学生と教員間の双方向理解を確保するために随時質疑応答も行うので、シラバスに記した回の事前予習を教科書を通じて行うこと。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論Ⅰ・Ⅱ」および「刑法各論Ⅰ・Ⅱ」をしっかり受講すれば、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、警視庁警察官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法」の問題を確実に処理し、刑法を得点源とすることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと文献紹介 保護法益論と刑法各則の解釈	・文献紹介 ・刑法典の編成と保護法益	・教科書の入手 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
2	生命・身体に対する罪１	・「人」の範囲 ・普通殺人罪 ・同意殺人罪と自殺関与罪 ・普通殺人と同意殺人の区別 ・法益関係的錯誤	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
3	生命・身体に対する罪２	・暴行罪と傷害罪の関係 ・傷害致死罪 ・同時傷害の特例 ・現場助勢罪 ・凶器準備集合・結集罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
4	生命・身体に対する罪３	・遺棄の罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
5	生命・身体に対する罪４	・堕胎の罪 ・胎児性傷害 ・過失傷害の罪 ・自動車運転死傷行為処罰法	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
6	自由に対する罪１	・脅迫の罪 ・逮捕及び監禁の罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
7	自由に対する罪２	・略取、誘拐及び人身売買の罪 ・強制わいせつ及び強姦の罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
8	生活の平穏に対する罪	・住居を侵す罪 ・秘密を侵す罪 ・信用及び業務に対する罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
9	名誉に対する罪	・名誉毀損罪 ・侮辱罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
10	財産に対する罪１	・財産犯総論 ・財物と財産上の利益 ・窃盗の罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
11	財産に対する罪２	・強盗の罪１	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
12	財産に対する罪３	・強盗の罪２	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
13	財産に対する罪４	・詐欺罪 ・恐喝罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
14	財産に対する罪５	・横領罪 ・背任罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
15	財産に対する罪６	・横領と背任の区別 ・盗品等関与罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習

関連科目：刑事法概論、刑法総論Ⅰ・Ⅱ、刑法各論Ⅱ、経済刑法、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、少年法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法各論	大野　眞義ほか	世界思想社
2	刑法各論（第２版）	佐久間　修	成文堂
3	※指定教科書は上記１または２のいずれかとする。	開講時に指示する。	

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法各論（第２版）	高橋　則夫	成文堂
2	刑法判例百選Ⅱ各論（第７版）	山口　厚＝佐伯　仁志/編	有斐閣
3	※このほかの参考文献については開講時に説明する。		

評価方法 （基準）	・原則として定期試験の得点により成績の評価を行う。
学生への メッセージ	・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題が有用です。 ・問題集は開講時に紹介します。 ・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。 ・各論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジしてください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、なるべくニュースに接するようにしましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室
備考	

科目名	刑法各論Ⅱ	科目名（英文）	Applied Criminal Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	・刑法各論は、各種の犯罪類型における犯罪の成立要件と適用の限界について考察する学問である。 ・刑法各論Ⅱでは、社会的的法益に対する罪（公共の安全、公共の信用に対する罪）、および、国家法益に対する罪（国家の安全に対する罪、国家の作用に対する罪）について概説する。 ・刑法各論は刑法総論よりも具体的でわかりやすいが、個別犯罪の適用範囲や限界について細かな議論をする必要があり、注意を要する。
到達目標	・保護法益の種類を説明できるようになる。 ・個別の犯罪の成立要件の範囲について正確に理解する。 ・刑法各論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる。 ・刑法各論に関する公務員試験の問題を素早く解けるようになる。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、学生と教員間の双方向理解を確保するために随時質疑応答も行うので、シラバスに記した回の事前予習を教科書を通じて行うこと。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論Ⅰ・Ⅱ」および「刑法各論Ⅰ・Ⅱ」をしっかり受講すれば、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、警視庁警察官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法」の問題を確実に処理し、刑法を得点源とすることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 公共の安全に対する罪１	・文献紹介 ・騒乱の罪	・教科書の入手 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
2	公共の安全に対する罪２	・放火の罪１	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
3	公共の安全に対する罪３	・放火の罪２	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
4	公共の信用に対する罪１	・通貨偽造の罪 ・文書偽造の罪１	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
5	公共の信用に対する罪２	・文書偽造の罪２ ・電磁的記録に関する罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
6	公衆の風俗に対する罪	・公然わいせつ罪 ・わいせつ物頒布等罪 ・死体等損壊罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
7	国家の安全に対する罪	・内乱に関する罪 ・外患に関する罪 ・国交に関する罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
8	国家の作用に対する罪１	・公務の執行を妨害する罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
9	国家の作用に対する罪２	・逃走の罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
10	国家の作用に対する罪３	・犯人蔵匿及び証拠隠滅の罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
11	国家の作用に対する罪４	・偽証の罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
12	国家の作用に対する罪５	・職権濫用の罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
13	国家の作用に対する罪６	・賄賂罪１	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
14	国家の作用に対する罪７	・賄賂罪２	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
15	まとめ	重要事項の再検討	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習

関連科目：刑事法概論、刑法総論Ⅰ・Ⅱ、刑法各論Ⅰ、経済刑法、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、少年法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法各論	大野　眞義ほか	世界思想社
2	刑法各論（第２版）	佐久間　修	成文堂
3	※指定教科書は上記１または２のいずれかとする。	開講時に指示する。	

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法各論（第２版）	高橋　則夫	成文堂
2	刑法判例百選Ⅱ各論（第７版）	山口　厚＝佐伯　仁志/編	有斐閣
3	※このほかの参考文献については開講時に説明する。		

評価方法（基準）	・原則として定期試験の得点により成績の評価を行う。
学生へのメッセージ	・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題が有用です。 ・問題集は開講時に紹介します。 ・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。 ・各論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジ

	してください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、なるべくニュースに接するようにしましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室
備考	

科目名	刑法総論Ⅰ	科目名（英文）	Criminal Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	・刑法総論は、犯罪と刑罰に関する一般原則について考察する学問である。 ・刑法総論Ⅰでは、刑罰の正当化根拠、刑法の機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、刑法の適用範囲に加えて、主として犯罪一般に共通する犯罪成立要件のうち、構成要件該当性（未遂と共犯を除く）の問題について概説する。 ・刑法総論は、個別の犯罪を離れた犯罪一般を考察対象とするため、抽象的な犯罪論体系をめぐる議論が多い。初学者にはやや難しく感じられるかもしれないが、なるべく身近で具体的な事例を用いて分かりやすく解説する。
到達目標	・刑法の謙抑性、罪刑法定主義およびその派生原則を説明できるようになる。 ・刑罰の正当化根拠について理解する。 ・刑法総論（とくに構成要件該当性）をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる。 ・刑法総論に関する公務員試験の問題を素早く解けるようになる。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、学生と教員間の双方向理解を確保するために随時質疑応答も行うので、シラバスに記した回の事前予習を教科書を通じて行うこと。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論Ⅰ・Ⅱ」および「刑法各論Ⅰ・Ⅱ」をしっかり受講すれば、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、警視庁警察官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法」の問題を確実に処理し、刑法を得点源とすることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと文献紹介 刑法の基礎	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能	・教科書の入手 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
2	刑法の歴史的展開 刑罰論	・刑法学派の争い ・刑罰の正当化根拠	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
3	刑法の解釈と罪刑法定主義	・刑罰法規の謙抑性 ・罪刑法定主義とその派生原則 ・罪刑法定主義の現代的展開	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
4	刑法の適用範囲 犯罪論の基礎 構成要件の理論	・人的適用範囲 ・場所的適用範囲 ・時間的適用範囲 ・犯罪論体系の意義 ・行為論 ・法人処罰 ・構成要件の意義 ・構成要件要素	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
5	構成要件該当性１ （実行行為と構成要件的結果）	・客観的構成要件要素 ・実行行為の概念 ・実行行為の存否と開始 ・構成要件的結果	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
6	構成要件該当性２ （不真正不作為犯）	・作為犯と不作為犯 ・真正不作為犯 ・不真正不作為犯の成立要件	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
7	構成要件該当性３ （因果関係）	・因果関係の理論 ・条件因果関係 ・相当因果関係 ・危険の現実化	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
8	構成要件該当性４ （故意と目的）	・主観的構成要件要素の要否 ・構成要件的故意の存否 ・目的犯、傾向犯、表現犯 ・結果的加重犯	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
9	構成要件該当性５ （事実の錯誤１）	・同一構成要件間の錯誤 ・客体、方法、因果経過の錯誤 ・法定的符合説 ・具体的符合説	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
10	構成要件該当性６ （事実の錯誤２）	・異なる構成要件間の錯誤 ・法定的符合説と具体的符合説 ・構成要件の重なり合い	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
11	構成要件該当性７ （事実の錯誤３）	・構成要件的事実に関する錯誤のおさらい	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
12	構成要件該当性８ （過失犯１）	・新旧過失論 ・結果予見義務と結果回避義務	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
13	構成要件該当性９ （過失犯２）	・過失概念の拡大と縮小 ・信頼の原則	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
14	構成要件該当性１０ （過失犯３）	・管理過失と監督過失の意義 ・過失の競合	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
15	総まとめ	・重要事項の再確認	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習

関連科目	刑事法概論、刑法総論Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱ、経済刑法、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、少年法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法総論	大野　眞義	世界思想社

	2	刑法総論	佐久間　修	成文堂
	3	※指定テキストは上記１または２のいずれかとする。	開講時に指示する。	

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法概説〔総論〕（第４版）	大塚　仁	有斐閣
2	刑法判例百選Ⅰ総論（第７版）	山口　厚＝佐伯　仁志/編	有斐閣
3	※このほかの参考文献については開講時に説明する。		

評価方法（基準）	・原則として定期試験の得点により成績の評価を行う。
学生へのメッセージ	・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題が有用です。 ・問題集は開講時に紹介します。 ・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。 ・総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジしてください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、なるべくニュースに接するようにしましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室
備考	

科目名	刑法総論Ⅱ	科目名（英文）	Criminal Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	・刑法総論は、犯罪と刑罰に関する一般原則について考察する学問である。 ・刑法総論Ⅱでは、刑法総論Ⅰの内容にに引き続き、違法性阻却事由、責任阻却事由、未遂犯と中止未遂、正犯と共犯、共犯の諸問題、および、罪数について概説する。 ・刑法総論は、個別の犯罪を離れた犯罪一般を考察対象とするため、抽象的な犯罪論体系をめぐる議論が多い。初学者にはやや難しく感じられるかもしれないが、なるべく身近で具体的な事例を用いて分かりやすく解説する。
到達目標	・違法性阻却事由の諸類型を説明できるようになる。 ・責任阻却事由について理解する。 ・刑法総論（とくに、違法性阻却事由、責任阻却事由、未遂犯、共犯）をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる。 ・刑法総論に関する公務員試験の問題を素早く解けるようになる。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、学生と教員間の双方向理解を確保するために随時質疑応答も行うので、シラバスに記した回の事前予習を教科書を通じて行うこと。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論Ⅰ・Ⅱ」および「刑法各論Ⅰ・Ⅱ」をしっかり受講すれば、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、警視庁警察官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法」の問題を確実に処理し、刑法を得点源とすることができるようになる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 違法性の本質 違法性の要素 違法性の程度	・授業の進め方と文献紹介 ・違法性の意義 ・客観的違法性 ・主観的違法要素（主観的構成要件要素の要否）	・教科書の入手 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
2	違法性阻却事由１ （正当行為）	・法令行為 ・正当業務行為 ・安楽死と尊厳死	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
3	違法性阻却事由２ （緊急行為１）	・正当防衛の正当化根拠 ・正当防衛の成立要件１	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
4	違法性阻却事由３ （緊急行為２）	・正当防衛の成立要件２ ・過剰・誤想防衛	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
5	違法性阻却事由４ （緊急行為３）	・緊急避難の成立要件 ・過剰・誤想避難	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
6	違法性阻却事由５ （被害者の承諾）	・被害者の承諾 ・法益関係的錯誤 ・推定的承諾 ・「危険」の引受け	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
7	責任の本質 責任の要素 責任の程度	・道義的責任と社会的責任 ・規範的責任論 ・責任能力 ・期待可能性	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
8	責任阻却事由１ （行為と責任の同時存在の原則）	・実行途中の責任能力低下 ・原因において自由な行為	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
9	責任阻却事由２ （違法性に関する錯誤）	・違法性の意識 ・違法性の錯誤	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
10	未遂犯	・予備と陰謀 ・実行の着手（未遂） ・不能犯	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
11	中止未遂	・刑の減免根拠 ・中止行為と中止結果 ・中止未遂の因果関係 ・中止故意 ・任意性	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
12	間接正犯と共同正犯	・正犯と共犯の区別 ・直接正犯と間接正犯 ・共同正犯 ・教唆犯と幇助犯	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
13	共犯の諸問題１	・承継的共犯 ・過失の共同正犯	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
14	・共犯の諸問題２	・共犯における未遂 ・共犯関係からの離脱と中止未遂 ・共犯における正当防衛 ・身分犯と共犯	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
15	罪数	・一罪と数罪 ・包括一罪 ・観念的競合 ・牽連犯 ・併合罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習

関連科目	刑事法概論、刑法総論Ⅰ、刑法各論Ⅰ・Ⅱ、経済刑法、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、少年法
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>刑法総論</td><td>大野　眞義</td><td>世界思想社</td></tr>
<tr><td>2</td><td>刑法総論</td><td>佐久間　修</td><td>成文堂</td></tr>
<tr><td>3</td><td>※指定テキストは上記１または２のいずれかとする。</td><td>開講時に指示する。</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>刑法概説〔総論〕（第４版）</td><td>大塚　仁</td><td>有斐閣</td></tr>
<tr><td>2</td><td>刑法判例百選Ⅰ総論（第７版）</td><td>山口　厚＝佐伯　仁志/編</td><td>有斐閣</td></tr>
<tr><td>3</td><td>※このほかの参考文献については開講時に説明する。</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>・原則として定期試験の得点により成績の評価を行う。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。
・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題が有用です。
・問題集は開講時に紹介します。
・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。
・総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジしてください。
・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、なるべくニュースに接するようにしましょう。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 10 階　小野准教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	契約法	科目名（英文）	Contract Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	家本　真実
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	契約は、原則として当事者が合意さえすれば成立するという意味で、民法のなかでももっとも自由があるといえるでしょう。当事者が自由に決めたルールが、契約として有効なものであれば、法律がその実現を後押ししてくれることとなります。したがって、契約として必要な条件や問題が起きた場合の解決法などは、最低限、民法に規定がおかれています。 この講義では、民法第３編「債権」のうち、事務管理、不当利得、不法行為と並んで、債権が発生する原因の１つとして、契約がどのように定められているのかを学んでいただきたいと思います。より理解を深めていただくために、できる限り身近な事例を挙げるとともに、条文に対する解釈や、学説、判例について紹介していきたいと考えています。
到達目標	本講義では、契約法の基礎をしっかり理解し、全体像を把握していただくことを目標とします。
授業方法と留意点	基本的に講義形式で行います。毎回、レジュメを配布し、それに沿って六法や教科書を参照します。六法は必ず持参してください。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、契約法を含む民法の理解が必須となることがあります。ただし、本講義では各種資格試験の対策まではおこないません。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 契約法概論	講義のガイダンス 契約法とは	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
2	契約成立のプロセス（1）	契約はどのように成立するのか	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
3	契約成立のプロセス（2）	契約の成否	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
4	契約の効力（1）	契約によって生じる権利・義務	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
5	契約の効力（2）	契約の有効性	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
6	契約の履行（1）	契約の履行とは	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
7	契約の履行（2）	契約履行の過程におけるリスク	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
8	契約違反	契約違反の類型、債務不履行	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
9	契約違反に対する救済	履行の強制、損害賠償の請求など	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
10	契約の終了	契約の解除	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
11	財産権の移転を目的とする契約	契約の分類、贈与、売買	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
12	物の利用を目的とする契約（1）	消費貸借、寄託	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
13	物の利用を目的とする契約（2）	使用貸借、賃貸借 vol.1	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
14	物の利用を目的とする契約（3）	賃貸借 vol.2	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
15	サービスの提供を目的とする契約 おわりに	雇用、請負、委任 講義のまとめと補足	全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと

関連科目	債権総論、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての契約法　第２版	笠井修他	有斐閣、2006 年
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末試験の結果を、おもに評価の対象とします。講義中に小テストなどを行った場合は、その結果も加味します。授業中の不要な私語については減点の対象としますし、私語を含む受講態度があまりにひどい場合には、講義期間中に単位の取得を認めないことを申し渡すことがあります。
学生へのメッセージ	授業中は私語を慎んで、真剣に講義を受けようとしている学生を妨害しないでください。講義内容については、講義の進行具合に応じて変更する場合もあります。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	

科目名	現代の民主主義	科目名（英文）	Democracy in Contemporary Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松永　信一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	民主主義の歴史、民主主義の諸類型、民主主義と非民主的な政治体制の比較、民主主義の社会的基盤などについて講義する。
到達目標	成熟した市民社会の一員にふさわしい政治を見る目と、政治に関心をもち政治に関与しようという態度を養う。
授業方法と留意点	プリントを配布し、講述形式による。
科目学習の効果（資格）	ジャーナリスト、公務員、議員、社会科教員などの公的な貢献に比重を置いた職業を目指す人。就職試験の時事問題対策。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の趣旨及び進め方	本日配布のプリントを読み直す
2	民主主義はなぜ望ましいか	政治に何を望むか。政体の形態	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
3	民主主義の歴史的変遷	民主主義の古代と現代	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
4	ダールの民主主議論	ポリアーキー概念	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
5	民主主義と自由主義	法の支配、自由権	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
6	民主主義と平等（1）	経済的平等、ジェンダー	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
7	民主主義と平等（2）	文化的多元主義	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
8	民主主義と戦争	フランス革命、アメリカの独立戦争	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
9	民主主義の土台（1）	政治文化論	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
10	民主主義の土台（2）	ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）、恩顧主義	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
11	民主主義の将来（1）	巻町の住民投票運動	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
12	民主主義の将来（2）	国民国家とグローバリズム	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
13	非民主的な体制	権威主義的な政治体制	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
14	非民主的な政治体制	全体主義的政治体制	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
15	まとめ	授業内容を振り返り、試験対策について	――――

関連科目	政治、国際関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の結果及び数回の小レポートの評価による。
学生へのメッセージ	毎日の新聞やテレビで報じられる政治ニュースに注目しよう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　松永准教授室
備考	

科目名	憲法Ⅰ（基本的人権）	科目名（英文）	Constitutional Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浮田　徹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	基本的人権領域における重要な部分としての具体的な人権規定を学びます。 「憲法概論」を履修していることを前提にして講義を行う部分もありますので本科目を受講する学生は前期憲法概論も登録しておくことが望ましい。
到達目標	「憲法概論」で学んだ人権の総論的な考え方を各論に反映させて理解しすることを目的とします。
授業方法と留意点	講義形式で行います。詳細は初回配布のプリントに記載してありますので初回は必ず出席するようにしてください。
科目学習の効果（資格）	憲法はあらゆる公務員試験および公務員として働き始めてからも科目として設定されることが多いです。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・内心の自由	講義概要の説明と精神的自由の基礎となる思想・良心の自由似ついて学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
2	信教の自由	宗教に関する個人の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
3	政教分離	日本国憲法における国家と宗教の関係について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
4	表現の自由(1)	表現の自由の価値について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
5	表現の自由(2)	報道の自由･インターネットにおける表現の問題について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
6	表現の自由(3)	集会・結社の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
7	学問の自由	先端科学技術と学問の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
8	経済的自由(1)	経済活動における権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
9	経済的自由(2)	具体的な経済的自由の保障と規制について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
10	財産権	所有と財産に関する権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
11	生存権	社会権としての生存権について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
12	教育を受ける権利	公教育における国民の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
13	労働基本権	労働者の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
14	法定手続の保障	憲法 31 条の保障する内容について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
15	刑事手続に関する権利	32 条以下の具体的権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。

関連科目：憲法概論、憲法 II その他あらゆる法律科目。憲法概論とは内容的な連続性もあります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法 II　人権	毛利透・小泉良幸・浅野博宜・松本哲治	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	複数回の課題と平常点、定期試験により評価します。
学生への	

メッセージ	
担当者の 研究室等	１１号館９階浮田准教授室
備考	「憲法概論」を履修していることを前提にして講義を行う部分もありますので本科目を受講する学生は前期憲法概論も登録しておくことが望ましい。

科目名	憲法Ⅰ（基本的人権）	科目名（英文）	Constitutional Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	家本　真実.浮田　徹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	憲法は国家の基本的な組織と作用を規定したものです。それは大まかに言うと「基本的人権」を定める部分と「統治機構」を定める部分に分けられます。２年時履修の本講義では、その「基本的人権」の部分について詳しく勉強していきます。日本国憲法は「基本的人権」をどのように保障しているのか。このことは、統治機構を含めた憲法全体の理解、そしてそれにとどまらず、あらゆる法律の理解にも関わってきます。
到達目標	日本国民として理解しておくべき基本的人権の内容を学び・整えます。また基本的な考え方を押さえた上でそれぞれが必要となるレベルの憲法の勉強の土台を作ります。
授業方法と留意点	教科書、配布プリント、黒板を用いた講義形式で授業を行います。より具体的な内容は初回配布のプリントを参照すること。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験、公務員試験などの試験科目です。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・講義の概要説明と文献案内 ・基本概念の説明	予習：教科書の目次を一通り読んでおく。 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
2	人身の自由①	・移動の自由 ・奴隷的拘束からの自由	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
3	人身の自由②	・法定手続の保障	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
4	人身の自由③	・刑事手続の保障	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
5	社会的権利①	・生存権の保障	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
6	社会的権利②	・教育を受ける権利①	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
7	社会的権利③	・教育を受ける権利②	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
8	社会的権利④	・勤労の権利 ・労働基本権	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
9	経済的権利①	・職業の自由	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
10	経済的権利②	・財産権の保障	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
11	受益権	・国家賠償請求権・刑事補償請求権	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
12	精神的自由①	・思想・良心の自由	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
13	精神的自由②	・信教の自由 ・政教分離	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
14	精神的自由③	・表現の自由の意味、歴史、機能	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
15	精神的自由④	・インターネットにおける表現	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
16	精神的自由⑤	・知る権利	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのあ

			る場合はそれも行う
17	精神的自由⑥	・メディアの自由	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
18	精神的権利⑦	・表現の自由の規制	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
19	精神的自由⑧	・集会・結社の自由	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
20	幸福追求権①	・個人の尊重	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
21	幸福追求権②	・幸福追求権と新しい人権	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
22	人権の意義	・人権の理念と歴史、国際的補償	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
23	人権の享有主体	・自然人 ・法人	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
24	人権の到達範囲	・私人間適用 ・特殊な法律関係	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
25	人権の制約原理	・公共の福祉論の展開 ・違憲審査基準論	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
26	法の下の平等①	・平等の理念	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
27	法の下の平等②	・平等違反の審査方法	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
28	法の下の平等③	・平等違反の裁判例について(1)	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
29	法の下の平等④	・平等違反の裁判例について(2)	予習:講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
30	補遺・まとめ	質問の多かった部分や全体のまとめ。	予習：項目を予告するのでその部分を振り返っておく 復習：ノートふり返り。

関連科目	憲法 II（統治機構）、行政法、刑事訴訟法、民法、労働法など多くの科目の学習を展開する基礎となります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法 II　人権	毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治	有斐閣

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	定期試験および複数回課す課題ペーパーなどで評価します。具体的には講義の初回に配布されるプリントを参照のこと。
学生へのメッセージ	専門科目の憲法です。内容をしっかりと理解してください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	科目名（英文）	Constitutional Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	浮田　徹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	本講義では、憲法Ⅰ（基本的人権）で習得した知識を土台として、基本的人権と並ぶ憲法の重要な構成要素である統治機構について勉強します。憲法 II の目的は、日本国憲法の採用する様々な制度を理解し、全体としての統治システムの構造と作用を把握するところにあります。その上で、統治に関する憲法の規定が、単に国家の構成について定めたというだけではなく、憲法で掲げられる基本的人権などの重要な価値を保障するための組織を作り上げるものであるということを理解してください。
到達目標	統治機構の基本的な部分、応用への足がかりまでを学習します。基本的な考え方を学び・整えておくことで以降のそれぞれの目的に応じた対応が可能になるようにします。
授業方法と留意点	教科書、配布資料、板書を用いた講義形式で授業を行っていきます。講義中に受講者に質問することもあります。
科目学習の効果（資格）	司法試験、公務員試験などの試験科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・講義の概要説明	予習：指定教科書の目次に目を通しておく 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
2	統治機構総論	・権力分立概論 ・民主主義概論	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（詳細は初回プリント参照） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
3	立法と行政(1)	・議院内閣制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（詳細は初回プリント参照） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
4	立法と行政(2)	・国会の性格、地位	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（詳細は初回プリント参照） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
5	立法と行政(3)	・内閣を頂点とする行政権の仕組み	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（詳細は初回プリント参照） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
6	司法権(1)	・裁判所の役割	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（詳細は初回プリント参照） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
7	司法権(2)	・違憲審査	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（詳細は初回プリント参照） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
8	司法権(3)	・憲法裁判	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（詳細は初回プリント参照） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
9	平和主義(1)	・憲法９条の解釈について	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（詳細は初回プリント参照） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
10	平和主義(2)	・自衛隊の憲法適合性、日本の安全保障	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（詳細は初回プリント参照） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
11	憲法改正	・現代における憲法改正論議	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（詳細は初回プリント参照） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
12	憲法保障	・憲法保障のシステムについて	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（詳細は初回プリント参照） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
13	天皇制	・日本国憲法における象徴天皇制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（詳細は初回プリント参照） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
14	地方自治	・憲法上の地方自治	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（詳細は初回プリント参照） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
15	まとめ	・まとめ	――――

関連科目	行政法や国際法といった実定法領域のほか、政治学、行政学などひろく政治学の領域へと学習を展開する基礎となります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	憲法Ⅰ　統治	毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治	有斐閣
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	試験・課題・平常点などにより評価します。詳細は初回に配布するプリントを参照のこと。
学生へのメッセージ	基本的人権だけでなく、統治機構も理解することで憲法の勉強を完成させましょう。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	

科目名	憲法概論	科目名（英文）	Introduction to Constitutional Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＩ
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	憲法の基本原理、基本的人権部分の総論的な領域をとりあつかいます。憲法Ⅰ(基本的人権)ではとりあげない領域もここに含まれますので、憲法を全体として習得したい人はこの講義をまずしっかりと勉強する必要があります。
到達目標	基本的人権・統治機構を理解するために不可欠の土台を作ります。憲法は、各項目の理解のしやすさに関し、基本原理の理解が重要になります。
授業方法と留意点	講義形式です。詳細な進め方は初回の講義で配布されるプリントを参照のこと。
科目学習の効果（資格）	様々な資格試験および公務員試験の基礎となります。 また、公務員の場合は就職後に警察学校などで科目となる場合があります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・憲法総論	ガイダンス・憲法の位置づけ	予習：テキストの目次を一通り読んでおく。 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
2	憲法の基本原理	近代憲法に不可欠の要素につき学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
3	憲法の歴史	近代憲法の形成の歴史、日本国憲法史について学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
4	人権の到達範囲	人権保障の及ぶ範囲について学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
5	人権の享有主体	外国人の人権保障について学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
6	人権保障の限界	人権保障の限界の問題について学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
7	憲法 13 条の内容	13 条の二つの側面について学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
8	包括的基本権としての１３条	幸福追求権としての 13 条のしくみについて学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
9	新しい人権(1)	プライバシー権・名誉の権利について学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
10	新しい人権(2)	肖像権・環境権などその他新しい権利について学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
11	法の下の平等(1)	法の下の平等について、歴史的経緯から学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
12	法の下の平等(2)	法の下の平等について、特に日本国憲法 14 条の内容について学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
13	法の下の平等(3)	法の下の平等についての裁判例を学ぶ(1)	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
14	法の下の平等(4)	法の下の平等についての裁判例を学ぶ(2)	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
15	精神的自由総論	精神的自由とはいかなるものか、内心の自由までを学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う

関連科目	憲法Ⅰ、憲法 II と深く関連します。また後期配当の憲法Ⅰ(基本的人権)を理解するためにはこの講義の受講・習得習得が重要になります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法 II　人権	毛利透・小泉良幸・淺野博宣・松本哲治	有斐閣

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	試験、課題として出すペーパー（毎回ではありませんが少なくはありません）、平常点などで評価します。詳細は初回の講義で配布されるプリントを参照のこと。			
学生へのメッセージ	講義の進め方、評価について詳細な説明をしますので初回の講義には必ず出席すること。			
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室			
備考				

科目名	憲法概論	科目名（英文）	Introduction to Constitutional Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨ
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、毎回身近な問題を取り上げ、憲法学の基本的な事項を学習していきます。「憲法学」というと、一見したところ難しそうで、なかなか具体的なイメージが浮かばないかもしれません。しかし、そこで問題とされている事柄は決して私たちの日常生活と無関係なものではありません。この授業を通じて憲法学の基本的な考え方を習得することはもちろんのこと、憲法学に少しでも慣れ親しみ、憲法を身近な存在として受け止められるようになることがこの授業の目的です。
到達目標	憲法学の基本的な語句や概念をしっかり理解し、他者に論理的に説明できるようになること。
授業方法と留意点	講義は、適宜配布するレジュメにしたがって行います（当然のことながら、六法は毎時間持参すること）。
科目学習の効果（資格）	「憲法学」を学習していくうえで必要となる基本的知識を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方や成績評価の方法を説明します。また、憲法学に関する参考書や判例集を紹介します。	事前の予習は必要ありませんので、毎回の授業内容を復習するように努めてください（復讐内容の細かな指示は授業中に行います）。
2	憲法を学習する前に	憲法の学習するにあたって必要となる法律学全体の基礎知識を説明します。裁判所の仕組み（大法廷と小法廷）、判例の引用の仕方、六法の引き方と憲法条文の読み方など。	手元の六法で条文を見ながら、日本国憲法の構成を復習すること（条文を丸暗記する必要はありません）
3	憲法とは何か？	いったい憲法とは何だろうか？　なぜ憲法は必要なのだろうか？　このテーマに関連するDVDを視聴して、憲法のない社会を想像し、憲法の重要さについて学習します。立憲主義、人権保障と権力分立など。	立憲主義という考え方を理解したうえで、近年の憲法改正の動きについて自分の見解を述べられるようになること。
4	自由権①　自由とは何か？	日本国憲法はさまざまな自由権を保障しています。まず自由権の種類とその内容を簡単に見ていきます。そのあとで、憲法が保障する「自由」とはどのようなものか、検討してみます。	自由の限界にかんする憲法学説を理解したうえで、「自由」と「わがまま」の相違について自分の見解を述べられるようになること。
5	自由権②　信教の自由	世界にはさまざまな宗教が存在しますが、そもそも宗教とは何でしょうか？また日本ではどのようなことが信教の自由との関連で争われているのでしょうか？　信教の自由の基本的事項を学習します。	憲法 20 条にかんする有名判例を理解したうえで、剣道実技拒否事件について自分の見解を述べられるようになること。
6	自由権③　表現の自由	日本国憲法は第 21 条で、表現の自由を保障してします。しかし、どのような表現でも一様に保障されているのでしょうか？　この問題を名誉毀損やポルノに対する規制を手がかりに学習します。	憲法 21 条にかんする有名判例を理解したうえで、ヘイトスピーチ規制法の必要性について自分の見解を述べられるようになること。
7	社会権　生存権を中心に	社会権と呼ばれる人権のグループのうち、生存権について学習します。憲法 25 条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのような生活なのでしょうか？　日本の社会保障制度もあわせて検討します。	憲法 25 条にかんする有名判例を理解したうえで、社会保障制度のあるべき姿について自分の見解を述べられるようになること。
8	法の下の平等①　平等とは何か？	日本国憲法は第 14 条で、すべての国民が平等であることを保障しています。しかし、そもそも平等とは何なのでしょうか？　平等の基本的な意味を学習し、差別の問題について考えてみます。	憲法 14 条の平等の意味（法内容平等と相対的平等）を理解したうえで、「差別」と「区別」の境界線について自分の見解が述べられるようになること。
9	法の下の平等②　平等をめぐる諸問題	前回の続き。人種差別や男女差別、さらに同性愛者に対する差別など、実際の社会で問題になっていることがらを具体的な事件に基づいて学習し、平等についての理解を深めていきます。	憲法 14 条にかんする有名判例を理解したうえで、夫婦別姓制度について自分の見解を述べられるようになること。
10	プライバシー権	新しい人権と呼ばれる人権のグループのうち、プライバシー権を学習します。実際の憲法判例や、最近問題になることの多いネット上のトラブルを素材にして、プライバシーの重要性を検討します。	憲法学におけるプライバシー権の位置づけを理解したうえで、「石に泳ぐ魚」事件について自分の見解を述べられるようになること。
11	子どもの人権	子どもはおとなに比べ、さまざまな制約があります。例えば、中学生や高校生は校則で髪型・服装の自由が制限されていたり、バイクの免許が禁止されていたりします。その理由を考えてみます。	子どもの人権にかんする判例を理解したうえで、校則による丸刈り強制の是非について自分の見解を述べられるようになること。
12	国会・内閣・裁判所	日本の統治機構の基本的な仕組みを学習します。国会・内閣・裁判所のそれぞれの機関の組織や権限など。また権力分立という考え方もあわせて学習します。	統治機構の基本的仕組みを理解したうえで、首相公選制集の可否について自分の見解を述べられるようになること。
13	平和主義	日本国憲法は第９条で「戦争の放棄」を宣言しています。それでは、他国から攻	憲法9条の解釈論上の論点および判例を理解したうえで、集団的自衛権容認の是非について自分の見解

	撃を受けたとき、日本は反撃できないのでしょうか？　そもそも自衛隊は違憲なのでしょうか？　平和の意味を検討します。	を述べられるようになること。
14	天皇制	日本国憲法は第１章で天皇制を定めていますが、日本国憲法における天皇とはそもそもどのような存在なのでしょうか？　近年問題になっている女系天皇についてもあわせて検討します。	現行の天皇制の問題点を理解したうえで、女系天皇の是非について自分の見解を述べられるようになること。
15	まとめと復習	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、社会において憲法が果たすべき役割について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	講義で取り上げた個々の条文にかんする学説・判例をしっかり理解すること（これまでの授業で理解できなかったところを、ピックアップしておいてください）。

関連科目	憲法Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末テスト 70%と提出物 30%によって総合的に評価します。
学生へのメッセージ	基本的に講義形式で授業を行いますが、毎時間の後半部分では学生みなさんに発言を求めたり、授業の感想や疑問点を書いてもらう予定です。授業中の私語は厳禁ですが、それ以外の発言であれば歓迎しますので、ぜひ積極的に授業に参加してください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	

科目名	公共政策の基礎	科目名（英文）	Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	政策とは、解決すべき問題のために考案され用いられる手段のセットといえる。なかでも公共政策は、政府の公権力をもって国民全体のために決定され実施される手段の体系である。この講義では、公共政策を担う政府の役割を市場との対照において把握することからはじめ、公共政策の合理的な形成を理解したうえで、現実には最良の政策案が採用されるケースが稀である理由を探る。
到達目標	合理的な政策の立案過程を学んだうえで、現実の政策が合理的とは必ずしもいえないものになる理由を理解する。自分が政治家や官僚だったら、現実の制約のなかでどのように考え、行動するか考える。
授業方法と留意点	理論を学び、身近な例で確認し、いまの社会問題を使って説明を試みる。このステップを講義中に課題形式で進めていく。
科目学習の効果（資格）	授業は大学にふさわしいものとするが、公務員試験で問われる知識に関しては注意を促すので、志望者は積極的に受講してほしい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「政策」という言葉	ドラマ「ザ・ホワイトハウス２」で「政策」という言葉が使われている文脈をつかむ。	「ザ・ホワイトハウス２」の視聴
2	市場のメカニズム	等価交換に基づく市場の仕組みを知る。	レジュメ p.1 の復習
3	政府のメカニズム	市場と対照的な政府の仕組みを知る。	レジュメ p.2 の復習
4	政府による市場メカニズムの採用	最近の教育制度改革を例に使って、政府が競争原理を部分的に採用する意義と方法を理解する。	新聞記事資料の確認
5	システムとしての政府の役割	政府をシステムとしてとらえて、公共政策を国民生活にアウトプットする意義を考える。	レジュメ p.3 の復習
6	公共政策としてのサービスと規制	公共政策の内容を大きく「サービス」と「規制」に分けて整理する。	レジュメ p.4 の復習
7	政策過程の考え方	政府が政策をつくり、実施する過程を段階間の移行として説明する議論を理解する。	レジュメ p.5-6 の復習 レポート課題の作成
8	合理的意思決定と政策過程	政策過程の前提にある合理性について考える。	レジュメ p.7-8 の復習
9	課題設定とその回避	水俣病に対する政府の対応を見て、社会問題の解決が政府の課題とされる場合とされない場合がある理由を探る。	レジュメ p.9-10 の復習 新聞記事資料の確認
10	政策立案とその制約	防衛力整備の検討を例に挙げて、課題を達成する政策案を考案する過程と、最良と思われる政策案が消えていく現実を知る。	レジュメ p.11 の復習 新聞記事資料の確認
11	インクリメンタリズム	現実の政府は現在からの少しの変化だけを視野に入れて公共政策を決定するというモデルを学ぶ。	レジュメ p.12 の復習
12	政策決定の非合理性	高速道路建設の現実を例に使って、合理的とはいえない政策が決定されることになる現実を知る。	レジュメ p.13 の復習
13	組織過程モデル	現実の政府では各省庁に備わる所定の手続が非合理的な政策を生み出すというモデルを学ぶ。	レジュメ p.14 の復習
14	政策決定の消滅	郵政民営化やエコポイントを例に挙げて、政策案があっても政策決定が先送りになったり、行われないことがある現実を知る。	レジュメ p.15 の復習 新聞記事資料の確認
15	ゴミ箱モデル	政策決定を偶然ととらえ、政策が決定に至らない現実を説明するモデルを学ぶ。	レジュメ p.16-17 の復習 期末試験の対策

関連科目	入門の「政治と政策」と発展の「行政と政策」の間に位置する基本科目である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（毎回の課題ペーパーの点数の累積）と期末試験の点数の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	法学部の授業としては内容も方法も「かわった」ものにする挑戦的な授業にしたいと考えています。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室

備考	

科目名	国際関係史	科目名（英文）	International History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	河原　匡見
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　地理歴史）　【施行規則に定める科目区分】外国史　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	本講義では、国際関係の歴史について、特に第２次世界大戦後“冷戦”と呼ばれた時代に焦点を当てて、それがどのように発生し、展開し、そして終結したのか、米ソ間の対立の経緯を中心に解説していく。そうして、激動する今日の世界の動きを把握するための歴史的背景を理解できるように、また現代の国際関係に対する関心と問題意識をより高められるような材料を提供したい。
到達目標	現代世界の構造の歴史的な要因を、第２次世界大戦後の米ソ冷戦の展開から学ぶ。
授業方法と留意点	講義形式で行う。毎回ワークブック形式のレジュメを配布するので、聴講しながら、それを完成させて理解を深めていく。また、より詳細な解説については各自の判断でノートすること。
科目学習の効果（資格）	歴史（特に現代史）を見る眼と戦後の国際関係の展開に関する基礎知識の習得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認調査	高校時代に世界史・政治経済・現代社会の科目を履修した人は、教科書の中で戦後の世界の動きを扱った箇所を読み直してみましょう。
2	“冷戦”の概念	定義、起源や原因に関する諸説について解説する。	配布した資料で復習してください。
3	戦後世界の起点	第２次世界大戦終盤の協力および戦後構想をめぐる動きについて解説する。	配布した資料で復習してください。
4	米ソ対立の契機	東欧の共産化について解説する。	配布した資料で復習してください。
5	米ソ対立の深化と拡大（１）/ 政治レベルの対立	米ソ間の対立が顕在化していく過程を、有力国の指導者の声明をたどりつつ解説する。	配布した資料で復習してください。
6	米ソ対立の深化と拡大（２）/ 経済レベルの対立	マーシャル・プランからドイツの東西分裂にいたる過程およびアメリカの封じ込め理論の内容を解説する。	配布した資料で復習してください。
7	米ソ対立の深化と拡大（３）/ 軍事レベルの対立	経済的対立が軍事的対立へと深化し、東西対立が固定化される過程を解説する。	配布した資料で復習してください。
8	米ソ対立の深化と拡大（４）/ アジアの“熱戦”〈前編〉	朝鮮戦争について解説する。	配布した資料で復習してください。
9	米ソ対立の深化と拡大（５）/ アジアの“熱戦”〈後編〉	前回に引き続き、朝鮮戦争について解説する。	配布した資料で復習してください。
10	“雪解け”とその影響	ソ連の指導者の死去とそれが与えた国際的影響を解説する。	配布した資料で復習してください。
11	ソ連の対西側積極攻勢とその影響	第２次ベルリン危機およびキューバ危機を中心に解説する。	配布した資料で復習してください。
12	（第１次）冷戦の特徴および緊張緩和の時代	第１次冷戦の構造的特質の説明、および緊張緩和が到来した原因とその影響について解説する。	配布した資料で復習してください。
13	新（第２次）冷戦	ソ連の核戦略の積極化とアメリカの対抗措置、それらに対する世界的な反核運動の展開、そしてソ連の指導者の交代と方針転換について解説する。	配布した資料で復習してください。
14	冷戦構造の崩壊	ソ連の変革と東欧の民主化、そして東側陣営の崩壊について解説する。	配布した資料で復習してください。
15	総括	講義のまとめ・期末試験の説明	配布した資料で復習してください。

関連科目	政治学および国際関係に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の成績によって評価する（なお、定期試験を必ず受験することが単位取得の最低条件である）。
学生へのメッセージ	現在の国際社会の状況を理解する上で、必要不可欠の内容です。同期実施の国際関係論の講義と合わせて受講するとより理解が深まると思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	

科目名	国際関係論	科目名（英文）	International Relations
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	河原　匡見
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	『国際関係論』という学問について、その基本的な考え方を習得し、激動する現代の国際関係（世界の動き）に対する理解力の向上を，本講の目的とする。講義内容は、国際関係の基礎概念の説明から始め、アクターがどのように行動するのか、現実主義的アプローチに基づいてその行動態様を中心に解説していく。そうして、現実の国際関係がどのような構造で、何がどのような目的で活動しているのか、把握し理解できるよう《国際関係を見る眼》を養うような講義にしたい。
到達目標	国際関係がどのように展開していくのか、その基本的なポイントについて理解するとともに、それらを踏まえて国際社会で生起しているさまざまな動きを観察できるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で行う。毎回ワークブック形式のレジュメを配布するので、聴講しながら、それを完成させて理解を深めていく。また、より詳細な解説については各自の判断でノート。
科目学習の効果（資格）	国際関係を規定する要因などを学ぶことで、国際社会の動きを表面的だけでなくその本質を見抜く‘眼’を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認調査	時事問題、特に国際関係の報道に目を向ける習慣をつけましょう。
2	国際関係論とはどのような学問か	定義、研究方法についての解説	配布した資料で復習してください。
3	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（1）	行動主体〈アクター〉とは？　国際関係の行動主体としての“国家”についての説明	配布した資料で復習してください。
4	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（2）	国家以外の主要な行動主体〈アクター〉についての説明（1）	配布した資料で復習してください。
5	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（3）	国家以外の主要な行動主体〈アクター〉についての説明（2）	配布した資料で復習してください。
6	行動主体の行動原理	“国益”と行動目標についての説明	配布した資料で復習してください。
7	行動主体の力の行使に関する概説（1）	国力とは何か？その内容についての説明	配布した資料で復習してください。
8	行動主体の力の行使に関する概説（2）	力の行使の一般論および軍事的手段についての説明	配布した資料で復習してください。
9	行動主体の力の行使に関する概説（3）	経済的手段についての説明	配布した資料で復習してください。
10	行動主体の力の行使に関する概説（4）	宣伝的手段および文化的手段についての説明	配布した資料で復習してください。
11	行動主体の力の行使に関する詳説（1）　経済制裁（前編）	経済制裁の種類、歴史的発展プロセスについての説明	配布した資料で復習してください。
12	行動主体の力の行使に関する詳説（2）　経済制裁（後編）	経済制裁の効果を左右する要因についての説明	配布した資料で復習してください。
13	行動主体の力の行使に関する詳説（3）　外交・外交交渉（前編）	外交の語義や形態の歴史についての説明	配布した資料で復習してください。
14	行動主体の力の行使に関する詳説（4）　外交・外交交渉（後編）	外交交渉についての説明	配布した資料で復習してください。
15	総括	講義のまとめ・期末試験の説明	配布した資料で復習してください。

関連科目：政治・国際関係に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の成績によって評価する（なお、定期試験を必ず受験することが単位取得の最低条件である）。
学生へのメッセージ	国際関係の動向が直接私たちの日常生活と密接に関連する現代社会において、複雑な国際情勢を的確に把握し読み解く能力が求められ、この科目の履修の必要性が高まってきています。新聞（全国紙）の国際面の記事を毎日読んで、国際社会への関心を高めることから始めてみましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	

科目名	国際私法Ⅰ	科目名（英文）	Private International Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	国際私法は、複数の国の要素をもつ私的法律関係の問題について、最も密接な関係のある場所の法を適用することにより解決しようとする法律です。「牴触法」とも呼ばれ、民法のような実質法とは次元が異なる法であるために、講義では、その構造と理論の理解に力点を置きます。
到達目標	国際私法の構造及びその基本的考え方を理解することを目標とします。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義しますが、重要事項をまとめた資料を配付して、それを使って進めます。国際私法の基本的知識の確認と復習のため、授業時間の最後（２０分程度）に、重要事項の「確認問題」を５回程度実施します。
科目学習の効果（資格）	外国との関連のある生活関係においてどのような法的問題が生じるのか、またその解決の考え方について理解できます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際私法とは何か	渉外的法律関係とは、国際私法の定義・名称、その法的性質	教科書第１章を読む 重要事項の確認
2	国際私法の法源①	国際私法に関係する国内法と国際法	重要事項の確認
3	国際私法の法源②	「法の適用に関する通則法」と特別法	重要事項の確認
4	国際私法理論の歴史①	国際私法の沿革、法規分類学説	教科書第３章を読む 重要事項及び確認問題の再確認
5	国際私法理論の歴史②	「伝統的国際私法理論」とは何か	重要事項の確認
6	法律関係の性質決定①	国際私法の基本的構造、「法性決定」とは何か	教科書第２章Ⅰ・Ⅱを読む 重要事項の確認
7	法律関係の性質決定②	法性決定の仕方、先決問題と適応問題とは、	重要事項及び確認問題の再確認
8	連結点の確定①	連結点とは、連結政策、連結点の主張・証明・不明	教科書第２章Ⅲを読む 重要事項の確認
9	連結点の確定②	属人法の観念とは	教科書第４章Ⅰを読む 重要事項の確認
10	連結点の確定③	国籍とは、わが国の国籍法の問題点	重要事項及び確認問題の再確認
11	連結点の確定④	連結点としての国籍・住所・常居所、法律回避	重要事項の確認
12	準拠法の特定①	反致とは、その構造上の位置づけ	教科書第２章Ⅳを読む 重要事項の確認
13	準拠法の特定②	不統一法国法・未承認国法の指定	重要事項及び確認問題の再確認
14	準拠法の適用①	準拠法の性質、外国法の扱い	教科書第２章Ⅴを読む 重要事項の確認
15	準拠法の適用②	国際私法上の公序とは	確認問題の復習 すべての重要事項・配付資料・確認問題の確認

関連科目：国際私法Ⅱ、国際取引法、民法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際私法入門（第７版）	澤木敬郎・道垣内正人	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業で紹介します		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(55%)と「確認問題」(45%)で評価し、定期試験は、「確認問題」を基礎とした応用問題を出題します。「確認問題」は、定期試験を受験した場合に限り点数化して成績評価に加えますが、授業時間中に提出しなかった場合は評価の対象とはしません（やむを得ない場合を除く）。
学生へのメッセージ	民法などの実質法とは次元の異なる牴触法の考え方の面白さ、奥の深さを感じてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　小山教授室
備考	

科目名	国際私法Ⅱ	科目名（英文）	Private International Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小山　昇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	国際私法Ｉで理解した国際私法の構造について、単位法律関係ごとに具体的な検討をします。実質法上の概念と牴触法上の概念の違いを特に意識し、婚姻や親子関係、債権契約といったすでに実質法で得ている知識が、国際私法ではどのように違い、そして区別して考えるべきなのかを知ることを目的とします。
到達目標	単位法律関係ごとにその準拠法及びその連結政策を検討することを通して、国際私法の構造及びその具体的な問題点を理解することを目標とします。
授業方法と留意点	民法を始めとして関係する外国の私法にも言及して講義を行います。授業時間の最後（２０分程度）に、理解度の確認と復習のため、５回程度、重要事項の「確認問題」を実施します。六法は必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	国際的な人の交流によって生じる具体的な法律関係の解決方法について理解でき、合わせて、日本の民法など民事法の知識を確認できます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際家族法①	婚姻の成立の準拠法	教科書第４章Ⅱ１を読む 重要事項の確認
2	国際家族法②	婚姻の効力の準拠法	重要事項の確認
3	国際家族法③	離婚、別居、婚約、内縁の準拠法	教科書第４章Ⅱ２を読む 重要事項の確認
4	国際家族法④	実親子関係、準正の準拠法	教科書第４章Ⅱ３を読む 重要事項及び確認問題の再確認
5	国際家族法⑤	養親子関係の準拠法	重要事項の確認
6	国際家族法⑥	親子関係の効力、親族関係の法律行為の方式の準拠法	教科書第４章Ⅱ５を読む 重要事項の確認
7	国際家族法⑦	その他の親族関係、親族間扶養の準拠法	教科書第４章Ⅱ４・６を読む 重要事項及び確認問題の再確認
8	国際家族法⑧	相続、遺言、氏の準拠法、身分関係と戸籍	教科書第４章Ⅲ・Ⅳを読む 重要事項の確認
9	国際財産法①	自然人の準拠法、後見・保佐・補助の管轄権と準拠法	教科書第５章Ⅰ１を読む 重要事項の確認
10	国際財産法②	法人の準拠法、外国人法	教科書第５章Ⅰ２・３を読む 確認問題の復習 重要事項の確認
11	国際財産法③	契約準拠法、当事者自治の原則とその制限論	教科書第５章Ⅱ１を読む 重要事項の確認
12	国際財産法④	契約の方式、代理の準拠法	教科書第５章Ⅱ２から７を読む 重要事項の確認
13	国際財産法⑤	不法行為、事務管理・不当利得の準拠法	教科書第５章Ⅲを読む 確認問題の復習 重要事項の確認
14	国際財産法⑥	債権譲渡、相殺、物権、知的財産権の準拠法	教科書第５章Ⅳ・Ⅴ・Ⅵを読む 重要事項の確認
15	国際民事手続法	国際裁判管轄、外国判決の承認と執行、国際商事仲裁、国際倒産	教科書第６章を読む すべての重要事項・配付資料・確認問題の再確認

関連科目：国際私法Ｉ、国際取引法、民法総則、物権法、債権法、不法行為法、親族法、相続法、商法、民事訴訟法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際私法入門（第７版）	澤木敬郎・道垣内正人	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業で紹介します		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(55%)と「確認問題」(45%)で評価し、定期試験は、「確認問題」を基礎とした応用問題を出題します。なお、「確認問題」は、定期試験を受験した場合に限り点数化して成績評価に加えます。授業時間中に提出しなかった場合は評価の対象とはしません（やむを得ない場合を除く）。
学生へのメッセージ	民法総則、物権法、債権法、親族法、相続法のすべてについて、基本的知識を再確認しておいてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　小山教授室
備考	

科目名	国際社会と法	科目名（英文）	International Community and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	糟谷　英之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	国際社会の成立・発展に基づいて形成されてきた国際法は、国際社会の構造変化とともにその内容を変化・発展させてきている。講義では、とりわけ国内法と国際法の相違点に注目しながら、国際社会における法的ルールである国際法とは何かを考えることを目的とする。
到達目標	国際法の基礎的知識を習得することによって国際問題を国際法的視点から考える能力を身につける。
授業方法と留意点	教科書および配布プリントを基本に、主として口頭による講義方式をとるが、ビデオ、インターネットなども随時利用する。講義ノートをしっかり取っておくこと。
科目学習の効果（資格）	国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。ＮＧＯなどに関連する職業によっては必要となる場合がある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。
2	社会と法	社会と社会規範の関係および法規範と他の社会規範の相違について説明する。	第１回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
3	国際社会の成立と国際法	国際法の基盤となる国際社会の成立とそこに発生する国際法について論じる。	第２回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
4	国際法の歴史	伝統的国際法から現代国際法へと国際法の歴史的変化を概観する。	第３回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
5	国際法における国家とは何か	一般的な国家としての要件と国際法上の国家としての要件を検討する。	第４回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
6	国際社会と国際組織	国際社会の発展と国際組織の成立および国際組織の定義を概説をする。	第５回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
7	国際連合	国際連合の成立過程と構造について概観する。	第６回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
8	国際社会と個人	国際法上の個人の地位および外国人の法的地位を考察する。	第７回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
9	国際法の法源	条約、慣習法、法の一般原則など法源の類型を概説する。	第８回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
10	領域と領土紛争	国家領域の範囲および領域紛争について検討する。	第９回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
11	海洋法の制度	領海制度をはじめとする海洋法上の制度について概観する。	第 10 回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
12	宇宙法	月その他の天体および宇宙空間に関連する宇宙法の基本概念を概説する。	第 11 回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
13	国際人権保障制度	国際人権規約を中心に国際人権保障制度について概観する。	第 12 回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
14	国際人道法	武力紛争時に適用される国際法の規範である国際人道法について紹介する。	第 13 回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
15	学期のまとめ	本学期の講義内容の総括と学期末テストの準備について指示する。	これまでに完成した全レジメの復習と質問を準備しておくこと。

関連科目：国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法、国際関係論、国際平和論、国際協力論、国際ボランティア論など国際社会とかかわりのある科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際法（第５版）	松井芳郎その他	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義への参加程度（出席ではない）、課題の提出（３回）、復習テスト及び学期末テストなどをもとに総合的に評価する。 なお提出された課題は、内容によって３段階評価され、最終的に課題評価点（A＝２０点、B＝１０点、C＝５点）として復習テストおよび期末テストの点数に加算される。
学生へのメッセージ	単に講義に出席するだけでなく、できる限り積極的に授業に参加し質問する（考える）努力が求められる。 現在社会で求められるのは問題点を見つけ、それに対する解決策を見つける能力である。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷教授室
備考	

科目名	国際社会の法律英語	科目名（英文）	Legal English in International Community
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	糟谷　英之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語文献の輪読を通じて、英語法律文書の読解力を向上させること。さらに国際法の知識をもとに国際社会の特性なども理解できる能力を身につけることを目標とする。
到達目標	基本的な英文の法律文書を読解する能力を身につけること。英文の法律文書を読むことによって国際法の基礎知識を習得すること。
授業方法と留意点	配布プリントを基本に、主として口頭による講義方式をとるが、ビデオ、インターネットなども随時利用する。講義ノートをしっかり取っておくこと。
科目学習の効果（資格）	TOEIC などの英語検定試験の準備、海外留学や海外研修の事前学習となる。最近のパラリーガルや NGO 職員の資質を養成することに役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。
2	国際法とは何か？	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
3	国際社会と国際法主体	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
4	国際法の法源	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
5	条約	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
6	慣習国際法	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
7	その他の法源	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
8	前半の総括と確認テスト	前半の復習と小テスト	第７回までに作成したノートを復習しておくこと。
9	映画の中の法律英語(1)	英語映像を通じて法律問題を考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
10	映画の中の法律英語(2)	英語映像を通じて法律問題を考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
11	映画の中の法律英語(3)	英語映像を通じて法律問題を考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
12	映画の中の法律英語(4)	英語映像を通じて法律問題を考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
13	映画の中の法律英語(5)	英語映像を通じて法律問題を考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
14	映画の中の法律英語(6)	英語映像を通じて法律問題を考える。	今まで作成したノートを復習し、テストの準備をすること。
15	学期のまとめ	本学期の講義内容の総括	これまでに作成した全ノートの復習とテストの準備しておくこと

関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法、国際関係論、国際平和論、国際協力論、国際ボランティア論など国際社会とかかわりのある科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義への参加程度（出席ではない）、確認テスト及び学期末テストなどをもとに総合的に評価する。
学生へのメッセージ	単に講義に出席するだけでなく、できる限り積極的に授業に参加し質問する（考える）努力が求められる。 現在社会で求められるのは問題点を見つけ、それに対する解決策を見つける能力である。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷教授室
備考	

科目名	国際人権法	科目名（英文）	International Human Rights Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	糟谷　英之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	現在の国際法は国際社会の構造変化とともにその内容を変化・発展させてきている。講義では、主として国際人権法分野のルールを、とりわけ国内法と国際法の相違点に注目しながら説明する。国際社会における法的ルールである国際法とは何かを考えることを目的とする。
到達目標	国際人権法の基礎的知識を習得することによって人権問題を国際法的視点から考える能力を身につける。
授業方法と留意点	教科書及び配布プリントを基本に、主として口頭による講義方式をとるが、ビデオ、インターネットなども随時利用する。講義ノートをしっかり取っておくこと。
科目学習の効果（資格）	国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。ＮＧＯなどに関連する職業によっては必要となる場合がある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。
2	国際人権法とは何か	国際人権法とは何か、国際法における国際人権法の位置づけを考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
3	国際人権法の歴史的発展	特に１９４８年の世界人権宣言を出発点とする第二次世界大戦後から現在までの国際人権法の歴史的発展を概観する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
4	国際人権規約	国際人権規約の内容を概説する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
5	人権条約の国際的実施（１）－　報告制度	国際人権規約その他の人権条約における報告制度について検討する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
6	人権条約の国際的実施（２）－　個人通報制度	国際人権規約その他の人権条約における個人通報制度について検討する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
7	人権条約の国内的実施（１）－　国内裁判	人権条約によって締約国が条約の定める権利を実現するための措置、特に各国の国内裁判に焦点を当てて検討する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
8	人権条約の国内的実施（２）－　国内人権機関など	人権条約の国内実施をその任務とする独立した国内人権機関の役割について検討する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
9	第８回講義までの総括と確認テスト	前半の講義内容の復習と確認のための小テストを行う。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
10	武力紛争における人権の保護	国際人権法と武力紛争における人権の保護を目的とする国際人道法の関係を概説する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
11	国際人道法の基本原則	戦闘員と文民の区別原則など国際人道法の根底にある基本原則を概説する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
12	ハーグ法及びジュネーブ法	ジュネーブ諸条約及び追加議定書などを基礎に戦闘手段及び方法の規制、武力紛争犠牲者の保護に関する基本原則を概観する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
13	国際人道法の履行確保	国際人道法の規則を遵守させ、その履行を確保するための手段をジュネーブ諸条約及び追加議定書を基本に検討する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
14	赤十字国際委員会の役割（ICRC）	国際人道法の普及および履行において赤十字国際委員会の果たす役割について説明する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
15	学期のまとめ	本学期の講義内容の総括と学期末テストの準備について指示する。	これまでに完成した全レジメの復習と質問を準備しておくこと。

関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法、国際関係論、国際平和論、国際協力論、国際ボランティア論など国際社会とかかわりのある科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ブリッジブック　国際人権法	芹田健太郎その他	信山社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義への参加程度（出席ではない）、課題の提出（３回）、復習テスト及び学期末テストなどをもとに総合的に評価する。 なお提出された課題は、内容によって３段階評価され、最終的に課題評価点（A＝２０点、B＝１０点、C＝５点）として復習テストおよび期末テストの点数に加算される。
学生へのメッセージ	単に講義に出席するだけでなく、できる限り積極的に授業に参加し質問する（考える）努力が求められる。 現在社会で求められるのは問題点を見つけ、それに対する解決策を見つける能力である。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷教授室

備考	

科目名	国際組織法	科目名（英文）	Law of International Organizations
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	糟谷　英之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	国際社会の成立・発展に基づいて形成されてきた国際法は、国際社会の構造変化とともにその内容を変化・発展させてきている。講義では、とりわけ国内法と国際法の相違点に注目しながら、国際社会における法的ルールである国際法とは何かを考えることを目的とする。
到達目標	国際組織法の基礎的知識を習得することによって国際問題を国際法的視点から考える能力を身につける。
授業方法と留意点	教科書及び配布プリントを基本に、主として口頭による講義方式をとるが、ビデオ、インターネットなども随時利用する。講義ノートをしっかり取っておくこと。
科目学習の効果（資格）	国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。ＮＧＯなどに関連する職業によっては必要となる場合がある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。
2	国際社会の成立	近代国際社会の成立に伴い国家間のルールとしての国際法が発展することを説明する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
3	国際社会の発展と国際組織の登場	国際社会の発展と国際組織の登場	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
4	国際組織の基本類型と NGO	どのような国際組織が存在するかまたそれ以外の NGO とは何かについて説明する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
5	国連の成立過程	国際連合がどのような状況で成立したかを説明する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
6	国連の基本的組織構造と目的	国際連合全般の基本的な構造とその目的及び機能について説明する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
7	第 6 回講義までの総括と確認テスト	前半の講義の復習と確認の小テストを行う。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
8	安全保障体制の基本的な分類	勢力均衡方式と国連の予定する集団安全保障体制の比較を行う。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
9	武力行使禁止原則の確立	国連の平和的紛争解決の前提としての武力行使禁止原則について説明する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
10	国連による紛争の平和的解決	国連憲章第６章に基づく平和的紛争解決手続きについて説明する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
11	国連による強制行動	国連憲章第７章に基づく制裁措置について概説する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
12	国連の軍事的措置	国連憲章第 42 条措置の概説	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
13	自衛権	国連の軍事的措置と国連憲章第 51 条の自衛権の関係について考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
14	PKO について	国連の平和維持活動について説明する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
15	学期のまとめ	本学期の講義内容の総括と学期末テストの準備について指示する。	これまでに完成した全レジメの復習と質問を準備しておくこと。

関連科目：国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法、国際関係論、国際平和論、国際協力論、国際ボランティア論など国際社会とかかわりのある科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	講義　国際組織入門	家正治その他	信山社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義への参加程度（出席ではない）、課題の提出（３回）、復習テスト及び学期末テストなどをもとに総合的に評価する。 なお提出された課題は、内容によって３段階評価され、最終的に課題評価点（A＝２０点、B＝１０点、C＝５点）として復習テストおよび期末テストの点数に加算される。
学生へのメッセージ	単に講義に出席するだけでなく、できる限り積極的に授業に参加し質問する（考える）努力が求められる。 現在社会で求められるのは問題点を見つけ、それに対する解決策を見つける能力である。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷教授室
備考	

科目名	国際取引法	科目名（英文）	International Trade Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	国際取引に適用される法について、その一般的な問題を検討することから始め、国際物品売買契約を中心に講義します。国際取引で適用される法の範囲は、国際条約や国際的規則だけでなく、「国際私法」や「渉外実質法」、「国際経済法」などにも及ぶため、その関係を明確にすることに力点を置きます。
到達目標	国際取引法の基本的知識、特に「国際物品売買」についての国際的ルールの理解を目標とします。
授業方法と留意点	教科書の理解を中心として、それを補充する国際条約や国際的規則も重視した講義をします。理解度の確認と復習のため、５回程度、授業時間の最後（２０分程度）に重要事項の「確認問題」を行います。
科目学習の効果（資格）	貿易関係など外国取引に関係する基本的知識が得られます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際取引の意義と特色	国際取引の現状、特色	教科書第１章第１節を読む 原則として、事後の学習を重視
2	国際取引に適用される法①	国際取引法の定義・内容、「牴触法」と「渉外実質法」	教科書第１章第２節を読む 重要事項の確認
3	国際取引に適用される法②	統一私法、国際的統一規則、公法的規制	重要事項の確認
4	国際取引の当事者①	当事者としての個人	確認問題の復習と重要事項の確認 教科書第２章を読む
5	国際取引の当事者②	企業と法人、国家及び国家機関、国際法人	重要事項の確認
6	国際物品売買①	国際売買の構造と国際契約の準拠法	教科書第３章第１節を読む 重要事項の確認
7	国際物品売買②	当事者自治の原則、 契約準拠法の構造	重要事項及び確認問題の再確認
8	国際物品売買③	国際契約の方式の準拠法	重要事項の確認
9	国際物品売買④	ハーグ統一売買法	教科書第３章第２節を読む 重要事項の確認
10	国際物品売買⑤	ウイーン統一売買法	重要事項及び確認問題の再確認
11	国際物品売買⑥	インコタームズの概要	重要事項の確認
12	国際物品売買⑦	国際物品売買契約の成立、 契約交渉と契約の基本的条件	重要事項の確認
13	国際物品売買⑧	契約当事者の権利義務：その１ 定型取引条件	重要事項及び確認問題の再確認
14	国際物品売買⑨	契約当事者の権利義務：その２ 売主の義務	重要事項の確認
15	国際物品売買⑩	契約当事者の権利義務：その３ 買主の義務 所有権移転の準拠法	すべての確認問題・重要事項の確認

関連科目：国際私法Ⅰ・Ⅱ、民法総則、債権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際取引法（第４版）	佐野寛	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業で紹介します		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(55%)と「確認問題」(45%)で評価し、定期試験では、「確認問題」を基礎とした応用問題を出題します。「確認問題」は、定期試験を受けた場合に限り点数化して成績評価に加えます。実施時の授業時間内に提出されなかったものはその評価の対象とはしません（やむを得ない場合を除く）。
学生へのメッセージ	国際取引におけるグローバルスタンダードとは何かを知ってください。
担当者の研究室等	11 号館９階　小山教授室
備考	２００９年度以前入学生科目名　『国際取引法』

科目名	国際取引法Ⅰ	科目名（英文）	International Trade Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	国際取引に適用される法について、その一般的な問題を検討することから始め、国際物品売買契約を中心に講義します。国際取引で適用される法の範囲は、国際条約や国際的規則だけでなく、「国際私法」や「渉外実質法」、「国際経済法」などにも及ぶため、その関係を明確にすることに力点を置きます。
到達目標	国際取引法の基本的知識、特に「国際物品売買」についての国際的ルールの理解を目標とします。
授業方法と留意点	教科書の理解を中心として、それを補充する国際条約や国際的規則も重視した講義をします。理解度の確認と復習のため、５回程度、授業時間の最後（２０分程度）に重要事項の「確認問題」を行います。
科目学習の効果（資格）	貿易関係など外国取引に関係する基本的知識が得られます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際取引の意義と特色	国際取引の現状、特色	教科書第１章第１節を読む 原則として、事後の学習を重視
2	国際取引に適用される法①	国際取引法の定義・内容、「牴触法」と「渉外実質法」	教科書第１章第２節を読む 重要事項の確認
3	国際取引に適用される法②	統一私法、国際的統一規則、公法的規制	重要事項の確認
4	国際取引の当事者①	当事者としての個人	確認問題の復習と重要事項の確認 教科書第２章を読む
5	国際取引の当事者②	企業と法人、国家及び国家機関、国際法人	重要事項の確認
6	国際物品売買①	国際売買の構造と国際契約の準拠法	教科書第３章第１節を読む 重要事項の確認
7	国際物品売買②	当事者自治の原則、 契約準拠法の構造	重要事項及び確認問題の再確認
8	国際物品売買③	国際契約の方式の準拠法	重要事項の確認
9	国際物品売買④	ハーグ統一売買法	教科書第３章第２節を読む 重要事項の確認
10	国際物品売買⑤	ウイーン統一売買法	重要事項及び確認問題の再確認
11	国際物品売買⑥	インコタームズの概要	重要事項の確認
12	国際物品売買⑦	国際物品売買契約の成立、 契約交渉と契約の基本的条件	重要事項の確認
13	国際物品売買⑧	契約当事者の権利義務：その１ 定型取引条件	重要事項及び確認問題の再確認
14	国際物品売買⑨	契約当事者の権利義務：その２ 売主の義務	重要事項の確認
15	国際物品売買⑩	契約当事者の権利義務：その３ 買主の義務 所有権移転の準拠法	すべての確認問題・重要事項の確認

関連科目	国際私法Ⅰ・Ⅱ、民法総則、債権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際取引法（第４版）	佐野寛	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業で紹介します		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(55%)と「確認問題」(45%)で評価し、定期試験では、「確認問題」を基礎とした応用問題を出題します。「確認問題」は、定期試験を受けた場合に限り点数化して成績評価に加えます。実施時の授業時間内に提出されなかったものはその評価の対象とはしません（やむを得ない場合を除く）。
学生へのメッセージ	国際取引におけるグローバルスタンダードとは何かを知ってください。
担当者の研究室等	11 号館９階　小山教授室
備考	２００９年度以前入学生科目名　『国際取引法』

科目名	国際取引法Ⅱ	科目名（英文）	International Trade Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小山　昇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	国際取引に適用される法のうち、国際物品売買契約に伴う海上物品運送契約、貨物海上保険そして国際代金決済が中心となります。その他の個別契約類型については概観し、最後に、国際取引紛争の解決方法に言及します。
到達目標	海上運送契約、海上貨物保険、荷為替信用状、プラント輸出契約、ライセンス契約、合弁契約などの国際取引の具体的分野について、その基本的知識を理解することが本講義の目標となります。
授業方法と留意点	教科書の理解を中心に、それを補充する国際条約や国際的規則を重視した講義をします。理解度を自ら確認するために、５回程度、授業時間の最後（２０分程度）に「確認問題」を実施します。
科目学習の効果（資格）	国際運送や国際代金決済など外国取引に関係する基本的知識が得られます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際物品運送①	国際物品運送の種類、国際海上物品運送法	教科書第３章第３節を読む 重要事項の確認 原則として、事後の学習を重視
2	国際物品運送②	国際物品運送条約、船荷証券	重要事項の確認
3	国際物品運送③	国際海上物品運送法	重要事項の確認
4	国際物品運送④	国際航空運送とその国際条約 国際複合運送	重要事項及び確認問題の再確認
5	国際貨物保険①	貨物海上保険契約、海上保険証券	教科書第３章第４節を読む 重要事項の確認
6	国際貨物保険②	貨物海上保険契約の内容	重要事項の確認
7	国際代金決済①	代金決済の方式	教科書第３章第５節を読む 重要事項及び確認問題の再確認
8	国際代金決済②	荷為替信用状	重要事項の確認
9	国際代金決済③	信用状統一規則	重要事項の確認
10	国際製造物責任	欧米とわが国の製造物責任法	教科書第３章第６節を読む 重要事項及び確認問題の再確認
11	プラント輸出	プラント輸出契約の成立と内容	教科書第４章第１節・第２節を読む 重要事項の確認
12	国際技術移転	国際技術移転契約	教科書第４章第３節を読む 重要事項の確認
13	国際投資	国際投資と合弁事業	教科書第５章を読む 重要事項及び確認問題の再確認
14	国際取引紛争の解決①	国際裁判管轄、外国判決の承認と執行	教科書第６章を読む 重要事項の確認
15	国際取引紛争の解決②	国際商事仲裁	すべての確認問題・重要事項の確認

関連科目：国際取引法Ⅰ、債権法、商法、民事訴訟法、国際私法Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際取引法（第４版）	佐野寛	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業で紹介します		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(55%)と「確認問題」(45%)で評価します。定期試験では、「確認問題」を基礎とした応用問題を出題します。「確認問題」は、定期試験を受けた場合に限り点数化して成績評価に加えます。実施時の授業時間内に提出されなかったものはその評価の対象とはしません（やむを得ない場合を除く）。
学生へのメッセージ	運送や保険について、わが国の取引関係法を再確認してください。国際取引法Ⅰを受講していることが非常に望ましい。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　小山教授室
備考	

科目名	国際法の基礎理論	科目名（英文）	Introduction to International Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	糟谷　英之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	現代の国際社会は急速にその構造を変化させてきている。国際社会のルールとしての国際法は、またその影響を大きく受けることになる。講義では、この点を念頭に置きながら、国際法の基本的知識を習得することを目的とする。
到達目標	国際法の基礎的知識を習得することによって国際問題を国際法的視点から考える能力を身につける。
授業方法と留意点	教科書及び配布プリントを基本に、主として口頭による講義方式をとるが、ビデオ、インターネットなども随時利用する。講義ノートをしっかり取っておくこと。
科目学習の効果（資格）	国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。ＮＧＯなどに関連する職業によっては必要となる場合がある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。
2	国家領域と国際化領域	国家の領土、領海、領空及び南極大陸などをはじめとする国際化領域について概説する。	第１回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
3	海洋法（1）	海洋秩序形成と国連海洋法条約の成立過程を歴史的に概観する。	第２回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
4	海洋法（2）	個別的に領海、公海、排他的経済水域、大陸棚、深海底などの制度を概観する。	第３回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
5	空及び宇宙に関する法	領空主権及び月やその他の天体の地位や衛星の規制などを概観する。	第４回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
6	空間に関する国際法の総括と小テスト	空間に関する国際法の総括と確認の小テストを行う。	第５回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
7	国際組織序説	国際社会における国際組織の発展の歴史を概観する。	第６回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
8	国連の成立	国連の成立過程及び国連憲章の概要を説明する。	第７回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
9	国連の構造	国連の主要機関及び専門機関の概説をする。	第８回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
10	外国人の法的地位	国籍の問題と外国人の国際法上の地位について考える。	第９回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
11	国際的人権保障序説	人権の国際的な保障の歴史的な展開を概観する。	第 10 回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
12	国際人権規約	国際人権規約の内容について概観する	第 11 回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
13	人権条約の実施措置	国際的な実施措置について概説する。	第 12 回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
14	国際人道法序論	武力紛争時における人権について考える。	第 13 回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
15	学期のまとめ	本学期の講義内容の総括と学期末テストの準備について指示する。	これまでに完成した全レジメの復習と質問を準備しておくこと。

関連科目：国際組織法、国際人権法、国際関係論、国際平和論、国際協力論、国際ボランティア論など国際社会とかかわりのある科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際法（第５版）	松井芳郎その他	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義への参加程度（出席ではない）、課題の提出（３回）、復習テスト及び学期末テストなどをもとに総合的に評価する。 なお提出された課題は、内容によって３段階評価され、最終的に課題評価点（A＝２０点、B＝１０点、C＝５点）として復習テストおよび期末テストの点数に加算される。
学生へのメッセージ	できる限り積極的に授業に参加して質問を見つける努力が求められる。現在社会で求められるのは問題点を見つけ、それに対する解決策を見つける能力である。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷研究室
備考	

科目名	国際ボランティア論	科目名（英文）	Studies in International Volunteers
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野　英一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義では国際ボランティアを、一過性のイベントとしてとらえるのではなく、自分自身を見つけるチャンスとし、それを将来的に活用する。国際NGO、NPO、JICAボランティア青年海外協力隊や民間ボランティア等の現場を素材にケーススタディを行い、国際的社会常識と知識を深める。
到達目標	ボランティアの定義・理念、ボランティア活動に関する基礎的知識を習得する。
授業方法と留意点	ビデオ・スライドを多様してビジュアルに国際ボランティアの現状を知る。各講義の最後15～20分間は、質疑応答の時間とする。
科目学習の効果（資格）	日本の立場を国際的な視野から見る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションと授業内容概要	授業の目的や方針を確認し、全体の流れ（起承転結）を知る	＿＿＿＿＿
2	（起-１）ボランティア	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	前回の復習と、次回への展開
3	（起-2）国際理解	なぜ貧困に悩まされているのかを知る	前回の復習と、次回への展開
4	（起-3）国際協力	国際協力とは何かを知る	前回の復習と、次回への展開
5	（承-１）貧困の現状把握	貧困で悩んでいる国々の現状を知る	前回の復習と、次回への展開
6	（承-２）国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	前回の復習と、次回への展開
7	（転-１）国際ボランティア・NGOボランティア	国際ボランティア・NGOボランティアとは何かを知る	前回の復習と、次回への展開
8	（転-2）国際ボランティア（青年海外協力隊）	国際ボランティア（青年海外協力隊）になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開
9	（転-3）国際ボランティア（国連ボランティア）	国際ボランティア（国連ボランティア）になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開
10	（転-4）国際ボランティア（NGOボランティア）	国際ボランティア（NGOボランティア）になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開
11	（結-１）国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次へのステップ	前回の復習と、次回への展開
12	（結-2）自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする	前回の復習と、次回への展開
13	（結-3）更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	前回の復習と、次回への展開
14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	前回の復習と、次回への展開
15	総括的確認（必ず出席すること）	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	＿＿＿＿＿

関連科目：国際協力論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際協力国際交流ハンドブック　基礎から実践へ	浅野英一	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	記述式小テストや小レポートにより総合的に評価する。
学生へのメッセージ	前期の国際協力論を履修することでこの講義内容が理解しやすくなる。
担当者の研究室等	７号館５階（浅野研究室）
備考	

科目名	債権法	科目名（英文）	Law of Obligations
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	大川　謙蔵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つがあります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義では、中心部分は総論部分となりますが、各論部分を触れてから総論部分に入り、債権法の把握を図ります。
到達目標	本講義では、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養する。具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの取引で生じる債権とはいかなる内容のもので、いかなる性質を有しているのか、合意（契約）により生じた債権が約束通りに履行されない場合にはどのような問題が生じるのか、これらの債権を確保する行為は許されるのか、それらの債権を売却するなどして有効活用することはできないのか、および、これらの債権はどのような行為により実現されることができるのだろうかという点を見ていく。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得を目指している。
授業方法と留意点	基本的に講義形式で行います。 レジュメを配布し、それに沿って講義を行う予定です。 六法は必ず持参してください。また、適宜、確認テストや小テストを行なう予定です。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	債権法概論	講義のガイダンス	総則部分の復習。
2	債権の発生原因①	契約総論および契約各論	債権を発生させる原因と債権の関係を整理すること。
3	債権の発生原因②	契約各論	契約の各形態を整理すること。
4	債権の発生原因③	事務管理・不当利得・不法行為	契約との違いを整理すること
5	債権総論概説	債権の内容と種類	各論部分、とりわけ契約の性質を整理しておくこと。
6	債権の効力①	強制履行・債務不履行	民事訴訟法など、手続法がどのようなものかについても自習しておくこと。
7	債権の効力②	債務不履行の類型とその成立要件	債務不履行については教科書等で特に復習をすること。
8	債権の効力③	債務不履行による損害賠償①	債務不履行については教科書等で特に復習をすること。
9	債権の効力④	債務不履行による損害賠償②	債務不履行については教科書等で特に復習をすること。
10	債権の効力④	受領遅滞①	債権者・債務者はどのような人かについて、整理しておくこと。
11	債権の効力⑤	受領遅滞②	債権者・債務者はどのような人かについて、整理しておくこと。
12	責任財産の保全①	債権者代位権①	内容の整理をすること。
13	責任財産の保全②	債権者代位権②	内容の整理をすること。
14	責任財産の保全③	債権者代位権③	内容の整理をすること。
15	責任財産の保全③	詐害行為取消権①	要件と効果について整理しておくこと。
16	責任財産の保全④	詐害行為取消権②	法的性質など、ややこしいと思われる部分を焦らずに復習すること。
17	多数当事者の債権関係①	講義のガイダンス 分割債権・債務、不可分債権・債務	各制度の違いを整理しておくこと。
18	多数当事者の債権関係②	連帯債務①	前回の講義と連帯債務の内容を整理しておくこと。
19	多数当事者の債権関係③	連帯債務②	前回の講義と連帯債務の内容を整理しておくこと。
20	多数当事者の債権関係④	連帯債務③　保証債務①	当事者が複数になる点を整理しておくこと。
21	多数当事者の債権関係⑤	保証債務②　連帯保証	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと。
22	債権関係の移転①	債権譲渡①	債権者の移転の意義を把握すること。
23	債権関係の移転②	債権譲渡②	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと。
24	債権関係の移転③	債権譲渡③	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと。
25	債権関係の移転③	無留保承諾、債務引受け、契約譲渡	債権者および債務者という地位の移転が、それぞれどのように違うのか整理すること。
26	債権の消滅①	弁済	消滅とはいかなる形態で生じるのかを確認すること。
27	債権の消滅②	弁済者、弁済受領者、弁済の効果	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと。
28	債権の消滅③	弁済による代位	弁済されることでどのような形になるのか復習しておくこと。
29	債権の消滅④	代物弁済、供託	弁済との違いを整理すること。
30	債権の消滅⑤	相殺	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと

関連科目	契約法、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロードマップ民法③債権総論	小川富之・福田健太郎編	一学舎

参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 /	
評価方法 （基準）	学期末試験および講義中に行う確認テストで採点します。 詳細については初回の講義において説明します。 講義中の不要な私語については減点の対象とします。
学生への メッセージ	2 年次配当科目です。法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　大川講師室
備考	

科目名	債権法Ⅰ	科目名（英文）	Law of Obligations Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つがあります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義では、中心部分は総論部分となりますが、各論部分を触れてから総論部分に入り、債権法の把握を図ります。
到達目標	本講義では、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養する。具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの取引で生じる債権とはいかなる内容のもので、いかなる性質を有しているのか、合意（契約）により生じた債権が約束通りに履行されない場合にはどのような問題が生じるのか、これらの債権を確保する行為は許されるのか、それらの債権を売却するなどして有効活用することはできないのか、および、これらの債権はどのような行為により実現されることができるのだろうかという点を見ていく。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得を目指している。
授業方法と留意点	基本的に講義形式で行います。 レジュメを配布し、それに沿って講義を行う予定です。 六法は必ず持参してください。また、適宜、確認テストや小テストを行なう予定です。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	債権法概論	講義のガイダンス	総則部分の復習。
2	債権の発生原因①	契約総論および契約各論	債権を発生させる原因と債権の関係を整理すること。
3	債権の発生原因②	契約各論	契約の各形態を整理すること。
4	債権の発生原因③	事務管理・不当利得・不法行為	契約との違いを整理すること
5	債権総論概説	債権の内容と種類	各論部分、とりわけ契約の性質を整理しておくこと。
6	債権の効力①	強制履行・債務不履行	民事訴訟法など、手続法がどのようなものかについても自習しておくこと。
7	債権の効力②	債務不履行の類型とその成立要件	債務不履行については教科書等で特に復習をすること。
8	債権の効力③	債務不履行による損害賠償①	債務不履行については教科書等で特に復習をすること。
9	債権の効力④	債務不履行による損害賠償②	債務不履行については教科書等で特に復習をすること。
10	債権の効力④	受領遅滞①	債権者・債務者はどのような人かについて、整理しておくこと。
11	債権の効力⑤	受領遅滞②	債権者・債務者はどのような人かについて、整理しておくこと。
12	責任財産の保全①	債権者代位権①	内容の整理をすること。
13	責任財産の保全②	債権者代位権②	内容の整理をすること。
14	責任財産の保全③	債権者代位権③	内容の整理をすること。
15	全体的な復習	範囲すべて	全ての範囲を復習するしておくこと。

関連科目：契約法、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロードマップ民法③債権総論	小川富之・福田健太郎編	一学舎
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末試験および講義中に行う確認テストで採点します。 詳細については初回の講義において説明します。 講義中の不要な私語については減点の対象とします。
学生へのメッセージ	2 年次配当科目です。法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川講師室
備考	

科目名	債権法Ⅱ	科目名（英文）	Law of Obligations II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つがあります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義では、中心部分は総論部分となりますが、各論部分を触れてから総論部分に入り、債権法の把握を図ります。
到達目標	本講義では、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養する。具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの取引で生じる債権とはいかなる内容のもので、いかなる性質を有しているのか、合意（契約）により生じた債権が約束通りに履行されない場合にはどのような問題が生じるのか、これらの債権を確保する行為は許されるのか、それらの債権を売却するなどして有効活用することはできないのか、および、これらの債権はどのような行為により実現されることができるのだろうかという点を見ていく。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得を目指している。
授業方法と留意点	基本的に講義形式で行います。 レジュメを配布し、それに沿って講義を行う予定です。 六法は必ず持参してください。また、適宜、確認テストや小テストを行う予定です。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	責任財産の保全③	詐害行為取消権①	要件と効果について整理しておくこと。
2	責任財産の保全④	詐害行為取消権②	法的性質など、ややこしいと思われる部分を焦らずに復習すること。
3	多数当事者の債権関係①	講義のガイダンス 分割債権・債務、不可分債権・債務	各制度の違いを整理しておくこと。
4	多数当事者の債権関係②	連帯債務①	前回の講義と連帯債務の内容を整理しておくこと。
5	多数当事者の債権関係③	連帯債務②	前回の講義と連帯債務の内容を整理しておくこと。
6	多数当事者の債権関係④	連帯債務③　保証債務①	当事者が複数になる点を整理しておくこと。
7	多数当事者の債権関係⑤	保証債務②　連帯保証	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと。
8	債権関係の移転①	債権譲渡①	債権者の移転の意義を把握すること。
9	債権関係の移転②	債権譲渡②	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと。
10	債権関係の移転③	債権譲渡③	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと。
11	債権関係の移転④	無留保承諾、債務引受け、契約譲渡	債権者および債務者という地位の移転が、それぞれどのように違うのか整理すること
12	債権の消滅①	弁済	消滅とはいかなる形態で生じるのかを確認すること。
13	債権の消滅②	弁済者、弁済受領者、弁済の効果	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと。
14	債権の消滅③	弁済による代位	弁済されることでどのような形になるのか復習しておくこと。
15	債権の消滅④	相殺	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと

関連科目：契約法、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロードマップ民法③債権総論	小川富之・福田健太郎編	一学舎
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末試験および講義中に行う確認テストで採点します。 詳細については初回の講義において説明します。 講義中の不要な私語については減点の対象とします。
学生へのメッセージ	2年次配当科目です。法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。
担当者の研究室等	11号館9階　大川講師室
備考	

科目名	財政学	科目名（英文）	Public Finance
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柿本　尚志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現在の日本は、財政システムにかかわる重大な課題に直面しています。少子高齢化、膨大な国債残高、格差の拡大、行政システムの非効率性等です。さらに近年の不況は税収の減少をもたらし、歳入と歳出のバランスにおいて、いっそう厳しい状況となりました。現在はやや景気の回復傾向がみられ、税収も少し増加してはいますが、決して十分ではありません。この授業では、財政問題全体をやさしく、かつ鳥瞰的に解説することによって、財政の現在と将来を展望します。
到達目標	財政の基本的な知識を修得することにより、直面する財政問題を理解できるようになる。
授業方法と留意点	毎回、講義の初めに、前回の授業内容を復習したうえで授業に入って行きます。その際、受講生から質問のあった事項や印象深い感想などを織り交ぜて説明していきます。正確に理解し、今後の知識として役立ててもらいたいと思います。
科目学習の効果（資格）	公務員試験等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明します。	新聞や経済誌の財政に関する記事を読むようにしてください。
2	財政と経済	市場経済と市場の失敗、政府の役割について解説します。	教科書の第１章を読んでおくこと。
3	今日の日本の財政	日本経済のあゆみと財政、歳入と歳出、国と地方などについて整理します。	教科書の第２章を読んでおくこと。
4	財政をめぐる現代的課題	政府支出や公的金融のほか、三位一体の改革、地方分権についても解説します。	１、２章の内容で関心のある点について抜き出しておくこと。
5	公共財	公共財とは何か、そしてその供給に対する「ただ乗り問題」についても考えます。	教科書の第３章を読んでおくこと。
6	地方公共財	「足による投票」とは何か、また負の外部性についての理論を紹介します。	３章の内容で関心のある点を抜き出しておくこと。
7	財政と年金	財政と社会保障の関係から年金問題について解説します。	教科書の第４章を読んでおくこと。
8	財政と医療	財政と社会保障の関係から医療問題について解説します。	４章の内容で関心のある点を抜き出しておくこと。
9	政府行動の指針（１）	公共投資の費用と便益や不平等の問題を考えます。	教科書の第５章を読んでおくこと。
10	政府行動の指針（２）	公共投資についての理論的な見方を学びます。	５章の内容で関心のある点を抜き出しておくこと。
11	租税の経済への影響（１）	租税の現状について整理します。	教科書の第６章を読んでおくこと。
12	租税の経済への影響（２）	誰が課税分を負担するのか、所得分配との関係はどうなるのかなどについて考えます。	６章の内容で関心のある点を抜き出しておくこと。
13	租税の効率性と公平性	効率と公平の基準について整理し、最適課税の問題について考えます。	教科書の第７章を読み、７章の内容で関心のある点を抜き出しておくこと。
14	公債と財政政策	財政赤字と財政政策という今日的課題について解説します。	教科書の第８章を読み、８章の内容で関心のある点を抜き出しておくこと。
15	講義のまとめ	授業全体のまとめ。	今まで学んだ中でもっとも関心のある点について意見、感想を書いて提出する。

関連科目：地方財政論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日経文庫「経済学入門シリーズ　財政学入門」第２版	入谷純	日本経済新聞社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 100%
学生へのメッセージ	財政に関して初めて学習する人も、ある程度の知識と考え方を身につけることができるように考えています。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	裁判員制度特別講義	科目名（英文）	Special Lecture on Saiban-in System
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家本　真実
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	2009 年に、日本でも司法制度に一般の市民が参加する裁判員制度が導入されました。20 歳以上の日本国籍を持つ人であれば誰でも、裁判員として刑事裁判に参加する可能性があることになります。しかし、制度導入から 6 年目にあたる現在でも、裁判員になると裁判でどのような任務を果たさなくてはならないのか、よく分からないという方も多いと思います。そこで、この授業では、裁判員制度を学ぶことに重点をおきながら、他の国でおこなわれている市民の司法への参加制度と比較しつつ、広く司法制度について学んでいただきたいと思います。
到達目標	裁判員制度について基本的な理解していただくとともに、市民の司法参加制度のあり方について考えていただくことができる知識を得ていただくことを目指します。
授業方法と留意点	この授業では、単に座って講義を受けるという形式ではなく、受講者の皆さんにも主体的に行動することによって裁判員制度を学んでいただくことになります。具体的には、まず、日本の裁判員制度や他国の市民の司法への参加制度を学んでいただいたうえで、受講者の皆さんで議論をしていただき、裁判における評議のあり方について考えていただきます。さらに、12 月初旬の土曜日に家本ゼミの学生がおこなう模擬裁判において裁判員の立場で審理を聞き、評議をおこなって被告人が有罪か無罪かを判断していただきます。 毎回の授業が、12 月の模擬裁判における審理のための備えとなりますので、1 度でも欠席すれば単位は取得できないものと考えてください。
科目学習の効果（資格）	裁判員制度、日本や他国の司法制度についてより深く知ることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	この講義の概要、講義予定、および受講確認	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
2	裁判員制度とは（1）	裁判員制度および刑事司法制度の概要	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
3	裁判員制度とは（2）	裁判員制度創設の経緯と制度の内容	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
4	裁判員制度とは（3）	裁判員制度の内容と実施状況	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
5	刑事裁判手続（1）	刑事裁判の原則、手続の流れ	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
6	刑事裁判手続（2）	刑事裁判の審理とその手続	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
7	アメリカの市民の司法参加制度ー陪審制度（1）	アメリカの刑事陪審制度について	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
8	アメリカの市民の司法参加制度ー陪審制度（2）	アメリカの刑事陪審制度について	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
9	ヨーロッパ諸国の市民の司法参加制度ー参審制度	ヨーロッパ諸国などで採用されている参審制度について	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
10	評議のためのウォームアップ（1）	評議とはどのようなものか	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
11	評議のためのウォームアップ（2）	仮の事件を題材にした評議をおこなう。	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
12	模擬裁判にて審理聴講	模擬裁判において審理を聴講する。	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
13	評議の実践	模擬裁判の審理から、被告人の有罪・無罪を考える。	模擬裁判で審理を聞いてみて感じたことや反省すべき点などをまとめておくこと。
14	裁判員制度のあり方	裁判員制度はどうあるべきか、議論する。	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
15	おわりに	講義のまとめ	全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。

関連科目	刑法総論・各論、犯罪学などの刑事法、刑事訴訟法、英米法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業に対する姿勢と貢献度、および学期末のレポート課題をおもに評価の基準とします。遅刻および欠席は、1 度でも、単位の取得が著しく困難となりますのでご注意ください。また、初回の講義で受講の意思確認をおこないますので、初回に無断で欠席された場合には、以後の受講を認めないこととします。
学生へのメッセージ	裁判員制度について興味をお持ちの方、模擬裁判で裁判員の立場を体験したいとお考えの方で、積極的に授業に参加する意思があり、そしてそれを実行できる方にのみ、受講していただきたいと思います。 かなり少人数、おそらくゼミと同程度かそれより少数での講義になることが予想されますので、その点、ご留意ください。 なお、本講義の履修にあたっては事前申請が必要となります。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合もあります。

科目名	裁判制度特別講義	科目名（英文）	Special Lecture on Judicial System
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家本　真実
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	2009 年に、日本でも司法制度に一般の市民が参加する裁判員制度が導入されました。20 歳以上の日本国籍を持つ人であれば誰でも、裁判員として刑事裁判に参加する可能性があることになります。しかし、制度導入から 6 年目にあたる現在でも、裁判員になると裁判でどのような任務を果たさなくてはならないのか、よく分からないという方も多いと思います。そこで、この授業では、裁判員制度を学ぶことに重点をおきながら、他の国でおこなわれている市民の司法への参加制度と比較しつつ、広く司法制度について学んでいただきたいと思います。
到達目標	裁判員制度について基本的な理解していただくとともに、市民の司法参加制度のあり方について考えていただくことができる知識を得ていただくことを目指します。
授業方法と留意点	この授業では、単に座って講義を受けるという形式ではなく、受講者の皆さんにも主体的に行動することによって裁判員制度を学んでいただくことになります。具体的には、まず、日本の裁判員制度や他国の市民の司法への参加制度を学んでいただいたうえで、受講者の皆さんで議論をしていただき、裁判における評議のあり方について考えていただきます。さらに、12 月初旬の土曜日に家本ゼミの学生がおこなう模擬裁判において裁判員の立場で審理を聞き、評議をおこなって被告人が有罪か無罪かを判断していただきます。 毎回の授業が、12 月の模擬裁判における審理のための備えとなりますので、1 度でも欠席すれば単位は取得できないものと考えてください。
科目学習の効果（資格）	裁判員制度、日本や他国の司法制度についてより深く知ることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	この講義の概要、講義予定、および受講確認	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
2	裁判員制度とは（1）	裁判員制度および刑事司法制度の概要	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
3	裁判員制度とは（2）	裁判員制度創設の経緯と制度の内容	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
4	裁判員制度とは（3）	裁判員制度の内容と実施状況	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
5	刑事裁判手続（1）	刑事裁判の原則、手続の流れ	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
6	刑事裁判手続（2）	刑事裁判の審理とその手続	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
7	アメリカの市民の司法参加制度ー陪審制度（1）	アメリカの刑事陪審制度について	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
8	アメリカの市民の司法参加制度ー陪審制度（2）	アメリカの刑事陪審制度について	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
9	ヨーロッパ諸国の市民の司法参加制度ー参審制度	ヨーロッパ諸国などで採用されている参審制度について	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
10	評議のためのウォームアップ（1）	評議とはどのようなものか	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
11	評議のためのウォームアップ（2）	仮の事件を題材にした評議をおこなう。	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
12	模擬裁判にて審理聴講	模擬裁判において審理を聴講する。	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
13	評議の実践	模擬裁判の審理から、被告人の有罪・無罪を考える。	模擬裁判で審理を聞いてみて感じたことや反省すべき点などをまとめておくこと。
14	裁判員制度のあり方	裁判員制度はどうあるべきか、議論する。	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
15	おわりに	講義のまとめ	全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。

関連科目	刑法総論・各論、犯罪学などの刑事法、刑事訴訟法、英米法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業に対する姿勢と貢献度、および学期末のレポート課題をおもに評価の基準とします。遅刻および欠席は、1 度でも、単位の取得が著しく困難となりますのでご注意ください。また、初回の講義で受講の意思確認をおこないますので、初回に無断で欠席された場合には、以後の受講を認めないこととします。
学生へのメッセージ	裁判員制度について興味をお持ちの方、模擬裁判で裁判員の立場を体験したいとお考えの方で、積極的に授業に参加する意思があり、そしてそれを実行できる方にのみ、受講していただきたいと思います。 かなり少人数、おそらくゼミと同程度かそれより少数での講義になることが予想されますので、その点、ご留意ください。 なお、本講義の履修にあたっては事前申請が必要となります。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合もあります。

科目名	市民社会論	科目名（英文）	Civil Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	森　康一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「市民社会」は、「国家」とも「市場」とも異なる新しい公共性の担い手として、特に 1989 年の東欧の民主化以降注目を集めている。 この講義では、「民主主義」との関わりで欧米あるいは日本の「市民社会」・「市民社会論」の歴史的系譜について整理した上で、事例として東欧の民主化の過程をとりあげたい。 今後の社会を担う一個の市民として、「市民社会」のありかたについて考えることを目標とする。
到達目標	西欧の政治思想についての基礎的な知識を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。
科目学習の効果（資格）	日本の社会を考える上で必要となる歴史的視点や理論を学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞等で、市民社会・民主主義について書かれている記事を積極的に読んでおく
2	市民社会とは何か	「市民」と「市民社会」について	政治理論に関する参考文献を読んでおく
3	市民社会論の歴史的系譜	市民社会論の歴史的系譜について	市民社会論に関する参考文献を読んでおく
4	西欧における市民社会論の展開（1）	古代ギリシャの市民社会論について	市民社会論に関する参考文献を読んでおく
5	西欧における市民社会論の展開（2）	近代ブルジョア的市民社会論について	市民社会論に関する参考文献を読んでおく
6	西欧における市民社会論の展開（3）	近代ブルジョア的市民社会論に対する批判論について	市民社会論に関する参考文献を読んでおく
7	西欧における市民社会論の展開（4）	近代止揚の市民社会論について	市民社会論に関する参考文献を読んでおく
8	西欧における市民社会論の展開（5）	現代の市民社会論について	市民社会論に関する参考文献を読んでおく
9	日本的「市民社会」論	日本の思想家による「市民社会」のとらえ方について	「日本的社会」とはどういうものか、考えておく
10	事例研究：ポーランドの民主化運動（1）	ポーランドの社会主義と自主管理労組「連帯」の活動について	東欧の民主化に関する参考文献を読んでおくこと
11	ポーランドの民主化運動（2）	東欧の民主化の先導役としてのポーランドが辿った過程について	東欧の民主化に関する参考文献を読んでおくこと
12	チェコスロヴァキアの民主化運動（1）	チェコスロヴァキアの社会主義と 1968 年の「プラハの春」について	東欧の民主化に関する参考文献を読んでおくこと
13	チェコスロヴァキアの民主化運動（2）	チェコスロヴァキアの社会主義と市民社会の関わりについて	東欧の民主化に関する参考文献を読んでおくこと
14	チェコスロヴァキアの民主化運動（3）	1989 年のビロード革命について	東欧の民主化に関する参考文献を読んでおくこと
15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けたノート作りをする

関連科目	政治学、世界の政治と社会

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験（論述式）の結果によって評価します。持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、日本や世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。共に勉強しましょう。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	出席をとる予定です。

科目名	社会調査実習	科目名（英文）	Field Survey of Town
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	中沼　丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	2009 年度まで「まちを調べる」という科目名であったこの講義では、その名のとおり、大学近辺の寝屋川市や交野市のまちに出向いて、地域や小学校の活動に参加し、観察や聞きとりによる調査を行う。本年度は、交野市の自治会と、寝屋川市の小学校に伺い、ボランティアや教員と一緒に活動を行い、世話役の方や校長先生への聞きとりを行う。
到達目標	自治会と小学校の現場で活動し、聞き取りを行うことで、地域や学校での当たり前の暮らしと学習が、どのような人の思いと努力で成り立っているか実感できるようにする。
授業方法と留意点	この講義は次の２点で他の科目と大きく異なる。(1)大学の外に出向いて調査をする、(2)自治会や小学校の日常の活動に入る。ですので、欠席や遅刻はできません。
科目学習の効果（資格）	市役所職員や学校教諭の「現場」感覚がわかり、採用試験に向けた動機づけにつながるとともに、採用試験での論作文や面接などに必要な知見が得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	【1 日目】自治会とは何か？地域において小学校はどのような役割を果たしている？	調査に伺う自治会や学校の日常や特徴を説明する。同時に、自分の地元での自治会や小学校について話し合う。	地元の自治会の掲示板を見たり、保護者に自治会の役員経験を尋ねる。通った小学校での地域とのつながりを思い出す。
2	自治会とは何か？地域において小学校はどのような役割を果たしている？	調査に伺う自治会や学校の日常や特徴を説明する。同時に、自分の地元での自治会や小学校について話し合う。	地元の自治会の掲示板を見たり、保護者に自治会の役員経験を尋ねる。通った小学校での地域とのつながりを思い出す。
3	【2 日目】自治会活動に参加してみる。	交野市の自治会で資源回収活動、防犯パトロール活動に参加する。自治会の世話役の方から、地域活動のねらいや工夫、効果、充実感などを聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
4	自治会活動に参加してみる。	交野市の自治会で資源回収活動、防犯パトロール活動に参加する。自治会の世話役の方から、地域活動のねらいや工夫、効果、充実感などを聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
5	【3 日目】小学校の教育現場に参加してみる。	寝屋川市の小学校で、夏休みの学習教室や親子料理教室、プール教室に参加する。校長先生から、児童の日常への気配り、夏休みの教室のねらい、地域とのつながりの意味などについて聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
6	小学校の教育現場に参加してみる。	寝屋川市の小学校で、夏休みの学習教室や親子料理教室、プール教室に参加する。校長先生から、児童の日常への気配り、夏休みの教室のねらい、地域とのつながりの意味などについて聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
7	【4 日目】活動参加と聞き取りの結果をまとめる。	自治会と小学校での活動参加と聞き取りの結果をまとめる。特に、世話役の方や校長先生の考えや気配り、気遣いについて話し合う。	聞き取りの結果を整理してくる。自治会の世話役の方と小学校の校長先生へのお礼と感想の手紙を書く。
8	活動参加と聞き取りの結果をまとめる。	自治会と小学校での活動参加と聞き取りの結果をまとめる。特に、世話役の方や校長先生の考えや気配り、気遣いについて話し合う。	聞き取りの結果を整理してくる。自治会の世話役の方と小学校の校長先生へのお礼と感想の手紙を書く。
9	――――	――――	――――
10	――――	――――	――――
11	――――	――――	――――
12	――――	――――	――――
13	――――	――――	――――
14	――――	――――	――――
15	――――	――――	――――

関連科目：「社会調査の方法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	事前説明から活動参加、聞き取り調査、まとめまでの全過程への参加が必須。活動参加の熱心さ、聞き取り調査の真剣さ、まとめの出来で評価する。
学生へのメッセージ	この講義は、通常講義のない７月の特別教育期間において４日間、１日約３コマで集中して行います。詳細は、履修ガイダンス時に説明します。
担当者の研究室等	11 号館９階　中沼准教授室

備考	

科目名	商行為法	科目名（英文）	Commercial Transactions Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　與志夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	商行為法は、私法の特別法である。私法の一般法としては、民法が存在する。商法の特殊性は、企業関係に特有な法規から成り立っているということにある。企業とは、一定の計画に従い、継続的意図をもって営利行為を実現する独立の経済単位であるといわれている。企業によって、商品の生産および流通活動が、行われており、商行為法の知識は、企業活動に関係する者にとり、必須の知識である。商行為法では、商法の基本概念である商行為の意義、商行為法の通則、商事売買、交互計算、匿名組合、その他各種営業を講義する。
到達目標	商行為法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することを目指す。
授業方法と留意点	授業では、できるだけ、最近、話題になった事件を判例や専門雑誌の記事を通して紹介し、現実の商法の運用について説明したい。練習問題を解きながら、応用力を養いたい。ポケット六法を授業中、必ず、携帯してください。
科目学習の効果（資格）	商業活動に必要であり、ビジネス・パーソンにとって必須の知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	商行為の意義（1）	商行為の分類、絶対的商行為、	教科書１０８ページ～１１２ページ
2	商行為の意義（2）	営業的商行為、公法人の商行為	教科書１１２ページ～１１５ページ
3	附属的商行為等	附属的商行為、会社等の行為、一方的商行為と双方的商行為	教科書１１５ページ～１１７ページ
4	商行為法の通則	商行為一般に関する規定、当事者の一方が商人である場合の規定、当事者双方が商人である場合の規定、有価証券に関する規定	教科書　１１７ページ～１３２ページ
5	商事売買	商事売買の意義、売主の権利・義務、買主の権利・義務	教科書１３３ページ～１４１ページ
6	交互計算	交互計算の意義、交互計算の効力、交互計算の終了	教科書１４２ページ～１４６ページ
7	匿名組合	匿名組合の意義、匿名組合契約、匿名組合契約の終了	教科書１４７ページ～１５１ページ
8	仲立人	仲立人の意義、法源と仲立契約の性質、仲立人の義務、仲立人の権利および権限	教科書　１５２ページ～１５９ページ
9	問屋営業	問屋の意義、問屋の法的地位、問屋の権利・義務、準問屋	教科書　１６０ページ～１６８ページ
10	運送営業（1）	運送営業の意義、物品運送契約	教科書１６９ページ～１７１ページ
11	運送営業（2）	運送人の義務、損害賠償義務、運送人の権利、荷受人の地位、相次運送	教科書１７２ページ～１８１ページ
12	運送営業（3）	貨物引換証の意義・性質、貨物引換証の方式および譲渡	教科書１８１ページ～１８３ページ
13	運送営業（4）	貨物引換証の債権的効力、貨物引換証の物権的効力	教科書１８３ページ～１８６ページ
14	旅客運送、運送取扱営業	旅客運送契約、乗車券の法的性質、旅客運送人の責任 運送取扱営業の意義、運送取扱人の義務・権利等	教科書１８７ページ～１９３ページ
15	倉庫営業、場屋営業	倉庫営業の意義、倉庫寄託契約、倉庫営業者の義務・権利、倉庫証券 場屋営業の意義、場屋営業者の責任	教科書１９９４ページ２０３ページ

関連科目	民法、会社法Ｉ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プライマリー商法総則・商行為法（最新版）	藤田勝利・北村雅史編	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中の授業態度、期末の筆記試験を総合して行う。
学生へのメッセージ	商行為法は、比較的、解りやすい分野です。六法全書は、必ず、授業中に携帯してください。質問は、どしどし、してください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	

科目名	少年法	科目名（英文）	Juvenile Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	少年法は、非行少年の改善更生・健全育成を目的とする法律である。この授業では、上記の点を念頭に置いた上で、一般の刑事手続との比較も行いながら少年事件手続（保護手続）の特徴について基本的な理解を得ることを目標とする。
到達目標	少年法に関する基本的知識を修得する。
授業方法と留意点	下記で指定した教科書及びそれをもとに作成したレジュメを中心に授業を行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	教科書の入手
2	少年法の理念	少年法の意義・特徴など	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
3	少年法の誕生	我が国の少年法制の沿革など	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
4	少年非行の現状	少年犯罪の近年の趨勢など	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
5	少年法の改正	少年法改正（2000，2007，2008）の経緯など	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
6	少年事件と犯罪被害者	少年法における犯罪被害者の地位など	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
7	非行少年の発見	発見活動の意義・諸態様など	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
8	捜査・予防活動	非行防止のための活動、非行少年の捜査・調査活動など	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
9	家庭裁判所の役割	家庭裁判所の意義など	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
10	社会調査	調査の意義など	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
11	少年審判	審判の対象・手続など	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
12	少年の権利保障	我が国の少年法上における権利保障など	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
13	非行少年の処遇･逆送と刑事処分	保護処分の種類、逆送手続など	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
14	少年事件と報道	少年事件における実名報道の禁止について	教科書の該当箇所を通読しておいてください。
15	まとめ	重要論点の再解説	重要論点の確認

関連科目：刑法、刑事訴訟法、刑事法概論など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビギナーズ少年法（第２版補訂版）	守山正・後藤弘子編	成文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績(80%)と授業中に随時行う予定である小テストの成績(20%)で評価する。
学生へのメッセージ	とかく議論の対象になりがちな「少年法」について、様々な角度から自分なりに検討してみてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	

科目名	消費者と法	科目名（英文）	Consumer and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義は、消費者問題の本質について理解を深めること、被害の発生を防ぎ、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることを目的とする。
到達目標	消費者問題の本質について理解を深め、被害の発生を防ぎ、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につける。
授業方法と留意点	原則として、講義形式で行う。なお、授業中、受講生に発言を求める場合がある。積極的な受講態度を求める。
科目学習の効果（資格）	消費生活専門相談員、消費生活アドバイザー、消費生活コンサルタント、その他、今後、市民生活を送る上で不可欠。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・消費者法概説	消費法とは何か	授業時に指示する
2	消費者契約法(1)	消費者契約法概説	授業時に指示する
3	消費者契約法(2)	誤認・困惑類型における取消し	授業時に指示する
4	消費者契約法(3)	不当約款規制(1)	授業時に指示する
5	消費者契約法(4)	不当約款規制(2)・消費者団体訴訟	授業時に指示する
6	特定商取引に関する法律(1)	特商法の全体像、クーリング・オフ制度	授業時に指示する
7	特定商取引に関する法律(2)	訪問販売・電話勧誘販売・通信販売	授業時に指示する
8	特定商取引に関する法律(3)	特定継続的役務提供・連鎖販売取引・業務提供誘引販売取引	授業時に指示する
9	消費者信用取引	販売信用取引・消費者金融取引・多重債務者問題	授業時に指示する
10	商品安全と法(1)	商品安全に係る法制度概説	授業時に指示する
11	商品安全と法(2)	製造物責任法(1)	授業時に指示する
12	商品安全と法(3)	製造物責任法(2)	授業時に指示する
13	商品安全と法(4)	食の安全と法(1) －食品添加物は有害か？　リスク評価の意義と限界－	授業時に指示する
14	商品安全と法(5)	食の安全と法(2) －食のグローバル化と食の安全－	授業時に指示する
15	商品安全と法(6)	食の安全と法(3) －食の安全・安心と表示規制－	授業時に指示する

関連科目	民事法関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基本講義　消費者法	中田邦博、鹿野菜穂子	日本評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 100%。ただし、授業妨害行為（私語・携帯電話の使用・騒々しい途中入退室等）に対しては、減点措置を講じ、度重なる場合は単位不授与とする。ヒソヒソ話も禁止。厳格に対処するので注意すること。
学生へのメッセージ	悪徳業者は、いつ何時、あなたに襲いかかってくるかわかりません。降りかかった火の粉を払いのける術を身につけ、自分自身、家族・友人、そして社会を守ってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	

科目名	商法総則	科目名（英文）	Commercial Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛丸　與志夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	商法総則は、私法の特別法である。私法の一般法としては、民法が存在する。商法の特殊性は、企業関係に特有な法規から成り立っているということにある。企業とは、一定の計画に従い、継続的意図をもって営利行為を実現する独立の経済単位であるといわれている。企業によって、商品の生産および流通活動が、行われており、商法総則の知識は、企業活動に関係する者にとり、必須の知識である。商法総則では、商法の基本概念である商人の定義をはじめ、商人に特有な、商号や商業登記等の諸制度について、講義を行う。
到達目標	商法総則の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することを目指す。
授業方法と留意点	授業では、できるだけ、最近、話題になった事件を判例や専門雑誌の記事を通して紹介し、現実の商法の運用について説明したい。練習問題を解きながら、応用力を養いたい。授業中は、必ず、ポケット六法を携帯してください。
科目学習の効果（資格）	商業活動に必要であり、ビジネス・パーソンにとって必須の知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	商法の意義	形式的意義における商法、実質的意義における商法、商法と他の法律との関係	教科書２ページ～７ページ
2	商法の基本概念、商法の歴史	基本概念としての商行為と商人、商事法主義と商人法主義、商法の歴史	教科書８ページ～１３ページ
3	商法の特色と傾向、商法の法源	商法の内容上の特色と発展傾向上の特色、商法の存在形式、商法の法源の適用順序	教科書１４ページ～２３ページ
4	商人	商人の意義、商人資格、営業能力	教科書２６ページ～３２ページ
5	営業・営業所	営業の意義、営業所の意義、本店および支店、営業所に結び付けられた法律上の効果	教科書３２ページ～３４ページ
6	商業登記（1）	総説、商業登記事項、商業登記の手続、商業登記の一般的効力	教科書３５ページ～４２ページ
7	商業登記（2）	不実登記の効力、商業登記の特殊の効力	教科書　４３ページ～４５ページ
8	商号（1）	総説、商号の選定、商号の数、商号の登記	教科書４６ページ～５３ページ
9	商号（2）	商号権、商号の譲渡・廃止・変更、名板貸し	教科書　５３ページ～６２ページ
10	営業の譲渡（1）	営業譲渡の意義、営業譲渡契約、営業譲渡の機能、営業譲渡当事者間における効果	教科書　６３ページ～６７ページ
11	営業の譲渡（2）	第三者に対する営業譲渡の効果、営業の賃貸借・経営委任	教科書　６８ページ～７２ページ
12	商業帳簿	総説、商業帳簿の意義・種類、資産の評価、商業帳簿の保存・提出義務	教科書７３ページ～８５ページ
13	商業使用人（1）	総説、支配人の意義、支配人の選任・終任、支配人の代理権・義務	教科書８６ページ～９２ページ
14	商業使用人（2）	表見支配人、その他の商業使用人	教科書９２ページ～９６ページ
15	代理商	代理商の意義、代理商契約の締結、代理商契約の効果、代理商契約の終了	教科書９７ページから１０５ページ

関連科目：民法、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プライマリー商法総則・商行為法（最新版）	藤田勝利・北村雅史編	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中の授業態度、期末の筆記試験を総合して行う。
学生へのメッセージ	商法総則は、比較的、解りやすい分野です。六法全書は、必ず、授業中に携帯してください。質問は、どしどし、してください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	

科目名	商法総論Ⅰ	科目名（英文）	Commercial Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛丸　與志夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	商法総則は、私法の特別法である。私法の一般法としては、民法が存在する。商法の特殊性は、企業関係に特有な法規から成り立っているということにある。企業とは、一定の計画に従い、継続的意図をもって営利行為を実現する独立の経済単位であるといわれている。企業によって、商品の生産および流通活動が、行われており、商法総則の知識は、企業活動に関係する者にとり、必須の知識である。商法総則では、商法の基本概念である商人の定義をはじめ、商人に特有な、商号や商業登記等の諸制度について、講義を行う。
到達目標	商法総則の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することを目指す。
授業方法と留意点	授業では、できるだけ、最近、話題になった事件を判例や専門雑誌の記事を通して紹介し、現実の商法の運用について説明したい。練習問題を解きながら、応用力を養いたい。授業中は、必ず、ポケット六法を携帯してください。
科目学習の効果（資格）	商業活動に必要であり、ビジネス・パーソンにとって必須の知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	商法の意義	形式的意義における商法、実質的意義における商法、商法と他の法律との関係	教科書２ページ～７ページ
2	商法の基本概念、商法の歴史	基本概念としての商行為と商人、商事法主義と商人法主義、商法の歴史	教科書８ページ～１３ページ
3	商法の特色と傾向、商法の法源	商法の内容上の特色と発展傾向上の特色、商法の存在形式、商法の法源の適用順序	教科書１４ページ～２３ページ
4	商人	商人の意義、商人資格、営業能力	教科書２６ページ～３２ページ
5	営業・営業所	営業の意義、営業所の意義、本店および支店、営業所に結び付けられた法律上の効果	教科書３２ページ～３４ページ
6	商業登記（１）	総説、商業登記事項、商業登記の手続、商業登記の一般的効力	教科書３５ページ～４２ページ
7	商業登記（２）	不実登記の効力、商業登記の特殊の効力	教科書　４３ページ～４５ページ
8	商号（１）	総説、商号の選定、商号の数、商号の登記	教科書４６ページ～５３ページ
9	商号（２）	商号権、商号の譲渡・廃止・変更、名板貸し	教科書　５３ページ～６２ページ
10	営業の譲渡（１）	営業譲渡の意義、営業譲渡契約、営業譲渡の機能、営業譲渡当事者間における効果	教科書　６３ページ～６７ページ
11	営業の譲渡（２）	第三者に対する営業譲渡の効果、営業の賃貸借・経営委任	教科書　６８ページ～７２ページ
12	商業帳簿	総説、商業帳簿の意義・種類、資産の評価、商業帳簿の保存・提出義務	教科書７３ページ～８５ページ
13	商業使用人（１）	総説、支配人の意義、支配人の選任・終任、支配人の代理権・義務	教科書８６ページ～９２ページ
14	商業使用人（２）	表見支配人、その他の商業使用人	教科書９２ページ～９６ページ
15	代理商	代理商の意義、代理商契約の締結、代理商契約の効果、代理商契約の終了	教科書９７ページから１０５ページ

関連科目：民法、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プライマリー商法総則・商行為法（最新版）	藤田勝利・北村雅史編	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中の授業態度、期末の筆記試験を総合して行う。
学生へのメッセージ	商法総則は、比較的、解りやすい分野です。六法全書は、必ず、授業中に携帯してください。質問は、どしどし、してください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	

科目名	商法総論Ⅱ	科目名（英文）	Commercial Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　與志夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	商行為法は、私法の特別法である。私法の一般法としては、民法が存在する。商法の特殊性は、企業関係に特有な法規から成り立っているということにある。企業とは、一定の計画に従い、継続的意図をもって営利行為を実現する独立の経済単位であるといわれている。企業によって、商品の生産および流通活動が、行われており、商行為法の知識は、企業活動に関係する者にとり、必須の知識である。商行為法では、商法の基本概念である商行為の意義、商行為法の通則、商事売買、交互計算、匿名組合、その他各種営業を講義する。
到達目標	商行為法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することを目指す。
授業方法と留意点	授業では、できるだけ、最近、話題になった事件を判例や専門雑誌の記事を通して紹介し、現実の商法の運用について説明したい。練習問題を解きながら、応用力を養いたい。ポケット六法を授業中、必ず、携帯してください。
科目学習の効果（資格）	商業活動に必要であり、ビジネス・パーソンにとって必須の知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	商行為の意義（1）	商行為の分類、絶対的商行為、	教科書１０８ページ～１１２ページ
2	商行為の意義（2）	営業的商行為、公法人の商行為	教科書１１２ページ～１１５ページ
3	附属的商行為等	附属的商行為、会社等の行為、一方的商行為と双方的商行為	教科書１１５ページ～１１７ページ
4	商行為法の通則	商行為一般に関する規定、当事者の一方が商人である場合の規定、当事者双方が商人である場合の規定、有価証券に関する規定	教科書　１１７ページ～１３２ページ
5	商事売買	商事売買の意義、売主の権利・義務、買主の権利・義務	教科書１３３ページ～１４１ページ
6	交互計算	交互計算の意義、交互計算の効力、交互計算の終了	教科書１４２ページ～１４６ページ
7	匿名組合	匿名組合の意義、匿名組合契約、匿名組合契約の終了	教科書１４７ページ～１５１ページ
8	仲立人	仲立人の意義、法源と仲立契約の性質、仲立人の義務、仲立人の権利および権限	教科書　１５２ページ～１５９ページ
9	問屋営業	問屋の意義、問屋の法的地位、問屋の権利・義務、準問屋	教科書　１６０ページ～１６８ページ
10	運送営業（1）	運送営業の意義、物品運送契約	教科書１６９ページ～１７１ページ
11	運送営業（2）	運送人の義務、損害賠償義務、運送人の権利、荷受人の地位、相次運送	教科書１７２ページ～１８１ページ
12	運送営業（3）	貨物引換証の意義・性質、貨物引換証の方式および譲渡	教科書１８１ページ～１８３ページ
13	運送営業（4）	貨物引換証の債権的効力、貨物引換証の物権的効力	教科書１８３ページ～１８６ページ
14	旅客運送、運送取扱営業	旅客運送契約、乗車券の法的性質、旅客運送人の責任 運送取扱営業の意義、運送取扱人の義務・権利等	教科書１８７ページ～１９３ページ
15	倉庫営業、場屋営業	倉庫営業の意義、倉庫寄託契約、倉庫営業者の義務・権利、倉庫証券 場屋営業の意義、場屋営業者の責任	教科書１９９４ページ２０３ページ

関連科目：民法、会社法Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プライマリー商法総則・商行為法（最新版）	藤田勝利・北村雅史編	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中の授業態度、期末の筆記試験を総合して行う。
学生へのメッセージ	商行為法は、比較的、解りやすい分野です。六法全書は、必ず、授業中に携帯してください。質問は、どしどし、してください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	

科目名	親族法	科目名（英文）	Family Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	古川　行男
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	民法典の第４編「親族」を中心に講義を行う。具体的には、夫婦、親子関係などの身分関係について、その権利と義務の視点から検討を行う。親族関係は、戸籍制度とも密接に関係し、現在の日本において避けては通ることのできないものであり、日常で感じる家族などの人間関係が法的にどのようなものであるのかの把握も行う。
到達目標	身近な分野であるので、民法に規定されている基礎的な法的知識を自分のものするとともに、家族について考える契機とする。
授業方法と留意点	レジュメに沿いつつ講義形式で行う。具体的な条文の参照を随時するので、六法を必ず持参すること。理解度を高めるために、重要事項の確認テストを行うことがあるので注意すること。
科目学習の効果（資格）	日常生活において生じる身分関係問題の理解だけでなく、資格試験などでの民法科目の理解にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	家族法概論	家族法の概略、意義、身分行為など。	これまで学習した民法を全体的に確認しておくこと
2	家族紛争の解決方法	家事事件の処理手続、氏名、戸籍	実体法と手続法の違いを復習しておくこと
3	婚姻の成立と不成立	婚姻の成立と成立が否定される場合	どのような場合は婚姻できないのか
4	婚姻の効力	婚姻の効力について学ぶ	婚姻すると同様な法的効果が発生するのか
5	夫婦財産制日常家事債務	夫婦間の財産関係	夫婦と他人の違い
6	離婚	離婚制度	離婚とはどのようなものか
7	協議離婚、裁判離婚、調停離婚	離婚するには	離婚によって生ずる問題とは
8	離婚に伴う財産関係	財産分与	財産の清算など
9	離婚と子の福祉	親権、面会交流	子の福祉の重要性
10	実親子関係	実親子、嫡出制度	法的に親子関係を形成する意義を検討すること
11	親子関係	認知、準正	法的な親子関係の成立とは、生物学的なものとどう違うのかを整理すること
12	養子親関係	養子制度	養子縁組の意義
13	成年後見	成年後見制度の意義と問題点	高齢者社会の到来と成年後見制度
14	扶養	扶養の内容、扶養義務者	扶養について考える
15	全体の復習	全体を復習する	わからない点を確認する

関連科目	民法に関連する講義全般。 特に相続法とは大きな関連を有する。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法７　親族・相続	高橋朋子ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	基本的に定期試験で評価する。授業中に小テストを行うこともある。
学生へのメッセージ	身近な法律であるだけに、正確な知識を持つことが重要です。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　　古川教授室
備考	授業の進行に応じて順序、内容を変更することがある。

科目名	スポーツ医学の理論と実際	科目名（英文）	Theory and Practice of Sports Medicine
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期集中	授業担当者	渡辺　一志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	スポーツ・運動に伴う身体の変化と適応について医学・運動生理学の基礎を学ぶ。また、スポーツと健康管理および安全管理について述べ、健康の維持・増進、さらには明るく活動的な生活の実現に必要な内容を理解することを目的とする。
到達目標	運動による健康の維持・増進およびスポーツ実践を通じて明るく豊かな生活を営むことのできる指導・支援・助言のできるスポーツプログラマーとしての、医学・運動生理学的知識と実践法を修得することを目標とする。
授業方法と留意点	講義および実験演習形式で授業を進める。なお、DVD や VTR などを用い、教育効果を上げる。
科目学習の効果（資格）	スポーツプログラマーに必要な基礎的な医学・運動生理学の理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツ医学１	身体管理とコンディショニングの支援	テキスト P165-186
2	スポーツ医学２	安全と有効なスポーツ指導	資料
3	スポーツ医学３	リハビリテーションや、治療法としてのスポーツの活用	テキスト P. 157-164
4	健康管理１	レクリエーションスポーツと競技選手のメディカルチェック	資料
5	健康管理２	栄養と休養	テキスト P. 79-88
6	健康管理３	発育発達期の身体的特徴	テキスト P. 130-136
7	安全管理１	スポーツにおける安全確保の知識（ウォーミングアップ、クーリングダウン）	テキスト P. 89-99
8	安全管理２	内因性疾患における対策	資料
9	安全管理（救急処置）1	貧血と運動	資料
10	安全管理（救急処置）2	RICE 処置	資料
11	安全管理（救命処置）1	熱中症の病型と発生機序	資料
12	安全管理（救命処置）2	熱中症に対する予防と対処法	資料
13	安全管理（救命処置）3	呼吸循環系の基礎と運動適応	資料
14	安全管理（救命救急）4	AED を用いた心肺蘇生法の実際	資料
15	まとめ	授業全体のまとめ	――――

関連科目：スポーツ医学の基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト	（財）日本体育施設協会	佐藤印刷
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席、筆記試験、小テスト等総合的に評価する。
学生へのメッセージ	参加型、双方向性の授業を心がけています。積極的に参加し、身体運動の科学的理解を深めて下さい。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	

科目名	スポーツ栄養学	科目名（英文）	Sports Nutrition
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	堀　美幸
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	健康の保持・増進の観点からの栄養からスポーツにおけるコンディショニングの土台となる栄養の知識について学び、スポーツに関連した食についての理解を深めていく。
到達目標	栄養学の基礎を学びながら、運動実践者のための栄養知識を習得していく。 競技種目や競技レベルに関わらず、スポーツを行うすべての人に対して栄養指導を行えるよう基礎的理解の習得を目標とする。
授業方法と留意点	講義形式で行う。 適宜、課題や小テストを実施する。
科目学習の効果（資格）	基礎的な栄養からスポーツ栄養へと応用できる知識を学ぶ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	スポーツ栄養学とは 食事バランスガイド	課題　１週間の食事日記
2	エネルギー代謝（1）	スポーツにおける栄養の役割とエネルギー供給機講	エネルギー供給機構の確認
3	エネルギー代謝（2）	エネルギー消費量と貯蔵エネルギー	課題　１日のエネルギー消費量
4	５大栄養素（1）：糖質	糖質の役割と摂取方法	糖質の主な役割について確認
5	５大栄養素（2）：脂質	脂質の役割と摂取方法	脂質の主な役割について確認
6	５大栄養素（3）：タンパク質	タンパク質の役割と摂取方法	タンパク質の主な役割について確認
7	５大栄養素（4）：ミネラル	鉄・カルシウムなどの役割と摂取方法	鉄・カルシウムの主な役割とスポーツ貧血について確認
8	５大栄養素（5）：ビタミン	ビタミンの役割と摂取方法	ビタミンの主な役割と各ビタミンの働きについて確認
9	水分補給	スポーツ時における水分補給の重要性と補給方法	水分補給の方法と熱中症について確認
10	サプリメント	サプリメント（栄養補助食品）の利用方法	主なサプリメントの利用方法について確認
11	スポーツ栄養の実際（1）	スポーツ栄養学に基づいた体重管理の方法	減量・増量について確認
12	スポーツ栄養の実際（2）	スポーツ栄養学に基づいた試合前後の食事	食事内容とタイミングについて確認
13	スポーツ栄養の実際（3）	スポーツ栄養学に基づいたトレーニング期の食事	目的別摂取方法の確認
14	スポーツ栄養の実際（4）	スポーツ栄養学に基づいたケガ期の食事	傷害別摂取方法の確認
15	まとめ	講義内容の総括を行う	課題提出

関連科目：スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版　コンディショニングのスポーツ栄養学	樋口　満　編著	市村出版
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト、課題提出などで評価をするが平常態度なども総合して判断する。
学生へのメッセージ	知識を実践に生かしてこそ栄養学は生きてきます。健康増進やパフォーマンスの向上に役立てられるよう学んで行きましょう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	

科目名	スポーツ社会学	科目名（英文）	Sports Sociology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	スポーツに関する諸問題を社会学的な視点から検討することによって、社会とスポーツとのかかわりに対する理解を深める。
到達目標	スポーツを取り巻く社会的な諸相を的確に捉え、理論的に理解するための基本的な能力を養う。
授業方法と留意点	講義形式で展開するが、学生との双方向の講義となるよう積極的にコミュニケーションを図っていくつもりである。
科目学習の効果（資格）	スポーツに関する社会学的な知識を身につけることが可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス、スポーツ社会学とは	スポーツ社会学という概念の整理。
2	現代社会とスポーツ	現代社会におけるスポーツの意義	関連資料に目を通すこと。
3	スポーツ人口の構造（1）	スポーツ人口構造の類型化	配布資料の理解。
4	スポーツ人口の構造（2）	年齢別、性別スポーツ参加状況	前回の講義と関連づけて今回の講義を整理する。
5	少子･高齢化とスポーツ（1）	少子化とスポーツ	配布資料の理解。
6	少子･高齢化とスポーツ（2）	高齢化とスポーツ	少子・高齢化とスポーツとの関係についてまとめる。
7	女性とスポーツ	女性のスポーツ参加	関連資料に目を通すこと。
8	日本と外国のスポーツ事情、これまでの講義のまとめ	日本と諸外国のスポーツ参加、および習熟度を確認するための試験の実施	これまでの講義を体系的に整理・理解する。
9	スポーツの社会的基盤（1）	学校・地域のスポーツクラブ	関連資料に目を通すこと。
10	スポーツの社会的基盤（2）	企業および民間クラブ	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
11	スポーツと社会化（1）	スポーツによる社会化	配布資料の理解。
12	スポーツと社会化（2）	スポーツへの社会化	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
13	商業主義とスポーツ	商業主義のスポーツへの影響	関連資料に目を通すこと。
14	スポーツとマスメディア	マスメディアのスポーツへの影響	マスメディアという言葉の意味を検索。
15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認のための臨時試験の実施	これまでの講義を体系立てて整理し理解する。

関連科目	地域とスポーツ等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加姿勢と試験の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでほしい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	- - - - -

科目名	スポーツ心理学	科目名（英文）	Sports Psychology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	スポーツ活動を心理学的な観点から分析・検討するための基本理論や応用のための方法を学ぶ。
到達目標	スポーツ活動の基礎となる運動や人についての心理学的理解を深める。
授業方法と留意点	講義形式とするが、学生と教員との双方向型の講義にすることに留意。
科目学習の効果（資格）	スポーツ活動だけではなく、日常生活にも応用できる心理学的な知見の獲得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツ心理学の意義	スポーツ心理学の意義と学問体系を理解する。	スポーツ心理学という学問領域について整理する。
2	スポーツ心理学の研究法	実験、調査法、観察	配布資料に目を通す。
3	スポーツと知覚	スポーツと視覚、スポーツヴィジョン	関連資料に目を通す。
4	スポーツ指導と動機づけ	動機づけの意味と、その方法論	動機付けの方法を抜粋し整理する。
5	パフォーマンス修得の意味とその段階	パフォーマンス曲線、プラトウとスランプ	スランプとプラトウの違いを整理する。
6	リーダーシップとスポーツ（1）	リーダーシップの概念	関連資料に目を通す。
7	リーダーシップとスポーツ（2）	リーダーシップの形式	配布資料の理解。
8	リーダーシップとスポーツ（3）、これまでの講義のまとめ	リーダーの役割と PM 理論、および到達度確認のための試験	これまでの講義の整理とその理解。
9	フィードバック	フィードバックの種類と効果	フィードバックという概念の検索。
10	メンタルプラクティス	メンタルプラクティスの効果と実践方法	関連資料に目を通す。
11	スポーツとパーソナリティー	スポーツとパーソナリティーの関係	パーソナリティーという言葉の検索。
12	スポーツの経験と態度変容	態度の概念、態度変容理論、スポーツ経験と態度変容	配布資料の理解。
13	心理的技能とパフォーマンス（1）	心理的技能がパフォーマンスに与える影響	関連資料に目を通す。
14	心理的技能とパフォーマンス（2）	心理的技能とパフォーマンスとの関係	前回と講義と今回とを関連づけて整理する。
15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認のための臨時試験の実施	これまでの講義を体系づけて整理する。

関連科目：特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業へ取り組む姿勢と試験の結果を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	- - - - -

科目名	スポーツ政策論	科目名（英文）	Sports Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会におけるスポーツの意義やスポーツ（振興）政策の立案過程を踏まえたうえで、スポーツと政策との関係について理解を深める。
到達目標	スポーツ（振興）政策の社会に対する役割に関する知見を獲得する。
授業方法と留意点	講義形式ではあるが、学生と双方向の講義になるようにコミュニケーションを図っていくので、留意されたい。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者養成に関する科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	スポーツ政策とは	スポーツ政策という概念を整理する。
2	スポーツ政策の概念	スポーツ政策の目的、意義	関連資料に目を通す。
3	スポーツ政策の体系	スポーツ政策の体系	配布資料の理解。
4	スポーツ政策の立案者	スポーツ政策を立案する組織、団体	スポーツ組織を立案する組織・団体を抜粋し整理する。
5	スポーツ活動の促進とスポーツ政策（1）	社会の中のスポーツ、スポーツの社会的意義、歴史的変遷	スポーツの社会的意義を整理する。
6	スポーツ活動の促進とスポーツ政策（2）	わが国におけるスポーツ振興施策、学校でのスポーツ活動の発展を促すスポーツ政策	関連資料に目を通す。
7	スポーツ活動の促進とスポーツ政策（3）	わが国におけるスポーツ振興施策、健康の維持増進とスポーツ政策	配布資料を理解する。
8	スポーツ活動の促進とスポーツ政策（4）	わが国におけるスポーツ振興施策、生活の質向上とスポーツ政策	わが国におけるスポーツ政策の特徴を体系づける。
9	スポーツ活動の促進とスポーツ政策（5）	世界のスポーツ振興政策	わが国と諸外国のスポーツ政策上の特徴の理解を深める
10	スポーツ活動の促進とスポーツ政策（6）、これまでの講義のまとめ	世界のスポーツ事情と日本のスポーツ振興施策、およびこれまでの習熟度確認試験の実施	前５回の講義と今回とを関連づけて整理する。
11	競技力の向上とスポーツ政策（1）	国威発揚としての国際競技力の向上政策	関連資料に目を通す。
12	競技力の向上とスポーツ政策（2）	国内の連帯促進と国際競技力の向上政策	前回の講義と関連づけて整理する。
13	社会化促進のためのスポーツ政策	社会への組み入れを促すためのスポーツ政策	配布資料の理解。
14	社会的平等とスポーツ政策	社会的平等を促進するためのスポーツ政策	関連資料に目を通す。
15	講義の総括と習熟度の検査	講義全体の総括と習熟度確認のための臨時試験を行う	これまでの講義を体系立てて復習する

関連科目	スポーツと法律等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢、および試験の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでほしい
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	スポーツ指導者共通科目 II - I に対応

科目名	スポーツと法律	科目名（英文）	Sports and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	スポーツに関する法令を学ぶとともに、判例や諸問題を検討することを通して、スポーツ法学についての理解を深める。
到達目標	法とスポーツ活動との様々な関わりを理解する。
授業方法と留意点	講義形式を採用するが、学生との双方向の授業を展開したいので、その点の留意をお願いしたい。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得のための科目でもある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツと法（1）	スポーツの概念、特性	スポーツの概念や特徴についての復習。
2	スポーツと法（2）	スポーツ法の概念、特性およびその対象	前回の講義と関連づけてまとめる。
3	スポーツと法（3）	スポーツ基本法の制定	関連資料に目を通すこと。
4	スポーツと法（4）	スポーツ活動と関連法令	関連資料に目を通すこと。
5	スポーツに親しむ権利（1）	スポーツへのアクセス	関連資料に目を通すこと。
6	スポーツに親しむ権利（2）	スポーツ権論	前回の講義と関連づけてまとめる。
7	スポーツと教育	学校スポーツ、社会スポーツ（生涯スポーツ）の展開と関連法令	関連資料に目を通すこと。
8	スポーツ振興と法、これまでの講義のまとめ	スポーツの振興に関する法令、および習熟度確認試験の実施	これまでの講義を体系的にまとめること。
9	スポーツと国籍	スポーツへの参加と国籍	配布資料に目を通すこと。
10	スポーツと社会的平等	スポーツとジェンダー	関連資料に目を通すこと。
11	スポーツ事故と法的責任（1）	スポーツ事故と法（民事責任、刑事責任）	民法、刑法の関連条項の整理。
12	スポーツ事故と法的責任（2）	危険の引き受けと引き受けた危険	危険の引き受けと引き受けた危険との相違点をまとめる。
13	スポーツ事故と法的責任（3）	スポーツと学校事故	配布資料に目を通すこと。
14	スポーツ事故と法的責任（4）	フランスにけるスポーツ事故と法的責任	スポーツ事故の発生と法的責任の発生に関してまとめる
15	講義の総括と習熟度検査	講義の総括と習熟度確認のための臨時試験の実施	講義全体を体系的に整理する。

関連科目：スポーツ政策論等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢、および試験の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に講義に参加してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	- - - - - - - -

科目名	スポーツの歴史	科目名（英文）	History of Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	近藤　潤
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	スポーツは実践することと観戦することの両方が楽しめる。スポーツの文化としての奥深さはその起源、ルールの変遷、そして名プレーヤーなどについてを学ぶことでさらに深まる。特にオリンピックは２０２０年東京で開催されることが決まり、オリンピックの歴史を学ぶことがスポーツ文化を学ぶことになる。また、スポーツのルールの変遷は、テレビなどのマスコミに左右される時代である。ルールの変遷に伴い技術・戦術なども大きく変わってきた。本講義では、それらの歴史を学ぶことによって教養を高め、よりスポーツを楽しめるような基礎知識を身につける。
到達目標	オリンピックの歴史を飾ってきた有名選手のことを学習し、オリンピックの変遷を理解する。 スポーツ用具の進化と技術、ルールとのかかわりを理解する。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。またテーマに応じてグループ発表も行う。
科目学習の効果（資格）	講義は聞くだけでなく、自分の問題として捕らえ、自分に置き換えて考えることが重要である。教科書は特に使用しないが、新聞など関連記事には目を通したほうが良い。また、インターネットによる情報収集も新鮮な情報が得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリンピックの歴史（1）	古代オリンピック	インターネットでオリンピックについて調べる
2	オリンピックの歴史（2）	創世期（近代）～東京オリンピック	インターネットでオリンピックについて調べる
3	オリンピックの歴史（3）	東京オリンピック～北京オリンピック	インターネットでオリンピックについて調べる
4	オリンピックの歴史（4）	オリンピックの将来	インターネットでオリンピックについて調べる
5	ルールの起源（１）	サッカー	ルールについてまとめる
6	ルールの起源（２）	その他のスポーツ	ルールについてまとめる
7	ルールの起源（３）	ルールの変遷	ルールについてまとめる
8	プレーヤーの歴史（１）	日本人	授業で取りあげた人物についてまとめる→レポート作成
9	プレーヤーの歴史（２）	日本人以外	授業で取りあげた人物についてまとめる→レポート作成
10	プレゼンテーション（１）	５人ずつプレゼン	授業で取りあげた人物についてまとめる→レポート作成
11	プレゼンテーション（２）	５人ずつプレゼン	授業で取りあげた人物についてまとめる→レポート作成
12	プレゼンテーション（３）	５人ずつプレゼン	授業で取りあげた人物についてまとめる→レポート作成
13	プレゼンテーション（４）	５人ずつプレゼン	授業で取りあげた人物についてまとめる→レポート作成
14	プレゼンテーション（５）	５人ずつプレゼン	授業で取りあげた人物についてまとめる→レポート作成
15	まとめ	――――	レポート編集

関連科目：スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ　健康論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト、プレゼン、平常点を加味する。
学生へのメッセージ	学生諸君はこちらが与える教材だけでなくさまざまな資料を集め、より深い内容にしてください。
担当者の研究室等	総合体育館　近藤研究室
備考	

科目名	スポーツビジネス	科目名（英文）	Sports Business
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	スポーツはビジネスとも深くかかわっていることから、法律問題も当然に生じる。 この講義では、そのようなスポーツビジネスに関する法的問題を検討するために、各種契約、スポーツにおいて生じた事故など法律に関する問題を取り上げ、さらに、そのようなビジネス一般について検討をすることを目的としている。
到達目標	スポーツビジネス一般について知識を得て、そこで生じる法律問題を理解し、法的にどのような解決方法があるのかなどを検討する。
授業方法と留意点	教科書、資料などを用いて検討する。参考図書や関係資料を指定するので、各自で問題点を整理するなどして、予習しておくこと。
科目学習の効果（資格）	スポーツ・インストラクター、スポーツ・エージェントなど

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツビジネスと法律の概要	これまで学んできた法律知識の確認	これまで学んできた法律科目の内容を確認すること。
2	民法との関係①	民事法とスポーツの関係を確認する。	民法の予習・復習
3	民法との関係②	民事法とスポーツの関係を確認する。	民法の予習・復習
4	契約法とスポーツ①	スポーツにおける契約について確認を行う。	契約法の予習・復習
5	契約法とスポーツ②	スポーツにおける契約について確認を行う。	契約法の予習・復習
6	不法行為とスポーツ①	スポーツにおける事故の内容を検討する。	不法行為の予習・復習
7	不法行為とスポーツ②	スポーツにおける事故の内容を検討する。	不法行為の予習・復習
8	権利保護①	さまざま法律における権利保護の内容を確認する。	講義中に課題を出すので、それを検討すること。
9	権利保護②	さまざま法律における権利保護の内容を確認する。	講義中に課題を出すので、それを検討すること。
10	肖像権とビジネス①	肖像権とプライバシー権について確認する。	講義中に課題を出すので、それを検討すること。
11	肖像権とビジネス②	肖像権とプライバシー権について確認する。	講義中に課題を出すので、それを検討すること。
12	スポーツ・エージェント①	代理人問題について検討する。	代理について予習・復習
13	スポーツ・エージェント②	代理人問題について検討する。	代理について予習・復習
14	スポーツビジネスのあり方	企業スポーツの方向性	商法や会社法なども復習しておくこと。
15	講義の全体的な復習	これまでの内容を全体的に確認する。	全体的な復習をすること。

関連科目：経済学、経営学、憲法、民法、商法、労働法など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度、レポート、ディベートなどをもとに総合的に評価する。
学生へのメッセージ	スポーツは、自由な人格形成、健康で文化的な生活、余暇のため、重要な役割を演じるものである。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川講師室
備考	

科目名	スポーツプログラミング	科目名（英文）	Sports Programming
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	岡本　香代子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	健康な身体であるためには、体力を維持・増進させることが大切であり、運動・スポーツを行うことは身体の生理的機能を向上させるのに役立つ。授業では、運動・スポーツとトレーニング効果を理解し、対象者に合わせた運動処方の理論と実際について学ぶ。
到達目標	対象者に合わせたスポーツプログラムの作成と実践指導ができるようになる。
授業方法と留意点	テキストやプリントを用いた講義と、対象者に合わせたプログラムを実践する。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	フィットネスプログラムの基本的方法	スポーツプログラミング概論、運動処方概論	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
2	子どものフィットネスプログラム①	子どもを対象とした運動処方論（生活・遊び）	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
3	子どものフィットネスプログラム②	子どもを対象とした運動処方論（体力・スポーツ）	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
4	子どものフィットネスプログラム③	子どもを対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
5	子どものフィットネスプログラム④	子どもを対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
6	壮年（中年）のフィットネスプログラム①	壮年（中年）を対象とした運動処方論	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
7	壮年（中年）のフィットネスプログラム②	壮年（中年）を対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
8	高齢者のフィットネスプログラム①	高齢者を対象とした運動処方論	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
9	高齢者のフィットネスプログラム②	高齢者を対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
10	女性のフィットネスプログラム①	女性を対象とした運動処方論	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
11	女性のフィットネスプログラム②	女性を対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
12	女性のフィットネスプログラム③	女性を対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
13	障害者のフィットネスプログラム①	障害者を対象とした運動処方論（運動の意義）	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
14	障害者のフィットネスプログラム②	障害者を対象とした運動処方論（運動実施上の配慮・プログラムの特色）	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
15	障害者のフィットネスプログラム③	障害者を対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。

関連科目	発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実践

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	受講態度点（50%）、技能点（20%）、レポート点（30%）の総合評価。
学生へのメッセージ	対象者に応じた運動・スポーツ指導について学び、実践に活かそう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	

科目名	スポーツ文化論	科目名（英文）	Cultural Aspects of Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	河瀬　泰治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	スポーツを文化の領域と捉らえ歴史的、経済的にあらゆる側面から講義を進めてゆく。特権階級の人々に親しまれたスポーツをもっと身近に感じスポーツの取り巻く問題と新たなスポーツ文化を発掘していこうとすることがスポーツ文化論である。
到達目標	スポーツを身体運動だけにとらわれずに、知的学問としてとらえ文化的行動の基礎を築けるように学ぶ。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。なお、資料配布やＶＴＲなどを用い、教育効果を上げる。
科目学習の効果（資格）	スポーツを楽しむためによりスポーツを理解することが出来る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス	――――
2	文化の中のスポーツ（1）	スポーツ人類学	課題資料配布
3	文化の中のスポーツ（2）	スポーツ文化複合	課題資料配布
4	文化の中のスポーツ（3）	文化とスポーツ（小テスト）	レポート提出
5	スポーツと社会（1）	スポーツと社会の結びつき	課題資料配布
6	スポーツと社会（2）	スポーツの社会における役割（小テスト）	レポート提出
7	国民性とスポーツ(1)	民族によるスポーツの考え方（欧米）	課題資料配布
8	国民性とスポーツ（2）	民族によるスポーツの考え方（アジア）	課題資料配布
9	女性のスポーツ	女性アスリートの歴史	課題資料配布
10	スポーツとマーケティング（1）	子供とスポーツ	課題資料配布
11	スポーツとマーケティング（2）	学校体育とスポーツ（小テスト）	レポート提出
12	スポーツとビジネス（1）	マネーとスポーツ	課題資料配布
13	スポーツとビジネス（2）	商業主義とスポーツ	課題資料配布
14	スポーツ文化論総括	文化論　まとめ	課題資料配布
15	スポーツ文化論総括	発表	グループ発表

関連科目：スポーツ指導者入門

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	筆記試験及びレポート・グループ発表などをし、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	講義は聞くだけでなく、自分の問題として捕らえ、自分に置き換えて考えることが重要である。教科書は特に使用しないが、新聞など関連記事には目を通したほうが良い。また、インターネットによる情報収集も新鮮な情報が得られる。
担当者の研究室等	総合体育館１階　河瀬研究室
備考	

科目名	スポーツマネジメント	科目名（英文）	Sports Management
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	スポーツを効率よくマネジメントする上での検討すべき課題について理解を深めるとともに、スポーツマネジメントを実践するための基本的な知識を学習する。
到達目標	スポーツマネジメントに関する基本的な知識を獲得する。
授業方法と留意点	講義形式の授業を展開するが、双方向の授業とするために講義へ積極的に参加することを期待する。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス、スポーツマネジメントとは	スポーツマネジントという言葉の整理。
2	マネジメントの本質（1）	マネジメントの定義、マネジメントにおける目標設定	関連資料に目を通す。
3	マネジメントの本質（2）	マネージャーの役割、心構え	マネジメントという概念をまとめる。
4	スポーツマネジメントの特徴	スポーツマネジメントの特徴、スポーツ産業が持つ特質	前 2 回の講義と今回とを関連づけてまとめる。
5	スポーツ施設の建設、運営および事業展開	スポーツ施設の建設と運営	配布資料の理解。
6	全体戦略の設定	ミッション・ヴィジョン・ドメイン	関連資料に目を通す。
7	スポーツとマネジメント（1）	人事マネジメント、GM の役割	これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。
8	スポーツとマネジメント（2）	リスクマネジメント	リスクとマネジメントという意味について整理。
9	スポーツとマネジメント（3）、これまでの講義のまとめ	顧客管理、および習熟度確認のための試験	これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。
10	スポーツ事業の展開（1）	スポーツ事業の計画・運営・評価（総論、スポーツ教室の実施・運営）	関連資料に目を通す。
11	スポーツ事業の展開（2）	スポーツマーケティング	配布資料を理解する。
12	スポーツ事業の展開（3）	必要な法務の知識、必要な財務・経理・会計・税務の知識	前 2 回の講義を関連づけてまとめる。
13	スポーツ組織の機能・役割とその運営（1）	スポーツ組織の機能・役割	配布資料に目を通すこと。
14	スポーツ組織の機能・役割とその運営（2）	スポーツ組織の運営	前回の講義と関連づける。
15	講義のまとめ	講義の総括と習熟度の確認のための臨時試験の実施	講義全体の体系化とその理解。

関連科目：スポーツと法律等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加姿勢と試験の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲を持って参加してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	

科目名	政治学Ⅰ	科目名（英文）	Politics Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松永　信一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	民主主義の歴史、民主主義の諸類型、民主主義と非民主的な政治体制の比較、民主主義の社会的基盤などについて講義する。
到達目標	成熟した市民社会の一員にふさわしい政治を見る目と、政治に関心をもち政治に関与しようという態度を養う。
授業方法と留意点	プリントを配布し、講述形式による。
科目学習の効果（資格）	ジャーナリスト、公務員、議員、社会科教員などの公的な貢献に比重を置いた職業を目指す人。就職試験の時事問題対策。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の趣旨及び進め方	本日配布のプリントを読み直す
2	民主主義はなぜ望ましいか	政治に何を望むか。政体の形態	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
3	民主主義の歴史的変遷	民主主義の古代と現代	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
4	ダールの民主主議論	ポリアーキー概念	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
5	民主主義と自由主義	法の支配、自由権	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
6	民主主義と平等（1）	経済的平等、ジェンダー	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
7	民主主義と平等（2）	文化的多元主義	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
8	民主主義と戦争	フランス革命、アメリカの独立戦争	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
9	民主主義の土台（1）	政治文化論	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
10	民主主義の土台（2）	ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）、恩顧主義	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
11	民主主義の将来（1）	巻町の住民投票運動	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
12	民主主義の将来（2）	国民国家とグローバリズム	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
13	非民主的な体制	権威主義的な政治体制	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
14	非民主的な政治体制	全体主義的政治体制	プリントを読み直し、不明部分は参考書や事典によって解消すること。
15	まとめ	授業内容を振り返り、試験対策について	――――

関連科目	政治、国際関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の結果及び数回の小レポートの評価による。
学生へのメッセージ	毎日の新聞やテレビで報じられる政治ニュースに注目しよう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　松永准教授室
備考	

科目名	政治学Ⅱ	科目名（英文）	Politics II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松永　信一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	現代政治における選挙と政党の問題について講義する。選挙は市民が政治に関わる最も一般的な装置であり、政党はそれを手助けする組織である。
到達目標	成熟した市民社会の一員にふさわしい政治を見る目と、政治に関心をもち政治に関与しようという態度を養う。
授業方法と留意点	講述形式でプリントを配る。配られたプリントは必ず毎回持参すること。
科目学習の効果（資格）	ジャーナリスト、公務員、議員、社会科教員。いくつかの公務員試験や就職試験時事問題対策になる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の趣旨と進め方	プリントを読み直すこと。
2	選挙制度	小選挙区と大選挙区、各国の選挙制度	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
3	投票行動（1）	有権者の意識と投票 有権者の社会環境と投票行動	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
4	投票行動（2）	有権者の心理と投票行動	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
5	日英選挙運動の比較	イギリスの保守党と日本の自民党について	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
6	日本の選挙運動（1）	民俗の中の選挙	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
7	日本の選挙運動（2）	後援会組織	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
8	政党　（1）	定義と歴史的展開	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
9	政党（2）	政党組織の類型	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
10	政党　（3）	政党システム	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
11	戦後日本の政党（1）	自民党	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
12	戦後日本の政党（2）	社会党及びそのほか野党	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
13	戦後日本の政党（3）	無党派層とイメージ選挙	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
14	90 年代の選挙と政党	マスメディアの役割	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
15	総括	まとめと試験の傾向と対策	テスト範囲を念頭に置きながら、プリントを読み返す

関連科目	政治学および国際関係論関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の結果と数回の小レポートの評価による。
学生へのメッセージ	毎日の新聞やテレビで報じられる政治ニュースに注目しよう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　松永准教授室
備考	

科目名	政治学概論	科目名（英文）	Introduction to Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」【教員免許状取得のための履修区分】選択【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	この講義では、いまの政治・政策の大きな課題を取り上げ、テレビのニュース番組を関心を持って見られるようになることを目的とする。選挙で投票するにあたって、政治家や政党の訴えに対して自分の意見が持てるようになってほしいと考える。
到達目標	週１～２回でもテレビのニュース番組を見て、「この問題、いまそうなっているのか」と思えるよう、前提となる知識を身につける。そして、その問題について自分の意見を持てるようにする。
授業方法と留意点	ひとつの時事のテーマを講義２回で扱う。時事を扱うため、夏までの情勢を見たあとに授業計画を確定する。講義では、簡単なレジュメを配布し、ニュース映像や新聞記事を多用する。毎回、知識の確認や自分の意見を書く確認ペーパーを課す。受講者とのやりとりを心がける。
科目学習の効果（資格）	公務員試験では、教養科目でも社会科学や政治の時事の知識が問われる。民間企業の採用試験でも、一般常識として、政治の仕組みの基礎や時事が問われる。職業社会人と会話をするうえで、政治や政策の話題についていく最低限の知識は不可欠である。この講義では、こういった知識や常識を身につける出発点を提供したい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	いまの政治・政策の大きな課題に目をとおしてみる。	講義で扱う時事について、学生とやりとりをしながら、いまの政治・政策の大きな課題の概要を確認する。	講義で勧めるニュース番組を通して見てみる。
2	橋下維新、大阪都構想をどう見る？（1）	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た橋下維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く。
3	橋下維新、大阪都構想をどう見る？（2）	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た橋下維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く。
4	日本の内閣はなぜ長続きしない？（1）	近年、内閣が約１年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となるのか自分の意見を整理して書く。
5	日本の内閣はなぜ長続きしない？（2）	近年、内閣が約１年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となるのか自分の意見を整理して書く。
6	消費税を上げるのに賛成？（1）	2014 年 4 月に 8%に上り、10%への増税も予定されている消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く。
7	消費税を上げるのに賛成？（2）	2014 年 4 月に 8%に上り、10%への増税も予定されている消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く。
8	尖閣諸島・竹島にこだわる？（1）	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く。
9	尖閣諸島・竹島にこだわる？（2）	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く。
10	日本は TPP に参加すべきだと思う？（1）	原則、関税を撤廃する TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く。
11	日本は TPP に参加すべきだと思う？（2）	原則、関税を撤廃する TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く。
12	いじめ、体罰、児童虐待はなぜ起こる？（1）	身近な日常で起きている肉体的・精神的暴力の問題を扱う。学校、部活、家庭でどのような暴力があるか、具体的な事件を取り上げ、現場での対応の問題を考えてもらう。	配布した新聞記事を読む。いじめ、体罰、児童虐待にどう対応したらよいか、自分の意見を整理して書く。
13	いじめ、体罰、児童虐待はな	身近な日常で起きている肉体的・精神的	配布した新聞記事を読む。いじめ、体罰、児童虐待

		ぜ起こる？（2）	暴力の問題を扱う。学校、部活、家庭でどのような暴力があるか、具体的な事件を取り上げ、現場での対応の問題を考えてもらう。	にどう対応したらよいか、自分の意見を整理して書く。
	14	どうして大阪は治安が悪い？（1）	地元大阪で、本年度どのような犯罪が起きているか、具体例で説明する。犯罪の数え方を説明したうえで、大阪の治安が他府県と比較して悪い現状を認識してもらう。	配布した新聞記事を読む。どうして大阪は治安が悪いのか、自分の意見を整理して書く。
	15	どうして大阪は治安が悪い？（2）	地元大阪で、本年度どのような犯罪が起きているか、具体例で説明する。犯罪の数え方を説明したうえで、大阪の治安が他府県と比較して悪い現状を認識してもらう。	配布した新聞記事を読む。どうして大阪は治安が悪いのか、自分の意見を整理して書く。

関連科目	「政治」「政策」「行政」「地方自治」と名のつく講義につながる基礎科目である。中学・高校の社会（公民分野）が苦手だったという人は、前期の「政治と政策」を受講しておくことを勧める。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、講義毎回の確認ペーパー30%、受講態度（投げかける質問に対する発言など）10%で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	どんな仕事に就いても、政治や政策の問題は避けられません。領土をめぐって中国や韓国との争いが厳しくなったり、国の借金が増え円高になり輸出に不利になったりすれば、よい製品も売れなくなります。加えて、教育や治安は、家庭を持ち子どもを育てることになるすべての大人に共通の問題です。自分と家族を守るために、毎日の政治・政策のニュースに関心が持てるようになってほしいと考えて、講義をしていきます。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室
備考	

科目名	政治過程論	科目名（英文）	Political Process
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松永　信一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会で世論の影響力は大きい。その動向に深いかかわりを持つマスメディアについて説明する。
到達目標	成熟した市民社会の一員にふさわしい政治を見る目と、政治に関心をもち政治に関与しようという態度を養う。
授業方法と留意点	プリントを配布し、講義する。配られたプリントは必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	ジャーナリスト、マスコミ、公務員、議員、社会科教員、ＮＰＯ団体職員などの公共的な仕事に関心を持つものに向く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業のやり方、成績評価基準，授業内容の概要。	プリントを見直し、マスメディアの動きを観察しよう。
2	「小泉劇場について」	派閥政治とマスメディアによる政治	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
3	近代社会におけるマスメディアの発達。	活字メディアから電子メディアへ	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
4	政治情報が流れるルート	マスコミュニケーションルートと対人コミュニケーションルート	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
5	政治的リーダーシップにおけるイメージと言葉（1）	民主主義の大衆化とウェーバーの「支配の３類型」	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
6	政治的リーダーシップにおけるイメージと言葉（2）	イメージ操作と失言・放言、スキャンダル	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
7	政治家と人気	マスメディアの発達と「有名性」の変遷	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
8	マスメディアの効果研究（1）	限定効果論	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
9	マスメディアの効果研究（2）	議題設定機能と現実定義機能	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
10	マスメディアの効果研究（3）	ニュースの製作現場	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
11	マスメディアの効果研究（4）	日本のニュース製作現場	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
12	マスメディアの効果研究（5）	沈黙の螺旋仮説と世論の風向き	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
13	マスメディアの効果研究（6）	培養分析	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
14	マスメディアの効果研究（7）	メディアイベントと「開票速報番組」	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
15	おわりに	授業全体のまとめと試験の傾向と対策	試験の範囲を念頭に置きつつ、プリントを見直す。

関連科目：政治、国際、行政関連科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の結果と数回の小レポートの評価による。
学生へのメッセージ	テレビを真剣に見よう。新聞をじっくり読もう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　松永准教授室
備考	

科目名	政治史	科目名（英文）	Political History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	河原　匡見
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	本講義では、政治史を、特定の国または地域の、特定の時代について学んでいく。今年度は、日本の近代政治体制の確立過程をみていく。そして、現在のアジア諸国と日本の関係の背景的要因のうち、最も影響の強いこの時期の政治史を学ぶことによって、それが現在の両者の関係とどのように関わっているのかをより深く考える材料を提供したい。
到達目標	現代日本の法制度の基礎が確立された明治前期の経緯を学ぶ。
授業方法と留意点	講義形式で行う。毎回ワークブック形式のレジュメを配布するので、聴講しながら、それを完成させて理解を深めていく。また、より詳細な解説については各自の判断でノートすること。
科目学習の効果（資格）	歴史を見る眼と日本の近代政治の展開に関する基礎知識の習得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認調査	高校時代に歴史科目を履修した人は教科書を読み直してみましょう。
2	学問としての政治史	歴史を見る眼について	配布した資料で復習してください。
3	西洋からの衝撃と体制の動揺（1）	開国と江戸幕府の終焉（1）	配布した資料で復習してください。
4	西洋からの衝撃と体制の動揺（2）	開国と江戸幕府の終焉（2）	配布した資料で復習してください。
5	新政府の樹立と中央集権化（1）	新政府の樹立と旧勢力の抵抗	配布した資料で復習してください。
6	新政府の樹立と中央集権化（2）	中央集権の強化（1）	配布した資料で復習してください。
7	新政府の樹立と中央集権化（3）	中央集権の強化（2）	配布した資料で復習してください。
8	新政府の外交政策（1）	初期外交と国境画定交渉	配布した資料で復習してください。
9	維新政策への反抗と政府の対応（1）	民衆・旧士族の反抗	配布した資料で復習してください。
10	維新政策への反抗と政府の対応（2）	自由民権運動（1）	配布した資料で復習してください。
11	維新政策への反抗と政府の対応（3）	自由民権運動（2）	配布した資料で復習してください。
12	国家財政の強化と体制の整備	松方財政と諸法制度の整備	配布した資料で復習してください。
13	立憲体制の確立	国会の開設と初期議会	配布した資料で復習してください。
14	新政府の外交政策（2）	条約改正交渉および大津事件について	配布した資料で復習してください。
15	総括	講義のまとめ・期末試験の説明	配布した資料で復習してください。

関連科目：政治学関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の成績によって評価する（なお、定期試験を必ず受験することが単位取得の最低条件である）。
学生へのメッセージ	歴史を知らない、あるいは興味を感じない学生が増えているともいわれていますが、せめて自分の国の近代以降の政治の歴史についての知識をしっかりもってほしいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	

科目名	政治と政策	科目名（英文）	Politics and Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	テレビのニュース番組を見て政治・政策の話題がわかるようになるには、その話題の前提になっている知識の理解が必要である。従来の入門講義（現在の「政治学概論」）では、この知識を説明し、大きな課題の経緯、現状、今後を理解してもらうようにしてきた。しかし、その知識のさらに前提となる部分についてあまり知らない学生も増えてきたので、そういった学生のため、政治の「超」入門の解説をするのがこの講義の目的である。
到達目標	政治や政策の話題で必ず出てくる、ニュースでは「当たり前」の言葉を理解できるようにする。
授業方法と留意点	ひとつの項目のテーマを講義２回で扱う。講義では、簡単なレジュメを配布し、ニュース映像や新聞記事を多用する。毎回、知識の確認や自分の意見を書く確認ペーパーを課す。受講者とのやりとりを心がける。
科目学習の効果（資格）	公務員試験では、教養科目でも社会科学や政治の時事の知識が問われる。民間企業の採用試験でも、一般常識として、政治の仕組みの基礎や時事が問われる。職業社会人と会話をするうえで、政治や政策の話題についていく最低限の知識は不可欠である。この講義では、こういった知識や常識を身につける出発点を提供したい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	政治のニュースを見る	政治のニュースを見て、使われている言葉と、「当たり前」とされている知識を検討する。	講義で勧めるニュース番組を通して見てみる。
2	選挙（1）	小選挙区、比例代表といった選挙制度の種類とそれぞれの特徴を整理する。	配布した新聞記事を読む。選挙に対する自分のイメージを整理して書く。
3	選挙（2）	衆参両院、知事・市町村長、地方議会の選挙の制度と実際を知る。	配布した新聞記事を読む。選挙の実際に対する自分の意見を整理して書く。
4	政党（1）	与党・野党、党員、党役員、公約、党議拘束などの基本用語を整理する。	配布した新聞記事を読む。政党に対する自分のイメージを整理して書く。
5	政党（2）	日本の現在の各政党の特徴を知る。	配布した新聞記事を読む。政党の実際に対する自分の意見を整理して書く。
6	国会（1）	衆議院と参議院との関係、本会議と委員会、立法過程などの制度を理解する。	配布した新聞記事を読む。国会に対する自分のイメージを整理して書く。
7	国会（2）	首相演説、代表質問、委員会質問、政府答弁、党首討論などの国会審議の実際を見る。	配布した新聞記事を読む。国会の実際に対する自分の意見を整理して書く。
8	内閣（1）	内閣の構成、首相・大臣の権限、閣議などの制度を理解する。	配布した新聞記事を読む。内閣に対する自分のイメージを整理して書く。
9	内閣（2）	首相のリーダーシップ、内閣官房長官の役割、国会や与党との関係など、実際の内閣の動きを知る。	配布した新聞記事を読む。内閣の実際に対する自分の意見を整理して書く。
10	官僚（1）	日本の省庁の体制、公務員の種類、仕事の広がりなど、行政の仕組みを理解する。	配布した新聞記事を読む。官僚に対する自分のイメージを整理して書く。
11	官僚（2）	国会、内閣、与党に対する官僚の実際の動きを把握する。	配布した新聞記事を読む。官僚の実際に対する自分の意見を整理して書く。
12	政党と民間団体との関係	業界団体、労働組合、宗教団体がなぜ、どのように政治と関わるか考える。	配布した新聞記事を読む。各種団体に対する自分のイメージ、意見を整理して書く。
13	無党派層	特定の支持政党を持たない無党派層の動向が近年、選挙で特に注目を集める理由を探る。	配布した新聞記事を読む。無党派層に対する自分のイメージ、意見を整理して書く。
14	地方自治（1）	国、都道府県、市町村間の政治、行政の関係を知る。	配布した新聞記事を読む。地方政治に対する自分のイメージを整理して書く。
15	地方自治（2）	大阪、名古屋、沖縄などを例に挙げて、なぜ近年、地方政治が話題になっているのか考える。	配布した新聞記事を読む。地方政治の実際に対する自分の意見を整理して書く。

関連科目	後期の「政治学概論」の前提となる「超」入門科目である。中学・高校の社会（公民分野）が苦手だったという人は、「政治学概論」を受講する前に本講義を聴いてほしい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、講義毎回の確認ペーパー30%、受講態度（投げかける質問に対する発言など）10%で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	毎日ニュースを見ている大人は、知らず知らずのうちに「当たり前」の前提に立って話をしています。その「大人」向けにニュースは編成されているのですから、「当たり前」を知らない人にとっては関心を持ちにくいものであって当然です。この講義では、「大人」の仲間入りができるよう、「当たり前」をなしで話をしたいと考えています。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室
備考	

科目名	西洋女性史	科目名（英文）	History of Women in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小宮山　直子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）【施行規則に定める科目区分】「日本史及び外国史」【教員免許状取得のための履修区分】選択【科目】教科に関する科目（高等学校　地歴）【施行規則に定める科目区分】「外国史」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	西洋社会における女性の地位について概説する。古代から現代までの重要な人物や事件・事項をとりあげ、できるだけ具体的なイメージがわくようにパワーポイントやＤＶＤを利用しながら講義する。この授業により、高校までの世界史のイメージが大きくかわるはずである。
到達目標	西洋の古代から現代までの重要人物や出来事を通して、各時代の社会における女性の地位について学ぶことにより、西洋史の知識を深める。
授業方法と留意点	毎回、授業の内容要約プリントと参考資料プリントを 1-2 枚程度配布する。パワーポイントおよび図を多くしてわかりやすい講義にしたい。授業の進行にあわせて、２回分のテーマを１回にまとめることもあります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や企業採用試験の一般教養科目対策として有益である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	西洋社会における女性像の原点ー聖書における女性像（イブとマリア）	授業全体の目的。創世記におけるアダムとイブの物語における女性像など。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
2	古代ギリシア・ローマ社会における女性の地位	古代ギリシアのポリス、アテネの市民女性。古代ローマ皇帝の妻たち。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
3	１５世紀のジャンヌ・ダルク裁判（フランス）	農民の娘ジャンヌ・ダルクは、神の啓示をうけてフランス国王の信任をうけ、イギリスとの戦争でフランスを率いた。その後、異端として火あぶりになる。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
4	１６世紀宗教改革と女性ーヘンリー８世の離婚問題とアン・ブーリンの処刑（イギリス）	ヘンリー８世は息子にめぐまれず、ローマ教会と決別してまで離婚して、アン・ブーリンと再婚。その後、アンは姦通罪で処刑される。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
5	エリザベス女王と絶対主義（イギリス）	母アンは処刑、姉メアリー１世との確執。エリザベスはのち女王として復活する。父がはじめたイギリス国教会を確立させ、スペイン無敵艦隊をやぶった女王。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
6	１７世紀の魔女裁判ーマリア・ホルの場合（ドイツ）	魔女狩りにおける女性たちの苦しみ。なぜ女性が魔女に仕立て上げられたのか？マリア・ホル裁判などを通して魔女裁判を考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
7	１８世紀啓蒙主義と女性ーサロン文化とポンパドゥール夫人（フランス）	女性たちが主宰するサロンは啓蒙主義を支えた。ルイ１５世の愛人であったポンパドゥール夫人は、啓蒙主義を支援する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
8	１７８９年フランス革命と女性ー王妃マリー・アントワネットの処刑（フランス）	フランス革命における女性たち。王妃マリー・アントワネットは美貌の王妃として贅沢を極めたが、フランス革命のなかで断頭台の露と消える。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
9	１７８９年フランス人権宣言と女権宣言ーオランプ・ドゥ・グージュの挑戦	グージュは人権宣言を批判し、女権宣言を書く。女性も政治的意見を言う権利があると主張した彼女は、ギロチンで処刑される。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
10	皇帝ナポレオン（１８０４年）とジョゼフィーヌ	ナポレオン・民法典起草委員の見解などを通して、民法典の成立過程を考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
11	フランス民法典ー近代市民法と家父長制	フランス民法典のなかの女性、近代的家父長制の特徴を民法典を通して考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
12	１９世紀近代家族の成立と専業主婦の誕生ーモデルとしてのヴィクトリア女王（イギリス）	ヴィクトリア女王時代の女性像を考察する。理想的な女性イメージの形成にヴィクトリアの果たした役割とは。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
13	19 世紀フランス社会と女性	19 世紀の労働者女性の地位は。また、近代的公娼制についても考察する。（１９世紀フランスを中心に）	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
14	１９世紀末～20 世紀初頭フェミニズムの第１の波（欧米全体）／２０世紀後半フェミニズムの第２の波	第１波：参政権と高等教育（大学への入学資格）を求めた運動はいかにして成功したか？女性の服装の変化（ココ・シャネルの革新性）／第２波：公民権運動のなかでウーマン・リブ運動が生まれ、女性解放が大きく進んだ。労働条件の均等化やセクハラ・ＤＶ・セカンドレイプが問題にされていく。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
15	２１世紀グローバル社会での女性問題	いまなお世界で繰り返される女性に対する暴力の実態。内戦や戦争時の性暴力。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。

関連科目	法とジェンダーの歴史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ジェンダーの法史学	三成美保	勁草書房
2	ジェンダーの比較法史学	三成美保編	大阪大学出版会
3	権力と身体（ジェンダー史叢書第１巻）	服部早苗、三成美保編	明石書店

評価方法（基準）	定期試験８０％、平常点（授業内の提出物、学習態度など）２０％によって総合的に評価します。（詳細は初回の授業で説明します）
学生へのメッセージ	楽しく教養を深めるのに役立つ授業です。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	西洋の裁判の歴史	科目名（英文）	History of Trial in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小宮山　直子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　地理歴史）　【施行規則に定める科目区分】外国史　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	西洋社会における法と裁判の歴史につき、とくに刑事裁判の歴史を概説します。古代ギリシアから戦後まで、裁判制度と著名な裁判をとりあげて論じます。できるだけＤＶＤによる映像を授業に取り入れ、具体的なイメージがわくようにします。専門科目としての刑法や刑事訴訟法の基礎となります。裁判員制度が導入された現在、裁判に関する基礎知識として役立ててもらいたいと思います。
到達目標	古代ギリシアから戦後まで、西洋社会における裁判制度と著名な裁判に関わる基礎知識を修得する。
授業方法と留意点	毎回 1-2 枚程度のプリント（レジュメ）を配布します。わかりやすくするために、DVD やパワーポイントを用います。授業の進行状態にあわせて、２回分のテーマを１回にまとめることもあります。
科目学習の効果（資格）	教職科目（中学社会科・高校公民・高校地歴）に必要です。公務員試験や就職試験の一般教養（SPI 対策）としても有益です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	序論ー日本と西洋の裁判の比較	授業内容の概説、裁判や権利に関する意識の異同、制度の相違、歴史的な変化についての概要	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
2	古代ギリシア・ローマの裁判	ソクラテス裁判、イエス・キリスト裁判などの有名な裁判をとおして、裁判とは何かを考える。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
3	古代ゲルマンの裁判ー裁判集会型法発見	裁判が成立するまえは、自力救済が基本。自由人成人男性が裁判集会をひらいて判決を発見した。そのさい、水審・火審・決闘などの深神判も利用された。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
4	イングランドにおける裁判（１）	ノルマン制服後、陪審制は国土支配の道具として導入された。起訴陪審・判決陪審・神判の禁止（ラテラノ公会議）。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
5	イングランドにおける裁判（２）	『ユートピア』の著者として知られる大法官トマス・モアは、国王ヘンリー８世の離婚と国教会の創設に反対して陪審裁判にかけられる。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
6	近世の裁判（１）教会裁判の発展と糾問主義の成立	裁判集会型法発見では、ゲルマンの神々が裁判にいかに利用されたのか。雪冤宣誓・神判（火審・水審・決闘）教会裁判所・刑事裁判の変化・糾問主義の成立・拷問・魔女裁判	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
7	近世の裁判（２）フランス・アンシャンレジーム期の裁判	カラス事件などを通して、フランス・アンシャンレジーム期の裁判を考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
8	フランス革命と裁判（１）	フランス革命期の裁判制度改革を考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
9	フランス革命と裁判（２）	フランス革命期に導入された陪審制について考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
10	１９世紀の裁判（１）ドイツ	陪審制から参審制の移行について、19 世紀のドイツを中心に考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
11	１９世紀の裁判（２）フランス	19 世紀末のフランスで起こった軍部による組織的な冤罪事件。被告人ドレフュスはユダヤ人将校であり、文豪エミール・ゾラが事件を糾弾したことで有名。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
12	２０世紀の裁判（１）白バラ事件	ナチスへの抵抗として大学内でビラを配っただけで死刑になったミュンヘン大学生たち。そのなかにゾフィーも兄とともにいた。裁いたのは民族裁判所。後世に「司法殺人」として知られる組織である。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
13	２０世紀の裁判（２）ニュルンベルク裁判と東京裁判	戦後国際裁判として知られる二つの裁判。ナチス幹部はどのような罪で裁かれたのか。また、日本の戦犯はどのように裁かれたのか。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
14	２０世紀の裁判（３）戦後ドイツの司法改革、他	「開かれた司法」をめざしたドイツの戦後改革。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
15	２１世紀への展望ー復習とまとめ	授業内容のまとめと復習をする。半年間の授業をもとに、国民が裁判に参加する制度の国際比較を整理する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。

関連科目：西洋の人権の歴史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	概説西洋法制史	勝田有恒他編	ミネルヴァ書房
2	ドレフェス事件のなかの科学	菅野賢治	青土社

	3			
評価方法 （基準）	定期試験 80%、授業内の提出物など 20%によって総合的に評価します（詳細は初回の講義で説明します）。授業中の私語については、厳しく対処します。			
学生への メッセージ	高校で世界史を勉強したことがない人にもわかりやすい授業をするつもりですので、歴史が苦手な人もふるって履修してください。わからない点は、いつでも気軽に質問してください。			
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）			
備考				

科目名	西洋の人権の歴史	科目名（英文）	History of Human Rights in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山　直子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）【施行規則に定める科目区分】「日本史及び外国史」【教員免許状取得のための履修区分】選択【科目】教科に関する科目（高等学校　地歴）【施行規則に定める科目区分】「外国史」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	日本は、明治維新ののち近代化をなしとげるために西洋社会から多くの文化を取り入れました。授業では、西洋社会がはぐくんだ法文化の歴史的基礎について、法と社会の関係に重点をおいて説明します。焦点をあてるのは、西洋における人権保障のありかたとその歴史的変化です。とくに１６世紀以降を中心とします。専門科目としての憲法Ｉ（人権）の基礎となります。
到達目標	西洋社会が現代のわたしたちに伝える重要な文化について、特に西洋における人権の歴史についての基本知識の修得を目標とします。
授業方法と留意点	毎回 1-2 枚程度のプリントを配布します。パワーポイントを用いて、図版や資料を示し、わかりやすい授業をめざします。授業の進行にあわせて、２回分のテーマを１回にまとめることもあります。
科目学習の効果（資格）	教職科目（中学社会・高校公民・高校地歴）に必要です。公務員試験や就職試験の一般教養（SPI 対策）としても有益です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに―近代日本における西洋文化の受容	明治政府・近代化・お雇い外国人	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
2	古代ローマの市民と奴隷の法（権利）の違い（紀元前１世紀～紀元後３世紀）	奴隷と市民の法（＝権利）はどのように違っていたのか。古代ローマ法（市民法・万民法・勅法）の特徴についても説明する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
3	ユースティーニアーヌス法典が生まれて復活するまで（６世紀～１２世紀）	ユースティーニアーヌス法典（ローマ法大全）の成立。ビザンツ皇帝ユースティーニアーヌス、法典編纂、ローマ法学の復活・ボローニア大学法学部の成立・ローマ法の継受。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
4	中世ヨーロッパ社会の市民と農民（１２～１５世紀）	身分制社会の基本原理としての「不平等」・特権としての「自由」・封建法・農村慣習法	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
5	自然法思想の成立（１７世紀）	大航海時代におけるアメリカ大陸原住民の殺害に対するル反省としてスペインでおこった自然法思想、理性法とよばれた近世自然法、グロティウス、社会契約論（ロック）と自然法との関係。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
6	人権宣言とフランス革命（１７８９年）	フランス革命で市民がもとめた「自由と平等」。それでも財産等による差があった。フランス革命（1789 年）・中間法・人権宣言・近代市民社会。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
7	ナポレオンと近代市民法―フランス民法典（１８０４年）	近代市民法の原点ともいうフランス民法典の成立過程とその特徴。皇帝ナポレオンはいかに民法典に関心をもったか。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
8	19 世紀フランス社会と法	19 世紀フランスの市民社会、選挙権をめぐる動きについて考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
9	法典論争（１８１４年）と歴史法学派	1814 年にサヴィニーとティボーのあいだでかわされた法典論争の意義。歴史法学派・ローマ法学とゲルマン法学。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
10	プロイセン修正憲法の成立（１８５０年）	大日本帝国憲法の重要なモデルとなったプロイセン憲法の成立過程。フランクフルト憲法、三級選挙制。労働者の権利を求める運動のはじまり。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
11	ドイツ民法典（１８９６年）の成立	日本民法典のモデルとされたドイツ民法典の成立過程。パンデクテン法学、ドイツ民法典第一草案。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
12	ワーマール憲法（１９１９年）―社会権、生存権	現代型憲法としてのワイマール憲法の特徴。なぜ、ワイマール憲法はナチスによって利用・否定されたか。社会権・社会国家・ワイマール共和国。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
13	ナチス国家の法体制（１９３３～４５年）―人権の抑圧	ナチス憲法体制・全権委任法・ホロコースト。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
14	女性の権利をもとめて―女性解放運動（フェミニズム）の高まり（１９６０年代）	女性解放運動の２回の波。第１の波（１９世紀末～２０世紀初頭）、第２の波（１９６０年代以降）	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
15	授業のまとめと復習―グローバル社会における人権保障	人権保障にはまだまだ多くの課題がある。授業をふりかえって歴史を確認し、今後の課題を展望する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。

関連科目	西洋の裁判の歴史、法とジェンダーの歴史、西洋女性史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法制史入門	三成美保他	ナカニシヤ出版
2	概説西洋法制史	勝田有恒他編	ミネルヴァ書房

	3	ジェンダーの法史学	三成美保	勁草書房
評価方法 （基準）	定期試験８０％、授業内の提出物など２０％によって総合的に評価します。（詳細は初回の講義で説明します）授業中の私語については、厳しく対処します。			
学生への メッセージ	高校での世界史しか勉強しなかった人にもかわりやすい授業をします。気軽に質問してください。			
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）			
備考				

科目名	世界の政治	科目名（英文）	World Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森　康一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	前半は「政治」についての理論的概説をし、後半は現在につながる世界情勢を、ヨーロッパを中心に歴史にもふれながら述べていきたい。 現実の国際政治は歴史と深く関わっているということを理解し、国際政治を見る目を養うことが目標である。
到達目標	政治学の基本的な項目と、現代の国際政治を考える上での歴史の流れを習得することを目標とする。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。大学の講義におけるノートの作り方の訓練もしてほしい。
科目学習の効果（資格）	政治の基本について学び、歴史的知識も得ることで、日々の国際情勢への理解がより深まることを目指したい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の国際面を読む習慣をつける
2	「政治」とはなにか	「政治」の概念について	政治学に関する参考文献を読んでおく
3	近代国家の誕生	近代国家とはなにか、またその誕生について	政治学に関する参考文献を読んでおく
4	国家の政治体制（1）	政治体制とは何か、および政治体制の分類について	政治学に関する参考文献を読んでおく
5	国家の政治体制（2）	自由民主主義体制の分類について	政治学に関する参考文献を読んでおく
6	国家の政治体制（3）	非自由民主主義体制の分類について、および体制変動について	政治学に関する参考文献を読んでおく
7	国際政治の見方	リアリズムとリベラリズムについて	国際政治に関する参考文献を読んでおく
8	国際関係の歴史（1）	ウェストファリア体制について	ヨーロッパの政治史に関する参考文献を読んでおく
9	国際関係の歴史（2）	ウィーン体制とヨーロッパ協調について	ヨーロッパの政治史に関する参考文献を読んでおく
10	国際関係の歴史（3）	ヴェルサイユ体制について	ヨーロッパの政治史に関する参考文献を読んでおく
11	国際関係の歴史（4）	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	現代国際政治に関する参考文献を読んでおく
12	国際社会のとらえ方	現代の「国家体系」について	政治学に関する参考文献を読んでおく
13	現代の世界情勢	「地域」「問題」「時期」による世界情勢のまとめ	現代国際政治、特に「紛争」に関する参考文献を読んでおく
14	事例研究として：ヨーロッパの小国の政治	チェコの政治史について	事例研究をもとに、小国と大国との関係について整理しておく
15	まとめ	講義のまとめと、試験について	試験に向けたノート作りをしておく

関連科目：国際関係論・国際関係史など、国際関係の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末の試験の結果によって評価を行う。出席をとる予定です。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。共に勉強しましょう。
担当者の研究室等	11号館5階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	世界の政治と社会	科目名（英文）	Politics and Society of the World
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森　康一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	前半は「政治」についての理論的概説をし、後半は現在につながる世界情勢を、ヨーロッパを中心に歴史にもふれながら述べていきたい。 現実の国際政治は歴史と深く関わっているということを理解し、国際政治を見る目を養うことが目標である。
到達目標	政治学の基本的な項目と、現代の国際政治を考える上での歴史の流れを習得することを目標とする。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。大学の講義におけるノートの作り方の訓練もしてほしい。
科目学習の効果（資格）	政治の基本について学び、歴史的知識も得ることで、日々の国際情勢への理解がより深まることを目指したい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の国際面を読む習慣をつける
2	「政治」とはなにか	「政治」の概念について	政治学に関する参考文献を読んでおく
3	近代国家の誕生	近代国家とはなにか、またその誕生について	政治学に関する参考文献を読んでおく
4	国家の政治体制（1）	政治体制とは何か、および政治体制の分類について	政治学に関する参考文献を読んでおく
5	国家の政治体制（2）	自由民主主義体制の分類について	政治学に関する参考文献を読んでおく
6	国家の政治体制（3）	非自由民主主義体制の分類について、および体制変動について	政治学に関する参考文献を読んでおく
7	国際政治の見方	リアリズムとリベラリズムについて	国際政治に関する参考文献を読んでおく
8	国際関係の歴史（1）	ウェストファリア体制について	ヨーロッパの政治史に関する参考文献を読んでおく
9	国際関係の歴史（2）	ウィーン体制とヨーロッパ協調について	ヨーロッパの政治史に関する参考文献を読んでおく
10	国際関係の歴史（3）	ヴェルサイユ体制について	ヨーロッパの政治史に関する参考文献を読んでおく
11	国際関係の歴史（4）	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	現代国際政治に関する参考文献を読んでおく
12	国際社会のとらえ方	現代の「国家体系」について	政治学に関する参考文献を読んでおく
13	現代の世界情勢	「地域」「問題」「時期」による世界情勢のまとめ	現代国際政治、特に「紛争」に関する参考文献を読んでおく
14	事例研究として：ヨーロッパの小国の政治	チェコの政治史について	事例研究をもとに、小国と大国との関係について整理しておく
15	まとめ	講義のまとめと、試験について	試験に向けたノート作りをしておく

関連科目：国際関係論・国際関係史など、国際関係の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末の試験の結果によって評価を行う。出席をとる予定です。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。共に勉強しましょう。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	選挙と政党	科目名（英文）	Election and Party
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松永　信一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	現代政治における選挙と政党の問題について講義する。選挙は市民が政治に関わる最も一般的な装置であり、政党はそれを手助けする組織である。
到達目標	成熟した市民社会の一員にふさわしい政治を見る目と、政治に関心をもち政治に関与しようという態度を養う。
授業方法と留意点	講述形式でプリントを配る。配られたプリントは必ず毎回持参すること。
科目学習の効果（資格）	ジャーナリスト、公務員、議員、社会科教員。いくつかの公務員試験や就職試験時事問題対策になる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の趣旨と進め方	プリントを読み直すこと。
2	選挙制度	小選挙区と大選挙区、各国の選挙制度	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
3	投票行動（1）	有権者の意識と投票 有権者の社会環境と投票行動	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
4	投票行動（2）	有権者の心理と投票行動	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
5	日英選挙運動の比較	イギリスの保守党と日本の自民党について	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
6	日本の選挙運動（1）	民俗の中の選挙	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
7	日本の選挙運動（2）	後援会組織	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
8	政党　（1）	定義と歴史的展開	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
9	政党（2）	政党組織の類型	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
10	政党　（3）	政党システム	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
11	戦後日本の政党（1）	自民党	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
12	戦後日本の政党（2）	社会党及びそのほか野党	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
13	戦後日本の政党（3）	無党派層とイメージ選挙	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
14	90 年代の選挙と政党	マスメディアの役割	プリントを復習し、不明部分を参考書などで明らかにしていくこと。
15	総括	まとめと試験の傾向と対策	テスト範囲を念頭に置きながら、プリントを読み返す

関連科目：政治学および国際関係論関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の結果と数回の小レポートの評価による。
学生へのメッセージ	毎日の新聞やテレビで報じられる政治ニュースに注目しよう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　松永准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山　昇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門演習Ⅰは、３年次の専門演習Ⅱ（通年）での理解に必要な基礎的知識の再確認を主眼とします。国際私法の講義は３年次の開講ですので、この演習では、２年次までに履修する授業科目を中心に、関連知識を整理することが目的となります。
到達目標	国際私法の理解に必要な知識として、特に、民法（総則、物権、債権、親族、相続)の基本的知識の理解を目標とします。
授業方法と留意点	国際私法に関連する基礎的知識について、体系的に整理し、「それらの問題点は何か」「何が重要な事項なのか」といったことを資料として配付し、問答形式で行うこととします。なお、理解度の確認のための課題レポートの提出を最後に求めます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１．専門演習Ⅰの進め方、３年次(専門演習Ⅱ)、卒業研究との関係などの説明 ２．財産法・家族法の順序で、国際私法に関連する重要事項を検討する。 ３．家族法に関連して、戸籍法の知識を確認する。 ４．国際私法の概略を説明し、総括する。 １については、１回程度 ２、３については、１２回程度 ４については、２回程度を使って行う。
関連科目	民法総則、物権法、担保物権法、債権法、親族法、相続法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要な資料は配付します		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケット六法	井上正仁ほか編集	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	課題レポートの理解度を中心として、質問に対する発言状況も加えて総合的に評価します。
学生へのメッセージ	民法体系を考えながら、民法関係全般の基礎知識を再確認しましょう。
担当者の研究室等	１１号館９階　小山教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金谷　重樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門演習Ⅰは、専門演習の入り口です。そこで、この専門演習Ⅰでは、本格的に行政法上の事例を学び研究する３年次での専門演習へ向け、初歩的な行政法上の事例を取り上げます。 法的思考の中でも、行政法的な思考を培うことを目標とします。
到達目標	行政法に関する基本的知識を修得する。
授業方法と留意点	授業は各自が、自ら選択したテーマについて、その研究結果を発表し、全員で討論する方法をとります。 積極的に発言していただくことを期待しています。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	１．毎回、２人から３人程度に報告してもらいます。 ２．報告の内容に対して、全員で討論を行います。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	演習での積極性を評価の対象とします。
学生へのメッセージ	必ず、毎回、出席すること。
担当者の研究室等	１１号館９階　金谷教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　輿志夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、４年で求められる卒業論文の作成に役立つことを目的とした指導を行う。また、学生が研究のテーマを決めていない場合は、商法、すなわち、会社法、手形・小切手法、商法総則、商行為法、金融商品取引法、保険法の中から適切なテーマについて、重要判例および学説の検討を行う。特に、金融関係の判例の分析を中心にする。あわせて、法学検定試験やビジネス実務法務検定試験対策についても指導する。
到達目標	商法全般の知識を習得する。
授業方法と留意点	まずは、重要判例の分析を行い、当該判例について学説の研究を行い、議論を深めて、法律学の習得をめざす。 積極的に議論に参加して欲しい。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習のテーマ・内容は、商法に関する重要な法律問題の研究である。 方法は、判例・学説の研究である。 事前事後学習課題は、割り当てられたテーマにつき十分に研究することである。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として定期試験は行いません。出席と受講態度を総合して、判定する。
学生へのメッセージ	演習には、必ず出席して、積極的に議論に参加してください。
担当者の研究室等	１１号館９階　牛丸教授室
備考	目的意識を見失わず、頑張ってください。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	糟谷　英之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門演習Ⅰは、３年次の「専門演習」と、４年次の「卒業研究」で国際法という専門分野を２年間深く勉強する前に、幅広く国際社会に目を向けてもらうことが目的です。
到達目標	新聞、インターネットなどのメディアを通じて国際問題について考え、国際法の基礎知識を身につけることが到達目標です。
授業方法と留意点	授業方法は、新聞、インターネットなどのメディアを通じて国際問題を考え議論すること。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	毎回新聞、インターネットなどを通じて設定される国際的なテーマに関して情報収集した上で各自の発表や全体での議論をします。国際法の基礎知識を得るために教員が講義することもあります。さらに教員及びゼミ生の交流を深めるためにコンパやゼミ研修旅行など学外活動なども計画することもあります。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として定期試験は行いません。授業への積極的な参加の程度で評価します。報告やレポート提出を課すことがあります。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷教授室
備考	定期試験は行わないので出席は必須です。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木村　秀一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門演習Ⅱ（３年ゼミ）では、会社法・有価証券法・独禁法の判例研究のいずれかについて、学生の希望に沿って授業をすることにします。ビジネスパーソンとしてコンプライアンス能力を養うのを目的とし、具体的にはビジネス実務法務検定試験３級に合格できる法知識の修得を目標とします。 本演習は専門演習の準備段階として、２年生にも取り組みやすい法分野の判例を選んで学習してもらいます。
到達目標	ビジネス実務法務検定試験３級に合格できる法知識を修得する。
授業方法と留意点	２～３人のグループに分けて、各グループに判例研究をしてもらい、その結果を発表してもらいます。発表日の欠席は厳禁です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	２年生でもとっつきやすい民法、労働法、刑法などの法分野から判例を選んでもらいます。もちろん、３年でやる会社法・有価証券法・独禁法の判例でもかまいません。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	発表の内容も評価する。なお、六法を必ず持って来ること。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１１号館１０階　木村教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牧田　勲
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本法史に関心をもち、またその基礎的な知識を身につけることを目標とする。日本の伝統的な法文化を知り、またそれが西欧法継受によって捨て去られることの意味を考えさせる。
到達目標	日本の法史に関心を持ってもらい、それにかかわる基本的知識を身に着けさせる。
授業方法と留意点	【授業内容】 「日本法の歴史」
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	学生諸君と相談の上、裁判史なり刑事法史なりといったテーマを設定して、そのテーマにそって、その時代の法文化を考えることにしたい。分担を決めるので、担当者は十分な準備が必要である。
関連科目	近世日本の法文化・日本の人権の歴史・家族と地域の歴史・日本女性史・祭りと地域の法社会史
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として定期試験は行わない。出席を重視するが、プレゼンテーションの回数や内容も評価の対象とする。
学生へのメッセージ	楽しく学び、ほどほどに息を抜きましょう。
担当者の研究室等	１１号館１０階牧田教授室
備考	歴史が好きで、意欲的に取り組むことのできる学生に選択してもらいたい。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小島　俊朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	このゼミでは、租税法の基礎的な知識を習得するとともに、税の世界の考え方に触れることができます。また、租税法は経済活動と密接に関係しており、租税について学ぶことは社会経済の動きを考えることにもつながります。 　社会人となれば何らかの形で経済活動に参画するため、租税と関連しないわけにはいきません。租税法は、皆さんが社会人となった場合にも有益な学問であり、いわゆる実学の代表格といえましょう。
到達目標	①租税の役割・目的について理解すること。 ②判例等の読み方に慣れること。 ③個人の確定申告書の作成ができるようになること。
授業方法と留意点	配付資料に基づき、問題点等について議論していきますので、自分の考えを積極的に発言してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	租税とは何か、租税はどのような役割を果たしているかなど、租税の基礎を学びながら、現在の社会経済との関わりについて考えていきます。この演習は、3年次での専門演習への導入という位置づけになります。 　租税とは何かということから始まり、租税法の体系や基本原則について学び、最後には個人の確定申告書を作成します。また、国税庁の配信するＶＴＲなどにより租税法と税務執行を視覚的に理解出来るように配意しています。
関連科目	国税通則法及び所得税法等の各税法、財政学、憲法
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点により評価します。
学生へのメッセージ	専門演習Ⅰ　は、将来かかわることになる租税の世界に慣れていただくことを主眼としています。皆さんは、消費税以外になじみがないかもしれませんが、所得税などについても比較的理解しやすい内容としていますので心配はいりません。一足先に社会人になったとお考えください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	ゼミは、社会に出てから要求される資質を向上させる機会の一つであり、出席することが重要です。自由に発言できる雰囲気のゼミにしましょう。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	河原　匡見
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	私たちは日頃、さまざまなメディアを通じて氾濫する情報の中で生活しており、必要な情報を取捨選択し、かつそれを正しく読み取っていくことが求められています。そういう『みる眼』を養っていくことを目的とした演習です。特に、新聞あるいはテレビから発信される情報との“大人のつきあい方”を模索していきます。
到達目標	国内外の情報に積極的に接していくとともに、マスメディアなどによって氾濫するさまざまな情報を的確に読み取り、自分にとって必要な情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	ゼミ形式。毎回欠かさず出席すること。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	政治や社会の動きをみる眼を養うことがテーマです。マスメディアのもつ特性やその発信するさまざまな情報についての基本的な視点を、実際の素材を用いながら学び考えていきます。3 年生の専門演習Ⅱでの学習を進めていくための必須となる社会情報の基礎分析力を養います。なお、演習の中で適宜、予習あるいは復習の課題を提示します。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として定期試験は行いません。演習での勉学姿勢、および提出物の内容などにより評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	演習では、積極的な参加が必要です。演習は、みなさんが、生来の資質を伸ばしたり、未知の可能性を見出したりするための、いわば知的な『共同訓練の場』といえます。ですから、演習に対しては、しっかりとした勉学の目的と意志をもって参加するようにしてください。演習によってどのような知識や思考方法が身に付くか、どのような新たな才能や可能性を見いだせるか、その成果は、みなさんの演習に対する積極さ如何に大きく関わってきます。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古川　行男
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	民事法の基礎的知識を確認し、深めることを目的とするゼミである。民事法は財産と家族という我々の日常生活に関する一連の法であって、現実の生活と密接に関係している。典型的裁判例、法ことわざを素材とすることにより民事法の基礎的知識を確実に習得することを目標とする。
到達目標	２年生時は民法の基礎的な知識の復習を主とし、３年生時以降に自主的な学習をするための準備期間としての性格が大きい。
授業方法と留意点	民事上の権利の発生・消滅に関する法（実体法）及び権利の実現に関する法（手続法）の基礎的事項と全体像を確認した上、重要な法律問題について検討・討論する。民事法は財産と家族という日常的で現実的なことを扱う法であり、現実の生活と関連づけて法律問題を検討することが重要である。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	基本的に２年生時は講義をするが、様子をみた上で判例プラクティスⅠ、Ⅱ、Ⅲ、判例百選から選んだ判例を検討する。 宅建等の資格試験にも有益なように、主に不動産及び債権の実現という現実的な問題について検討する。法律の学習には抽象的命題（条文、学説・判例）の具体例を知ることと紛争がどの命題に関する問題なのか二つの側面～「具体化と抽象化」、平たく言えば「例えば～､」と「要するに～､」～がある。論理の展開にはこの二つの側面（具体化と抽象化）を意識することが必要である。各ゼミ生は、このことに留意して与えられた題材に取り組むことが重要である。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	与えられた題材に対する取り組み、授業中の態度、出席状況によって評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　古川教授室
備考	積極的に議論すること

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松永　信一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	■「専門演習Ⅰ」は、専門演習の「準備体操」としてのゼミです。政治を中心に現代社会の様々な重要問題についての理解を深め、その中から自分が専門とするテーマを見つけ出してほしい。
到達目標	政治的、社会的問題についての情報に接近する習慣を身に着ける。
授業方法と留意点	【授業内容】 法律学的観点にこだわらずに、政治や社会の諸問題を考える。その際、『日本の論点 2014』（文芸春秋社刊）を利用したいと考える。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	『日本の論点 2015』から学生自身が関心あるテーマを選び、毎回、１から３名のものに報告してもらう。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業中の発言を中心とした態度、発表内容に注目し、チェックしていきたい。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階 松永准教授室
備考	何かある人は、以下のアドレスを使い、気軽に申し出てください。 matunaga @law.setsunan.ac.jp

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	卒業研究につながる演習の第一段階である。地域活動に参加して、現場を観察する。関係者の方に聞き取り調査をする。自分たちの行っている活動を学外の方に説明する。読書で知識を得て、それをまとめる。この４つの力をバランスよく養っていきたい。
到達目標	地域の現場に出る勇気を持つ。他の地域を見て、人の話を聞いて、自分の住む地域の特徴に気づくよう日々努める。
授業方法と留意点	地域活動に参加しての参与観察、聞き取り調査が最大の特徴の演習である。さまざまな立場、価値観の人たちとの交流を楽しんでほしい。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉の４つである。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。活動や聞き取り、読書で得られた知見のまとめへの熱意で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浮田　徹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	卒業研究につながる法学部の演習科目を行っていくにあたっての基礎的な力を身につけることを目的とします。
到達目標	問題発見・レジュメ作成・報告に関する基礎的な力を身につけます。
授業方法と留意点	個々人の力にある程度の差があることを前提としつつすべてのメンバーが基礎力を身につけていく経験を積んでいける機会を得られるようにするため、原則として出席して積極的に参加することが必要です。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマを決めていく段階から自主性を重んじますので開講後決定します。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加の程度とその都度の成果により評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「専門演習Ⅰ」は、3年次の「専門演習Ⅱ」と、４年次の「卒業研究」につながる演習であり、専門分野を２年半かけて深く学ぶための準備を行う。したがって、この準備を完了することが専門演習Ⅰの目的である。
到達目標	スポーツ活動を多面的に学び関連する知見を身につけること。
授業方法と留意点	・スポーツに関係する資料の輪読 ・レポートの作成 ・作成したレポートのプレゼンテーション ・ディスカッション
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・授業テーマ：「スポーツ活動を多面的に学ぶ」 ・方法と内容：スポーツに関係する資料輪読、レポートの作成、作成したレポートのプレゼンテーション、およびディスカッションを行う。 ・授業の都度指示する課題に対する予習と復習
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業への参加を前提とし、各回の取り組み（与えられた課題の完成度、プレゼンテーションの内容、ディスカッションでの発言等）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11号館10階　石井准教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	刑事手続をめぐる諸問題について、受講者の報告をもとに全体で討議する。
到達目標	刑事手続に関する十分な知識を修得する。
授業方法と留意点	受講生による報告を中心とする。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	専門文献、資料、判例、報道記事などを素材に刑事手続に関する基礎的な知識を習得するとともに、受講生が各自関心のあるテーマについて報告を行う。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	個別報告の内容、全体討議における発言・態度等を総合的に評価して判断する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家本　真実
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日頃、意識して「議論する」ということはあまりないかもしれませんが、日常生活において他の人と意見が異なることは多々あると思います。そのようなときに、話し合いによって自分の意見を相手方に理解してもらい、また相手方の意見を理解するということ、つまり相手方と「議論する」ことによって、お互いにとって納得できる合意を得ることが可能になります。そうして何らかの合意を得ることが必要な場面には、友人や家族などとの生活においてだけではなく、将来的には仕事をするうえでも遭遇することになります。そこでこのゼミでは、「議論する」ことに焦点を当てて、どうやって議論をしていくのか、相手に自分の意見を理解してもらうためにはどう話すべきなのか、また相手の意見を理解することがどれだけ重要なのか、といったことを少しずつ学んでいきたいと思います。 ３年次におこなう模擬裁判においても議論をすることがメインとなりますので、専門演習Ⅰはその準備期間という位置付けでもあります。
到達目標	議論を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考える力を養っていただくことを目標とします。
授業方法と留意点	毎回、2-3 人 1 グループを報告者として、一定のテーマについて基礎となる報告をおこなっていただきます。そのうえで、全員で、このテーマについて議論をしていただきます。したがって、報告者は、議論をおこなうことができるようなテーマを選択し、それについて基礎的な情報を提供することを目的としてレジュメを準備していただくとともに、報告当日の議論において司会を務めていただきます。 報告を聞く側の皆さんには、他人事のように報告を聞くのではなく、積極的に議論に参加するという姿勢をもって臨んでいただきたく思います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初回から 2～3 回程度は、報告にあたって必要な準備の方法などについて学びます。その後、各々の報告に移っていきたいと思います。皆さんが気楽に話せる内容を報告のテーマとしていただいて、とにかく自分の意見を口に出す、また自分の意見を他の人に理解してもらえるように話す、という練習をしていただきたいと思います。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	報告における準備や司会進行の様子、議論への参加の姿勢をおもに評価の対象とします。
学生へのメッセージ	議論をすることによって、お互いの考え方を知り、理解しあうことにつながると思いますので、こうした活動を通じて、学生間での交流を深めてもらいたいと考えています。また、皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	城内　明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「民法判例を読む　―　　基本判例を素材として　―」
到達目標	本演習では、判例の読み方を学びます。最終的には、自力で判例を読み解き、関連判例・文献を整理して、自力で判例研究ができるまでの実力をつけることが目標となります。 なお、本ゼミでは、3 年次に、他大学（近畿大学・立命館大学）との合同ゼミ（法律討論会）を行います。この討論会を勝ち抜く実力の養成も副次的な目標となります。
授業方法と留意点	報告は、2〜3 人のチームで行います。受講者には、チームの中での協調性、および、議論に参加する積極性が求められます。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	民法判例を読む　－基本判例を素材として－ 事前事後学習課題については、適宜指示します。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	演習に臨む姿勢、報告内容等を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	ゼミは毎回の出席が前提であり、無断欠席は許されません。やむをえず欠席する場合は、メール等で必ず連絡するように。 ゼミの仲間は、一生の仲間です。「自分さえ良ければ」ではなく、皆で高めあい「学問」しましょう。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	・専門演習Ⅰでは、3回生以降のゼミを進めていく上での基礎的な力を養う。 ・本演習では、原則として刑法及び刑事学の争点について、報告者の報告をもとに演習参加者全員で議論・討論する。 ・また、参加者と相談の上、事例問題を解く回も必要に応じて設けたい。
到達目標	・公務員試験で出題される刑法の問題は、刑罰法規の解釈をめぐって争われる論点と、それに対する判例や通説の考え方を正確に理解できているかのみを試しているだけで実は極めて易しい。問題演習を通じて確実に解けるようにする。 ・ロースクールをはじめとする大学院受験を希望する者には答案作成の指導も行う。
授業方法と留意点	・演習方式（問題演習、報告と議論） ・刑事法が好きな人や、公務員（地方・国家公務員行政職、裁判所事務官、検察事務官、刑務官、警察官、消防官など）になろうとする者、あるいは、大学院進学予定者で、刑法の勉強が不可避な者の参加を歓迎する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・刑法（刑法総論）や刑事学に関連したテーマを選び、または、刑法の問題演習を通じ、３年ゼミに向けての基礎を固める。
関連科目	刑事法概論、刑法総論Ⅰ・Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱ、経済刑法、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、少年法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法判例百選Ⅰ総論（第７版）	山口厚＝佐伯仁志編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法総論判例インデックス	井田良＝城下裕二編	商事法務
2	判例プラクティス刑法Ⅰ総論	成瀬幸典＝安田拓人編	信山社
3			

評価方法（基準）	・原則として報告の質と議論への参加度をもとに成績評価を行う。
学生へのメッセージ	・各種公務員試験、大学院入試を志す学生は漫然と文献を読むだけではなく、必ずペンをもって何度も過去問を初めとした演習問題に挑み続けること。合格するための最短経路はこれ以外にありません。
担当者の研究室等	11号館10階　小野准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原　佐織
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。ただし、2 年次の段階では民事訴訟等が未履修ですので、まずは民法等の復習ならびに発展問題を取り扱い、私人の権利、ならびに私人間の権利の衝突・紛争の態様につき学んでもらいたいと思います。
到達目標	専門演習Ⅰでは、法律全般について広く学んだ基礎演習とは異なり、民事法にフォーカスして、より具体的に学んでいきます。これから２年半続くゼミの出発点として、研究テーマの設定、判例研究・判例発表の方法等を、しっかり身に付けてもらいたいと思います。また、これから２年半をともに過ごすゼミ仲間とより良い関係が築けるよう、最初は、グループ発表とし、スポーツ交流等も交え、良い雰囲気のゼミ作りをまずは目指したいと考えています。 後半は、2・3 名でのグループ発表や個人発表を行い、社会科学系の学問における発表の仕方を身に付けるとともに、人前で発表するプレゼンテーションスキルや、研究内容に関して討論するディスカッション・コミュニケーションスキルを磨くことを目標とする。
授業方法と留意点	【授業内容】 前半は、ゼミでの発表の仕方（論文・判例・その他の資料等の見つけ方、配布資料の作成方法等）につき指導を行う。後半は、2，3 人のグループでの研究発表を予定。なお、発表毎に質疑応答を行うので、他のグループの研究発表時にも、積極的な参加姿勢を要する。1 学期内に、各グループとも、3 回程研究発表を行う機会を有するが、発表毎に構成員を変更し、ゼミ生同士が、より多くのコミュニケーションを、それぞれのメンバーととることができるように考慮している。そこから研究発表にも、より良い知の化学反応が生じることを期待している。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合って発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。また、発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したもの、の２点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	初めての専門演習ですので、最初は、グループ発表で、ゼミでの発表方法やディスカッションの仕方等に慣れていってもらえればと思います。このメンバーで卒業までの２年半を過ごすことになるので、皆が気軽に話し合えるような良い雰囲気のゼミになれるといいですね。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　萩原講師室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習では卒業までに、ゼミ生全員で最低限、民法の制度については詳細に把握できることを目的としている。 そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを理解していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。
到達目標	本演習では、ティベートなどを駆使して、人前で話すための技術や留意点を体感し、人に伝えるための方法を身につけ、その後に一つの判例を使って全員でじっくりその内容を読み込む。そのために、判例の入手方法、読み方、理解に必要な法律知識の獲得、それの報告をできるため技術等を身につけることを目標としている。
授業方法と留意点	２年次の予定としては、①個人による社会問題の報告（→報告方法・改善点を把握）、②グループによるディベート（集団での活動方法・説得的なものとはいかなるものであるのかを把握）、③グループでの判例報告、としている。 ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法（基準）	成績は、学期末に教員が用紙を渡すので、各ゼミ生が自己採点を行う。 自分で自分を評価する能力が必要とされる。 その自己評価書自体から教員が評価を行う。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川講師室
備考	学生主体のゼミを目指しています。 そのため、新ゼミ生の獲得もゼミ生自身でガイダンス等において説明をおこない、主体的に動いてもらうことを考えています。それにより、縦の人間関係も形成され、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくことができると考えています。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門演習Ⅰの目的は、「法哲学」という学問分野に親しんでもらうことです。はじめに教員が法哲学にかんするさまざまな具体的問題を提示しますので、ゼミ生にはそのなかから自分の好きな課題を選んで報告を行ってもらいます。専門演習Ⅰの終了時に、全員で話し合って次年度以降の共通テーマをひとつ決定する予定です。
到達目標	報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、報告やグループ討論の仕方を習得すること。
授業方法と留意点	毎回担当者を決めて課題を発表してもらい、それに基づいてみんなで討論を行います。必要に応じて教員（松島）が学生の発表内容を補足するために講義やDVD鑑賞を行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	具体的にはクローン技術は規制すべきか、自己決定はどこまで可能か、社会保障制度は本当に必要か、動物実験は是か非かなどの問題群に 2 人 1 組で取り組んでもらいます。報告の準備（資料収集やレジュメ作成など）はゼミの時間以外に行ってもらいますので、そのつもりでこのゼミにこのゼミに臨んでください。
関連科目	直接的には法思想史、法哲学Ⅰ、法哲学Ⅱに関連しますが、広く憲法や民法などの実定法学の学習の一助にもなると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の出席を前提として、演習中の報告内容や発言回数、グループ討論への参加度などを総合的に判断して評価します。なお無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。
学生へのメッセージ	専門演習は学習の場であるとともに、教員と学生および学生相互の交流の場であるとも思っています。学生の希望があれば、さまざまなゼミの行事（コンパや合宿など）も実施する予定ですので、積極的に参加してほしいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小山　昇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	卒業研究論文の作成に向けて、３年次の専門演習Ⅱは、「国際私法の構造」を理解するために、判例を使った検討を中心として各自あるいはグループで判例を調べて報告することを求めます。なお、理解を確実なものとするために、判例報告に入る前に、国際私法の構造について簡単な知識の確認も行い、３年次終了時には卒業研究論文のテーマを確定して提出を求めますので、目的意識を持った報告と活発な討論を求めます。
到達目標	国際私法総論の理論構造と、各論の主な準拠法およびその連結政策についての理解を目標とする。
授業方法と留意点	「国際私法の構造」についての問題に答えるという形で進め、その後、「国際私法の諸問題」について判例研究をします。双方向性を重視して、討論を主体とする形式で行い、判例報告では、レジュメの作成を求めます。 なお、年度の終わりには、国際私法の理解度を評価するための課題レポートと卒業研究論文テーマの提出を義務づけます。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期 １．「国際私法の構造」について、重要であると考えられる事柄を問題形式にして検討する。 ２．重要であると考えられる国際私法事件の判例の解説。 後期 １．構造の理解を前提として、国際私法の諸問題について判例を使って具体的な研究をする。提示する判例の中から選択したものについて、実際の判決文を直接読んで検討し、レジュメを作成して報告することを求める。その後、その報告を材料として全員で討議・検討する。なお、関連する各国実質法については、必要な範囲で適宜講義する。 ２．年度の終わりには、国際私法の理解度を評価するための課題レポート、及び卒業研究論文テーマの提出を義務づける。
関連科目	国際私法Ⅰ・Ⅱ、国際取引法Ⅰ・Ⅱ、民法、商法、民事訴訟法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際私法判例百選(第２版)	櫻田嘉章・道垣内正人編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業で紹介します		
2			
3			

評価方法（基準）	報告レジュメ、報告内容及び課題レポートを総合して評価します。
学生へのメッセージ	判決文の読解、レジュメの作成など日本語の正確な知識が必要になりますので、日本語を意識し、文章力を磨いて下さい。
担当者の研究室等	１１号館９階　小山教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牛丸　輿志夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、４年で求められる卒業論文の作成に役立つことを目的とした指導を行う。また、学生が研究のテーマを決めていない場合は、商法、すなわち、会社法、手形・小切手法、商法総則、商行為法、金融商品取引法、保険法の中から適切なテーマについて、重要判例および学説の検討を行う。特に、金融関係の判例の分析を中心にする。あわせて、公務員採用試験や各種の資格試験対策についても指導する。
到達目標	商法について、全般的な知識を習得する。
授業方法と留意点	まずは、重要判例の分析を行い、当該判例について学説の研究を行い、議論を深めて、法律学の習得をめざす。 積極的に議論に参加して欲しい。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業のテーマ：商法に関する重要な法律問題の研究 方法：判例・学説の研究 事前事後学習課題：割り当てられたテーマにつき十分に研究すること
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席率、演習への参加態度を総合的に判断して行う。
学生へのメッセージ	授業には出席し、積極的に議論に加わってください.
担当者の研究室等	１１号館９階　牛丸教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	糟谷　英之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門演習 II では、卒業研究の準備として、現代国際社会が抱える様々な問題を、各自がこれまで学んだ国際法の基本的知識などを基礎に国際法の視点からより専門的に考えることを主な目的とする。演習での討論を通じて各自が卒業論文のテーマの決定を行うことを最終的な目標とする。あわせて就職活動に関連する情報交換も行う予定である。
到達目標	卒論作成へ向けて卒業論文のテーマの決定を行うことを最終的な目標とする。
授業方法と留意点	【授業内容】 各自の選択したテーマに従った報告、討論を中心に進める。 加えて後期には卒業論文作成の方法など卒業研究の準備を始めることにする。 日常的に英語力の養成も心がけたい。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	特に前期は、各自の選択したテーマに従った報告、討論を中心に進める。 後期には卒業論文作成の方法など卒業研究の準備を始めることにする。 日常的に英語力の養成も心がけたい。 日常的な活動を通じて教員及びゼミ生の交流を深めると共に、コンパやゼミ研修旅行などを計画することによってさらにゼミの結束を強めたい。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各自の報告義務の履行、演習での討論への参加程度及び演習への貢献度などを考慮して総合的に評価する。
学生へのメッセージ	演習は、専門的な知識を他の学生との討論を通じかつ教員の個人的な指導を受けながら身につける絶好の機会であると同時に、他の学生とも定期的に交流を深めることのできる数少ない機会でもあることを認識する必要がある。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	木村　秀一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	会社法・有価証券法・独禁法の判例研究のいずれかについて、学生の希望に沿って授業をすることにします。ビジネスパーソンとしてコンプライアンス能力を養うのを目的とし、具体的にはビジネス実務法務検定試験３級に合格できる法知識の修得を目標とします。
到達目標	ビジネス実務法務検定試験３級に合格できる法知識を修得する。
授業方法と留意点	【授業内容】 会社法・有価証券法・独禁法の重要判例を判例百選等からピックアップし、２～３人のグループに割当てて研究してもらい、発表する方式にします。レジメ等を配付して発表するのも、パワポで作成したスライドを使用するのも自由です。発表日に欠席するのは厳禁です。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	会社法・有価証券法・独禁法の重要判例を判例百選等から選んでもらい、各グループの研究結果を発表してもらう。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発表の内容も評価する。なお、六法を必ず持って来ること。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１１号館１０階　木村教授室
備考	【学生へのメッセージ】 ゼミは友人を作る絶好の場なので、授業に出るだけでなく、ゼミ生同士の交流を深めてほしい。そのため、ゼミ生が希望すれば、コンパなども行う。学生時代の思い出作りのためにも、大いに学生生活を楽しんでほしい。そのためには、仲の良い友達とグループで入ゼミするとなおよい。主な就職先：富山化学（後に武田薬品に転職）、大和ハウス、リヒト、エイブル、セブンイレブン、マクドナルド、レオパレス２１、大阪府警、学校法人常翔学園職員、海上保安庁、消防署など

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	河原　匡見
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門演習Ⅱでは、国の内外の社会において現実に生じている動きをきちんと把握し分析し、それをより深く理解できるようにトレーニングを進めていきます。特に、本演習では、社会における「紛争」や「論争」などを題材としていきたいと思います。また、学問に直接関係することだけでなく、広く学生生活全般に関すること、あるいは一般社会の問題についても議論し合っていければと思います。
到達目標	個人あるいはグループで、特に関心のある問題について、資料を収集し分析するなどの検討を行い、それを他人の前で口頭で発表できるようになる。また、その検討内容を決められた形式・分量に則してレポート化して、期限までにまとめあげることができるようになる。
授業方法と留意点	ゼミ形式。毎回欠かさず出席すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	専門演習Ⅱでは、国の内外の社会におけるさまざまな政治的社会的諸現象が実際にどのように発生し、どのような状態にあるのか、きちんと把握するとともに、より深く理解していく上での分析能力の養成を目指していきます。特に、国際社会や国内社会のさまざまな局面やレベルにおける「紛争」や「対立」あるいは「論争」を題材としていきたいと思います。前期は主に、世界各地の「紛争」についての理解を深めることに重点をおき、後期は、日々動きの激しい国際情勢を把握するトレーニングに重点をおきたいと思います。そのためには、配布した資料の予習、課題についての調査（＝情報収集)、そして演習での報告およびそこで問題となった点の復習や再調査が求められます。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（演習での勉学姿勢）および提出物の内容などにより評価します。
学生へのメッセージ	専門演習Ⅱは、2 年後期の専門演習Ⅰで培った情報の基礎分析力がベースとなる演習活動です。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	【学生へのメッセージ】 　演習は、諸君が、生来の資質を伸ばしたり、未知の可能性を見出したりするための、いわば知的な『共同訓練の場』といえます。ですから、演習に対しては、しっかりとした勉学の目的と意志をもって参加するようにしてください。演習によってどのような知識や思考方法が身に付くか、どのような新たな才能や可能性を見い出せるか、その成果は、諸君の演習に対する積極さ如何に大きく関わってきます。そして、それはまた、これからの人生のさまざまな局面において、どれだけ自信をもって諸事に臨んでいけるかということにも関

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	中沼　丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	卒業研究につながる演習の第二段階である。地域活動に参加して、現場を観察する。関係者の方に聞き取り調査をする。自分たちの行っている活動を学外の方に説明する。読書で知識を得て、それをまとめる。この４つの力をバランスよく養っていきたい。
到達目標	地域の現場に継続的に通う意志を持つ。地域の間でどのような共通点、相違点があるか気づくように努める。
授業方法と留意点	地域活動に参加しての参与観察、聞き取り調査が最大の特徴の演習である。さまざまな立場、価値観の人たちとの交流を楽しんでほしい。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉の４つである。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。活動や聞き取り、読書で得られた知見のまとめへの熱意で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	古川　行男
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	不動産登記、担保物権、民事執行等について復習及び研究をすることにより不動産取引、金融についての知識を確実なものとする。実社会においても必要な知識を深めるだけでなく、宅建、司法書士等の資格取得に対応する法的基礎を得るようにする。
到達目標	民法の分野では宅建試験に合格できる程度の水準に達する。
授業方法と留意点	【授業内容】 裁判例、文献を検討して、その中で，各自が関心を引く題材，課題を探し出し，レポートの作成等を通じて，卒業研究に繋がる準備を進める。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	基礎的文献、判例プラクティス、判例百選から選んだ題材について、検討、討論を重ねる。それによって、法学思考に磨きをかける。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加の態度、報告内容によって、評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　古川教授室
備考	【学生へのメッセージ】

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	浮田　徹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習は報告と討論を中心に行います。報告者は、報告の下準備として様々な文献を「読む」という作業、論点をまとめて報告レジュメを「書く」という作業、そして報告の場面では議論の中で「話す」という作業を行います。それ以外の参加者は、報告者が素材とするテーマについてあらかじめ「読む」という作業、議論の中で「話す」という作業を行います。このような作業を通じ、憲法に対する理解は、これまでよりもさらに深いところに到達できると考えています。そして、それをもとにして、各人が作成する卒業研究のテーマを決定し、論文として完成させることを最終的な目的としています。
到達目標	卒業研究に対応できる力を身につけます。
授業方法と留意点	【授業内容】 卒業研究論文の作成の前段階として、憲法全般についての理解を深めます。 ある一定の大きなテーマを置いてその上で報告を行ってもらいます。 その後に、各受講者の卒業論文の構想について報告・討論を行います。題材の絞り込みとテーマ設定、論文の構想づくりまでを３年次で終了し、可能な限り早期に執筆を開始できるよう準備を整えていくことが目標となります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	憲法に関連するテーマを採り上げ、報告、議論を行う。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	報告をもとにして評価します。
学生へのメッセージ	何かしようと自ら考える、話してみる、実際に行動してみる、といったことを、勉強面だけではなくコンパ、旅行、その他ゼミの様々な側面で実践してみてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	城内　明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	【民法総合演習】 本演習では，受講生の法的問題解決能力の向上を目的として，現実に，今，社会で問題となっている，民法(債権法)・消費者法にかかわる最新の事例・判例の検討を行います。 夏期休暇中に、他大学（近畿大学・立命館大学）との合同ゼミ（法律討論会）も予定しています(全員参加)。
到達目標	民法、特に財産法分野の基本的知識の理解を確実にする。
授業方法と留意点	報告は2～3名のチームで行います。報告者チームには、互いに協力し、関連文献・判例をふまえた報告を行うことが求められます。 本演習は，民法の基礎知識を前提とします。特に、民法総則、債権法、不法行為法、契約法、消費者と法の授業内容は、直接関連するため、履修が必要です。 なお、ゼミは毎回の出席が前提であり、無断欠席は許されません。やむを得ず欠席する場合は、メール等で必ず連絡してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	民法総合演習 事前事後学習課題については適宜指示します。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	報告，レポートおよび平常点（授業に臨む姿勢など）を総合評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１１号館１０階　城内准教授室
備考	ゼミは皆で作るものです。徹底的に学び，議論し，思いっきり遊んで，良いゼミをつくっていきましょう。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	石井　信輝
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	スポーツ活動を多面的な学問領域から検討し、知見の獲得を図る。卒業研究題目の決定と、必要な資料・文献の収集および予備調査への導入を図る。
到達目標	次年に作成する卒業研究の題目決定と、作成を遂行するための基本的な能力を養う。
授業方法と留意点	【授業の方法】 【前期】各自が興味を持つテーマを発見できるよう、文献・資料の収集を図る。また、収集した資料・文献を基にレジュメを作成し、報告する。 【後期】前期に発表した報告を更に掘り下げるとともに、卒業研究における各自のテーマを決定する。また、論文作成に必要な資料・文献の収集を行うとともに、必要であれば予備調査を実施する。 各自が能動的に取り組むことが必要となります。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	授業テーマ：スポーツ活動を多面的な学問領域から検討し、知見の獲得を図る。 授業内容：前期においては、各自が興味を持つテーマを発見できるよう、文献・資料の収集を図る。また、収集した資料・文献を基にレジュメを作成し、報告する。後期においては、前期に発表した報告を更に掘り下げるとともに、卒業研究における各自のテーマを決定する。また、論文作成に必要な資料・文献の収集を行うとともに、必要であれば予備調査を実施する。 事前事後学習課題：授業中に指示した課題の実行
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加を前提とし、各回の取り組み（与えられた課題の完成度、プレゼンテーションの内容、ディスカッションでの発言等）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んで下さい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	金谷　重樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	１．行政法の講義で学んだことを基礎にして、行政法上の諸論点について判例の分析を行い、行政法への理解を深めます。 ２．演習では、自分で選んだ判例について、事案の概要、争点、裁判所の判断を紹介してもらった後、自らの見解を述べてもらいます。 ３．具体的なケースにおいて法を適切に適用し、問題解決を図る能力を身につけます。
到達目標	行政法に関する知識を深め、具体的紛争についての判断能力を培う。
授業方法と留意点	【授業内容】 ２年生で学んだ行政法の専門知識と専門演習Ｉで修得した知識をさらに発展・向上させるため、行政法上の論の中でも本格的なものを扱った判例を素材にして学習します。 【授業方法と留意点】　やむを得ず欠席する場合には必ず連絡して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１．毎回、２人から３人程度に報告をしてもらいます。 ２．報告の内容に対して、全員で討論を行います。 ３．報告者はレジュメを用意して、配布してください。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	報告内容だけでなく、課題に取り組む姿勢を重視します。
学生へのメッセージ	必ず、毎回、出席して下さい。
担当者の研究室等	１１号館９階　金谷教授室
備考	【学生へのメッセージ】 積極的に取り組んで下さい。ゼミの討論では積極的に発言して下さい。 法廷見学や裁判の傍聴も行います。また、コンパもやります。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧田　勲
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本の法文化や法の変動について関心をもち、主体的に調べ、議論を通じてその理解を深めることを目標とする。過去の法だけでなく、現在の法をも視野に入れて取り組むことにしたい。また、法や紛争の背後にある経済的・社会的・思想的対立関係についても眼を向けたい。その意味では、このゼミは法社会学、法社会史の性格をもっており、法や社会に対して問題意識にあふれた諸君の選択を期待している。
到達目標	将来卒論をまとめるのに必要な基礎的知識や、情報を得ることを目標とする。
授業方法と留意点	【授業内容】 各自が関心をもったテーマについて報告してもらう。将来の卒業研究につながる基礎作業ともいえるゼミであり、文献調べ、資料収集、テーマに関わる研究上の論点整理などが必要となる。報告者の問題意識を高めるためにも、他の参加者が質問したり、批判することが重要であり、積極的な参加を期待する。学生諸君にとって文章を書く機会が多いとはいえないので、本ゼミではとくに作文指導に力を入れることとする。原稿用紙の使い方から始めて、主語－述語の一致など、基本的なところから指導する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期・後期とも、翌年度の卒業研究論文執筆を視野に入れて、各自が興味をもつテーマについて調べ、プレゼンテーションし、討論を行うことにしたい。
関連科目	卒論作成に関わる全ての科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席重視であるが、プレゼンテーションの回数や内容を評価に加える。
学生へのメッセージ	少年老い易く学成り難し　一寸の光陰軽んずべからず
担当者の研究室等	１１号館１０階牧田教授室
備考	【学生へのメッセージ】 多数の人と討論すること、思考を論理的にまとめ発表すること、それを文章で表現すること、これらは企業や役所に就職した後も必要とされる資質です。是非その能力を磨いてください。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小島　俊朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	租税法の学習を通じて、現実の社会経済と租税法との関連について理解を深めていきます。社会人になった場合、どの職場でも要求されることは、何事にも自主的、積極的に取り組み、自分で考え工夫していくことです。ゼミの題材は租税法の分野ですが、それを一つの教材として、各人が問題意識を持って考えてもらいたいと思います。また、ゼミは知識の習得だけでなく発表力をつける場でもあります。自分の考えを整理して相手に正確に伝える能力も社会に出ると大事です。是非いろいろな意味で有意義なゼミにしてください。
到達目標	①租税法における種々の重要問題について、自分の見解を持ち表現できるようになること。 ②租税法の基本的な考え方を理解すること。 ③判例の読み方に習熟し、卒業研究において活用できるようになること。
授業方法と留意点	配付資料等をもとに租税法の基礎的な理論や個別税法の仕組み、問題点等について研究していきます。基本的に、報告者が担当テーマの発表を行い、それに基づいて討論していきます。卒業研究のための準備にもつながりますので、必ず出席してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	判例や裁決事例を素材にして、問題の本質を探り、検討します。方法としては、毎回担当者を決めて発表してもらい、各事例ごとの法解釈や事実認定上のポイントにつき解説します。重要な税法である所得税法、相続税法、法人税法、消費税法等について議論しながら考えていきます。
関連科目	所得税法、相続税法、法人税法及び消費税法
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点により評価します。特に、議論への積極的な参加や課題発表を重視します。
学生へのメッセージ	ゼミは、社会で出てから要求される資質を向上させるのに絶好の機会を提供すると思いますので、ゼミを重要視してください。自由に発言できる雰囲気のゼミにしましょう。出席することが重要です。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	租税法	金子宏	弘文堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	松永　信一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	変わりつつある現代社会に対し、自分なりに関心を持ち、不明部分を積極的に解き明かそうとするテーマを見つけること。
到達目標	］ ゼミの授業の大きな目標は各自のコミュニケーション能力の開発と向上にある。具体的に言えば、それはつぎのようなことである。ひとつのテーマに主体的に関わり、それを人に説明し、話し合い、結論を導き出すということである。しかも、このような作業をそれほど親しくもないものと協同でするのである。近年、若い世代においてひきこもり傾向が見られる中で、このような能力を培うことは社会から大学に強く求められ、大学もこれに答えようとすることのできる数少ないことの一つであろう。
授業方法と留意点	【授業内容】 前期のゼミのテーマは「現代社会と生命破壊」であるが、ゼミ生の要望を積極的に取り上げていきたい。自分が取り組むべき個別のテーマを探し、卒論についての見通しを立てる。後期には、卒論のテーマをきめ、その骨子を報告してもらう。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	卒論のテーマを見つけ出すというのが目標となるが、そのやり方については、学生の要望を聞いたり、学生の実力を考慮しながら決めたいと考える。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポートの報告及びレジュメの作成具合。日ごろの発言態度及び発言内容。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　松永准教授室
備考	【学生へのメッセージ】 何か連絡したい時には次のアドレスにメールを下さい。 matunaga@law.setsunan.ac.jp

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小野　晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	・専門演習Ⅱでは、4 回生で作成する卒業論文の執筆を進めていく上で、論文の書き方をも視野に入れ、刑事法の基礎的な力を養う。 ・本演習では、原則として刑法及び刑事学の争点について、報告者の報告をもとに演習参加者全員で議論・討論する。また、参加者と相談の上、事例問題を解く回も必要に応じて設けたい。
到達目標	・公務員試験で出題される刑法の問題は、刑罰法規の解釈をめぐって争われる論点と、それに対する判例や通説の考え方を正確に理解できているかのみを試しているだけで、実は極めて易しいので、これを確実に解けるようにする。 ・本演習を通じて、確実に公務員試験刑法の問題を解く能力を身につける。 ・ロースクールをはじめとする大学院受験を希望する者には答案作成の指導も行う。
授業方法と留意点	・演習方式（問題演習、報告と議論） ・刑事法が好きな人や、公務員（地方・国家公務員行政職、裁判所事務官、検察事務官、刑務官、警察官、消防官など）になろうとする者、あるいは、大学院進学予定者で、刑法の勉強が不可避な者の参加を歓迎する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・刑法（刑法総論および刑法各論）や刑事学に関連したテーマを選択し、参加者全員で議論するほか、随時、公務員試験で出題される刑法の問題を解く。 ・卒業論文作成に向けての基礎を固める。 報告にあたり、入手が容易な判例集として、以下のものをさしあたり挙げる。 ・山口厚＝佐伯仁志編「刑法判例百選Ⅰ総論（第７版)」、『同Ⅱ各論（第７版)」（有斐閣・2014 年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅰ総論』、『同Ⅱ各論』（信山社・2010～2012 年） その他の教材（体系書、基本書、コンメンタールなど）については、開講時に説明を加える。
関連科目	刑事法概論、刑法総論Ⅰ・Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱ、経済刑法、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、少年法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法の争点（ジュリスト増刊 新・法律学の争点シリーズ 2)	西田典之＝山口厚＝佐伯仁志/編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法判例百選Ⅰ総論（第７版）	山口厚＝佐伯仁志/編	有斐閣
2	刑法判例百選Ⅱ各論（第７版）	山口厚＝佐伯仁志/編	有斐閣
3			

評価方法（基準）	・原則として報告の質と議論への参加度をもとに成績評価を行う。
学生へのメッセージ	・各種公務員試験、大学院入試を志す学生は漫然と文献を読むだけではなく、必ずペンをもって何度も過去問を初めとした演習問題に挑み続けること。合格するための最短経路はこれ以外にありません。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	島田　良一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	刑事手続をめぐる諸問題について、受講者の報告をもとに全体で討議する。
到達目標	刑事手続に関する十分な知識を修得する。
授業方法と留意点	受講生による報告を中心とする。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	専門文献、資料、判例、報道記事などを素材に刑事手続に関する基礎的な知識を習得するとともに、受講生が各自関心のあるテーマについて報告を行う。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	個別報告の内容、全体討議における発言・態度等を総合的に評価して判断する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	家本　真実
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法は、社会における最低限のルール・道徳であるといわれます。この演習では、現在、社会で起きている問題や議論されている事柄を通して、現行の法律がどのようなものであるか、そしてどうあるべきかを考えることによって、法に対する知識をより広い視野をもって深めていく機会にしていただきたいと思います。 前期は、報告者グループがおこなう何らかの法的・政治的問題や課題についての報告を基に、皆で議論していただきます。単に個人的な考え方や意見を述べるだけでなく、根拠を示しながら、どのように問題を捉えるべきなのかを議論する力をつけていただきたいと思っています。 後期においては、前期で培った議論・説得する力を存分に発揮しつつ、法を実践的に学ぶために、模擬裁判をおこなっていただく予定です。
到達目標	議論や模擬裁判を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考える力を養っていただくことを目標とします。
授業方法と留意点	前期は毎回、2-3 人を 1 グループとする報告者に議論の基礎となる報告をしていただいたうえで、皆さんで議論していただくというかたちをとります。報告者は、報告前に集まって、共同でレジュメを作成し、報告や議論の進行について考えてください。そのうえで、報告の数日前までにその概要を担当教員に知らせてください。報告者以外の方々には、積極的に議論に参加されることを望みます。こうして議論をおこなうことによって、違う意見を持つ人々をどう説得するか、またどう折り合いをつけるのかを学ぶことにもなるでしょう。 後期は、模擬裁判をおこなうことを考えていますので、その準備と実施がおもな活動となります。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は、グループでの報告と、それを基にした議論をおこなっていただきたいと思います。1 人につき、2-3 回、報告をする機会があると思いますが、そのうち少なくとも 1 度は、民事事件の判例を報告のテーマとしていただき、当事者双方の主張、そしてそれらに対する裁判所の判断について検討・議論していただきたいと思います。2 度目以降の報告については、民事事件に限らず、法律や政治に関連のある事柄について報告していただくというふうにしていきたいと考えています。 後期は 4 年生とともに、模擬裁判をおこなっていただきます。刑事裁判手続きや裁判員制度に関して学んだうえで、模擬裁判で題材とする事案の検討をおこない、検察チームや弁護チームの弁論や尋問を作成するという作業と模擬裁判の実施が、後期のゼミの大半を占めることになります。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	報告における準備や司会進行の様子、議論や模擬裁判への参加姿勢をおもに評価の対象とします。
学生へのメッセージ	ともに議論をし、模擬裁判をおこなうことによって、お互いの考え方を知り、理解しあうことにつながると思います。こうした活動を通じて、学生間で交流を深めてもらえれば、と考えています。また、皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	萩原　佐織
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。それゆえ、既に民法が良く理解できている方は、民法で学んだことを裁判という場にシフトさせ、より深く発展的に学び、他方、民法をまだ良く理解できていないという方は、裁判という角度から、もう一度民法を見つめ直す機会に利用して下さい。皆さんのご希望があれば民法・民事訴訟法以外に、民事執行・保全法や倒産法を研究対象とすることも可能です。
到達目標	前期は、2年次より更に内容的に専門的かつ興味深い研究テーマを探求するための手法や思考方法を身に付けるため、2年次とは異なり個人発表を中心とする。また、研究テーマに関するディスカッションをより活発化させ、他人と議論することで自分の研究テーマをより掘り下げて考えることができるようし、かつ、自分の意見を、自分とは意見の異なる相手にも論理的に説明するスキルを磨く。 後期は、個人の判例研究発表の傍ら、卒業研究で取り組みたいと思うテーマを見つけられるよう、それぞれ興味がある部分について最近の判例・学説の動向を整理し、研究の方向性を探っていく。
授業方法と留意点	【授業内容】 3年次は、2年次とは異なり、基本的には個人発表と質疑応答が中心となり、内容もより深いものとなります。発表では、自分が特に興味を有するテーマを取り上げることから、回を重ねるごとにその分野における知識が集積され、卒業研究で取り扱いたいと思う課題・問題意識に繋がることと思います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各自の発表日時を決めるので、各々発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。また、発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したもの、の2点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。当該専門演習内において、各自3回程、研究発表の機会を有する。発表毎に其々異なるテーマを取り扱ってもよいし、また、同一テーマに関する複数の判例を研究対象としてもよい。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	3年次の専門演習は、2年半に及ぶゼミの中でも一番充実して学べる時期ですので、将来のために、この時間を有意義に活かしてください。また、普段の友達の輪とはまた少し違うゼミ仲間から得られるものも多いと思いますので、全員が声をかけ合えられるような和気あいあいとしたゼミになってくれればと思います。
担当者の研究室等	11号館9階　萩原講師室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大川　謙蔵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習では卒業までに、ゼミ生全員で少なくとも民法の制度については詳細に把握できることを目的としている。 そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを把握していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。
到達目標	3 年次には、2 年次に引き続き、判例を班で分担して全員の前で報告することを予定している。そのためには、班での役割分担、各自に割り当てられた課題への対応が必要となる。それらの課題の割り振り方、課題への対応の方法を身につことを目標としている。 具体的には、判例から問題点（論点）を班で確認および抽出できること、それを報告するために必要となる知識をいかに得るかという、個人での資料収集等の仕方、ならびにそれを文章化してレジュメ等にまとめるための技術を得る事が目標である。
授業方法と留意点	3 年次の予定としては、①グループによる判例報告、②個人の判例報告を予定。 ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	判例を使っての法律問題の理解。 新 2 年次ゼミ生の獲得計画の作成、実施をし、人を採用するという意味を理解する。 他大学との合宿を通じて、他の大学の状況を知り、かつ、自分たちの状況を客観的に把握することを目的とする。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	成績は、学期末に教員が用紙を渡すので、各ゼミ生が自己採点を行う。 自分で自分を評価する能力が必要とされる。 その自己評価書自体から教員が評価を行う。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川講師室
備考	学生主体のゼミを目指しています。 そのため、新ゼミ生の獲得もゼミ生自身でガイダンス等において説明をおこない、主体的に動いてもらうことを考えています。それにより、縦の人間関係も形成され、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくことができると考えています。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	松島　裕一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門演習Ⅱの目的は、前年度に選んだ共通テーマへの理解を深めるとともに、次年度の卒業研究を見据えて各自の個別テーマを決定することです。前期は専門文献をみんなで輪読し、共通テーマにかんする専門知識の共有を目指します。後期は共通テーマから各ゼミ生がさらに個別のテーマを絞り込み、資料の下調べとプレ報告をしてもらいます。
到達目標	次年度の卒業論文を見据えて、自分が納得できる卒業論文のテーマを決定し、執筆に必要となる資料を収集すること
授業方法と留意点	毎回担当者を決めて課題を発表してもらい、それに基づいてみんなで討論を行います。必要に応じて教員（松島）が学生の発表内容を補足するために講義やDVD鑑賞を行います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は共通テーマにかんする専門文献を輪読します。各担当者には該当箇所を正確に要約したレジュメの提出を求めます。 後期は各ゼミ生の卒業論文の構想を個別に報告してもらいます。卒業論文の一部となりうるような報告原稿の作成が必要となります。 参考までに過去の専門演習Ⅱの共通テーマを以下に掲載しておきます。 「犯罪と刑罰の諸問題」（1期生・2013年度）、「平等概念の再検討」（1期生・2014年度）、「正義の境界線」（2期生・2015年度）
関連科目	直接的には法思想史、法哲学Ⅰ、法哲学Ⅱに関連しますが、広く憲法や民法などの実定法学の学習の一助にもなると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の出席を前提として、演習中の報告内容や発言回数、グループ討論への参加度などを総合的に判断して評価します。なお無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。
学生へのメッセージ	さまざまな機会を利用して、かなりの量のレポートを課す予定です。自分の言葉で文章をつづることはなかなか骨の折れる作業ですが、必ず次年度の卒業研究に役に立ちますので、頑張って取り組んでほしいと思います。
担当者の研究室等	11号館9階　松島講師室
備考	

科目名	総合法学Ⅰ	科目名（英文）	Essence of Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	ＧＨ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「総合法学」では、われわれの生活からその関連する法規範の概観及びその重要事項を考えてみることを目的とします。「総合法学Ⅰ」では、主に、公的な面の生活関係に関する法的問題を検討することになります。
到達目標	様々な公法関係の法律を概観し、それらの法分野で重要と考えられる事項の理解が目標となります。
授業方法と留意点	講義形式で行いますが、質問を適宜行い、双方向性を重視します。５回程度、重要事項について「確認問題」を授業時間の終わり（２０分程度）に実施し、成績評価の対象に加えます。
科目学習の効果（資格）	法学部生として知っておくべき基本的法律知識が習得できます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の概要	講義の到達目標と全体像についての説明、注意事項	原則として、事後の学習を重視する
2	法を学ぶための基本的知識の確認	法解釈学、法源、法令用語、法令・判例の検索	重要事項の確認
3	紛争解決と法①	法律上の責任と裁判	重要事項の確認
4	紛争解決と法②	わが国の裁判制度	重要事項及び確認問題の再確認
5	紛争解決と法③	裁判と法、刑事訴訟と民事訴訟	重要事項の確認
6	紛争解決と法④	裁判員制度と裁判員裁判	重要事項の確認
7	犯罪と法①	刑法の機能と基本原則	重要事項及び確認問題の再確認
8	犯罪と法②	犯罪の成立要件	重要事項の確認
9	犯罪と法③	違法性と責任	重要事項の確認
10	犯罪と法④	刑事訴訟に関する手続	重要事項及び確認問題の再確認
11	事故と法①	加害者の民事責任	重要事項の確認
12	事故と法②	不法行為責任の限界と被害者救済	重要事項の確認
13	事故と法③	道路交通に関する諸規則	重要事項及び確認問題の再確認
14	事故と法④	道路交通規則の違反と行政責任・刑事責任	重要事項の確認
15	まとめ	重要事項の再確認	全重要事項・配付資料の再確認 確認問題の総復習

関連科目	憲法、行政法、刑事訴訟法、民事訴訟法、民法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要な資料は配付します		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業中に紹介します		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(55%)と「確認問題」(45%)で評価します。「確認問題」は、定期試験を受けた場合に限り点数化して成績評価に加え、授業時間内に提出した確認問題のみを評価対象とします。
学生へのメッセージ	授業中の質問には積極的に発言すること。やむを得ない理由で出席できなかった人に対してのみ、後日の「確認問題」の提出を認めます。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　小山教授室
備考	

科目名	総合法学Ⅱ	科目名（英文）	Essence of Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	ＧＨ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小山　昇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「総合法学」では、われわれの生活関係からその関連する法規範の概観及びその重要事項を考えてみることを目的とします。「総合法学Ⅱ」では、主に、私的な生活関係を中心とした法的問題を検討することになります。
到達目標	様々な私法関係の法律を概観し、それらの法分野で重要と考えられる事項の理解が目標となります。
授業方法と留意点	講義形式で行いますが、質問を適宜行い、双方向性を重視します。授業時間の終わり（２０分程度）に、重要事項の「確認問題」を５回程度実施して成績評価の対象に加えます。
科目学習の効果（資格）	法学部生として知っておくべき基本的法律知識が習得できます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業の概要	講義の到達目標と全体像の説明、注意事項	原則として、事後の学習を重視する
2	財産と法①	財産法の基本原理	重要事項の確認
3	財産と法②	法律行為の主体	重要事項の確認
4	財産と法③	契約の基本原則と典型契約	重要事項及び確認問題の再確認
5	財産と法④	現代型の契約、消費者契約、特定商取引法	重要事項の確認
6	家族と法①	親族関係と法、戸籍制度	重要事項及び確認問題の再確認
7	家族と法②	夫婦関係と法	重要事項の確認
8	家族と法③	親子関係と法	重要事項の確認
9	家族と法④	法定相続と遺言	重要事項の確認
10	労働と法	労働基本権と労働保護法、労働契約法	重要事項及び確認問題の再確認
11	社会保障と法	社会保障制度、医療保険と国民年金	重要事項の確認
12	社会福祉と法	社会福祉事業	重要事項の確認
13	国際社会と法①	国際社会と国際法、国内法と国際法	重要事項及び確認問題の再確認
14	国際社会と法②	国際取引と法、国際家族法	重要事項の確認
15	まとめ	重要事項の再確認	全重要事項・配付資料の再確認 確認問題の総復習

関連科目：民法総則、契約法、物権法、親族法、相続法、労働法、社会保障法、国際法、国際取引法、国際私法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要な資料は配付します		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業中に紹介します		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(55%)と「確認問題」(45%)で評価します。「確認問題」は、定期試験を受けた場合に限り点数化して成績評価に加えますが、授業時間内に提出がない場合は評価の対象とはしません。
学生へのメッセージ	授業中の質問には、積極的に発言すること。やむを得ない理由で出席できなかった場合のみ、後日の「確認問題」の提出を認めます。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　小山教授室
備考	

科目名	相続法	科目名（英文）	Succession Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	古川　行男
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	民法第５編の「相続」を講義する。具体的には、法定相続の仕組みと遺言について、その内容を明らかにする。親族関係を前提としての財産上の権利義務を承継するという相続制度を検討することを通して、身分関係法上の財産権移転の構造を理解することが目標となる。
到達目標	日常生活で良く起こる相続に関し民法ではどのような条文になっているのか、遺言はどのように作らなければ有効とは言えないのかといった点につき正確な知識の習得と、具体的な遺産分割の計算方法を練習する。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義形式で行うが、具体的な条文の参照を随時するので、六法を必ず持参すること。理解度を高めるために、重要事項の確認テストを行うことがあるので注意すること。また、親族法の理解が前提となるので、その知識の確認をしておくこと。
科目学習の効果（資格）	日常生活において生じる身分関係問題の理解だけでなく、資格試験などでの民法科目の理解にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	相続法の概略	相続法とは	教科書第７章を読む 重要事項の確認
2	相続人と相続分①	相続人の範囲と順位	教科書第８章を読む 重要事項の確認
3	相続人と相続分②	代襲相続、相続分	重要事項の確認
4	相続人と相続分③	相続欠格、相続廃除、相続回復請求権	重要事項の確認
5	相続の効力①	相続の一般的効果	教科書第９章を読む 重要事項の確認
6	相続の効力②	相続と登記、祭祀承継	重要事項の確認
7	相続の効力③	遺産共有、遺産管理、遺産分割	重要事項の確認
8	相続の承認・放棄①	単純承認、限定承認	教科書第１０章を読む 重要事項の確認
9	相続の承認・放棄②	相続放棄	重要事項の確認
10	財産分離と相続人の不存在	財産分離の意義、相続人不存在、特別縁故者	教科書第１１章・第１２章を読む 重要事項の確認
11	遺言①	遺言とは、遺言の方式	教科書第１３章を読む 重要事項の確認
12	遺言②	遺言の効力	重要事項の確認
13	遺言③	遺言による財産処分、遺言の執行	重要事項の確認
14	遺留分	遺留分とは、遺留分の確定、遺留分減殺請求権	教科書第１４章を読む 重要事項の確認
15	全体の復習	相続全般を振り返る	すべての重要事項の再確認

関連科目：親族法、民事法概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法７　親族・相続	高橋朋子ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	基本的に定期試験の結果により評価する。授業中に小テストを行うこともある。
学生へのメッセージ	相続法の理解を通して、「相続」がもつ意義を再確認してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　古川教授室
備考	授業の進行に応じて順序や内容を変更することがある

科目名	租税法Ⅰ	科目名（英文）	Tax Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小島　俊朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会では、国民は法律（租税法)に基づいて納税の義務を負い税金を納付することになりますが、租税法は必ずしも容易に理解できるものではありません。これは、租税法が多様な経済活動を幅広く適用の対象としていることや、租税負担の公平を図るため、租税法が明確かつ一義的に規定することを要求されていることによるものです。一方、皆さん方が社会人になれば、自営業者、サラリーマン等を問わず税とは何らかの形で関わらざるを得ません。租税法Ⅰでは、税法の総論に関する事項と個人に関係する所得税法の仕組み、考え方について理解してもらいたいと思います。
到達目標	①租税法に共通する原則や基本事項が理解できるようになること。 ②租税法の中でも最も基本的で身近な所得税法の概要が理解できるようになること。
授業方法と留意点	講義方式によります。聞き慣れない用語も出てくるとは思いますが、租税法の基本的な考え方を理解することが重要ですから、要点を確実に押さえるようにしてください。
科目学習の効果（資格）	税理士試験や国税専門官を目ざす人の入門講座になると思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	私達の生活と税	税との関わり、財政の状況、税の種類、税が持っている機能	教科書の第１章を読んでおいてください
2	租税法序論	税法の法源、租税実体法と租税手続法	教科書の第１章を読んでおいてください
3	租税法の原則	租税法律主義、租税公平主義	教科書の第２章を読んでおいてください
4	租税法の解釈と適用	租税法解釈のあり方	教科書の第２章を読んでおいてください
5	納税義務の確定等	納税義務の成立･確定、更正の期間制限、附帯税	教科書の第７章を読んでおいてください
6	所得税法（１）	所得税の特色、納税義務者	教科書の第５章を読んでおいてください
7	所得税法（２）	包括所得概念、担税力に応じた負担	教科書の第５章を読んでおいてください
8	所得税法（３）	所得計算の概要	教科書の第５章を読んでおいてください
9	所得税法（４）	所得の帰属、権利確定主義	教科書の第５章を読んでおいてください
10	所得税法（５）	所得の種類（利子、配当、退職、給与）	教科書の第５章を読んでおいてください
11	所得税法（６）	所得の種類（事業、不動産、山林、雑）	教科書の第５章を読んでおいてください
12	所得税法（７）	所得の種類（譲渡、一時）	教科書の第５章を読んでおいてください
13	所得税法（８）	所得控除と税額控除	教科書の第５章を読んでおいてください
14	源泉徴収制度	制度の概要と源泉徴収の法律関係	教科書の第７章を読んでおいてください
15	まとめ	授業全体のまとめ	ノートと配付資料を復習しておいてください

関連科目：憲法、民法、商法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	税法入門	金子宏ほか	有斐閣新書
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	租税法	金子宏	弘文堂
2	図解所得税法		大蔵財務協会
3			

評価方法（基準）	定期試験の結果で評価します。
学生へのメッセージ	授業内容は連続していますので、欠席すると理解が難しくなってきます。教科書は初歩的な説明にとどまりますので授業は配付資料に沿って行います。参考書のうち、「税法入門」は租税法の概要を知りたい人に、「租税法」は本格的に勉強しようとする人に、図解シリーズは租税法の仕組みを速習したい人にお勧めします。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	なし

科目名	租税法Ⅱ	科目名（英文）	Tax Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小島　俊朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会では、国民は法律（租税法)に基づいて納税の義務を負い税金を納付することになりますが、租税法は必ずしも容易に理解できるものではありません。これは、租税法が多様な経済活動を幅広く適用の対象としていることや、租税負担の公平を図るため、租税法が明確かつ一義的に規定することを要求されていることによるものです。一方、皆さん方が社会人になれば、自営業者、サラリーマン等を問わず税とは何らかの形で関わらざるを得ません。租税法ＩＩでは、一般に関心の高い資産に関する税（相続税・贈与税）と実務上は極めて重要な法人に関係する税（法人税法)についてその仕組み、考え方を理解してもらいたいと思います。
到達目標	①相続税及び贈与税の基本事項を理解するとともに、簡単な設例について税額の計算ができるようになること。 ②法人税の基本構造と考え方が理解できるようになること。
授業方法と留意点	講義方式によります。聞き慣れない用語も出てくるとは思いますが、租税法の基本的な考え方を理解することが重要ですから、要点を確実に押さえるようにしてください。
科目学習の効果（資格）	税理士試験や国税専門官を目ざす人の入門講座になると思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	相続税法（1）	相続税の意義、課税方式	教科書の第５章を読んでおいてください
2	相続税法（2）	相続税の納税義務者	教科書の第５章を読んでおいてください
3	相続税法（3）	相続財産の範囲	教科書の第５章を読んでおいてください
4	相続税法（4）	債務控除	教科書の第５章を読んでおいてください
5	相続税法（5）	相続税の課税標準と税額の計算、各相続人の納付税額	教科書の第５章を読んでおいてください
6	相続税法（6）	贈与税の意義	教科書の第５章を読んでおいてください
7	相続税法（7）	贈与税の課税標準と税額の計算、相続時精算課税制度	教科書の第５章を読んでおいてください
8	相続税法（8）	財産の評価	教科書の第５章を読んでおいてください
9	法人税法（1）	法人税の意義、納税義務者	教科書の第５章を読んでおいてください
10	法人税法（2）	法人税の計算（企業会計と課税所得）	教科書の第５章を読んでおいてください
11	法人税法（3）	法人税法 22 条と別段の定め	教科書の第５章を読んでおいてください
12	法人税法（4）	益金の意義、損金の意義、	教科書の第５章を読んでおいてください
13	法人税法（5）	同族会社の意義と特別規定、国際課税の概要	教科書の第５章を読んでおいてください
14	納税者の権利救済	争訟手続（不服審査、訴訟）	教科書の第８章を読んでおいてください
15	まとめ	授業全体のまとめ	ノートと配付資料を復習しておいてください

関連科目：憲法、民法（相続・親族編）、商法、会社法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	税法入門	金子宏ほか	有斐閣新書
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	租税法	金子宏	弘文堂
2	図解法人税法		大蔵財務協会
3	図解相続税法		大蔵財務協会

評価方法（基準）	定期試験の結果で評価します。
学生へのメッセージ	授業内容は連続していますので、欠席すると理解が難しくなってきます。教科書は初歩的な説明にとどまりますので授業は配付資料に沿って行います。相続税法については民法第４編（親族）第５編（相続）の基礎知識が必要です。法人税はイメージしにくいと思いますが、ほとんどの方が会社に就職されますので、とても身近にある重要な税とも言えます。参考書のうち、「税法入門」は租税法の概要を知りたい人に、「租税法」は本格的に勉強しようとする人に、図解シリーズは租税法の仕組みを速習したい人にお勧めします。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	なし

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小山　昇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	国際私法を中心として国際取引法、国籍法についての諸問題を各自で具体化して、それを論文として完成させることを目的とします。卒業研究は、３年次終了時に提出したテーマを卒業研究論文として完成させることを目指しますが、具体的に検討した結果、さらに興味を持って探求したいと考えるテーマを見いだすことも妨げません。就職後に必要な知識に関係するテーマに変更することも可能です。
到達目標	国際私法、国籍法、国際取引法などから各自が選んだテーマを論文として完成させたとき、その論文がその分野において基本的な水準に達していることを目標とします。
授業方法と留意点	文献資料の蒐集や論文作成についての注意点を当初に行い、その後はテーマごとの指導として時間を指定した個別指導になります。そのために、各自の年間計画の提出を求めることもあります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１．３年次最後のレポートで提出したテーマについて、卒業研究論文としてどのように具体化すべきかを検討することから始める。検討の結果によっては、そのテーマの変更も可能であるが、明確な変更理由を示すこと。 ２．決定したテーマについて、必要な文献や判例をまず調査し、その蒐集と読解を通して論文の構成や目次をレポートとして提出することを求める。論文の目次、その他具体的な論文構成は、遅くとも１１月上旬までに提出のこと。 ３．検討・修正を加えた後に下書きを作成し、その報告を適宜受けながら訂正を加えて論文の完成へと導く。下書きの完成時期は、１２月中旬とする。 ４．論文提出期間に入った１月の段階で最終稿を提出してもらって最後の推敲を求め、それを確認した後、捺印して教務課への提出を許可する。
関連科目	国際私法Ⅰ・Ⅱ、国際取引法Ⅰ・Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	論文指導の中で紹介する		
2			
3			

評価方法（基準）	卒業研究論文について、そのテーマと論述方法の関係及びその理解度を中心に、作成過程を重視して総合的に評価する。
学生へのメッセージ	就活時期が後ろ倒しとなりましたので、卒業研究との両立のためにしっかりとした年間計画をまず立ててください。
担当者の研究室等	１１号館９階　小山教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	金谷　重樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	専門演習で修得した知識を基礎にして、自らが選んだ行政法上の論点についての判例を集め、それらを分析して、卒業論文を完成してもらいます。
到達目標	特定の行政法分野に関する知識を深め、具体的紛争への応用能力を培う。
授業方法と留意点	【授業内容】 行政法の講義で学んだことと演習を通じて得た知識の集大成として、自ら選んだ行政法上の論点に関する論文を作成してもらいます。 【授業方法と留意点】　個別指導を行います。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	１．　６月末までに論文作成に必要な資料の収集を終えます。 ２．　８月末までに資料の読み込みと分析を終えます。 ３．　１０月末までに原稿の素案を作成します。 ４．　１２月末までに論文を完成させます。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	卒論の内容はもとより、取り組んだ姿勢も重視します。
学生へのメッセージ	とにかく、学業の集大成として頑張って下さい。
担当者の研究室等	１１号館９階　金谷教授室
備考	【学生へのメッセージ】 積極的に取り組んで下さい。ゼミの討論では積極的に発言して下さい。 法廷見学や裁判の傍聴も行います。また、コンパもやります。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牛丸　輿志夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、卒業論文の作成を目的とした指導を行う。また、学生が研究のテーマを決めていない場合は、商法、すなわち、会社法、手形・小切手法、商法総則、商行為法、金融商品取引法、保険法の中から適切なテーマを推薦し、また必要な文献を紹介する。 　卒業論文の作成は、テーマにそって学説・判例を収集し、自説をまとめていくということになる。卒業論文の完成のための研究により、法律学の応用力を身につけることを目的としている。
到達目標	卒論を完成する。
授業方法と留意点	【授業内容】 卒業論文の指導を行う。卒業論文のテーマは、学生ごとに異なっているので、個別的な指導を行っていく。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	資料の収集、資料の読み込み、研究成果のまとめ、卒業論文の下書きおよび卒業論文の完成という順番で、指導していく。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	演習への参加態度、研究発表の内容等を総合的に判断して行う。
学生へのメッセージ	卒論の作成は、計画を立てて、地道に行ってください。
担当者の研究室等	１１号館９階　牛丸教授室
備考	【学生へのメッセージ】 演習は、学生が能動的に研究し、積極的に議論に加わることを望む。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	糟谷　英之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	卒業研究では、3 年次の専門演習で決定したテーマをもとに卒業論文を作成するため、基本的には個別的指導を行う。
到達目標	各人の設定したテーマで卒業論文を完成させること。
授業方法と留意点	【授業内容】 卒業論文の進展具合の定期的な点検及び各学生との個別的な卒業論文作成指導による。 専門演習終了時点でテーマの設定がなされていない学生は、早期のテーマ設定が望まれる。 国際法という専門柄から外国文献の翻訳・論評も卒論として認めることにする。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	とりわけ前期においては論文作成のための基礎的な知識を講義する機会も持つことになるが、基本的には卒論作成に関して個別指導を行う。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	基本的には完成された卒業論文の内容によって評価する。
学生へのメッセージ	演習は、専門的な知識を他の学生との討論を通じかつ教員の個人的な指導を受けながら身につける絶好の機会であると同時に、他の学生とも定期的に交流を深めることのできる数少ない機会でもあるからである
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	木村　秀一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	会社法・有価証券法・独禁法の判例研究のいずれかについて、学生の希望に従って授業をすることにします。
到達目標	会社法・有価証券法・独禁法の一定水準に達している論文を作成する。
授業方法と留意点	【授業内容】 卒論の作成。おおまかにいうと、テーマ選択と報告・文献検索収集方法の指導・構成および文章作法の指導・卒論下書作成の順序で行う。過去の卒論テーマを挙げると、株式会社の特色について・インサイダー取引・従業員持株制度について・株式払込の仮装について・商法からみたイトマン事件・法人格否認の法理の最近の展開・企業の社会的責任論とコーポレート・ガバナンス論・手形理論と権利外観理論・経済力の集中規制について・規制緩和と独占禁止法。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマは各学生に選択してもらう。授業方法を参照のこと。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	法律学の論文として、テーマ、構成、文章、引用文献、引用方法等が適切であるか、一定水準に達しているか等の基準により評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１１号館１０階　木村教授室
備考	【学生へのメッセージ】 ゼミは友人を作る絶好の場なので、授業に出るだけでなく、ゼミ生同士の交流を深めてほしい。そのため、ゼミ生が希望すれば、コンパやゼミ旅行を行う。学生時代の思い出作りのためにも、大いに学生生活を楽しんでほしい。そのためには、仲の良い友達とグループで入ゼミするとなおよい。主な就職先：富山化学（後に武田薬品に転職）、大和ハウス、リヒト、エイブル、セブンイレブン、マクドナルド、レオパレス２１、大阪府警、学校法人常翔学園職員、海上保安庁、消防署など

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧田　勲
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	卒業研究論文作成のためのアドヴァイスを行う。問題意識の醸成、研究テーマの絞り込み、資料や文献の検索の仕方、論文の構成や文章の表現技法などを指導する。よい論文を完成すべく、着実な努力を求める。
到達目標	卒業論文を完成させること。
授業方法と留意点	各自研究テーマが異なるので、それぞれのテーマに沿った資料や文献を見つけ出し、その概要を報告してもらう。夏休み明けに論文の表題や、章構成、論旨、結論など、「論文の計画書」を提出させ、それをチェックする。合格した者はそれに沿って執筆をはじめ、中途もしくは完成後に何度かチェック、添削して最終提出論文を完成させる。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	各自の研究テーマに沿って、基本文献を捜し、読み、報告する。多くの文献を読み込むことが必要であり、その基礎があってはじめて論文作成が可能となる。
関連科目	論文にかかわるすべての科目。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	論文の出来具合で判断する。
学生へのメッセージ	就職活動で忙しい時期ではあるが、卒論に手を抜くと卒業できなくなってしまう。一層の奮励努力が必要。
担当者の研究室等	１１号館１０階牧田教授室
備考	資料を丹念に読み、手を抜くことなくまじめに取り組むことが望まれる。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小島　俊朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	租税法に関する問題をテーマとした論文を完成させます。税が絡んだテーマならなんでも結構ですので幅広く考えてください。
到達目標	「はじめに」のところで問題意識を明らかにし、本文では論理的な展開を行い、結論を導き出します。最後に、自分の見解や提言を簡潔に書いて「おわりに」で結びます。税に関するものである限りテーマは自由ですが、感想文ではないので、法的な論理展開が行われていなければなりません。そして、自分なりの結論を導いてください。
授業方法と留意点	【授業内容】 各自の選んだテーマについて個別指導を行いますが、就職活動も重なりますので、計画的に進めることが重要です。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自の選択したテーマに応じて指導します。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	租税法	金子宏	弘文堂
2			
3			

評価方法（基準）	卒業論文の内容を審査して評価します。
学生へのメッセージ	文献を読み、考え、更に文章を書く作業は社会人になった場合に、必ず役に立ちます。余裕を持って時間をかけて論文を完成させてください。文章力に問題のある学生が少なくありません。提出する前によく見直してください。また、いわゆるコピペした文章が少なくありません。出典を明らかにしないで引用することは不正行為ですので厳禁です。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	河原　匡見
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	卒業研究においては、大学生活の、さらには小学校以来現在に至るまでの、いわば学生生活の最後の総まとめとしての卒業研究を、一定水準以上の内容を伴って完成できるよう指導していきたいと思います。また、学問に直接関係することだけでなく、広く学生生活全般に関すること、あるいは一般社会の問題についても議論し合っていければと思います。
到達目標	各自関心のあるテーマについて、資料を収集し分析を行うなど研究を進めて、定められた期限までに決められた形式・分量に則してまとめ上げ提出する。
授業方法と留意点	前期は個人指導を主体として、論文の枠組み検討と資料収集の作業状況の確認を並行して行い、夏期休暇前には、草稿の作成に入れるように指導していきます。そして、後期には各自の草稿を基に、演習参加者全体での集団指導を中心に進めていきたいと考えています。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本演習の目的は、定められた期限までに、一定の水準以上の卒業研究を確実に完成させることです。長い論文を作成する作業は、喩えて言うならば、一歩一歩頂を目指して歩みを進めていく『登山』の如きものでしょう。したがって、実質的には約１０ヶ月間の指導によって、上記の目的を達成するために、幾つかの研究の進展段階（提出課題）を設定し、それを一つ一つ達成することによって順々に論文を完成させていくという指導方法をとります。各自、卒業研究のテーマを絞り、考究していくためには、常に積極的に関心のある問題に関する情報および資料・文献を収集しその読解に努めることが要求されます。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	最終的に提出された論文（卒業研究）の内容に基づいて評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	卒業研究の作成は、これまでの勉学の集大成というだけでなく、みなさんがこれからの人生のさまざまな局面において、どれだけ自信をもって諸事に臨んでいけるかその可能性を示唆してくれるものです。納得のいく内容のものを仕上げるよう頑張りましょう。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	古川　行男
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	各自が選択決定した研究テーマについての参考文献並びに資料の収集方法を指導する。
到達目標	質の高い卒業研究論文の作成が目標である。
授業方法と留意点	卒業研究論文の作成過程において、ゼミ形式で中間発表、討論を行うことにより、論文作成の進行を図る。なお、卒業研究のテーマの決定には、社会的、法律な関心をもっていなければならないことに留意すること。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	選択決定した研究テーマについて、ゼミ形式で中間発表、討論を行う。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	主に完成した論文の内容を審査して評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　古川教授室
備考	【学生へのメッセージ】 実社会においても、テーマの設定、資料の収集・分析・報告は必須のことである。卒業研究論文の提出はそのための準備でもある。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	松永　信一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	卒業研究は４年間の総括である。作成の結果も重要だが、何よりそのプロセスを大事にしたいと考える。自分なりに政治や社会の諸問題に切り込んだその思索の跡を示してほしい。
到達目標	自分が設定したテーマを自分なりに解き明かすことから得られる達成感をあじわう。
授業方法と留意点	【授業内容】 就職活動と並行しながら、個別に指導していきたい。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	夏休み明けまでには下書き稿を出してもらうことになると思う。卒論作成の眼目は自分なりに設定した問題を自分の力で解くことである。そこに至るまでの報告書が卒論なのである
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	完成した内容は言うまでもないが、完成に至るまでの態度も評価対象である。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　松永准教授室
備考	【学生へのメッセージ】 何か連絡したい時には次のアドレスにメールを下さい。 matunaga@law.setsunan.ac.jp

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	浮田　徹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学部憲法ゼミ修了者として備えておくべき素養を培います。
到達目標	問題発見・分析・文献検索についての能力、論文作成についても法学部修了者として不足のない力を身につけます。
授業方法と留意点	個別もしくはグル―プ単位で卒業研究を進めます。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	憲法に関連する諸問題を調べ、討論し、論文にまとめる。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	完成した卒業論文の内容について評価します。なお作成過程における平常点も加味します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１１号館９階　浮田准教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	石井　信輝
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	卒業研究の題目を決定し、関連する資料・文献を収集し、必要に応じて調査を実施することによって、卒業研究を完成させる。
到達目標	自ら決定した卒業研究のテーマに関する知見を獲得するとともに、将来社会人として自ら考え行動することができる能力を養う。
授業方法と留意点	各自が決定した題目に沿って、卒業研究を推敲し、完成させる。能動的に活動するよう、留意してください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマ：卒業研究の完成。 内容・方法：各自が決定した題目に沿って、卒業研究を推敲し、完成させる。 学習課題：卒業研究の完成に向けての資料収集、論文の推敲、およびその完成等についてその都度指示する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業研究の内容を重視するが、それまでの取り組みも考慮し評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	島田　良一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	刑事手続（少年法を含む）をめぐる諸問題に関する卒業論文を作成する。
到達目標	法学部生として、卒業研究という名にふさわしい内容・レベルの論文を完成させる。
授業方法と留意点	専門演習において設定した各自の卒論テーマについてさらに掘り下げて研究する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文作成指導を行う。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業論文の出来によって評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	家本　真実
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法は、社会における最低限のルール・道徳であるといわれます。この演習では、現在、社会で起きている問題を通して、現行の法律がどのようなものであるか、そしてどうあるべきかを考えることによって、法に対する知識をより広い視野をもって深めていく機会にしていただきたいと思います。 卒業研究においては、とくに裁判員制度に焦点をあてて、裁判員制度がいったいどういう制度なのか、市民が司法に参加する意義などを調査したうえで、後期中に模擬裁判をおこない、模擬裁判での経験から、一般の市民が司法に参加するにあたってどのような課題が問題点があるのかを探るというかたちでより深く法の世界を探求していただきたいと思います。
到達目標	議論や模擬裁判を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考える力を養っていただくことを目標とします。
授業方法と留意点	卒業論文として提出するための報告書を仕上げるための指導をおこないます。資料の収集、論文の書き方などを学んだうえで、各自の担当部分について個別指導をおこないます。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期中はおもに、裁判員制度や市民の司法参加に関して調査をおこなっていただきます。最終的には 2-3 人で 1 つのテーマを担当していただき、調査結果を卒業論文（報告書）としてまとめていただくこととします。 後期は 3 年生とともに模擬裁判をおこなっていただくとともに、卒業論文（報告書）を仕上げていただきます。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	おもに、模擬裁判に対する取り組みと、卒業論文（模擬裁判の報告書）の審査によって評価します。
学生へのメッセージ	ともに議論をし、模擬裁判をおこなうことによって、お互いの考え方を知り、理解しあうことにつながると思います。こうした活動を通じて、学生間で交流を深めてもらえれば、と考えています。また皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	城内　明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学部に学んだ集大成として、質の高い卒業研究の完成を目標とする。
到達目標	法学部に学んだ集大成として、質の高い卒業研究の完成を目標とする。
授業方法と留意点	研究テーマは、3 年時の演習で担当した判例等を参考に、自由に選択。テーマに基づき、個別に課題を与え、完成まで指導する。 受講生は、就職活動に忙しい時期であっても、最低限、メール等で、常に教員とコンタクトを保つように。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文の作成指導
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	論文の内容により評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	指導は予約制で行う。メール等で早め早めに予約をとるように。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	萩原　佐織
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき争いが生じ、裁判所で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求します。それゆえ、既に民法が良く理解できている方は、民法で学んだことを裁判という場にシフトさせ、より深く発展的に学び、他方、民法をまだ良く理解できていないという方は、裁判という角度から、もう一度民法を見つめ直す機会に利用して下さい。皆さんのご希望があれば民法や民事訴訟法以外に、民事保全執行法や倒産法をテーマにすることも可能です。
到達目標	初めての論文執筆となるため、最初は論文構成、章立て、脚注の付け方、文献目録の作成方法等、社会科学系の論文の書き方について指導し、重ねて、それに対応する Word の各機能の使い方を習得することを目的とする。 その後は、実際に各研究テーマに従った卒業研究論文を執筆していくうえで、深い思考力・探求力・問題解決能力を養うことが期待される。
授業方法と留意点	【授業内容】 前期は、卒業論文の書き方（論文構成、判例・参考文献等の探し方、Word の機能の使い方、目次・脚注・参考文献目録の作成方法等）につき指導を行った後、それぞれの内容に従い、個別に指導する。後期は、個別指導の傍ら、互いの進捗状況を参考にしたり、また執筆者の考えを明確化させ、かつ内容を深化させるために、中間発表ならびに最終報告会を数回程度行う予定。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期は、下記２つを支柱とする；１つ目は、①卒業研究論文の書き方や、②Word 機能の使い方等、卒業研究執筆にあたり、基本的な事項の指導。2 つ目は、研究テーマの確定、ならびに論文の大まかな構成の作成、につき指導すること。但し、これまでのゼミにおいて、既に研究テーマが確定していたり、十分な判例や参考文献等を収集済みの学生に対しては、個別に、具体的な論文執筆指導を行う。 後期は、各自の執筆の進捗状況に差があるため、個別具体的な論文執筆指導を中心とする。また、互いの進捗状況を参考にしたり、また執筆者の考えを明確化させ、かつ内容を深化させるために、中間発表ならびに最終報告会を数回程度行う。おおよそ 12 月末までに、一通り執筆を終えた段階で、私に提出してもらい、1 月は校正を中心とする。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み方、ならびに提出された論文の審査により評価します。
学生へのメッセージ	初めて書く論文ですので、最初は戸惑うかもしれませんが、例年、ゼミ生同士が相談または助け合い、その過程において、友情を深めているような気がます。また、それぞれ提出し終えたときの達成感で輝く顔が印象的です。学生最後の年ですので、有意義な実り多き 1 年にしてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　萩原講師室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大川　謙蔵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本演習では卒業までに、ゼミ生全員で少なくとも民法の制度については詳細に把握できることを目的としている。 そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを把握していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。
到達目標	2年次・3年次演習で得られた知識・経験を駆使し、個人で問題を設定し、卒業論文を作成する。そのためには、これまで全員で行ってきた作業を個人で担当することとなる。論文を作成することを通じて、上記の作業を行うため、各自の中間報告での報告（レジュメや発表方法など）ができるようになること、最終的に論文に仕上げ、文章表現の難しさを知ること、そして、法的問題を個人で分析し自己の考えを述べることを通じて、社会問題全体に対しても、感想ではなく、知識や情報を獲得しそれを駆使して自己の意見を述べられるようにすることが、本演習の目標である。
授業方法と留意点	4年次の予定としては、各自で卒業論文を作成することである。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文のテーマをいかに設定するか、その内容を定期的にいかに報告するか（中間報告）、それを文章化するに当たり、以下に読み手（この場合は教員）を説得させるか、および、それを論文にいかにまとめるか、それらについて各自で試行錯誤することが必要となる。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	成績は、学期末に教員が用紙を渡すので、各ゼミ生が自己採点を行う。 自分で自分を評価する能力が必要とされる。 その自己評価書自体から教員が評価を行う。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11号館9階　大川講師室
備考	学生主体のゼミを目指しています。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	松島　裕一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	前年度に決定した個別テーマに基づいて、実際に卒業論文を執筆してもらいます。前年度の専門演習 II で真面目に課題に取り組んでいればそれほど困難はないとは思いますが、いざ卒論を書き始めてみると苦労の連続かもしれません。教員（松島）がしっかりサポートしますので、自分なりに四苦八苦しながら卒業論文を書き上げることがこの卒業研究の目的です。
到達目標	自分なりに満足できる卒業論文を各ゼミ生が仕上げること、そしてゼミ生全員の卒業論文を収めたオリジナルの論文集を作成すること。
授業方法と留意点	個別に課題を課しますので、その課題に真摯に取り組み、卒業論文を書き上げてください。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	各人が決定したテーマにしたがって資料収集を行い、実際に卒業論文執筆の作業を進めてもらいます。各人の進捗状況に応じて個別に指示を出します。
関連科目	直接的には法思想史、法哲学Ⅰ、法哲学Ⅱに関連しますが、広く憲法や民法などの実定法学の学習の一助にもなると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業論文によって評価します。その際、論文の質はもちろんですが、そこに至るまでの努力も評価の対象にします。悔いの残らない卒業論文を書き上げてください。
学生へのメッセージ	みんなで笑って卒業できるように頑張りましょう！　教員（松島）も精いっぱい努力しますので、学生の皆さんも頑張ってください。
担当者の研究室等	11 号 9 階　松島講師室
備考	

科目名	体力測定とスポーツ相談	科目名（英文）	Physical Fitness Test and Sports Counseling
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	堀　美幸
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	社会的な健康志向の高まりにより日常的に運動を行う人が増えているなか、個人の身体能力向上やスポーツに対する疑問や悩みに対して適切に対応できるようにするための知識を身につける。 運動愛好者からアスリートまで多岐にわたり対応できる知識も身につけていく。
到達目標	体力測定の方法と評価の原理を知り実習を行うことにより、個人の身体のサイズや身体的行動体力を把握できる能力を身につける。 またスポーツにかかわる相談事に対応し得る知識と技術を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義と実習を行う。 実習時には授業内容に適した服装とすることが望ましい。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要説明	テキスト　ｐ．１０３
2	体力測定（1）	体組成について	テキスト　ｐ．１０３－１０４
3	体力測定（2）	体組成の測定と評価	課題　測定結果の集計と評価
4	体力測定（3）	体力測定の意義と方法	テキスト　ｐ．１０４－１０６ 配布プリント
5	体力測定（4）	体力測定の実践	課題　測定結果の評価
6	体力測定（5）	測定結果の処理	テキスト　ｐ．１０７－１１２
7	体力測定（6）	測定結果を基にした体力評価	テキスト　ｐ．１１３－１１９
8	スポーツ相談（1）	スポーツ相談とは	テキスト　ｐ．１６５－１６６
9	スポーツ相談（2）	スポーツ相談の意義について	テキスト　ｐ．１６７－１６９
10	スポーツ相談（3）	スポーツ相談においての必要事項	テキスト　ｐ．１７０－１７１
11	スポーツ相談（4）	スポーツ相談の企画と運営	テキスト　ｐ．１７１－１７２
12	スポーツ相談（5）	スポーツ相談の実際	テキスト　ｐ．１７３－１８０
13	スポーツ相談（6）	スポーツ相談の技術	課題　メンタルトレーニングの実施方法
14	スポーツ相談（7）	スポーツ相談の実習	テキスト　ｐ．１８０－１８６
15	まとめ	講義の総括を行う	課題　エゴグラムの評価

関連科目

ヘルスエクササイズの理論と実際
フィットネストレーニングの理論と実際
スポーツプログラミング

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト	財団法人日本体育施設協会	財団法人日本体育施設協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単位取得は実習技能、課題提出、小テストおよび平常態度、知的理解度などを総合して判断する。
学生へのメッセージ	個人でもグループでも指導できるよう実習を交えながら行います。いろいろな場面で応用できるよう学んでいきましょう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　体育館事務室
備考	

科目名	多文化共生とは	科目名（英文）	Multicultural Studies
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河原　匡見
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	２１世紀は「移民の時代」ともいわれている。わが国でも近年アジアや南米からの定住外国人が急増するにつれて、その存在が注目され始めている。また政府は、今後の日本社会の少子化に対応すべく、外国人労働者の本格的受け入れを検討し始めており、異なる文化的背景をもつ人々との共生が大きな社会的課題となりつつある。本講義では、多文化との共生とはどのようなことなのか、さまざまな視点から概観して、初歩的かつ基礎的な知識を習得するとともに、共に生きるために何をなすべきかを考える材料を提示したいと考えている。
到達目標	グローバル化による人の移動がもたらすさまざまな課題について関心を高めるとともに、それらの問題に自らがどのように関わりそして対処していくか考える力を身につける。
授業方法と留意点	講義形式で行う。また必要に応じて、ワークブック形式のレジュメや参考資料を配布するが、しっかり聴講して必要であればノートをとるように心がけてほしい。
科目学習の効果（資格）	今後日本社会が必ず直面する「異なる文化的背景をもつ人々との共存」という課題についての知識や考察の材料を学べる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認調査	テレビや新聞のニュースに関心をもとう。
2	わが国における“共生”の現状	各種データからみた多文化共生の進展	配布した資料で復習してください。
3	多文化共生に関する入門的説明（1）	文化とは何か	配布した資料で復習してください。
4	多文化共生に関する入門的説明（2）	民族・人種とは何か	配布した資料で復習してください。
5	多文化共生に関する入門的説明（3）	言語、宗教（1）	配布した資料で復習してください。
6	多文化共生に関する入門的説明（4）	宗教（2）	配布した資料で復習してください。
7	多文化共生に関する基礎解説（1）	先住民族	配布した資料で復習してください。
8	多文化共生に関する基礎解説（2）	エスノセントリズム	配布した資料で復習してください。
9	多文化共生にいたる背景の説明（1）	人の移動の歴史（1）	配布した資料で復習してください。
10	多文化共生にいたる背景の説明（2）	人の移動の歴史（2）	配布した資料で復習してください。
11	多文化共生にいたる背景の説明（3）	人の移動の歴史（3）	配布した資料で復習してください。
12	大量移民の実例解説	華僑について	配布した資料で復習してください。
13	多文化共生に関する考え方や政策の推移	文化相対主義、多文化主義など	配布した資料で復習してください。
14	現代の多文化共生社会の事例説明	各国の具体的事例（実態）の紹介	配布した資料で復習してください。
15	総括	講義のまとめ・期末試験の説明	配布した資料で復習してください。

関連科目：政治・国際関係に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の成績によって評価する（なお、定期試験を必ず受験することが単位取得の最低条件である）。
学生へのメッセージ	日本は今後確実に多文化社会へと向かうと考えられます。それがいったいどのような社会なのか、講義の中で提示するさまざまな知識や情報からそのイメージを感じ取ってほしいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	

科目名	多文化共生論	科目名（英文）	Multicultural Studies
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河原　匡見
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	２１世紀は「移民の時代」ともいわれている。わが国でも近年アジアや南米からの定住外国人が急増するにつれて、その存在が注目され始めている。また政府は、今後の日本社会の少子化に対応すべく、外国人労働者の本格的受け入れを検討し始めており、異なる文化的背景をもつ人々との共生が大きな社会的課題となりつつある。本講義では、多文化との共生とはどのようなことなのか、さまざまな視点から概観して、初歩的かつ基礎的な知識を習得するとともに、共に生きるために何をなすべきかを考える材料を提示したいと考えている。
到達目標	グローバル化による人の移動がもたらすさまざまな課題について関心を高めるとともに、それらの問題に自らがどのように関わりそして対処していくか考える力を身につける。
授業方法と留意点	講義形式で行う。また必要に応じて、ワークブック形式のレジュメや参考資料を配布するが、しっかり聴講して必要であればノートをとるように心がけてほしい。
科目学習の効果（資格）	今後日本社会が必ず直面する「異なる文化的背景をもつ人々との共存」という課題についての知識や考察の材料を学べる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認調査	テレビや新聞のニュースに関心をもとう。
2	わが国における“共生”の現状	各種データからみた多文化共生の進展	配布した資料で復習してください。
3	多文化共生に関する入門的説明（1）	文化とは何か	配布した資料で復習してください。
4	多文化共生に関する入門的説明（2）	民族・人種とは何か	配布した資料で復習してください。
5	多文化共生に関する入門的説明（3）	言語、宗教（1）	配布した資料で復習してください。
6	多文化共生に関する入門的説明（4）	宗教（2）	配布した資料で復習してください。
7	多文化共生に関する基礎解説（1）	先住民族	配布した資料で復習してください。
8	多文化共生に関する基礎解説（2）	エスノセントリズム	配布した資料で復習してください。
9	多文化共生にいたる背景の説明（1）	人の移動の歴史（1）	配布した資料で復習してください。
10	多文化共生にいたる背景の説明（2）	人の移動の歴史（2）	配布した資料で復習してください。
11	多文化共生にいたる背景の説明（3）	人の移動の歴史（3）	配布した資料で復習してください。
12	大量移民の実例解説	華僑について	配布した資料で復習してください。
13	多文化共生に関する考え方や政策の推移	文化相対主義、多文化主義など	配布した資料で復習してください。
14	現代の多文化共生社会の事例説明	各国の具体的事例（実態）の紹介	配布した資料で復習してください。
15	総括	講義のまとめ・期末試験の説明	配布した資料で復習してください。

関連科目：政治・国際関係に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の成績によって評価する（なお、定期試験を必ず受験することが単位取得の最低条件である）。
学生へのメッセージ	日本は今後確実に多文化社会へと向かうと考えられます。それがいったいどのような社会なのか、講義の中で提示するさまざまな知識や情報からそのイメージを感じ取ってほしいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	

科目名	担保物権法	科目名（英文）	Real Security
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	古川　行男
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	担保とは、債権、特に金銭債権の回収を確実にする方策のことである。債権が確実に弁済されることは債権者にとって重要なことである。さらに、市場原理による経済社会にあっては、企業は新たな事業展開を迫られ、常に、その資金の確保を必要とする。金融を得るには担保の提供は必須で、この点からも担保に関する法制度は極めて重要である。当該講義は抵当権を中心とし、仮登記担保、譲渡担保等の新たな担保方法や担保の対象についても知識が得られるようにする。なお、担保法は物権と債権が交錯する領域で、担保物権の学習は財産法の全体像を把握することにもなる。
到達目標	担保とはなにか、どのような場面でどのような役割を果たしているのか､注意すべき事柄はなにかを理解する。
授業方法と留意点	担保物権は物権法と債権法が交錯し、学ぶべき裁判例も多い法領域である。しかし、制度に関することが大半で、民事法の基本的知識を踏まえて着実に学習すれば、民事法全体が把握でき、金融に関する新たな知識が獲得でき、興味が広がる分野である。講義は、登記・民事執行についての基本を確認した上、教科書に即し、該当条文を確認・検討する方法で行う。
科目学習の効果（資格）	理解が進めば財産法全体に興味が持て、民法に関しての応用力が養われ、民法を試験科目とする各種資格試験に対応できる。金融についての知識も得られるので、金融関係の仕事に就くことを望む者にとっては必須の領域である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・金銭債権の権利実現（金銭執行の概略）、担保の意義・必要性	・授業の進め方、受講上の注意 ・小六法・教科書の活用方法、担保法の全体像	小六法・教科書を持参すること。
2	担保法概論	・金融について ・貸付金債権の構造及び担保法の全体像	担保物権の全体像の把握
3	抵当権序説	・抵当権の概要 ・不動産登記事項証明書	抵当権の全体の把握
4	抵当権の設定	・抵当権設定契約 ・抵当権に関する諸概念の把握	]抵当権を付けるとはどういうことかの理解
5	抵当権の実行及び物上代位	・抵当権実行手続の概略 ・物上代位	抵当権を実行するとはどのようなことかの理解
6	抵当目的物の範囲	・不動産について ・抵当権の効力が及ぶ目的物の範囲	抵当権の効力はどこまで及ぶかの学習
7	抵当権侵害について	・物権的請求権の再検討 ・抵当目的物に対する侵害について	物権としての抵当権の効力の理解
8	抵当権目的物の利用・譲渡	・設定者の使用収益権 ・抵当目的物の第三取得者等に関する問題	設定者が占有していることから生ずる問題点
9	法定地上権、特殊の抵当権	・法定地上権 ・共同抵当権及び根抵当権について	法定地上権とは何かの理解
10	質権	質権の意義、目的物、効力	質権とは何かの理解
11	留置権	留置権の成立、効力及び消滅について	留置権とは何かの理解
12	先取特権	・先取特権の種類 ・特別先取特権について	先取特権と何かの理解
13	非典型担保概説･仮登記担保	非典型担保の意義・必要性 仮登記担保について	民法の条文にない担保権の種類の学習
14	譲渡担保等	・譲渡担保について ・その他の担保	譲渡担保のはたしている役割の学習
15	おわりに	講義内容を復習をすることにより、担保物権の全体像を整理・概説する。	全講義を振り返り、理解していない部分や質問等がないか検討する。 質問があれば応じる。

関連科目	民法総則、物権法、債権総論、民事執行法、破産法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法３　担保物権	平野ほか	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法　Visual Materials	池田真朗　編著	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	基本的に定期試験によって評価する。授業中に小テストを行うこともある。
学生へのメッセージ	取引社会において金融は重要な意義を有しその概略を学ぶことは必須である。他方、担保物権は身近な法的領域でもある。法律の学習は講義内容を理解することが第一で、本講義も同様である。授業は工夫をするが、理解を深めるための質問を期待している。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　古川教授室
備考	物権法を学習しておくことが望ましい。

科目名	地域調査入門	科目名（英文）	Introduction of Regional Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	中沼　丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	2009 年度まで「まちを調べる」という科目名であったこの講義では、その名のとおり、大学近辺の寝屋川市や交野市のまちに出向いて、地域や小学校の活動に参加し、観察や聞きとりによる調査を行う。本年度は、交野市の自治会と、寝屋川市の小学校に伺い、ボランティアや教員と一緒に活動を行い、世話役の方や校長先生への聞きとりを行う。
到達目標	自治会と小学校の現場で活動し、聞き取りを行うことで、地域や学校での当たり前の暮らしと学習が、どのような人の思いと努力で成り立っているか実感できるようにする。
授業方法と留意点	この講義は次の２点で他の科目と大きく異なる。(1)大学の外に出向いて調査をする、(2)自治会や小学校の日常の活動に入る。ですので、欠席や遅刻はできません。
科目学習の効果（資格）	市役所職員や学校教諭の「現場」感覚がわかり、採用試験に向けた動機づけにつながるとともに、採用試験での論作文や面接などに必要な知見が得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	【1 日目】自治会とは何か？地域において小学校はどのような役割を果たしている？	調査に伺う自治会や学校の日常や特徴を説明する。同時に、自分の地元での自治会や小学校について話し合う。	地元の自治会の掲示板を見たり、保護者に自治会の役員経験を尋ねる。通った小学校での地域とのつながりを思い出す。
2	自治会とは何か？地域において小学校はどのような役割を果たしている？	調査に伺う自治会や学校の日常や特徴を説明する。同時に、自分の地元での自治会や小学校について話し合う。	地元の自治会の掲示板を見たり、保護者に自治会の役員経験を尋ねる。通った小学校での地域とのつながりを思い出す。
3	【2 日目】自治会活動に参加してみる。	交野市の自治会で資源回収活動、防犯パトロール活動に参加する。自治会の世話役の方から、地域活動のねらいや工夫、効果、充実感などを聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
4	自治会活動に参加してみる。	交野市の自治会で資源回収活動、防犯パトロール活動に参加する。自治会の世話役の方から、地域活動のねらいや工夫、効果、充実感などを聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
5	【3 日目】小学校の教育現場に参加してみる。	寝屋川市の小学校で、夏休みの学習教室や親子料理教室、プール教室に参加する。校長先生から、児童の日常への気配り、夏休みの教室のねらい、地域とのつながりの意味などについて聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
6	小学校の教育現場に参加してみる。	寝屋川市の小学校で、夏休みの学習教室や親子料理教室、プール教室に参加する。校長先生から、児童の日常への気配り、夏休みの教室のねらい、地域とのつながりの意味などについて聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
7	【4 日目】活動参加と聞き取りの結果をまとめる。	自治会と小学校での活動参加と聞き取りの結果をまとめる。特に、世話役の方や校長先生の考えや気配り、気遣いについて話し合う。	聞き取りの結果を整理してくる。自治会の世話役の方と小学校の校長先生へのお礼と感想の手紙を書く。
8	活動参加と聞き取りの結果をまとめる。	自治会と小学校での活動参加と聞き取りの結果をまとめる。特に、世話役の方や校長先生の考えや気配り、気遣いについて話し合う。	聞き取りの結果を整理してくる。自治会の世話役の方と小学校の校長先生へのお礼と感想の手紙を書く。
9	――――	――――	――――
10	――――	――――	――――
11	――――	――――	――――
12	――――	――――	――――
13	――――	――――	――――
14	――――	――――	――――
15	――――	――――	――――

関連科目：「社会調査の方法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	事前説明から活動参加、聞き取り調査、まとめまでの全過程への参加が必須。活動参加の熱心さ、聞き取り調査の真剣さ、まとめの出来で評価する。
学生へのメッセージ	この講義は、通常講義のない７月の特別教育期間において４日間、１日約３コマで集中して行います。詳細は、履修ガイダンス時に説明します。
担当者の研究室等	11 号館９階　中沼准教授室

備考	

科目名	地域とスポーツ	科目名（英文）	Community and Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会におけるスポーツ活動が担う地域振興という役割を踏まえ、地域社会とスポーツとの関係の理解を深める。
到達目標	地域社会の発展や連帯を促進するためのスポーツの役割に関する知見を修得する。
授業方法と留意点	講義形式で行うが、学生の講義への参加も促すので留意してほしい。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者養成に関する科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	地域社会とスポーツ	地域とスポーツとの関係性について整理する。
2	地域におけるスポーツの振興（1）	地域にけるスポーツ振興方策と行政とのかかわり	関連資料に目を通す。
3	地域におけるスポーツの振興（2）	地域におけるスポーツ振興の主要課題	配布資料を理解する。
4	地域におけるスポーツの振興（3）	地域におけるスポーツ振興と民間団体の役割	前２回と今回の講義を関連づけて整理する。
5	地域スポーツの振興拠点（1）	わが国の特徴である学校スポーツおよび企業スポーツ	関連資料に目を通す。
6	地域スポーツの振興拠点（2）	諸外国における地域スポーツの振興拠点	配布資料を理解する。
7	地域スポーツの振興拠点（3）	地域スポーツクラブの役割（総合型地域スポーツクラブの機能と役割）	わが国と諸外国との相違点・類似点を見出す。
8	地域スポーツの振興拠点（4）、およびこれまでの講義のまとめ	地域スポーツクラブの役割、これまでの到達度を評価するための試験の実施	前 3 回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
9	地域スポーツの振興と関連法令	地域スポーツ振興と関連法令	配布資料の理解。
10	地域社会の活性化とスポーツ（1）	わが国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み	関連資料に目を通す。
11	地域社会の活性化とスポーツ（2）	諸外国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み	配布資料の理解。
12	地域社会の連帯促進とスポーツ（1）	わが国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み	関連資料に目を通す。
13	地域社会の連帯促進とスポーツ（2）	諸外国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み	配布資料の理解。
14	地域社会の連帯促進とスポーツ（3）	わが国における取り組みと諸外国における取り組みとの比較検討	前２回と今回の講義とを関連づけて整理する。
15	講義の総括	講義の総括と習熟度確認のための臨時試験の実施	これまでの講義を体系的に整理・理解する。

関連科目	スポーツ政策論等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢、および試験の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	- - - - - - -

科目名	知的財産法	科目名（英文）	Intellectual Property Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	関堂　幸輔
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	知的財産は，2002 年の小泉首相（当時）による「知財立国宣言」以来，わが国の政策上の戦略的資源の一つとしても位置づけられており，ますますその重要性が増しつつあります。本講義では，知的財産法（知的所有権法）の概要を俯瞰することでなぜ知的財産が法的に保護されるべきなのかを理解し，その一方で，最新の事例等の問題を紹介しつつ，高度情報化社会に伴う情報の積極的な共有化と，いわば情報を囲い込む知的財産権との相克という観点から，将来の知的財産法制の在り方についても検討していくことを目標とします。
到達目標	「授業概要・目的」に掲げた知的財産権ないし知的財産法に特有な意義・性質を理解し，それらが将来どのように運用されるべきであるか，自ら考察できるようにすることを到達目標とします。
授業方法と留意点	板書中心の講義形式とし，適宜配付資料や視聴覚的資料を用います。なお，本来なら産業から文化まで広範囲に渡る知的財産法の全般を半年のみの科目で修めることはおよそ無理な話なのですが，本学部のカリキュラムはそれを強いていますので，やむを得ず本講義では特許法と著作権法のみを中心に授業を行います。
科目学習の効果（資格）	最先端かつ重要な特別法の分野に接することで，より応用的な法学の力や考え方が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	詳細なガイダンス	授業の内容，方法その他について詳細に説明します。	—
2	情報の意義・性質と知的財産	いわば「情報を囲い込み独占する」という知的財産の制度が，情報本来の性質にどう関わってくるのか，法制度の趣旨と併せて検討します。	事後：当該回の内容の復習
3	知的財産のいろいろ	特許権，実用新案権，意匠権，商標権，著作権などの対象として身近な例を取り上げ，それぞれ概要を理解します。	事後：当該回の内容の復習
4	技術的アイディアの保護	特許権の対象である「発明」について理解します。	事後：当該回の内容の復習
5	特許出願と特許権取得の手続	特許権を取得するための出願・審査・登録といった手続の流れを把握します。	事後：当該回の内容の復習
6	特許権の性質・内容	特許権の存続期間と権利の及ぶ（逆に及ばない）範囲について学びます。「消尽論」「均等論」といった法学上の重要論点もここで取り上げます。	事後：当該回の内容の復習
7	表示・標識の保護	識別性ないし周知性のある表示・標識を保護する制度としての商標法および不正競争防止法について簡単に説明します。	事後：当該回の内容の復習
8	創作的表現の保護	著作権の対象である「著作物」，そしてそれを伝達する「実演」等について理解します。	事後：当該回の内容の復習
9	著作権の内容（1）	著作権や著作隣接権の具体的内容を把握します。	事後：当該回の内容の復習
10	著作権の内容（2）	同上。	事後：当該回の内容の復習
11	著作権の制限（1）	著作権等の存続期間（時間的制限）および「私的使用目的複製」「引用」など，著作権が制限される場合を理解し，そのような制度の趣旨や在り方について検討します。	事後：当該回の内容の復習
12	著作権の制限（2）	同上。	事後：当該回の内容の復習
13	最新の事例・問題（1）	知的財産法に関する最新の事例や問題点を取り上げ，検討します。	事後：当該回の内容の復習
14	最新の事例・問題（2）	同上。	事後：当該回の内容の復習
15	試験、その他	試験により成績評価をします。試験についての詳細は授業にて説明します。	—

関連科目：民法（特に財産法），経済法，行政法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業内において適宜指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	最終回に行う試験 100%で評価します。
学生へのメッセージ	こうした最先端の分野に関わる法律には，いわゆる「正解」がありません。現在妥当だとされる考え方が 5 年後，10 年後に変わっている可能性さえあるのです。そうしたことを踏まえて，積極的に自分の頭で考えようとする姿勢が何よりも肝要です。
担当者の研究室等	11 号館 6 階　法学部
備考	担当者は各回ごとに特定の課題を与えることに特段の意義を見出していません。なぜなら，社会のさまざまな事象と密接に関連するこのような社会科学においては，周囲のあらゆることが学びのきっかけであり，またそれが絶ゆることはなく，すなわちいつでもどこでも予習・復習が必要な

	のですから。受講生においてもそのつもりで臨んで下さい。

科目名	知的所有権法	科目名（英文）	Intellectual Property Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	関堂　幸輔
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	知的財産は，2002 年の小泉首相（当時）による「知財立国宣言」以来，わが国の政策上の戦略的資源の一つとしても位置づけられており，ますますその重要性が増しつつあります。本講義では，知的財産法（知的所有権法）の概要を俯瞰することでなぜ知的財産が法的に保護されるべきなのかを理解し，その一方で，最新の事例等の問題を紹介しつつ，高度情報化社会に伴う情報の積極的な共有化と，いわば情報を囲い込む知的財産権との相克という観点から，将来の知的財産法制の在り方についても検討していくことを目標とします。
到達目標	「授業概要・目的」に掲げた知的財産権ないし知的財産法に特有な意義・性質を理解し，それらが将来どのように運用されるべきであるか，自ら考察できるようにすることを到達目標とします。
授業方法と留意点	板書中心の講義形式とし，適宜配付資料や視聴覚的資料を用います。なお，本来なら産業から文化まで広範囲に渡る知的財産法の全般を半年のみの科目で修めることはおよそ無理な話なのですが，本学部のカリキュラムはそれを強いていますので，やむを得ず本講義では特許法と著作権法のみを中心に授業を行います。
科目学習の効果（資格）	最先端かつ重要な特別法の分野に接することで，より応用的な法学の力や考え方が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	詳細なガイダンス	授業の内容，方法その他について詳細に説明します。	—
2	情報の意義・性質と知的財産	いわば「情報を囲い込み独占する」という知的財産の制度が，情報本来の性質にどう関わってくるのか，法制度の趣旨と併せて検討します。	事後：当該回の内容の復習
3	知的財産のいろいろ	特許権，実用新案権，意匠権，商標権，著作権などの対象として身近な例を取り上げ，それぞれ概要を理解します。	事後：当該回の内容の復習
4	技術的アイディアの保護	特許権の対象である「発明」について理解します。	事後：当該回の内容の復習
5	特許出願と特許権取得の手続	特許権を取得するための出願・審査・登録といった手続の流れを把握します。	事後：当該回の内容の復習
6	特許権の性質・内容	特許権の存続期間と権利の及ぶ（逆に及ばない）範囲について学びます。「消尽論」「均等論」といった法学上の重要論点もここで取り上げます。	事後：当該回の内容の復習
7	表示・標識の保護	識別性ないし周知性のある表示・標識を保護する制度としての商標法および不正競争防止法について簡単に説明します。	事後：当該回の内容の復習
8	創作的表現の保護	著作権の対象である「著作物」，そしてそれを伝達する「実演」等について理解します。	事後：当該回の内容の復習
9	著作権の内容（1）	著作権や著作隣接権の具体的内容を把握します。	事後：当該回の内容の復習
10	著作権の内容（2）	同上。	事後：当該回の内容の復習
11	著作権の制限（1）	著作権等の存続期間（時間的制限）および「私的使用目的複製」「引用」など，著作権が制限される場合を理解し，そのような制度の趣旨や在り方について検討します。	事後：当該回の内容の復習
12	著作権の制限（2）	同上。	事後：当該回の内容の復習
13	最新の事例・問題（1）	知的財産法に関する最新の事例や問題点を取り上げ，検討します。	事後：当該回の内容の復習
14	最新の事例・問題（2）	同上。	事後：当該回の内容の復習
15	試験、その他	試験により成績評価をします。試験についての詳細は授業にて説明します。	—

関連科目：民法（特に財産法），経済法，行政法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業内において適宜指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	最終回に行う試験 100%で評価します。
学生へのメッセージ	こうした最先端の分野に関わる法律には，いわゆる「正解」がありません。現在妥当だとされる考え方が 5 年後，10 年後に変わっている可能性さえあるのです。そうしたことを踏まえて，積極的に自分の頭で考えようとする姿勢が何よりも肝要です。
担当者の研究室等	11 号館 6 階　法学部
備考	担当者は各回ごとに特定の課題を与えることに特段の意義を見出していません。なぜなら，社会のさまざまな事象と密接に関連するこのような社会科学においては，周囲のあらゆることが学びのきっかけであり，またそれが絶ゆることはなく，すなわちいつでもどこでも予習・復習が必要な

	のですから。受講生においてもそのつもりで臨んで下さい。

科目名	地方財政論	科目名（英文）	Local Public Finance
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柿本　尚志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、国と地方の財政関係や地方財政システムが抱える問題を勉強し、その改革のあり方を考えることとします。地方財政の制度や現状をわかりやすく解説し、問題解決の糸口を見出すことを目指します。
到達目標	国と地方の関係から、わが国の財政システムについて理解し、少子高齢化や地方再生について財政の果たすべき役割を考察できるようになる。
授業方法と留意点	毎回、講義の初めに前回の授業内容を簡単に復習したうえで授業に入って行きます。その際、受講生からの質問や関心がある点などを確認し、それに関する説明も加えながら進めていきます。
科目学習の効果（資格）	公務員試験等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明します。	新聞や経済誌などの地方財政に関する記事を読むようにしてください。
2	地方財政の実態	財政とは何かについて踏まえ、膨張する地方財政と国のコントロール、さらに地方財政の課題について解説します。	教科書の第１章を読んでおくこと。
3	国と地方の機能分担	財政の役割について整理し、地方分権の意義を考えます。	教科書の第２章を読んでおくこと。
4	制度としての地方財政	地方財政制度や財政運営について解説します。	教科書の第３章を読んでおくこと。
5	地方公共支出の経済学	地方公共支出について経済学的な考え方から解説します。	教科書の第４章を読んでおくこと。
6	地方団体の行財政改革	地方行財政運営と公共サービスのあり方について考えます。	教科書の第５章を読み、５章までの内容で関心のある点を抜き出しておくこと。
7	広域行政と狭域行政	行政区域の問題について、市町村制の歴史や平成の大合併、また行政圏域としての見方などを紹介します。	教科書の第６章を読んでおくこと。
8	地方税の体系と原則	国税と地方税を比較し、地方税体系や原則について解説します。	教科書の第７章を読んでおくこと。
9	地方税の改革	さまざまな地方税についての改革、およびそれに伴う地方分権の問題を考えます。	教科書の第８章を読んでおくこと。
10	国庫支出金と地方財政	地方に対する国の関与について理解を深めます。	教科書の第９章を読んでおくこと。
11	地方交付金と財政調整	ここでも地方への国の関与の状況を理解します。	教科書の第１０章を読み、６～１０章までの内容で関心のある点を抜き出しておくこと。
12	地方債の発行と国の関与	地方債発行における国の関与を考えます。	教科書の第１１章を読んでおくこと。
13	地域づくりと地方団体の役割	地方経済の実態、地方産業振興策、地域格差問題などを解説します。	教科書の第１２章を読んでおくこと。
14	少子高齢社会と地方財政	少子高齢社会における医療・介護問題を取り上げます。	教科書の第１３章を読んでおくこと。
15	地方公営企業と第３セクター	地方公営企業の経営状況や第３セクターの経営破たんについて考えます。この授業の最後として、全体のまとめを行います。	教科書の第１４章を読み、今まで学んだ中でもっとも関心のある点の意見、感想を提出。

関連科目：財政学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地方財政［新版］	林宜嗣	有斐閣ブックス
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 100%。
学生へのメッセージ	昨今、地方分権や地方財政に関する報道が多く、皆さんが耳にされる言葉も多いことと思います。それらに関する知識を整理して、将来役に立つように考えています。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	地方自治と政策	科目名（英文）	Local Government and Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	「地方でできることは地方へ」という分権化時代において、権限を委ねられる地方自治体には、法務能力と政策立案能力の双方の強化が必要になってきている。この講義では、地方自治体の財政状況から地域政策の問題点を探り、問題を生み出した構造とその改革策を理解する。
到達目標	地方自治体の決算カードを見て、財務指標を計算する。その指標から、どれくらいの政策の自由度が地方自治体に現実にあるのか判断する。自由度の小ささは、どのような経緯によるものか理解する。今後、自由度を広げていくには、地方と国にどのような努力が必要か考える。
授業方法と留意点	公共政策に関する基礎知識を前提に、地方財政の知識を身につけながら地域政策の現状を明らかにする。大学らしい発展科目にする考えなので、受講者には高い意識が求められる。
科目学習の効果（資格）	公務員試験で出題される行政学の一部をカバーする。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ドラマ『再生の町』に見る地方行政の危機	大阪の市役所をモデルにして作られたドラマを見て、自治体の財政危機の様子をイメージする。	ドラマ『再生の町』の視聴
2	自治体の財政危機と地域政策(1)	自治体財政の基本的な仕組みを理解し、財政状況から地域政策の現状を知る意義を確認する。	レジュメ p. 1-2 の復習
3	自治体の財政危機と地域政策(2)	大阪府の市町村の実データを使って、財政状況をはかる指標の数値を算出できるようにする。	レジュメ p. 3 の復習 決算カードの確認
4	自治体の財政危機と地域政策(3)	大阪府の市町村の実データを使って、借金の累積と財政への影響を把握できるようにする。	レジュメ p. 4 の復習 決算カードの確認
5	地方債の増加と建設政策(1)	地方債制度の基本を理解し、自治体が借金をして建設政策を展開する意味を知る。	レジュメ p. 5-6 の復習
6	地方債の増加と建設政策(2)	昭和 40 年代後半から昭和 50 年代前半まで公共事業を拡大させた補助金交付の実態を確認する。	レジュメ p. 6-7 の復習 行政投資関連資料の確認
7	地方債の増加と建設政策(3)	地方交付税について、自治体間で一般財源の均衡を図る機能と、国が自治体の政策を誘導する機能を確認する。	レジュメ p. 7-8 の復習 レポート課題の作成
8	地方債の増加と建設政策(4)	昭和 61 年頃から平成 7 年頃にかけて公共事業を拡大させた地方交付税措置という仕組みを理解する。	レジュメ p. 8 の復習 地方交付税・公債関連資料の確認
9	地方財政健全化比率(1)	地方財政健全化法によって導入された、自治体の「本体」以外の会計の現状を明らかにする指標を知る。	レジュメ p. 9 の復習 新聞記事資料の確認
10	地方財政健全化比率(2)	近畿の市町村の実データを使って、健全化比率で自治体の財政状況を把握できるようにする。	レジュメ p. 10 の復習 健全化比率関連資料の確認
11	土地開発公社	公共事業拡大の前提にあった公有地の取得について、土地開発公社が果たした役割と抱えた負債の問題の重さを考える。	レジュメ p. 11-12 の復習 新聞記事資料の確認
12	第三セクター	ビルやリゾートの開発のために自治体が第三セクターを設立した背景と、多くの第三セクターが破綻に至った経緯を知る。	レジュメ p. 13-14 の復習 新聞記事資料の確認
13	公営企業	下水道・交通・病院事業などを行う自治体の公営企業について、赤字につながる問題と改革の限界を理解する。	レジュメ p. 15-16 の復習 新聞記事資料の確認
14	「事業仕分け」の改革	事業の必要性を問い直す「事業仕分け」の改革について、その方法と結果を確認する。	レジュメ p. 17-18 の復習 新聞記事資料の確認
15	「協働」の改革	市民の行政依存、行政の自己完結を問い直す「協働」の改革について、その背景と動向を知る。	レジュメ p. 19-20 の復習 新聞記事資料の確認

関連科目：「公共政策の基礎」「行政と政策」「地方自治と法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点（毎回の課題ペーパーの点数の累積）と期末試験の点数の合計によって評価する。
学生への メッセージ	政策系の最後の科目として高いレベルで講義を展開します。特に地方公務員として地域政策をリードすることになる人が真剣に勉強する場にしたいと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室
備考	

科目名	地方自治と法	科目名（英文）	Local Government Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	金谷　重樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	地方自治法と地方公務員法を中心に、地方自治がどのような法に基づき、どのように運営されているのかについて、具体的事例を挙げながら、平易に解説します。地方公務員の受験者は受験勉強として講義を受けてください。また、地方公務員を受験しない学生も地方行政と関わりのない生活は存在しないことから、法学部の学生であれば、原則として、受講してください。
到達目標	公務員試験に合格する力を培う。
授業方法と留意点	プリントを配付します。配付したプリントは毎回必ず持参して下さい。
科目学習の効果（資格）	地方公務員を希望する学生は、必ず受講してください。この講義の内容は、公務員試験における教養問題としても出題されます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地方自治の意味	地方自治の法的意味を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
2	地方公共団体の種類	普通地方公共団体と特別地方公共団体を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
3	地方公共団体の事務	国と地方公共団体の役割分担を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
4	地方議会	地方議会の意義と構成を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
5	地方議会の権限その１	地方議会の権限を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
6	地方議会の権限その２	地方議会の権限を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
7	執行機関	執行機関の意義と構成を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
8	長の権限	長の権限を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
9	地方公務員法その１	地方公務員制度を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
10	地方公務員法その２	地方公務員の権利義務を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
11	長と議会の関係	長と議会の関係を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
12	住民の権利その１	直接請求制度を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
13	住民の権利その２	住民監査請求と住民訴訟を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
14	情報公開制度と個人情報保護制度	地方公共団体における情報公開制度と個人情報保護制度を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
15	まとめ	これまでの講義内容をまとめる。	これまで学んだことを復習しておくこと。

関連科目：憲法、行政法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	学期末に試験をし、それによって評価します。試験の内容は原則として○×方式か、穴埋め方式です。
学生へのメッセージ	とにかく私語は絶対しないこと。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　金谷教授室
備考	

科目名	罪と罰	科目名（英文）	Crime and Punishment
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＩＪ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業は、いわゆる「刑事法」（刑法・刑事訴訟法・少年法・犯罪者処遇法）について、その基本的な内容を理解することを目標とするものである。具体的内容であるが、どのような行為が「犯罪」として処罰されるのか、刑事手続の内容（犯罪捜査・刑事裁判）とはどのようなものか、刑罰にはどのような種類があるのか、成人の刑事手続と少年の保護手続との違いはどこにあるのか、などといったことについて実際に起きた事件の解説等も交えながら授業を進めていく予定である。
到達目標	「刑事法」を学習していく上での基本的知識を修得する。
授業方法と留意点	下記で指定した教科書及びそれをもとに作成したレジュメを中心に授業を行う。 なお、レジュメは大学の「教材・提出フォルダ（webbox)」から各自ダウンロードして印刷してください。
科目学習の効果（資格）	法学検定など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	教科書の入手
2	刑法概説①	刑法とはなにか？	レジュメの穴埋め
3	刑法概説②	刑罰の役割と機能について	レジュメの穴埋め
4	刑法概説③	罪刑法定主義と刑法の解釈について	レジュメの穴埋め
5	刑法概説④	「犯罪」とはなにか？	レジュメの穴埋め
6	刑法概説⑤	「犯罪」の成立要件その１：構成要件	レジュメの穴埋め
7	刑法概説⑥	「犯罪」の成立要件その２：違法性	レジュメの穴埋め
8	刑法概説⑦	「犯罪」の成立要件その３：責任	レジュメの穴埋め
9	刑法概説⑧	故意と過失について	レジュメの穴埋め
10	刑法概説⑨	刑罰と保安処分について	レジュメの穴埋め
11	刑法概説⑩	量刑について	レジュメの穴埋め
12	刑事訴訟法概説①	刑事訴訟法とはなにか？	レジュメの穴埋め
13	刑事訴訟法概説②	捜査について	レジュメの穴埋め
14	刑事訴訟法概説③	公訴提起・公判手続と少年事件について	レジュメの穴埋め
15	刑事政策概説	犯罪者の処遇などについて	レジュメの穴埋め

関連科目：刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、少年法、刑事政策など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学ぶ刑事法（第５版）	井田良	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑法学・総論	井田良	有斐閣
2	入門刑事手続法（第６版）	三井誠・酒巻匡	有斐閣
3	入門刑事法（第５版）	三井誠・曽根威彦・瀬川晃	有斐閣

評価方法（基準）	定期試験の成績によって評価する。ただし、受講態度等を考慮することがある。
学生へのメッセージ	この授業は、大学で刑事法を勉強していく上でのいわば「入り口」にあたります。ですから、教員においてはできるだけ平易な解説を心がけるとともに、学生においてももしわからない点などがあれば臆せず質問するようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階 島田准教授室
備考	六法は必ず持参するようにしてください。

科目名	倒産法	科目名（英文）	Insolvency Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原　佐織
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	個人もしくは企業が経済的に破綻した場合、適切な対応は、関係者にとっても、経済全体にとっても重要なことである。倒産処理に関する法的処理は、激しく対立する債務者と債権者間の利害を公平かつ適切に調整する極めて動的で且つ実体法と訴訟法が複雑に交錯する実際的で、興味深い分野である。当該講義は、倒産処理法の中心である破産法について検討した上、民事再生の基本的な指導理念や枠組みについて説明する。これらの学習によって民事法全体についての理解が確実にもなる。
到達目標	倒産法というと自分には全く関係のない問題のように考える人も多いかと思うが、教育ローン・マイホームローン・マイカーローンの返済の滞り、クレジットカード等による浪費等は誰にでも考えられることだし、自分が倒産しなくても、バイト先や勤務先の会社の業績不振による給料の未払い、就職した会社の取引会社が倒産して債権の回収に駆り出されたりと、倒産手続に巻き込まれる可能性はある。その際、転ばぬ先の杖ではないが、倒産手続の仕組みを理解しておくことは、経済的に自立した大人となるための基礎知識として必要なのではないかと思う。
授業方法と留意点	講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要個所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。講義内容に応じ、パワーポイントを用いた講義形式で行う場合もある。双方向の講義を目標としているため、座席指定を行い（座席の選択は自由）、質疑応答を行う。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。
科目学習の効果（資格）	法科大学院への進学、裁判所職員、司法書士の試験等に有益である。金融についての理解が進むので、金融機関で働くことを望む者や、ファイナンシャルプランナー（FP）の資格取得希望者にとっても極めて有益である。また、それらを目指さない者であっても、経済的に困難な状況に陥った場合のリスク回避・倒産手続の理解・対処方法の習得として、全ての者にとって必要な知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・倒産法の概要 ・倒産法と、他の法律（民法、民事訴訟法、民事保全・執行法）との関係 ・平常時と倒産時の比較の観点 ・倒産手続の種類（再建型と清算型）	・授業の進め方・受講上の注意及び評価方法等について ・個別執行（民事保全執行法）と包括執行（倒産法）との違い ・平常時は早い者勝ちの世界、倒産時は債権者平等の世界 ・再建型（民事再生・会社更生）と清算型（破産・特別清算）	教科書　P. 1～11
2	・破産手続の流れ	・法人の破産手続で配当がある事案 ・個人の破産手続で、破産管財人がついたうえで異時廃止となる事案	教科書　P. 13～23 前回講義における配布資料の復習
3	・再生手続の流れ	・通常再生手続で自主再生する事案（収益弁済型） ・通常再生手続でスポンサー型で再生する事案（スポンサー型） ・個人再生手続の事案（個人再生）	教科書　P. 24～39 前回講義における配布資料の復習
4	・開始決定の効果	・破産手続および再生手続の申立て ・手続開始決定の効果	教科書　P. 42～57 前回講義における配布資料の復習
5	・財産の管理/換価と管財人等	・破産財団の管理/換価等および破産管財人の善管注意義務 ・破産財団の意義と範囲および係属中の訴訟手続の取扱い ・破産管財人の第三者性と手続開始後の登記等の効力 ・再生債務者財産の管理等、再生債務者の第三者性等 ・財産評定	教科書　P. 58～73 前回講義における配布資料の復習
6	・契約関係の処理（売買・取戻権）	・双務契約の一方未履行の場合 ・双務契約の双方未履行の場合 ・取戻権	教科書　P. 74～89 前回講義における配布資料の復習
7	・契約関係の処理（賃貸借・請負・リース契約）	・賃貸借契約 ・請負契約 ・ファイナンスリース契約	教科書　P. 90～106 前回講義における配布資料の復習
8	・否認権	・詐害行為否認 ・偏頗行為否認	教科書　P. 107～120 前回講義までに配布した全ての配布資料の復習
9	・相殺権と相殺禁止	・相殺権の意義（民法における相殺との比較） ・相殺権の拡張 ・相殺権の制限	教科書　P. 134～148 前回講義における配布資料の復習
10	・倒産手続における担保権の取扱い	・担保権とは何か ・別除権とは何か ・別除権の行使 ・別除権となる担保権（典型担保の場合）	教科書　P. 149～168 前回講義における配布資料の復習
11	・債権の優先順位	・債権者平等の原則 ・債権の優先順位 ・財団債権と破産債権（破産手続）	教科書　P. 186～203 前回講義における配布資料の復習
12	・配当と破産手続の終了	・配当 ・破産手続の終了	教科書　P. 204～216 前回講義における配布資料の復習
13	・再生計画、履行	・再生計画とは？ ・再生計画の提出と可決、認可手続	教科書　P. 217～234 前回講義における配布資料の復習
14	・個人債務者の倒産手続 ・免責	・個人倒産制度の全体像 ・自由財産 ・免責 ・小規模個人再生/給与所得者等再生	教科書　P. 235～251 前回講義における配布資料の復習
15	・倒産法における諸問題 ・まとめ＆復習	・倒産におけるライセンス契約等の取扱い等	・該当範囲の復習 ・当該講義において配布した全資料の復習

			・講義全体のまとめと復習	

関連科目	民事保全・執行法、民事訴訟法、担保物権法、債権法、契約法、知的財産法、商法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎トレーニング倒産法	藤本利一/野村剛司	日本評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	六法		
2			
3			

評価方法（基準）	中間・定期試験(80%)、ならびに復習・確認演習やレポート等(20%)により総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。
学生へのメッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。倒産法を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　萩原講師室
備考	

科目名	独占禁止法Ⅰ	科目名（英文）	Anti-trust Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村　秀一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	経済社会の基本秩序を維持することを目的とする経済法の中心をなすものは、独占禁止法（私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律）である。独占禁止法は、私的独占、不当な取引制限及び不公正な取引方法を禁止することが主たる目的であり、現代の国民生活を営むうえで独占禁止法を理解することはきわめて重要である。
到達目標	経済法の中心となる独占禁止法の基本的知識を理解する。
授業方法と留意点	AV 教室においてノートパソコン画面をディスプレイに表示しながら、講義を行う。全学生がノートを取れるようスピード調整しながら行う。プリントを配付する。教材フォルダにアップロードしてあるので、各自で授業第一回目までに入手すること。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務法務検定試験３級取得に必要な法知識を提供する。この試験に合格すれば、ビジネス法務リーダーの称号が与えられ、受験を推奨する企業が増えている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	経済法･独占禁止法とは何か 独占禁止法の目的	自由競争の促進と独禁法	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
2	独占禁止法の基礎概念(1)	事業者	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
3	独占禁止法の基礎概念(2)	一定の取引分野(1)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
4	独占禁止法の基礎概念(3)	一定の取引分野(2)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
5	独占禁止法の基礎概念(4)	競争の実質的制限(1)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
6	独占禁止法の基礎概念(5)	競争の実質的制限(2)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
7	独占禁止法の基礎概念(6)	公共の利益	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
8	私的独占の禁止(1)	私的独占とは何か	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
9	私的独占の禁止(2)	私的独占に関する主要判例(1)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
10	私的独占の禁止(3)	私的独占に関する主要判例(2)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
11	私的独占の禁止(4)	私的独占に関する主要判例(3)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
12	私的独占の禁止(5)	私的独占に関する主要判例(4)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
13	経済力集中規制（１）	持株会社の規制･金融会社の株式保有制限・一般会社の株式保有規制・役員兼任の制限	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
14	経済力集中規制（２）	合併・営業譲受等の制限	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
15	経済力集中規制（３）	独占的状態の規制	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。

関連科目：経済学、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業中に指示する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の結果のみによって評価する。
学生へのメッセージ	試験は教科書のみ持込可とするので、必ず購入すること。確実な理解をはかるため質問日なども設ける。六法を必ず持参すること。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　木村教授室
備考	授業計画は各年度の事情（新事件・新判例の追加等）により多少の修正が生ずることがある。

科目名	独占禁止法Ⅱ	科目名（英文）	Anti-trust Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村　秀一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	経済社会の基本秩序を維持することを目的とする経済法の中心をなすものは、独占禁止法（私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律）である。独占禁止法は、私的独占、不当な取引制限及び不公正な取引方法を禁止することが主たる目的であり、現代の国民生活を営むうえで独占禁止法を理解することはきわめて重要である。
到達目標	経済法の中心となる独占禁止法の基本的知識を理解する。
授業方法と留意点	AV 教室においてノートパソコン画面をディスプレイに表示しながら、講義を行う。全学生がノートを取れるようスピード調整しながら行う。プリントを配付する。教材フォルダにアップロードしてあるので、各自で授業第一回目までに入手すること。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務法務検定試験３級取得に必要な法知識を提供する。この試験に合格すれば、ビジネス法務リーダーの称号が与えられ、受験を推奨する企業が増えている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	不当な取引制限（1）	カルテルの弊害	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
2	不当な取引制限（2）	カルテル形成の条件・カルテルの類型	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
3	不当な取引制限（3）	不当な取引制限の成立時期　不当な取引制限の立証・行政指導とカルテル	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
4	不当な取引制限（4）	事業者団体によるカルテル・カルテルの規制方法	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
5	不公正な取引方法（1）	一般指定・特殊指定	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
6	不公正な取引方法（2）	取引拒絶　差別対価	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
7	不公正な取引方法（3）	取引条件の差別的取扱　事業者団体による差別的取扱	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
8	不公正な取引方法（4）	欺瞞的顧客誘引・不当な利益による顧客誘引	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
9	不公正な取引方法（5）	排他条件付取引	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
10	不公正な取引方法（6）	再販売価格の拘束	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
11	不公正な取引方法（7）	拘束条件付取引	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
12	不公正な取引方法（8）	優越的地位の濫用	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
13	不公正な取引方法（9）	取引妨害	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
14	不公正な取引方法(10)	内部干渉	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
15	不公正な取引方法(11)	不公正な取引方法の規制方法	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。

関連科目：経済学、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業中に指示する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の結果のみによって評価する。
学生へのメッセージ	試験は教科書のみ持込可とするので、必ず購入すること。確実な理解をはかるため質問日なども設ける。六法も必ず持参すること。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　木村教授室
備考	授業計画は各年度の事情（新事件・新判例の追加等）により多少の修正が生ずることがある。

科目名	日本女性史	科目名（英文）	History of Women in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	牧田　勲
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　地理歴史）　【施行規則に定める科目区分】日本史　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	高校の日本史教科書に登場する女性は、ごくわずかである。江戸時代では、出雲の阿国、皇女和宮、東福門院和子、明正天皇、後桜町天皇くらいである。これまでの日本史教育では、女性が何を考えてどう生きたか、ということはほとんど捨象されてきたといってよい。この講義では、戦国期から近世のさまざまな女性像に焦点をあて、時代の中で奮闘し、悩み、楽しんだ女性の姿を紹介してみたい。
到達目標	男女共同参画基本法や雇用機会均等法など、女性の差別的扱いを克服しようとする動きがあり、社会のあらゆる場面での平等が求められている現在、日本における女性差別の根源がどういうところにあり、それが現代にも大きな影を落としている様を知ることは重要であり、喫緊の課題であるといえる。現代の法を理解する上でも女性史に触れるべきである。
授業方法と留意点	講義形式でおこなう。適当な教科書がないので、随時史料や絵画資料、関連文献を配付したり、紹介する。
科目学習の効果（資格）	「男女共同参画社会」に生きる男女すべてにとって必要な教養といえる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	女性史とは	歴史の中の女性	男女共同参画について、日々関心を持つようにしよう
2	中世の女性	中世社会と女性の地位	鎌倉・室町時代の予習、講義ノートの整理復習
3	戦国時代の女性①	政略結婚の時代	戦国時代の予習、講義ノートの整理復習
4	戦国時代の女性②	領国を支える女たち	講義ノートの整理復習
5	近世の女性①	儒教と女性	江戸時代儒教の予習、講義ノートの整理復習
6	近世の女性②	武家の女性	講義ノートの整理復習
7	近世の女性③	大奥の女たち	講義ノートの整理復習
8	近世の女性④	町人社会の女性	江戸町人についての予習、講義ノートの整理復習
9	近世の女性⑤	長屋の中の女たち	講義ノートの整理復習
10	近世の女性⑥	幕末の「お稽古事」事情	講義ノートの整理復習
11	近世の女性⑦	江戸の娘たち	講義ノートの整理復習
12	近世の女性⑧	天保改革と女性	天保改革についての予習、講義ノートの整理復習
13	近世の女性⑨	遊郭の女たち	講義ノートの整理復習
14	近世の女性⑩	幕末の動乱と女たち	講義ノートの整理復習
15	おわりに	講義のまとめ	講義ノートの整理復習

関連科目：「近世日本の法文化」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	基本的には定期試験の成績による。ただし、レポートを課す可能性もある。その時はレポート点を１～２割、定期試験を９～８割の配分で判定する。
学生へのメッセージ	日本史、女性史、現代の女性問題などに興味をもっている諸君が選択することを期待する。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　牧田教授室
備考	

科目名	日本政治論	科目名（英文）	The Lectures on Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松永　信一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	1945～1960 年の戦後日本政治の推移について、占領統治を中心に説明する。
到達目標	戦後日本社会の政治的枠組みを理解し、国際人としての基本的前提を養う。
授業方法と留意点	講述形式を中心にしていく。プリントを毎時間配布。質問やディスカッションの時間もできる限り設けたい。
科目学習の効果（資格）	成熟した近代社会における市民としての常識的知識の獲得。職業的には教員やジャーナリスト･マスコミ関連や外交官あるいは公務員志望者向け。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の概要と趣旨	高校の日本史の教科書の該当部分(1930 年代から現在に至る部分)を読み直す。
2	太平洋戦争について①	満州事変（1931）から真珠湾攻撃（1941）まで	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない事柄については質問すること。
3	太平洋戦争について②	戦争の経緯と無条件降伏受諾	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない事柄については質問すること。
4	占領前期（敗戦－１９４８）①	敗戦と天皇制、民主化・非軍事化	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない事柄については質問すること。
5	占領前期（敗戦－１９４８）②	日本国憲法、労働運動、中道政権	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない事柄については質問すること。
6	占領後期（１９４８－５２）①	冷戦構造、占領政策の転換	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない事柄については質問すること。
7	占領後期（１９４８－５２）②	経済復興、ドッジライン、朝鮮戦争	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない事柄については質問すること。
8	占領後期（１９４８－５２）③	講和条約、保守対革新	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない事柄については質問すること。
9	ＧＨＱ撤退から保守合同まで①	吉田政権、吉田派対反吉田派	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない事柄については質問すること。
10	ＧＨＱ撤退から保守合同まで②	保守合同の経緯、鳩山政権	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない点は質問すること。
11	保守合同から安保騒動まで	岸政権と安保条約の改正	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない点は質問すること。
12	日本の統治構造	議院内閣制と大統領制	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない点は質問すること。
13	立法過程①	国会審議と行政機構	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない点は質問すること。
14	立法過程②	与党審査、利益団体、首相のリーダーシップ	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない点は質問すること。
15	まとめと定期試験について	授業を振り返る。試験対策について。	プリントを読み返し、不明な点についての質問がないかどうかを確かめる。

関連科目：政治学および国際関係論関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	試験成績と平常点による。
学生へのメッセージ	高校の日本史教科書で明治以降の部分（特に戦後は丹念に）を復習しておいて下さい。連絡をとりたい人、授業内容について質問のある人などは以下にメールを送って下さい。 matunaga@law.setsunan.ac.jp
担当者の研究室等	11 号館 10 階　松永准教授室
備考	

科目名	日本の外交の歴史	科目名（英文）	Diplomatic History of Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	森　康一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　地理歴史）　【施行規則に定める科目区分】日本史　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	開国から現代までの日本の外交史を講義する。明治維新、日清・日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、第二次世界大戦、そして戦後という激動の歴史を理解することで、今後日本がとるべき方向を考える土台を培ってほしい。
到達目標	社会人として世に出た時に、日本の近現代史を常識として語ることのできる能力を持つことを目標とする。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。
科目学習の効果（資格）	現代の日本を考える上で必須となる歴史的な知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義について	講義の内容全体について	高校の日本史を復習しておくこと。
2	開国	江戸時代の末期、欧米諸国に開国を迫られた状況について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
3	明治維新	明治維新期の対外関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
4	領土問題・条約改正問題	諸外国との領土確定交渉と条約改正の試みについて	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
5	大陸問題	征韓論と日朝関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
6	日清戦争と日露戦争	日本と清、ロシアをめぐる外交関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
7	第一次世界大戦前後の国際情勢と日本の対外政策	第一次世界大戦前後の外交、幣原外交について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
8	満州事変	田中外交と満州事変をめぐる国際連盟の対応について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
9	日中戦争の始まり	日中戦争期の対外関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
10	太平洋戦争への道	アメリカと敵対していく外交関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
11	第二次世界大戦	第二次世界大戦期の日本をとりまく国際関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
12	第二次世界大戦後の国際社会と日本	大戦終結直後の国際関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
13	サンフランシスコ体制下の日本外交	日本の独立回復後の外交について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
14	高度経済成長期以後の日本の政治と外交	最近の日本の外交について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けてノートをまとめておく

関連科目：政治学、世界の政治と社会、国際関係史、国際関係論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験（論述式）の結果によって評価します。持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、日本や世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。共に勉強しましょう。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	出席をとる予定です。

科目名	日本の人権の歴史	科目名（英文）	History of Human Rights in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧田　勲
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　地理歴史）　【施行規則に定める科目区分】日本史　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	前近代社会は身分制社会であり、近代法は封建的身分や差別からの解放を重要な目標として誕生した。本講義は、近代に先立つ身分制社会とはどういうものなのかを明らかにして、逆に近代という時代の意味を理解してもらおうというものである。近世社会に生きた様々な人々の抑圧や差別、差別を克服する戦い、そういうものを学び取ってほしい。
到達目標	日本における差別の起源や歴史、差別の実態を知り、その非人間性を十分理解してもらい、基本的人権の重要性を認識してもらうことが目標である。
授業方法と留意点	講義および板書による説明が中心である。適宜関連史料を配付し、参考文献を指示するので、毎回出席して講義を聞くことが望まれる。いうまでもなく、ふだんよりの自主的な勉強が大切である。
科目学習の効果（資格）	本講義は、教職課程履修者にとっては重要科目。また、公務員試験や各種試験にも繋がっている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	封建法と市民法	自由・平等・人権の思想 「身分から契約へ」	西欧近代市民社会の成立について、予習しておくこと
2	中世における差別	河原者と非人	日本の中世史の予習と、講義ノート・配布資料の復習
3	近世身分制の成立	太閤検地と身分制	太閤政権の予習と、講義ノート・配布資料の復習
4	近世被差別部落の成立	近世のえた身分と非人身分	講義ノート・配布資料の復習
5	近世の被差別民①	えたと呼ばれた人々の生活	講義ノート・配布資料の復習
6	近世の被差別民②	近世非人の実態	講義ノート・配布資料の復習
7	近世の被差別民③	都市の下層社会	講義ノート・配布資料の復習
8	身分解放の思想	近世の解放思想と抵抗運動	講義ノート・配布資料の復習
9	近世の人身売買	廓の中の女たち	講義ノート・配布資料の復習
10	解放令の成立	近代社会と被差別	明治維新の予習、講義ノート・配布資料の復習
11	娼妓の解放	近代と人身売買	講義ノート・配布資料の復習
12	近代の「身分」	華族の成立	講義ノート・配布資料の復習
13	大正デモクラシーと被差別民	水平社運動	大正デモクラシーの予習、講義ノート・配布資料の復習
14	その後の解放運動	解放運動や戦後の諸立法	講義ノート・配布資料の復習
15	日本の人権の歴史	講義のまとめ	講義ノート・配布資料の復習

関連科目：憲法・刑法など公法系の法学科目と歴史系諸科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績による。
学生へのメッセージ	高校時代に日本史を選択していることが必要。本講義は、社会科学入門の意味を持つ。歴史学だけでなく政治学・社会学・経済学などを同時に勉強することが望まれる。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　牧田教授室
備考	

科目名	日本の政治	科目名（英文）	Government and History in Postwar Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松永　信一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	1945～1960 年の戦後日本政治の推移について、占領統治を中心に説明する。
到達目標	戦後日本社会の政治的枠組みを理解し、国際人としての基本的前提を養う。
授業方法と留意点	講述形式を中心にしていく。プリントを毎時間配布。質問やディスカッションの時間もできる限り設けたい。
科目学習の効果（資格）	成熟した近代社会における市民としての常識的知識の獲得。職業的には教員やジャーナリスト・マスコミ関連や外交官あるいは公務員志望者向け。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の概要と趣旨	高校の日本史の教科書の該当部分(1930 年代から現在に至る部分)を読み直す。
2	太平洋戦争について①	満州事変（1931）から真珠湾攻撃（1941）まで	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない事柄については質問すること。
3	太平洋戦争について②	戦争の経緯と無条件降伏受諾	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない事柄については質問すること。
4	占領前期（敗戦－１９４８）①	敗戦と天皇制、民主化・非軍事化	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない事柄については質問すること。
5	占領前期（敗戦－１９４８）②	日本国憲法、労働運動、中道政権	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない事柄については質問すること。
6	占領後期（１９４８－５２）①	冷戦構造、占領政策の転換	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない事柄については質問すること。
7	占領後期（１９４８－５２）②	経済復興、ドッジライン、朝鮮戦争	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない事柄については質問すること。
8	占領後期（１９４８－５２）③	講和条約、保守対革新	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない事柄については質問すること。
9	ＧＨＱ撤退から保守合同まで①	吉田政権、吉田派対反吉田派	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない事柄については質問すること。
10	ＧＨＱ撤退から保守合同まで②	保守合同の経緯、鳩山政権	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない点は質問すること。
11	保守合同から安保騒動まで	岸政権と安保条約の改正	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない点は質問すること。
12	日本の統治構造	議院内閣制と大統領制	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない点は質問すること。
13	立法過程①	国会審議と行政機構	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない点は質問すること。
14	立法過程②	与党審査、利益団体、首相のリーダーシップ	プリントを復習し不明な点があれば、参考書や事典で解決に努め、それができない点は質問すること。
15	まとめと定期試験について	授業を振り返る。試験対策について。	プリントを読み返し、不明な点についての質問がないかどうかを確かめる。

関連科目：政治学および国際関係論関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	試験成績と平常点による。
学生へのメッセージ	高校の日本史教科書で明治以降の部分（特に戦後は丹念に）を復習しておいて下さい。連絡をとりたい人、授業内容について質問のある人などは以下にメールを送って下さい。 matunaga@law.setsunan.ac.jp
担当者の研究室等	11 号館 10 階　松永准教授室
備考	

科目名	犯罪学	科目名（英文）	Criminology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	刑事政策とは、社会現象としての犯罪をあらゆる角度から実証的に検証し、犯罪防止のための対策、刑罰の内容などについて学ぶ学問である。
到達目標	刑事政策に関する基本的な知識を習得する。
授業方法と留意点	下記で指定した参考書およびそれをもとにしたレジュメを中心に授業を行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方に関する説明、文献・参考書の紹介。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
2	犯罪者処遇①	警察、検察、裁判の各段階における犯罪者処遇について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
3	犯罪者処遇②	警察、検察、裁判の各段階における犯罪者処遇について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
4	刑罰について	刑罰の種類や内容について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
5	死刑について	死刑制度について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
6	施設内処遇について	刑事施設（刑務所、拘置所など）における処遇について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
7	社会内処遇について	保護観察、仮釈放、更生緊急保護などについて解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
8	保安処分について	触法精神障害者の処遇について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
9	累犯障害者について	累犯障害者について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
10	高齢者犯罪について	高齢者犯罪について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
11	交通犯罪について	交通犯罪対策について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
12	性犯罪について	性犯罪対策について解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
13	薬物犯罪について	薬物犯の実態や薬物犯罪対策などについて解説する。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
14	時事問題について	実際に起きた事件などについて刑事政策的観点から解説を行う。	配布レジュメ・資料を見直すこと。
15	まとめについて	重要論点の再解説。	配布レジュメ・資料を見直すこと。

関連科目：刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、少年法、刑事法概論など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビギナーズ刑事政策（第２版）	守山正・安部哲夫編著	成文堂
2	刑事政策	川出敏裕・金光旭	成文堂
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績(80%)と授業中に随時行う予定である小テストの成績(20%)で評価する。
学生へのメッセージ	犯罪はなぜ起こるのか、犯罪を防ぐためにはどうしたらよいか、犯罪を行った者の処遇はどうすべきか、などといった問題について、自分なりに検討してみてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	第１０回から１４回までについては、状況に応じて適宜順番を入れ替えることがあります。

専門科目

科目名	フィットネストレーニングの理論と実際	科目名（英文）	Theory and Practice of Fitness Training
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	堀　美幸
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会において運動は生活の一部であり、より良い運動習慣を身につけることは健康で質の高い生活を送るために欠かせないことである。 正しいトレーニング方法を知り、実践することでより健康な生活ができるよう学んでいく。
到達目標	フィットネストレーニングの基礎的な知識を学び、それらを正しく実践出来る身体能力を獲得できるよう基礎体力の向上を目指す。 また身につけた技術を指導するための能力を身に着けることも目標とする。
授業方法と留意点	講義形式のトレーニング理論の習得と屋内・外でのフィットネストレーニングの実習を主な授業内容とする。 実技に際しては運動に適した服装とシューズを着用すること。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業主旨説明 フィットネストレーニングとは	テキスト　ｐ．３－５
2	身体組成	筋・腱・靭帯・骨・神経・その他の身体組成についての基礎知識	配布プリントの確認
3	全身持久力（1）	全身持久力とは	テキスト　ｐ．９－１４
4	全身持久力（2）	全身持久力トレーニングの実践	実践トレーニングの確認
5	筋力と筋持久力（1）	筋力・筋持久力とは	テキスト　ｐ．１４－２０
6	筋力と筋持久力（2）	筋力トレーニングと筋持久力トレーニングの実践	実践トレーニングの確認
7	柔軟性（1）	柔軟運動とは	テキスト　ｐ．２１－２２
8	柔軟性（2）	柔軟運動の実践	実践トレーニングの確認
9	調整力（1）	調整力とは	テキスト　ｐ．２３－２５
10	調整力（2）	調整力トレーニングの実践	実践トレーニングの確認
11	マシーントレーニング（1）	マシーンの特性（1）	テキスト　ｐ．２６－２９
12	マシーントレーニング（2）	マシーンの特性（2）	テキスト　ｐ．２９－３２
13	マシーントレーニング（3）	マシーントレーニング実習（1）	実践トレーニングの確認
14	マシーントレーニング（4）	マシーントレーニング実習（2）	実践トレーニングの確認
15	まとめ	講義内容の総括を行う	課題提出

関連科目

ヘルスエクササイズの理論と実際
スポーツプログラミング
体力測定とスポーツ相談

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト	財団法人日本体育施設協会	財団法人日本体育施設協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単位取得条件は、技能および平常態度、知的理解度などを総合して判断する。
学生へのメッセージ	正しい理論と方法を身に着けることで、トレーニング効果はよりよいものとなります。基礎を身につけ、それらを指導できるよう授業内で実践していきましょう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　体育館事務室
備考	

科目名	物権法	科目名（英文）	Property Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	家本　真実
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	物権は、物を支配する権利です。たとえば、土地を所有していれば、その土地に対して所有権という物権を持っていることになり、その土地を自由に使用したり、処分したりすることができます。物権法は、民法の中でも、こうした物権に関するルールを定めた法律です。 本講義では、担保物権を除く物権法の全体像を理解することを目的とします。より理解を深めていただくために、できる限り身近な事例を挙げるとともに、条文に対する解釈や、学説、判例について紹介していきたいと考えています。
到達目標	本講義では、担保物権を除く物権法の基礎をしっかり理解し、全体像を把握していただくことを目標とします。
授業方法と留意点	基本的に講義形式で行います。毎回、レジュメを配布し、それに沿って六法や教科書を参照します。六法は必ず持参してください。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、物権法を含む民法の理解が必須となることがあります。ただし、本講義では各種資格試験の対策まではおこないません。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 物権法概説	講義のガイダンス 物権法の全体像（物権とは何か、民法における物権法の位置づけ）	なし
2	物権変動（1）	物権変動の基本的理論	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
3	物権変動（2）	不動産の物権変動における公示と登記制度	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
4	物権変動（3）	不動産の物権変動における「第三者」の範囲	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
5	物権変動（4）	不動産の物権変動における「取消しと登記」	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
6	物権変動（5）	不動産の物権変動における「取得時効と登記」	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
7	物権変動（6）	登記の効力	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
8	物権変動（7）	動産の物権変動における公示と即時取得	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
9	占有権	占有の取得、移転、消滅、効力	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
10	所有権（1）	所有権の基本的理論、所有権の取得	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
11	所有権（2）	所有権に基づく物権的請求権	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
12	所有権（3）	共同所有	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
13	所有権（4）	建物の区分所有	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
14	用益物権（1）	地上権、永小作権	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
15	用益物権（2） おわりに	地役権、入会権 講義のまとめと補足	全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと

関連科目	債権法、契約法、担保物権法など民法科系目全般。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法の基礎 2―物権	佐久間毅	有斐閣、2006 年
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末試験の結果を、おもに評価の対象とします。授業中に小テストを行った場合は、その結果も加味します。授業中の不要な私語については減点の対象としますし、私語を含む受講態度があまりにひどい場合には、講義期間中に単位の取得を認めないことを申し渡すことがあります。
学生へのメッセージ	授業中は不要な私語は慎んで、真剣に講義を受けようとしている学生を妨害しないでください。講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合もあります。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	

科目名	不法行為法	科目名（英文）	Tort Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	不法行為法は、709 条というたった 1 条の条文で、交通事故、公害、医療過誤、薬害事件といった様々な現代的諸問題を解決してきました。その面白さをわかってもらえるような講義にしたいと思っています。
到達目標	現代社会における不法行為法の意義について理解することを到達目標とします。
授業方法と留意点	授業時に配布するレジュメにより講義します。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験、および今後の市民生活において不可欠です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・不法行為法総説(1)	ガイダンス・債権発生原因としての不法行為・条文から見る不法行為法・不法行為の判断場面・不法行為法の難しさと面白さ	テキスト 14 章
2	不法行為法総説(2)	不法行為法の基本原理・不法行為法の目的と機能	テキスト 14 章
3	故意・過失(1)	故意/過失要件の意義・過失(1)	テキスト 15 章
4	故意・過失(2)	過失(2)・責任能力・故意	テキスト 15 章
5	権利侵害・違法性(1)	起草者の考えた権利侵害要件・権利侵害から違法性へ・権利一元論からの批判・権利侵害要件の再生	テキスト 16 章
6	権利侵害・違法性(2)	権利と法律上保護される利益・権利の目録（人格権と財産権）	テキスト 16 章
7	権利侵害・違法性(3)	生成途上の権利と権利の生成プロセス・不法行為成立要件としての違法性（違法性阻却事由）	テキスト 16 章
8	因果関係(1)	相当因果関係説批判・成立上の因果関係／賠償範囲の因果関係／金銭評価の区別・成立上の因果関係（事実的因果関係）	テキスト 17 章
9	因果関係(2)	事実的因果関係の立証（高度の蓋然性／疫学的因果関係論の位置付け）・賠償範囲の因果関係（大隅裁判官の反対意見・義務射程説・危険性関連説）	テキスト 17 章
10	共同不法行為	719 条 1 項前段の共同不法行為の成立要件・大気汚染訴訟と共同不法行為・1 項後段の共同不法行為の成立要件・共同不法行為の効果	テキスト 19 章
11	損害論	損害の種類・損害とは何か・救済の方法・損害額の算定方法(総論)	テキスト 18 章・20 章
12	損害額の算定方法	逸失利益の算定に係る問題・一時金賠償と定期金賠償・慰謝料の算定に係る問題・積極損害に係る問題	テキスト 18 章
13	賠償額の調整(1)	損益相殺・過失相殺・被害者側の過失	テキスト 18 章
14	賠償額の調整(2)	過失相殺規定の類推適用（素因減額）・消滅時効と除斥期間	テキスト 18 章
15	特殊の不法行為	監督者責任・使用者責任・土地工作物責任・動物占有者責任・製造物責任・運行供用者責任	テキスト 19 章・20 章

関連科目	民法総則、債権法など民法科目全般。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロードマップ民法４　債権各論	小川富之、城内明編著	一学舎
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末試験の成績により評価します。 ただし、私語等の授業妨害行為があった場合には、相応の減点をし、場合によっては単位不授与としますので注意してください。
学生へのメッセージ	不法行為法は、判例・学説により大きく発展し、現在も、なお発展を続けている現在進行形の法領域です。この面白さを理解したい学生の参加を期待します。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	

科目名	ヘルスエクササイズの理論と実際	科目名（英文）	Theory and Practice of Health Exercise
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	岡本　香代子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	健康と運動との関わりについて、運動対象者に合わせたエクササイズの理論を確認し実践を通して学ぶ。ウオーミングアップの意義や効果を含め、エアロビック運動を中心に行い、スポーツ指導の実際に活かす。また、レクリエーション・スポーツについても実践し楽しさを実感する。
到達目標	ヘルスエクササイズのプログラム作成と実践指導ができるようになる。
授業方法と留意点	実技を中心に行うが、実践を通して理論について確認する。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	体操・ストレッチング①	動的・静的ストレッチング	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
2	体操・ストレッチング②	スタビライゼーショントレーニング	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
3	ウオーキング・ジョギング①	効率の良い歩き方・走り方	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
4	ウオーキング・ジョギング②	持久走	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
5	水泳・水中運動①	ウオーキングエクササイズ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
6	水泳・水中運動②	ウオーターエクササイズ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
7	エアロビックダンス①	筋コンディショニング、バランストレーニング	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
8	エアロビックダンス②	サーキットトレーニング	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
9	軽スポーツ①	フライングディスク	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
10	軽スポーツ②	ディスクゴルフ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
11	軽スポーツ③	なわとび、ダブルダッチ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
12	運動ゲーム①	ボール遊び	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
13	運動ゲーム②	ドッチボール	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
14	運動ゲーム③	キックベースボール	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
15	運動ゲーム④	サッカー	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。

関連科目	スポーツトレーニングの基礎、発育発達論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	受講態度点（50%）、技能点（20%）、レポート点（30%）の総合評価。
学生へのメッセージ	運動する楽しさを実感し、また他人に伝える方法を学ぼう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	

科目名	法学概論	科目名（英文）	Jurisprudence
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＩ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金谷　重樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」【教員免許状取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	これから、４年間、法について学ぶに当たって、基本的な知識を習得することを目的に、基本科目の基本を講義します。
到達目標	これから学ぶ様々な法について、基本的な知識を習得すること。
授業方法と留意点	教材としてプリントを配布します。必ず、毎回持参して下さい。 プリントは、11 号館６階のキャリアルームに置いています。係りの人の承諾を得て、各自、入手して下さい。
科目学習の効果（資格）	これから学ぶ様々な法を理解するための基本知識となります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	法の意味と役割について	特にありません。
2	法の姿・形と種類	成文法と不文法について学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
3	日本国憲法	日本国憲法の概要を学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
4	民法その１	法律行為などの民法のキーワードを学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
5	民法その２	物権や債権などの民法のキーワードを学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
6	民法その３	損害賠償などの具体的な事例を学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
7	刑法その１	犯罪の成立要件について学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
8	刑法その２	刑の種類や共犯など刑法の基本を学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
9	刑事訴訟法その１	捜査の基本的な流れを学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
10	刑事訴訟法その２	刑事裁判の基本的な流れを学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
11	民事訴訟法	民事裁判の基本的な流れを学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
12	法令の読み方その１	条・項・号の意味や、本則や附則について学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
13	法令の読み方その２	及び、並びに、又は、若しくはといった用語の使用方法について学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
14	法の解釈について	様々な法の解釈の方法について学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
15	まとめ	これまでの講義内容をまとめます。	すべてのプリントを読み、事前学習して下さい。

関連科目	法に関するすべての科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ありません。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	前期末に定期試験を行います。定期試験の結果で評価します。
学生へのメッセージ	授業へは必ず出席し、遅刻しないで下さい。 また、私語は厳禁です。
担当者の研究室等	11 号館９階　金谷教授室
備考	

科目名	法学概論	科目名（英文）	Jurisprudence
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」【教員免許状取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	基礎法および実定法の一般を概観し、法学部生として知るべき基本的知識の習得を目的とします。広範囲の分野を対象としますので、その基礎となる考え方に重きを置いた講義となります。
到達目標	法律一般を確実に理解するために必須の基本的知識の習得を目標とします。
授業方法と留意点	講義形式を基本としますが、問答形式も随所に取り入れます。発言を重視しますから、自ずと出席が大切となります。数回、授業時間の終わり２０分程度を使っての「確認問題」を実施しますから注意すること！
科目学習の効果（資格）	法学部生として当然知っておくべき法知識が学べます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	全体の概略	法学概論の射程と学習方法	基本的には事後の復習を重視します
2	法とは何か	法の定義、法と社会の関係	今回学んだことの確認
3	法と社会規範	社会規範の諸形態 法と道徳、法と強制	今回学んだことの確認
4	法の目的・理念	法が目指す理念とは	今回学んだことの確認
5	権利と義務　その１	法的関係と事実関係	今回学んだことの確認
6	権利と義務　その２	権利の種類	前回と合わせて学んだことの確認
7	法源と法の体系　その１	法源の意味とは	今回学んだことの確認
8	法源と法の体系　その２	制定法の種類	今回学んだことの確認
9	法源と法の体系　その３	不文法、慣習法 法源としての判例	３回を合わせて学んだことの確認
10	法の適用と解釈　その１	法の適用とは	今回学んだことの確認
11	法の適用と解釈　その２	法解釈の態度とは	今回学んだことの確認
12	法の適用と解釈　その３	法解釈の方法と種類	３回を合わせて学んだことの確認
13	法と裁判　その１	具体的事件への法の適用 裁判による紛争解決	今回学んだことの確認
14	法と裁判　その２	刑事事件と民事事件 裁判制度 裁判員裁判	前回と合わせて学んだことの確認
15	まとめ	総括と再確認	この授業を通して学んだことの再確認

関連科目：憲法概論、刑事法概論、民事法概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要な資料は配付します		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケット六法（平成２７年版）	編集代表　井上正仁・山下友信	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(50%)と授業中に行った「確認問題」(50%)を合わせて評価します。
学生へのメッセージ	「概論」といっても易しい授業ではありません。１５回すべての授業はつながっていますから、授業を聞くことを、まず、重視してください。
担当者の研究室等	１１号館９階　小山教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰは、主として, （1）法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすること、が目的となります。 法学基礎演習Ⅰでは、学部全体で実施している図書館の利用方法、文献の利用の仕方、研究倫理教育などの他、法律を勉強していくうえで必要な基礎的知識として、「法律と言葉」を主なテーマとして検討します。
到達目標	法律の理解に最低限必要な知識としての「言葉」及び法律用語を理解することを目標とします。
授業方法と留意点	「法律と言葉」の理解については、原則として、問題を設定しそれを問答形式で進めます。双方向性を重視しますから、積極的な発言を求めます。最後に、この演習の成績評価とする課題レポートを課します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１．学部共通の図書館利用指導、研究倫理教育など ２．フレッシュマンズ・スタディガイドを使った指導 ３．ＩＴを使った法令・判例の入手方法の指導 ４．六法の使い方、読み方の指導 ５．法律を学ぶ基礎として必要な「法律と言葉」について問題とその検討 ２・３については、各１回 ４・５については、１０回程度を使って行う。
関連科目	法学部で開講されている授業科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要な資料は配付します		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	トピックからはじめる法学	「トピックからはじめる法学」編集委員会編	成文堂
2	ポケット六法（平成２７年版）	編集代表　井上正仁・山下友信	有斐閣
3			

評価方法（基準）	出席を重視するとともに、ゼミでの討論参加と発言状況及び課題レポートを総合して評価します。
学生へのメッセージ	ゼミで出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な友人となります。話をするなど、まずは、挨拶と声をかけることから始めて下さい。
担当者の研究室等	１１号館９階　小山教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金谷　重樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	１．これから４年間、大学生活を送り、法を学んでいく上で必要な事項について説明します。 ２．法の基礎について平易に説明します。 ３．２年生から本格的に法を学ぶための基礎を培います。
到達目標	法学についての基本的知識を修得する。
授業方法と留意点	１．ニュースを素材にして、その内容を法的に考えてみます。 ２．各自に、最近のニュースを取り上げ、その内容を発表してもらいます。 ３．ニュースの内容を法的に捉えるよう、努力してください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	１．毎回、２人から３人程度に発表してもらいます。 ２．必ず、日々にニュースに接し、発表する内容を考えておいて下さい。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	出席、報告内容及び討論への積極性を重視し、平常点により評価します。
学生へのメッセージ	とにかく、毎回、必ず出席して下さい。
担当者の研究室等	１１号館９階　金谷教授室
備考	【学生へのメッセージ】 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牛丸　輿志夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 新聞で報道されている法律の問題を題材にして、法律学の紹介を行っていきます。
到達目標	大学で法学教育を学ぶために必要な基礎的な知識を習得します。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	法学の基礎を習得します。 FIrst Year Study Gude　を用いて、大学で学ぶための最小限の知識を習得します。 新聞の記事などを読んで、様々な法律学の入門的な知識を習得します。 演習中に勉強したことを復習して、さらに、興味があることについては、図書館等を利用して、自主的に勉強してください。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	演習には必ず､､出席してください。 演習中は、ポケット六法を携帯してください。
担当者の研究室等	１１号館９階　牛丸研究室
備考	【学生へのメッセージ】 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	糟谷　英之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業やさまざまな講習会を通じて大学生活を送る上で必要な知識やスキルを身につけること。
到達目標	自立した大学生として２年次以降の学生生活を健全に送ることのできる基礎力を身に着けること。
授業方法と留意点	授業方法は、『初年次教育ガイド』をもとに大学生活のガイダンスを行う。 図書館利用や情報処理講習を通じて学習スキルを養う。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマ：大学生活のガイダンスと専門教育への導入 方法：、授業での『初年次教育ガイド』をもとに大学生活のガイダンス、図書館利用や情報処理講習 学習課題：『初年次教育ガイド』を事前・事後に予習・復習すること。学んだことをすぐに実践すること。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	すべての回の出席を前提とし、各回の演習の取り組み姿勢、報告内容で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１１号館１０階　糟谷教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木村　秀一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。
到達目標	法学部生として学ぶべき基本的知識を理解する。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	（1）;図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方)、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （2）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち､「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、;新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１１号館１０階　木村教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牧田　勲
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な ノウハウを学びます。
到達目標	まず、学生生活に慣れ、勉学がスムーズに進められるよう、法学部の学生にふさわしい基礎能力を習得することが目標です。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	大学の授業や学生生活について必要な知識やノウハウを身につける。講義ノートのとり方、レポートの書き方、図書館利用指導、パソコン指導など。
関連科目	特定の科目というより、社会への関心が大事。新聞を読み、ニュースに接すること。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	知らないことは若さの特権です。いずれそれが恥となり、自らにとって不利な事態を招く可能性もあります。貪欲に学び、経験し、そして息抜きをしましょう。
担当者の研究室等	１１号館１０階牧田研究室
備考	【学生へのメッセージ】 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小島　俊朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（1）法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるように様々な支援をすることです。
到達目標	①法学部における学習の基本や法律的なものの考え方を理解すること。 ②大学生活になじむこと。 ③大学４年間を計画的に過ごすための基礎を固めること。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	（1）ガイダンスでは、図書館の利用方法､、六法や法学参考文献の利用の仕方、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。（2）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、皆さんも必ずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩です。授業では、;新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高めたり、みなさんが関心を持っている事柄について議論します。皆さんの学習意欲を高めるため、工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望に沿うよう努力します。（3）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をした方がよい事柄について相談にのり、アドバイスをします。以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生の皆さんに親身に接する中で、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活を送ってもらうための道筋を示すことを目指しています。
関連科目	憲法
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点によります。また、レポートの提出や課題発表によっても評価します。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法が分からないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となります。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	１１号館１０階　小島教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ｉ	科目名（英文）	Primary Seminar Ｉ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	河原　匡見
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習Ｉ・ＩＩの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	大学生としての勉強のしかたや日々の過ごしかたなどを学んで、安全で有意義な大学生活を送れるようにする。また、２年次後期から履修が始まる「専門演習」に備えて演習形式の学習法に慣れる。
授業方法と留意点	演習は、少人数教育の強みを生かすもので出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	詳細は、第１回目の演習で説明しますが、概ねＩでは、大学での学業生活に慣れることを主眼に据えていきます。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / / 2 / / / 3 / / /
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	法学基礎演習の担当教員は、クラス担任のようなものです。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	古川　行男
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項につい学びます。
到達目標	大学生として生活に慣れ、自発的に学ぶ姿勢を身につけること。友人を作ること。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	自分の意見の発表力をつけることを重視する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　古川教授室
備考	【学生へのメッセージ】 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松永　信一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な
到達目標	ゼミの仲間と交流し、学生生活の基盤を作る。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	様々な課題を提示するからそれについて各自報告すること。それほど親しくない人の前でのコミュニケーション能力を培う。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	11 号館 10 階　松永准教授室
担当者の研究室等	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	私が担当する本演習では、どのような勉強をするうえでも基礎となる力を「感じる」ことを目的とする。その力は、集中して物事を考えることである。「感じる」とするのは、90分×15週では養うことには及ばず、みずから養う部分を感じてもらうためである。
到達目標	自分の得意な部分、苦手な部分を感じられるようにする。
授業方法と留意点	いくつかの種類のことをそれぞれ時間を決めて取り組む。たとえば、クロスワード、数字トレーニング、中学校入試問題、発想力トレーニング、ラジオニュース聴き取り、絵記憶伝達ゲームなどを行う。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	内容は法律・政策に限らない。スピード感と集中力を重視して展開する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	すべての回の出席を前提とし、各回の演習の取り組み姿勢、結果で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11号館9階　中沼准教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業や様々な講習会を通じて、大学生活を送る上で必要な知識やスキルを身につける。
到達目標	自立した学生生活を送ることができるよう、大学生としての基礎力を身につける。
授業方法と留意点	『初年次教育ガイド』等を活用しながら、大学生活全般についてのガイダンスを行う。 図書館や情報処理講習をつうじて学習スキルを養う。 与えられた課題についてレポートを作成し、プレゼンテーションを行う。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマ：大学生活のガイダンスと専門教育への導入 方法：『初年次教育ガイド』等を活用しながら、大学生活全般についてのガイダンス。図書館や情報処理講習。レポートの作成とプレゼンテーション。 学習課題：授業中に指示された課題を行うこと、およびその復習。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加を前提とし、授業への取り組み（与えられた課題の完成度、プレゼンテーションの内容、ディスカッションでの発言等）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自主的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11号館10階　石井准教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	法学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得する。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	例年、Power point を用いたプレゼンテーションやディベートなどを行っていますが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館９階　島田准教授室
備考	【学生へのメッセージ】 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な
到達目標	法学部生として学ぶべき基本的知識を理解する。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	ゼミのテーマは、初回授業時に決定します。事前事後の学習課題については、適宜指示します。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１１号館１０階　城内准教授室
備考	【学生へのメッセージ】 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。 （１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと （２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること （３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、 ①図書館の利用方法 ②六法や法学参考文献の利用のしかた ③法学専門講義の履修についての心構え ④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方） ⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。 たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める ②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する ③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する ④ディベートをおこなう ⑤裁判所見学など学外研修を実施する などです。 みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。 たとえば、 ①公務員試験対策 ②税理士や裁判所職員などの法律専門職 ③就職への心構え ④大学院進学 ⑤海外留学 など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	・法学上の諸問題について、自ら調べ、他者にわかりやすく報告できる能力を磨く。
授業方法と留意点	・演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。 ・やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	プレゼンテーションやディベートなどを行う予定でいますが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。
関連科目	専門科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・出席を重視し、平常点により評価します。 ・ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。 ・レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	・法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。 ・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。 ・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原　佐織
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 　以上のように、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後 4 年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことを目指している。
到達目標	まずは、大学生活に慣れてもらうため、大学生活に関する皆さんの様々な質問に答えるとともに、図書館やパソコンの使い方等に関する案内等を通じ、皆さんが少しでも早く大学生活に馴染めるよう、様々なアドヴァイスを行う予定です。 また、ゼミナールの中で、大学生活をともに過ごせるような仲間を見つけて欲しいと考えています。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	（１）ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の 4 年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業ではたとえば新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、ともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　萩原講師室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習・の目的は、主として３つあります。（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。
到達目標	（1）ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （2）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の 4 年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （3）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後 4 年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
授業方法と留意点	毎回必ず出席すること。無断欠席・無断遅刻は認めません。全員に周知させる必要があることが多いからです。やむをえず欠席・遅刻するときには、事前に連絡すること。また、皆さんが主体ですので、積極的な発言を期待しています。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	1 年前期では、新聞等から興味を抱いた社会問題等を報告してもらう予定です。どのような出来事が生じ、どのような問題点があるのかを把握してもらいます。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	講義態度、課題への取り組みなど平常点により評価します。特に皆さんの主体性を評価の重点とします。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川講師室
備考	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱのおもな授業内容として、（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの3点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。
到達目標	大学生活が始まったばかりで多々不安な点があるかと思いますが、そうした不安をいち早く払拭し、法律学の勉強に専念できる体制を整えることがこの演習の目標です。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期は大学生活に慣れることを目標に、みんなで大学生の基本的スキルを身につけたいと思います。時おり簡単な課題を出しますので、それを提出してください。具体的には毎年パワーポイントを用いた報告会を行っていますので、今年も皆さんにもそれに取り組んでもらうことになると思います。
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山　昇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅱは、 　前期の法学基礎演習Ⅰで学んだことを基礎として、さらに （１）２年次以降の法学部での勉学のためのガイダンスを行うこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力を確認し、さらに学習意欲を高めること、（３）その他、有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすること、が目的となります。 　法学基礎演習Ⅱでは、学部全体で実施している裁判所見学の他、社会で議論される問題を題材として、賛成反対に分かれて討論することが中心となります。
到達目標	行う予定の「最近起こった社会問題」をテーマとする討論を通して、培うべき「法的なものの考え方」を理解することを目標とします。
授業方法と留意点	問題を提示して賛成・反対（自分の意見とは関係なく）に分かれて討論する、という形式で行います。それぞれの立場をとる理由を事前に考えておくこと。最後に、課題レポートの提出を求めます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１．学部共通の裁判所見学（刑事裁判の傍聴）、学習支援センターの体験学習 ２．討論する問題の提示と提示された問題についての討論 　１については、２回程度 　２については、提示とやり方の説明を加えて１３回程度
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要な資料は配付します		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	トピックからはじめる法学	「トピックからはじめる法学」編集委員会編	成文堂
2	ポケット六法(平成２７年版)	編集代表　井上正仁・山下友信	有斐閣
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、討論での参加状況と発言の明確性及び最後に提示する課題レポートを総合して評価します。
学生へのメッセージ	問題に対する賛成・反対のどちらの立場でも理由付けができるように、日頃から社会問題に関心を持ってください。新聞やテレビもチェックを忘れずに！
担当者の研究室等	１１号館９階　小山教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金谷　重樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	１．日々のニュースを素材に、人々の活動を法的に捉えることができるよう基本練習をします。 ２．裁判を傍聴するなどして、法が現実に適用される場を経験し、法と私たちの生活が非常に密接な関係にあることを学びます。 ３．２年生から本格的に法を学び理解するための基礎を培います。
到達目標	法に関する基本的知識を習得する。
授業方法と留意点	１．ニュースを素材にして、その内容を法的に考えてみます。 ２．各自に、最近のニュースを取り上げ、その内容を発表してもらいます。 ３．ニュースの内容を法的に捉えるよう、努力してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１．毎回、２人から３人程度に発表してもらいます。 ２．必ず、日々のニュースに接し、発表する内容を考えておいてください。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	出席、報告内容及び討論への積極性を重視し、平常点により評価します。
学生へのメッセージ	必ず、毎回、出席して下さい。
担当者の研究室等	１１号館９階　金谷教授室
備考	【学生へのメッセージ】 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　輿志夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。
到達目標	大学で法学教育を受けるために必要な基礎的な知識を習得します。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	法学の基礎を習得します。 特に、２年以降に学ぶ法律学の基礎になる民法を中心にして、判例の読み方とか、試験の答案の書き方などを勉強します。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	演習には、必ず出席し、議論に加わるようにしてください。
担当者の研究室等	１１号館９階　牛丸教授室
備考	【学生へのメッセージ】 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	糟谷　英之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	基礎演習Ⅰで習得したスキルを使い情報処理室を利用して様々な情報を収集し、それを基にお互いの見解を述べあうことによって議論を深め自分の考えを作り上げていく能力を養うこと。 裁判傍聴などの実習を通じて法律への関心をさらに深めること。
到達目標	関心のあるテーマを見つけ、それに対する自分の考えをある程度表現できる能力を身に着けること。
授業方法と留意点	情報処理室を利用しながら授業を行う。教室の特質を生かし、TOEIC や SPI などのオンライン学習も行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：２年次以降の専門教育へ対応するための基礎力を養うこと。 内容・方法： （１）情報処理のスキルを生かし、収集した情報をもとに議論をする。 （２）裁判傍聴などを通じて法学への関心をさらに深める。 （３）映画鑑賞などを通して様々な問題への関心を深める。 学習課題：報告テーマの設定とその準備のため授業時間だけではなく、事前・事後の学習が前提となる。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	すべての回の出席を前提とし、各回の演習の取り組み姿勢、結果で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木村　秀一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。
到達目標	法学部生として学ぶべき基本的知識を理解する。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	（1）;図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方)、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （2）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、;新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１１号館１０階　木村教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牧田　勲
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。
到達目標	本格的な法学部の学びの導入として、易しい法学入門の文章に親しみ、法学に関心を持ってもらいたいと考えています。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	主として新聞記事を使い、現在の社会問題について考える。記事を読んで、その問題性について議論し、またレポートなどにまとめる。大阪地方裁判所で刑事裁判の傍聴もおこなう。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	大学生活にも慣れてきた頃です。誘惑にまけず、夢に向かって努力しましょう。
担当者の研究室等	１１号館１０階牧田教授室
備考	【学生へのメッセージ】 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小島　俊朗
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるよう様々な支援をすることです。
到達目標	①法学部における学習の基本や法律的なものの考え方を理解すること。 ②大学生活になじむこと。 ③大学４年間を計画的に過ごすための基礎を固めること。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	（1）ガイダンスは、前期において実施しているところですが、必要がある場合はそれに応じて適宜実施します。（2）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩です。授業では最近の時事用語を自らの言葉で説明してもらい、対人能力などの向上を目指します。裁判所見学も実施します。一方通行ではなく、皆さんから有意義な提案があれば柔軟に取り上げるつもりです。（3）学生生活支援とは、皆さんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、皆さんの将来の進路選択に有益な様々な助言活動も行います。例えば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をした方がよい事柄について相談にのり、アドバイスをします。(4)後期は法令解釈の基礎など法学への導入講義も行います。以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生の皆さんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活を送ってもらうための道筋を示すことを目指しています。
関連科目	憲法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点によります。また、レポートの提出や発表も評価します。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、皆さんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法が分からないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となります。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	河原　匡見
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （1）ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （2）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （3）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	大学生としての勉強のしかたや日々の過ごしかたなどを学んで、安全で有意義な大学生活を送れるようにする。また、２年次後期から履修が始まる「専門演習」に備えて演習形式の学習法に慣れる。
授業方法と留意点	演習は、少人数教育の強みを生かすもので出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	詳細は、第１回目の演習で説明しますが、概ねⅡでは、法学部の演習形式による学習に慣れることを主眼に据えていきます。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	法学基礎演習の担当教員は、クラス担任のようなものです。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古川　行男
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項について学びます。
到達目標	授業の目的欄に記載し通り、法学部学生として身につけておかなければならない基本的な姿勢を習得することです。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	Ⅰと同じく自分の意見の発表力を高めることを内容としますが、様子を見て、条文等を音読したうえ、内容を確認することを行います。これによって文章の理解能力を高めます。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　古川教授室
備考	【学生へのメッセージ】 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松永　信一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な
到達目標	政治や社会の問題についてしゃべったり、ヒトの言うことを聞いたりすることに慣れていこう。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	課題を提示するから毎回一人か二人に報告してもらう。それほど親しくないものに対するコミュニケーション能力を培う。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください
担当者の研究室等	11 号館 10 階　松永准教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	私が担当する本演習では、複数人でどのような研究をするのにも基礎となる力を「感じて」もらうことを目的とする。その力とは単純に「しゃべる」力である。また、「感じて」もらうとするのは、90分×15週ではその力を養うには及ばず、みずから養うべき力を感じてもらいたいからである。
到達目標	おしゃべりな学生には人の話を引き出せるように、静かな学生は話題を広げるきっかけをつかめるようになってほしい。
授業方法と留意点	早口言葉から始める。ついで、パーティーゲームを用いて、お互いの心を読みながら自分の声を発して、自分の利益となるように発言するようにする。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	内容は法律・政策に限らない。会話と楽しむことを重視して展開する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	すべての回の出席を前提とし、各回の演習の取り組み姿勢、結果で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11号館9階　中沼准教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	各人が関心あるテーマを見つけ、基礎演習Ⅰで習得したスキルを活用し、レポートの作成やプレゼンテーションを行い、基礎力を養う。 裁判傍聴などの実習を通じて、法学への関心を深める。
到達目標	次年度以降の学習において必要となる能力を身につける。
授業方法と留意点	各人がテーマを選定し、レポートの作成とプレゼンテーションを行う。 自分が興味を持てることを発見できるよう、留意してください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマ：次年度以降の学習へ対応するための基礎力を養う。 内容・方法：テーマの選定、レポートの作成およびそのプレゼンテーション。 学習課題：授業中に指示する課題を行うこととその復習。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加を前提とし、各回の取り組み（与えられた課題の完成度、プレゼンテーションの内容、ディスカッションでの発言等）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自主的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11号館10階　石井准教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	法学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得する。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	例年、Power point を用いたプレゼンテーションやディベートなどを行っていますが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館９階　島田准教授室
備考	【学生へのメッセージ】 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	城内　明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な
到達目標	法学部生として学ぶべき基本的知識を理解する。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	ゼミのテーマは、初回授業時に決定します。事前事後の学習課題については、適宜指示します。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１１号館１０階　城内准教授室
備考	【学生へのメッセージ】 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。
（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと
（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること
（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。

（１）ガイダンスでは、
①図書館の利用方法
②六法や法学参考文献の利用のしかた
③法学専門講義の履修についての心構え
④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）
⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。

（２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。
たとえば、
①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める
②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する
③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する
④ディベートをおこなう
⑤裁判所見学など学外研修を実施する
などです。
みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。

（３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。
たとえば、
①公務員試験対策
②税理士や裁判所職員などの法律専門職
③就職への心構え
④大学院進学
⑤海外留学
など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。

以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。

到達目標

・法学上の諸問題について、自ら調べ、他者にわかりやすく報告できる能力を磨く。

授業方法と留意点

・演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。
・やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。
・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。

授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題

プレゼンテーションやディベートなどを行う予定でいますが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。

関連科目

専門科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・出席を重視し、平常点により評価します。
・ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。
・レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。

学生へのメッセージ

・法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。
・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。
・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

担当者の研究室等

11 号館 10 階　小野准教授室

備考

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原　佐織
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 　以上のように、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後 4 年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことを目指している。
到達目標	法学基礎演習Ⅱでは、裁判所見学等を通じ、法律についてより具体的に学んでいきます。 それとともに、2・3 名でのグループ発表や個人発表を行い、社会科学系の学問における発表の仕方を身に付けるとともに、人前で発表するプレゼンテーションスキルや、研究内容に関して討論するディスカッション・コミュニケーションスキルを磨くことを目標とする。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	（１）ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の 4 年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業ではたとえば新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、ともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　萩原講師室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習・の目的は、主として３つあります。（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。
到達目標	（1）ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （2）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の 4 年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （3）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後 4 年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
授業方法と留意点	毎回必ず出席すること。無断欠席・無断遅刻は認めません。全員に周知させる必要があることが多いからです。やむをえず欠席・遅刻するときには、事前に連絡すること。また、皆さんが主体ですので、積極的な発言を期待しています。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	1 年後期では、前期で取り上げた出来事・問題点につき、ゼミ生で議論をしたいと考えております。状況によっては、新しい出来事を取り上げつつ、その賛否を論理的に組み立て、相手を説得できるよう議論を組み立ててもらいます。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	講義態度、課題への取り組みなど平常点により評価します。特に皆さんの主体性を評価の重点とします。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川講師室
備考	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱのおもな授業内容として、（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの3点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。
到達目標	法学基礎演習Ⅰでは「大学生」としての基本スキルを身に着けることが目標でしたが、この法学基礎演習Ⅱでは「法学部生」としての基本スキルを身に着けることが目標となります。具体的には法令や判例の調べ方、法律文献の引用の仕方などを習得することがこの演習の目標です。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	後期は本格的なレポートの書き方やプレゼンの仕方（レジュメやパワーポイントの作り方など）を、みんなで身につけていきます。大きな課題をいくつか出すので（例えば、裁判所見学にかんする 2000 字程度のレポートなど）、みんなで協力しながら頑張りましょう。
関連科目	法学部のすべての科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	

科目名	法思想史	科目名（英文）	History of Legal Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　地理歴史）　【施行規則に定める科目区分】外国史　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	法思想史とは、過去の思想家たちが法や正義をどのように理解してきたかを考察する学問分野です。この講義では、西洋世界に地域を限定したうえで、古典古代から 19 世紀までに登場したさまざまな法思想を駆け足で見ていきます（20 世紀以降の新しい法思想は法哲学 II で扱います）。 個々の思想家にかんする知識をたんに丸暗記するのではなく、各法思想に含まれる普遍性と特殊性――いつの時代においても通用する普遍的なアイデアとその時代にしか通用しない特殊なアイデア――を的確に見極めつつ、現代の法思想の礎を確認することが、この講義の目的です。
到達目標	法思想史の基本事項を暗記することももちろん重要ですが、むしろそうした知識を手掛かりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることがこの講義の目標です。過去の哲学者たちの見解がすべて正しいわけではありません。批判的視点を持って講義に臨んでほしいと思います。
授業方法と留意点	講義は、毎時間授業中に配布するレジュメにしたがって行います。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）のヒントになる前提知識が獲得できると思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法思想史とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法思想史」がどのような科目なのか、なぜ法学部で西洋法思想の歴史を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	事前の予習は特に必要ありません。各回ごとに【復習ワード】を 10 個ほど掲げるので、その概念（あるいはその人物）を正確に説明できるようになるまで、しっかり復習に努めてください。
2	古代ギリシアの法思想①	「哲学」という独特の思考様式がなぜ古代ギリシアで誕生したのか、そして、それが後代の西洋世界にどのような影響を及ぼしたのかを学習します。哲学以前のホメロス・ヘシオドスの叙事詩も簡単に紹介します。	【復習ワード】 『イリアス』と『オデュッセイア』、『神統記』と『労働と日』、神話学的思考と哲学的思考テミス、ノモス、ディケー、ソロン、ソフィスト
3	古代ギリシアの法思想②	プラトンの前期著作を通じてソクラテスが追究した正しい生き方を概観するとともに、中後期著作でプラトン自身が構想した独創的な正義論・国家論の概要をを学習します。	【復習ワード】 ソクラテス裁判、クセノポン、クリトン、アカデメイア、対話篇の時代区分、善のイデア、哲人王、『国家』と『法律』
4	古代ギリシアの法思想③	万学の祖アリストテレスの著作集はいずれも重要ですが、この回の講義では論理学関連の著作からは論理的思考の芽生え、『ニコマコス倫理学』からは正義論、『政治学』からは国制論をそれぞれ学習します。	【復習ワード】 リュケイオン、オルガノン、シュロギスモス、一般的正義と特殊的正義、分配的正義と匡正的正義、衡平、「国制」
5	古代ローマの法思想	現代の法律学の基礎をなすローマ法がどのような経緯で誕生し、またそれにはどのような事柄が規定されているのかを学習します。また、当時のローマで栄えたストア派の法思想についても簡単に説明します。	【復習ワード】 12 表法、市民法と万民法、解答権、自然法と万民法、ウルピアヌスとパウルス、キケロ、ユスティニアヌス法典
6	古代から中世へ	西洋の法思想に今なお強い影響力を及ぼし続けているキリスト教の成立とその教義をごく簡単に説明したうえで、最大の教父哲学者アウグスティヌスの法思想を『神の国』を中心に解説します。	【復習ワード】 ナザレのイエス、ペテロとパウロ、旧約聖書と新約聖書、コイネー、三位一体説、『告白』、永久法・自然法・世俗法
7	中世の法思想	ローマ帝国の衰退からいわゆる 12 世紀ルネサンスにおけるローマ法の復活にいたるまでの歴史的経緯を説明し、あわせて中世最大の哲学者トマス・アクィナスの法思想を解説します。	【復習ワード】 12 世紀ルネサンス、ボローニャ大学、註釈学派(glossatores)、註解学派(commetatores)、学説彙纂、標準注釈、ドミニコ会、神学大全
8	中世から近代へ	中学高校の世界史でも必ず取り上げられる「ルネサンス」と「宗教改革」ですが、これらの出来事がそれ以降の法思想にどのような影響を与えたのかを、中世の法思想との対比を通じて学習します。	【復習ワード】 ルネサンス（再生）、ルター、カルヴァン、マキアヴェッリ、ボダン、グロティウス、サラマンカ学派（ビトリアとスアレス）
9	近代イギリスの法思想①	第 9 回から第 11 回までは社会契約説を学習します。まずこの回の講義ではホッブズ『リヴァイアサン』を取り上げ、彼の法思想を当時のイングランドの社会背景とあわせて学習します。	【復習ワード】 ピューリタン革命と名誉革命、自己保存権、自然状態の悲惨さ、ホッブズの自然法（特に第１～第３の自然法の内容）
10	近代イギリスの法思想②	社会契約論を代表する第二の思想家としてジョン・ロックを取り上げ、『統治論』で示されている法思想を学習します。ロックからやや時代が下りますが、ヒュームやベンサムの法思想も簡単に紹介します。	【復習ワード】 ロックの自然法、固有権（プロパティ）、抵抗権、スコットランド啓蒙、ヒュームの社会契約批判、ベンサム「功利主義」、J・S・ミル「他者危害原理」
11	近代フランスの法思想	社会契約論の最後の論者としてルソーを取り上げ、『社会契約論』で展開されている「一般意志」という考え方を学習します。あわせてモンテスキュー『法の精神』における権力分立の思想も解説し	【復習ワード】 『不平等起源論』、一般意志（特にその問題点）、法律の一般性、人民主権、フランス革命へのルソーの影響力、モンテスキューの権力分立論

		ます。	
12	近代ドイツの法思想①	ドイツ観念論の系譜を簡単に説明したうえで、カント『人倫の形而上学』とヘーゲル『法の哲学』を中心的に取り上げ、彼らの法思想のエッセンスを解説します。	【復習ワード】 ドイツ啓蒙期自然法論（プーフェンドルフ・トマジウス・ヴォルフ）、カントの三批判、定言命法、合法性と道徳性、根源契約、ヘーゲルの社会契約批判
13	近代ドイツの法思想②	19 世紀のドイツで展開された法思想を学習します。具体的にはサヴィニーに代表される歴史法学に始まり、ヴィントシャイトの概念法学を経て、イェーリングらに至る道のりを学習します。	【復習ワード】 法典論争、サヴィニーにおける歴史的方法と体系的方法、概念法学、イェーリングの概念法学批判、自由法運動、利益法学
14	近代ドイツの法思想③	20 世紀ドイツを代表する法哲学者であるラートブルフ、ケルゼン、シュミットの三人を取り上げ、ワイマール期からナチズム期の「危機の時代」に彼らがどのような法理論を展開したのかを学習します。	【復習ワード】 価値相対主義、再生自然法論、純粋法学、『民主主義の本質と価値』、決断主義、友と敵、政治神学、具体的秩序思想
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、各法思想の普遍性と特殊性について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	個々の概念や人物の正確な理解に努めるとともに、西洋史の大きな流れのなかで各法思想の特徴を述べられるようになること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。

関連科目

直接的には法哲学 I、同 II、西洋の裁判の歴史などと関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法思想史 第 2 版	田中成明ほか	有斐閣
2	法とは何か 法思想史入門	長谷部恭男	河出書房新社
3	新版 法思想史	三島淑臣	青林書院

評価方法（基準）

原則として定期試験（持ち込み不可）の点数によって評価します。授業中に何度か小レポートを提出してもらったり、発言を求めたりしますが、それらは加点事由（最大 10 点）として扱います。なお授業中の私語については、単位不認定を含め、厳しく対処します。一定時間経過後の理由なき遅刻についてもマイナスに評価します。

学生へのメッセージ

この法思想史の講義では、法思想の「古典」と呼ばれる著作を毎時間取り上げます。授業では各法思想の要点しか説明できませんので、興味のある古典作品が出てきたらぜひ積極的に読書をしてほしいと思います。時代を超えて読み継がれてきた古典作品と向き合うことは、学生の皆さんにとってきっと有意義な読書体験になるはずです。

担当者の研究室等

11 号館 9 階　松島講師室

備考

昨年度までの成績評価の方法から大幅に変更しているので、そのつもりで受講してください。

科目名	法思想史Ⅰ	科目名（英文）	History of Legal Thought Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　地理歴史）　【施行規則に定める科目区分】外国史　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	法思想史とは、過去の思想家たちが法や正義をどのように理解してきたかを考察する学問分野です。この講義では、西洋世界に地域を限定したうえで、古典古代から 19 世紀までに登場したさまざまな法思想を駆け足で見ていきます（20 世紀以降の新しい法思想は法哲学 II で扱います）。 個々の思想家にかんする知識をたんに丸暗記するのではなく、各法思想に含まれる普遍性と特殊性――いつの時代においても通用する普遍的なアイデアとその時代にしか通用しない特殊なアイデア――を的確に見極めつつ、現代の法思想の礎を確認することが、この講義の目的です。
到達目標	法思想史の基本事項を暗記することももちろん重要ですが、むしろそうした知識を手掛かりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることがこの講義の目標です。過去の哲学者たちの見解がすべて正しいわけではありません。批判的視点を持って講義に臨んでほしいと思います。
授業方法と留意点	講義は、毎時間授業中に配布するレジュメにしたがって行います。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）のヒントになる前提知識が獲得できると思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法思想史とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法思想史」がどのような科目なのか、なぜ法学部で西洋法思想の歴史を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	事前の予習は特に必要ありません。各回ごとに【復習ワード】を 10 個ほど掲げるので、その概念（あるいはその人物）を正確に説明できるようになるまで、しっかり復習に努めてください。
2	古代ギリシアの法思想①	「哲学」という独特の思考様式がなぜ古代ギリシアで誕生したのか、そして、それが後代の西洋世界にどのような影響を及ぼしたのかを学習します。哲学以前のホメロス・ヘシオドスの叙事詩も簡単に紹介します。	【復習ワード】 『イリアス』と『オデュッセイア』、『神統記』と『労働と日』、神話学的思考と哲学的思考テミス、ノモス、ディケー、ソロン、ソフィスト
3	古代ギリシアの法思想②	プラトンの前期著作を通じてソクラテスが追究した正しい生き方を概観するとともに、中後期著作でプラトン自身が構想した独創的な正義論・国家論の概要をを学習します。	【復習ワード】 ソクラテス裁判、クセノポン、クリトン、アカデメイア、対話篇の時代区分、善のイデア、哲人王、『国家』と『法律』
4	古代ギリシアの法思想③	万学の祖アリストテレスの著作集はいずれも重要ですが、この回の講義では論理学関連の著作からは論理的思考の芽生え、『ニコマコス倫理学』からは正義論、『政治学』からは国制論をそれぞれ学習します。	【復習ワード】 リュケイオン、オルガノン、シュロギスモス、一般的正義と特殊的正義、分配的正義と匡正的正義、衡平、「国制」
5	古代ローマの法思想	現代の法律学の基礎をなすローマ法がどのような経緯で誕生し、またそれにはどのような事柄が規定されているのかを学習します。また、当時のローマで栄えたストア派の法思想についても簡単に説明します。	【復習ワード】 12 表法、市民法と万民法、解答権、自然法と万民法、ウルピアヌスとパウルス、キケロ、ユスティニアヌス法典
6	古代から中世へ	西洋の法思想に今なお強い影響力を及ぼし続けているキリスト教の成立とその教義をごく簡単に説明したうえで、最大の教父哲学者アウグスティヌスの法思想を『神の国』を中心に解説します。	【復習ワード】 ナザレのイエス、ペテロとパウロ、旧約聖書と新約聖書、コイネー、三位一体説、『告白』、永久法・自然法・世俗法
7	中世の法思想	ローマ帝国の衰退からいわゆる 12 世紀ルネサンスにおけるローマ法の復活にいたるまでの歴史的経緯を説明し、あわせて中世最大の哲学者トマス・アクィナスの法思想を解説します。	【復習ワード】 12 世紀ルネサンス、ボローニャ大学、註釈学派(glossatores)、註解学派(commetatores)、学説彙纂、標準注釈、ドミニコ会、神学大全
8	中世から近代へ	中学高校の世界史でも必ず取り上げられる「ルネサンス」と「宗教改革」ですが、これらの出来事がそれ以降の法思想にどのような影響を与えたのかを、中世の法思想との対比を通じて学習します。	【復習ワード】 ルネサンス（再生）、ルター、カルヴァン、マキアヴェッリ、ボダン、グロティウス、サラマンカ学派（ビトリアとスアレス）
9	近代イギリスの法思想①	第 9 回から第 11 回までは社会契約説を学習します。まずこの回の講義ではホッブズ『リヴァイアサン』を取り上げ、彼の法思想を当時のイングランドの社会背景とあわせて学習します。	【復習ワード】 ピューリタン革命と名誉革命、自己保存権、自然状態の悲惨さ、ホッブズの自然法（特に第１～第３の自然法の内容）
10	近代イギリスの法思想②	社会契約論を代表する第二の思想家としてジョン・ロックを取り上げ、『統治論』で示されている法思想を学習します。ロックからやや時代が下りますが、ヒュームやベンサムの法思想も簡単に紹介します。	【復習ワード】 ロックの自然法、固有権（プロパティ）、抵抗権、スコットランド啓蒙、ヒュームの社会契約批判、ベンサム「功利主義」、J・S・ミル「他者危害原理」
11	近代フランスの法思想	社会契約論の最後の論者としてルソーを取り上げ、『社会契約論』で展開されている「一般意志」という考え方を学習します。あわせてモンテスキュー『法の精神』における権力分立の思想も解説し	【復習ワード】 『不平等起源論』、一般意志（特にその問題点）、法律の一般性、人民主権、フランス革命へのルソーの影響力、モンテスキューの権力分立論

		ます。	
12	近代ドイツの法思想①	ドイツ観念論の系譜を簡単に説明したうえで、カント『人倫の形而上学』とヘーゲル『法の哲学』を中心的に取り上げ、彼らの法思想のエッセンスを解説します。	【復習ワード】 ドイツ啓蒙期自然法論（プーフェンドルフ・トマジウス・ヴォルフ）、カントの三批判、定言命法、合法性と道徳性、根源契約、ヘーゲルの社会契約批判
13	近代ドイツの法思想②	19 世紀のドイツで展開された法思想を学習します。具体的にはサヴィニーに代表される歴史法学に始まり、ヴィントシャイトの概念法学を経て、イェーリングらに至る道のりを学習します。	【復習ワード】 法典論争、サヴィニーにおける歴史的方法と体系的方法、概念法学、イェーリングの概念法学批判、自由法運動、利益法学
14	近代ドイツの法思想③	20 世紀ドイツを代表する法哲学者であるラートブルフ、ケルゼン、シュミットの三人を取り上げ、ワイマール期からナチズム期の「危機の時代」に彼らがどのような法理論を展開したのかを学習します。	【復習ワード】 価値相対主義、再生自然法論、純粋法学、『民主主義の本質と価値』、決断主義、友と敵、政治神学、具体的秩序思想
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、各法思想の普遍性と特殊性について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	個々の概念や人物の正確な理解に努めるとともに、西洋史の大きな流れのなかで各法思想の特徴を述べられるようになること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。

関連科目

直接的には法哲学 I、同 II、西洋の裁判の歴史などと関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法思想史 第 2 版	田中成明ほか	有斐閣
2	法とは何か 法思想史入門	長谷部恭男	河出書房新社
3	新版 法思想史	三島淑臣	青林書院

評価方法（基準）

原則として定期試験（持ち込み不可）の点数によって評価します。授業中に何度か小レポートを提出してもらったり、発言を求めたりしますが、それらは加点事由（最大 10 点）として扱います。なお授業中の私語については、単位不認定を含め、厳しく対処します。一定時間経過後の理由なき遅刻についてもマイナスに評価します。

学生へのメッセージ

この法思想史の講義では、法思想の「古典」と呼ばれる著作を毎時間取り上げます。授業では各法思想の要点しか説明できませんので、興味のある古典作品が出てきたらぜひ積極的に読書をしてほしいと思います。時代を超えて読み継がれてきた古典作品と向き合うことは、学生の皆さんにとってきっと有意義な読書体験になるはずです。

担当者の研究室等

11 号館 9 階　松島講師室

備考

昨年度までの成績評価の方法から大幅に変更しているので、そのつもりで受講してください。

科目名	法情報学	科目名（英文）	Law and Computer
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	砂金　伸一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業概要：法律にかかわる情報（法情報）の検索、収集、活用等を学ぶ。 授業で扱う法律は、インターネットに関連する法律とする（下記授業テーマ参照）。 授業目的：民主主義の下では、法情報に自由にアクセスでき、これを活用できることが重要である。講義と演習を通じて、これらを体験する。
到達目標	企業人、市民として、法情報にアクセスし、必要な情報を入手できるようにする。 あわせて、インターネット社会で必要な法律についての知識も身につける。
授業方法と留意点	偶数回：講義形式 奇数回：演習形式（インターネットを使用し、資料を収集して課題を作成する）
科目学習の効果（資格）	情報産業に就職する際には役立つであろう。 また、情報化社会で、被害者や加害者とならない基礎的知識が習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	法情報学の意義、授業の進め方について説明する。	シラバスに目を通し、授業内を把握しておく。
2	個人情報の保護	個人情報保護法の概要について説明する。	個人情報保護法の 2 条、15 条～35 条を読んで授業に臨む。 授業後は、個人情報保護法の概要をまとめる。
3	個人情報の保護 （課題作成）	顧客情報漏洩事件を元に、関係者の法的責任を検討する。	第２回の授業内容を見直して授業に臨む。 授業後は、個人情報の保護方法について考える。
4	プライバシー侵害	プライバシー権を説明すると共に、インターネット上におけるプライバシー権侵害事件を概説する。	プライバシー権の内容を確認して授業に臨む。 授業後は、インターネット社会において、他人のプライバシーを侵害しない方法を考える。
5	プライバシー侵害 （課題作成）	実際のプライバシー侵害事件の判決例を検討する。	第４回の授業内容を見直して授業に臨む。 授業後は、インターネット社会において、どのようにして自分のプライバシーを守るかを考える。
6	名誉毀損行為	名誉毀損事案について、民事責任および刑事責任の両面から説明する。	民法の不法行為並びに刑法 230 条及び 230 条の２を読んで授業に臨む。 授業後は、インターネット社会において、他人の名誉を毀損しない方法を考える。
7	名誉毀損行為 （課題作成）	実際の名誉毀損事件（刑事事件）の判決例を検討する。	第６回の授業内容を見直して授業に臨む。 授業後は、名誉の保護と表現の自由との調和を考える。
8	著作権法	著作権法の概要を説明する。	著作権法 21 条～28 条に目を通して授業に臨む。 授業後は、何気ない行為が実は著作権侵害の恐れがあることを考える。
9	著作権法 （課題作成）	インターネット上における著作権侵害案件を取り上げ、著作権侵害責任を問われない方法を考える。	第８回の授業内容を見直して授業に臨む。 授業後は、著作権侵害責任を問われないために気をつけることをまとめる。
10	知的財産権	知的財産権（特許権および実用新案権）の概要を説明する。	教科書第８章の特許権および実用新案権部分に目を通して授業に臨む。 授業後は、特許権・実用新案権の特徴、取得手続きをまとめる。
11	知的財産権	知的財産権（意匠権および商標権）の概要を説明する。	教科書第８章の意匠権および商標権部分に目を通して授業に臨む。 授業後は、意匠権・商標権の特徴、取得手続きをまとめる。
12	知的財産権 （課題作成）	インターネットショッピングで買った商品が商標権を侵害すると連絡が税関から届いた場合の対応を考える。	第 10 回および第 11 回の授業内容を見直して授業に臨む。 授業後は、知的財産権侵害商品を買わないために気をつけることを考える。
13	サイバー犯罪	サイバー犯罪の概要を説明する。	教科書第７章に目を通して授業に臨む。 授業後は、同頁を読み直す。
14	インターネット取引における消費者保護法制	インターネット取引（ネットショッピング、ネットオークション）での消費者保護を図る制度について説明する。	教科書第５章に目を通して授業に臨む。 授業後は、インターネット取引で気をつけることをまとめる。
15	インターネット取引における消費者保護法制 （課題作成）	迷惑メール、不当請求を受けた場合の対応を考える。	迷惑メールの実例を調べて授業に臨む。 授業後は、迷惑メール、不当請求への対応をまとめる。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	レクチャー情報法	松井修視	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	(1)授業中に作成してもらうレポートおよび(2)期限を設定して提出してもらうレポート（複数回）を総合して決定する。 成績における比率は、授業中レポート：期限設定レポート＝６：４とする。
学生への メッセージ	インターネット上では色々な情報が提供されていますが、法律に関する情報も例外ではありません。国会、行政、裁判所等も最新情報をインターネットで提供しています。 このことを実感して頂くために、本授業では、コンピュータを使用し、受講生に情報検索、収集をしてもらい、レポートを作成して頂きます。
担当者の 研究室等	１１号館６階経営学部事務室
備考	授業時間以外での質問は、下記メールアドレスに連絡のこと nihsoy2@yahoo.co.jp

科目名	法政キャリア特別講義Ⅰ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小山　昇.石井　信輝.牛丸　與志夫.大川　謙蔵.河原　匡見.松島　裕一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義は、将来のキャリア形成を視野に入れ、法学部生のキャリアとして身につけておかなければならないことを習得するために開設されている法政キャリア特別講義の全体像と、２年生以降に各自が選択することになる４つのコースのことを総合的に案内することを目的とします。自分のキャリア形成にあった勉強をするにはどのようなことを意識して実践しなくてはならないのかを熟考する授業となります。
到達目標	法学部で開講している専門科目、教養科目を中心として、どのような知識をどのような計画で習得していくべきなのか、自分自身で考えられるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	複数の担当者が講義形式で行うのを原則とし、公務員試験や就職試験問題を体験することも併せて行います。自らのキャリアデザインを確実にするためにも、すべての授業に出ること、１５回の授業すべてが重要な評価対象です。なお、課題レポートは第１５回目の最後の時間に提示するので要注意！
科目学習の効果（資格）	法学部生が目指す法科大学院試験、国家・地方公務員試験、就職試験（ＳＰＩ試験）、そして法律関係の資格試験などの基礎的知識を知ることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	総合ガイダンス	法政キャリア特別講義（1年次から３年次）の全体と４コース制の概要	授業で知ったことの整理と確認
2	企業法務コースの紹介と特別講義①	企業法務コースとは①	授業で知ったことの整理と確認
3	企業法務コースの紹介と特別講義②	企業法務コースとは②	授業で知ったことの整理と確認
4	企業法務コースの紹介と特別講義③	企業法務コースとは③	授業で知ったことの整理と再確認
5	一般企業就職対策の実際①	就職試験の体験（その１）	授業での実践練習の復習
6	一般企業就職対策の実際②	就職試験の体験（その２）	授業での実践練習の復習
7	一般企業就職対策の実際③	就職試験の体験（その３）	授業での実践練習の復習
8	地域政策コースの紹介と特別講義①	地域政策コースとは①	授業で知ったことの整理と確認
9	地域政策コースの紹介と特別講義②	地域政策コースとは②	授業で知ったことの整理と再確認
10	地方公務員試験対策の実際①	公務員試験の体験（その１）	授業での実践練習の復習
11	地方公務員試験対策の実際②	公務員試験の体験（その２）	授業での実践練習の復習
12	スポーツ法政策コースの紹介と特別講義	スポーツ法政策コースとは	授業で知ったことの整理と確認
13	法律学特修コースの紹介と特別講義①	法律学特修コースとは①	授業で知ったことの整理と確認
14	法律学特修コースの紹介と特別講義②	法律学特修コースとは②	授業で知ったことの整理と再確認
15	総括と課題レポート	まとめ 法政キャリア特別講義の活用と進路決定についての提言、 課題レポートの提示	１５回の授業で知ったことのすべての再確認

関連科目	法政キャリア特別講義Ⅱ～Ⅵ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要な資料は配付します		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業で紹介します		
2			
3			

評価方法（基準）	最後の授業で提示する課題レポートと授業で実践した公務員等の体験問題の成績結果を総合して評価します。
学生へのメッセージ	自分の希望する将来が、ゆっくりでも確実に実現できるようになるためにはどうすれば良いのか、一緒に考えましょう。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　　小山教授室
備考	

科目名	法政キャリア特別講義Ⅱ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村　秀一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ビジネス法務への入門講義である。現代のビジネスパーソンにはコンプライアンス（法令遵守）が厳しく要求されている。企業はその要求に応えられる人材を求めている。そこで、企業に就職を希望する学生が入社後役立つようなビジネスに関わる種々の法律知識を総合的に教授する。その範囲を絞るのはむつかしいが、初心者向けの参考になるのがビジネス実務法務検定試験３級の出題範囲であり、その範囲に合わせて授業を行うこととする。この試験はビジネス法務を体系的・効率的に学ぶことができるように工夫されているからである（東京商工会議所試験情報 HP 参照）。
到達目標	ビジネス法務についての基本的知識を理解する。
授業方法と留意点	民法・商法・会社法・労働法・独禁法・知的財産法を履修済みか将来履修を予定している学生の受講を求める。 本講義はビジネス実務法務検定試験３級取得に役立つような内容になっているが、その資格取得のための授業ではないので、同試験に合格するためには、授業以外での十分な学習が必要であることに留意してほしい。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務法務検定試験３級の問題に対処する基礎となる初歩的知識を養うことができる。ちなみに、同試験に合格すれば「ビジネス法務リーダー」の称号があたえらる。また、この検定を推奨したり、採用や社内評価の参考にする企業が増えているといわれる（東京商工会議所試験情報 HP 参照）。HP をみれば、この試験に関わる有名大企業がずらりと並んでいる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ビジネス法務の重要性とビジネス実務法務検定試験３級取得の意義	コンプライアンスの重要性とビジネス法務に関わる法律の概要	特になし
2	ビジネスに関係する法律の基礎	近代私法の基本原則・権利とは何か	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
3	取引・権利義務の主体	自然人・法人・会社・会社の種類	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
4	会社（法人）取引の法律	取引による債権債務・ビジネス文書の作成と管理	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
5	取引の決済方法１	手形	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
6	取引の決済方法２	小切手・電子記録債権法	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
7	取引によらない債権債務１	事務管理・不当利得	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
8	取引によらない債権債務２	不法行為	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
9	会社（法人）の財産管理	財産の取得と法律・知的財産権	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
10	債権の管理・回収１	債権管理	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
11	債権の管理・回収２	債権の担保・緊急時の債権回収	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
12	会社（企業）活動に対する法規制１	独占禁止法・製造物責任法・消費者法など	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
13	会社（企業）活動に対する法規制２	ビジネスに関連する犯罪	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
14	会社（法人）と従業員の雇用関係等に関する法律	雇用関係と法律・男女雇用機会均等法・派遣と法律	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
15	授業の総括・重要ポイントのまとめ	授業の理解の程度を確認し、全体総括を行う・とくに間違えやすい重要ポイントの復習	これまでの授業内容を体系立てて復習する

関連科目	民法・商法・会社法・労働法・独禁法・知的財産法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の態度、理解度などを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	ビジネス実務法務検定３級合格を目指すためには、本講義だけでは不十分です。専門的な法律科目の講義をまじめに受講し、十分な自習時間を取る必要があることを、くれぐれもお忘れなきように！
担当者の研究室等	11 号館 10 階　木村教授室
備考	ビジネス実務法務検定には１級・２級もあり、２級を取得すれば「ビジネス法務エキスパート」、１級を取得すれば「ビジネス法務エグゼクティブ」の称号が与えられ、３級も含めて、それらの称号は名刺に記載できるといわれている。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅱ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一.前田　剛志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この法政キャリア特別講義 II の講義では、同 III、同 IV、同 V、同 VI に向けて法律の基礎的な知識の習得を目的にしています。
到達目標	法学検定試験や行政書士試験などの問題演習を通じて、憲法・民法・行政法の基礎知識を習得すること。
授業方法と留意点	講義は、論点についての解説講義及び問題演習を中心に行う予定です。関連する事項については、適宜レジュメを配布します。また、回数が限られていますので、必然的に重要な部分を集中的に論じることになり、少ししか触れられない部分もでてくるかと思います。したがって、自学自習で補っていく必要があり、かなりの程度の予習復習を求めることになります。また、授業内容も受講生の要望や問題の重要性、授業の進展などに応じて臨機応変に変更する予定です。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的心構えなどの概説を行います。	授業中に指示します。資格試験や公務員試験、司法試験など具体的な目標を考えておくこと。
2	憲法①	憲法の人権の中でも重要な位置を占める精神的自由についての基本を学びます。	精神的自由、特に表現の自由を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
3	憲法②	憲法には、精神的自由以外にも様々な人権があります。それらの概要を学びます。	経済的自由、社会権、参政権などを確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
4	憲法③	憲法には、大きく分けて人権分野と統治分野からなります。国会、内閣、裁判所などの統治機構についての基本を学習します。	統治機構の基本となる国会・内閣・裁判所の関係と権能を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
5	民法①	私人間の関係を規律する民法についての学習をはじめます。まずは、権利の主体や法律行為などを定めている民法総則から学習します。	民法総則の分野を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
6	民法②	物を直接的・排他的に支配する権利であるといわれる物権について学習します。	物権、特に所有権、抵当権の内容を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
7	民法③	特定人から特定人に対して一定の財産上の行為を請求できるという債権について学びます。まずは、債権総論からはじめます。	債権総論、特に債権者代位権、詐害行為取消権を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
8	民法④	債権各論といわれる分野を学習します。契約がどのようにして成立するのか、契約の効力はどのようなものがあるかなどを学びます。	債権各論の分野を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
9	民法⑤	ここでは、具体的な契約の種類や事務管理・不当利得・不法行為などを学習します。	引き続き債権各論の分野、特に売買、賃貸借、不法行為を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
10	民法⑥	民法は、経済的生活関係だけではなく、身分的生活関係も規律しています。婚姻、親子、相続などを学習します。	民法の親族・相続の分野を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
11	行政法①	行政に関する法は、様々な名称と内容を持った多くの法律があります。そうした行政法を学びます。最初は、行政法の全体像や基本原理を学習します（行政法総論）。	行政法総論と呼ばれている部分を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
12	行政法②	行政主体が「どのような」活動をするのかという視点を学習します（行政作用法）。	行政作用法と呼ばれている部分を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
13	行政法③	行政法の中でも特に重要な行政救済法について学習します。	行政救済法、特に行政事件訴訟法を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
14	その他の実定法	刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法など	その他の実定法の基本を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がよく理解できなかった部分がどこかを確認しておくこと。

関連科目	直接的には、法政キャリア特別講義 III～VI（松島・前田担当分）と関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業中に実施する確認テストおよび期末試験の点数によって、総合的に評価します（詳細は初回の講義で説明します）。毎回の出席が前提ですので、無断欠席が一定回数を超えた場合、単位取得を認めません。
学生への メッセージ	この講義では、法政キャリア特別講義 III、同 IV・V、同 VI（松島・前田担当分）と連続した形で、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士など資格試験の対策も考えております。具体的な講義内容については、受講生の皆さんの要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	法政キャリア特別講義 II（松島・前田担当分）は特別履修とし、定員の上限を 20 名程度にします。履修生の選抜に当たっては、事前に選抜テストを実施します。また法政キャリア特別講義 II、同 III（松島・前田担当分）は連続する講義ですので、両方とも履修してください。授業内容、履修方法、選抜テストなどについて分からない点がある学生は、法学部事務室および担当教員（松島）に遠慮なく質問してください。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅱ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義は、後期開講の法政キャリア特別講義Ⅲ（Oクラス）と連関して、将来、警察官や消防士、一般の市町村役場に就職を希望する人に対して、必須に必要となる知識を習得することを目的として、問題の実践とその解法を講義します。
到達目標	前期のこの講義では、特に、基礎的知識のうち必須である知識の確実な習得を目標とします。
授業方法と留意点	複数の担当者による講義と問題実践及びその解説という形式で行いますので、人数を制限します。具体的な知識の積み重ねが重要なので、受講生には高い意識を求めます。最後の時間に、課題レポートを提示するので注意すること！
科目学習の効果（資格）	一般の地方公務員試験について、必須の知識を獲得することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	一般の地方公務員試験の概略と問題の形式について、その一般的知識と勉強方法	授業で知ったことの整理と再確認
2	公務員に必要な基礎知識：準備編１	実力確認のためのテストとその解説	授業で知ったことの復習と整理
3	公務員に必要な基礎知識：準備編２	数的な処理能力の養成（その１）	授業で知ったことの復習と整理
4	公務員に必要な基礎知識：準備編３	数的な処理能力の養成（その２）	授業で知ったことの復習と整理
5	公務員に必要な基礎知識：準備編４	数的な処理能力の養成（その３）	授業で知ったことの復習と整理
6	公務員に必要な基礎知識：入門編１	事務的処理能力の養成（その１）	授業で知ったことの復習と整理
7	公務員に必要な基礎知識：入門編２	事務的処理能力の養成（その２）	授業で知ったことの復習と整理
8	公務員に必要な基礎知識：入門編３	事務的処理能力の養成（その３）	授業で知ったことの復習と整理
9	公務員に必要な基礎知識：入門編４	事務的処理能力の養成（その４）	授業で知ったことの復習と整理
10	公務員に必要な基礎知識：実践編１	論理的思考能力の養成（その１）	授業で知ったことの復習と整理
11	公務員に必要な基礎知識：実践編２	論理的思考能力の養成（その２）	授業で知ったことの復習と整理
12	公務員に必要な基礎知識：実践編３	論理的思考能力の養成（その３）	授業で知ったことの復習と整理
13	公務員に必要な基礎知識：実践編４	論理的思考能力の養成（その４）	授業で知ったことの復習と整理
14	公務員に必要な基礎知識：確認編	実力確認のためのテストとその解説	授業で知ったことの復習と整理
15	総括	まとめ 課題レポートの提示	知識の整理と再確認

関連科目：法政キャリア特別講義Ⅰ、Ⅲ～Ⅴ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要な資料は配付します		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業で紹介します		
2			
3			

評価方法（基準）	最後の時間に提示する課題レポートとそれまでに実践した問題の成績結果を合わせて評価します。
学生へのメッセージ	公務員試験で合格するために必要なことは何か、それを正確に知りそして実践することは、必ずいい結果を得られます。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　小山教授室
備考	

科目名	法政キャリア特別講義Ⅲ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一.前田　剛志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この法政キャリア特別講義 III の講義では、同 II に引き続き公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試などに向けた基礎的な知識の習得を目的にしています。受講生の皆さんが試験に合格するため、少しでもお役に立てるよう、受講生の要望を聞き入れながら、一緒に頑張っていければと考えています。
到達目標	法学検定試験や行政書士試験などの問題演習を通じて、憲法・民法・行政法の基礎知識を習得すること。
授業方法と留意点	講義は、論点についての解説講義及び問題演習を中心に行う予定です。関連する事項については、適宜レジュメを配布します。また、回数が限られていますので、必然的に重要な部分を集中的に論じることになり、少ししか触れられない部分もでてくるかと思います。したがって、自学自習で補っていく必要があり、かなりの程度の予習復習を求めることになります。また、授業内容も受講生の要望や問題の重要性、授業の進展などに応じて臨機応変に変更する予定です。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的心構えなどの概説を行います。	授業中に指示します。資格試験や公務員試験、司法試験など具体的な目標を考えておくこと。
2	憲法①	憲法の人権の中でも重要な位置を占める精神的自由についての基本を学びます。	精神的自由、特に表現の自由を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
3	憲法②	憲法には、精神的自由以外にも様々な人権があります。それらの概要を学びます。	経済的自由、社会権、参政権などを確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
4	憲法③	憲法には、大きく分けて人権分野と統治分野からなります。国会、内閣、裁判所などの統治機構についての基本を学習します。	統治機構の基本となる国会・内閣・裁判所の関係と権能を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
5	民法①	私人間の関係を規律する民法についての学習をはじめます。まずは、権利の主体や法律行為などを定めている民法総則から学習します。	民法総則の分野を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
6	民法②	物を直接的・排他的に支配する権利であるといわれる物権について学習します。	物権、特に所有権、抵当権の内容を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
7	民法③	特定人から特定人に対して一定の財産上の行為を請求できるという債権について学びます。まずは、債権総論からはじめます。	債権総論、特に債権者代位権、詐害行為取消権を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
8	民法④	債権各論といわれる分野を学習します。契約がどのようにして成立するのか、契約の効力はどのようなものがあるかなどを学びます。	債権各論の分野を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
9	民法⑤	ここでは、具体的な契約の種類や事務管理・不当利得・不法行為などを学習します。	引き続き債権各論の分野、特に売買、賃貸借、不法行為を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
10	民法⑥	民法は、経済的生活関係だけではなく、身分的生活関係も規律しています。婚姻、親子、相続などを学習します。	民法の親族・相続の分野を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
11	行政法①	行政に関する法は、様々な名称と内容を持った多くの法律があります。そうした行政法を学びます。最初は、行政法の全体像や基本原理を学習します（行政法総論）。	行政法総論と呼ばれている部分を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
12	行政法②	行政主体が「どのような」活動をするのかという視点を学習します（行政作用法）。	行政作用法と呼ばれている部分を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
13	行政法③	行政法の中でも特に重要な行政救済法について学習します。	行政救済法、特に行政事件訴訟法を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
14	その他の実定法	刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法など	その他の実定法の基本を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がよく理解できなかった部分がどこかを確認しておくこと。

関連科目	直接的には、法政キャリア特別講義Ⅱ、Ⅳ～Ⅵ（松島・前田担当分）と関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業中に実施する確認テストおよび期末試験の点数によって、総合的に評価します（詳細は初回の講義で説明します）。毎回の出席が前提ですので、無断欠席が一定回数を超えた場合、単位取得を認めません。
学生への メッセージ	この講義では、法政キャリア特別講義 IV・V、同 VI（松島・前田担当分）と連続した形で、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士など資格試験の対策も考えております。具体的な講義内容については、受講生の皆さんの要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	この法政キャリア特別講義 III（松島・前田担当分）は特別履修とし、定員の上限を 20 名程度としています。詳細は、法政キャリア特別講義 II（松島・前田担当分）のシラバスを参照してください。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅲ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中塚　賢
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では将来、営業職や企画職、または総合職や事務職として、企業や公共団体などで活躍することを目指す学生に、ビジネスの基本要素であるヒト・モノ・カネの動きを簿記でどのように記録するのか、そして会社の成績表ともいえる決算書からどのような情報が得られるのか、を教授する。
到達目標	日商簿記３級程度の簿記力習得を目安とするが、今後、社会人として活躍するための基礎としての知識獲得に重点を置く。
授業方法と留意点	講義形式で、実際のビジネスの流れがわかるような説明を加えながら、実務上の出来事を、簿記ではどのように捉えるのかをわかりやすく説明する。演習的に簿記問題を解いて、理解度を確かめながら着実に知識が身につく講義を心掛けたい。
科目学習の効果（資格）	日商簿記３級合格程度の知識を獲得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	会社の成績表とは？	講義内容の復習
2	簿記とは何か？	簿記の目的と手続き	復習課題の実施
3	仕訳と転記	簿記の基本的な記帳の仕方について	復習課題の実施
4	期中の手続と決算手続	会計期間中の処理と、会計期間の締めとなる決算について	復習課題の実施
5	現金・預金の取引	現金や預金の記帳について	復習課題の実施
6	商品売買と掛取引	売上や仕入、売掛金や買掛金について	復習課題の実施
7	手形の取引	手形の種類や手形の処理について	復習課題の実施
8	有価証券の取引	有価証券の種類や売買の処理について	復習課題の実施
9	債権・債務の取引	債権・債務や経過勘定などの処理について	復習課題の実施
10	固定資産の取引	固定資産の取得・売却と減価償却	復習課題の実施
11	資本金と税金の処理	資本取引と法人税・消費税など	復習課題の実施
12	収益と費用、伝票の処理	収益や費用の科目、伝票会計の手続きなど	復習課題の実施
13	決算の手続き１	決算整理の意味・手続きについて	復習課題の実施
14	決算の手続き２	費用・収益の繰延など	復習課題の実施
15	まとめと復習	まとめと練習問題	練習問題の復習

関連科目：会社法を履修していることが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	段階式日商簿記３級商業簿記（第１３版）	加古宜士･穐山幹夫	税務経理協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の結果（90%程度），授業参加度（１０％程度）による。
学生へのメッセージ	簿記のまったくの初心者や、数字が苦手な学生でも、ビジネスや実務に興味があれば歓迎する。学生の理解度によって講義内容を調整することもある。
担当者の研究室等	１１号館６階（経営学部事務室） 質問等は講義終了後か、下記メールアドレスまでお送りください。
備考	ken_nakatsuka@cpta-ken.com

科目名	法政キャリア特別講義Ⅲ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小山　昇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義は、法政キャリア特別講義Ⅱ（Ｏクラス）と連関して、将来、警察官や消防士、一般の市町村役場に就職を希望する人に対して、最も基本的な知識の習得を目的として、問題の実践とその解答及びその理由を中心に講義します。
到達目標	後期開講のこの講義では、特に、一般的知識の習得をその目標とします。
授業方法と留意点	複数の担当者による講義と問題実践の形式で行うため、人数を制限します。具体的な知識の積み重ねが重要であるので、受講生には高い意識の持続を求めます。最後の時間に課題レポートを提示するので注意すること。
科目学習の効果（資格）	一般の地方公務員試験について、必須の知識を獲得することができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	一般の地方公務員試験の問題について、その知識の更なる獲得に向けての勉強方法、実力確認のためのテストとその解説	授業で知ったことの確認と整理
2	公務員に必要な一般知識：法学編１	法学についての基礎力の鍛錬（その１）	授業で知ったことの復習と整理
3	公務員に必要な一般知識：法学編２	法学についての基礎力の鍛錬（その２）	授業で知ったことの復習と整理
4	公務員に必要な一般知識：法学編３	法学についての基礎力の鍛錬（その３）	授業で知ったことの復習と整理
5	公務員に必要な一般知識：法学編４	法学についての基礎力の鍛錬（その４）	授業で知ったことの復習と整理
6	公務員に必要な一般知識：法学編５	法学についての基礎力の鍛錬（その５）	授業で知ったことの復習と整理
7	公務員に必要な一般知識：政治学編１	政治学についての基礎力の鍛錬（その１）	授業で知ったことの復習と整理
8	公務員に必要な一般知識：政治学編２	政治学についての基礎力の鍛錬（その２）	授業で知ったことの復習と整理
9	公務員に必要な一般知識：経済学編１	経済学についての基礎力の養成（その１）	授業で知ったことの復習と整理
10	公務員に必要な一般知識：経済学編２	経済学についての基礎力の養成（その２）	授業で知ったことの復習と整理
11	公務員に必要な一般知識：経済学編３	経済学についての基礎力の養成（その３）	授業で知ったことの復習と整理
12	公務員に必要な一般知識：経済学編４	経済学についての基礎力の養成（その４）	授業で知ったことの復習と整理
13	公務員に必要な一般知識：経済学編５	経済学についての基礎力の養成（その５）	授業で知ったことの復習と整理
14	公務員に必要な一般知識：確認編	実力確認のためのテストとその解説	授業で知ったことの確認と整理
15	総括	まとめ、課題レポートの提示	知識の整理と再確認

関連科目：法政キャリア特別講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要な資料は配付します		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業で紹介します		
2			
3			

評価方法（基準）	第１５回目の最後の授業で提示する課題レポート、及び実践した問題の成績結果を合わせて評価します。
学生へのメッセージ	公務員試験で必要な知識を確実に身に付けて、知識人としてさらにステップアップしましょう。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　小山教授室
備考	

科目名	法政キャリア特別講義Ⅳ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics Ⅳ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一.前田　剛志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この法政キャリア特別講義 IV の講義では、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試などに向けた実践的な知識の習得を目的にしています。受講生の皆さんが試験に合格するため、少しでもお役に立てるよう、受講生の要望を聞き入れながら、一緒に頑張っていければと考えています。
到達目標	公務員試験や法科大学院入学試験などの問題演習を通じて、各種試験合格に必要となる高度に専門的な法的知識を習得すること。
授業方法と留意点	講義は、論点についての解説講義及び問題演習を中心に行う予定です。関連する事項については、適宜レジュメを配布します。また、回数が限られていますので、必然的に重要な部分を集中的に論じることになり、少ししか触れられない部分もでてくるかと思います。したがって、自学自習で補っていく必要があり、かなりの程度の予習復習を求めることになります。また、授業内容も受講生の要望や問題の重要性、授業の進展などに応じて臨機応変に変更する予定です。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的心構えなどの概説を行います。	各自の目標を具体的にイメージしておくこと。
2	憲法①	精神的自由の内容の理解を深めます。違憲審査基準などにも触れます。	表現の自由の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
3	憲法②	精神的自由以外の人権の議論も多々ありますので、理解を深めていきたいと思います。	経済的自由、社会権、平等権、参政権などの内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
4	憲法③	統治機構は、資格試験では頻出の分野です。暗記すべき部分や自分で考える部分にメリハリを付けながら学習したいと考えています。	国会・内閣・裁判所の権能を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
5	民法①	民法総則の中で論点となる部分を重点的に学習します。	民法総則の中でも、代理に関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
6	民法②	物権も重要な論点が多いので、基本的な部分をしっかり押さえておきたいと思います。	物権の中でも、抵当権に関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
7	民法③	問題演習などをつうじて、債権総論についての理解を深めたいと思います。	債権者代位権、詐害行為取消権の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
8	民法④	債権各論を更に勉強します。	売買、賃貸借、請負の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
9	民法⑤	債権各論の理解を深めます。	事務管理、不当利得、不法行為の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
10	民法⑥	親族・相続分野は、択一では頻出ですので、具体的な問題演習をつうじて理解を深めたいと思っています。	婚姻、養子、相続の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
11	行政法①	問題演習を通じて、行政法総論を学習します。	行政法総論で扱われる内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
12	行政法②	問題演習を通じて、行政作用法を学習します。	行政作用法で扱われる内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
13	行政法③	問題演習を通じて、行政救済法を学習します。	行政事件訴訟法、行政不服審査法の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
14	その他の実定法 刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法など	憲法、民法、行政法以外で試験に関連する科目	刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法などの基本概念を覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がわからなかった部分を復習しておくこと。

関連科目	直接的には、法政キャリア特別講義 II・III、同 V、同 VI（松島・前田担当分）と関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業中に実施する確認テストおよび期末試験の点数によって、総合的に評価します（詳細は初回の講義で説明します）。毎回の出席が前提ですので、無断欠席が一定回数を超えた場合、単位取得を認めません。
学生への メッセージ	この講義では、法政キャリア特別講義 V、同 VI（松島・前田担当分）と連続した形で、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士など資格試験の対策も考えております。具体的な講義内容については、受講生の皆さんの要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	法政キャリア特別講義 IV（松島・前田担当分）は特別履修とし、定員の上限を 15 名程度にします。履修生の選抜に当たっては、事前に選抜テストを実施します。また法政キャリア特別講義 IV、同 V（松島・前田担当分）は連続する講義ですので、両方とも履修してください。授業内容、履修方法、選抜テストなどについて分からない点がある学生は、法学部事務室および担当教員（松島）に遠慮なく質問してください。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅳ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics Ⅳ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大仲　淳介
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法学を学ぶ者は、自分の意見や考えを読み手に納得してもらい、自分と同じ意見をもつよう説得できる文章を書くことができなければなりません。このような小論文を書くには、いろいろな能力が必要になります。この講義では、この能力に重点をおき、小論文を通して、どういう文章が読み手を納得させることができる文章かを検討します。
到達目標	小論文の基礎的な知識を理解し、読み手を納得させる文章を書くための基礎学力を身につけることを目指します。
授業方法と留意点	授業は講義方式と演習方式を併用します。プリントを配付しますので、配付したプリントは必ず持参してください。
科目学習の効果（資格）	警察官、消防士、市役所などの公務員試験に役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	法律学と説得力のある文章　小論文と作文など	原則として事後学習を重視する
2	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力１	論理的にものごとを考え判断する能力とは	授業中に指示する
3	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力２	ものごとの相互の対応関係を探る能力とは	授業中に指示する
4	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力３	他人が述べたことの真意を判断する能力とは	授業中に指示する
5	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力４	考え方や発想を柔軟に変更して妥当な解決策を探る能力とは	授業中に指示する
6	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力５	他人の文章が何を伝えるために書かれているかを理解する能力とは	授業中に指示する
7	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力６	複数の資料の相互の関係を理解する能力とは	授業中に指示する
8	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力７	統計学の基礎知識とは	確認問題をする
9	法的知識に基づいた文章と日本語１	日本文の特徴、文の単位、日本語の語順など	授業中に指示する
10	法的知識に基づいた文章と日本語２	文の役割と文の接続、日本文と主観的表現、語調の統一など	確認問題をする
11	法的知識に基づいた文章の書き方１	課題の求めているものは何かなど	授業中に指示する
12	法的知識に基づいた文章の書き方２	主題の決め方、主題を文章化するための材料の集め方など	授業中に指示する
13	法的知識に基づいた文章の書き方３	意見や考えの理由と根拠、構想の立て方、構成の仕方など	授業中に指示する
14	法的知識に基づいた文章の書き方４	説得力のある文章と説得力のない文章、比較的字数の少ない文章の作成など	授業中に指示する
15	まとめ	法的基礎に基づいた文章のまとめ	前回に作成した小論文を再考する

関連科目	法政キャリア特別講義Ⅴ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中に作成する小論文と、最後に提出を求める「課題レポート」で評価します。
学生へのメッセージ	できる限り個別に対応します。また授業中に生じた疑問は必ず質問してください。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	法政キャリア特別講義Ⅳ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics Ⅳ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金谷　重樹.大川　謙蔵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義は宅建（宅地建物取引主任者資格試験）に出題される分野を扱い、その合格を目指すものです。宅地や建物などの取引を行う際に、重要事項の説明を行うなど、不動産の取引を行う会社などでは必置とされます。試験は、宅地建物取引業に関する実用的な知識を有するかどうかを判定することに基準が置かれています。 試験の内容は大きく分けて、権利関係に関する分野、宅建業法に関する分野、法令上の制限に関する分野、鑑定・需給・取引実務・税などの分野に分かれます。 本講義は15回しかないことから、細かな点に入りきれません。それゆえ、個人での勉強が不可欠になることにご理解ください。
到達目標	宅地建物取引主任者の資格試験に合格する力を培う。
授業方法と留意点	講義は授業中に配付するテキストやプリントに基づいて実施します。 基本的には過去問題を講義中に解答してもらい、その解答方法の講義・解説を行う予定です。 ただし、場合に応じて変更もありますので、その際には指示をします。その点につきご了承ください。
科目学習の効果（資格）	宅地建物取引主任者資格試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 権利関係（1）	民法総則の内容①	授業時に指示する。
2	権利関係（2）	民法総則の内容② 物権総論の内容	授業時に指示する。
3	権利関係（3）	担保物権の内容	授業時に指示する。
4	権利関係（4）	債権総論の内容	授業時に指示する。
5	権利関係（5）	債権各論の内容	授業時に指示する。
6	権利関係（6）	家族法の内容	授業時に指示する。
7	権利関係（7）	借地借家法・不動産登記法の内容	授業時に指示する。
8	権利関係（8）	区分所有法の内容 権利関係に関する復習	授業時に指示する。
9	宅建業法（1）	宅地建物取引業等 業務に関する規制	授業時に指示する。
10	宅建業法（2）	業者としての制限内容 報酬・特定住宅瑕疵担保履行法など	授業時に指示する。
11	法令上の制限（1）	都市計画法など	授業時に指示する。
12	法令上の制限（2）	建築基準法など	授業時に指示する。
13	法令上の制限（3）	その他の法令上の制限	授業時に指示する。
14	鑑定・需給・取引実務・税など（1）	鑑定・地公法など	授業時に指示する。
15	鑑定・需給・取引実務・税など（2）	税に関する内容	授業時に指示する。

関連科目：民法全般、行政法、税法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験、提出物、各講義での取り組み（小テストなど）から評価します。 変更もあり得ますので、詳細は初回の講義において指摘します。 無断欠席・遅刻、授業中の私語等は、そもそも単位不認定と理解してください。
学生へのメッセージ	宅建試験は講義で扱う法律科目が中心となります。それ以外にも、講義では直接扱わないような分野も出題されますが、必要とされる部分を中心に勉強を行うことで、合格できる試験です。 もちろん、予習・復習など、自己の努力が必要であることに変わりはありません。
担当者の研究室等	11号館9階　金谷教授室 11号館9階　大川講師室
備考	

科目名	法政キャリア特別講義Ⅴ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics Ⅴ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　與志夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	企業が違法な行為を行うと、損害賠償請求を受けたり、行政処分を課せられたり、刑事罰が課されるばかりでなく、社会から大きな非難を受け、企業の存立の危機にさらされるおそれもある。そこで、ビジネスパーソンとして、十分な法的素養を得ることが求められる。本講義は、中堅ビジネスパーソンが習得することが求められる法的知識を得ることを目的としている。
到達目標	ビジネス実務法務検定試験の２級に合格する実力をつける。
授業方法と留意点	本講義は、受講者がビジネス実務法務検定試験の２級の合格を目指しているので、教科書に従って行う授業と毎回の復習テストによって行う。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務法務検定試験の２級の合格により、就職活動が有利になる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ビジネス法務の実務	ビジネス実務法務とは、企業を取り巻くリスクとビジネス実務法務、企業活動とコンプライアンス・企業倫理	教科書２ページ～２４ページ
2	取引を行う主体（1）	株式会社のしくみ	教科書２５ページ～９１ページ
3	取引を行う主体（2）	株式会社の運営	教科書９２ページ～１２８ページ
4	会社取引の法務（1）	ビジネスに関する法律関係	教科書１２０ページ～１７０ページ
5	会社取引の法務（2） 会社財産の管理･活用と法律（1）	損害賠償に関する法律関係 流動資産の運用・管理の法的側面 固定資産の管理と法律	教科書１７１ページ～１９９ページ
6	会社財産の管理･活用と法律（2）	知的財産権の管理と活用、賃借物件の管理	教科書２００ページ～２４７ページ
7	債権の管理と回収（1）	債権の担保	教科書２５０ページ～２７８ページ
8	債権の管理と回収（2）	緊急時の債権回収 債務者の倒産に対応するための処理手続	教科書２７９ージ～３３８ページ
9	企業活動に関する法規制（1）	経済関連法規	教科書３３９ページ～３７２ページ
10	企業活動に関する法規制（2）	消費者保護関連の規制、	教科書３７３ページ～４１８ページ
11	企業活動に関する法規制（3）	情報化社会にかかわる法律	教科書４１３ページ～４２７ページ
12	企業活動に関する法規制（3） 会社と従業員の関係	事業関連規制 労働組合と使用者との関係、社会保険等	教科書４２８ページ～４８２ページ
13	紛争の解決方法	紛争の予防方法、民事訴訟法手続、その他の紛争の解決方法	教科書４８４ページ～５２４ページ
14	国際法務（渉外法務）	国際取引に関する法的諸問題と対応のポイント、国際取引における契約作成上の諸問題、国際取引に関する個別の法的諸問題、WTO と国際通商問題	教科書５２６ページ～５８１ページ
15	模擬テスト	これまでの授業を総括するために、総まとめのためのテストを実施する。	教科書全体

関連科目	法政キャリア特別講義Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス実務法務検定試験２級公式テキスト２０１５年度版	東京商工会議所編	東京商工会議所
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	第１５回目の授業で実施するテストを６０％とし、授業中に実施する小テストを４０％とします。
学生へのメッセージ	ビジネス実務法務検定試験の２級の合格という明確な学習目標ができ、勉強の励みになる。学習によって、中堅ビジネスパーソンが修得することが求められる法的知識を得ることができ、しかも、それを商工会議所が証明してくれたことになり、自信を持って企業人として社会で活動できる。 学習範囲が広いので、焦らず、辛抱強く、取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	

科目名	法政キャリア特別講義Ⅴ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics Ⅴ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一.前田　剛志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この法政キャリア特別講義Ⅴの講義では、法政キャリア特別講義Ⅳに引き続き、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試などに向けたより実践的な知識の習得を目的にしています。受講生の皆さんが試験に合格するため、少しでもお役に立てるよう、受講生の要望を聞き入れながら、一緒に頑張っていければと考えています。
到達目標	公務員試験や法科大学院入学試験などの問題演習を通じて、各種試験合格に必要となる高度に専門的な法的知識を習得すること。
授業方法と留意点	講義は、論点についての解説講義及び問題演習を中心に行う予定です。関連する事項については、適宜レジュメを配布します。また、回数が限られていますので、必然的に重要な部分を集中的に論じることになり、少ししか触れられない部分もでてくるかと思います。したがって、自学自習で補っていく必要があり、かなりの程度の予習復習を求めることになります。また、授業内容も受講生の要望や問題の重要性、授業の進展などに応じて臨機応変に変更する予定です。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的心構えなどの概説を行います。	各自の目標を具体的にイメージしておくこと。
2	憲法①	精神的自由の内容の理解を深めます。違憲審査基準などにも触れます。	表現の自由の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
3	憲法②	精神的自由以外の人権の議論も多々ありますので、理解を深めていきたいと思います。	経済的自由、社会権、平等権、参政権などの内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
4	憲法③	統治機構は、資格試験では頻出の分野です。暗記すべき部分や自分で考える部分にメリハリを付けながら学習したいと考えています。	国会・内閣・裁判所の権能を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
5	民法①	民法総則の中で論点となる部分を重点的に学習します。	民法総則の中でも、代理に関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
6	民法②	物権も重要な論点が多いので、基本的な部分をしっかり押さえておきたいと思います。	物権の中でも、抵当権に関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
7	民法③	問題演習などをつうじて、債権総論についての理解を深めたいと思います。	債権者代位権、詐害行為取消権の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
8	民法④	債権各論を更に勉強します。	売買、賃貸借、請負の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
9	民法⑤	債権各論の理解を深めます。	事務管理、不当利得、不法行為の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
10	民法⑥	親族・相続分野は、択一では頻出ですので、具体的な問題演習をつうじて理解を深めたいと思っています。	婚姻、養子、相続の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
11	行政法①	問題演習を通じて、行政法総論を学習します。	行政法総論で扱われる内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
12	行政法②	問題演習を通じて、行政作用法を学習します。	行政作用法で扱われる内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
13	行政法③	問題演習を通じて、行政救済法を学習します。	行政事件訴訟法、行政不服審査法の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
14	その他の実定法 刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法など	憲法、民法、行政法以外で試験に関連する科目	刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法などの基本概念を覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がわからなかった部分を復習しておくこと。

関連科目

直接的には、法政キャリア特別講義 II～IV、同 VI（松島・前田担当分）と関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業中に実施する確認テストおよび期末試験の点数によって、総合的に評価します（詳細は初回の講義で説明します）。毎回の出席が前提ですので、無断欠席が一定回数を超えた場合、単位取得を認めません。
学生への メッセージ	この講義では、法政キャリア特別講義 IV、同 VI（松島・前田担当分）と連続した形で、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士など資格試験の対策も考えております。具体的な講義内容については、受講生の皆さんの要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	この法政キャリア特別講義 V（松島・前田担当分）は特別履修とし、定員の上限を 15 名程度としています。詳細は、法政キャリア特別講義 IV（松島・前田担当分）のシラバスを参照してください。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅴ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics Ⅴ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲　淳介
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ある問題に対する自分の意見を読み手に納得させる文章を書くためには文章の形式だけでなく内容も問題になります。なぜならば仮にいくら納得させる書き方をしても書かれている内容が薄いものであれば、誰も自分に同調してくれるはずがないからです。そこでこの講義では、納得させる文章とは何かを理解してもらうために、内容に重点を置き、重要と思われる課題を取り上げてそれを説明し、小論文を作成してもらいます。
到達目標	読み手を納得させる文章に関する知識を一層深めることを目指します。
授業方法と留意点	授業は講義方式と演習方式を併用します。プリントを配付します。配付したプリントは必ず持参して下さい。
科目学習の効果（資格）	警察官、消防士、市役所などの公務員試験に役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法的思考が読み取れる文章とは？（その１）	課題の解釈と出題の意図など	原則として事後学習を重視する。
2	法的思考が読み取れる文章とは？（その２）	三段落構成の各段落の役割と書き方など	授業中に指示する。
3	法的思考が読み取れる文章とは？（その３）	四段落構成の各段落の役割と書き方など	授業中に指示する。
4	法的思考が読み取れる文章とは？（その４）	よりわかり易い構成、論理の飛躍など	授業中に指示する。
5	法的思考が読み取れる文章の内容１	「情報化」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認	授業中に指示する。
6	法的思考が読み取れる文章の内容２	「情報化」を課題とする小論文の作成	授業中に指示する。
7	法的思考が読み取れる文章の内容３	「国際化」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認	第６回提出の小論文を再考する。
8	法的思考が読み取れる文章の内容４	「国際化」を課題とする小論文の作成	授業中に指示する。
9	法的思考が読み取れる文章の内容５	「防災対策」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認	第８回提出の小論文を再考する。
10	法的思考が読み取れる文章の内容６	「防災対策」を課題とする小論文の作成	授業中に指示する。
11	法的思考が読み取れる文章の内容７	「地方分権」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認	第 10 回提出の小論文を再考する。
12	法的思考が読み取れる文章の内容８	「地方分権」を課題とする小論文の作成	授業中に指示する。
13	法的思考が読み取れる文章の内容９	「少年犯罪」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認	第 12 回提出の小論文を再考する。
14	法的思考が読み取れる文章の内容１０	「少年犯罪」を課題とする小論文の作成	授業中に指示する。
15	まとめ	法的思考が読み取れる文章のまとめ	第 14 回提出の小論文を再考する。

関連科目	法政キャリア特別講義Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中に作成する小論文と、最後に提出を求める「課題小論文」で評価します。
学生へのメッセージ	できる限り個別に対応します。また授業中に生じた疑問は必ず質問してください。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	法政キャリア特別講義VI	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics VI
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一.前田　剛志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この法政キャリア特別講義 VI の講義では、法政キャリア特別講義 II～V と同様に公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試などに向けた実践的な知識の習得を目的にしています。直前期にあたることになりますので、短期間で集中的に知識の獲得を目指します。受講生の要望を随時受け入れます。
到達目標	公務員試験や法科大学院入学試験などの問題演習を通じて、各種試験合格に必要となる高度に専門的な法的知識を習得すること。
授業方法と留意点	講義は、論点についての解説講義及び問題演習を中心に行う予定です。関連する事項については、適宜レジュメを配布します。また、回数が限られていますので、必然的に重要な部分を集中的に論じることになり、少ししか触れられない部分もでてくるかと思います。したがって、自学自習で補っていく必要があり、かなりの程度の予習復習を求めることになります。また、授業内容も受講生の要望や問題の重要性、授業の進展などに応じて臨機応変に変更する予定です。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的心構えなどの概説を行います。	各自の受験する試験の内容を具体的に確認しておくこと。
2	憲法①	精神的自由 思想良心の自由、表現の自由、信教の自由、集会・結社の自由など 特に、違憲審査基準の理解	精神的自由に関する違憲審査基準、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
3	憲法②	その他の人権 経済的自由、幸福追求権、平等権、社会権など 特に、違憲審査基準の理解（精神的自由との比較）	経済的自由で用いられる審査基準と精神的自由で用いられる審査基準の違いを確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
4	憲法③	統治機構 国会、内閣、裁判所、財政・地方自治、憲法保障など	国会・内閣・裁判所の権能を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
5	民法①	民法総則 意思表示、代理、時効など 特に、心裡留保・虚偽表示・錯誤、表見代理	心裡留保・虚偽表示・錯誤、表見代理の内容及び関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
6	民法②	物権 占有権、所有権、用益物権、担保物権など 特に民法１７７条、抵当権	物権変動の基本原則、抵当権の内容及び関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
7	民法③	債権総論 債務不履行、責任財産の保全、多数当事者の債権・債務関係、債権譲渡、債権の消滅など 特に、４１５条・４１６条、債権者代位権・詐害行為取消権	債務不履行の一般原則について、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
8	民法④	債権各論① 契約の成立、契約の効力、契約各論①など 特に、解除、売買	契約の解除、売買、賃貸借、請負の内容及び関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
9	民法⑤	債権各論② 契約各論②、事務管理・不当利得・不法行為など 特に、賃貸借、不法行為	事務管理、不当利得、不法行為の内容及び関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
10	民法⑥	親族・相続 婚姻、親子、相続など	婚姻、養子、相続の内容及び関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
11	行政法①	行政法総論、行政組織法など 法律による行政の原理、行政主体、地方自治など	法律による行政の原理の内容を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
12	行政法②	行政作用法 行政行為、行政上の強制手段、行政指導、行政手続など 特に、行政行為の種類	行政行為の種類、内容を覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
13	行政法③	行政救済法 行政不服申立て、行政事件訴訟、国家賠償、損失補償など 特に、取消訴訟	行政事件訴訟法に規定されている訴訟類型の要件を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
14	その他の実定法 刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法など	憲法、民法、行政法以外で試験に関連する科目	刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法などの基本概念を覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がわからなかった部分を復習しておくこと。

関連科目	直接的には、法政キャリア特別講義 II～V（松島・前田担当分）と関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中に実施する確認テストの点数などによって、総合的に評価します（期末試験は実施しません）。毎回の出席が前提ですので、無断欠席が一定回数を超えた場合、単位取得を認めません。
学生へのメッセージ	この講義では、法政キャリア特別講義 II～V（松島・前田担当分）と連続した形で、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士など資格試験の対策も考えております。直前期にあたるため、受講生の皆さんの具体的な要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	法政キャリア特別講義 VI（松島・前田担当分）は特別履修とし、定員の上限を 15 名程度にします。履修生の選抜に当たっては、事前に選抜テストを実施します。授業内容、履修方法、選抜テストなどについて分からない点がある学生は、法学部事務室および担当教員（松島）に遠慮なく質問してください。

科目名	法哲学Ⅰ	科目名（英文）	Philosophy of Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「哲学、倫理学、宗教学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「哲学、倫理学、宗教学、心理学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野です。「哲学」という言葉の響きに嫌悪感や苦手意識を持っている学生がいるかもしれませんが、「哲学的に考察する」とは、言い方を換えれば、「物事を批判的に考えてみる」ことにほかなりません。 したがってこの講義では、法や正義にまつわるさまざまな問題を、条文や判例にとらわれずに――そして可能なかぎり哲学の難しい専門用語を使わずに――批判的に考えてみたいと思います。
到達目標	まずは現代社会のさまざまな問題点を正確に理解し、さらにそれらの問題に対して自分の見解を論理的に組み立てられるようになることが、この講義の目標です。
授業方法と留意点	講義は、毎時間授業中に配布するレジュメにしたがって行います。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法哲学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目なのか、なぜ法学部で法哲学を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	憲法や民法などの実定法学との違いを意識しながら、「法哲学」という科目の特徴を説明できるようになること。
2	人工生殖とその法規制	科学技術の進展とともに人工生殖技術も劇的に発展しています。近年代理母やクローンが社会問題になっていますが、これらは全面的に禁止されるべきでしょうか？	J・S・ミルの「他者危害原理」という考え方を理解したうえで、代理母の是非について自分の見解を述べられるようになること。
3	死をめぐる自己決定	自分の所有物は自分の意思で自由に処分できるのが原則です。しかし、自分の命を自由に処分することは許されるでしょうか？　例えば、人間には自殺する自由があるでしょうか？	リバタリアンの自己所有権という考え方を理解したうえで、臓器売買の是非について自分の見解を述べられるようになること。
4	パターナリズム	他人に迷惑を掛けなければ自分の身体を自由に使用してもよいでしょうか？例えば、当事者の自由意思に基づく売春や麻薬使用は禁止されるべきことなのでしょうか？	パターリズムという考え方を理解したうえで、シートベルト着用義務の是非について自分の見解を述べられるようになること。
5	表現の自由	近年ヘイトスピーチが日本でも問題になっており、その法規制をめぐって賛否両論があります。はたして日本でもヘイトスピーチ規正法は必要でしょうか？またそれは本当に有効なのでしょうか？	「表現の自由の優越的地位」という考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解が述べられるようになること。
6	死刑制度	日本では死刑制度が存置されていますが、世界的に見れば死刑廃止国が増加しています。死刑制度は本当に必要でしょうか？　必要だとすればそれはなぜでしょうか？	死刑に対するベッカリーアやカントらの考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解を述べられるようになること。
7	動物の権利	動物はペットとして人間によって保護されていますが、他方で、医学の実験などにおいてはその命を利用されています。そもそも人間にとって動物はいかなる存在なのでしょうか？	苦痛に対するシンガーの考え方を理解したうえで、医学のための動物実験の是非について自分の見解を述べられるようになること。
8	格差社会における平等	近年日本では貧富の差が拡大しており、格差社会という語がキーワードになっています。はたして、国家はこうした格差を是正する必要があるでしょうか、それとも各人の努力にゆだねるべきでしょうか？	積極的差別是正措置の問題点を理解したうえで、日本への導入の可否について自分の見解を述べられるようになること。
9	国境を超える正義	日本は世界でも有数の豊かな国ですが、貧困に苦しむ国も世界には数多くあります。日本は貧困国を援助する義務があるでしょうか？　義務があるとすれば、それはなぜでしょうか？	国際援助に対するロールズやポッゲらの考え方を理解したうえで、日本のODAの在り方について自分の見解を述べられるようになること。
10	文化の相違を超えて	世界の国々には他国の人々にはなかなか理解しがたいさまざまな風習があります。例えば、アフリカには女子割礼の風習がありますが、その風習を他国の人々が批判することは許されるでしょうか？	人権の基礎づけをめぐるさまざまな言説を理解したうえで、多文化への批判の在り方について自分の見解を述べられるようになること。
11	正義の戦争	世界中を見渡せば、戦争や紛争がいたるところで勃発しています。そもそも正しい目的を達するためであれば、戦争という手段も許されるのでしょうか？　許されるとすれば、それはなぜでしょうか？	「正義の戦争」に対するロールズやウォルツァーの考え方を理解したうえで、いわゆるテロ戦争の是非について自分の見解を述べられるようになること。

12	戦争責任を問う	日本やドイツは第二次世界大戦で敗戦し、周辺国に多くの被害をもたらしました。しかし、なぜ戦争当事者ではない現世代のひとびとが前世代の犯した戦争責任を償わなければならないのでしょうか？	アイヒマン裁判の争点を理解したうえで、アイヒマンの責任の有無について自分の見解を述べられるようになること。
13	監視社会	いたるところに張りめぐらされた防犯カメラに象徴されるように、現代社会は監視社会とも言われます。私たちのプライバシーを侵害するかもしれない防犯カメラの設置は正当化されるでしょうか？	フーコーの「規律訓練型権力」という考え方を理解したうえで、街頭の監視カメラ設置の是非について自分の見解を述べられるようになること。
14	リスク社会	原発問題で明らかになったように、私たちの生活を便利にするものが、他方で私たちの生活を脅かすものに転化する可能性があります。私たちはこうしたリスクにどのように対処すべきでしょうか？	リスク社会論における「リスク」の考え方を理解したうえで、地球温暖化対策について自分の見解を述べられるようになること。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、法の果たすべき役割について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	これまで講義で取り上げた個々の概念や人物を正確に理解しなおすこと（講義で分かりにくかった箇所を事前にピックアップしておいてください）。

関連科目

直接的には法哲学 II、法思想史と関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる法哲学・法思想	深田三徳ほか	ミネルヴァ書房
2	ブリッジブック法哲学　第２版	長谷川晃・角田猛之編	信山社
3	はじめて学ぶ法哲学・法思想	竹下賢ほか編	ミネルヴァ書房

評価方法（基準）

定期試験の成績 70%と毎回の提出物 30%によって総合的に評価します（定期試験は必ず受験してください）。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートを実施します。なお、授業中の私語については、単位不認定を含め、厳しく対処します。一定時間経過後の理由なき遅刻については平常点から減点します。

学生へのメッセージ

この法哲学 I では具体的な問題を取り上げますが、それらに唯一の正解は存在しません。重要なのは答えではなく、それを支える論理です。「法律で決まっているから」や「最高裁判所が判決で言っているから」という回答は法哲学という科目では通用しませんので、そのつもりで受講してください。

担当者の研究室等

11 号館 9 階　松島講師室

備考

受講生の興味関心に応じて多少授業内容を変更するかもしれませんので、そのつもりで講義に臨んでください。

科目名	法哲学Ⅱ	科目名（英文）	Philosophy of Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「哲学、倫理学、宗教学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「哲学、倫理学、宗教学、心理学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野ですが、より具体的には、「法とは何か」、「法はいかに解釈すべきか」、「何が正義にかなっているか」といった法律学全般にかかわる基礎的な問題を扱う科目です。 この講義では、法哲学の主要三部門と見なされている伝統的なテーマ――「法の一般理論」、「法学方法論」、「正義論（法価値論）」――にそくして法哲学の基本的事項を学習するとともに、普段の実定法の学習ではあまり意識されることのない「法（法律学）のあるべき姿」について考えてみたいと思います。
到達目標	法哲学の基本事項を暗記することも重要ですが、むしろそうした知識を手がかりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることがこの講義の目標です。学者の見解がすべて正しいわけではありません。批判的視点をもって、この講義に臨んでほしいと思います。
授業方法と留意点	講義は、毎時間授業中に配布するレジュメにしたがって行います。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法哲学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目であるかを簡単に解説します。その際、法哲学の基本的な参考文献を紹介します。	事前の予習は特に必要ありません。各回ごとに【復習ワード】を 10 個ほど掲げるので、その概念（あるいはその人物）を正確に説明できるようになるまで、しっかり復習に努めてください。
2	法哲学の来歴	法哲学は、別名、法理学とも呼ばれます。そこで、この二つの名称のちがいに着目して、英米と大陸（ドイツ）における同科目の基本的な相違点と、それが日本に導入された経緯について説明します。	【復習ワード】 基礎法学、レヒト（Recht）、正義論（法価値論）、法学方法論、法の一般理論（法概念論）、法哲学（Rechtsphilosophie）、法理学（Jurisprudence）、穂積陳重、尾高朝雄
3	正義論①　西洋における正義観念	西洋法思想において「正義」（dikaiosyne, iustitia, justice）がどのように理解されていたかを、古代ギリシア・ローマや中世の法思想にさかのぼって概観し、現代正義論の思想史的背景を確認します。	【復習ワード】 ニコマコス倫理学、分配的正義、匡正的正義、比例的平等、算術的平等、ウルピアヌス、ユスティティア
4	正義論②　ロールズ『正義論』	現代正義論に多大なインパクトを与えたロールズ『正義論』を学習します。まず彼の基本的なアイデア（原初状態・正と善の区別など）を確認し、そのあとで彼の主張する「正義の二原理」を検討してみます。	【復習ワード】 価値相対主義、功利主義、善に対する正義の優先性、無知のヴェール、マクシミンルール、反照的均衡、格差原理、富の再配分
5	正義論③　リバタリアニズム	ロールズへの批判的主張として、リバタリアニズム（自由至上主義）を取り上げます。この講義では、おもにノージックの主張を検討しながら、課税や刑罰権といった国家の役割について考えてみる予定です。	【復習ワード】 無政府資本主義、最小国家論、古典的自由主義、自己所有権テーゼ、労働価値説、超最小国家、最小国家、自生的秩序
6	正義論④　共同体主義	ロールズへのもうひとつの批判的主張として、共同体主義を取り上げます。共同体主義の代表的論者の基本的立場や哲学的背景を学習するとともに、それらの学習を通じてロールズ『正義論』のより深い理解を目指します。	【復習ワード】 『リベラリズムと正義の限界』、「負荷なき自我」と「位置ある自我」、共通善、美徳なき時代、ウォルツァー、テイラー、アリストテレス『政治学』
7	正義論⑤　現代正義論への視座	現代正義論を補完する議論として、ハーバーマスの討議倫理、キムリッカの多文化主義、 バトラーらのフェミニズムを紹介します。これらの議論を知ることで、現代社会に求められている多様な「正義」について考えてみます。	【復習ワード】 コミュニケーション的行為の理論、語用論、手続的正義、フェミニズム（の諸派）、多文化主義と文化相対主義
8	法学方法論①　ハートの司法裁量論	まず、現代の法学方法論の前史として、19 世紀までの法律学の状況を簡単に説明します。そのあとで、H・L・A・ハートが『法の概念』で展開した司法裁量論の概要を説明し、その問題点を検討します。	【復習ワード】 概念法学、自由法運動、法的三段論法、分析法理学、司法裁量論、疑わしい半影部分、法の開かれた構造
9	法学方法論②　ドゥウォーキンの法理論	この回ではドゥウォーキンの法解釈にかんする理論を、前回のハートとの対比を通じて学習します。はたして難事件（hard case）においても、唯一の正しい法解釈は存在するのでしょうか？考えてみましょう。	【復習ワード】 権利論（Taking Rights Seriously）、ルールと原理、法の帝国（Law's Empire）、内的視点、統合性としての法、原意主義
10	法学方法論③　ドイツにおける議論の理論	ドイツでは法学方法論をめぐって、さまざまな理論が提唱されています。この講義では、エッサー、クリーレらの法律学的ヘルメノイティク、フィーヴェクのトピク論、アレクシーの法的議論の理論を学習します。	【復習ワード】 理解の循環構造、実践哲学の復権、体系思考と問題思考、レトリック、発見の過程と正当化の過程、特殊事例テーゼ

11	法学方法論④　日本の法解釈論争	これまで学習した英米とドイツの解釈理論と照らし合わせながら、戦後日本の法学解釈論争を学習します。法解釈とはいかなる作業であるかを検討し、あわせて法律学における「客観性」についても考えてみます。	【復習ワード】 来栖三郎「わくの理論」、川島武宜「科学としての法律学」、星野英一「利益衡量論」、平井宜雄「法政策学」
12	法の一般理論①　自然法論	20 世紀にいたるまでの自然法論の思想史的系譜を簡単に振り返ったあとで、ラートブルフの再生自然法論、フラーの「法の内面道徳」、フィニスの新しい自然法論を学習し、自然法論の可能性とその限界を考察します。	【復習ワード】 「制定法を超える法」と「制定法の形をした不法」、手続的自然法論、ハート＝フラー論争、トマス・アクィナス
13	法の一般理論②　法実証主義	代表的な現代の法実証主義者として、ケルゼン、ハート、ラズの三人を取り上げます。彼らの主張と自然法論者の主張とを比較検討することを通じて、「法と道徳」のあり方について考えてみます。	【復習ワード】 方法二元論、純粋法学、根本規範、法＝主権者命令説、ルールとしての法、承認のルール、自然法の最小限の内容
14	法の一般理論③　法の三類型モデル	日本を代表する法哲学者である田中成明の「法の三類型モデル」を手がかりにしながら、現代社会における法の変容や、日本社会における「法の支配」の問題などを考察します。	【復習ワード】 法の規範的機能と社会的機能、自立型法（普遍主義型法）・管理型法・自治型法、法の支配、司法制度改革
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、「法のあるべき姿」というものについて考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	これまで講義で論じてきた個々の概念や人物を正確に理解しなおすとともに、法哲学全体の中でそれらの概念相互の関係性をしっかり把握すること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。

関連科目

直接的には「法哲学 I」、「法思想史」と関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	二十世紀の法思想	中山竜一	岩波書店
2	法哲学	瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕	有斐閣
3	法哲学　（有斐閣アルマ）	平野仁彦・亀本洋・服部高宏	有斐閣

評価方法（基準）

原則として定期試験（持ち込み不可）の点数によって評価します。授業中に何度か小レポートを提出してもらったり、発言を求めたりしますが、それらは加点事由（最大 10 点）として扱います。なお授業中の私語については、単位不認定を含め、厳しく対処します。一定時間経過後の理由なき遅刻についてもマイナスに評価します。

学生へのメッセージ

この「法哲学 II」の講義では「法哲学 I」と比べてかなり難解で抽象的なテーマを扱う予定なので、法哲学に興味のない学生には、率直に言って、退屈な授業内容になるかもしれません。具体例を用いてできるだけ分かりやすく説明するように心がけますので、皆さんも理解できない点が出てきたら遠慮なく質問してください。

担当者の研究室等

11 号館 9 階　松島講師室

備考

昨年度までの成績評価の方法から大幅に変更しているので、そのつもりで受講してください。

科目名	法とジェンダーの歴史	科目名（英文）	History of Law and Gender
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小宮山　直子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）【施行規則に定める科目区分】「日本史及び外国史」【教員免許状取得のための履修区分】選択【科目】教科に関する科目（高等学校　地歴）【施行規則に定める科目区分】「外国史」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）、DV（ドメスティック・バイオレンス）。これらの言葉を生み出しのが、「ジェンダー法学」です。「ジェンダー」とは、「性にまつわるさまざまなことがら」をさします。わたしたちはみんな大切な身体をもち、かけがえのない命をもっています。身体には「性」があり、命をつなぐのは「生殖」です。性や生殖をめぐる問題も、家族や恋人など親しい人たち（親密圏）のあいだでおこる暴力も、長い間、法学や歴史学では論じられてきませんでした。個人的で私的な問題と考えられてきたためです。けれども、これらは、わたしたちの日常生活において非常に切実な問題です。授業では、「１身体と性（性暴力・生殖）」、「２親密圏（家族・恋人）」、「３労働（雇用・賃金）」の３つの問題について取り上げます。
到達目標	「ジェンダー」「ジェンダー法学」に関する基礎知識を、「身体の性（性暴力・生殖）」「親密圏（家族・恋人）」「労働（雇用・賃金）」の諸問題を通して、学び修得します。
授業方法と留意点	ジェンダーの問題は、女性だけの問題ではない。授業では男性の問題も取り上げる。だれにでもおこりうる身近なトラブルについては、隣の人や友だち同士で互いに話し合う時間を適宜もうけるなど、みんなで考える参加型の授業とする。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や企業採用試験の一般教養科目（SPI）対策として有益である。また、公務員をめざす人には、男女共同参画の基礎知識として必要である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそジェンダー法学へ－ジェンダー法学の課題	ジェンダーとは。女性差別撤廃条約（１９７９年）、男女共同参画社会基本法（１９９９年）。「２１世紀の課題」と言われる男女共同参画について考える。	教科書を読んでおくこと。
2	親密圏（１）婚姻と離婚	離婚した親と別居する子は互いにどのような権利をもつのか？婚姻形態の多様化、離婚法、離婚と財産、離婚と子ども、同性カップルの保護、離婚制度・別居親と子の面会交流、他。	教科書を読んでおくこと。
3	親密圏（２）家族法の課題	婚外子（非摘出子）相続差別違憲訴訟、民法改正要綱（１９９６年）、欧米の状況。家制度とは何か。同姓と選択別氏制。	教科書を読んでおくこと。
4	親密圏（３）生殖補助医療と親子関係	父はだれか？母はだれか？代理母、出自を知る権利、特別養子制度。	教科書を読んでおくこと。
5	親密圏（４）親密圏における暴力（ドメスティック・バイオレンス）	ＤＶ防止法（２００１年）、ＤＶサイクル論、ＤＶが生じる原因、ＤＶ加害者への対応（国際比較）、保護命令、児童虐待防止法（２０００年）。	教科書を読んでおくこと。
6	労働（１）労働者保護の基本	働く人の権利はどう保護されているのか？そこにいかなるジェンダー・バイアスがあるのか？労働者保護の基本的仕組み、労働時間、産休と有給休暇、時間外労働。	教科書を読んでおくこと。
7	労働（２）雇用差別と平等法	労働における男女差別、障害者差別、国籍差別などについて考える！男女雇用機会均等法（１９８５年）、育児介護休業法、他。	教科書を読んでおくこと。
8	労働（３）法の保護からの排除	だれもがワーキングプアになりかねない！非正規雇用、有期雇用、パートタイム労働、派遣、アンペイドワークなど。	教科書を読んでおくこと。
9	労働（４）差別と排除に抵抗する手段	自分を家族を守るために！ＮＧＯ、労働組合、不当労働行為、労働審判、裁判闘争、反貧困ネットワーク、女性ユニオンなど。	教科書を読んでおくこと。
10	身体と性（１）女性に対する暴力	女性に対する暴力、ポルノグラフィー、性の二重基準。姦通罪（不倫）にみる性の二重基準や世界各地の女性に対する暴力、男性への暴力について。	教科書を読んでおくこと。
11	身体と性（２）セクシュアル・ハラスメント	セクシュアル・ハラスメント裁判の展開、福岡裁判（１９９２年）、損害賠償額、対価型と環境型。キャンパス・セクハラ、パワハラ（パワー・ハラスメント）、アカハラ（アカデミック・ハラスメント）についても考える。	教科書を読んでおくこと。
12	身体と性（３）性的自己決定権の侵害	強かん罪、「落ち度」をどう考えるか？性犯罪被害者のＰＴＳＤへの配慮。セカンドレイプ（裁判やマスコミによる二次被害）。	教科書を読んでおくこと。
13	身体と性（４）買売春と人身売買	売春は自由な職業か？それとも性的奴隷か？買春と売春、セックスワーク論、売春合法化論、刑法における人身売買罪の新設（２００５年）。	教科書を読んでおくこと。
14	身体と性（５）性と生殖の自己決定権（リプロダクティブ・ヘルス・ライツ）	中絶は女性の権利か？それとも胎児の殺害か？「性と生殖の健康・権利」（リプロダクティブ・ヘルス・ライツ）・「産む・産まない」（女性の自己決定権）・人工妊娠中絶・優生保護法・母体保護法・胎児の生命。	教科書を読んでおくこと。

	15	ジェンダー主流化に向けて	人権とジェンダー、フェミニズム、参政権、性の多様性、ケア労働。	教科書を読んでおくこと。

関連科目：西洋女性史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ジェンダー法学入門（第２版）	三成美保・笹沼朋子・立石直子・谷田川知恵	法律文化社、2015 年
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ジェンダーの法史学	三成美保	勁草書房、2005 年
2	ジェンダーと法（第２版）	辻村みよ子	不磨初号、2010 年
3			

評価方法（基準）：定期試験８０％、平常点（授業内の提出物、学習態度など）２０％によって総合的に評価します。詳細は初回の講義で説明します。

学生へのメッセージ：比較をとおして現代日本の動向を常識として身につけてもらうための科目ですので、積極的に参加して下さい。

担当者の研究室等：11 号館５階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）

備考：

科目名	法と社会	科目名（英文）	Law and Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】必修　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	この「法と社会」の授業では、法学部生が最初に修得しておくべき、法にまつわる基本的な事柄を学習します。具体的には、社会にはどのような法が存在し、どのような人びとがそうした法をどのように運用しているのか、そして、そうした法は社会においていったいどのような役割を果たしているのか、などを学んでいきます。 おそらく１回生の皆さんは、これから４年間をかけて学んでいく「法」というものに対して漠然としたイメージしか持っていないと思います。この講義を受けて自分なりに「法」というものを説明できるようになることが、この講義の目的です。
到達目標	法律学の基本的な用語や概念をしっかり説明できるようになること（たんに暗記するだけではなく、「なぜそうなるのか」「それが社会でどのように役立っているのか」を論理的に説明できるようになること）。
授業方法と留意点	講義は、毎時間授業中に配布するレジュメにしたがって行います。
科目学習の効果（資格）	特定の資格試験には対応していませんが、法律学全般にかかわる基本的知識を身につけることができます。次年度以降の本格的な法律学の学習に向けた準備作業だと思って、この講義を受講してください。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法と社会」がどのような科目なのかを簡単に紹介し、そのなかで皆さんに法学部生として学んでほしいことを伝えたいと思います。	事前の予習は特に必要ありません。各回ごとに【復習ワード】を 10 個ほど掲げるので、その概念について説明できるようになるまで、しっかり復習に努めてください。
2	社会に存在する、さまざまな法①	私たちの身の回りにはさまざまな法が存在しています。そこでまず日本に存在するさまざまな法を取り上げ、それらを整理し分類することからこの講義の学習をスタートします。	【復習ワード】 実定法学と基礎法学、六法、憲法・法律・命令、実体法と手続法、一般法と特別法、刑事法と民事法
3	社会に存在する、さまざまな法②	前回の講義の続き。「法源」という用語を理解したうえで、日本にはどのような「法源」が存在するのかを学習します。また「法」と似たものとして「道徳」がありますが、両者がどのように異なるのかも考えてみます。	【復習ワード】 法源、慣習法、法適用通則法３条、判例、法的安定性、行為規範・裁判規範・組織規範
4	法の担い手①　裁判官	法は一般市民の生活とも深くかかわりますが、他方で法を専門的に扱う人々も少なからず存在します。第４回の講義では、専門的な法の担い手（法曹）として、まず裁判官が社会で果たしている役割を学習します。	【復習ワード】 最高裁判所・高等裁判所・地方裁判所・家庭裁判所・簡易裁判所（各裁判所の数と所在地、および構成と職務内容を暗記すること）
5	法の担い手②　検察官と弁護士	前回の講義の続き。第５回の講義では、裁判官以外の法曹として検察官と弁護士を取り上げ、彼らが社会で果たしている役割を学習します。あわせて日本の裁判制度も簡単に説明します。	【復習ワード】 検察庁の組織、検察官の活動、特別捜査部、弁護士の業務、日本弁護士連合会、弁護士の数と費用
6	法の担い手③　法曹養成	前回の講義の続き。日本では法曹（裁判官・検察官・弁護士）がどのように養成されているのかを学習します。また法曹以外の法律家（準法律家）につてもその仕事内容などを簡単に確認します。	【復習ワード】 法曹一元制と職業裁判官制度、法科大学院、司法修習、司法書士、行政書士、弁理士、社会保険労務士
7	法の役割①　公法	法が社会においてどのような役割を果たしているのかを学習します。まず第７回の講義では、「公法」と呼ばれる法――例えば、憲法・刑法――の役割について学習します。	【復習ワード】 夜警国家と福祉国家、憲法の意味、刑法総論と刑法各論、法益、侵害行政と給付行政
8	法の役割②　私法	前回の講義の続き。第８回の講義では「私法」と呼ばれる法――例えば、民法・商法――が社会において果たしている役割を、「公法」と比較しながら学習します。	【復習ワード】 財産法の基本原理とその修正、家族法の基本原理、権利と義務、物権と債権、民事訴訟
9	法の役割③　社会法	前回の講義の続き。公法や私法以外にも「社会法」と呼ばれる法分野――例えば、労働法・社会保障法・経済法――が存在しますが、それらが社会においてどのような役割を果たしているかを学習します。	【復習ワード】 労働基準法、労働関係調整法、労働組合法、労働契約法、男女雇用機会均等法、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法
10	法の支配①　歴史的背景	これまでの講義では「法」の存在を当然の前提として説明してきましたが、そもそもなぜ「法」が必要なのでしょう？第 10 回の講義では、まず「法の支配」という考え方が誕生してきた歴史的背景を学習します。	【復習ワード】 プラトンとアリストテレス、マグナ・カルタ、王権神授説、フランス人権宣言、アメリカ独立宣言、違憲審査制
11	法の支配②　理念と内容	前回の講義の続き。「法の支配」が何を理想とし、具体的にどのようなことを内容としているのかを学習します。「法の	【復習ワード】 日本国憲法の成立過程、人権保障、適正手続の保障、司法制度改革、裁判員制度、形式的法治主義と実質

		支配」と類似の観念として「法治主義」と呼ばれるものがありますが、これについても簡単に説明します。	的法治主義
12	日本社会と日本国憲法①個人の尊重	「法の支配」の考え方は、現在の日本国憲法にも当然に継承されています。第12 回の講義では「個人の尊重」という観点から日本国憲法における「法の支配」を学習します。	【復習ワード】 幸福追求権（13 条）、自由権・社会権・参政権、国家権力と社会的権力、私人間効力（(「法の支配」と関連付けて、日本国憲法の人権保障の概要を理解すること）
13	日本社会と日本国憲法②民主政治	前回の続き。第 13 回の講義では、日本国憲法における統治機構の仕組みを「民主政治（民主主義）」という観点から概観し、「法の支配」という考え方がどのように日本社会に生かされているのかを学習します。	【復習ワード】 国民主権、権力分立、選挙制度、地方自治、法律と条令、住民投票（「法の支配」と関連付けて、日本国憲法の統治機構の概要を理解すること）
14	21 世紀の日本社会と法	21 世紀に入り、社会が激しく変化していくにつれて、そこで期待されている法の役割も少しずつ変化を遂げているのかもしれません。第 14 回の講義では現代社会に特有の問題を取り上げ、それに法がどのように対処すべきかを考えてみます。	【復習ワード】 格差社会、少子高齢化社会、情報化社会、監視社会、リスク社会、グローバル化社会（各社会の特徴と法の変容を理解すること）
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、社会のなかで法が果たすべき役割について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	期末試験に向けてこれまで講義で説明してきた個々の概念や基本的な法令の仕組みをしっかり理解すること。

関連科目

すべての法律科目に関連します。この講義とあわせて、同じ法学入門科目である「法の基礎」（1年次後期開講）もぜひ受講してほしいと思います。また、法と社会の関係についてもっと深く知りたい学生は「法社会学」（3年次前期開講）を受講してください。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験の成績 70%と毎回の提出物 30%によって総合的に評価します（定期試験は必ず受験してください）。なお、授業中の私語については、単位不認定を含め、厳しく対処します。また、一定時間経過後の理由なき遅刻については平常点から減点します。

学生へのメッセージ

この「法と社会」の授業では、すべての法律学にかかわる基礎的知識を学習します。それゆえ、この講義の内容をしっかり理解することが、次年度以降の法律学の学習にとってとても重要になります。授業中に理解できなかったことや疑問に思ったことが出てきたら放っておかず、授業終了後に遠慮なく質問に来てください。

担当者の研究室等

11 号館 9 階　松島講師室

備考

事実上、この講義は再履修などを希望する 2 回生以上が受講することになると思いますので、シラバスの内容から逸脱しないかぎりで問題演習（法学検定試験）を講義に取り入れたいと思います。

科目名	法の基礎	科目名（英文）	Jurisprudence
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村　秀一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】必修　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	法令集の使い方・読み方をはじめとして、法を学ぶために最低限必要な知識を修得することを目指す。規範とは何か、法とは何か、法の支配、民主国家の意味、日本国憲法の基本的原則、基本的人権、権利と義務のような法律学習の基礎となる基本概念・原則について講義する。
到達目標	法律の基礎となる基本概念・原則を理解する。
授業方法と留意点	AV 教室においてノートパソコン画面をディスプレイに表示しながら、講義を行う。全学生がノートを取れるようスピード調整しながら行う。プリントを配布する。教材フォルダにアップロードしてあるので、第一回目の授業までに各自で入手すること。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験（ベーシックコース）の出題範囲中「法学入門」分野の知識の一部を学習できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法の意味と役割	法の支配、法の存在形式、成文法と不文法	配付プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
2	成文法（1）	日本国憲法、憲法の基本原理、基本的人権、法律、命令	配付プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
3	成文法（2）	条例、裁判所規則、議院規則、条約	配付プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
4	不文法（1）	慣習法、条理、法の一般原理	配付プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
5	不文法（2）	法の一般原理、条理、判例法	配付プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
6	法令（1）	条・項・号の意味、条文の削除と追加	配付プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
7	法令（2）	法令番号、見出し、本則と附則	配付プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
8	法令（3）	法令の制定改廃、法令の公布と施行	配付プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
9	法の種類（1）	一般法と特別法、強行法と任意法、公法と私法	配付プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
10	法の種類（2）	実体法と手続法、実定法と自然法、基本権、その他	配付プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
11	法令用語（1）	「及び・並びに」、「又は・若しくは」、「以上・超える」　など	配付プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
12	法令用語（2）	「場合・とき」、「者・もの・物」、「適用・準用」・例による」など	配付プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
13	法令用語（3）	「権利・権限・権原」、「代理・委任」、「違法・適法・不法・合法」など	配付プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
14	法令用語（4）	「審問・尋問・審尋」、「告訴・告発」、「控訴・公訴」など	配付プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
15	法の解釈	有権解釈・目的論的解釈・拡大解釈・縮小解釈・類推解釈・反対解釈	配付プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。

関連科目：すべての法律科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末に試験を行い、その結果によって評価する。内容は、原則として、マークシート方式で、５０問を出題する。
学生へのメッセージ	授業中の私語をなくすため、座席指定とし、私語を厳しく取り締まる。六法は必ず持参すること。六法がないと、授業はまったくわからない。確実な理解をはかるため質問日なども設ける。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　木村教授室
備考	

科目名	法律英語	科目名（英文）	Legal English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	糟谷　英之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語文献の輪読を通じて、英語法律文書の読解力を向上させること。さらに国際法の知識をもとに国際社会の特性なども理解できる能力を身につけることを目標とする。
到達目標	基本的な英文の法律文書を読解する能力を身につけること。英文の法律文書を読むことによって国際法の基礎知識を習得すること。
授業方法と留意点	配布プリントを基本に、主として口頭による講義方式をとるが、ビデオ、インターネットなども随時利用する。講義ノートをしっかり取っておくこと。
科目学習の効果（資格）	TOEIC などの英語検定試験の準備、海外留学や海外研修の事前学習となる。最近のパラリーガルや NGO 職員の資質を養成することに役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。
2	国際法とは何か？	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
3	国際社会と国際法主体	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
4	国際法の法源	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
5	条約	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
6	慣習国際法	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
7	その他の法源	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
8	前半の総括と確認テスト	前半の復習と小テスト	第７回までに作成したノートを復習しておくこと。
9	映画の中の法律英語(1)	英語映像を通じて法律問題を考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
10	映画の中の法律英語(2)	英語映像を通じて法律問題を考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
11	映画の中の法律英語(3)	英語映像を通じて法律問題を考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
12	映画の中の法律英語(4)	英語映像を通じて法律問題を考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
13	映画の中の法律英語(5)	英語映像を通じて法律問題を考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
14	映画の中の法律英語(6)	英語映像を通じて法律問題を考える。	今まで作成したノートを復習し、テストの準備をすること。
15	学期のまとめ	本学期の講義内容の総括	これまでに作成した全ノートの復習とテストの準備しておくこと

関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法、国際関係論、国際平和論、国際協力論、国際ボランティア論など国際社会とかかわりのある科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義への参加程度（出席ではない）、確認テスト及び学期末テストなどをもとに総合的に評価する。
学生へのメッセージ	単に講義に出席するだけでなく、できる限り積極的に授業に参加し質問する（考える）努力が求められる。 現在社会で求められるのは問題点を見つけ、それに対する解決策を見つける能力である。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷教授室
備考	

科目名	法律職・公務員特別講義Ⅰ	科目名（英文）	Special Lecture for students aspiring to julists Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中塚　賢
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では将来、営業職や企画職、または総合職や事務職として、企業や公共団体などで活躍することを目指す学生に、ビジネスの基本要素であるヒト・モノ・カネの動きを簿記でどのように記録するのか、そして会社の成績表ともいえる決算書からどのような情報が得られるのか、を教授する。
到達目標	日商簿記３級程度の簿記力習得を目安とするが、今後、社会人として活躍するための基礎としての知識獲得に重点を置く。
授業方法と留意点	講義形式で、実際のビジネスの流れがわかるような説明を加えながら、実務上の出来事を、簿記ではどのように捉えるのかをわかりやすく説明する。演習的に簿記問題を解いて、理解度を確かめながら着実に知識が身につく講義を心掛けたい。
科目学習の効果（資格）	日商簿記３級合格程度の知識を獲得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	会社の成績表とは？	講義内容の復習
2	簿記とは何か？	簿記の目的と手続き	復習課題の実施
3	仕訳と転記	簿記の基本的な記帳の仕方について	復習課題の実施
4	期中の手続と決算手続	会計期間中の処理と、会計期間の締めとなる決算について	復習課題の実施
5	現金・預金の取引	現金や預金の記帳について	復習課題の実施
6	商品売買と掛取引	売上や仕入、売掛金や買掛金について	復習課題の実施
7	手形の取引	手形の種類や手形の処理について	復習課題の実施
8	有価証券の取引	有価証券の種類や売買の処理について	復習課題の実施
9	債権・債務の取引	債権・債務や経過勘定などの処理について	復習課題の実施
10	固定資産の取引	固定資産の取得・売却と減価償却	復習課題の実施
11	資本金と税金の処理	資本取引と法人税・消費税など	復習課題の実施
12	収益と費用、伝票の処理	収益や費用の科目、伝票会計の手続きなど	復習課題の実施
13	決算の手続き１	決算整理の意味・手続きについて	復習課題の実施
14	決算の手続き２	費用・収益の繰延など	復習課題の実施
15	まとめと復習	まとめと練習問題	練習問題の復習

関連科目：会社法を履修していることが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	段階式日商簿記３級商業簿記（第１３版）	加古宜士･穐山幹夫	税務経理協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の結果（90%程度），授業参加度（１０％程度）による。
学生へのメッセージ	簿記のまったくの初心者や、数字が苦手な学生でも、ビジネスや実務に興味があれば歓迎する。学生の理解度によって講義内容を調整することもある。
担当者の研究室等	１１号館６階（経営学部事務室） 質問等は講義終了後か、下記メールアドレスまでお送りください。
備考	ken_nakatsuka@cpta-ken.com

科目名	法律職・公務員特別講義Ⅱ	科目名（英文）	Special Lecture for students aspiring to julists II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金谷　重樹.大川　謙蔵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義は宅建（宅地建物取引主任者資格試験）に出題される分野を扱い、その合格を目指すものです。宅地や建物などの取引を行う際に、重要事項の説明を行うなど、不動産の取引を行う会社などでは必置とされます。試験は、宅地建物取引業に関する実用的な知識を有するかどうかを判定することに基準が置かれています。 試験の内容は大きく分けて、権利関係に関する分野、宅建業法に関する分野、法令上の制限に関する分野、鑑定・需給・取引実務・税などの分野に分かれます。 本講義は15回しかないことから、細かな点に入りきれません。それゆえ、個人での勉強が不可欠になることにご理解ください。
到達目標	宅地建物取引主任者の資格試験に合格する力を培う。
授業方法と留意点	講義は授業中に配付するテキストやプリントに基づいて実施します。 基本的には過去問題を講義中に解答してもらい、その解答方法の講義・解説を行う予定です。 ただし、場合に応じて変更もありますので、その際には指示をします。その点につきご了承ください。
科目学習の効果（資格）	宅地建物取引主任者資格試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 権利関係（1）	民法総則の内容①	授業時に指示する。
2	権利関係（2）	民法総則の内容② 物権総論の内容	授業時に指示する。
3	権利関係（3）	担保物権の内容	授業時に指示する。
4	権利関係（4）	債権総論の内容	授業時に指示する。
5	権利関係（5）	債権各論の内容	授業時に指示する。
6	権利関係（6）	家族法の内容	授業時に指示する。
7	権利関係（7）	借地借家法・不動産登記法の内容	授業時に指示する。
8	権利関係（8）	区分所有法の内容 権利関係に関する復習	授業時に指示する。
9	宅建業法（1）	宅地建物取引業等 業務に関する規制	授業時に指示する。
10	宅建業法（2）	業者としての制限内容 報酬・特定住宅瑕疵担保履行法など	授業時に指示する。
11	法令上の制限（1）	都市計画法など	授業時に指示する。
12	法令上の制限（2）	建築基準法など	授業時に指示する。
13	法令上の制限（3）	その他の法令上の制限	授業時に指示する。
14	鑑定・需給・取引実務・税など（1）	鑑定・地公法など	授業時に指示する。
15	鑑定・需給・取引実務・税など（2）	税に関する内容	授業時に指示する。

関連科目：民法全般、行政法、税法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、指示します。		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験、提出物、各講義での取り組み（小テストなど）から評価します。 変更もあり得ますので、詳細は初回の講義において指摘します。 無断欠席・遅刻、授業中の私語等は、そもそも単位不認定と理解してください。
学生へのメッセージ	宅建試験は講義で扱う法律科目が中心となります。それ以外にも、講義では直接扱わないような分野も出題されますが、必要とされる部分を中心に勉強を行うことで、合格できる試験です。 もちろん、予習・復習など、自己の努力が必要であることに変わりはありません。
担当者の研究室等	11号館9階　金谷教授室 11号館9階　大川講師室
備考	

科目名	法律職・公務員特別講義Ⅲ	科目名（英文）	Special Lecture for students aspiring to julists III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一.前田　剛志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この法政キャリア特別講義 VI の講義では、法政キャリア特別講義 II～V と同様に公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試などに向けた実践的な知識の習得を目的にしています。直前期にあたることになりますので、短期間で集中的に知識の獲得を目指します。受講生の要望を随時受け入れます。
到達目標	公務員試験や法科大学院入学試験などの問題演習を通じて、各種試験合格に必要となる高度に専門的な法的知識を習得すること。
授業方法と留意点	講義は、論点についての解説講義及び問題演習を中心に行う予定です。関連する事項については、適宜レジュメを配布します。また、回数が限られていますので、必然的に重要な部分を集中的に論じることになり、少ししか触れられない部分もでてくるかと思います。したがって、自学自習で補っていく必要があり、かなりの程度の予習復習を求めることになります。また、授業内容も受講生の要望や問題の重要性、授業の進展などに応じて臨機応変に変更する予定です。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的心構えなどの概説を行います。	各自の受験する試験の内容を具体的に確認しておくこと。
2	憲法①	精神的自由 思想良心の自由、表現の自由、信教の自由、集会・結社の自由など 特に、違憲審査基準の理解	精神的自由に関する違憲審査基準、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
3	憲法②	その他の人権 経済的自由、幸福追求権、平等権、社会権など 特に、違憲審査基準の理解（精神的自由との比較）	経済的自由で用いられる審査基準と精神的自由で用いられる審査基準の違いを確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
4	憲法③	統治機構 国会、内閣、裁判所、財政・地方自治、憲法保障など	国会・内閣・裁判所の権能を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
5	民法①	民法総則 意思表示、代理、時効など 特に、心裡留保・虚偽表示・錯誤、表見代理	心裡留保・虚偽表示・錯誤、表見代理の内容及び関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
6	民法②	物権 占有権、所有権、用益物権、担保物権など 特に民法１７７条、抵当権	物権変動の基本原則、抵当権の内容及び関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
7	民法③	債権総論 債務不履行、責任財産の保全、多数当事者の債権・債務関係、債権譲渡、債権の消滅など 特に、４１５条・４１６条、債権者代位権・詐害行為取消権	債務不履行の一般原則について、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
8	民法④	債権各論① 契約の成立、契約の効力、契約各論①など 特に、解除、売買	契約の解除、売買、賃貸借、請負の内容及び関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
9	民法⑤	債権各論② 契約各論②、事務管理・不当利得・不法行為など 特に、賃貸借、不法行為	事務管理、不当利得、不法行為の内容及び関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
10	民法⑥	親族・相続 婚姻、親子、相続など	婚姻、養子、相続の内容及び関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
11	行政法①	行政法総論、行政組織法など 法律による行政の原理、行政主体、地方自治など	法律による行政の原理の内容を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
12	行政法②	行政作用法 行政行為、行政上の強制手段、行政指導、行政手続など 特に、行政行為の種類	行政行為の種類、内容を覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
13	行政法③	行政救済法 行政不服申立て、行政事件訴訟、国家賠償、損失補償など 特に、取消訴訟	行政事件訴訟法に規定されている訴訟類型の要件を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
14	その他の実定法 刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法など	憲法、民法、行政法以外で試験に関連する科目	刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法などの基本概念を覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がわからなかった部分を復習しておくこと。

関連科目	直接的には、法政キャリア特別講義 II～V（松島・前田担当分）と関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中に実施する確認テストの点数などによって、総合的に評価します（期末試験は実施しません）。毎回の出席が前提ですので、無断欠席が一定回数を超えた場合、単位取得を認めません。
学生へのメッセージ	この講義では、法政キャリア特別講義 II～V（松島・前田担当分）と連続した形で、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士など資格試験の対策も考えております。直前期にあたるため、受講生の皆さんの具体的な要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	法政キャリア特別講義 VI（松島・前田担当分）は特別履修とし、定員の上限を 15 名程度にします。履修生の選抜に当たっては、事前に選抜テストを実施します。授業内容、履修方法、選抜テストなどについて分からない点がある学生は、法学部事務室および担当教員（松島）に遠慮なく質問してください。

科目名	保険法	科目名（英文）	Insurance Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　與志夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	保険制度とは、同種の危険にさらされた多数の経済主体を１つの団体とみて、それに属する経済主体がそれぞれ金銭を拠出することにより共同的備蓄を形成し、現実に需要が発生した主体がそこから保険金の支払いを受ける方法で需要を満たす制度である。具体的には、損害保険契約、生命保険契約および傷害疾病保険契約についての法制度を講義する。
到達目標	保険法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することを目指す。
授業方法と留意点	保険契約の契約書、約款、最近の判例、および新聞で報道されている事件を紹介しながら、生きた保険法の講義を行いたい。
科目学習の効果（資格）	保険会社に就職する者にとり、必須の講義である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	保険システム	保険システムの目的と機能、保険法	教科書２ページ～２８ページ
2	保険監督法	総説、保険業規制の内容、保険募集規制	２９ページ～４８ページ
3	損害保険契約総論（１）	損害保険契約総説、損害保険契約の意義・特徴、損害保険契約の種類、片面強行規定の特徴	５０ページ～５８ページ
4	損害保険契約総論（２）	保険契約の成立、告知義務	５９ページ～６９ページ
5	損害保険契約総論（３）	損害保険契約における保険事故、保険期間、保険料	７０ページ～７５ページ
6	損害保険契約総論（４）	損害保険契約の構造、保険金額と保険価額、重複保険	７６ページ～１００ページ
7	損害保険契約総論（５）	損害保険契約の成立の効果	１０１ページ～１１９ページ
8	損害保険契約総論（６）	損害保険の給付	１２０ページ～１４５ページ
9	損害保険契約総論（７）	損害保険契約の終了	１４６ページ～１５６ページ
10	損害保険契約総論（８）	損害保険契約の処分	１５７ページ～１６１ページ
11	損害保険契約総論（９）	保険担保	１６２ページ～１７１ページ
12	損害保険契約各論	火災保険、責任保険、自動車保険、運送保険、海上保険、再保険	１７４ページ～２２１ページ
13	生命保険契約（１）	総説、生命保険契約の成立	２２４ページ～２４２ページ
14	生命保険契約（２）	生命保険契約の効力、生命保険契約に基づく給付・終了、生命保険債権の処分と差押え	２４３ページ～２６６ページ
15	傷害疾病保険契約	総説、保険給付の要件、障害疾病定額保険をめぐる問題	２６８ページ～２８３ページ

関連科目：民法、商法総則Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	レクチャー新保険法（最新版）	今井薫・岡田豊基・梅津昭彦	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中の授業態度、期末の筆記試験を総合して行う。
学生へのメッセージ	授業に出席することが重要です。授業中は、私語はしないでください。保険法の専門用語が多くありますので、用語の定義を重視してください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	

科目名	マスメディアと世論	科目名（英文）	Mass Media and Public Opinion
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松永　信一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会で世論の影響力は大きい。その動向に深いかかわりを持つマスメディアについて説明する。
到達目標	成熟した市民社会の一員にふさわしい政治を見る目と、政治に関心をもち政治に関与しようという態度を養う。
授業方法と留意点	プリントを配布し、講義する。配られたプリントは必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	ジャーナリスト、マスコミ、公務員、議員、社会科教員、ＮＰＯ団体職員などの公共的な仕事に関心を持つものに向く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業のやり方、成績評価基準，授業内容の概要。	プリントを見直し、マスメディアの動きを観察しよう。
2	「小泉劇場について」	派閥政治とマスメディアによる政治	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
3	近代社会におけるマスメディアの発達。	活字メディアから電子メディアへ	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
4	政治情報が流れるルート	マスコミュニケーションルートと対人コミュニケーションルート	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
5	政治的リーダーシップにおけるイメージと言葉（1）	民主主義の大衆化とウェーバーの「支配の３類型」	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
6	政治的リーダーシップにおけるイメージと言葉（2）	イメージ操作と失言・放言、スキャンダル	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
7	政治家と人気	マスメディアの発達と「有名性」の変遷	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
8	マスメディアの効果研究（1）	限定効果論	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
9	マスメディアの効果研究（2）	議題設定機能と現実定義機能	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
10	マスメディアの効果研究（3）	ニュースの製作現場	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
11	マスメディアの効果研究（4）	日本のニュース製作現場	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
12	マスメディアの効果研究（5）	沈黙の螺旋仮説と世論の風向き	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
13	マスメディアの効果研究（6）	培養分析	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
14	マスメディアの効果研究（7）	メディアイベントと「開票速報番組」	プリントを復習し、不明な点は参考書などで明らかにする。
15	おわりに	授業全体のまとめと試験の傾向と対策	試験の範囲を念頭に置きつつ、プリントを見直す。

関連科目：政治、国際、行政関連科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の結果と数回の小レポートの評価による。
学生へのメッセージ	テレビを真剣に見よう。新聞をじっくり読もう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　松永准教授室
備考	

科目名	まちを調べる	科目名（英文）	Field Survey of Town
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	中沼　丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	2009 年度まで「まちを調べる」という科目名であったこの講義では、その名のとおり、大学近辺の寝屋川市や交野市のまちに出向いて、地域や小学校の活動に参加し、観察や聞きとりによる調査を行う。本年度は、交野市の自治会と、寝屋川市の小学校に伺い、ボランティアや教員と一緒に活動を行い、世話役の方や校長先生への聞きとりを行う。
到達目標	自治会と小学校の現場で活動し、聞き取りを行うことで、地域や学校での当たり前の暮らしと学習が、どのような人の思いと努力で成り立っているか実感できるようにする。
授業方法と留意点	この講義は次の２点で他の科目と大きく異なる。(1)大学の外に出向いて調査をする、(2)自治会や小学校の日常の活動に入る。ですので、欠席や遅刻はできません。
科目学習の効果（資格）	市役所職員や学校教諭の「現場」感覚がわかり、採用試験に向けた動機づけにつながるとともに、採用試験での論作文や面接などに必要な知見が得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	【1 日目】自治会とは何か？地域において小学校はどのような役割を果たしている？	調査に伺う自治会や学校の日常や特徴を説明する。同時に、自分の地元での自治会や小学校について話し合う。	地元の自治会の掲示板を見たり、保護者に自治会の役員経験を尋ねる。通った小学校での地域とのつながりを思い出す。
2	自治会とは何か？地域において小学校はどのような役割を果たしている？	調査に伺う自治会や学校の日常や特徴を説明する。同時に、自分の地元での自治会や小学校について話し合う。	地元の自治会の掲示板を見たり、保護者に自治会の役員経験を尋ねる。通った小学校での地域とのつながりを思い出す。
3	【2 日目】自治会活動に参加してみる。	交野市の自治会で資源回収活動、防犯パトロール活動に参加する。自治会の世話役の方から、地域活動のねらいや工夫、効果、充実感などを聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
4	自治会活動に参加してみる。	交野市の自治会で資源回収活動、防犯パトロール活動に参加する。自治会の世話役の方から、地域活動のねらいや工夫、効果、充実感などを聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
5	【3 日目】小学校の教育現場に参加してみる。	寝屋川市の小学校で、夏休みの学習教室や親子料理教室、プール教室に参加する。校長先生から、児童の日常への気配り、夏休みの教室のねらい、地域とのつながりの意味などについて聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
6	小学校の教育現場に参加してみる。	寝屋川市の小学校で、夏休みの学習教室や親子料理教室、プール教室に参加する。校長先生から、児童の日常への気配り、夏休みの教室のねらい、地域とのつながりの意味などについて聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
7	【4 日目】活動参加と聞き取りの結果をまとめる。	自治会と小学校での活動参加と聞き取りの結果をまとめる。特に、世話役の方や校長先生の考えや気配り、気遣いについて話し合う。	聞き取りの結果を整理してくる。自治会の世話役の方と小学校の校長先生へのお礼と感想の手紙を書く。
8	活動参加と聞き取りの結果をまとめる。	自治会と小学校での活動参加と聞き取りの結果をまとめる。特に、世話役の方や校長先生の考えや気配り、気遣いについて話し合う。	聞き取りの結果を整理してくる。自治会の世話役の方と小学校の校長先生へのお礼と感想の手紙を書く。
9	――――	――――	――――
10	――――	――――	――――
11	――――	――――	――――
12	――――	――――	――――
13	――――	――――	――――
14	――――	――――	――――
15	――――	――――	――――

関連科目	「社会調査の方法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	事前説明から活動参加、聞き取り調査、まとめまでの全過程への参加が必須。活動参加の熱心さ、聞き取り調査の真剣さ、まとめの出来で評価する。
学生へのメッセージ	この講義は、通常講義のない７月の特別教育期間において４日間、１日約３コマで集中して行います。詳細は、履修ガイダンス時に説明します。
担当者の研究室等	11 号館９階　中沼准教授室

備考	

科目名	祭りと地域の法社会史	科目名（英文）	History of Feast and Community in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	牧田　勲
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】日本史及び外国史　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　地理歴史）　【施行規則に定める科目区分】日本史　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	現在、多くの自治体では「地域おこし」の手段として、伝統的にその地域に伝わる祭礼（岸和田だんじり祭・博多祇園山笠など）や、近年になって新規に始められたイヴェント（各地のよさこいソーラン祭など）が利用されています。しかし、そこには「政教分離」をどうするか、そこに自治体としてどう関わるか、町の空洞化による後継者不足、資金難、文化財的価値と観光化との矛盾など、多くの問題点を抱えています。この講義では、祭りの歴史・存在構造・現在の問題点などを紹介し、考察する予定です。
到達目標	祭りやイベントをめぐって、過去にどのような問題があり、現代どのような問題が生じているかをまず理解してほしい。その上で、今後何らかの形でそのような問題に直面する立場に置かれた時のよすがとしてもらいたいと思う。
授業方法と留意点	講義形式であるが、随時資料を提供して、理解の一助としたい。自ら各地の祭りに出かけ、その問題性を発見することも望まれる。
科目学習の効果（資格）	旅行業務取扱主任など関連する資格がないわけではないが、それよりも自治体職員・警察官・議員・教員には実践的に必要な教養。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	祭りとは	祭り・祭礼・イヴェントの違い	日本の伝統文化に対する幅広い興味を持つこと。
2	祭礼の出現と都市文化	京都祇園祭の意義	講義ノートの整理復習
3	近世社会と祭礼（1）	城下町祭礼の出現	講義ノートの整理復習
4	近世社会と祭礼（2）	東照宮祭礼にみる権力と民衆	講義ノートの整理復習
5	近世社会と祭礼（3）	祭りと騒乱	講義ノートの整理復習
6	近代社会と祭り（1）	伝統と変革の相克	講義ノートの整理復習
7	近代社会と祭り（2）	祭りと天皇制	講義ノートの整理復習
8	伝統の祭りと現代（1）	祇園祭がかかえる問題性	講義ノートの整理復習
9	伝統の祭りと現代（2）	祭りとジェンダー	講義ノートの整理復習
10	伝統の祭りと現代（3）	暴走族と祭り	講義ノートの整理復習
11	伝統の祭りと現代（4）	文化財の保存と観光化	講義ノートの整理復習
12	地域おこしとイヴェント（1）	地方自治体と地域おこし	講義ノートの整理復習
13	地域おこしとイヴェント（2）	神戸祭とよさこいソーラン祭	講義ノートの整理復習
14	祭りと憲法	祭りをめぐる政教分離原則と自治体	講義ノートの整理復習
15	おわりに	講義のまとめ	講義ノートの整理復習

関連科目：日本史・社会学・美術史・地理学・近世日本の法文化・憲法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績とレポートによる。
学生へのメッセージ	京都の祇園祭、大阪天神祭、岸和田だんじり祭など、関西には有名な祭りが目白押しである。こうした祭り、あるいは自分の郷里の祭りなどをとおして、今現在地域が抱えている問題を考えてみてほしい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　牧田教授室
備考	

科目名	民事再生法	科目名（英文）	Civil Rehabilitation Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原　佐織
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	個人もしくは企業が経済的に破綻した場合、適切な対応は、関係者にとっても、経済全体にとっても重要なことである。倒産処理に関する法的処理は、激しく対立する債務者と債権者間の利害を公平かつ適切に調整する極めて動的で且つ実体法と訴訟法が複雑に交錯する実際的で、興味深い分野である。当該講義は、倒産処理法の中心である破産法について検討した上、民事再生の基本的な指導理念や枠組みについて説明する。これらの学習によって民事法全体についての理解が確実にもなる。
到達目標	倒産法というと自分には全く関係のない問題のように考える人も多いかと思うが、教育ローン・マイホームローン・マイカーローンの返済の滞り、クレジットカード等による浪費等は誰にでも考えられることだし、自分が倒産しなくても、バイト先や勤務先の会社の業績不振による給料の未払い、就職した会社の取引会社が倒産して債権の回収に駆り出されたりと、倒産手続に巻き込まれる可能性はある。その際、転ばぬ先の杖ではないが、倒産手続の仕組みを理解しておくことは、経済的に自立した大人となるための基礎知識として必要なのではないかと思う。
授業方法と留意点	講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要個所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。講義内容に応じ、パワーポイントを用いた講義形式で行う場合もある。双方向の講義を目標としているため、座席指定を行い（座席の選択は自由）、質疑応答を行う。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。
科目学習の効果（資格）	法科大学院への進学、裁判所職員、司法書士の試験等に有益である。金融についての理解が進むので、金融機関で働くことを望む者や、ファイナンシャルプランナー（FP）の資格取得希望者にとっても極めて有益である。また、それらを目指さない者であっても、経済的に困難な状況に陥った場合のリスク回避・倒産手続の理解・対処方法の習得として、全ての者にとって必要な知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・倒産法の概要 ・倒産法と、他の法律（民法、民事訴訟法、民事保全・執行法）との関係 ・平常時と倒産時の比較の観点 ・倒産手続の種類（再建型と清算型）	・授業の進め方・受講上の注意及び評価方法等について ・個別執行（民事保全執行法）と包括執行（倒産法）との違い ・平常時は早い者勝ちの世界、倒産時は債権者平等の世界 ・再建型（民事再生・会社更生）と清算型（破産・特別清算）	教科書　P. 1～11
2	・破産手続の流れ	・法人の破産手続で配当がある事案 ・個人の破産手続で、破産管財人がついたうえで異時廃止となる事案	教科書　P. 13～23 前回講義における配布資料の復習
3	・再生手続の流れ	・通常再生手続で自主再生する事案（収益弁済型） ・通常再生手続でスポンサー型で再生する事案（スポンサー型） ・個人再生手続の事案（個人再生）	教科書　P. 24～39 前回講義における配布資料の復習
4	・開始決定の効果	・破産手続および再生手続の申立て ・手続開始決定の効果	教科書　P. 42～57 前回講義における配布資料の復習
5	・財産の管理/換価と管財人等	・破産財団の管理/換価等および破産管財人の善管注意義務 ・破産財団の意義と範囲および係属中の訴訟手続の取扱い ・破産管財人の第三者性と手続開始後の登記等の効力 ・再生債務者財産の管理等、再生債務者の第三者性等 ・財産評定	教科書　P. 58～73 前回講義における配布資料の復習
6	・契約関係の処理（売買・取戻権）	・双務契約の一方未履行の場合 ・双務契約の双方未履行の場合 ・取戻権	教科書　P. 74～89 前回講義における配布資料の復習
7	・契約関係の処理（賃貸借・請負・リース契約）	・賃貸借契約 ・請負契約 ・ファイナンスリース契約	教科書　P. 90～106 前回講義における配布資料の復習
8	・否認権	・詐害行為否認 ・偏頗行為否認	教科書　P. 107～120 前回講義までに配布した全ての配布資料の復習
9	・相殺権と相殺禁止	・相殺権の意義（民法における相殺との比較） ・相殺権の拡張 ・相殺権の制限	教科書　P. 134～148 前回講義における配布資料の復習
10	・倒産手続における担保権の取扱い	・担保権とは何か ・別除権とは何か ・別除権の行使 ・別除権となる担保権（典型担保の場合）	教科書　P. 149～168 前回講義における配布資料の復習
11	・債権の優先順位	・債権者平等の原則 ・債権の優先順位 ・財団債権と破産債権（破産手続）	教科書　P. 186～203 前回講義における配布資料の復習
12	・配当と破産手続の終了	・配当 ・破産手続の終了	教科書　P. 204～216 前回講義における配布資料の復習
13	・再生計画、履行	・再生計画とは？ ・再生計画の提出と可決、認可手続	教科書　P. 217～234 前回講義における配布資料の復習
14	・個人債務者の倒産手続 ・免責	・個人倒産制度の全体像 ・自由財産 ・免責 ・小規模個人再生/給与所得者等再生	教科書　P. 235～251 前回講義における配布資料の復習
15	・倒産法における諸問題 ・まとめ＆復習	・倒産におけるライセンス契約等の取扱い等	・該当範囲の復習 ・当該講義において配布した全資料の復習

			・講義全体のまとめと復習	

関連科目	民事保全・執行法、民事訴訟法、担保物権法、債権法、契約法、知的財産法、商法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎トレーニング倒産法	藤本利一/野村剛司	日本評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	六法		
2			
3			

評価方法（基準）	中間・定期試験(80%)、ならびに復習・確認演習やレポート等(20%)により総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。
学生へのメッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。倒産法を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　萩原講師室
備考	

科目名	民事訴訟法Ⅰ	科目名（英文）	Civil Procedure Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原　佐織
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法を」含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目標とする。多様な紛争関係者を前提として適正・迅速といった対立する目的を実現しなければならないため、多面的な思考を養うことにも資する。
到達目標	まずは、民事法において、実体法である民法、そして手続法である民事訴訟法、民事保全・執行法、倒産法が、それぞれどういう役割を担っているかを正確に理解し、民事法の全体像やそれぞれの機能の仕方を学ぶ。 その後に、民事訴訟法Ⅰにおいては、裁判所の種類や各裁判所の役割・機能をはじめ、民事裁判全体の流れを掴み、民事裁判の仕組みや果たす役割について理解することを目的とする。
授業方法と留意点	講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要個所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。講義内容に応じ、パワーポイントを用いた講義形式で行う場合もある。双方向の講義を目標としているため、座席指定を行い（座席の選択は自由）、質疑応答を行う。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。
科目学習の効果（資格）	・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養われる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・民事訴訟法の概要 ・民事訴訟法と他の法律（憲法、民法、民事保全・執行法、倒産法）との関係	・授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について ・裁判を受ける権利 ・訴訟と非訟	教科書　P. 55～76
2	・裁判	・訴訟に勝てばどうなるのか ・訴訟には、どれだけの時間と費用がかかるか ・裁判にあたる人たち（裁判官、弁護士） ・紛争処理の方策（ADR、調停、仲裁）	教科書　P. 5～54 前回講義における配布資料の復習
3	・裁判所Ⅰ	・裁判所の種類 ・最高裁判所 ・高等裁判所	配布資料 前回講義における配布資料の復習
4	・裁判所Ⅱ	・地方裁判所 ・家庭裁判所 ・簡易裁判所	配布資料 前回講義における配布資料の復習
5	・上訴	・特別の不服申立て ・控訴 ・上告 ・抗告	教科書　P. 311～332 前回講義における配布資料の復習
6	・管轄（審理・判決はどの裁判所でするのか？）	・事物管轄と土地管轄 ・合意管轄と応訴管轄 ・移送	教科書　P. 109～126 前回講義における配布資料の復習
7	・訴えの種類（どんな訴えが起こせるか？）	・給付の訴え、確認の訴え、形成の訴え ・訴えの併合、訴えの変更、反訴	教科書　P. 77～108 前回講義における配布資料の復習
8	・当事者（訴える人、訴えられる人とは？）	・誰が当事者になれるか？（権利能力、当事者能力） ・誰が当事者になるのが正しいか？（当事者適格、選定当事者）	教科書　P. 127～140 前回講義までに配布した全資料の復習
9	・民事訴訟の基本原則 ・事実認定	・処分権主義 ・弁論主義 ・自由心証主義	教科書　P. 217～240　（222～228〈訴えの取下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解、は除く） 前回講義における配布資料の復習
10	・訴訟審理の進め方	・訴えの提起から判決まで ・口頭弁論はどのように実地されるか？ ・争点および証拠の整理	教科書　P. 179～214　（204～209〈相殺の抗弁〉は除く） 前回講義における配布資料の復習
11	・事実認定と証拠	・証拠はなぜ必要なのか？ ・自由心証主義 ・証拠の種類	教科書　P. 241～257　（257～文書提出命令、証明責任等は除く） 前回講義における配布資料の復習
12	・判決の成立と効力	・既判力 ・執行力 ・形成力	教科書　P. 283～310 前回講義における配布資料の復習
13	・再審	・再審の訴え～確定判決を動かす方法～ ・再審訴訟の手続	教科書　P. 330～332 前回講義における配布資料の復習
14	・少額訴訟	・少額訴訟の要件と特則 ・少額訴訟債権執行	教科書　P. 333～338 前回講義における配布資料の復習
15	・まとめ&復習	・講義全体のまとめと復習	教科書　P. 335～368 当該講義において配布した全資料の復習

関連科目	民法全般、民事保全・執行法、民事訴訟法Ⅱ、倒産法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事裁判入門〔第３版補訂版〕	中野貞一郎	有斐閣
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	六法		
2			
3			

評価方法 （基準）	中間・定期試験(80%)、ならびに復習・確認演習やレポート等(20%)により総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。民事訴訟法を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 萩原講師室
備考	

科目名	民事訴訟法Ⅱ	科目名（英文）	Civil Procedure II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原　佐織
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。当該講義は、紛争解決手段としての民事訴訟手続につき、民事訴訟法Ⅰで学んだ知識をもとに、それらを発展・応用する能力を培うことを目的とする。ただし、民事訴訟法Ⅰの未履修者でも容易に理解できるよう講義やレジュメにつき配慮しているので、民事訴訟法Ⅰ未履修者でも興味があれば履修して差し支えない。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法を」含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目的とする。
到達目標	民事訴訟法Ⅰでは、民事法の中における民事訴訟法が果たす役割や民事裁判の全体的な流れについて学んだ。そこでは、当事者（原告・被告）がともに単数（1 人）であることを前提としていたが、民事訴訟法Ⅱでは、当事者の一方または双方が複数人である多数当事者訴訟についても学び、例えば新聞等でもよく耳にする団体訴訟等についてその仕組みと機能について理解を深めて欲しい。 また、証明責任や証拠提出命令、家庭紛争（家事審判・調停・人事訴訟）など、民事訴訟法Ⅰでは触れられなかった興味深いテーマにつき掘り下げ、それぞれの手続が、どのような機能と役割を担っているのか、実際の事案に即して考察することを目標とする。
授業方法と留意点	講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要個所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。講義内容に応じ、パワーポイントを用いた講義形式で行う場合もある。双方向の講義を目標としているため、座席指定を行い（座席の選択は自由）、質疑応答を行う。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。
科目学習の効果（資格）	・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・現在の裁判	・授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について ・現在の裁判における状況 ・時事問題	配布資料の復習
2	・民事裁判権の限界	・裁判権免除 ・国際裁判管轄	教科書　P. 119～126 配布資料の復習
3	・複数当事者　～共同訴訟が認められる場合とは？～	・共同訴訟は、どういう場合に認められるのか？ ・通常共同訴訟 ・必要的共同訴訟 ・同時審判申出訴訟	教科書　P. 140～154 講義における配布資料の復習
4	・複数当事者　～第三者の訴訟参加～	・他人の訴訟に割り込む方法 ・補助参加 ・独立当事者参加	教科書　P. 154～168 ・講義における配布資料の復習
5	・複数当事者　～訴訟承継～	・訴訟が承継されるときとは？ ・当事者が亡くなったら訴訟はどうなるのか？ ・係争物の譲渡　～参加承継・引受承継～ ・第三者の訴訟引込み ・任意的当事者変更	教科書　P. 168～178 講義における配布資料の復習
6	・訴訟審理の進め方	・相殺の抗弁 ・当事者は期日に欠席してもいいのか？	教科書　P. 204～209、214～216 講義における配布資料の復習
7	・訴訟の終了	・訴えの取下げ ・請求の放棄/認諾 ・訴訟上の和解	教科書　P. 222～227 講義における配布資料の復習
8	・前回までの講義内容のまとめ＆復習	・前回までの講義内容についてのまとめと復習、ならびに質疑応答	前回講義までの内容についての復習、ならびに疑問点の抽出 前回講義までに配布した全資料の復習
9	・証拠　～文書提出命令～	・文書提出命令	教科書　P. 257～264 講義における配布資料の復習
10	・証拠　～立証の困難を克服するために～ ・証拠　～証明がつかないときはどうなるのか？～	・相当な損害額の認定 ・証明責任とは何か？ ・証明責任の分配 ・証明責任の転換	教科書　P. 264～282 講義における配布資料の復習
11	・判決　～既判力～	・訴訟物による限界（既判力の客観的範囲） ・基準時による厳戒（既判力の時的限界） ・既判力の及ぶ人の範囲（既判力の主観的範囲）	教科書　P. 293～305 講義における配布資料の復習
12	・上訴と再審	・特別の不服申立て ・控訴/上告/抗告 ・再審	教科書　P. 311～332 講義における配布資料の復習
13	・督促手続	・督促手続のメリット ・督促手続の経過 ・オンライン督促手続	教科書　P. 338～342 講義における配布資料の復習
14	・家庭紛争と裁判	・家庭紛争の解決方法 ・家事審判と家事調停 ・人事訴訟	教科書　P. 343～377 講義における配布資料の復習
15	・当該講義における全内容についてのまとめと復習	当該講義における全内容についての、まとめ、復習、そして質疑応答	当該講義における全内容についての復習、ならびに疑問点の抽出 当該講義において配布した全資料の復習

関連科目	民法全般、民事訴訟法Ⅰ、民事保全・執行法、倒産法、国際私法、国際取引法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事裁判入門〔第3版補訂版〕	中野貞一郎	有斐閣
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	六法		
2			
3			

評価方法（基準）	中間・定期試験(80%)、ならびに復習・確認演習やレポート等(20%)により総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。
学生へのメッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。紛争解決手段である民事訴訟手続を学ぶことで、既に学んだ民法全般の知識をリフレッシュさせてください。
担当者の研究室等	11号館9階　萩原講師室
備考	

科目名	民事法概論	科目名（英文）	Introduction to Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＩ
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵.萩原　佐織
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法律とは、社会において生じる問題を解決するために使われるものである。そのような法律も、いくつかの形で分類がなされる。そのような分類の中で、私人の間の問題等を規律するための規範が民事法と呼ばれるものであり、その中心となる法律が民法である。民法では特に財産と家族の問題が扱われている。 本講義では、上記のような私人間の問題について扱う法律を民法を中心に確認し、さらにそこで書かれている権利義務の内容がどのように実現されるのかという、手続法と呼ばれる部分も講義の後半部分で扱っていく予定である。
到達目標	民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観を確認し、今後の民事に関する法律科目を勉強するための概要を把握することを目的としている。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定である。復習などのために資料を配布する。また、法律科目ですので、六法が必要である。
科目学習の効果（資格）	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法（民法、民事訴訟法、破産法等）が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。	新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持てる部分を是非見つけてください。
2	民事法とは	民事法と民法との関係、民法の構造の把握。	1回目の内容から、自分の周りに存在する財産に関連する問題を自分なりに考えてみて下さい。
3	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを把握してみてください。
4	人という存在①	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、なぜ親の同意が必要だったのかを考えてください。
5	人という存在②	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、なぜ親の同意が必要だったのかを考えてください。
6	所有権を通しての物権①	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	他人が自分の物を返さないという経験がこれまでありましたか？これを、法的に考えてみてください。
7	所有権を通しての物権②	担保物権と呼ばれるものを確認する。	お金の貸し借りの構造を思いだすこと。
8	不法行為①	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならないことを、法的に見ていきます。	交通事故や約束違反によって生じた損害は、賠償により回復することができるのでしょうか。考えてみてください。
9	家族法①	家族とはどのようなものかを確認する。	自分の周りの人たちの家族関係を全体的に意識してみること。
10	家族法②	相続というものを確認する。	人の死後の財産関係について思い出してみること。
11	民事手続①	実体法との違いを確認する。	講義中の課題を再確認のこと。
12	民事手続②	権利実現の手順などを確認する。	講義中の課題を再確認のこと
13	民事手続③	手続にも様々なものがあることを確認する。	講義中の課題を再確認のこと
14	手続法と実体法との再確認	手続法と実体法とのの関連を意識して、再度問題を確認する。	両者の関係と違いを整理すること。
15	全体の復習	民事法の構造の再確認	全体の復習をしておくこと。

関連科目	憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事法入門［最新版］	野村豊弘	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の成績による。授業中に小テストを行う。
学生へのメッセージ	民事法は日常生活に関する規範である。したがって、民事法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。
担当者の研究室等	11号館9階　大川講師室
備考	授業の進行に応じて順序や内容を変更することもある。 なお、参考書「Visual Materials民法」は今後の民法の学習に有用なので備えることが望ましい。

科目名	民事法概論	科目名（英文）	Introduction to Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨ
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	民法、商法といった日常生活自体に関わる法律や、それに関しての裁判に適用される民事訴訟法や家事事件手続法などを総称して「民事法」といいますが、その概略を学ぶことを目的とします。様々な法規則の中から、基本的な体系を理解するために必要な分野を選んで講義します。
到達目標	民事法の体系とその基本的知識の習得を目標とします。
授業方法と留意点	講義を中心としますが、確実な理解のために質問を交えてそれに答えてもらうことを求めます。また、数回、授業時間の終わりの２０分程度を使って「確認問題」を実施しますので、注意すること。六法は必ず持参してください！
科目学習の効果（資格）	日常生活において必要となる基本的な法知識を得られます。また、法律関連の資格試験や専門科目のある公務員試験において、その法律科目につながる基礎理論を学べます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「民事法」の意義	民事法とは 民事法の概略	事後に復習することを重視します
2	私法の基本原理	近代法の基本原理 民法の基本原理	今回学んだことの確認
3	財産と法①	法律行為とは 法律行為の主体	今回学んだことの確認
4	財産と法②	物権法定主義 担保物権 根担保	今回学んだことの確認
5	財産と法③	債権とは	今回学んだことの確認
6	財産と法④	契約の基本原則 典型契約 消費者契約、特定商取引法	今回学んだことの確認
7	財産と法⑤	法定債権 不法行為法	「財産と法」をまとめて復習
8	団体と法	商事法の体系 商法、会社法 有価証券法	今回学んだことの確認
9	家族と法①	親族とは 戸籍制度	今回学んだことの確認
10	家族と法②	夫婦関係と法	今回学んだことの確認
11	家族と法③	親子関係と法	今回学んだことの確認
12	家族と法④	法定相続 遺言	「家族と法」をまとめて復習
13	国際社会と法	渉外的私法関係とそれに関わる法律とは	今回学んだことの確認
14	民事事件と裁判	民事訴訟 人事訴訟と家事事件手続法	今回学んだことの確認
15	まとめ	「民事法」のまとめと再確認	この授業を通して学んだことの再確認

関連科目：法学概論のほか、刑事法概論、憲法概論も関連します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケット六法（平成２７年版）	編集代表　井上正仁・山下友信	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業で紹介します		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(50%)と「確認問題」(50%)で評価します。
学生へのメッセージ	民法を始め、具体的な条文を使っての講義となりますので、「六法」は必携です。
担当者の研究室等	１１号館９階　小山教授室
備考	

科目名	民事保全・執行法	科目名（英文）	Enforcement of Judgments; Provisional Remedies
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原　佐織
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続、いわゆる民事裁判である。ただ、訴訟で勝訴しても、相手が応じない等の理由で、紛争が解決しない場合がある。その際の、究極の紛争解決手段が、民事保全執行手続である。当該講義では、民事保全執行手続の基礎を学ぶとともに、民法や民事訴訟法等で学んだ知識を発展・応用する能力を培うことを目的とする。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習や応用ができ、また「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法・民事保全執行法」を含めた『民事法』としての総合的理解を図ることができる。
到達目標	民法と比べると、民事執行法・民事保全法には、それほど馴染みがないかもしれない。でも、民法の知識だけで、お金を貸した相手が返してくれない場合や、約束したはずの養育費が支払われない場合など、債務者が任意に支払ってくれない場合にどうやってその支払いを促すことができるのか、理解するのは難しい。将来、自分が債権者として債務者から金銭を回収したい場合はもちろん、逆に自分が債務者として金銭の支払いを促される場合においても、どのような仕組みで、どのような過程や手続を経て、その執行が強制的になされるのかを理解しておくことは、転ばぬ先の杖として、経済的に自立した大人になるために必要な知識であると考える。
授業方法と留意点	講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要個所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。講義内容に応じ、パワーポイントを用いた講義形式で行う場合もある。双方向の講義を目標としているため、座席指定を行い（座席の選択は自由）、質疑応答を行う。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。
科目学習の効果（資格）	・民事保全執行手続のしくみを理解し、民事紛争解決手段の一端を知ることができる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士などの受験に対応できる知識・応用力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	①　ガイダンス ②　民事執行法の概観	①　授業方法・評価方法等の説明 ②　他の法分野との関係 ③　判決手続と執行手続 ④　民事執行の種類と沿革等	教科書　P. 1～11
2	強制執行総論 1. ①　序説 ②　債務名義	①　強制執行の意義と種類 ②　債務名義の種類	教科書　P. 12～25 前回講義における配布資料の復習
3	強制執行総論 2. ・請求異議の訴え	・請求異議の訴えの意義 ・請求異議事由 ・執行停止等の仮の処分	教科書　P. 26～37 前回講義における配布資料の復習
4	強制執行総論 3. ・執行文	・執行文の意義 ・執行文の付与等に関する異議の申立て ・条件成就執行文と承継執行文	教科書　P. 38～53 前回講義における配布資料の復習
5	強制執行総論 4. ①　執行機関 ②　強制執行開始要件 ③　強制執行の停止	①　執行機関の意義と担当職務 ②　強制執行開始要件の意義と種類 ③　強制執行停止の意義と具体例	教科書　P. 54～63 前回講義における配布資料の復習
6	強制執行総論 5. ①　違法執行と不当執行 ②　執行異議と執行抗告	①　違法執行と不当執行の意義 ②　国家賠償請求との関係 ③　執行異議と執行抗告の意義 ④　不執行の合意	教科書　P. 82～83、64～67 前回講義における配布資料の復習
7	強制執行総論 6. ・第三者異議の訴え	①　第三者異議の訴えの趣旨 ②　手続 ③　第三者異議事由	教科書　P. 68～81 前回講義における配布資料の復習
8	まとめ＆復習	・強制執行総論のまとめと復習	強制執行総論全範囲の復習 前回講義までに配布した全ての配布資料の復習
9	強制執行各論 1. 金銭執行 Ⅰ ①　金銭執行序説 ②　不動産執行	①　金銭執行の諸段階・優先主義と平等主義 ②　不動産執行の意義・強制競売・強制管理	教科書　P. 84～132 前回講義における配布資料の復習
10	強制執行各論 2. 金銭執行 Ⅱ ・動産執行	①　動産執行の意義 ②　差押え・換価・満足	教科書　P. 133～142 前回講義における配布資料の復習
11	強制執行各論 3. 金銭執行 Ⅲ ・債権執行	①　債権執行の意義 ②　差押え・換価・満足 ③　少額訴訟債権執行	教科書　P. 142～170 前回講義における配布資料の復習
12	強制執行各論 4. ・非金銭執行	①　不動産/動産の引渡しの強制執行 ②　目的物を第三者が占有する場合の引渡しの強制執行 ③　代替的作為の強制執行 ④　不代替的作為および不作為の強制執行	教科書　P. 171～181 前回講義における配布資料の復習
13	担保権の実行としての競売等	①　序説 ②　不動産担保権の実行 ③　動産競売 ④　債権およびその他の財産権についての担保権の実行 ⑤　形式的競売	教科書　P. 182～202 前回講義における配布資料の復習
14	民事保全. ①　序説 ②　保全命令手続 ③　保全執行手続	①　民事保全の意義・種類・手続 ②　保全命令手続の申立て・審理・裁判・不服申立て ③　保全執行手続の申立て・仮差押えの執行・仮処分の執行	教科書　P. 205～225 前回講義における配布資料の復習
15	まとめ＆復習	①　強制執行各論のまとめ＆復習	該当範囲の復習

			②　担保権の実行としての競売等のまとめ＆復習 ③　民事保全のまとめ＆復習	当該講義において配布した全ての配布資料の復習

関連科目	民法全般、民事訴訟法Ⅰ、民事訴訟法Ⅱ、倒産法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎からわかる民事執行法・民事保全法〔第２版〕	和田吉弘	弘文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	六法		
2			
3			

評価方法 （基準）	中間・定期試験(80%)、ならびに復習・確認演習やレポート等(20%)により総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。民事保全執行手続を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュさせてください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　萩原講師室
備考	

科目名	民法総則	科目名（英文）	Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	城内　明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」【教員免許状取得のための履修区分】選択【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 本講義は、この民法総則の基礎を学ぶことにより、民法の思考を体得することを目的とします。
到達目標	民法総則の基本を身につけることを目標とします。
授業方法と留意点	毎週配布のレジュメに沿って授業します。なお、小型六法は、毎回、必ず持ってきて下さい。
科目学習の効果（資格）	公務員試験のほか、宅建・行政書士・司法書士等、各種資格試験に必須。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス・民法の構造	授業時に指示する
2	意思表示の瑕疵(1)	契約の成立・意思表示の構造	授業時に指示する
3	意思表示の瑕疵(2)	意思の不存在(1) －心裡留保・虚偽表示・古典的錯誤－	授業時に指示する
4	意思表示の瑕疵(3)	意思の不存在(2) －古典的錯誤と動機の錯誤－	授業時に指示する
5	意思表示の瑕疵(4)	瑕疵ある意思表示 －詐欺・強迫－	授業時に指示する
6	契約の有効性要件	契約の有効性要件	授業時に指示する
7	人Ⅰ	権利能力	授業時に指示する
8	人Ⅱ	意思能力・行為能力	授業時に指示する
9	人Ⅲ	未成年者・制限行為能力者の相手方の保護	授業時に指示する
10	人Ⅳ	成年後見制度	授業時に指示する
11	代理Ⅰ	代理総論	授業時に指示する
12	代理Ⅱ	無権代理(1)	授業時に指示する
13	代理Ⅲ	無権代理(2)	授業時に指示する
14	代理Ⅳ	表見代理	授業時に指示する
15	時効	消滅時効	授業時に指示する

関連科目：民事法概論・法学概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロードマップ民法(1)　民法総則	小川富之、中山布紗編著	一学舎
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験により評価します。ただし、小テストを実施する場合には、この成績も加味します。 なお、私語等の授業妨害行為については、減点・単位不授与の措置を講じることがあります。ご注意下さい。
学生へのメッセージ	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 2年次以降に債権法・物権法（・および相続法）を学ぶ予定のある人は、必ず受講して下さい。 民法総則は、非常に難しい科目です。毎回の授業後に復習を欠かさないことが、単位取得の最低条件と考えて下さい。
担当者の研究室等	11号館10階　城内准教授室
備考	

科目名	有価証券法Ⅰ	科目名（英文）	Law of Negotiable Instruments Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村　秀一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	有価証券は、権利の譲渡の簡易化・効力の強化のためにその機能を発揮する。手形・小切手は有価証券の典型である。手形には約束手形と為替手形がある。約束手形は信用の手段として、為替手形は送金・取立の手段として、小切手は支払の手段として利用される。手形・小切手は、このような経済的機能を果たしているが、とくに約束手形は、わが国の活発な経済活動をささえる重要な役割を担ってきた。したがって、約束手形の法的仕組みを理解することはきわめて重要である。
到達目標	有価証券の法的仕組みを理解する。
授業方法と留意点	AV 教室においてノートパソコン画面をディスプレイに表示しながら、講義を行う。全学生がノートを取れるようスピード調整しながら行う。プリントを配付する。教材フォルダにアップロードしてあるので、各自で授業第一回目までに入手すること。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務法務検定試験３級取得に必要な法知識を提供する。この試験に合格すれば、ビジネス法務リーダーの称号が与えられ、受験を推奨する企業が増えている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	手形･小切手の意義　有価証券の機能	手形とは何か・権利の譲渡方法の簡易化・効力の強化	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
2	手形・小切手の経済的機能	信用の手段・送金の手段・支払の手段	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
3	銀行取引と手形・小切手	自宅払い手形と銀行払い手形	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
4	手形行為の成立要件　形式的要件（1）	支払約束文句・一定の金額・満期	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
5	形式的要件（2）	受取人・振出日・支払地	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
6	有益的記載事項　無益的記載事項　有害的記載事項	指図禁止文句・利息文句	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
7	署名の意義	記名捺印・署名の代行	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
8	別名使用　法人の署名	別名による手形行為	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
9	実質的要件　手形権利能力手形行為能力	法人の手形権利能力･制限無能力者の手形行為能力	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
10	手形理論	交付契約説・発行説・創造説 鈴木理論と権利外観説	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
11	手形行為と意思表示の瑕疵・欠缺	錯誤・詐欺・強迫と手形行為	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
12	他人による手形行為（１）	代理・代行方式の手形行為（１）	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
13	他人による手形行為（２）	代理・代行方式の手形行為（２）	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
14	他人による手形行為（３）	代理・代行方式の手形行為（３）	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
15	他人による手形行為（４）	代理・代行方式の手形行為（４）	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。

関連科目	民法総則・債権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業中に指示する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の結果のみによって評価する。
学生へのメッセージ	試験は教科書のみ持込可とするので、必ず購入すること。確実な理解をはかるため質問日なども設ける。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　木村教授室
備考	授業計画は各年度の事情（新事件・新判例の追加等）により多少の修正が生ずることがある。

科目名	有価証券法Ⅱ	科目名（英文）	Law of Negotiable Instruments II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村　秀一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「法律学、政治学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	有価証券は、権利の譲渡の簡易化・効力の強化のためにその機能を発揮する。手形・小切手は有価証券の典型である。手形には約束手形と為替手形がある。約束手形は信用の手段として、為替手形は送金・取立の手段として、小切手は支払の手段として利用される。手形・小切手は、このような経済的機能を果たしているが、とくに約束手形は、わが国の活発な経済活動をささえる重要な役割を担ってきた。したがって、約束手形の法的仕組みを理解することはきわめて重要である。
到達目標	有価証券の法的仕組みを理解する。
授業方法と留意点	AV 教室においてノートパソコン画面をディスプレイに表示しながら、講義を行う。全学生がノートを取れるようスピード調整しながら行う。プリントを配付する。教材フォルダにアップロードしてあるので、各自で授業第一回目までに入手すること。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務法務検定試験３級取得に必要な法知識を提供する。この試験に合格すれば、ビジネス法務リーダーの称号が与えられ、受験を推奨する企業が増えている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	無権限者による手形行為	無権代理と偽造	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
2	手形･小切手の譲渡方法（１）	裏書の意義・方式	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
3	手形･小切手の譲渡方法（２）	裏書によらない譲渡	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
4	裏書の効力	権利移転的効力・担保的効力・資格授与的効力	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
5	裏書の連続	裏書の連続性の判断基準	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
6	善意の手形取得者の保護（１）	善意取得制度	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
7	善意の手形取得者の保護（２）	物的抗弁・人的抗弁の制限（1）	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
8	善意の手形取得者の保護（３）	人的抗弁の制限（2）	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
9	善意の手形取得者の保護（４）	悪意の抗弁	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
10	手形行為独立の原則	同原則の根拠・手形保証との関係	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
11	利得償還請求権	発生要件	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
12	白地手形（１）	白地手形の意義	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
13	白地手形（２）	白地の不当補充	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
14	手形の喪失（１）	除権決定	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
15	手形の喪失（２）	除権決定の効力と善意取得	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。

関連科目：民法総則・債権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業中に指示する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の結果のみによって評価する。
学生へのメッセージ	試験は教科書のみ持込可とするので、必ず購入すること。確実な理解をはかるため質問日なども設ける。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　木村教授室
備考	授業計画は各年度の事情（新事件・新判例の追加等）により多少の修正が生ずることがある。

科目名	ライフステージと法	科目名（英文）	Life Stages and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＩＪ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵.萩原　佐織
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	法律とは、社会において生じる問題を解決するために使われるものである。そのような法律も、いくつかの形で分類がなされる。そのような分類の中で、私人の間の問題等を規律するための規範が民事法と呼ばれるものであり、その中心となる法律が民法である。民法では特に財産と家族の問題が扱われている。 本講義では、上記のような私人間の問題について扱う法律を民法を中心に確認し、さらにそこで書かれている権利義務の内容がどのように実現されるのかという、手続法と呼ばれる部分も講義の後半部分で扱っていく予定である。
到達目標	民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観を確認し、今後の民事に関する法律科目を勉強するための概要を把握することを目的としている。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定である。復習などのために資料を配布する。また、法律科目ですので、六法が必要である。
科目学習の効果（資格）	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法（民法、民事訴訟法、破産法等）が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。	新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持てる部分を是非見つけてください。
2	民事法とは	民事法と民法との関係、民法の構造の把握。	1回目の内容から、自分の周りに存在する財産に関連する問題を自分なりに考えてみて下さい。
3	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを把握してみてください。
4	人という存在①	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、なぜ親の同意が必要だったのかを考えてください。
5	人という存在②	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、なぜ親の同意が必要だったのかを考えてください。
6	所有権を通しての物権①	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	他人が自分の物を返さないという経験がこれまでありましたか？これを、法的に考えてみてください。
7	所有権を通しての物権②	担保物権と呼ばれるものを確認する。	お金の貸し借りの構造を思いだすこと。
8	不法行為①	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならないことを、法的に見ていきます。	交通事故や約束違反によって生じた損害は、賠償により回復することができるのでしょうか。考えてみてください。
9	家族法①	家族とはどのようなものかを確認する。	自分の周りの人たちの家族関係を全体的に意識してみること。
10	家族法②	相続というものを確認する。	人の死後の財産関係について思い出してみること。
11	民事手続①	実体法との違いを確認する。	講義中の課題を再確認のこと。
12	民事手続②	権利実現の手順などを確認する。	講義中の課題を再確認のこと
13	民事手続③	手続にも様々なものがあることを確認する。	講義中の課題を再確認のこと
14	手続法と実体法との再確認	手続法と実体法とのの関連を意識して、再度問題を確認する。	両者の関係と違いを整理すること。
15	全体の復習	民事法の構造の再確認	全体の復習をしておくこと。

関連科目	憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事法入門［最新版］	野村豊弘	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の成績による。授業中に小テストを行う。
学生へのメッセージ	民事法は日常生活に関する規範である。したがって、民事法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。
担当者の研究室等	11号館9階　大川講師室
備考	授業の進行に応じて順序や内容を変更することもある。 なお、参考書「Visual Materials 民法」は今後の民法の学習に有用なので備えることが望ましい。

科目名	リーガルリサーチと公的書類	科目名（英文）	Legal Research and Official Document
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家本　真実
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	情報が氾濫している世の中では、情報収集・分析能力によって、勉強や仕事の能率の良さは大きく変わってきます。この講義では、法学部で学ぶにあたって必要な法情報がどこにあるか、またどのように収集すればよいのかを学びます。実際に、図書館や PC、オンライン・データベースを利用して課題を解決することにより、法情報の収集方法について学びます。 また公的な書類のなかで、とくに基本的に理解しておいたほうがよいものについて、その見方などを学びます。
到達目標	法学部生として自習を行ったり、レポートや卒業論文を作成する際に必要な情報収集の方法について、基礎的な知識を身につけていただくことを目指します。
授業方法と留意点	こちらから配布するレジュメを基に講義をおこない、学生の皆さんに実習していただくという形式をとります。実習が授業の大部分を占めますので、出席は必須です。また、毎回、講義中に課題を出します。
科目学習の効果（資格）	法学部の学生として必要な情報収集能力を身につけることができます。また法律専門家を目指す方、法律事務所や司法書士事務所などの法律を扱う事務所などで事務員などとして勤務する（ことを将来希望される）方に必要とされる技術の基本を学ぶことができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 法情報とはどのようなものか	講義の内容や進行方法、評価などについて 法情報とは何を指すのか、どこにあるのか、法情報の調査は法の学習においてどう役に立つのかを知る	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
2	法令の調べ方（1）	法令を探す、調べる	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
3	法令の調べ方（2）	法令を探す、調べる	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
4	判例の調べ方（1）	判例を探す、調べる	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
5	判例の調べ方（2）	判例を探す、調べる	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
6	二次資料の調べ方（1）	二次資料を探す、調べる	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
7	二次資料の調べ方（2）	二次資料を探す、調べる	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
8	資料の引用の仕方	レポートや論文などにおいて資料を引用する方法について学ぶ	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
9	外国の法情報の調べ方	外国の法情報を調べる	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
10	登記簿（1）	土地・建物登記簿の見方、登記・閲覧の方法を学ぶ	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
11	登記簿（2）	商業登記および成年後見登記について学ぶ	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
12	戸籍	戸籍の見方、登録・閲覧の方法を学ぶ	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
13	法学に役立つ様々な情報源	これまでに学んだ情報源以外で、法律や政治を学ぶにあたって役立つ情報源について知る	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
14	具体的事例におけるリーガル・リサーチ（1）	具体的な事例におけるリーガル・リサーチの実践	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
15	具体的事例におけるリーガル・リサーチ（2） おわりに	具体的な事例におけるリーガル・リサーチの実践 全講義のまとめと補足	全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと

関連科目	法律科目全般および情報処理系科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リーガルリサーチ（第 4 版）	いしかわまりこ他	日本評論社、2012 年
2			
3			

評価方法（基準）	1. 講義中の受講姿勢、2. 講義中の課題の成績、3. 学期末試験の成績により評価します（1+2 で約 50%、3 が約 50%の割合）。1 度でも欠席すれば単位取得は困難になると考えてください。遅刻、授業中の不要な私語も大幅に減点します。
学生へのメッセージ	実習をともないますので、自ら学ぶ姿勢を持って講義に臨んでください。 不要な私語が多いなど、受講態度があまりにひどい場合には、講義期間中に単位の取得を認めない旨、申し渡すことがあります。 講義内容については、講義の進行により変更する場合があります。 なお、本講義の履修にあたっては事前申請が必要となります。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	

科目名	労働組合法	科目名（英文）	Labor Union Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	前田　剛志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	労働法は、個別的労働関係法、雇用保障法(労働市場法)、団体的労働関係法などに大きく分かれるといわれています。この授業では、団体的労働関係法に属し、労働者、使用者と並ぶ重要な主体である労働組合について規定している労働組合法の内容を概観したいと考えています。
到達目標	労働組合の組織率が低下しており、争議行為も減少している現在においても、「労働者が使用者との交渉において対等の立場にたつことを促進することにより労働者の地位を向上させること」、「労働条件の維持改善その他経済的地位の向上を図ること」を目的とする労働組合は、なお重要な地位を占めているということができます。そして、そのことは、勤労者の団結する権利を保障している憲法 28 条に表れているといえます。そうした、労働組合の意義、内容、問題点を理解することをこの授業では目標としています。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	団体的労働関係法の歴史と現状	・労働法制の概観 ・労使関係の現状と問題点	事前の予習は基本的には必要ありませんが、参考書などの該当する部分を読んでくると理解がしやすいかと思います。毎回の授業内容の復習に努めてください。
2	労働組合	・労働組合の要件 ・労働組合の組織と運営	労働組合がなぜ法的に保護されているのかの理由、労働組合の要件について理解してください。
3	団体交渉	・団体交渉の法的枠組み ・団体交渉義務の内容 ・団交拒否の救済方法	労働者の集団が代表者を通じて使用者と行う交渉である団体交渉について、基本的な内容を理解してください。
4	労働協約①	・労働協約の意義 ・労働協約の効力	労働協約の意義と効力について理解してください。
5	労働協約②	・労働協約の拡張適用(一般的拘束力) ・労働協約の終了	労働協約がどのような場合に組合員以外に拡張して適用されるかを理解してください。
6	労働者の団体行動①	・争議行為の概念 ・団体行動の正当性 ・争議行為と賃金	「争議行為」について、その内容やどのような場合に保障をうけることができるかを理解してください。
7	労働者の団体行動②	・違法な争議行為とその責任 ・争議行為と第三者	違法な争議行為が行われた場合の責任について、理解してください。
8	労働者の団体行動③	・使用者の争議対抗行為	使用者が、ストライキを中心とする労働者の争議行為に対抗する手段にどのようなものがあるか、概観してみましょう。
9	労働者の団体行動④	・法律による争議権の制限 ・労働争議の調整	争議行為が法律により制限・禁止されている場面、労働争議の調整を定める労働関係調整法の規定を概観します。
10	組合活動①	・組合活動の法的保障 ・就業時間中の組合活動	就業時間中に組合活動を行うことの是非について、判例の流れを参照にして、理解してください。
11	組合活動②	・企業施設利用の組合活動 ・組合活動に対する便宜供与	ビラ貼り、ビラ配布の正当性、組合活動への便宜供与の内容について理解してください。
12	不当労働行為①	・不当労働行為の趣旨 ・不当労働行為の主体	労働組合法7条に定められている不当労働行為の趣旨を理解してください。
13	不当労働行為②	・不当労働行為の成立要件	不当労働行為にはどのような種類があり、それぞれどのような要件があれば成立するかを理解してください。
14	不当労働行為③	・不当労働行為の救済	不当労働行為の救済として、労働委員会による救済と、裁判所による救済の2つのルートを概観します。
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を捕捉したいと考えています。	今まで学んだことで自分自身がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと。

関連科目：憲法、民法、労働保護法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働法［第 10 版］	菅野 和夫	弘文堂、2012 年
2	労働法［第 5 版］	水町 勇一郎	有斐閣、2014 年
3	労働法［第 12 版］	安枝 英訷／西村 健一郎	有斐閣、2014 年

評価方法（基準）	学期末テストの成績と授業中に実施する確認テストによって総合的に評価します。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートを実施する可能性があります。
学生へのメッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。自分にも関係してくる可能性があることを認識し、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	学生の皆さんが興味をもったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業のなかで取り上げたいと思います。また、講義中に適宜指名して質問を行うことがあります。どのような回答をしていただいても構いませんので、積極的にご回答下さい。

科目名	労働保護法	科目名（英文）	Labor Standards Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	前田　剛志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	契約自由の原則を貫くと、使用者と労働者の間には経済的な差があるため、労働者は、劣悪な労働条件や失業の危険にさらされることになりかねません。こうした不都合を修正するために、労働法が生成し、発達してきたと言われています。その中でも、労働者の保護を目的とする法律のことを「労働保護法」と呼ぶことがあります。 この授業では、労働保護法の分野の中から、労働基準法、労働契約法、男女雇用機会均等法などを概観したいと考えています。
到達目標	労働保護法の中心となる労働基準法や労働契約法、男女雇用機会均等法などの基本的な内容を理解することを目標とします。また、就職した後、トラブルに巻き込まれないようにするための基本的知識、トラブルに巻き込まれてしまった場合にそれを解決するための基本的知識を学び、万が一の場合に自分自身の身を守ることができるようになってもらいたいと考えています。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	労働法の歴史と機能	・労働法の誕生、発展 ・労働法の機能	事前の予習は基本的には必要ありませんが、参考書などの該当する部分を読んでくると理解がしやすいかと思います。毎回の授業内容の復習に努めてください。
2	労働法の基本構造と法源	・労働法の全体像、規律構造 ・労働法の法源	労働法の全体像を把握し、労働法の法源には何があるかを理解してください。
3	労働法上の当事者	・労働者、使用者の概念 ・労働基準法の適用範囲	労働法でいわれる「労働者」、「使用者」とは何かを理解してください。
4	労働契約	・労働契約の解釈枠組 ・労働契約上の権利・義務	労働契約によって使用者と労働者にどのような権利・義務が発生するかを理解してください。
5	雇用関係の成立	・採用の自由 ・採用内定、内々定、試用 ・労働条件の明示	採用に至る各段階について労働法がどのような規定をおいているかを概観してみましょう。
6	雇用関係の展開①	・昇進、昇格、降格 ・配転 ・出向、転籍	日本企業は人事に対して広範な決定権限を持っているといわれています。その具体的な内容と問題点を理解してください。
7	雇用関係の展開②	・職場規律と懲戒	企業による懲戒の法的根拠、内容、種類などを理解してください。
8	雇用関係の終了	・解雇 ・解雇以外の終了事由 ・終了後の法規制	雇用関係が終了する事由にはどのようなものがあるかを概観してみましょう。
9	労働者の人権の保障	・労働憲章 ・雇用差別 ・人格権、プライバシー ・内部告発	使用者による不当な人身拘束や仲介者による中間搾取などの人権侵害から労働者を守るために労働法が何を規定しているかを概観します。
10	基本的労働条件①	・賃金の種類と体系 ・賃金請求権 ・賃金の法規制	労働条件のうちで最も重要なものの1つである賃金について、その内容を理解してください。
11	基本的労働条件②	・労働ｊ時間法制の意義と現状 ・動労時間制度の基本的枠組み	賃金と並んで労働者にとって最も重要な労働条件の１つである労働時間について、労働法がどのような規制をしているか理解してください。
12	基本的労働条件③	・労働時間制度の特則	労働時間の基本的枠組みに対して、これを柔軟化するための特別の制度が労働基準法には定められています。それぞれの制度の内容と意義を理解してください。
13	基本的労働条件④	・休暇	日本で法律上認められている休暇について、どのようなものがあるかを確認してください。
14	労働者の安全、健康の確保	・労働安全衛生 ・労災補償	労働者が働くうえで安全や健康を確保することが、労働法の原点の１つです。そのために、労働法がどのような定めをしているかを確認してください。
15	年少者、女性の保護 労働と私生活の調和	・年少者の保護 ・女性の保護 ・育児介護休業法	近年、労働と私生活の調和を図ることの重要性が認識されるようになっています(ワーク・ライフ・バランス)。年少者、女性の保護とあわせて、その内容を理解してください。

関連科目：憲法、民法、労働組合法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働法［第 10 版］	菅野 和夫	弘文堂、2012 年
2	労働法［第 5 版］	水町 勇一郎	有斐閣、2014 年
3	労働法［第 12 版］	安枝 英訥／西村 健一郎	有斐閣、2014 年

評価方法（基準）：学期末テストの成績と授業中に実施する確認テストによって総合的に評価します。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートを実施する可能性があります。

学生への メッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。自分にも関係してくる可能性があることを認識し、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	学生の皆さんが興味をもったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業のなかで取り上げたいと思います。また、講義中に適宜指名して質問を行うことがあります。どのような回答をしていただいても構いませんので、積極的にご回答下さい。

基　礎　科　目

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ⅰa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	神崎　舞
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業では、基本的な文法事項を確認しながら、ペア・プラクティスやロールプレイなどを通して、総合的な英語力（リーディング、スピーキング、リスニング、ライティングなど）を伸ばすことを目指します。また、TOEIC などの資格試験のスコアを上げるため、語彙力も身につけていきます。
到達目標	語彙を増やしながら、総合的な英語力を養うことを目指します。
授業方法と留意点	ペア・プラクティスなどのアクティビティを通して、語彙や慣用的な表現を学び、同時に基本的な文法事項も確認していきます。また、法学部実施の「統一単語テスト」に備え、毎回授業中に単語小テストを行います。
科目学習の効果（資格）	英語の資格試験に必要となる基礎的な英語力を伸ばすこと。TOEIC テストに役立つ語彙力を身につけること。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の進め方の説明	指定された箇所を予習しておくこと。また、単語集の指定された箇所を暗記すること。
2	Unit1: Nice to Meet You	文型について学ぶ。 単語小テスト	同上
3	Unit2: Making a Delicious Dish (1)	自動詞と他動詞について学ぶ。 単語小テスト	同上
4	Unit2: Making a Delicious Dish (2)	自動詞と他動詞について学ぶ。 単語小テスト	同上
5	Unit3: What Kind of Activities Do You Do? (1)	現在形と頻度について学ぶ。 単語小テスト	同上
6	Unit3: What Kind of Activities Do You Do? (2)	現在形と頻度について学ぶ。 単語小テスト	同上
7	Unit4: Going to a Desert Island (1)	名詞と代名詞について学ぶ。 単語小テスト	同上
8	Unit4: Going to a Desert Island (2)	名詞と代名詞について学ぶ。 単語小テスト	同上
9	Unit5: Describing My Dear Room (1)	前置詞について学ぶ。 単語小テスト	同上
10	Unit5: Describing My Dear Room (2)	前置詞について学ぶ。 単語小テスト	同上
11	Unit6: How to Stay Healthy (1)	助動詞について学ぶ。 単語小テスト	同上
12	Unit6: How to Stay Healthy (2)	助動詞について学ぶ。 単語小テスト	同上
13	Unit7: Traveling around Japan (1)	不定詞と動名詞について学ぶ。 単語小テスト	同上
14	Unit7: Traveling around Japan (2)	不定詞と動名詞について学ぶ。 単語小テスト	同上
15	Review and Test	復習とテストを行う。	同上

関連科目：すべての英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Locomotion	JACET 教材開発研究会	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

評価方法（基準）	英語統一テスト 30%、平常点（授業に取り組む姿勢、提出物など）20%、小テスト及び期末テスト 50%で総合的に評価。
学生へのメッセージ	予習・復習を行い、根気よく英語の学習に取り組んで下さい。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　神崎研究室
備考	

科目名	英語Ⅰａ	科目名（英文）	English Ⅰa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	本多　善
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	対話形式の英文をより確実なものにするため、反復しての対話練習を行います。これにより英語の聞き取り能力向上が期待されます。 また、英語の基本となる語彙力をつけるため、毎回単語の小テストを実施し、授業では読解力も身につけます。日常会話についての英文を読み、より実用的なコミュニケーション能力と TOEIC スコアの向上を目指します。
到達目標	この授業を通して短い文章を読解する能力と英語の会話と英語構文の基礎を習得できます。また会話文の発声練習や毎回行う英単語の小テストによって大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。これらの能力を習得することによってコミュニケーションスキルに念頭を置いた各種英語資格試験や海外での英会話能力向上も期待されます。
授業方法と留意点	・毎回のレッスンでは、(1)単語テスト、(2)1 対 1 の英文を元にした対話、(3)テキスト内容把握、(4)演習問題 です。英語を声に出すトレーニングを重視し、反復練習を行いながら苦手な英語の聞き取り能力の向上を目指します。 ・辞書を引き、充分に予習をして授業に臨んでください。辞書は必ず持参すること。 ・指定の単語集を用いて毎回、授業の初めにテストをします。
科目学習の効果（資格）	TOEIC や英検など資格試験の得点アップにつながります。 基本的な対話能力が身に付きます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと英語学習の説明 Explain how to use this text book	授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明	単語帳の予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
2	Chapter0: Looking ahead（対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
3	Chapter0: Looking ahead（対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
4	Chapter1: Orientation and getting to class （対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
5	Chapter1: Orientation and getting to class （対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
6	Chapter2: In the classroom（対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
7	Chapter2: In the classroom（対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
8	Chapter3: In the cafeteria（対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
9	Chapter3: In the cafeteria（対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
10	Chapter4: On the way to school （対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
11	Chapter4: On the way to school （対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
12	Chapter5: Getting to know each other （対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の復習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
13	Chapter5: Getting to know each other （対話練習と語彙・英文読解）	例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳　ｐ．34～ｐ．67 の復習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
14	Chapter6: Working part-time （対話練習と語彙・英文読解）	例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の復習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。 次週実施するまとめ試験の試験勉強。
15	Chapter7: Talking about yourfuture （対話練習と語彙・英文読解） 期末試験	例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	単語帳の復習。 期末試験のための学習。

関連科目：その他の英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Express Yourself in English(英語で自己表現　大学英語のフレッシュスタート)	八木　克正／Richard Hodson	EIHOUSHA（英宝社）
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK（学校語彙で学ぶ TOEIC テスト）	Koji　Nishiya	Ｓｅｉｂｉｄｏ（成美堂）
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	まとめテスト 40% 授業への参加、発表、提出物 20% 単語小テスト 10% 共通評価 30%（統一英語単語テスト 30%）、 ※授業態度に問題のある場合（遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など）は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。
学生への メッセージ	英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。授業以外にも、自分の興味ある分野の英文をどんどん読んでみましょう。 全員参加で活気ある授業を創り上げましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	教科書（テキスト、単語集）、配布物（授業時に指示）、辞書を毎回必ず持参するように。

科目名	英語Ⅰａ	科目名（英文）	English Ⅰa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	籔井　恵美子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	基礎英文法、語彙力を強化し、読解力、表現力の向上を目指します。 また、日常生活の場面で用いられる実用的な英文や図表に慣れ、そこから適確な情報を得られるよう、適宜 TOEIC 関連の追加教材を用いたいと思います。
到達目標	学生は基礎的英語能力を向上することができる。
授業方法と留意点	テキストを中心に行います。辞書は必ず持参して下さい。時間内に質疑応答時間を設けます。
科目学習の効果（資格）	英検、TOEIC 受験のための基礎英語能力を養う

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概要説明	――――	――――
2	Lesson3	代名詞	演習３
3	Lesson4	代名詞	演習４
4	Lesson5	時制	演習５
5	Lesson6	時制	演習６
6	Lesson7	時制	演習７
7	Lesson8	助動詞	演習８
8	Lesson9	助動詞	演習９
9	Lesson10	態	演習１０
10	Lesson11	態	演習１１
11	Lesson12	不定詞	演習１２
12	Lesson13	不定詞	演習１３
13	Lesson3～13	Grammar Point のまとめ	授業の復習
14	総合復習	総合復習	授業の復習
15	プリント教材	TOEIC 演習	――――

関連科目：英語Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Mastering Basic English Grammar	北山長貴	成美堂
2	The 1500　Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	（小）テスト、授業中の発表、課題などを総合的に評価します。（統一英語単語テスト　３０％）
学生へのメッセージ	予習・復習は大変だと思いますが頑張ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	予習，復習は各 1 時間

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ⅰa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本　尚子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、様々な練習やアクティビティーを通して、文法、リスニング、リーディング等の英語の基礎力をしっかりと身につけることを目指します。授業はまず学生に発表してもらい、その後解説をしながら重要なポイントを確認して行きます。必ず予習をして積極的に発表するようにしてください。尚、語彙を増やすため、統一英語単語テストに備えるために毎回授業の初めに、20 個ずつの範囲で単語テストを行います。
到達目標	文法、リスニング、リーディング等の英語の基礎力を身につけることによって、英語でのコミュニケーション能力を養うこと。
授業方法と留意点	授業は学生の発表と解説という形で進めますので、必ず指定された個所を予習しておくこと、辞書を持参することが大切です。授業には積極的に取り組み、重要なポイントはきちんとメモを取ってください。授業の最後に質疑応答の時間を設けますので、その日の授業でわからなかったことは必ず質問してください。
科目学習の効果（資格）	TOEIC 等の資格試験のスコア・アップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方についての説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習
2	Personal Correspondence(1)	私信を読む上でのポイント/ 現在形・現在進行形(1)	テキストの予習と単語の学習
3	Personal Correnpondence(2)	私信を読む上でのポイント/ 現在形・現在進行形(2)	テキストの予習と単語の学習
4	Biography(1)	伝記を読む上でのポイント/過去形・過去進行形(1)	テキストの予習と単語の学習
5	Biography(2)	伝記を読む上でのポイント/ 過去形・過去進行形(2)	テキストの予習と単語の学習
6	Events & Festivals(1)	情報入手のポイント	テキストの予習と単語の学習
7	Events & Festivals(2)	情報入手のポイント/ 未来形	テキストの予習と単語の学習
8	Events & Festivals(3)	情報入手のポイント/ 未来形	テキストの予習と単語の学習
9	Directions & Locations(1)	道順の指示/ 前置詞(場所)	テキストの予習と単語の学習
10	Directions & Locations(2)	道順の指示/ 前置詞(手段・道具)	テキストの予習と単語の学習
11	Directions & Locations(3)	歴史と観光に関する文/ 前置詞(手段・道具)	テキストの予習と単語の学習
12	Occupations(1)	職業に関する文/ 代名詞	テキストの予習と単語の学習
13	Occupations(2)	職業に関する文/ 代名詞	テキストの予習と単語の学習
14	Occupations(3)	求人広告の読み方/ 再帰代名詞	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Power-Up English 〈Basic〉	Jacet リスニング研究会	南雲堂
2	学校語彙で学ぶ TOEIC テスト(単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	統一英語単語テスト 30%、まとめテスト 30%、平常点(小テスト、授業への取り組み・発表、提出物) 40%
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	事前・事後学習には 1 時間以上かけること。

科目名	英語Ｉａ	科目名（英文）	English Ｉａ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩永　道子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	基礎英文法、語彙力を強化し、読解力、表現力の向上を目指します。 また、日常生活の場面で用いられる実用的な英文や図表に慣れ、そこから適確な情報を得られるよう、適宜 TOEIC 関連の追加教材を用いたいと思います。
到達目標	平易な英文を読める読解力、語彙力をつけること。
授業方法と留意点	テキストを中心に行います。辞書は必ず持参して下さい。時間内に質疑応答時間を設けます。 指定する 150 単語について、テキストを使い語彙力の強化向上を図る。 法学部として実施する「統一英語単語テスト」を受験すること。
科目学習の効果（資格）	英検、TOEIC 受験のための基礎英語能力を養う ＴＯＥＩＣテストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業方針の説明と第１章前半　「ジョン・レノン、Imagineに込めたメッセージ	Chapter 1　Message from John Lennon	学生へのメッセージに記載のとおり
2	第１章後半と小テスト	Chapter 1	学生へのメッセージに記載のとおり
3	第２章前半　「ソフィーの世界、１４歳の少女とたどる哲学ファンタジー」	Chapter 2　Sophie's World	学生へのメッセージに記載のとおり
4	第２章後半と小テスト	Chapter 2	学生へのメッセージに記載のとおり
5	第３章前半　「冥王星が惑星の地位を剥奪された理由」	Chapter 3　Pluto Demoted Under New Definition of Planet	学生へのメッセージに記載のとおり
6	第３章後半と小テスト」	Chapter 3	学生へのメッセージに記載のとおり
7	第４章前半　「ダライ・ラマへのインタビュー」	Chapter 4　The Dalai Lama Interview	学生へのメッセージに記載のとおり
8	第４章後半と小テスト	Lesson 4	学生へのメッセージに記載のとおり
9	第５章前半　「古代エジプト、数の世界」	Chapter 5　Egyptian Math	学生へのメッセージに記載のとおり
10	第５章後半と小テスト	Lesson 5	学生へのメッセージに記載のとおり
11	第６章前半　「従順ならざる日本人、白洲次郎の手紙」	Chapter 6　The Jeep Way Letter from Shirasu to General Whitney	学生へのメッセージに記載のとおり
12	第６章後半と小テスト	Lesson 6	学生へのメッセージに記載のとおり
13	総合復習	前期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり
14	総合復習	前期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり
15	総合復習	前期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり

関連科目：英語ＩＩ、英語ＩＩＩ、英語ＩＶ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Wisdom Explorer	岩永道子、上村淳子、吉田澄子、吉岡みのり	朝日出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	（小）テスト、授業中の発表、課題などを総合的に評価します。 評価には「統一英語単語テスト」の結果を 30%組み入れる。
学生へのメッセージ	予習・復習は大変だと思いますが頑張ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ⅰa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ⅰ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷　継治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校までに学習した英文法の復習と同時に、それに関連するTOEICテストのテーマの学習を通して、TOEICテストに慣れ親しむ。授業では４技能のうち特にリーディング力、リスニング力の向上に力を入れる。語彙については補助テキストから単語テストを行う。 教科書は実際に報道された英字新聞の記事を用いたもので、教育・文化・科学・天災・スポーツと多岐にわたる、最新の話題を含む。受講生は、時事問題に触れると同時に国際感覚を養ってほしい。英文も大学生にふさわしいレベルとなっており、実践的、総合的な英語の運用能力の訓練になるだろう。
到達目標	英字新聞を読めるようになら、TOEICテストになれ親しむようになることを到達目標とします。
授業方法と留意点	１回の授業で、教科書の1Unitを学習する。教科書については、本文の和訳だけでなく、文法事項の復習、語彙の習得にも重点を置く。必要に応じてプリント等（教員から配布）も使用する。毎回の授業時間内(終了前)に質問時間をとるので、積極的に活用してほしい。授業の前後には、必ず予習、復習することが必要である。 大体５課ごとに理解度を確認するために小テストを行う。授業の冒頭で、TOEIC対策として単語テストも行う。授業にはできるだけ辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	さまざまな分野の優れた英文に触れ、視野を広げる。 文法力と読解力を向上させる。 TOEICテストに慣れ親しむ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。また、教科書の構成を紹介する。	教科書Unit 1の予習。
2	Unit 1: Silk Road added up World Heritage list	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P.1-6 単語：NO.1-30
3	Unit 2: U.K.court: Richard III to be buried in Leicester	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 7-12 単語：NO.21-50
4	Unit 3: Skeleton sheds light on 1st Americans	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 13-18 単語：NO.41-70
5	Unit 4: Pope Francis hosts prayer summit	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 19-24 単語：NO.61-90
6	Unit 5: U.S. to curb land mines, aiming to join global treaty	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 25-30 単語：NO.81-110
7	教科書 Unit 1-5　テスト	Unit 1～5までの内容について小テストを行う。	Unit 1-5 テスト勉強
8	中間試験解説及び評価	演習	単語：NO.101-130
9	Unit 6: Female-named hurricanes 'deadlier'	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P.　31-36 単語：NO.121-150
10	Unit 7: Subs make big impact right to the end	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 37-42 単語：NO.141-170
11	Unit 8: 'Virtual house calls' gaining interest in the U.S.	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 43-48 単語：NO.161-190
12	Unit 9: Bat maker to the stars announces retirement	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 49-54 単語：NO.181-210
13	Unit 10: South Sudan faces famine crisis	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 55-60 単語：NO.201-230
14	教科書　Unit 6-10 復習	単語小テスト及び教科書復習	Unit 6-10 復習 単語：NO.221-248
15	教科書Unit 6-10 テスト	Unit 6～10 までの内容について小テストを行う。	Unit 6-10 テスト勉強

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Meet the World: English through Newspapers 2015	Yasuhiko Wakaari	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席は毎回とり、４回以上欠席した場合は単位を認定しない。教科書に関して各学期中に合計２回の小テストを行い、定期試験は実施しない。成績は、予習状況を含む平常点(30%)、TOEIC単語テスト(30%)、小テスト(40%)、で評価する。
学生へのメッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	７号館２階 非常勤講師室
備考	

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ⅰa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松下　乃亜
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	総合的な英語運用能力の土台となる基礎英文法を重点的に学びます。教科書または配布プリントを使用し、学習した文法事項を実際のシチュエーションで使用することを意識しながら学習し、使える英語の習得を目指します。 学科の学習・教育到達目標との対応:
到達目標	初級レベルの聴解力、読解力、コミュニケーション力を習得し、英語資格試験のスコアアップを目指します。
授業方法と留意点	毎回の授業で、単語テストを実施します。小テスト、グループの発表を行います。 復習課題を指示しますので、必ず辞書を丁寧に調べて取り組んだ上で授業に出席してください。
科目学習の効果（資格）	英語資格試験に備えた基本的語彙の習得。 基礎英文法の理解と習得。 初級レベルの聴解力、読解力、コミュニケーション力の伸長。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業方法（小テスト実施、予習・復習課題等）の説明 単語の勉強方法	可能なら中学・高校で学習した英文法の復習
2	Unit 1 Be 動詞の現在形と過去形	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 １～４ページ	教科書　１～４ページ 単語集　単語番号 0001～0020
3	Unit 2 命令文	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ５～８ページ	教科書　５～８ページ 単語集　単語番号 0021～0040
4	Unit 3　現在形と現在進行形	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ９～１２ページ	教科書　９～１２ページ 単語集　単語番号 0021～0060
5	Unit 4 代名詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 １３～１６ページ	教科書　１３～１６ページ 単語集　単語番号 0061～0080
6	Review Test	復習と小テスト	教科書　１～１６ページ 単語集　単語番号 0081～0100
7	Unit 5 過去形と過去進行形	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 １７～２０ページ	教科書　１７～２０ページ 単語集　単語番号 0101～0120
8	Unit 6 過去形と現在完了	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ２１～２４ページ	教科書　２１～２４ページ 単語集　単語番号 0121～0140 発表のプリント提出
9	Unit 7 時を表す前置詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ２５～２８ページ	教科書　２５～２８ページ 単語集　単語番号 0141～0160
10	Unit 8 数えられる名詞と数えられない名詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ２９～３２ページ	教科書　２９～３２ページ 単語集　単語番号 0161～0180
11	Presentation	発表	教科書　１７～３２ページ 単語集　単語番号 0181～0200
12	Unit 9 be going to と will	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ３３～３６ページ	教科書　３３～３６ページ
13	Unit 10 助動詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ３７～４０ページ	教科書　３７～４０ページ
14	Unit 11 等位接続詞と２語で成り立つ接続詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ４１～４４ページ	教科書　４１～４４ページ
15	Unit 12 Yes-No 疑問文 リスニング day	英文リスニング	教科書　４５～４８ページ

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Upload	Robert Hickling／Satsuki Osaki	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Nishiya Koji	成美堂
3	プリント配布		

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 中学、高校で使用した文法書 / / 2 / 辞書 / / 3 / / /
評価方法 （基準）	TOEIC　ブリッジ　20% 統一英単語テスト　10% 期末試験 30% 小テスト 20% 平常点（単語テスト、課題等）　20%　欠席は３回までを評価基準とします。遅刻は三回で欠席一回。居眠り、私語、携帯電話の使用などは教室に来ていても欠席扱いとします。
学生への メッセージ	新たに覚えた英単語・文法事項を実際のシチュエーションで使用することを意識しながら勉強してください。たとえば、２～３文の短い文章でもよいので、毎日英語で日記を書いてみたり、自分の興味のある事を英語で読んだり、聴いたりする習慣をつけて下さい。楽しみながら学習しましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ⅰa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　茂寿
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ英語を文法を中心にもう一度復習し、更なる語彙力、文法力の養成を目標とする。時間があれば教科書以外に英語の資格検定などの練習問題を用いて更なる知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。また、授業計画は進度によって変わる場合がある。
到達目標	今まで持っている英語力の更なる強化を目指そう。
授業方法と留意点	簡単な文法問題を中心にしたテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。授業計画は進度によって変わる場合がある。 指定する 200 単語について、テキストを使い語彙力の強化向上を図る。 法学部として実施する「統一英語単語テスト」を受験すること。
科目学習の効果（資格）	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 ＴＯＥＩＣテストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	――――
2	Unit1	be 動詞、現在	教科書 p. 6-9
3	Unit2	一般動詞,、現在	教科書 p. 10 - 13
4	Unit3	多様な疑問文	教科書 p. 14-17
5	Unit4	be 動詞、過去	教科書 p. 18-21
6	Unit5	一般動詞、過去	教科書 p. 22-25
7	Unit6	特殊な文	教科書 p. 26-29
8	Unit 7	未来形	教科書 p. 30-33
9	Unit8	進行形	教科書 p. 34-37
10	Unit9	助動詞	教科書 p. 38-41
11	Unit10	英文の型	教科書 p. 42-45
12	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	
14	総合復習１	定期試験対策	――――
15	総合復習２	定期試験対策	――――

関連科目：英語Ⅰc

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Steps to English Grammar　カレッジ英文法入門	大坂四郎	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test　学校語彙で学ぶ TOEIC テスト（単語集）	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、提出物、定期試験の点数を総合評価する。また、日頃の授業態度も重視する。 評価には、「統一英語単語テスト」の結果を 30%組み入れる。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ⅰb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	神崎　舞
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業では、基本的な文法事項を確認しながら、ペア・プラクティスやロールプレイなどを通して、総合的な英語力（リーディング、スピーキング、リスニング、ライティングなど）を伸ばすことを目指します。また、TOEIC などの資格試験のスコアを上げるため、語彙力も身につけていきます。
到達目標	語彙を増やしながら、総合的な英語力を養うことを目指します。
授業方法と留意点	ペア・プラクティスなどのアクティビティを通して、語彙や慣用的な表現を学び、同時に基本的な文法事項も確認していきます。また、法学部実施の「統一単語テスト」に備え、毎回授業中に単語小テストを行います。
科目学習の効果（資格）	英語の資格試験に必要となる基礎的な英語力を伸ばすこと。TOEIC テストに役立つ語彙力を身につけること。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit8: Let's Have a Party! (1)	現在分詞について学ぶ。 単語小テスト	指定された箇所を予習しておくこと。また、単語集の指定された箇所を暗記すること。
2	Unit8: Let's Have a Party! (2)	現在分詞について学ぶ。 単語小テスト	同上
3	Unit9: This Window Was Broken (1)	過去分詞について学ぶ。 単語小テスト	同上
4	Unit9: This Window Was Broken (2)	過去分詞について学ぶ。 単語小テスト	同上
5	Unit10: Have You Ever Seen a Curling Game? (1)	現在完了形について学ぶ。 単語小テスト	同上
6	Unit10: Have You Ever Seen a Curling Game? (2)	現在完了形について学ぶ。 単語小テスト	同上
7	Unit11: Going to a Flea Market (1)	形容詞と比較について学ぶ。 単語小テスト	同上
8	Unit11: Going to a Flea Market (2)	形容詞と比較について学ぶ。 単語小テスト	同上
9	Unit12: The Deadline is Tomorrow. (1)	関係代名詞について学ぶ。 単語小テスト	同上
10	Unit12: The Deadline is Tomorrow. (2)	関係代名詞について学ぶ。 単語小テスト	同上
11	Unit13: How Far Is It from Campus? (1)	「それは」と訳さない It について学ぶ。 単語小テスト	同上
12	Unit13: How Far Is It from Campus? (2)	「それは」と訳さない It について学ぶ。 単語小テスト	同上
13	Unit14: I Wish I Could Win the Lottery. (1)	仮定法について学ぶ。 単語小テスト	同上
14	Unit14: I Wish I Could Win the Lottery. (2)	仮定法について学ぶ。 単語小テスト	同上
15	Review and Test	復習とテストを行う。	同上

関連科目：すべての英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Locomotion	JACET 教材開発研究会	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

評価方法（基準）	英語統一テスト 30%、平常点（授業に取り組む姿勢、提出物など）20%、小テスト及び期末テスト 50%で総合的に評価。
学生へのメッセージ	予習・復習を行い、根気よく英語の学習に取り組んで下さい。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　神崎研究室
備考	

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ⅰb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	本多　善
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	対話形式の英文をより確実なものにするため、反復しての対話練習を行います。これにより英語の聞き取り能力向上が期待されます。 また、英語の基本となる語彙力をつけるため、毎回単語の小テストを実施し、授業では読解力も身につけます。日常会話についての英文を読み、より実用的なコミュニケーション能力と TOEIC スコアの向上を目指します。
到達目標	この授業を通して短い文章を読解する能力と英語の会話と英語構文の基礎を習得できます。また会話文の発声練習や毎回行う英単語の小テストによって大学生にとって必要不可欠な英語の語彙力が強化されます。これらの能力を習得することによってコミュニケーションスキルに念頭を置いた各種英語資格試験や海外での英会話能力向上も期待されます。
授業方法と留意点	・毎回のレッスンでは、(1)単語テスト、(2)1 対 1 の英文を元にした対話、(3)テキスト内容把握、(4)演習問題 です。英語を声に出すトレーニングを重視し、反復練習を行いながら苦手な英語の聞き取り能力の向上を目指します。 ・辞書を引き、充分に予習をして授業に臨んでください。辞書は必ず持参すること。 ・指定の単語集を用いて毎回、授業の初めにテストをします。
科目学習の効果（資格）	TOEIC や英検など資格試験の得点アップにつながります。 基本的な対話能力が身に付きます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	後期英語学習の説明、各学生の学習目標	授業方法、成績評価等の説明、効果的英語学習の方法	次回単語テストの予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
2	Chapter8: A summer trip to London （対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	次回単語テストの予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
3	Chapter8: A summer trip to London （対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	次回単語テストの予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
4	Chapter9: A summer trip to London （対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	次回単語テストの予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
5	Chapter9: A summer trip to London （対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	次回単語テストの予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
6	Chapter10: A summer trip to London （対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	次回単語テストの予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
7	Chapter10: A summer trip to London （対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	次回単語テストの予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
8	Chapter11: Introduction Japan to overseas friends（対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	次回単語テストの予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
9	Chapter11: Introduction Japan to overseas friends（対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	次回単語テストの予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
10	Chapter12: Introduction Japan to overseas friends（対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	次回単語テストの予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
11	Chapter12: Introduction Japan to overseas friends（対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	次回単語テストの予習。 教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
12	Chapter13: Introduction Japan to overseas friends（対話練習と語彙・英文読解）	単語テスト 例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
13	Chapter13: Introduction Japan to overseas friends（対話練習と語彙・英文読解）	例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
14	Chapter14: Review （対話練習と語彙・英文読解）	例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	教科書の対話練習と英文読解の復習、辞書を引いての予習。
15	まとめテスト Chapter14: Review （対話練習と語彙・英文読解） 学習範囲の総復習	例文暗唱、対話練習、テキスト音読、英文読解、問題演習。	まとめ試験のための学習。後期講義内容の復習。

関連科目：その他の英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Express Yourself in English(英語で自己表現　大学英語のフレッシュスタート)	八木　克正／Richard Hodson	EIHOUSHA(英宝社)
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK（学校語彙で学ぶ TOEIC テスト）	Koji　Nishiya	Seibido(成美堂)
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	まとめテスト 40% 授業への参加、発表、提出物 20% 単語小テスト 10% 共通試験 30%（統一英語単語テスト 30%） ※授業態度に問題のある場合（遅刻、居眠り、飲食、私語、携帯電話の使用など）は、教室に来ていても「欠席」扱いとします。
学生への メッセージ	英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。授業以外にも、自分の興味ある分野の英文をどんどん読んでみましょう。 全員参加で活気ある授業を創り上げましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	教科書（テキスト、単語集）、配布物（授業時に指示）、辞書を毎回必ず持参するように。

科目名	英語Ｉｂ	科目名（英文）	English Ｉb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	籔井　恵美子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	基礎英文法、語彙力の強化をし、読解力、表現力の向上を目指します。 また、日常生活の場面で用いられる実用的な英文や図表に慣れ、そこから適確な情報を得られるよう、適宜 TOEIC 関連の追加教材を用いたいと思います。
到達目標	学生は基礎的英語能力を向上することができる.
授業方法と留意点	テキストを中心に行います。辞書を持参して下さい。時間内に質疑応答時間を設けます。 指定する 150 単語について、テキストを使い語彙力の強化向上を図る。 法学部として実施する「統一英語単語テスト」を受験すること。
科目学習の効果（資格）	英検、TOEIC 受験のための基礎英語能力を養う TOEIC テストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概要説明	――――	――――
2	Lesson１４	分詞	演習１４
3	Lesson１５	分詞	演習１５
4	Lesson１６	動名詞	演習１６
5	Lesson１７	動名詞	演習１７
6	Lesson１８	形容詞	演習１８
7	Lesson１９	比較	演習１９
8	Lesson２０	比較	演習２０
9	Lesson２１	関係詞	演習２１
10	Lesson２２	関係詞	演習２２
11	Lesson２３	仮定法	演習２３
12	Lesson２４	仮定法	演習２４
13	Lesson１４－２４	Grammar Point の復習	授業の復習
14	総合復習	総合復習	――――
15	プリント教材	TOEIC 演習	――――

関連科目：英語Ｉ、英語ＩＩＩ、英語ＩＶ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Mastering Basic English Grammar	北山長貴	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	（小）テスト、授業中の発表、課題などを総合的に評価します。 評価には、統一英語単語テストの結果を３０％組み入れる。
学生へのメッセージ	多くの英文を読みたいと思います。 予習・復習は大変だと思いますが、頑張ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　（非常勤講師室）
備考	予習，復習は毎回 1 時間

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ⅰb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山本　尚子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、様々な練習やアクティビティーを通して、文法、リスニング、リーディング等の英語の基礎力をしっかりと身につけることを目指します。授業はまず学生に発表してもらい、その後解説をしながら重要なポイントを確認して行きます。必ず予習をして積極的に発表するようにしてください。尚、語彙を増やすため、統一英語単語テストに備えるために毎回授業の初めに、20 個ずつの範囲で単語テストを行います。
到達目標	文法、リスニング、リーディング等の英語の基礎力を身につけることによって、英語でのコミュニケーション能力を養うこと。
授業方法と留意点	授業は学生の発表と解説という形で進めますので、必ず指定された個所を予習しておくこと、辞書を持参することが大切です。授業には積極的に取り組み、重要なポイントはきちんとメモを取ってください。授業の最後に質疑応答の時間を設けますので、その日の授業でわからなかったことは必ず質問してください。
科目学習の効果（資格）	TOEIC 等の資格試験のスコア・アップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit-10 までの内容の再確認、プリント教材	テキストの Unit-10 までの内容の再確認、プリント教材を使った課題	テキストの予習
2	Instructions	取扱説明書を読む上でのポイント/ 命令文	テキストの予習と単語の学習
3	Health & Physical Condition	健康・医療に関する文/ Yes/No Questions	テキストの予習と単語の学習
4	Service Requests	用紙に必要事項を記入する上でのポイント/ 現在完了	テキストの予習と単語の学習
5	Special Orders	注文書などの読み書きのポイント/ 疑問詞を用いた疑問文	テキストの予習と単語の学習
6	Money	金銭に関する表現を読む上でのポイント/ how を用いた疑問文	テキストの予習と単語の学習
7	Public Signs	掲示の読み方/ 助動詞	テキストの予習と単語の学習
8	Sports	スポーツに関する文を読む上でのポイント/ 助動詞	テキストの予習と単語の学習
9	History(1)	歴史を読む上でのポイント/ 受動態	テキストの予習と単語の学習
10	History(2)	歴史を読む上でのポイント/ 受動態	テキストの予習と単語の学習
11	Sightseeing(1)	旅行に関する表現のポイント/ 原級・比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習
12	Sightseeing(2)	旅行に関する表現のポイント/ 原級・比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習
13	Science(1)	科学関係の文を読む上でのポイント/ 比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習
14	Science(2)	科学関係の文を読む上でのポイント/ 比較級・最上級	テキストの予習と単語の学習
15	まとめテスト、復習	まとめテスト及びこれまでの内容の復習	テキストのこれまでの内容の復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Power-Up English 〈Basic〉	Jacet リスニング研究会	南雲堂
2	学校語彙で学ぶ TOEIC テスト(単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	統一英語単語テスト 30%、まとめテスト 30%、平常点(小テスト、授業への取り組み・発表、提出物) 40%
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習しておくことを心がけてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	事前・事後学習には 1 時間以上かけること。

科目名	英語Ｉｂ	科目名（英文）	English Ｉb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩永　道子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	基礎英文法、語彙力の強化をし、読解力、表現力の向上を目指します。 また、日常生活の場面で用いられる実用的な英文や図表に慣れ、そこから適確な情報を得られるよう、適宜 TOEIC 関連の追加教材を用いたいと思います。
到達目標	平易な英文の読解力と語彙力をつけること。
授業方法と留意点	テキストを中心に行います。辞書を持参して下さい。時間内に質疑応答時間を設けます。 指定する 150 単語について、テキストを使い語彙力の強化向上を図る。 法学部として実施する「統一英語単語テスト」を受験すること。
科目学習の効果（資格）	英検、TOEIC 受験のための基礎英語能力を養う TOEIC テストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第７章前半　「太古の大陸は１つだった、ウェゲナーの大陸移動説」	Chapter 7　Wegener's Continental Drift	学生へのメッセージに記載のとおり
2	第７章後半と小テスト	Chapter 7	学生へのメッセージに記載のとおり
3	第８章前半　「ムハマド・ユヌス博士のノーベル平和賞受賞演説」	Chapter 8　Nobel Lecture by Muhammad Yunus	学生へのメッセージに記載のとおり
4	第８章後半と小テスト	Chapter 8	学生へのメッセージに記載のとおり
5	第９章前半　「感情についての科学的分析」	Chapter 9　Emotion	学生へのメッセージに記載のとおり
6	第９章後半と小テスト	Chapter 9	学生へのメッセージに記載のとおり
7	第１０章前半　「戦場のピアニスト、究極の調べ」	Chapter 10　The Pianist	学生へのメッセージに記載のとおり
8	第１０章後半と小テスト	Lesson 10	学生へのメッセージに記載のとおり
9	第１１章前半　「ミトコンドリア・イブ、人類はたった１人のアフリカ人女性にたどり着く」	Chapter 11　Mitochondrial Eve	学生へのメッセージに記載のとおり
10	第１１章後半と小テスト	Lesson 11	学生へのメッセージに記載のとおり
11	第１２章前半　「世界を『無』から救う、終りのない物語」	Chapter 12　The Neverending Story	学生へのメッセージに記載のとおり
12	第１２章後半と小テスト	Lesson 12	学生へのメッセージに記載のとおり
13	総合復習	後期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり
14	総合復習	後期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり
15	総合復習	後期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり

関連科目：英語Ｉ、英語ＩＩＩ、英語ＩＶ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Wisdom Explorer	岩永道子、上村淳子、吉田澄子、吉岡みのり	朝日出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	（小）テスト、授業中の発表、課題などを総合的に評価します。 評価には、統一英語単語テストの結果を３０％組み入れる。
学生へのメッセージ	多くの英文を読みたいと思います。 予習・復習は大変だと思いますが、頑張ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ⅰb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ⅰ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷　継治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

高校までに学習した英文法の復習と同時に、それに関連するTOEICテストのテーマの学習を通して、TOEICテストに慣れ親しむ。授業では４技能のうち特にリーディング力、リスニング力の向上に力を入れる。語彙については補助テキストから単語テストを行う。
教科書は実際に報道された英字新聞の記事を用いたもので、教育・文化・科学・天災・スポーツと多岐にわたる、最新の話題を含む。受講生は、時事問題に触れると同時に国際感覚を養ってほしい。英文も大学生にふさわしいレベルとなっており、実践的、総合的な英語の運用能力の訓練になるだろう。

到達目標

授業方法と留意点

１回の授業で、教科書の１課分を学習する。教科書については、本文の和訳だけでなく、文法事項の復習、語彙の習得にも重点を置く。必要に応じてプリント等（教員から配布）も使用する。毎回の授業時間内(終了前)に質問時間をとるので、積極的に活用してほしい。授業の前後には、必ず予習、復習することが必要である。
大体５課ごとに理解度を確認するために小テストを行う。授業の冒頭で、TOEIC対策として単語テストも行う。授業にはできるだけ辞書を持参すること。

科目学習の効果（資格）

さまざまな分野の優れた英文に触れ、視野を広げる。
文法力と読解力を向上させる。
TOEICテストに慣れ親しむ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 11: Hacker helps FBI stop 300 cyberattack	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.61-66 単語：　NO.387-416
2	Unit 12: Hanyu reflects on March 2011 disaster after win	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.67-72 単語：　NO.397-426
3	Unit 13: Daily life in Japan lures tourists	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.73-78 単語：　NO.407-436
4	Unit 14: Fierce and adorable, Domo-kun a hit overseas	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.79-84 単語：　NO.417-446
5	Unit 15: Job seekers need real vision: Entrepreneur	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.85-90 単語：　NO.427-456
6	Unit 11-15 総復習	単語小テスト及び教科書演習	教科書： 単語：　NO.437-466
7	中間テスト	Unit 11～15までの内容についてテスト	教科書： 単語：　NO.447-476
8	中間試験解説及び評	中間試験の詳しい解説	教科書：　P. 単語：　NO.457-486
9	Unit 16: Nearly bliind man to get 'bionic eye'	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P. 91-96 単語：　NO.467-496
10	Unit 17: Japanese smartphones makinng headway overseas	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.97-102 単語：　NO.477-506
11	Unit 18: Tablets a hit with kids, but experts worry	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.103-108 単語：　NO.487-516
12	Unit 19: New Hello Work helps young find regular jobs	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.109-114 単語：　NO.497-526
13	Unit 20：Germany stops job program for unemployed EU youth	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.115-120 単語：　NO.507-523
14	Unit16-20 総復習	Unit16-20 総復習	教科書Unit 16～20までの復習
15	Unit 16-20 テスト	Unit 16～20までの内容についてテストを行う	Unit16-20 テスト勉強

関連科目

特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Meet the World: English through Newspapers 2015	Yasuhiko Wakaari	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

出席は毎回とり、４回以上欠席した場合は単位を認定しない。教科書に関して各学期中に合計２回の小テストを行い、定期試験は実施しない。成績は、予習状況を含む平常点(30%)、TOEIC単語テスト(30%)、小テスト(40%)、で評価する。

学生へのメッセージ

この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。

担当者の研究室等

７号館２階 非常勤講師室

備考

科目名	英語Ｉｂ	科目名（英文）	English Ｉb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松下　乃亜
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	総合的な英語運用能力の土台となる基礎英文法を重点的に学びます。教科書または配布プリントを使用し、学習した文法事項を実際のシチュエーションで使用することを意識しながら学習し、使える英語の習得を目指します。 学科の学習・教育到達目標との対応：
到達目標	初級レベルの聴解力、読解力、コミュニケーション力を習得し、英語資格試験のスコアアップを目指します。
授業方法と留意点	毎回の授業で、単語テストを実施します。小テストとグループ発表を行います。 復習課題を指示しますので、必ず辞書を丁寧に調べて取り組んだ上で授業に出席してください。
科目学習の効果（資格）	英語資格試験に備えた基本的語彙の習得。 基礎英文法の理解と習得。 初級レベルの聴解力、読解力、コミュニケーション力の伸長。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業方法（小テスト実施、予習・復習課題等）の説明 単語の勉強方法 前期の復習	前期に学習した英文法の復習
2	Unit 13 場所と移動を表す前置詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　４９～５２ページ	教科書　４９～５２ページ 単語集　単語番号　0401-0420
3	Unit 14　Wh-疑問文	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　５３～５６ページ	教科書　５３～５６ページ 単語集　単語番号　0421-0440
4	Unit 15　a, an, the / one と ones	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　５７～６０ページ	教科書　５７～６０ページ 単語集　単語番号　0441-0460
5	Unit 16 他動詞と自動詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　６１～６４ページ	教科書　６１～６４ページ 単語集　単語番号　0461-0480
6	Review Test	小テスト	教科書　４９～６４ページ 単語集　単語番号　0481-0500
7	Unit 17 能動態と受動態	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　６５～６８ページ	教科書　６５～６８ページ 単語集　単語番号　0501-0520
8	Unit 18 形容詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　６９～７２ページ	教科書　６９～７２ページ 単語集　単語番号　0521-0540 発表のプリントの提出
9	Unit 19 動名詞と不定詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　７３～７６ページ	教科書　７３～７６ページ 単語集　単語番号　0541-0560
10	Unit 20 形容詞の比較級と最上級	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　７７～８０ページ	教科書　７７～８０ページ 単語集　単語番号　0561-0580
11	Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ	発表	教科書　６５～８０ページ 単語集　単語番号　0581-0600
12	Unit 21 副詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　８１～８４ページ	教科書　８１～８４ページ
13	Unit 22 従位接続詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　８５～８８ページ	教科書　８５～８８ページ
14	Unit 23 関係詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　８９～９２ページ	教科書　８９～９２ページ
15	Unit 24　So do I. や Neither do I. などの表現 Listening Day	Listening 中心のクラス	教科書　８９～９２ページ

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Upload	Robert　Hickling　／　Satsuki	金星堂

		Onishi	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Koji Nishiya	成美堂
3	プリント配布		

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学、高校で使用した文法書		
2	辞書		
3			

評価方法（基準）

統一英単語テスト　20%
期末試験 30%
小テスト 20%
平常点（単語テスト、課題等）　30%　欠席は三日までを評価基準とします。遅刻は三回で欠席一回。居眠り、私語、携帯電話の使用などは教室に来ていても欠席扱いとします。

学生へのメッセージ

新しく覚えた英単語・文法事項を実際のシチュエーションで使用することを意識しながら勉強してください。たとえば、２～３文の短い文章でもよいので、毎日英語で日記を書いてみたり、自分の興味のある事を英語で読んだり、聴いたりする習慣をつけて下さい。楽しみながら学習をしましょう。

担当者の研究室等

7 号館 2 階（非常勤講師室）

備考

科目名	英語Ｉｂ	科目名（英文）	English Ｉb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　茂寿
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ英語を文法を中心にもう一度復習し、更なる語彙力、文法力の養成を目標とする。時間があれば教科書以外に英語の資格検定などの練習問題を用いて更なる知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。また、授業計画は進度によって変わる場合がある。
到達目標	今まで持っている英語力の更なる強化を目指そう。
授業方法と留意点	簡単な文法問題を中心にしたテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。授業計画は進度によって変わる場合がある。 指定する 200 単語について、テキストを使い語彙力の強化向上を図る。 法学部として実施する「統一英語単語テスト」を受験すること。
科目学習の効果（資格）	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 ＴＯＥＩＣテストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習及びオリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	――――
2	Unit11	受動態	教科書 p. 46-49
3	Unit12	比較	教科書 p. 50 - 53
4	Unit13	完了形	教科書 p. 54-57
5	Unit14	不定詞	教科書 p. 58-61
6	Unit15	分詞	教科書 p. 62-65
7	Unit16	動名詞	教科書 p. 66-69
8	Unit 17	節	教科書 p. 70-73
9	Unit18	関係代名詞	教科書 p. 74-77
10	Unit19	熟語の整理	教科書 p. 78-81
11	Unit20	会話文と it の用法	教科書 p. 82-85
12	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	
14	総合復習１	定期試験対策	――――
15	総合復習２	定期試験対策	――――

関連科目：英語Ｉa、英語Ｉc、英語Ｉd

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Steps to English Grammar　カレッジ英文法入門	大坂四郎	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test　学校語彙で学ぶ TOEIC テスト（単語集）	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、提出物、定期試験の点数を総合評価する。また、日頃の授業態度も重視する。 評価には、「統一英語単語テスト」の結果を 30%組み入れる。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Ｉｄ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋　章夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語を正確に読み聞きし、受信する能力を磨き、その受信した英語を応用し、書いて話せるようにする訓練をします。また、単語テストを通して、コミュニケーションに不可欠な語彙力を向上させます。また、毎回、授業の最初に、単語テストと前回の授業の復習テストを行います。
到達目標	語彙力を強化し、受信した英語を発信できるよう、基礎的な英語力を確実に身につける。
授業方法と留意点	毎回、授業の最初に小テストを行います。その後、テキストの問題に取り組みます。テキストは、２回の授業で１章進みます。各章、1回目の授業では受信（リスニング、リーディング）と文法を学習し、2回目はテーマに沿った発信（スピーキング、ライティング）の訓練を行います。前期の授業（英語Ic A）よりも、発信に重点をおいて授業を進めていきます。
科目学習の効果（資格）	英語の四技能を向上させるとともに、TOEIC受験に対応できる英語力を身に着ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の説明、前期の授業（英語Ｉc）の総復習	授業内容の復習
2	Lesson 7　健康	単語テスト Wh疑問文①	単語（601-620）の予習、及び授業内容の復習
3	Lesson 7　健康	単語テスト 病院内の様子	単語（621-640）の予習、及び授業内容の復習
4	Lesson 8　ショッピング	単語テスト Wh疑問文②	単語（641-660）の予習、及び授業内容の復習
5	Lesson 8　ショッピング	単語テスト オンラインショッピングのサイト	単語（661-680）の予習、及び授業内容の復習
6	Lesson 9　休日	単語テスト 時の表現	単語（681-700）の予習、及び授業内容の復習
7	Lesson 9　休日	単語テスト バスツアーのサイト	単語（701-720）の予習、及び授業内容の復習
8	Unit 7-9まとめ、小テスト	単語テスト 復習と小テスト	単語（721-740）の予習、及び授業内容の復習
9	Lesson 10　大学生活	単語テスト 助動詞	単語（741-760）の予習、及び授業内容の復習
10	Lesson 10　大学生活	単語テスト メール	単語（761-780）の予習、及び授業内容の復習
11	Lesson 11　世界の国々	単語テスト 比較級と最上級	単語（781-800）の予習、及び授業内容の復習
12	Lesson 11　世界の国々	世界地図	授業内容の復習
13	Lesson 12　海外旅行	ヨーロッパ地図	授業内容の復習
14	Lesson 12　海外旅行	ヨーロッパ地図	授業内容の復習
15	Unit 10-12 まとめ、小テスト	復習と小テスト	授業内容の復習

関連科目：英語Ｉc

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Make It Simple	森田和子	三修社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	統一単語テスト30%、平常点（単語テスト+授業中課題）30%、小テスト40%
学生へのメッセージ	英語を習得するには、日々の積み重ねが大切です。授業時間のみならず、意識的に英語に触れる機会を増やすよう試みてください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Ｉｄ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本　好一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	英語力向上にはこれまでの中学高校レベルの復習も欠かすことはできません。　特に、資格（TOEIC, 英検など）取得には読み書き、英文法のみならず、リスニングにも重点を置く必要があるので、毎回の授業で取り組みます。　聴解力がつくのを実感できますが、前向きに学習することが大前提です。　資格取得に向けて前向きに受験してください。　また授業担当者がアメリカで経験したことも写真で紹介することもあります。
到達目標	基礎的なリスニング力、語彙力、文法知識の習得を目標とする。英語資格試験に積極的に挑戦すること。
授業方法と留意点	読解、文法問題集、ディクテーションなどを多用し、語彙の習得、文法力向上、聴解力向上を図る。　中高で英語に苦手意識を持った学生も初心に帰り、学習して欲しい。
科目学習の効果（資格）	TOEIC の得点向上が期待できるので積極的に受験して欲しい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記６０１－６１６
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記６１７－６３２
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記６３３－６４８
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記６４９－６６４
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記６６５－６８０
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記６８１－６９６
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記６９７－７１２
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記７１３－７２８
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記７２９－７４４
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記７４５－７６０
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記７６１－７７６
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記７７７－７９２
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記７９３－８００
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9－14 回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目	他の全ての英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner To Power-Up English ISBN-13: 978-4523176244	JACET　リスニング研究会	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Ｔｈｅ １５００ Ｃｏｒｅ Ｖｏｃａｂｕｌａｒｙ ｆｏｒ ｔｈｅ ＴＯＥＩＣ Ｔｅｓｔ 単語集	西谷恒志	成美堂
2			
3			

評価方法（基準）	担当教員の評価 70%、統一英語単語テスト 30%で全体の評価を行う。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Ｉｄ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　健二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業では英語文法の総復習をおこなう。それと同時にやさしく書かれた英文を読み取り、内容把握のスピードをあげる訓練をおこなう。読み物の英語レベルは徐々に高くしてゆき、文法知識に裏打ちされた英文読解の質を高めてゆく。ジャーナリズム英語としての英字新聞にもチャレンジする。 単語学習もおろそかにせず、英語語彙力を高める地道な努力を継続する。
到達目標	英語学習の中の文法知識を正確にする。練習問題を多くこなし、英語の正確な理解ができるようにする。 英文は文脈に応じた柔軟な理解ができ、直訳による不自然な英文理解を修正してゆく。
授業方法と留意点	教科書の学習が中心となる。余裕がでてきたら英字新聞にも挑戦しよう。テキストと辞書を毎回持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC 得点向上。英検の資格取得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	不定詞	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること
2	動名詞	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 601-620 番まで
3	動名詞	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 621-640 番まで
4	動名詞	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 641-660 番まで
5	分詞	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 661-680 番まで
6	分詞	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 681-700 番まで
7	分詞	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 701-720 番まで
8	分詞	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 721-740 番まで
9	比較	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 741-760 番まで
10	比較	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 761-780 番まで
11	比較	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 781-800 番まで
12	関係詞	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること
13	関係詞	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること
14	関係詞	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること
15	仮定法	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Framework English Grammar in 23 Lessons (7th edition)	桐原書店編集部	桐原書店
2	What's Up? Elementary	Muroi Michiko	桐原書店
3	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験、単語テスト、出席、授業態度、など総合的に判断する。
学生へのメッセージ	頑張りましょう。
担当者の研究室等	７号館３階。田中健二研究室

備考	

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Ｉｄ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原　真由美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

　このクラスでは、基礎英文法を定着させ、それを駆使した読解力の向上を養う。英文法の基礎的な知識を確実に身につけることで、英語を読む力の向上につなげていく。

　また単語集を使い語彙力の向上を図る。　範囲　pp.102-135（No.0601-0800）

到達目標

文法の基礎固めをすることで正確な読解力を付けることができる。

授業方法と留意点

　毎回授業毎回授業の始めにTOEICブリッジのための単語小テストを行う。
文法事項の解説の後exerciseの答えの確認、巻末のショートリーディングを読む。（習得しにくい文法項目は、随時プリントなどで補う。）

科目学習の効果（資格）

文法の基礎を固め読解力を向上させる
TOEICテストに有効な単語の習得

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	既習文法の確認クイズ １４　分詞（１）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
2	座席を決める。 単語テスト(1) pp.102-105 １５　分詞（２）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
3	単語テスト2) pp.106-109 １６　動名詞（１）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
4	単語テスト(3)pp.110-113 １７　動名詞（２）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
5	単語テスト(4)pp.114-117 １８　形容詞	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
6	単語テスト(5)pp.118-121 １９　副詞	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
7	単語テスト(6) pp.122-125 ２０　比較（１）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
8	単語テスト(7) pp.126-129 臨時テスト（中間） ２１　比較（２）	既習内容の習熟度を確認	テスト勉強、次回の予習（文法問題、英文和訳）
9	単語テスト(8) pp.130-135 ２１　比較（２）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
10	単語テスト(2周目) (9) pp.102-109 ２２　前置詞	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
11	単語テスト(10) pp.110-117 ２３　関係詞（１）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
12	単語テスト(11) pp.118-125 ２４　関係詞（２）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
13	単語テスト（最終） (12) pp.126-135 ２５　仮定法（１）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
14	２６　仮定法（２）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
15	臨時テスト（期末）	既習内容の習熟度を確認	テスト勉強

関連科目

他の英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Refreshing English Grammar with Short Readings(「読解力をみがく基本英文法」)	福井慶一郎、北山長貴、山中マーガレット	朝日出版社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test; Word Book 1	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

共通単語試験30%、臨時テスト２回50%、平常点（発表、小テスト、授業態度）20%とし総合的に評価する。

学生へのメッセージ

予習として、文法問題を解いてくること。short readings は分らない語句の意味を調べて自分なりに訳をしてくること（分らない処はチェックを入れておき授業で確認できるように準備する）。ぼんやりと意味を取るのではなく、文法を意識した理解を心がけることが大切です。最後、意味内容がとれたら、２回は音読をして仕上げてください。
　毎回課題のチェックをします。
授業ではできるだけ多くの受講生に当たるようにする。
授業への貢献度を評価します。

担当者の 研究室等	7 号館 2 階　（非常勤講師室）
備考	授業の進度によって授業計画は多少変更になる可能性がある。

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Ｉｄ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ｅ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田村　康子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

この授業では、現代社会の最新の話題を取り上げたリーディング教材を用いて、英語の総合的な運用能力を高めることを目標とする。テキストには、スポーツ、ビジネス、テクノロジー、科学、ライフスタイル、健康問題、娯楽、ファッション、環境問題など様々な話題に関する英文が含まれている。
さらに練習問題として、英文の内容理解、語彙、文法演習、リスニングなど様々なアクティビティが盛り込まれており、これらを丁寧に行っていくことにより、英語の総合的な力が確実に身につくはずである。この授業を通して、英語の各種資格試験の点数アップを目指してもらいたい。

到達目標

リーディング教材を用いて、リスニング、ボキャブラリーを含めた英語の総合的な運用能力を高めることを目標とする。

授業方法と留意点

テキストに沿って読み進むとともに、練習問題に取り組んでいく。
法学部として実施する「統一英語単語テスト」を受験すること。

科目学習の効果（資格）

英語語彙力の増強、TOEIC のスコアアップ、英検におけるレベルアップ
ＴＯＥＩＣテストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 8: Replanting the World's Forests	リーディング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語帳
2	Unit 8: Replanting the World's Forests	リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#601-630
3	Unit 9: Adventure Tourism	リーディング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#631-660 &#603-641
4	Unit 9: Adventure Tourism	リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#661-690
5	Unit 10: The Cannes Film Festival	リーディング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#691-720&#642-680
6	Unit 10: The Cannes Film Festival	リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#721-750&#681-713
7	Unit 11: Giving Away Billions	リーディング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#751-780 &#714-753
8	復習 臨時テスト	復習 臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#781-810&#754-795
9	Unit 11: Giving Away Billions	リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#601-620&#621-640
10	Unit 12:Computer Actors	リーディング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#641-660&#661-680
11	Unit 12:Computer Actors	リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#681-700&#701-720
12	Unit 13: New York City	リーディング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#721-740&#741-760
13	Unit 13: New York City	リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#761-780&#781-800
14	Unit 14: Fresh Water: A Growing Crisis	リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。
15	まとめ	まとめ	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。

関連科目

英語Ｉ、英語ＩＩ、英語ＩＶ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Pass 2 Second Edition	Andrew E. Bennett	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

統一英語単語テスト　30%、
臨時テスト　40%、
平常点　30%

学生へのメッセージ

毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等

7 号館 2 階　（非常勤講師室）

備考

毎回授業開始時に、副読本の単語テストを行います。
単語帳#601-800

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Ｉｄ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ｉ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大江　麻里子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	英米で流行しているポップソングを聞きながら、歌詞を日本語に訳したり、リスニングを行う。また基礎的な文法事項も確認していく。また長文の読解も２週に１回実施する。
到達目標	自然な英語の発音を聞き取り、またそのように発音できるようにする。 基礎的な文法事項を理解し、英文読解力も養う。
授業方法と留意点	テキストにそってすすめていきます。必ず英語の辞書を持ってくること。毎回、単語テストを行うので、十分に準備しておくこと。
科目学習の効果（資格）	リスニング・スピーキング力の強化 文法・読解力のスキルアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の説明などをする。また簡単な英語のドリルを行う。	テキストを購入し、さっと目を通しておくこと。
2	Unit 7	I Want It That Way 単語テスト（601-617）	テキストの予習と単語テストの準備
3	Unit 8	Suddenly I See 単語テスト（618-634）	テキストの予習と単語テストの準備
4	Unit 8	Suddenly I See 単語テスト（635-651）	テキストの予習と単語テストの準備
5	Unit 9	How Am I Supposed To Live Without You? 単語テスト（652-668）	テキストの予習と単語テストの準備
6	Unit 9	How Am I Supposed To Live Without You? 単語テスト（669-685）	テキストの予習と単語テストの準備
7	Unit 10	Save The Best For Last 単語テスト（686-702）	テキストの予習と単語テストの準備
8	Unit 10	Save The Best For Last 単語テスト（703-719）	テキストの予習と単語テストの準備
9	Unit 11	Last Christmas 単語テスト（720-736）	テキストの予習と単語テストの準備
10	Unit 11	Last Christmas 単語テスト（737-753）	テキストの予習と単語テストの準備
11	Unit 12	Torn 単語テスト（754-770）	テキストの予習と単語テストの準備
12	Unit 12	Torn 単語テスト（771-787）	テキストの予習と単語テストの準備
13	Unit 13	La La（Means I Love You） 単語テスト（789-800）	テキストの予習と単語テストの準備
14	Unit 13	La La（Means I Love You）	統一単語テストのための準備
15	総まとめ	後期の内容を復習する。	後期の範囲でわからなかった点などを確認しておく。

関連科目：英語　Ic

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ヒットソングで学ぶ総合英語	角山　照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	統一単語テスト　３０％　　平常点　４０％　　テストの成績　３０％
学生へのメッセージ	英語は日々の学習の積み重ねが大切です。自分が興味をもてることから初めて、しっかり英語力を身につけていきましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Ｉｄ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　茂寿
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ英語を文法を中心にもう一度復習し、更なる語彙力、文法力の養成を目標とする。時間があれば教科書以外に英語の資格検定などの練習問題を用いて更なる知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。また、授業計画は進度によって変わる場合がある。
到達目標	今まで持っている英語力の更なる強化を目指そう。
授業方法と留意点	簡単な文法問題を中心にしたテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。授業計画は進度によって変わる場合がある。 指定する 200 単語について、テキストを使い語彙力の強化向上を図る。 法学部として実施する「統一英語単語テスト」を受験すること。
科目学習の効果（資格）	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 ＴＯＥＩＣテストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習	前期に習った内容の復習など	――――
2	Unit13	接続詞(1)	教科書 p.50-52
3	Unit14	不定詞(1)、動名詞(1)	教科書 p.53-55
4	Unit15	受動態	教科書 p.56-58
5	Unit16	現在完了形	教科書 p.59-61
6	Unit17	接続詞(2)（時勢の一致を含む）等	教科書 p.62-64
7	Unit18	5 つの基本文型	教科書 p.65-67
8	Unit19	各種疑問文	教科書 p.68-70
9	Unit20	不定詞(2)	教科書 p.71-73
10	Unit21	It の特別用法	教科書 p.74-76
11	Unit22	分詞、動名詞(2)	教科書 p.77-79
12	Unit23	関係代名詞	教科書 p.80-82
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	――――
14	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	――――
15	総合復習	定期試験対策	――――

関連科目：英語Ｉａ、英語Ｉｃ、英語Ｉｄ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Primer(Revised Edition) 基礎からの英語入門　改訂新版	佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test　学校語彙で学ぶ TOEIC テスト（単語集）	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、提出物、定期試験の点数を総合評価する。また、日頃の授業態度も重視する。 評価には、「統一英語単語テスト」の結果を 30%組み入れる(統一英語単語テストを受験しなかった者は評価に大きく影響します)。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で感動を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Ｉｄ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中本　明子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	基礎的な語彙と文法を中心とした実践的な英語力の向上を図ります。
到達目標	資格（TOEIC, 英検など）取得の前提となる英語基礎力（特に、語彙・文法を中心として）を身に付けます。
授業方法と留意点	ユニットごとに基礎から語彙と文法を学習し、無理なく英語に慣れ親しみます。 （問題を解く）→（解説を読む）→（再び問題を解く）→（再び解説を読む）を繰り返します。 さらに小テストとして、単語集またはテキストの指定された単語の書き取りテストを毎回行います。
科目学習の効果（資格）	英検３級、準２級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などに関する説明、前期学習事項の確認	Unit 11 の予習 単語集の指定された単語（600～619）の書き取り練習
2	Unit 11	受動態	Unit 11 の復習、Unit 12 の予習 単語集の指定された単語（620～633）の書き取り練習
3	Unit 12	比較	Unit 12 の復習、Unit 13 の予習 単語集の指定された単語（634～659）の書き取り練習
4	Unit 13	完了形	Unit 11 から Unit 13 までの復習 単語集の指定された単語（660～684）の書き取り練習
5	Unit 11 から Unit 13 までの復習	受動態、比較と完了形	Unit 11 から Unit 13 までの復習、Unit 14 の予習 単語集の指定された単語（685～710）の書き取り練習
6	Unit 14	不定詞	Unit 14 の復習、Unit 15 の予習 単語集の指定された単語（711～734）の書き取り練習
7	Unit 15	分詞	Unit 15 の復習、unit 16 の予習 単語集の指定された単語（735～760）の書き取り練習
8	Unit 16	動名詞	Unit 14 から Unit 16 までの復習 単語集の指定された単語（761～783）の書き取り練習
9	Unit 14 から Unit 16 までの復習	不定詞、分詞と動名詞	Unit 14 から Unit 16 までの復習、Unit 17 の予習 単語集の指定された単語（784～800）の書き取り練習
10	Unit 17	節	Unit 17 の復習、Unit 18 の予習 テキストの指定された単語の書き取り練習
11	Unit 18	関係代名詞	Unit 18 の復習、Unit 19 の予習 テキストの指定された単語の書き取り練習
12	Unit 19	熟語の整理	Unit 19 の復習、Unit 20 の予習 テキストの指定された単語の書き取り練習
13	Unit 20	会話文と it の整理	Unit 17 から Unit 20 までの復習
14	Unit 17 から Unit 20 までの復習	節、関係代名詞、熟語の整理と、会話文と it の用法	後期の総復習
15	後期の総括	後期まとめテストと解説	テストの復習

関連科目	他の英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Steps to English Grammar	大坂　四郎	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - WORD BOOK -	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	統一英語単語テスト 30%、小テスト 20%と後期まとめテスト 50%で、授業態度は減点方式とし、総合的に評価します。
学生へのメッセージ	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておいて下さい。語彙力が英語の上達に大きく影響します。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	休まず積極的に授業に参加して下さい。努力は実ります。

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ｉｃ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋　章夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語を正確に読み聞きし、受信する能力を磨き、その受信した英語を応用し、書いて話せるようにする訓練をします。また、単語テストを通して、コミュニケーションに不可欠な語彙力を向上させます。また、毎回、授業の最初に、単語テストと前回の授業の復習テストを行います。
到達目標	語彙力を強化し、受信した英語を発信できるよう、基礎的な英語力を確実に身につける。
授業方法と留意点	毎回、授業の最初に小テストを行います。その後、テキストの問題に取り組みます。テキストは、２回の授業で１章進みます。各章、1回目の授業では受信（リスニング、リーディング）と文法を学習し、2回目はテーマに沿った発信（スピーキング、ライティング）の訓練を行います。
科目学習の効果（資格）	英語の四技能を向上させるとともに、TOEIC受験に対応できる英語力を身に着ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、小テスト、評価方法の説明	特になし
2	Unit 1　家族	単語テスト be 動詞①	単語（201-220）の予習、及び授業内容の復習
3	Unit 1　家族	単語テスト ブログ	単語（221-240）の予習、及び授業内容の復習
4	Unit 2　キャンパス案内	単語テスト be 動詞②	単語（241-260）の予習、及び授業内容の復習
5	Unit 2　キャンパス案内	単語テスト キャンパスマップ・場所の表現	単語（261-280）の予習、及び授業内容の復習
6	Unit 3　就職・職場	単語テスト 一般動詞①	単語（281-300）の予習、及び授業内容の復習
7	Unit 3　就職・職場	単語テスト 1日のスケジュール表	単語（301-320）の予習、及び授業内容の復習
8	Unit 1-3 まとめ、小テスト	単語テスト 復習と小テスト	単語（321-340）の予習、及び授業内容の復習
9	Unit 4　日課	単語テスト 一般動詞②・代名詞	単語（341-360）の予習、及び授業内容の復習
10	Unit 4　日課	単語テスト 日記	単語（361-380）の予習、及び授業内容の復習
11	Unit 5　交通	単語テスト 命令文	単語（381-400）の予習、及び授業内容の復習
12	Unit 5　交通	転居通知	授業内容の復習
13	Unit 6　アルバイト	名詞を詳しく	授業内容の復習
14	Unit 6　アルバイト	求人広告	授業内容の復習
15	Unit 4-6 まとめ、小テスト	復習と小テスト	授業内容の復習

関連科目：英語Ｉｄ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Make It Simple	森田和子	三修社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	統一単語テスト30%、平常点（単語テスト+授業中課題）30%、小テスト40%
学生へのメッセージ	英語を習得するには、日々の積み重ねが大切です。授業時間のみならず、意識的に英語に触れる機会を増やすよう試みてください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ｉｃ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本　好一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	英語力向上にはこれまでの中学高校レベルの復習も欠かすことはできません。　特に、資格（TOEIC, 英検など）取得には読み書き、英文法のみならず、リスニングにも重点を置く必要があるので、毎回の授業で取り組みます。　聴解力がつくのを実感できますが、前向きに学習することが大前提です。　資格取得に向けて前向きに受験してください。　また授業担当者がアメリカで経験したことも写真で紹介することもあります。
到達目標	基礎的なリスニング力、語彙力、文法知識をつけることを目標とします。　積極的に英語資格試験に挑戦してください。
授業方法と留意点	読解、文法問題、ディクテーションなどを多用し、語彙の習得、文法力向上、聴解力向上を図る。　中高で英語に苦手意識を持った学生も初心に帰り、学習して欲しい。
科目学習の効果（資格）	TOEIC の得点向上が期待できるので積極的に受験して欲しい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記２０１－２１６
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習（固有名詞、複数形など）	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記２１７－２３２
3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記２３３－２４８
4	趣味についての文章を通して主語＋動詞～の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記２４９－２６４
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記２６５－２８０
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記２８１－２９６
7	コンサートについての文章を通して How＋形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記２９７－３１２
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習、英単語の暗記３１３－３２８
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記３２９－３４４
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記３４５－３６０
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記３６１－３７６
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記３７７－３９２
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記３９３－４００
14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9－14 回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目	その他英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『Forerunner To Power-Up English』　ISBN 13 ： 9784523176244	JACET　リスニング研究会	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『The Core Vocabulary for the TOEIC Test』	西谷恒志	成美堂
2			
3			

評価方法（基準）	担当教員の評価 70%、統一英語単語テスト 30%で全体の評価を行う。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	単語試験は「The Core Vocabulary for the TOEIC Test」から出題される範囲を受験すること。 単語番号２０１－４００までの範囲で期末に試験が行われます。

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ｉｃ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　健二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業では英語文法の総復習をおこなう。それと同時にやさしく書かれた英文を読み取り、内容把握のスピードをあげる訓練をおこなう。読み物の英語レベルは徐々に高くしてゆき、文法知識に裏打ちされた英文読解の質を高めてゆく。 英字新聞にもチャレンジし、少しずつでもよいから毎週ジャーナリズム英語に慣れる。 単語学習もおろそかにせず、英語語彙力を高める地道な努力を継続する。
到達目標	英語学習の中の文法知識を正確にする。練習問題を多くこなし、英語の正確な理解ができるようにする。 英文は文脈に応じた柔軟な理解ができ、直訳による不自然な英文理解を修正してゆく。
授業方法と留意点	教科書の学習が中心となる。また余裕がでてきたら英字新聞にも挑戦する。辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC 得点向上。英検の資格取得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	品詞と文の要素	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること
2	品詞と文の要素	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 201-220 番まで
3	動詞と時制	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 221-240 番まで
4	動詞と時制	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 241-260 番まで
5	動詞と時制	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 261-280 番まで
6	完了形	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 281-300 番まで
7	完了形	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 301-320 番まで
8	完了形	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 321-340 番まで
9	助動詞	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 341-360 番まで
10	助動詞	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 361-380 番まで
11	助動詞	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること 単語集 381-400 番まで
12	態	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること
13	態	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること
14	不定詞	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること
15	不定詞	文法解説、 Exercise	テキストの下読み 問題を解いてくること

関連科目：英語 1D

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Framework English Grammar in 23 Lessons (7th edition)	桐原書店編集部	桐原書店
2	What's Up? Elementary	Muroi Michiko	桐原書店
3	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験、単語テスト、出席、授業態度、など総合的に判断する。
学生へのメッセージ	頑張りましょう。
担当者の研究室等	７号館３階。田中健二研究室

備考	

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ｉｃ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原　真由美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

このクラスでは、基礎英文法を定着させ、それを駆使した読解力の向上を養う。英文法の基礎的な知識を確実に身につけることで、英語を読む力の向上につなげていく。

また単語集を使い語彙力の向上を図る。 範囲　No.201-400（pp.34-67）

到達目標

文法の基礎固めをすることで正確な読解力を付けることができる。

授業方法と留意点

毎回授業の始めに TOEIC ブリッジのための単語小テストを行う。
文法事項の解説の後 exercise の答えの確認、巻末のショートリーディングを読む。（習得しにくい文法項目は、随時プリントなどで補う。）

科目学習の効果（資格）

文法の基礎を固め読解力を向上させる
TOEIC テストに有効な単語の習得

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、　自己紹介 文法確認テスト リーディングのノート作りの説明	授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 簡単な確認テスト 教科書を少し進める	次回の予習（文法問題、英文和訳）
2	座席を決める。 単語テスト(1) pp.34-37 １　名詞	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
3	単語テスト(2) pp.38-41 ２　冠詞 ３　代名詞（１）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
4	単語テスト(3) pp.42-45 ４　代名詞（２）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
5	単語テスト(4) pp.46-49 ５　基本時制	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
6	単語テスト(5) pp.50-53 ６　進行形	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
7	単語テスト(6) pp.54-57 ７　完了形	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
8	単語テスト(7) pp.58-59 臨時テスト（中間） ７　完了形	既習内容の習熟度を確認	テスト勉強、次回の予習（文法問題、英文和訳）
9	単語テスト(8) pp.60-63 ８　助動詞（１）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
10	単語テスト(9) pp.64-67 ９　助動詞（２）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
11	単語テスト(2 周眼) (10) pp.34-44 １０　受動態（１）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
12	単語テスト(11) pp. 46-57 １１　受動態（２）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
13	単語テスト（最終） (12) pp.58-67 １３　不定詞（１）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
14	不定詞（２）	文法解説 exercise, short readings	次回の予習（文法問題、英文和訳）
15	臨時テスト（期末）	既習内容の習熟度を確認	テスト勉強

関連科目

他の英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Refreshing English Grammar with Short Readings（「読解力をみがく基本英文法」）	福井慶一郎、北山長貴、山中マーガレット	朝日出版社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test; Word Book 1	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	統一英語単語テスト 30%、臨時テスト２回（中間＋期末）40%、平常点（発表、小テスト、授業態度）30%とし総合的に評価する。
学生への メッセージ	予習として、文法問題を解いてくること。short readings は分らない語句の意味を調べて自分なりに訳をしてくること（分らない処はチェックを入れておき授業で確認できるように準備する）。ぼんやりと意味を取るのではなく、文法を意識した理解を心がけることが大切です。最後、意味内容がとれたら、２回は音読をして仕上げてください。 　毎回課題のチェックをします。 授業ではできるだけ多くの受講生に当たるようにする。 授業への貢献度を評価します。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階　（非常勤講師室）
備考	授業の進度によって授業計画は多少変更になる可能性がある。

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ｉｃ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田村　康子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

この授業では、現代社会の最新の話題を取り上げたリーディング教材を用いて、英語の総合的な運用能力を高めることを目標とする。テキストには、スポーツ、ビジネス、テクノロジー、科学、ライフスタイル、健康問題、娯楽、ファッション、環境問題など様々な話題に関する英文が含まれている。
さらに練習問題として、英文の内容理解、語彙、文法演習、リスニングなど様々なアクティビティが盛り込まれており、これらを丁寧に行っていくことにより、英語の総合的な力が確実に身につくはずである。この授業を通して、英語の各種資格試験の点数アップを目指してもらいたい。

到達目標

リーディング教材を用いて、リスニング、ボキャブラリーを含めた英語の総合的な運用能力を高めることを目標とする。

授業方法と留意点

テキストに沿って読み進むとともに、練習問題に取り組んでいく。
法学部として実施する「統一英語単語テスト」を受験すること。

科目学習の効果（資格）

英語語彙力の増強、TOEIC のスコアアップ、英検におけるレベルアップ
ＴＯＥＩＣテストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1:Millennials	リーディング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語帳
2	Unit 1:Millennials	リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#207-228
3	Unit 2: Green Profits	リーディング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#229-242&#191-228
4	Unit 2: Green Profits	リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#243-266&#201-220&#221-240
5	Unit 3:Well-Loved Pets	リーディング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#267-289&#229-266
6	Unit 3:Well-Loved Pets	リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#290-304&#241-260&#261-280
7	Unit 4:Italy's Fashion Kings	リーディング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#301-320&#267-304
8	復習 臨時テスト	復習 臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#321-342&#281-300&#301-320
9	Unit 4:Italy's Fashion Kings	リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#343-360&#305-342
10	Unit 5:Viral Marketing	リーディング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#361-380&#321-340&#341-360
11	Unit 5:Viral Marketing	リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#381-400&#343-380
12	Unit 6: TED Talks	リーディング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。単語テスト#361-380&#381-400
13	Unit 6: TED Talks	リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。
14	6Unit 7: The Gossip Media	リーディング、リスニング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。
15	まとめ	まとめ	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。

関連科目

英語Ｉ、英語ＩＩ、英語ＩＶ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Pass 2 Second Edition	Andrew E. Bennett	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

統一英語単語テスト　30%、
臨時テスト　40%、
平常点　30%

学生へのメッセージ

毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等

７号館２階　（非常勤講師室）

備考

毎回授業開始時に、副読本の単語テストを行います。
単語帳#201-400

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ｉｃ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ｉ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大江　麻里子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	英米で流行しているポップソングを聞きながら、歌詞を日本語に訳したり、リスニングを行う。また基礎的な文法事項も確認していく。また長文の読解も２週に１回実施する。
到達目標	自然な英語の発音を聞き取り、またそのように発音できるようにする。 基礎的な文法事項を理解し、英文読解力も養う。
授業方法と留意点	テキストにそってすすめていきます。必ず英語の辞書を持ってくること。毎回、単語テストを行うので、十分に準備しておくこと。
科目学習の効果（資格）	リスニング・スピーキング力の強化 文法・読解力のスキルアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の説明などをする。また簡単な英語のドリルを行う。	テキストを購入し、さっと目を通しておくこと。
2	Unit 1	Complicated 単語テスト（201-217）	テキストの予習と単語テストの準備
3	Unit 1	Complicated 単語テスト（218-234）	テキストの予習と単語テストの準備
4	Unit 2	S.O.S. 単語テスト（235-251）	テキストの予習と単語テストの準備
5	Unit 2	S.O.S. 単語テスト（252-268）	テキストの予習と単語テストの準備
6	Unit 3	You Are Not Alone 単語テスト（269-285）	テキストの予習と単語テストの準備
7	Unit 3	You Are Not Alone 単語テスト（286-302）	テキストの予習と単語テストの準備
8	Unit 4	Don't Wanna Lose You 単語テスト（303-319）	テキストの予習と単語テストの準備
9	Unit 4	Don't Wanna Lose You 単語テスト（320-336）	テキストの予習と単語テストの準備
10	Unit 5	How Crazy Are You? 単語テスト（337-353）	テキストの予習と単語テストの準備
11	Unit 5	How Crazy Are You? 単語テスト（354-370）	テキストの予習と単語テストの準備
12	Unit 6	Sunday Morning 単語テスト（371-387）	テキストの予習と単語テストの準備
13	Unit 6	Sunday Morning 単語テスト（389-400）	テキストの予習と単語テストの準備
14	Unit 7	I Want It That Way	統一単語テストのための準備
15	総まとめ	前期の内容を復習する。	前期の範囲でわからなかった点などを確認しておく。

関連科目	英語　Ｉｄ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ヒットソングで学ぶ総合英語	角山　照彦	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	統一単語テスト　３０％　　平常点　４０％　　テストの成績　３０％
学生へのメッセージ	英語は日々の学習の積み重ねが大切です。自分が興味をもてることから初めて、しっかり英語力を身につけていきましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ｉｃ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　茂寿
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ英語を文法を中心にもう一度復習し、更なる語彙力、文法力の養成を目標とする。時間があれば教科書以外に英語の資格検定などの練習問題を用いて更なる知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。また、授業計画は進度によって変わる場合がある。
到達目標	今まで持っている英語能力の更なる強化を目指そう。
授業方法と留意点	簡単な文法問題を中心にしたテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。授業計画は進度によって変わる場合がある。 指定する 200 単語について、テキストを使い語彙力の強化向上を図る。 法学部として実施する「統一英語単語テスト」を受験すること。
科目学習の効果（資格）	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 ＴＯＥＩＣテストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業、提出物、評価方法の説明	――――
2	Unit1	be 動詞	教科書 p14-16
3	Unit2	一般動詞(現在)	教科書 p. 17-19
4	Unit3	一般動詞（過去）	教科書 p. 20-22
5	Unit4	進行形	教科書 p. 23-25
6	Unit5	未来形	教科書 p. 26-28
7	Unit6	助動詞	教科書 p. 29-31
8	Unit7	名詞、冠詞	教科書 p. 32-34
9	Unit8	代名詞	教科書 p. 35-37
10	Unit9	前置詞	教科書 p. 38-40
11	Unit10	形容詞、副詞	教科書 p. 41-43
12	Unit11	比較	教科書 p. 44-46
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	――――
14	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	――――
15	総合復習	定期試験対策	――――

関連科目：スポーツ英語Ｉ、スポーツ英語ＩＩＩ、スポーツ英語Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Primer(Revised Edition) 基礎からの英語入門　改訂新版	佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰	南雲堂
2	THe 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト（単語集）	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、提出物、定期試験の点数を総合評価する。また、日頃の授業態度も重視する。 評価には、「統一英語単語テスト」の結果を 30%組み入れる(統一英語単語テストを受験しなかった者は評価に大きく影響します)。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で感動を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	英語Ⅰc	科目名（英文）	English Ⅰc
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中本　明子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	基礎的な語彙と文法を中心とした実践的な英語力の向上を図ります。
到達目標	資格（TOEIC，英検など）取得の前提となる英語基礎力（特に、語彙・文法を中心として）を身に付けます。
授業方法と留意点	ユニットごとに基礎から語彙と文法を学習し、無理なく英語に慣れ親しみます。 （問題を解く）→（解説を読む）→（再び問題を解く）→（再び解説を読む）を繰り返します。 さらに小テストとして、単語集またはテキストの指定された単語の書き取りテストを毎回行います。
科目学習の効果（資格）	英検３級、準２級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などに関する説明	Unit 1の予習 単語集の指定された単語（201～218）の書き取り練習
2	Unit 1	be 動詞・現在	Unit 1の復習、Unit 2の予習 単語集の指定された単語（219～230）の書き取り練習
3	Unit 2	一般動詞・現在	Unit 2の復習、Unit 3の予習 単語集の指定された単語（231～252）の書き取り練習
4	Unit 3	多様な疑問文	Unit 1からUnit 3までの復習 単語集の指定された単語（253～276）の書き取り練習
5	Unit 1からUnit 3までの復習	be 動詞・現在、一般動詞・現在と多様な疑問文	Unit 1からUnit 3までの復習、Unit 4の予習 単語集の指定された単語（277～301）の書き取り練習
6	Unit 4	be 動詞・過去	Unit 4の復習、Unit 5の予習 単語集の指定された単語（302～325）の書き取り練習
7	Unit 5	一般動詞・過去	Unit 5の復習、unit 6の予習 単語集の指定された単語（326～350）の書き取り練習
8	Unit 6	特殊な文	Unit 4からUnit 6までの復習 単語集の指定された単語（326～350）の書き取り練習
9	Unit 4からUnit 6までの復習	be 動詞・過去、一般動詞・過去と特殊な文	Unit 4からUnit 6までの復習、Unit 7の予習 単語集の指定された単語（351～376）の書き取り練習
10	Unit 7	未来形	Unit 7の復習、Unit 8の予習 単語集の指定された単語（377～400）の書き取り練習
11	Unit 8	進行形	Unit 8の復習、Unit 9の予習 テキストの指定された単語の書き取り練習
12	Unit 9	助動詞	Unit 9の復習、Unit 10の予習 テキストの指定された単語の書き取り練習
13	Unit 10	英文の型	Unit 7からUnit 10までの復習 テキストの指定された単語の書き取り練習
14	Unit 7からUnit 10までの復習	未来形、進行形、助動詞と英文の型	前期の総復習
15	前期の総括	前期まとめテストと解説	テストの復習

関連科目	他の英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Steps to English Grammar	大坂　四郎	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - WORD BOOK -	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	統一英語単語テスト30%、小テスト20%と前期まとめテスト50%で、授業態度は減点方式とし、総合的に評価します。
学生へのメッセージ	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておいて下さい。語彙力が英語の上達に大きく影響します。
担当者の研究室等	７号館２階　非常勤講師室
備考	休まず積極的に授業に参加して下さい。努力は実ります。

科目名	情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Information Processing Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	星山　幸子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じて、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、 コンピュータの機能を知るとともに、 コンピュータの持つ特性と有用性について理解し、情報処理能力の養成をはかる。
到達目標	課題やレポート、卒業論文作成のために必要な情報活用能力の習得、およびコンピュータ利用に関する技能検定へ足掛かりとする。
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。その課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。出席率が８割に満たない場合は単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。身近なものとしてはMOS（マイクロソフトオフィススペシャリスト）が挙げられる。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、 学内ネットワーク説明とガイダンス	――――――
2	コンピュータ基礎知識の確認	パーソナルコンピュータ基本知識の習得とレポート	確認用課題
3	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	情報検索課題
4	情報の処理技術（１）	文字情報処理の基礎１ 文書作成技術　書式設定１	文書作成練習課題１
5	情報の処理技術（２）	文字情報処理の基礎２ 文書作成技術　書式設定２	文書作成練習課題２
6	情報の処理技術（３）	文字情報処理の基礎３ 文書作成技術　表その他	文書作成練習課題３
7	情報の処理技術（４）	文字情報処理の応用１ 文書作成技術：レポート、論文の作成	文書作成練習課題４
8	前半まとめと確認	確認テスト	文書作成技法復習と技能修得度の確認
9	情報の蓄積と利用（１）	表計算基礎１ 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理	表計算練習課題１
10	情報の蓄積と利用（２）	表計算基礎２ 関数利用技術	表計算練習課題２
11	情報の蓄積と利用（３）	表計算基礎３ グラフ処理	表計算練習課題３
12	情報の蓄積と利用（４）	表計算応用１ データベースとピボットテーブル活用技術	表計算練習課題４
13	情報の蓄積と利用（５）	表計算応用２ 散布図および分析ツールと回帰分析基本	表計算練習課題５
14	情報の蓄積と連携	レポート活用の為のアプリケーションソフトの連携	Word および Excel 複合練習課題
15	後半まとめと確認	確認テスト	表計算技法復習と技能修得度の確認

関連科目：ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8・Office2013 による情報処理入門	安積 淳　他	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席率 80%以上を必須とする。授業参加状況、毎回の課題（練習問題）、実技を含む試験を総合して評価する。
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	

科目名	情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Information Processing Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	星山　幸子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じて、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、 コンピュータの機能を知るとともに、 コンピュータの持つ特性と有用性について理解し、情報処理能力の養成をはかる。
到達目標	課題やレポート、卒業論文作成のために必要な情報活用能力の習得、およびコンピュータ利用に関する技能検定へ足掛かりとする。
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。その課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。出席率が８割に満たない場合は単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。身近なものとしては MOS（マイクロソフトオフィススペシャリスト）が挙げられる。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、 学内ネットワーク説明とガイダンス	――――
2	コンピュータ基礎知識の確認	パーソナルコンピュータ基本知識の習得とレポート	確認用課題
3	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	情報検索課題
4	情報の処理技術（１）	文字情報処理の基礎１ 文書作成技術　書式設定１	文書作成練習課題１
5	情報の処理技術（２）	文字情報処理の基礎２ 文書作成技術　書式設定２	文書作成練習課題２
6	情報の処理技術（３）	文字情報処理の基礎３ 文書作成技術　表その他	文書作成練習課題３
7	情報の処理技術（４）	文字情報処理の応用１ 文書作成技術：レポート、論文の作成	文書作成練習課題４
8	前半まとめと確認	確認テスト	文書作成技法復習と技能修得度の確認
9	情報の蓄積と利用（１）	表計算基礎１ 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理	表計算練習課題１
10	情報の蓄積と利用（２）	表計算基礎２ 関数利用技術	表計算練習課題２
11	情報の蓄積と利用（３）	表計算基礎３ グラフ処理	表計算練習課題３
12	情報の蓄積と利用（４）	表計算応用１ データベースとピボットテーブル活用技術	表計算練習課題４
13	情報の蓄積と利用（５）	表計算応用２ 散布図および分析ツールと回帰分析基本	表計算練習課題５
14	情報の蓄積と連携	レポート活用の為のアプリケーションソフトの連携	Word および Excel 複合練習課題
15	後半まとめと確認	確認テスト	表計算技法復習と技能修得度の確認

関連科目	ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8・Office2013 による情報処理入門	安積 淳　他	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席率 80%以上を必須とする。授業参加状況、毎回の課題（練習問題）、実技を含む試験を総合して評価する。
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	

科目名	情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Information Processing II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山　幸子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

情報処理Ｉに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して、 情報処理の基礎を学習する。効果的な論文ツールの学習およびプレゼンテーションソフトの基本操作を通して、スライドの作成、プレゼンテーションの構成と実行を行う。後半では、アイコンやアバター作成等に必要とされる画像編集等の各種アプリケーションソフトの学習を通じ、情報発信に必要とされる画像処理の基本知識を習得する。これらの作業によって、 コンピュータの機能についてさらに知識を深め、その特性と有用性についてより深く理解する。

到達目標

効率的な論文ツールの活用、および就職面接等におけるプレゼンテーション能力の獲得

授業方法と留意点

テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。その課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。出席率が８割に満たない場合は単位を認めない。

科目学習の効果（資格）

コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	レポート･論文作成におけるツールの学習（1）	効果的な論文作成の為のツールの確認と学習１	配布資料の確認 内容の把握と整理
2	レポート･論文作成におけるツールの学習（2）	論文作成とツールの利用	配布資料の確認 内容の把握と整理 論文練習課題
3	情報の表現（1）	紙メディアから電子メディアへの移行 プレゼンテーション技術１ スライド基本操作	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題１
4	情報の表現（2）	プレゼンテーション技術２ 図の挿入と編集、クリップアートとスマートアート アニメーションの設定	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題２
5	情報の表現（3）	プレゼンテーション技術３ 発表の基本	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題３
6	情報の表現（4）	画像編集の基本知識 ペイント系画像編集アプリケーションソフト基本学習	配布資料の確認 内容の把握と整理 画像編集練習課題
7	情報の発信（1）	Web 上における能動的プレゼンテーションソフトの学習１	配布資料の確認 内容の把握と整理 web 系プレゼンテーション応用課題１
8	情報の発信（2）	Web 上における能動的プレゼンテーションソフトの学習２	配布資料の確認 内容の把握と整理 web 系プレゼンテーション応用課題２
9	課題制作１（1）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理、評価
10	課題制作１（2）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理、評価
11	課題制作１（3）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理、評価
12	課題制作２ グループ発表（1）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
13	課題制作２ グループ発表（2）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
14	プレゼンテーション発表（1）	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表 内容の把握と整理
15	プレゼンテーション発表（2）	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表 内容の把握と整理

関連科目

「情報処理Ｉ」を修得していることが望ましい

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要に応じて資料を配付する。一部、情報処理Ｉのテキストを使用		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

80%以上の出席率を必要とする。授業参加状況、毎回の課題（練習問題）、実技を含む試験を総合して評価する。

学生へのメッセージ

使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。

担当者の研究室等

７号館２階(非常勤講師室)

備考

科目名	情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Information Processing II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山　幸子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	情報処理Ｉに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して、 情報処理の基礎を学習する。効果的な論文ツールの学習およびプレゼンテーションソフトの基本操作を通して、スライドの作成、プレゼンテーションの構成と実行を行う。後半では、アイコンやアバター作成等に必要とされる画像編集等の各種アプリケーションソフトの学習を通じ、情報発信に必要とされる画像処理の基本知識を習得する。これらの作業によって、 コンピュータの機能についてさらに知識を深め、その特性と有用性についてより深く理解する。
到達目標	効率的な論文ツールの活用、および就職面接等におけるプレゼンテーション能力の獲得
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。その課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。出席率が８割に満たない場合は単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	レポート･論文作成におけるツールの学習（1）	効果的な論文作成の為のツールの確認と学習１	配布資料の確認 内容の把握と整理
2	レポート･論文作成におけるツールの学習（2）	論文作成とツールの利用	配布資料の確認 内容の把握と整理 論文練習課題
3	情報の表現（1）	紙メディアから電子メディアへの移行 プレゼンテーション技術１ スライド基本操作	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題１
4	情報の表現（2）	プレゼンテーション技術２ 図の挿入と編集、クリップアートとスマートアート アニメーションの設定	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題２
5	情報の表現（3）	プレゼンテーション技術３ 発表の基本	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題３
6	情報の表現（4）	画像編集の基本知識 ペイント系画像編集アプリケーションソフト基本学習	配布資料の確認 内容の把握と整理 画像編集練習課題
7	情報の発信（1）	Web 上における能動的プレゼンテーションソフトの学習１	配布資料の確認 内容の把握と整理 web 系プレゼンテーション応用課題１
8	情報の発信（2）	Web 上における能動的プレゼンテーションソフトの学習２	配布資料の確認 内容の把握と整理 web 系プレゼンテーション応用課題２
9	課題制作１（1）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理、評価
10	課題制作１（2）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理、評価
11	課題制作１（3）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理、評価
12	課題制作２ グループ発表（1）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
13	課題制作２ グループ発表（2）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認 内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
14	プレゼンテーション発表（1）	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表 内容の把握と整理
15	プレゼンテーション発表（2）	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表 内容の把握と整理

関連科目	「情報処理Ｉ」を修得していることが望ましい

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要に応じて資料を配付する。一部、情報処理Ｉのテキストを使用		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	80%以上の出席率を必要とする。授業参加状況、毎回の課題（練習問題）、実技を含む試験を総合して評価する。
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	

科目名	スポーツ科学概論	科目名（英文）	Introduction to Sports Science
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤林　真美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会は利便さと引き換えに人々の身体活動量が著しく減少し、その結果、子どもから高齢者まで年齢階層を問わず生活習慣病に罹患する人口が激増している。この予防・改善には、「運動」「食事」「休養」のバランスが取れた生活を送ることが望ましい。 本講義では、健康について幅広い知識を習得することを目的とする。
到達目標	心身の健康について、授業で習得した内容を実生活に応用する。
授業方法と留意点	レジュメを配布する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに～健康とは～	健康の定義。厚生労働省の「健康日本２１」の概要を解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
2	「運動」「栄養」「休養」	「運動」「栄養」「休養」について概説し、それらと生活習慣病との関連性について説明する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
3	五大栄養素	五大栄養素とその役割について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
4	身体を動かす仕組み～筋・骨格系～	筋・骨格系の解剖学的、形態学的特性と神経系の役割について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
5	身体を動かすしくみ～呼吸器・循環器器系～	呼吸器・循環器の構造と機能、血液成分について解説する。運動時の呼吸応答、酸素摂取量の変動、心拍数、心拍出量の変動。さらに運動トレーニングによる変化について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
6	メンタルヘルスと運動	心の健康とは何か。また運動が心の健康にもたらす影響について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
7	生活習慣病予防としての運動の役割	エネルギー供給系について説明し、運動トレーニングによるエネルギー代謝の変化を解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
8	発育・発達	幼少期から青年期にいたる身体の形態発育・機能発達と、それらに運動トレーニングが及ぼす効果について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
9	老化	身体の形態・機能の老化について解説する。また中・高齢者における運動トレーニングの効果について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
10	様々な環境下における生理学的しくみ	暑熱下・寒冷下における体温調節のしくみを解説する。さらに暑熱環境下における水分補給について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
11	運動障害と予防、応急処置	スポーツ障害、過換気症候群、RICE 処置、心肺蘇生法について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
12	健康づくりのための運動処方	有酸素・無酸素運動、レジスタンストレーニングについて、健康づくりの観点から解説する。また年代・性差による違いについても説明する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
13	ストレス・疲労への対策	ストレス要因の軽減・ストレスへの早期対応としてのスポーツの関わりを解説する。 また疲労が起こるしくみとその対策について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
14	アルコール、タバコ、薬物、性感染症	アルコールやタバコ、薬物が身体へ及ぼす影響について解説する。また HIV など性感染症について概説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
15	総括	皆さんの QOL（Quality of life: 生活の質）向上の観点から、「運動」「食事」「休養」の有用性について総括する。	これまで学習した内容の総括。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、生涯スポーツ実習、健康科学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の課題と定期試験により評価する。ただしレポート提出を求める場合がある。
学生へのメッセージ	皆さんが将来知的職業人として社会で活躍するためには、まず「健康」が基盤です。自分の身体・健康に興味を持って、より充実した大学生活を過ごしてください。

担当者の 研究室等	総合体育館１階　藤林研究室
備考	

科目名	スポーツ科学実習Ⅰａ	科目名（英文）	Practice of Sports Science Ⅰa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＩ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤林　真美.堀　美幸.村上　陽一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。
到達目標	① 運動技術の向上 ② 競技ルールの理解 ③ 学生相互のコミュニケーション能力の向上
授業方法と留意点	実技形式で行う。（雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。） 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など） ・屋外種目（サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど） ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。 原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。
科目学習の効果（資格）	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	ルールの理解
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価
3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価
4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
10	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
11	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
12	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。
学生へのメッセージ	授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１Ｆ体育館事務室にきてください。
担当者の研究室等	総合体育館　１Ｆ　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ⅰａ	科目名（英文）	Practice of Sports Science Ⅰa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内部　昭彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	アスリート学生を対象に、スポーツ活動を通じて身体運動とスポーツ競技の理解を深め、競技力の向上を獲得する。また、スポーツ競技者として最低限必要とされる身体能力向上、怪我の予防、及びコミュニケーション能力向上のための実習を目的とする。
到達目標	①運動技能の向上 ②競技ルールの理解 ③学生相互のコミュニケーション能力の向上
授業方法と留意点	屋外での運動とスポーツ競技の実践を主な授業内容とする。実習科目としての性格上、出席を重視する。 （雨天の場合、講義形式を行う場合がある。）
科目学習の効果（資格）	現役スポーツ選手として活動している学生が、有意義な競技生活を送ることができるよう、アスリートとして、より高い競技力を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意およびコース説明	ガイダンス内容を確認し、次回の授業準備を行う
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価
3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価
4	球技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
5	球技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
6	球技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
7	球技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
8	球技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
9	球技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
10	球技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
11	球技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
12	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。
学生へのメッセージ	授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１Ｆ体育館事務室にきてください。
担当者の研究室等	体育館１Ｆ　体育館事務室
備考	【準備物】 トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ｉｂ	科目名（英文）	Practice of Sports Science Ｉb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＩ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林　真美.岡﨑　和伸.村上　陽一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。
到達目標	① 運動技術の向上 ② 競技ルールの理解 ③ 学生相互のコミュニケーション能力の向上
授業方法と留意点	実技形式で行う。（雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。） 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など） ・屋外種目（サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど） ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。 原則として、スポーツ科学実習ＩとⅡで同じ種目を履修することはできない。
科目学習の効果（資格）	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	ルールの理解
2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
5	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
6	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
8	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
9	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
10	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
11	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
12	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。
学生へのメッセージ	授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１F 体育館事務室にきてください。
担当者の研究室等	総合体育館　1F　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ｉｂ	科目名（英文）	Practice of Sports Science Ｉb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	内部　昭彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	アスリート学生を対象に、スポーツ活動を通じて身体運動とスポーツ競技の理解を深め、競技力の向上を獲得する。また、スポーツ競技者として最低限必要とされる身体能力向上、怪我の予防、及びコミュニケーション能力向上のための実習を目的とする。
到達目標	①運動技能の向上 ②競技ルールの理解 ③学生相互のコミュニケーション能力の向上
授業方法と留意点	屋外での運動とスポーツ競技の実践を主な授業内容とする。実習科目としての性格上、出席を重視する。 （雨天の場合、講義形式を行う場合がある。）
科目学習の効果（資格）	現役スポーツ選手として活動している学生が、有意義な競技生活を送ることができるよう、アスリートとして、より高い競技力を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意およびコース説明	ガイダンス内容を確認し、次回の授業準備を行う
2	球技	競技の概要説明、基礎技術練習	測定記録評価
3	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	測定記録評価
4	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
5	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
6	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
7	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
8	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
9	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
10	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
11	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
12	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。
学生へのメッセージ	授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１Ｆ体育館事務室にきてください。
担当者の研究室等	体育館１Ｆ　体育館事務室
備考	【準備物】 トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	専門日本語ＦＩ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes ＦＩ
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。
授業方法と留意点	授業は、実践と解説を中心に行う。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	―――
2	Ｅメールの基本１	Ｅメールの基本を学習する	復習
3	Ｅメールの基本２	Ｅメールの基本を学習する	復習
4	Ｅメール１	近況を知らせるメール	復習
5	Ｅメール２	お知らせメール	復習
6	Ｅメール３	お誘いメール	復習
7	Ｅメール４	リマインドメール	復習
8	Ｅメール５	問い合わせ／質問メール	復習
9	Ｅメール６	依頼メール	復習
10	Ｅメール７	アポイント／日程調整メール	復習
11	Ｅメール８	お礼のメール	復習
12	Ｅメール９	断りメール	復習
13	Ｅメール１０	クレームのメール	復習
14	手紙	お礼状を書く	復習
15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習

関連科目：総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1)宿題（教員へのメール送信）は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	専門日本語ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。
授業方法と留意点	授業は、講義と実践を中心に行う。
科目学習の効果（資格）	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	――――――――
2	就職活動１	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
3	就職活動２	自己 PR を書く	復習
4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
6	ビジネスメール１	挨拶メール	復習
7	ビジネスメール２	報告メール	復習
8	ビジネスメール３	通知メール	復習
9	ビジネスメール４	案内メール	復習
10	ビジネスメール５	確認メール	復習
11	ビジネスメール６	依頼メール	復習
12	ビジネスメール７	問い合わせ／回答メール	復習
13	ビジネスメール８	アポイントを取るメール	復習
14	ビジネスメール９	お詫び／お礼のメール	復習
15	総復習・確認テスト	総復習・確認テスト	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1)宿題（教員へのメール送信）は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本語会話ＦＩ	科目名（英文）	Japanese Conversation ＦＩ
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	髙井　美穂
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、「お金」「家族」「幸福」「労働」など、個人や社会の価値観にかかわるようなトピックについて、日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について、論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目および結果について議論する。その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	トピック⑦	議論	復習
8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
9	トピック⑧	議論	復習
10	トピック⑨	議論	復習
11	トピック⑩	議論	復習
12	トピック⑪	議論	復習
13	トピック⑫	議論	復習
14	トピック⑬	議論	復習
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み、２回のテストから総合的に判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター（３号館４階）
備考	

科目名	日本語会話ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Conversation F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	髙井　美穂
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	日本語会話ＦＩと同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
8	トピック⑦	議論	復習
9	トピック⑧	議論	復習
10	トピック⑨	議論	復習
11	トピック⑩	議論	復習
12	トピック⑪	議論	復習
13	トピック⑫	議論	復習
14	トピック⑬	議論	復習
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み、２回のインタビューテストから総合的に判断する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	国際交流センター（３号館４階）
備考	

科目名	日本語総合ＦＩ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese ＦＩ
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川　由理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的

この授業では次の３点を目標にします。
①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る
②まとまった内容の文章の大意を把握する
③できるだけ速く①と②をできるようにする

なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。

到達目標

日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。

JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する（N１、N２に限る）。

授業方法と留意点

この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確にていねいに読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。
１．キーワード・キーセンテンスを探す
２．接続詞に注意する
３．テキストの流れに注意する
４．予測して読む
５．テキストをまとめる

科目学習の効果（資格）

・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。
・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。
・その成果を専門の文章の読解に応用する。
（・JPT　N1 を持っていないものは取得を目指す。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する
5	キーセンテンスを探す（1）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
6	キーセンテンスを探す（2）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する
8	説明文を読む（1）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
9	説明文を読む（2）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
10	論説文を読む（1）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
11	論説文を読む（2）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
12	随筆を読む	2～3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する
13	小説を読む（1）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
14	小説を読む（2）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する

関連科目

日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験を実施（試験の形式については授業中に説明する）

出席・授業態度　＋　期末テスト　＝　100%
50%　　50%

学生へのメッセージ

受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。

出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。

担当者の研究室等

外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）

備考

受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。

科目名	日本語総合ＦⅡ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川　由理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	この授業では次の３点を目標にします。 ①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。
到達目標	日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。 JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する（N１、N２に限る）。
授業方法と留意点	この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確にていねいに読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。 １．キーワード・キーセンテンスを探す ２．接続詞に注意する ３．テキストの流れに注意する ４．予測して読む ５．テキストをまとめる
科目学習の効果（資格）	・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 （・JPT　N1 を持っていないものは取得を目指す。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する
5	キーセンテンスを探す（1）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
6	キーセンテンスを探す（2）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する
8	説明文を読む（1）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
9	説明文を読む（2）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
10	論説文を読む（1）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
11	論説文を読む（2）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
12	随筆を読む	2～3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する
13	小説を読む（1）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
14	小説を読む（2）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する

関連科目	日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験を実施（試験の形式については授業中に説明する） 出席・授業態度　＋　期末テスト　＝　100% 50%　　50%
学生へのメッセージ	受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。 出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。

科目名	日本語読解ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Reading ＦⅠ
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、日本人向けに書かれた一般書を読み、表面的な意見や情報だけでなく、含意された意見や立場なども理解できるようになることを目指す。
到達目標	読んだ内容について、表面的な意見や情報だけでなく、含意された意見や立場なども理解できるようになる。
授業方法と留意点	授業は以下のような流れで進める。 ①文章のテーマに関する知識をクラス内で共有する。②学習目標とそれを達成するために必要なスキルを確認する。③各自で文章を読み、タスクを解く。④教員による解説を行う。⑤自己評価を行う。 また、語彙力の増強のため、適宜単語テストを行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための基礎力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 心のバリアフリー	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
2	30 代ビジネスマンの「心の病」を考える	読解、内容理解	復習
3	「少女マンガ家ぐらし」へ	読解、内容理解	復習
4	プロフィール	読解、内容理解	復習
5	インタビュー	読解、内容理解	復習
6	いつも学びがある	読解、内容理解	復習
7	「早朝時間」のフル活用で成功した人たち①	読解、内容理解	復習
8	「早朝時間」のフル活用で成功した人たち②	読解、内容理解	復習
9	緑のカーテン	読解、内容理解	復習
10	環境立国ニッポンの挑戦①	読解、内容理解	復習
11	環境立国ニッポンの挑戦②	読解、内容理解	復習
12	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解	復習
13	フリーズする脳①	読解、内容理解	復習
14	フリーズする脳②	読解、内容理解	復習
15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習

関連科目	日本語読解Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単語テスト、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等については、メールで対応する。 (2)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本語読解ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	この授業では、日本人向けに書かれた一般書を批判的に読むことができるようになることを目指す。
到達目標	一般向けに書かれた文章を批判的に読むことができるようになる。
授業方法と留意点	授業は基本的に２回で１つの文章を読む。 １回目の授業では、文章のテーマに関する知識をクラス内で共有し、学習目標とそれを達成するために必要なスキルを確認した上で各自文章を読み、教員による解説を行う。 ２回目の授業では、１回目の授業で読んだ文章を批判的に読むためのタスクを行う。
科目学習の効果（資格）	文章を批判的に読む力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 批判的な読み方の練習	授業の進め方の説明 批判的な読み方を練習する	復習
2	私のニュースの読み方①	内容理解	復習
3	私のニュースの読み方②	批判的に読む	復習 ミニレポート
4	価値の一様性①	内容理解	復習
5	価値の一様性②	批判的に読む	復習 ミニレポート
6	経済学とは何か①	内容理解	復習
7	経済学とは何か②	批判的に読む	復習 ミニレポート
8	住まい方の思想①	内容理解	復習
9	住まい方の思想②	批判的に読む	復習 ミニレポート
10	ことばの構造、文化の構造①	内容理解	復習
11	ことばの構造、文化の構造②	批判的に読む	復習 ミニレポート
12	化粧する脳①	内容理解	復習
13	化粧する脳②	批判的に読む	復習 ミニレポート
14	メディアがもたらす環境変容に関する意識調査	内容理解、 批判的に読む	復習
15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習

関連科目	日本語読解Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ミニレポート、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	文章を批判的に読めるよう、一緒に練習しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等については、メールで対応する。 (2)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本語表現作文ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing F Ⅰ
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学びます。 レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付けることを目指します。
到達目標	レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付ける。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の文章の書き方について、説明と実践を行います。
科目学習の効果（資格）	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を築く

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
5	段落②	実践練習	復習 ミニレポート
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
7	経過説明②	実践練習	復習 ミニレポート
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
10	分類・定義	実践練習	復習 ミニレポート
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
13	要約②	実践練習	復習 ミニレポート
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習

関連科目：日本語表現作文Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等については、メールで対応する。 (2)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本語表現作文ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学びます。 レポートや論文の構成、適した表現、書き方のルールを身につけることを目指します。
到達目標	レポートや論文の構成、適した表現、書き方のルールを身につける。
授業方法と留意点	授業では、実際にテーマを決め、レポートを書き進めていきます。
科目学習の効果（資格）	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を築く

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集めてくる
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
7	序論①	序論の内容と書き方（課題、目的の提示）を学ぶ	復習
8	序論②	序論を書く	復習
9	本論①	本論の内容と書き方（データ、意見提示）を学ぶ	復習
10	本論②	本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ	復習
11	本論③	本論を書く	復習
12	結論①	結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ	復習
13	結論②	結論を書く	復習
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習

関連科目：日本語表現作文Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題、レポート、授業への参加態度を総合的に評価します。 授業内で書き進めたレポートを最終的に提出してもらい、評価の対象とします。
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等については、メールで対応する。 (2)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本語文法ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Grammar ＦⅠ
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、中上級の文型を取り上げ、機能ごとにまとめて学びます。中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになることを目指します。
到達目標	中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになる。
授業方法と留意点	授業では、教員による解説と練習問題を繰り返します。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 文型の理解度チェック	授業の進め方の説明 文型の理解度チェック	復習
2	動作の対象	文型の解説、練習	復習
3	目的・手段・媒介	文型の解説、練習	復習
4	起点・終点・限界・範囲	文型の解説、練習	復習
5	時点・場面	文型の解説、練習	復習
6	時間的同時性･時間的前後性	文型の解説、練習	復習
7	進行・相関関係	文型の解説、練習	復習
8	付帯・非付帯	文型の解説、練習	復習
9	限定	文型の解説、練習	復習
10	非限定・付加	文型の解説、練習	復習
11	比較・最上級・対比	文型の解説、練習	復習
12	判断の立場・評価の視点	文型の解説、練習	復習
13	基準	文型の解説、練習	復習
14	関連・対応	文型の解説、練習	復習
15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習

関連科目：日本語文法Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回の練習問題、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	中上級の文法を再確認し、苦手を克服しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等については、メールで対応する。 (2)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本語文法ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Grammar F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	この授業では、中上級の文型を取り上げ、機能ごとにまとめて学びます。中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになることを目指します。
到達目標	中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになる。
授業方法と留意点	授業では、教員による解説と練習問題を繰り返します。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 前期の復習	授業の進め方の説明 前期の学習内容の確認、復習	復習
2	無関係・無視・例外	文型の解説、練習	復習
3	例示	文型の解説、練習	復習
4	強調	文型の解説、練習	復習
5	話題	文型の解説、練習	復習
6	逆説・譲歩	文型の解説、練習	復習
7	原因・理由	文型の解説、練習	復習
8	仮定条件・確定条件	文型の解説、練習	復習
9	逆説仮定条件	文型の解説、練習	復習
10	不可能・可能・困難・容易	文型の解説、練習	復習
11	傾向・状態・様子	文型の解説、練習	復習
12	経過・結末	文型の解説、練習	復習
13	否定・部分否定	文型の解説、練習	復習
14	伝聞・推量	文型の解説、練習	復習
15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習

関連科目	日本語文法Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各回の練習問題、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	中上級の文法を再確認し、苦手を克服しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等については、メールで対応する。 (2)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本事情ＦＩ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society ＦＩ
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（1）映画についての情報・その他背景知識について説明　（2）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（3）テーマについてディスカッション　（4）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習
2	映画１：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画１：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画１：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画２：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
6	映画２：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
7	映画２：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画３：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画３：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画３：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画４：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
13	映画４：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
14	映画４：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ３・４に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目：日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法（基準）	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！
担当者の研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇　薫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（1）映画についての情報・その他背景知識について説明　（2）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（3）テーマについてディスカッション　（4）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習
2	映画１：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画１：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画１：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画２：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
6	映画２：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
7	映画２：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画３：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画３：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画３：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画４：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
13	映画４：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
14	映画４：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ３・４に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目：日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法（基準）	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！
担当者の研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	

教　養　科　目

科目名	英会話Ⅰ	科目名（英文）	English Conversation Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｽﾃｨｰﾌﾞ　ﾄﾏｼｪﾌｽｷｰ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	コースは基本的な英語に必要なコミュニケーション機能を実行するための、新しい文法、アプリケーション、発音やイントネーションをご紹介します。これは、材料やコミュニケーション機能が正常に完了したに焦点を当てる活動の使用によって達成されます。学生は、単一のパートナーと情報を交換するために、クラスで扱う情報を強化するように設計や読書や研究活動を行うことが期待されます。このクラスは、すべて英語で行われます。 学科の学習・教育目標との対応：[G], [H]
到達目標	英語を話す環境において、学生が必要最小限の意思の疎通が出来る様になる事。
授業方法と留意点	学生主導の授業である。ペアワークなど、躊躇することなく積極的に参加すること。
科目学習の効果（資格）	英語を使ってのコミュニケーション能力がつき、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introductions 授業の説明	Identify Personal Information　個人情報を相手伝える	単語と文法の予習
2	Hobbies/ Interests　趣味、関心	Question Forms Wh-words / Yes / No wh疑問詞を使った質問、イエス・ノーを使う。	単語と文法の復習・予習
3	Fashion　ファッション	Describe Clothing　衣服を表現する。	単語と文法の復習・予習
4	Color Pattern Naming　カラーパターンの名前	Adjective Order　形容詞の語順	単語と文法の復習・予習
5	Health Issues　健康問題	Giving / Receiving Advice　アドバイスを受ける、与える	単語と文法の復習・予習
6	Behaviors / Happiness 行為、幸せ	Use of Imperatives 「必須」の使い方	単語と文法の復習・予習
7	Review of Skills to Date これまでのレビュー	Demonstrate Competence in Practiced Skills　練習した力を表現する。	単語と文法の復習・予習
8	Directions　道順	Map Reading and Explanation　マップを読む力と説明する力	単語と文法の復習・予習
9	Store Functions お店の機能	Prepositions of Location　位置を表す前置詞	単語と文法の復習・予習.
10	Giving Directions　道順を教える	Asking / Answering Direction Requests 道順を訊く質問をする、答える	単語と文法の復習・予習
11	Gifts / Objects　贈り物、目的	Guessing Objects From Abstract Description　曖昧な説明から物事を想像する	単語と文法の復習・予習
12	Materials / Functions 物、機能	Singular / Plural Distinctions 単数形、複数形の使い分け	単語と文法の復習・予習
13	Future Activities　将来の活動	Discuss Plans　プランを議論する	単語と文法の復習・予習
14	Personal Hopes　個人的な望み	Future Possibilities / Predictions 将来の可能性、予測	単語と文法の復習・予習
15	Review of Skills to Date レビュー	Demonstrate Competence in Practiced Skills　練習した力を表現する。	単語と文法の復習

関連科目：特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success	M. Helgesen	Pearson Longman
2	English Firsthand Success Workbook	M. Helgesen	Pearson Longman
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	An English to English Dictionary		Oxford, Cambridge or other respected publisher
2			
3			

評価方法（基準）	出席は必ずすること。３週間ごとにスピーキングクイズを行う。授業前の準備（単語・文法の使い方）も、評価に反映する。やる気があるかどうかをみていきます。 評価割合は「授業前準備２０％、授業態度３０％、スピーキングクイズやテスト５０％」とします。
学生へのメッセージ	私は、このクラスの生徒のすべてが、真剣に英語でのコミュニケーションスキルを向上することを願っています。私は、学生のクラスでの最善の努力を見てみたい。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英会話Ⅰ	科目名（英文）	English Conversation Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン　ホワイト
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	This course is designed to develop skills in conversational English. In class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations particularly in the context of traveling abroad.
到達目標	The course purpose is to prepare students to travel abroad by not only raising skill levels but expanding cultural awareness.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果（資格）	—

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目　—

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCD Carnaval　ISBN 978-4-9905671-5-6	Richard Rowat	Weissman Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	
備考	Students should attend all classes if possible.

科目名	英会話Ⅰ	科目名（英文）	English Conversation Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＥＧＨＩＪ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｼﾞｮﾝｽﾄﾝ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	The course will introduce new grammar, applications, intonation and pronunciation to perform necessary communicative functions in basic English. This will be achieved through use of materials and activities that focus on the successful completion of communicative functions. Students will be expected to exchange information with single partners, and perform reading and research activities designed to reinforce information dealt with in the class.
到達目標	
授業方法と留意点	Students receive weekly prints or worksheets. They hear and write questions, then correct them before asking and answer questions with other students.
科目学習の効果（資格）	To build up Speaking and listening in English

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Describing routines / schedules	Questions / What / Do	Students should study the content of the day's lesson before they come to class.
2	Telling time Review and Quiz	Questions / What / Do All material to date	Students should study the content of the day's lesson before they come to class.
3	Ordering food / drink	would like and will have	Students should study the content of the day's lesson before they come to class.
4	Asking additional information Review and Quiz	would like and will have All material to date	Students should study the content of the day's lesson before they come to class.
5	Invitations	I'm ___-ing / I have to	Students should study the content of the day's lesson before they come to class.
6	Declining Invitations	I'm ___-ing / I have to	Students should study the content of the day's lesson before they come to class.
7	Talking about the weather	Let's and going to	Students should study the content of the day's lesson before they come to class.
8	Making suggestions Review and Quiz	Let's and going to All material to date	Students should study the content of the day's lesson before they come to class.
9	Talking about what others like	Let's / How about...? / like	Students should study the content of the day's lesson before they come to class.
10	Talking about gift giving Review and Quiz	Let's / How about...? / like All material to date	Students should study the content of the day's lesson before they come to class.
11	Making suggestions	We should/ shouldn't - We can / can't	Students should study the content of the day's lesson before they come to class.
12	Describing People & Jobs	What's ..... like?	Students should study the content of the day's lesson before they come to class.
13	Using degrees of description	Describing people / others	Students should study the content of the day's lesson before they come to class.
14	Talking about what you did	Sequencing words / time expressions	Students should study the content of the day's lesson before they come to class.
15	Review and Quiz	All material to date	Students should study the content of the day's lesson before they come to class.

関連科目	―

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Grades will be based on student preparation, in-class performance and short speaking and reading quizzes given periodically during the course.
学生へのメッセージ	It is my hope that all of the students in this class will seriously work to improve their communication skills in English.
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英会話Ⅱ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｽﾃｨｰﾌﾞ ﾄﾏｼｪﾌｽｷｰ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語のコミュニケーション能力は、リスニング能力はもちろんのこと、繰り返しの会話の失敗を通して向上します。そのため、失敗を恐れず、新しい文法、アプリケーション、発音やイントネーションを積極的に使用して授業を進めていきます。特に相手に英語で伝えるためには、目線、ハンドジェスチャー等も重要であることから、発声や表現力の向上を目指します。
到達目標	英語を話す環境において、学生が必要最小限の意思の疎通が出来る様になる事。
授業方法と留意点	授業ではテキストを使いながら、さまざまな異文化間コミュニケーションを実践していきます。たとえば、ジェスチャーの違い、あるいはイントネーションなどなどコミュニケーション能力向上に向けたよりアクティブで効果的なテクニックを学びます。 授業には必ず出席してください。授業中は失敗してもいいので積極的に発言してください。
科目学習の効果（資格）	英語で簡単なプレゼンテーションができるレベルを目指します。もちろん、原稿をみながらでもＯＫです。また面接やコミュニケーション（自己紹介＆専門的対話）を英語でできる程度の能力を身に着けます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Vacation Activities	Discuss Feelings / Reasons	単語と文法の予習
2	Discussing Past Activities	Simple Past　Wh　Questions / Answers	単語と文法の復習・予習　Review Previous Class Material
3	The Natural World	Comparative Adjectives	単語と文法の復習・予習　Review Previous Class Material
4	Describe / Discuss Animals	Describe / Discuss Animals	単語と文法の復習・予習　Review Previous Class Material
5	Ability Verbs	Quality of Ability	単語と文法の復習・予習　Review Previous Class Material
6	Discuss Abilities　Past & Present	Use of “Can”	単語と文法の復習・予習　Review Previous Class Material
7	Review of Skills to Date	Demonstration; Mastery of Practiced Oral & Aural Communicative Skills	Review All Previous Class Material　To Date
8	Activity Preferences	Likes / Dislikes	単語と文法の復習・予習　Review Previous Class Material
9	Giving / Accepting / Declining Invitations	Gerund Forms　V + ing	単語と文法の復習・予習　Review Previous Class Material
10	Rules / Modal Verbs	Describing Rules of Institutions	単語と文法の復習・予習　Review Previous Class Material
11	Positive / Negative Verbs	“Need To”　“Should” & “Shouldn’t”	単語と文法の復習・予習　Review Previous Class Material
12	Rules of Student Clubs	Discuss Rules of Student Preferred Activities	単語と文法の復習・予習　Review Previous Class Material
13	Stories	Story Structure Observation / Analysis / Production	単語と文法の復習・予習　Review Previous Class Material
14	Giving Opinion	Sequence Markers; First, Then, etc.	単語と文法の復習・予習　Review Previous Class Material
15	Comprehensive Review & Evaluation of Oral Skills To Date	Demonstration; Mastery of Practiced Oral & Aural Communicative Skills)	Review All Previous Class Material　To Date

関連科目：特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success -　Student Text	Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier	Pearson Longman isbn 9789880030581
2	English Firsthand Success -　Student Work Book	Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier	Pearson Longman isbn 9789880030581
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	An English to English Dictionary		Oxford, Cambridge or other respected publisher
2			
3			

評価方法（基準）

評価方法
60% of the student Grade will be based on student in-class performance and quizzes. 20% will be based upon willing student participation in the activities of the class and 20% will be based upon the student preparation for the class.

学生へのメッセージ：It is my hope that all of the students in this class will seriously work to improve their communication skills in English.　I ask that students try to make their best efforts in completing the tasks assigned in this class.

担当者の研究室等：７号館２階（非常勤講師室）

備考：

科目名	英会話Ⅱ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン　ホワイト
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	This course is designed to develop skills in conversational English. In class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations particularly in the context of traveling abroad.
到達目標	The course purposes are varied and very beneficial to all aspects of the students' linguistic abilities. These range from clearer articulation and pronunciation to broad cultural and grammatical awareness and proper usage to enhanced reading of conversational phrases and much more. All purposes are aligned with departmental objectives.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCD Carnaval　ISBN 978-4-9905671-5-6	Richard Rowat	Weissman Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation.
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	In Building No. 7, 2F, the teacher is available at certain times. Always contact may be made via the secretary.
備考	Students should make the utmost effort to attend every class.

科目名	英会話Ⅱ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＥＧＨＩＪ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｼﾞｮﾝｽﾄﾝ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	The course will introduce new grammar, applications, intonation and pronunciation to perform necessary communicative functions in basic English. This will be achieved through use of materials and activities that focus on the successful completion of communicative functions. Students will be expected to exchange information with single partners, and perform reading and research activities designed to reinforce information dealt with in the class.
到達目標	The course purposes are varied and very beneficial to all aspects of the students' linguistic abilities. These range from clearer articulation and pronunciation to broad cultural and grammatical awareness and proper usage to enhanced reading of conversational phrases and much more. All purposes are aligned with departmental objectives.
授業方法と留意点	Students receive weekly prints or worksheets. They hear and write questions, then correct them before asking and answer questions with other students.
科目学習の効果（資格）	To build up Speaking and listening in English

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Vacation Activities	Discuss Impressions / Reasons	None
2	Discussing Past Activity	Simple Past Wh Questions / Answers	Review All Previous Data
3	The Natural World	Comparative Adjectives	Review All Previous Data
4	Describe / Discuss Animals	Superlative Adjectives	Review All Previous Data
5	Ability Verbs	Quality of Ability	Review All Previous Data
6	Abilities Past & Present	Use of "Can"	Review All Previous Data
7	Review of Skills to Date	Demonstrate Competence in Practiced Skills	Review All Previous Data
8	Activity Preferences	Likes / Dislikes	None
9	Invitations/ Give / Accept	Gerund Forms V + ing	Review All Previous Data
10	Rules / Modal Verbs	Describing Rules of Institutions	Review All Previous Data
11	Positive / Negative Verbs	"Need To" "Should" & "Shouldn't"	Review All Previous Data
12	Rules of Student Clubs	Discuss Rules of Student Preferred Activities	Review All Previous Data
13	Stories	Story Structure Observation / Analysis / Production	Review All Previous Data
14	Giving Opinions	Sequence Markers; First, Then, After That, etc.	Review All Previous Data
15	Review of Skills to Date	Demonstrate Competence in Practiced Skills	Review All Previous Data

関連科目　－

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Grades will be based on student preparation, in-class performance and short speaking and reading quizzes given periodically during the course.
学生へのメッセージ	It is my hope that all of the students in this class will seriously work to improve their communication skills in English.
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅰ	科目名（英文）	English Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大神　雄一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語の基礎的学力の習得を目的とする。授業では、英文法の確認およびリスニングやリーディングの演習活動を通じて、理解と習得を進める。 学科の学習・教育目標との対応：[A]
到達目標	中学・高校までの学習内容を改めて確認しながら、今後の大学での英語学習や、TOEIC などの資格試験対策の土台となる力を身につける。
授業方法と留意点	テキストの学習項目に従って、英文法やリスニング・リーディングの演習に取り組んだ上で、教員から解説を行う。授業はテキストに沿って進めるので、各自指定のテキストを購入しておくこと。授業には辞書を持参することが望ましい。予習・復習および単語の学習と小テストについては、初回のオリエンテーションおよび各授業時に指示する。この授業では、授業中の活動への取り組み姿勢を特に重視するため、授業中の活動への積極的な参加が期待される。
科目学習の効果（資格）	TOEIC スコアーアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容、予習復習、単語テスト、成績評価などについて説明する。	（事後学習として）次回の予習
2	Unit1：自己紹介	つながる音① 名詞の学習	予習・復習 指定単語の学習
3	Unit2：家族・ペット	つながる音② 動詞	予習・復習 指定単語の学習
4	Unit3：趣味	つながる音③ 主語＋動詞＋～	予習・復習 指定単語の学習
5	Unit4：大学生活	消える音① 人称代名詞	予習・復習 指定単語の学習
6	Unit5：食べ物	消える音② 疑問詞	予習・復習 指定単語の学習
7	Unit 6：コンサート	消える音③ How～？	予習・復習 指定単語の学習
8	課題テスト① フィードバック	ここまでの内容の復習と確認テスト	ここまでの総復習
9	Unit7：道案内	変化する音① 助動詞①	予習・復習 指定単語の学習
10	Unit8：日本文化の紹介	変化する音② 助動詞②	予習・復習 指定単語の学習
11	Unit9：ジェスチャー	変化する音③ 前置詞	予習・復習 指定単語の学習
12	Unit10：観光案内	変化する音④ 過去形、現在形、未来形	予習・復習 指定単語の学習
13	Unit11 航空券を net で get	カタカナ語の発音 現在進行形	予習・復習 指定単語の学習
14	Unit12：e-mail を送る	数字の聴き取り Review	予習・復習 指定単語の学習
15	課題テスト② フィードバック	ここまでの内容の復習と確認テスト	ここまでの総復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English　総合英語パワーアップ＜入門編＞	JACET リスニング研究会	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
2			
3			

評価方法（基準）	以下３つの項目より、１００点満点にて成績評価を行う。 単語テスト：３０％　（法学部が行う統一単語テストの得点） 平常点：３０％　（予習・授業への取り組み状況・授業内での小単語テストなどの結果に基づいて総合的に評価する） 課題テスト：４０％　（２回の課題テストの合計得点。状況に応じて、課題の提出などを得点に加えることもある）
学生へのメッセージ	この授業では、中学・高校レベルの英語基礎力の習得を目指しながら学習を進めていきます。英語の学習は面倒なことが多いと感じる人もいるかと思いますが、ゆっくり地道に学習を進められるよう心がけますので、英語が苦手な人・嫌いな人もポジティブに取り組んでもらえればと思っています。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	質問・相談がある場合、授業前後にでも声をかけてください。適宜必要な対応を検討します。

科目名	英語Ⅱ	科目名（英文）	English II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大神　雄一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語の基礎的学力の習得を目的とする。授業では、英文法の確認およびリスニングやリーディングの演習活動を通じて、理解と習得を進める。 学科の学習・教育目標との対応：[A]
到達目標	中学・高校までの学習内容を改めて確認しながら、今後の大学での英語学習や、TOEIC などの資格試験対策の土台となる力を身につける。
授業方法と留意点	テキストの学習項目に従って、英文法やリスニング・リーディングの演習に取り組んだ上で、教員から解説を行う。授業はテキストに沿って進めるので、各自指定のテキストを購入しておくこと。授業には辞書を持参することが望ましい。予習・復習および単語の学習と小テストについては、初回のオリエンテーションおよび各授業時に指示する。この授業では、授業中の活動への取り組み姿勢を特に重視するため、授業中の活動への積極的な参加が期待される。
科目学習の効果（資格）	TOEIC スコアーアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容、予習復習、単語テスト、成績評価などについて説明する。	（事後学習として）次回の予習
2	Unit１３：機内で	日本語にない音① 時間・気候を表す It	予習・復習 指定単語の学習
3	Unit１４：空港で	日本語にない音② 接続詞	予習・復習 指定単語の学習
4	Unit１５：ホテル	紛らわしい音① 不定詞	予習・復習 指定単語の学習
5	Unit１６：レストランで	紛らわしい音② 形容詞	予習・復習 指定単語の学習
6	Unit１７：ショッピング	紛らわしい音③ 頻度の副詞	予習・復習 指定単語の学習
7	Unit １８：ベースボール	紛らわしい音④ 比較	予習・復習 指定単語の学習
8	課題テスト① フィードバック	ここまでの内容の復習と確認テスト	ここまでの総復習
9	Unit１９:ミュージカル鑑賞	語頭と語尾の音 現在完了	予習・復習 指定単語の学習
10	Unit２０：旅行案内	つづりと発音① 受動態①	予習・復習 指定単語の学習
11	Unit２１：トラブル・シューティング	つづりと発音② 受動態②	予習・復習 指定単語の学習
12	Unit２２：体調不良	pause のとり方 分詞	予習・復習 指定単語の学習
13	Unit２３:電話での申し込み	イントネーション 動名詞	予習・復習 指定単語の学習
14	Unit２４：さよなら、アメリカ！	センス・グループ ここまでの Review	予習・復習 指定単語の学習
15	課題テスト② フィードバック	ここまでの内容の復習と確認テスト	ここまでの総復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English　総合英語パワーアップ＜入門編＞	JACET リスニング研究会	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
2			
3			

評価方法（基準）	以下３つの項目より、１００点満点にて成績評価を行う。 単語テスト：３０％　（法学部が行う統一単語テストの得点） 平常点：３０％　（予習・授業への取り組み状況・授業内での小単語テストなどの結果に基づいて総合的に評価する） 課題テスト：４０％　（２回の課題テストの合計得点。状況に応じて、課題の提出などを得点に加えることもある）
学生へのメッセージ	この授業では、中学・高校レベルの英語基礎力の習得を目指しながら学習を進めていきます。英語の学習は面倒なことが多いと感じる人もいるかと思いますが、ゆっくり地道に学習を進められるよう心がけますので、英語が苦手な人・嫌いな人もポジティブに取り組んでもらえればと思っています。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	質問・相談がある場合、授業前後にでも声をかけてください。適宜必要な対応を検討します。

科目名	英語Ⅲ	科目名（英文）	English III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	栢木　敦子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英文読解力を身につける訓練を行う。 基礎的な文法事項を確認する。 共通テキストを利用し語彙力の強化を図る。
到達目標	要点を把握しながら素早く読み進める読解力と 大学生として習得しておくべき基礎的な文法力を身につける。
授業方法と留意点	毎回単語テストを行う。 パラグラフごとに内容を確認し、練習問題に取り組む。 読解に必要な文法事項を学ぶ。
科目学習の効果（資格）	基礎的な文法力の養成と読解力の向上。 TOEIC に有効な語彙力の強化。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明	・要点の整理 ・次回の予習
2	Unit 1　LANGUAGE AND CULTURE Chapter 1　Learning a Second Language　前半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	・要点の整理 ・次回の予習
3	Unit 1　LANGUAGE AND CULTURE Chapter 1　Learning a Second Language　後半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	・要点の整理 ・次回の予習
4	Unit 1　LANGUAGE AND CULTURE Chapter 2　The Best Place to Live　前半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	・要点の整理 ・次回の予習
5	Unit 1　LANGUAGE AND CULTURE Chapter 2　The Best Place to Live　後半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	・要点の整理 ・次回の予習
6	Unit 2　HOME AND FAMILY Chapter 3　A Musical Family　前半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	・要点の整理 ・次回の予習
7	Unit 2　HOME AND FAMILY Chapter 3　A Musical Family　後半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	・要点の整理 ・次回の予習
8	中間テストおよび解説	中間テスト実施 中間テスト解説	・要点の整理 ・次回の予習
9	Unit 2　HOME AND FAMILY Chapter 4　The McCaugheys: An Unusual Family　前半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	・要点の整理 ・次回の予習
10	Unit 2　HOME AND FAMILY Chapter 4　The McCaugheys: An Unusual Family　後半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	・要点の整理 ・次回の予習
11	Unit 3　EXERCISE AND FITNESS Chapter 5　The Importance of Exercise for Children 前半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	・要点の整理 ・次回の予習
12	Unit 3　EXERCISE AND FITNESS Chapter 5　The Importance of Exercise for Children 後半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	・要点の整理 ・次回の予習
13	Unit 3　EXERCISE AND FITNESS Chapter 6　The New York City Marathon: A World Race 前半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	・要点の整理 ・次回の予習
14	Unit 3　EXERCISE AND FITNESS Chapter 6　The New York	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis	・要点の整理

	City Marathon: A World Race 後半	Information Organization Follow-up Activity	
15	前期総括	前期復習	総復習

関連科目	他の英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Base	山科美和子ほか	センゲージ　ラーニング
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	共通単語試験 30%、臨時テスト２回 50%、平常点（発表、小テスト、受講態度）20%とし総合的に評価する。
学生へのメッセージ	テキストは必ず購入し辞書とともに毎回持参してください。 単語力を強化するために e-learning に積極的に取り組むこと。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　（非常勤講師室）
備考	

科目名	英語Ⅳ	科目名（英文）	English Ⅳ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	栢木　敦子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英文を読むために必要な力を身につける訓練を行う。 基礎的な文法事項を確認する。 共通テキストを利用し語彙力の向上を図る。
到達目標	要点を把握しながら素早く読み進める読解力と 大学生として習得しておくべき基礎的な文法力を身につける。
授業方法と留意点	毎回単語テストを行う。 パラグラフごとに内容を確認し、練習問題に取り組む。 読解に必要な文法事項を学ぶ。
科目学習の効果（資格）	基礎英文法の養成と読解力の向上。 TOEIC テストに有効な語彙力を強化。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 4 REMARKABLE RESEARCHES Chapter 7 Margaret Mead: The World Was Her Home 前半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	要点の整理 次回の予習
2	Unit 4 REMARKABLE RESEARCHES Chapter 7 Margaret Mead: The World Was Her Home 後半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	要点の整理 次回の予習
3	Unit 4 REMARKABLE RESEARCHES Chapter 8 Louis Pasteur: A Modern-Day Scientist 前半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	要点の整理 次回の予習
4	Unit 4 REMARKABLE RESEARCHES Chapter 8 Louis Pasteur: A Modern-Day Scientist 後半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	要点の整理 次回の予習
5	Unit 5 SCIENCE AND HISTORY Chapter 9 The Origin of the Moon 前半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	要点の整理 次回の予習
6	Unit 5 SCIENCE AND HISTORY Chapter 9 The Origin of the Moon 後半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	要点の整理 次回の予習
7	中間テストおよび解説	中間テスト実施 中間テスト解説	中間テストの復習
8	Unit 5 SCIENCE AND HISTORY Chapter 10 A New Route across the Top of the World 前半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	要点の整理 次回の予習
9	Unit 5 SCIENCE AND HISTORY Chapter 10 A New Route across the Top of the World 後半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	要点の整理 次回の予習
10	Unit 6 FUTURE TECHNOLOGY TODAY Chapter 11 Clues and Criminal Investigation 前半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	要点の整理 次回の予習
11	Unit 6 FUTURE TECHNOLOGY TODAY Chapter 11 Clues and Criminal Investigation 後半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	要点の整理 次回の予習
12	Unit 6 FUTURE TECHNOLOGY TODAY Chapter 12 Saving Lives with Weather Forecasting 前半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	要点の整理 次回の予習
13	Unit 6 FUTURE TECHNOLOGY TODAY Chapter 12 Saving Lives with Weather Forecasting 後半	単語テスト Vocabulary 確認 Reading Analysis Information Organization Follow-up Activity	要点の整理 次回の予習

14	後期総括	後期復習	テスト準備
15	臨時テストおよび解説	臨時テスト実施 臨時テスト解説	臨時テスト復習

関連科目	他の英語関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading Base	山科美和子ほか	センゲージ　ラーニング
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	共通単語試験 30%、臨時テスト２回 50%、平常点（発表、小テスト、受講態度など）20%とし総合的に評価する。
学生への メッセージ	テキストを必ず購入し毎回辞書とともに持参すること。忘れた場合は欠席扱いとする。 単語力を強化するために e-learning に積極的に取り組むこと。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	英語で学ぶ工学入門（ものづくり編）	科目名（英文）	Introduction to Manufacturing Engineering
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森脇　俊道
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	The lecture is intended to give fundamental knowledge of mechanical manufacturing processes, machines and systems in English to those who are not necessarily to be specialists of the subject.
到達目標	The target of the lecture is that the students can understand the general idea of manufacturing and exchange opinions with others about manufacturing in English.
授業方法と留意点	The lecture is given in English. Slides and movies will be frequently utilized to assist understanding of the contents of the lecture. The students are requested to study the contents of the subject in advance and to prepare for presentation of the home work in the class room each time.
科目学習の効果（資格）	The students will be able to understand basic manufacturing engineering and exchange ideas about manufacturing with others in English.

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Overview of manufacturing engineering	Role of manufacturing engineering. Classification and history of manufacturing technology.	Examine typical manufacturing methods in early days.
2	Examples of industrial products and their functions	Anatomy of industrial products, such as car, air plane, train and home appliances.	Examine structure and function of a product at hand.
3	Engineering materials	Ferrous materials, non-ferrous metals, plastics, ceramics etc.	Name materials at hand and examine their fundamental properties.
4	Fundamental properties of materials	Elasticity, plasticity, strength, specific weight etc.	Compare mechanical properties of materials at hand.
5	Manufacturing of raw materials	Manufacturing processes of steel, Aluminum and other materials.	Name typical raw materials before processing.
6	Casting	Basic and advanced casting processes and examples of casted products.	Name typical casted parts or products.
7	Forming and forging	Basic and advanced forming and forging processes and examples of formed or forged products.	Name typical formed or forged parts or products.
8	Welding and joining	Basic and advanced welding and joining processes and examples of welded or joined products.	Name typical welded or joined parts and products.
9	Cutting	Metal cutting process and cutting tools. Examples of cut parts.	Name typical cut parts or products.
10	Grinding and polishing	Grinding process and grinding methods. Examples of ground parts.	Name typical ground parts or products.
11	Machine tools	Basic structure of machine tools. Conventional and computer controlled machine tools.	Name typical machine tools and examine their functions.
12	Non-traditional processing	Laser processing, electro discharge machining, additive manufacturing etc.	Name typical parts or products processed by non-traditional methods.
13	Manufacturing systems	Manufacturing systems and their components. History of manufacturing systems.	Examine functions of manufacturing systems.
14	Industrial robots	Application of industrial robots to manufacturing and advanced robot technology.	Examine types and functions of industrial robots.
15	Summary of manufacturing engineering	Review of the lecture.	Summarize the key points of the lecture.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	50% of the points are given based on the contribution to the lecture including presentation of the home-work in the class room. Another 50 % of the points are given based on the test results at the end of the term.
学生へのメッセージ	The lecture is not intended to give specific knowledge of manufacturing engineering, but to give rather general knowledge of manufacturing engineering so that they can broaden their minds and deepen knowledge of English.
担当者の研究室等	１２号館６階　森脇教授室
備考	

科目名	海外語学研修	科目名（英文）	Overseas Language Training
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	齋藤　安以子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この研修は、語学力（英語力）の向上と研修地の歴史・文化およびそこで生活する人々に触れ、国際的な知識と理解を深め、広範囲な国の人々と協力し合える国際感覚を身につけることを目的とする。 研修先での授業は、月曜日から金曜日に実施し、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊はホームステイ形式である。費用は 40 万円前後を予定（為替レートにより変動の可能性あり）。＊詳細は、３月～４月の募集ガイダンスで周知する。
到達目標	・研修先の歴史や文化を前もって調査することで、現地での研修を深められるようになる。 ・一緒に研修に行く他の学生と交流し、協力して研修を成功させる。
授業方法と留意点	３月上旬～４月下旬 募集ガイダンス（日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する）、事前学習としては事前のガイダンス出席が義務付けられている。また、事後には成果報告およびレポート提出を要請されている。 ５月 申込書の提出 ５月下旬 派遣学生の決定および履修申請 ６月～８月 事前ガイダンスを実施（全３回） ８月上旬 結団式 ＜研修スケジュール＞ ［２週間コース］ ８月中旬～８月下旬（予定） ［３週間コース］ ８月中旬～９月上旬（予定
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	これまでに学んだ英語の知識を、実際に使うための練習を多角的に行う。 事前学習 ・海外渡航に関する基本的なガイダンス等 ・英語で自分から話す練習をすること。インターネット上でもたくさんの学習サイトがあるので、渡航前に自分の中の英語の出力スピードや反応を活性化させておくといい。 事後学習課題 ・同時期に開催される他の研修参加者と共に、成果報告会でのプレゼンテーションを行う。 ・レポート作成。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	帰国後に提出する成果報告書（２０％）および研修先での成績（８０％）を基に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	国際交流センター
備考	・参加学生は事前ガイダンスに必ず出席すること。欠席の場合は、事前に国際交流センターへ連絡をしてください。 ・事前に参加申込みをし、参加許可を得た者に限り履修申請をすることができる。通常の履修申請とは方法が異なるので注意。 ・各学部の期末試験等のスケジュールを確認の上、履修を検討すること。学部・学年によっては、今年度は受講できない場合もあります。

科目名	北河内学－摂南大学と北河内を知る－	科目名（英文）	Introduction to regional partnership between Kitakawachi area and Setsunan
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	尾山　廣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	[授業概要]学部共通の入門科目として、摂南大学と大学が立地する「北河内地域」の地歴・環境・文化・産業や同地域内にある地方自治体の現状と課題、また、同地域に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動を広範囲にわたって紹介する。[目的] 摂南大学の学生として大学や地域に愛着を持てるようになり、学生生活の中で自分自身を見つける機会とする。また、地域貢献活動や地域社会での実践教育の動機づけとする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりにおける摂南大学の役割を理解し、地域の一員として地域貢献活動への参画意識を身につける。
授業方法と留意点	摂南大学地域連携センター関係教員のほか、北河内地域（寝屋川市・枚方市・交野市・門真市）に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとが学外講師として参画し、オムニバス（リレー）形式による講義を行う。各時間内に質疑応答の時間を設け、毎回、時間内に小レポートを提出する。なお、事前学習として、北河内地域の市の広報ＨＰを閲覧しておくこと。
科目学習の効果（資格）	自分自身が学ぶ摂南大学の歴史を知り、また、地域で活躍する人びとの人生観に触れ、大学と地域に愛着を持ち学生生活の中で自分自身を見つける機会となり地域貢献活動への関心が高まり活動への動機付けが図られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	摂南大学とこの地域を学ぶ「北河内学」	本講義のねらいと学び方について解説した後、摂南大学と本学を設置する常翔学園の歴史を紹介し、併せて摂南大学の教育の理念を紹介する。また、本学と地域社会との関わり合いについての概要を説明する。	事後学習：摂南大学の自校史集やホームページ、図書館を活用して、大学の歴史や教育の理念などについて理解を深めること。
2	北河内の地歴と文化を学ぶ（1）	北河内地域の歴史的建造物について講義する。	事後学習：建造物とその時代背景などを調べ、北河内に関する理解を深めること。
3	北河内の地歴と文化を学ぶ（2）	淀川とその流域の北河内地域の地理・歴史や文化について講義する。地元の研究家が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、図書館を活用するなど淀川とその流域の地理・歴史や文化について理解を深めること。
4	北河内の地歴と文化を学ぶ（3）	都市（寝屋川市）と地方（和歌山県すさみ町）の連携をはかる取り組みを紹介し、両者が共存共栄するための考え方と具体的な施策について地元の方が解説する。	事後学習：寝屋川市と協定を結んでいる和歌山県すさみ町との協働事業について、それぞれのホームページを参照し、調べてみる。
5	北河内のまちを知る（1）寝屋川市	寝屋川市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と寝屋川市を見比べるほか、図書館を活用するなど寝屋川市の現状と課題について理解を深めること。
6	北河内のまちを知る（2）枚方市	枚方市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と枚方市を見比べるほか、図書館を活用するなど枚方市の現状と課題について理解を深めること。
7	北河内のまちを知る（3）交野市	交野市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と交野市を見比べるほか、図書館を活用するなど交野市の現状と課題について理解を深めること。
8	北河内のまちを知る（4）門真市	門真市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と門真市を見比べるほか、図書館を活用するなど門真市の現状と課題について理解を深めること。
9	北河内で活躍する人びとや団体を知る（1）	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などの方が、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
10	北河内で活躍する人びとや団体を知る（2）	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などの方が、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
11	北河内で活躍する人びとや団体を知る（3）	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などの方が、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
12	北河内で活躍する人びとや団体を知る（4）	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などの方が、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
13	北河内で活躍する人びとや団体を知る（5）	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などの方が、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
14	北河内で活躍する人びとや団体を知る（6）	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などの方が、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
15	北河内の産業を知る	北河内地域での産業活動の具体例について講義する。地元の北大阪商工会議所や寝屋川市工業会の役員が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、関係するホームページや図書館を活用するなどして産業活動を再確認し理解を深めること。

関連科目	地理、歴史、文化、経済、産業などに関する教養科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の講義の最後に行う小テストまたはレポート（７５％）に加えて、講義全体に関して課せられるレポート課題（２５％）を総合して評価する。
学生への メッセージ	毎回必ず出席してください。地域で活躍されている各分野のいろいろな人の話を聞くことで、摂南大学と地域が密接につながっていること、そして自分もこの地域とのつながりを大切にすることの意義がわかるようになり、自信を持って本学での勉学に励むことができるようになります。 　なお、本講義は地域で活躍されている方々の協力のもとに行われます。講師に対する礼を逸することなく、私語を慎み、遅刻、居眠り、途中退室などをしないように心がけてください。態度が悪い学生は受講を認めないことがあります。
担当者の 研究室等	１号館９階　尾山教授室
備考	学外講師の事情により、授業計画の内容及び順序が変更になります。４月の第１回の講義時に説明します。 学外講師の関係者が聴講することがあります。 また、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。

科目名	教養化学	科目名（英文）	Chemistry
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹内　健治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	化学はこの世界に存在するさまざまな物質を理解する科学です。はじめて化学を学ぶ人に対して、それぞれの物質がどのようにしてつくられ、どのような性質を示すのかなど、基本的な原理をできるだけ理論的にやさしく解説します。
到達目標	身の回りの物質を新しい視点でとらえ、化学の考え方の本質を知ることができます。
授業方法と留意点	教科書やプロジェクター、配布資料などを用いて、モデル図や写真を使って解説します。小テストや課題により理解度を確認します。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	原子	この世界をかたちづくっている材料は原子です。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
2	元素と周期表	元素を整理して理解する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
3	原子と原子のつながり	原子と原子のつながり方は、いくつかある。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
4	モルと化学反応式	化学反応を正しい化学反応式で記述する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
5	濃度の表しかた	粉末試薬を水に溶かして目的濃度の水溶液を調整する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
6	酸化と還元	酸化と還元を定義する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
7	物質の性質と状態	気体、液体、個体における分子の状態の違い。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
8	気体の性質	気体における温度、圧力、体積の関係。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
9	化学反応と熱エネルギー	熱化学方程式を用いた化学反応と反応熱の関係。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
10	化学反応と化学平衡	化学反応はどのようなしくみで進むのか。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
11	水と溶液	「溶ける」とはどのような現象なのか。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
12	透析と浸透圧	浸透、透析、浸透圧について。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
13	酸および塩基とｐＨ	酸と塩基を定義する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
14	放射線と放射能	放射線、放射能、ラジオアイソトープとは何か。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
15	有機化学	有機分子とは炭素原子どうしがさまざまな形でつながってできた分子である。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめて学ぶ化学	野島高彦	化学同人
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ティンバークレイ教養の化学	渡辺正・尾中篤	東京化学同人
2	ズンダール基礎化学	大嶌幸一郎・花田禎一	東京化学同人
3			

評価方法（基準）	小テスト（３０％）、課題（２０％）、定期試験（50%）により評価します。
学生へのメッセージ	質問は適宜受け付けます。
担当者の研究室等	枚方学舎１号館５階
備考	

科目名	教養経済学	科目名（英文）	Economics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅羽　良昌
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学（国際経済を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	日本経済の特徴・歴史・現在を述べながら経済全般の基礎知識を提供する。
到達目標	受講生は、私が提供する資料を分析することにより、学ぶことのやり方や楽しみ方が分かるはずである。判断能力が高められることを目標とする。
授業方法と留意点	レジュメを用いながら講義を行う。なお、受講生の数によるが、学生による報告・発表の時間も設けたい。
科目学習の効果（資格）	社会人として必要な経済学的知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	日本経済の特徴（1）	イギリスやアメリカと比較し、日本経済の特徴はどんなところにあるか、そのことを明らかにしたい。	事後：授業の復習
2	日本経済の特徴（2）	経常収支（貿易・サービス・所得・移転）をキーワードにして、日本経済の特徴をさらに明示したい。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
3	世界経済にしめる日本経済の位置（1）	世界経済の推移を明らかにしながら、その中にしめる日本経済のポジションを明らかにする。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
4	世界経済にしめる日本経済の位置（2）	GDP の指標を中心に国別経済の推移を踏まえながら、日本経済の位置をさらに確認する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
5	産業構造の推移	産業構造が第一次から第二次・第三次へと移動していくことを説明する。工業化・高い労働生産性の達成が持続的な成長の要の条件であることを説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
6	日本経済の時代区分	日本経済の歴史を４つの時期に区分し、それぞれの特徴を明らかにする。GDP, 貿易依存度、商品類別の貿易構造を明示する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
7	日本経済のダイナミズム（1）	競争社会へと参入した経済の台頭期における農業・工業・サービス部門について説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
8	日本経済のダイナミズム（2）	工業・サービス部門の成長がみられた経済の飛躍・挫折期における農業・工業・サービス部門について説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
9	日本経済のダイナミズム（3）	工業の高度成長を達成した時期における農業・工業・サービス部門について説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
10	日本経済のダイナミズム（4）	安定成長から低成長・停滞へと大きく転換した時期における農業・工業・サービス部門について説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
11	サービス大国への挑戦（1）	サービス経済化とは何か？サービス経済化への要因、問題点を指摘する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
12	サービス大国への挑戦（2）	サービス経済化におけるサービス業の現状を明らかにするとともに、サービス業それ自体は依然として国際劣位にあることを説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
13	サービス経済化と観光産業	サービス業に属する観光産業とはどのような産業か？観光産業の意義と問題点を説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
14	国際観光	観光産業は何故今、話題になっているのか？国内観光とともに観光産業を支えている国際観光について説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
15	復習とまとめ	講義で説明したことを総括する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習

関連科目：経済学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）：定期試験によって評価を行う。

学生への メッセージ	はじめが肝心なので厳しく評価したい。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階（浅羽教授室）（経済学部）
備考	

科目名	教養数学	科目名（英文）	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒木　和雄
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。１つの目安として、公務員・警察官等の採用試験の数理分野の問題には十分対応できるようにしたい。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	方程式(1)	・四則応用 ・１次方程式	課題レポート
2	方程式(2)	・２次方程式	課題レポート
3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	課題レポート
4	割合(１)	・比 ・混合算	課題レポート
5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	課題レポート
6	速さ(1)	・速さ ・流水算	課題レポート
7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	課題レポート
8	速さ(3)	・時計算	課題レポート
9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	課題レポート
10	確率	・確率の計算	課題レポート
11	図形の計量(1)	・多角形	課題レポート
12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	課題レポート
13	整数(1)	・約数，倍数 ・剰余	課題レポート
14	整数(2)	・記数法	課題レポート
15	規則性	・数列 ・規則性の発見	課題レポート

関連科目：教養物理

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。また学習支援センターを積極的に利用して欲しいと思います。
担当者の研究室等	3 号館 3 階(数学準備室)
備考	

科目名	教養物理	科目名（英文）	Physics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西谷　幹彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	すべての人々が自然現象を認識し，理解できるように数量や式を用いて表現したのが物理学である。身近に感じる重力から始まる「力学」を習得し，これを基礎として電子という荷電粒子にかかる力の概念を学ぶ。ここから「電磁気学」がはじまる。さらに，気体分子の運動を理解することで，温度や圧力の概念を学び「熱力学」へとつながる。授業の水準は，高校物理を履修していない学生も理解できるよう一から論述するので，この機会に物理学に対して理解を養っていただきたい。
到達目標	自然現象やこれに基づく科学技術に関した基礎知識を身につけ，新しい情報に対して，自らが知的好奇心を育むことが出来るような土壌をつくる。
授業方法と留意点	「力学」について，「電磁気学」について，「熱力学」について，各項目の授業の終わりに小テストを行います。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	身の周りの科学技術と物理の世界	物理とは何だろうかを身近な例をとって分かりやすく説明する。数式化の基礎となる物理量の表し方や単位について学ぶ。	――――
2	時間に対する位置の変化量としての速度・加速度	時間とともに変化する位置から，その動きの速度が求まる。さらに速度の時間変化を追うことで，加速度の概念を習得する。	予習・復習課題１
3	運動の法則	力学の基礎となる運動の第１～第３法則を理解する。	予習・復習課題２
4	重力	ニュートンが発見した万有引力について理解する。万有引力から地球の重力加速度を求める。重力が大きさも方向も一様であることを学ぶ。	予習・復習課題３
5	運動方程式	運動方程式のたて方およびその解き方について説明する。例として自由落下を扱う。	予習・復習課題４
6	重力と垂直抗力によるつり合いの式	運動方程式の解法を学んだのち，物体が釣り合っている状態での運動方程式を理解する。	予習・復習課題５
7	運動量と力積	「時間」と力との関係から，運動量という新たな量を理解する。	予習・復習課題６
8	仕事・運動エネルギー・位置エネルギー	「空間」と力との関係から，エネルギーという新たな量を理解する。	予習・復習課題７
9	原子と周期律と原子モデル	物質は原子で構成されていることを知り，その原子は負電荷をもつ電子と正電荷をもつ陽子から成ることを理解する。	予習・復習課題８
10	クーロン力と電場	質量による万有引力と対比して，荷電粒子にかかるクーロン力を理解する。電場中に置かれた電子にかかる力の概念を学ぶ。	予習・復習課題９
11	導体中での電子の運動と電気抵抗。	電気抵抗とは，自由電子と金属イオンとの衝突であることを学ぶ。電気回路でのオームの法則へと発展する。	予習・復習課題１０
12	気体の状態方程式	ボイル・シャルルの法則，気体の状態方程式。	予習・復習課題１１
13	圧力と温度	圧力と温度の概念を気体の分子運動論から理解する。	予習・復習課題１２
14	熱と仕事と熱力学第一法則	熱現象に関わるエネルギー保存則を学ぶ。熱量，内部エネルギー，仕事。	予習・復習課題１３
15	おわりに	「力学」「電磁気学」「熱力学」のまとめ。	――――

関連科目	教養数学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎物理	潮　秀樹，上村　洸	森北出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	「力学」について，「電磁気学」について，「熱力学」について，３種類の小テストで評価する。
学生へのメッセージ	私たちの科学文明は，身の回りの自然を理解することで生み出されてきました。ほんのささいな疑問から次の疑問へとつながることで文明の進歩が継続していきます。どのような疑問でも，自分のなかに留めず必ず質問すること。
担当者の	８号館２階　物理準備室

研究室等	
備考	１時間以上をかけて丁寧に復習すること。 理解できなかった点を洗い出し，可能な限り次の授業にて質問をしたうえで，さらなる知識を積み上げること。

科目名	くらしと経済	科目名（英文）	Life and Economy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀　篤史
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学（国際経済を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	この授業では、「企業の見方」、「経済の見方」を具体的事例に即して分かりやすく解説し、経済・金融の基本的知識を習得することを目的とする。
到達目標	経済・金融のエッセンスを身に付けることで、新聞の経済面の記事をある程度理解できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義形式で行う。参考文献は随時紹介していく。
科目学習の効果（資格）	経済学検定
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	なぜ、経済・金融の知識が必要なのか。	――――――
2	金融とは①	株式に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習
3	金融とは②	金融リテラシーの必要性を学習する。	前回の内容を復習
4	企業分析入門①	会計に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習
5	企業分析入門②	第４回の続き	練習問題１
6	企業分析入門③	具体的な事例を挙げ、企業分析の手法を学習する。	前回の内容を復習
7	企業分析入門④	第６回の続き	練習問題２
8	株式投資の基礎知識	株価はどうして決まるのか。株式投資の魅力とリスクについて学習する。	練習問題３
9	前半のまとめ	前半のまとめを行う。	練習問題４
10	日本経済について	経済状況を把握するための代表的な経済指標について学習する。	前回の内容を復習
11	日本の財政①	日本の財政状況について学習する。	前回の内容を復習
12	日本の財政②	第 11 回の続き	練習問題５
13	国際金融①	為替相場に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習
14	国際金融②	最近の国際金融の動向について学習する。	練習問題６
15	まとめ	全体のまとめをおこなう。	練習問題７

関連科目	経済学Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末テストによって評価を行う。
学生へのメッセージ	金融・経済に関する知識は、今後就職、起業の際に必要不可欠です。
担当者の研究室等	11 号館５階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	経営学入門	科目名（英文）	Introdution to Management
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	庭本　佳子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	【授業概要】 法学部の学生を対象に、基本的な企業経営の仕組みについての講義を行います。この講義では、組織論・管理論・戦略論の基本的な用語と概念を学び、それらを用いて具体的な経営現象を説明していきます。 【目的】 経営学の基本的な理論と概念を理解すること
到達目標	【到達目標】 経営学の基本的な概念や用語を説明できるようにします。 国家公務員一般職試験および地方上級職試験における専門試験で出題される「経営学」を理解できる程度の知識を習得します。
授業方法と留意点	教科書を中心にした講義を行います。講義の理解を促進するために、講義の中で数回テストを行うことがあります。
科目学習の効果（資格）	国家公務員一般職試験および地方上級職試験における専門試験科目の「経営学」対策

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本講義のガイダンスを行います。	シラバスを事前に読んでおくこと
2	企業経営の基本的な仕組み	企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学びます。	教科書第 1 章の予習と今回のノートの復習
3	企業と社会	社会における企業の位置づけ、機能について考えます。企業の社会的責任についても学びます。	教科書第 2 章の予習と今回のノートの復習
4	コーポレート・ガバナンス	所有と経営の分離によって、何が生じたのでしょうか。株式会社における経営者の役割と株主の権利について考えます。	教科書第 3 章の予習と今回のノートの復習
5	経営戦略(1)	企業は環境の変化に適応していかなければなりません。そのために必要な意思決定の指針とはどのようなものか、企業戦略や経営理念といった概念から説明します。	教科書第 4 章の予習と今回のノートの復習
6	経営戦略(2)	企業が競争に勝ち、持続的に成長していくための競争戦略について学びます。	今回のノートの復習
7	組織形態	企業が戦略を実行するためには、効率的な部門構成や組織構造が必要です。様々な組織形態を検討していきます。	教科書第 5 章の予習と今回のノートの復習
8	組織間関係	企業は、他の企業と協力しながら事業活動を行うことがあります。日本企業を中心に系列や下請け、戦略的提携といった企業間関係を学びます。	教科書第 6 章の予習と今回のノートの復習
9	生産管理	企業は製品やサービスを製造・生産しています。とりわけ「モノづくり」の現場において、どのようにコストダウンと品質の向上の両立が追求されてきたのかについて学びます。	教科書第 7 章の予習と今回のノートの復習
10	組織活動	「モノづくり」を可能にするのは、そこで働く人々の活動です。そうした組織活動の基礎とマネジメントについて学びます。	教科書第 8 章の予習と今回のノートの復習
11	モチベーションとリーダーシップ	働く人々の意欲を引き出すにはどうすればいいのでしょうか。モチベーションという概念から働くことの意味について考えます。モチベーションを引き出すリーダーシップという概念についても学んでいきます。	教科書第 9 章の予習と今回のノートの復習
12	雇用システム	企業の雇用管理について学びます。その上で、今日、企業の雇用システムがどのように変化しているのかについて検討します。	教科書第 10 章の予習と今回のノートの復習
13	報酬制度	報酬制度にはどのようなものがあるのか概観し、その中でも年功給、職務給、職能給、成果給といった賃金制度について学びます。	教科書第 11 章の予習と今回のノートの復習
14	人材育成	企業は従業員の能力を最大限に活用するために、能力を開発し人材育成に取り組んでいます。人材育成制度とその課題について学んでいきます。	教科書第 12 章の予習と今回のノートの復習
15	現代の企業経営	各回の講義の要点をまとめ、グローバル市場下における企業経営の方向性を考えます。	今回のノートの復習

関連科目	経営学、経営管理論、経営組織論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄・奥林康司・團　泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林　明	有斐閣
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験と中間テストの成績によって評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 8 階　庭本講師室
備考	

科目名	経済学Ⅰ	科目名（英文）	Economics Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀　篤史
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学（国際経済を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	この授業では、「企業の見方」、「経済の見方」を具体的事例に即して分かりやすく解説し、経済・金融の基本的知識を習得することを目的とする。
到達目標	経済・金融のエッセンスを身に付けることで、新聞の経済面の記事をある程度理解できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義形式で行う。参考文献は随時紹介していく。
科目学習の効果（資格）	経済学検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	なぜ、経済・金融の知識が必要なのか。	――――――
2	金融とは①	株式に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習
3	金融とは②	金融リテラシーの必要性を学習する。	前回の内容を復習
4	企業分析入門①	会計に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習
5	企業分析入門②	第４回の続き	練習問題１
6	企業分析入門③	具体的な事例を挙げ、企業分析の手法を学習する。	前回の内容を復習
7	企業分析入門④	第６回の続き	練習問題２
8	株式投資の基礎知識	株価はどうして決まるのか。株式投資の魅力とリスクについて学習する。	練習問題３
9	前半のまとめ	前半のまとめを行う。	練習問題４
10	日本経済について	経済状況を把握するための代表的な経済指標について学習する。	前回の内容を復習
11	日本の財政①	日本の財政状況について学習する。	前回の内容を復習
12	日本の財政②	第 11 回の続き	練習問題５
13	国際金融①	為替相場に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習
14	国際金融②	最近の国際金融の動向について学習する。	練習問題６
15	まとめ	全体のまとめをおこなう。	練習問題７

関連科目：経済学Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末テストによって評価を行う。
学生へのメッセージ	金融・経済に関する知識は、今後就職、起業の際に必要不可欠です。
担当者の研究室等	11 号館５階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	経済学Ⅱ	科目名（英文）	Economics II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅羽　良昌
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学（国際経済を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	日本経済の特徴・歴史・現在を述べながら経済全般の基礎知識を提供する。
到達目標	受講生は、私が提供する資料を分析することにより、学ぶことのやり方や楽しみ方が分かるはずである。判断能力が高められることを目標とする。
授業方法と留意点	レジュメを用いながら講義を行う。なお、受講生の数によるが、学生による報告・発表の時間も設けたい。
科目学習の効果（資格）	社会人として必要な経済学的知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	日本経済の特徴（1）	イギリスやアメリカと比較し、日本経済の特徴はどんなところにあるか、そのことを明らかにしたい。	事後：授業の復習
2	日本経済の特徴（2）	経常収支（貿易・サービス・所得・移転）をキーワードにして、日本経済の特徴をさらに明示したい。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
3	世界経済にしめる日本経済の位置（1）	世界経済の推移を明らかにしながら、その中にしめる日本経済のポジションを明らかにする。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
4	世界経済にしめる日本経済の位置（2）	GDPの指標を中心に国別経済の推移を踏まえながら、日本経済の位置をさらに確認する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
5	産業構造の推移	産業構造が第一次から第二次・第三次へと移動していくことを説明する。工業化・高い労働生産性の達成が持続的な成長の要の条件であることを説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
6	日本経済の時代区分	日本経済の歴史を４つの時期に区分し、それぞれの特徴を明らかにする。GDP,貿易依存度、商品類別の貿易構造を明示する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
7	日本経済のダイナミズム（1）	競争社会へと参入した経済の台頭期における農業・工業・サービス部門について説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
8	日本経済のダイナミズム（2）	工業・サービス部門の成長がみられた経済の飛躍・挫折期における農業・工業・サービス部門について説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
9	日本経済のダイナミズム（3）	工業の高度成長を達成した時期における農業・工業・サービス部門について説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
10	日本経済のダイナミズム（4）	安定成長から低成長・停滞へと大きく転換した時期における農業・工業・サービス部門について説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
11	サービス大国への挑戦（1）	サービス経済化とは何か？サービス経済化への要因、問題点を指摘する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
12	サービス大国への挑戦（2）	サービス経済化におけるサービス業の現状を明らかにするとともに、サービス業それ自体は依然として国際劣位にあることを説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
13	サービス経済化と観光産業	サービス業に属する観光産業とはどのような産業か？観光産業の意義と問題点を説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
14	国際観光	観光産業は何故今、話題になっているのか？国内観光とともに観光産業を支えている国際観光について説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
15	復習とまとめ	講義で説明したことを総括する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習

関連科目：経済学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）：定期試験によって評価を行う。

学生への メッセージ	はじめが肝心なので厳しく評価したい。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階（浅羽教授室）（経済学部）
備考	

科目名	経済学入門	科目名（英文）	Introdution to Economics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀　篤史
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学（国際経済を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	この授業では、「企業の見方」、「経済の見方」を具体的事例に即して分かりやすく解説し、経済・金融の基本的知識を習得することを目的とする。
到達目標	経済・金融のエッセンスを身に付けることで、新聞の経済面の記事をある程度理解できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義形式で行う。参考文献は随時紹介していく。
科目学習の効果（資格）	経済学検定
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	なぜ、経済・金融の知識が必要なのか。	――――――
2	金融とは①	株式に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習
3	金融とは②	金融リテラシーの必要性を学習する。	前回の内容を復習
4	企業分析入門①	会計に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習
5	企業分析入門②	第４回の続き	練習問題１
6	企業分析入門③	具体的な事例を挙げ、企業分析の手法を学習する。	前回の内容を復習
7	企業分析入門④	第６回の続き	練習問題２
8	株式投資の基礎知識	株価はどうして決まるのか。株式投資の魅力とリスクについて学習する。	練習問題３
9	前半のまとめ	前半のまとめを行う。	練習問題４
10	日本経済について	経済状況を把握するための代表的な経済指標について学習する。	前回の内容を復習
11	日本の財政①	日本の財政状況について学習する。	前回の内容を復習
12	日本の財政②	第 11 回の続き	練習問題５
13	国際金融①	為替相場に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習
14	国際金融②	最近の国際金融の動向について学習する。	練習問題６
15	まとめ	全体のまとめをおこなう。	練習問題７

関連科目	経済学Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末テストによって評価を行う。
学生へのメッセージ	金融・経済に関する知識は、今後就職、起業の際に必要不可欠です。
担当者の研究室等	11 号館５階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	経済と法	科目名（英文）	Economy and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅羽　良昌
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学（国際経済を含む。）」　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	日本経済の特徴・歴史・現在を述べながら経済全般の基礎知識を提供する。
到達目標	受講生は、私が提供する資料を分析することにより、学ぶことのやり方や楽しみ方が分かるはずである。判断能力が高められることを目標とする。
授業方法と留意点	レジュメを用いながら講義を行う。なお、受講生の数によるが、学生による報告・発表の時間も設けたい。
科目学習の効果（資格）	社会人として必要な経済学的知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	日本経済の特徴（1）	イギリスやアメリカと比較し、日本経済の特徴はどんなところにあるか、そのことを明らかにしたい。	事後：授業の復習
2	日本経済の特徴（2）	経常収支（貿易・サービス・所得・移転）をキーワードにして、日本経済の特徴をさらに明示したい。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
3	世界経済にしめる日本経済の位置（1）	世界経済の推移を明らかにしながら、その中にしめる日本経済のポジションを明らかにする。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
4	世界経済にしめる日本経済の位置（2）	GDPの指標を中心に国別経済の推移を踏まえながら、日本経済の位置をさらに確認する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
5	産業構造の推移	産業構造が第一次から第二次・第三次へと移動していくことを説明する。工業化・高い労働生産性の達成が持続的な成長の要の条件であることを説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
6	日本経済の時代区分	日本経済の歴史を４つの時期に区分し、それぞれの特徴を明らかにする。GDP, 貿易依存度、商品類別の貿易構造を明示する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
7	日本経済のダイナミズム（1）	競争社会へと参入した経済の台頭期における農業・工業・サービス部門について説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
8	日本経済のダイナミズム（2）	工業・サービス部門の成長がみられた経済の飛躍・挫折期における農業・工業・サービス部門について説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
9	日本経済のダイナミズム（3）	工業の高度成長を達成した時期における農業・工業・サービス部門について説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
10	日本経済のダイナミズム（4）	安定成長から低成長・停滞へと大きく転換した時期における農業・工業・サービス部門について説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
11	サービス大国への挑戦（1）	サービス経済化とは何か？サービス経済化への要因、問題点を指摘する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
12	サービス大国への挑戦（2）	サービス経済化におけるサービス業の現状を明らかにするとともに、サービス業それ自体は依然として国際劣位にあることを説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
13	サービス経済化と観光産業	サービス業に属する観光産業とはどのような産業か？観光産業の意義と問題点を説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
14	国際観光	観光産業は何故今、話題になっているのか？国内観光とともに観光産業を支えている国際観光について説明する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習
15	復習とまとめ	講義で説明したことを総括する。	事前：授業テーマの予習 事後：授業の復習

関連科目：経済学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）：定期試験によって評価を行う。

学生への メッセージ	はじめが肝心なので厳しく評価したい。
担当者の 研究室等	1 号館 7 階（浅羽教授室）（経済学部）
備考	

科目名	健康科学	科目名（英文）	Health Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林　真美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	我が国では、交通手段の発達や家事の自動化等により身体活動量が著しく低下しており、さらに食生活の欧米化等も影響して、生活習慣病にかかる人口は増加の一途をたどっている。一方で、うつ病等にかかる人口も激増しており、メンタルヘルスの保持増進も重要課題となっている。 本講義では、学生諸君が在学中のみならず生涯にわたり心身の健康を維持・増進するため、健康に関して科学的な裏付けに基づいた知識を幅広く身につけ、講義内容を実践できる能力を身につけることを目的とする。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	健康に関する幅広い知識を理解し、実生活に応用することができる。
授業方法と留意点	毎回の授業開始時にレジュメを配布する。授業終了後、課題を課すので次週の授業開始時に提出のこと。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	日本人の健康に関する現状を把握し、本講義の意義について述べる。	授業終了時に課題を提示する。
2	健康づくりの三本柱	健康づくりのための三本柱とされている「運動」「栄養」「休養」と、その相互作用について解説する。学生諸君は自身の生活について振り返り、改善すべき点があるか検討する。	授業終了時に課題を提示する。
3	身体の生理機能	食べたものはどこへいくか？吸った酸素はどこでどんな作用をするか？ 生体の生理について復習する。	授業終了時に課題を提示する。
4	運動トレーニングが肥満対策になる所以	メタボリック症候群の定義、その温床にある内臓肥満について解説する。また肥満、糖尿病、脂質異常症など生活習慣病について解説し、その予防になぜ運動トレーニングが効果的なのか、最新の知見と関連させて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
5	運動トレーニングで何が変わるか？	運動トレーニングにより、筋力増強、持久力向上、骨代謝、エネルギー代謝などが改善される。それらのメカニズムについて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
6	どんな運動（種類・時間・頻度）が健康によいのか？	第 5 回で解説した運動トレーニングの効果は、運動方法によってその作用が異なる。肥満解消、筋力増大、骨の増強など目的に応じたトレーニング方法について解説する。	授業終了時に課題を提示する。
7	基礎栄養学	各栄養素の種類や機能について解説する。日ごろの食生活を振り返り、改善すべき点があるか否か検討する。	授業終了時に課題を提示する。
8	食生活と健康	前回の内容を踏まえ、望ましい食事について「食事バランスガイド」に基づいて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
9	ダイエット計画	近年、性別や年齢による身体の見た目や中身（体重や体脂肪率など）の違いが明らかになっている。この違いを理解したうえで、望ましいダイエット方法について解説する。	授業終了時に課題を提示する。
10	女性の健康・男性の健康	性別による身体的特徴と性ホルモンの作用、さらに男女それぞれの加齢変化も踏まえて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
11	ストレスマネジメント	近年増加しているうつ病について概説し、うつ病やメンタルヘルス、ストレス対策として運動が有効なのか、最新の知見を紹介しながら解説する。 また他の精神障害についても概説する。	授業終了時に課題を提示する。
12	睡眠	睡眠がどのような役割を果たしているか解説する。日ごろの睡眠について振り返り、改善すべき点があるか否か検討する。	授業終了時に課題を提示する。
13	アルコールと喫煙、薬物、性感染症	アルコールやタバコ、薬物が身体にどのように影響を及ぼすか解説する。また HIV など性感染症についても解説する。	授業終了時に課題を提示する。
14	高齢者の介護予防と運動	わが国は超高齢化社会となり、今後さらに高齢者人口が増大することが見込まれている。運動がなぜ介護予防に効果的なのか、解剖学・生理学の立場から解説する。	授業終了時に課題を提示する。
15	総括	本講義の総括と、健康に関する諸問題について考える。	本授業で習得した内容を総括。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、生涯スポーツ実習
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	期末試験 50%、レポート 30%、授業態度 20%の割合で評価する。
学生への メッセージ	皆さんが将来、知的職業人として社会で活躍するためには、まず心身の健康の保持増進が大切です。健康科学の基本を理解して、心身のセルフマネジメントができるようになることを希求します。
担当者の 研究室等	総合体育館１階　藤林研究室
備考	1）毎回の課題は１時間以上かけて作成のこと。 2）毎回の課題以外に、講義の予習復習として３０分以上かけること。 3）自主学習は試験の準備を含めて、２０時間かけること。

科目名	健康論	科目名（英文）	Theory of Health
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤林　真美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会は利便さと引き換えに人々の身体活動量が著しく減少し、その結果、子どもから高齢者まで年齢階層を問わず生活習慣病に罹患する人口が激増している。この予防・改善には、「運動」「食事」「休養」のバランスが取れた生活を送ることが望ましい。 本講義では、健康について幅広い知識を習得することを目的とする。
到達目標	心身の健康について、授業で習得した内容を実生活に応用する。
授業方法と留意点	レジュメを配布する。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに～健康とは～	健康の定義。厚生労働省の「健康日本２１」の概要を解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
2	「運動」「栄養」「休養」	「運動」「栄養」「休養」について概説し、それらと生活習慣病との関連性について説明する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
3	五大栄養素	五大栄養素とその役割について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
4	身体を動かす仕組み～筋・骨格系～	筋・骨格系の解剖学的、形態学的特性と神経系の役割について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
5	身体を動かすしくみ～呼吸器・循環器器系～	呼吸器・循環器の構造と機能、血液成分について解説する。運動時の呼吸応答、酸素摂取量の変動、心拍数、心拍出量の変動。さらに運動トレーニングによる変化について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
6	メンタルヘルスと運動	心の健康とは何か。また運動が心の健康にもたらす影響について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
7	生活習慣病予防としての運動の役割	エネルギー供給系について説明し、運動トレーニングによるエネルギー代謝の変化を解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
8	発育・発達	幼少期から青年期にいたる身体の形態発育・機能発達と、それらに運動トレーニングが及ぼす効果について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
9	老化	身体の形態・機能の老化について解説する。また中・高齢者における運動トレーニングの効果について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
10	様々な環境下における生理学的しくみ	暑熱下・寒冷下における体温調節のしくみを解説する。さらに暑熱環境下における水分補給について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
11	運動障害と予防、応急処置	スポーツ障害、過換気症候群、RICE 処置、心肺蘇生法について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
12	健康づくりのための運動処方	有酸素・無酸素運動、レジスタンストレーニングについて、健康づくりの観点から解説する。また年代・性差による違いについても説明する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
13	ストレス・疲労への対策	ストレス要因の軽減・ストレスへの早期対応としてのスポーツの関わりを解説する。 また疲労が起こるしくみとその対策について解説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
14	アルコール、タバコ、薬物、性感染症	アルコールやタバコ、薬物が身体へ及ぼす影響について解説する。また HIV など性感染症について概説する。	授業時に課題を課す。次週の授業開始時に提出のこと。
15	総括	皆さんの QOL（Quality of life: 生活の質）向上の観点から、「運動」「食事」「休養」の有用性について総括する。	これまで学習した内容の総括。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、生涯スポーツ実習、健康科学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の課題と定期試験により評価する。ただしレポート提出を求める場合がある。
学生へのメッセージ	皆さんが将来知的職業人として社会で活躍するためには、まず「健康」が基盤です。自分の身体・健康に興味を持って、より充実した大学生活を過ごしてください。

担当者の 研究室等	総合体育館 1 階　藤林研究室
備考	

科目名	国語学	科目名（英文）	Japanese Language
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	国語学は、「日本語とは何か」を考える学問である。高校までの「国語」とはまったく異なるのでそのつもりで。 国語学では、世界の言語とも比較しつつ、日本語を分析することで、日本語を見つめ直すことを目的とする。 言葉について考えることは、人間について、社会について、文化について、考えることにもつながる。単に日本語についての知識を得るのではなく、広い視野をもって考える力を身につけて欲しい。
到達目標	日本語の特色について、正確に説明することができる。
授業方法と留意点	配布するプリントに沿って講義する。講義の後、コメントを求める。課題を提出する。
科目学習の効果（資格）	日本語に対する理解が深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、概説 日本語について考える	――――
2	世界の中の日本語１	日本の文字について、世界の文字とあわせて考察する	日本語の特徴について考えてくる
3	世界の中の日本語２	日本語は、世界の言葉の中でどのように位置づけられるか	日本語の文字の特徴をまとめる
4	発音１	日本語の発音について詳しく知る	日本語と外国語を比較する
5	発音２	日本語の発音について詳しく知る	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
6	拍と音節	日本語の拍と音節について考える 拍の一覧表を作成する	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
7	リズム	日本語のリズムについて考える	拍の表を完成させる
8	アクセント１	東西におけるアクセントの違いを見る	日本語のリズムについての課題を作成する
9	アクセント２	アクセントの高低配分について考える	関西と関東のアクセントの違いをまとめておく
10	文法１	日本語の述語について考察する１	アクセントの法則をまとめておく
11	文法２	日本語の述語について考察する２	授業で指摘した文法の例を考える
12	文法３	日本語の述語について考察する３	授業で指摘した文法の例を考える
13	文法４	日本語の動詞について考察する	授業で指摘した文法の例を考える
14	文法５	日本語の主語の特徴について考察する	授業で指摘した動詞の例を考える
15	語彙 まとめ	日本語の語彙について考える	語彙について整理する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験を実施する。 定期試験の成績（80%）、授業時の課題（20%）により、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	日常当たり前のように用いている「ことば」そのものに関心を持って下さい。
担当者の研究室等	７号館４階（橋本研究室）
備考	事前事後学習に、毎週１時間以上は必要。

科目名	国語学Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Language Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	国語学は、「日本語とは何か」を考える学問である。高校までの「国語」とはまったく異なるのでそのつもりで。 国語学では、世界の言語とも比較しつつ、日本語を分析することで、日本語を見つめ直すことを目的とする。 言葉について考えることは、人間について、社会について、文化について、考えることにもつながる。単に日本語についての知識を得るのではなく、広い視野をもって考える力を身につけて欲しい。
到達目標	日本語の特色について、正確に説明することができる。
授業方法と留意点	配布するプリントに沿って講義する。講義の後、コメントを求める。課題を提出する。
科目学習の効果（資格）	日本語に対する理解が深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、概説 日本語について考える	――――
2	世界の中の日本語１	日本の文字について、世界の文字とあわせて考察する	日本語の特徴について考えてくる
3	世界の中の日本語２	日本語は、世界の言葉の中でどのように位置づけられるか	日本語の文字の特徴をまとめる
4	発音１	日本語の発音について詳しく知る	日本語と外国語を比較する
5	発音２	日本語の発音について詳しく知る	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
6	拍と音節	日本語の拍と音節について考える 拍の一覧表を作成する	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
7	リズム	日本語のリズムについて考える	拍の表を完成させる
8	アクセント１	東西におけるアクセントの違いを見る	日本語のリズムについての課題を作成する
9	アクセント２	アクセントの高低配分について考える	関西と関東のアクセントの違いをまとめておく
10	文法１	日本語の述語について考察する１	アクセントの法則をまとめておく
11	文法２	日本語の述語について考察する２	授業で指摘した文法の例を考える
12	文法３	日本語の述語について考察する３	授業で指摘した文法の例を考える
13	文法４	日本語の動詞について考察する	授業で指摘した文法の例を考える
14	文法５	日本語の主語の特徴について考察する	授業で指摘した動詞の例を考える
15	語彙 まとめ	日本語の語彙について考える	語彙について整理する

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験を実施する。 定期試験の成績（80%）、授業時の課題（20%）により、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	日常当たり前のように用いている「ことば」そのものに関心を持って下さい。
担当者の研究室等	７号館４階（橋本研究室）
備考	事前事後学習に、毎週１時間以上は必要。

科目名	時事英語Ⅰ	科目名（英文）	Journal English Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	里井　真理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	情報化社会、国際化社会の中で、日常生活においても様々な問題が起こります。 そのような時に法律の知識があれば、大いに役立つことは言うまでもないでしょう。 この授業では、法律の基本的な知識と総合的な英語力の向上を目的とします。
到達目標	語彙力、構文力に基づいた読解力・聴解力・表現力・運用能力の向上
授業方法と留意点	各ユニットを１～2回の授業で進めていく予定です。 必ずテキストの予習をし、辞書を持って授業に臨みましょう。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Chapter 1 Can We Use an Umbrella Left in the Library?	授業内容についての説明 読解・問題（pp.1～3） Quiz	授業範囲の予習と復習
2	Chapter 1 Can We Use an Umbrella Left in the Library?	Review 読解・問題（pp.3～6） Quiz	授業範囲の予習と復習
3	Chapter 2 How to Protect Copyrights	読解・問題（pp.7～8） Quiz	授業範囲の予習と復習
4	Chapter 2 How to Protect Copyrights	Review 読解・問題（pp.9～12） Quiz	授業範囲の予習と復習
5	Chapter 3 Do Ordinary People Avoid Being Dismissed?	読解・問題（pp.13～15） Quiz	授業範囲の予習と復習
6	Chapter 3 Do Ordinary People Have the Right of Publicity?	Review 読解・問題（pp.15～18） Quiz	授業範囲の予習と復習
7	Chapter 4 How Can Lazy Workers Avoid BeingDismissed?	読解・問題（pp.19～21） Quiz	授業範囲の予習と復習
8	Chapter 4 How Can Lazy Workers Avoid BeingDismissed?	Review 読解・問題（pp.21～24） Quiz	授業範囲の予習と復習
9	Chapter 5 How to Cancel a Contract	読解・問題（pp.25～27） Quiz	授業範囲の予習と復習
10	Chapter 5 How to Cancel a Contract	Review 読解・問題（pp.27～30） Quiz	授業範囲の予習と復習
11	Chapter 6 Something Bought but Not Obtained?	読解・問題（pp.31～33） Quiz	授業範囲の予習と復習
12	Chapter 6 Something Bought but Not Obtained?	Review 読解・問題（pp.33～36） Quiz	授業範囲の予習と復習
13	Chapter 7 How to Use Trademakers	読解・問題（pp.37～39） Quiz	授業範囲の予習と復習
14	Chapter 7 How to Use Trademakers	Review 読解・問題（pp.39～42） Quiz	授業範囲の予習と復習
15	General Review	Chapter　1～ Chapter　7までの総まとめ	授業ノート・テキストをしっかり復習しておくこと。

関連科目	他の全英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Good Choice -Law in Daily Life-　日常生活の法律	石井　隆之　他	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度（30%）＋ 授業時の課題（30%）＋小テスト（40%）
学生へのメッセージ	日頃から意識的にニュースや新聞などを読んだり視聴して、情報や知識を身につけましょう。 予習・復習をしっかり行いましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	時事英語Ⅱ	科目名（英文）	Journal English II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	里井　真理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	情報化社会、国際化社会の中で、日常生活においても様々な問題が起こります。 そのような時に法律の知識があれば、大いに役立つことは言うまでもないでしょう。 この授業では、法律の基本的な知識と総合的な英語力の向上を目的とします。
到達目標	語彙力、構文力に基づいた読解力・聴解力・表現力・運用能力の向上
授業方法と留意点	各ユニットを１～2回の授業で進めていく予定です。 必ずテキストの予習をし、辞書を持って授業に臨みましょう。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Chapter 8 Minor's Incompetence	読解・問題（p43～45） Quiz	授業範囲の予習と復習
2	Chapter 8 Minor's Incompetence	Review 読解・問題（pp.45～48） Quiz	授業範囲の予習と復習
3	Chapter 9 Inheritance of Debt	読解・問題（pp.49～50） Quiz	授業範囲の予習と復習
4	Chapter 9 Inheritance of Debt	Review 読解・問題（pp.51～54） Quiz	授業範囲の予習と復習
5	Chapter 10 Who Should Passer-by File a Suite Against?	読解・問題（pp.55～57） Quiz	授業範囲の予習と復習
6	Chapter 10 Who Should Passer-by File a Suite Against?	Review 読解・問題（pp.57～60） Quiz	授業範囲の予習と復習
7	Chapter 11 A way to Make a Debtor Repay	読解・問題（pp.61～63） Quiz	授業範囲の予習と復習
8	Chapter 11 A way to Make a Debtor Repay	Review 読解・問題（pp.63～66） Quiz	授業範囲の予習と復習
9	Chapter 12 How to Break One's Promise Elegantly	読解・問題（pp.67～69） Quiz	授業範囲の予習と復習
10	Chapter 12 How to Break One's Promise Elegantly	Review 読解・問題（pp.69～72） Quiz	授業範囲の予習と復習
11	Chapter 13 A Stone Strikes an Unintended Target!	読解・問題（pp.73～75） Quiz	授業範囲の予習と復習
12	Chapter 13 A Stone Strikes an Unintended Target!	Review 読解・問題（pp.75～78） Quiz	授業範囲の予習と復習
13	Chapter 14 If Your Guard Had a Gun?	読解・問題（pp.79～81） Quiz	授業範囲の予習と復習
14	Chapter 14 If Your Guard Had a Gun?	Review 読解・問題（pp.81～84） Quiz	授業範囲の予習と復習
15	General Review	総まとめ	授業ノート・テキストをしっかり復習しておくこと。

関連科目	他の全英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Good Choice -Law in Daily Life-　日常生活の法律	石井　隆之　他	成美堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度（30%）＋ 授業時の課題（30%）＋小テスト（40%）
学生へのメッセージ	日頃から意識的にニュースや新聞などを読んだり視聴して、情報や知識を身につけましょう。 予習・復習をしっかり行いましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

教養科目

科目名	自然地理学	科目名（英文）	Physical Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	原　秀禎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）【施行規則に定める科目区分】「地理学（地誌を含む。）」【教員免許状取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目（高等学校　地歴）【施行規則に定める科目区分】「人文地理学及び自然地理学」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	・自然地理学の中でも特に地形環境を取りあげて詳細に解説する。 ・地理学の体系を述べた後，自然地理学の位置付けを行い、地形環境の重要性を明らかにする。 ・大地形の形成過程を説明し、日本における地形の特色について順を追って解説していく。 ・形成時期の古い山地地形から、最も新しい三角州に至るまで，系統的に解明する。 ・我々にとって，地形とはどういう意味を持つのか，土地利用を通じて，その利用形態を明らかにする。
到達目標	日本の地形について、その形成過程、特色、土地利用、人間との関わりを理解する。
授業方法と留意点	配布プリントを中心として、ビデオ教材を使用して具体例を示していく。
科目学習の効果（資格）	・日本の地形環境について系統的に把握できる。 ・自然観光資源に対する理解が深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地理学の位置づけと自然地理学	地理学とは何か，人文地理学と自然地理学	人文地理と自然地理の相違点を整理する
2	自然地理学の諸分野	気候地理学、植生地理学、水文学、地形学等	自然地理学の諸分野をまとめる
3	地形学と地形環境	地形環境とは何か	地形環境の意味を確認する
4	山地Ⅰ	世界の大地形とプレートテクトニクス，新期造山帯と火山帯	山地地形を整理する
5	山地Ⅱ	日本の山地地形の特色，活断層と山地	活断層の分布をまとめる
6	丘陵Ⅰ	丘陵地形の形成過程とその特色	丘陵地形を整理する
7	丘陵Ⅱ	日本の丘陵と土地利用，丘陵の分布と大規模住宅地開発	丘陵の利用法をまとめる
8	河岸段丘	河岸段丘地形の分布と特色，段丘面の土地利用	河岸段丘地形をまとめる
9	海岸段丘	海岸段丘地形の分布と特色，段丘面と農業開発	海岸段丘地形をまとめる
10	扇状地	扇状地地形の特色と土地利用，湧水帯と農業の発達	扇状地の分布を整理する
11	自然堤防と後背湿地	自然堤防と集落の立地，　後背湿地と水田耕作	自然堤防と集落の立地をまとめる
12	三角州	三角州の形成と地下構造	三角州の分布をまとめる
13	後氷期と海水準変動	縄文海進と弥生海退、弥生海退と平野の形成、大阪平野の形成過程	海水準変動の状況をまとめる
14	第１回～第 13 回のまとめと理解度確認テスト	第１回～第 13 回のまとめを行った後、理解度を確認するためのテストを行う。	解答できなかった内容について復習する
15	理解度確認テストの結果を踏まえ、全体を総括する。	日本の地形環境、生活と地形との関わり、地形利用のまとめを行う。	日本の地形環境をまとめる

関連科目：旅と観光の地理学，環境学、人文地理学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版・地形の教室	中野尊正・式　正英	古今書院
2	新版・地形学	渡辺光	古今書院
3			

評価方法（基準）	理解度確認テストの成績を中心に，授業参加状況，講義態度も考慮して，総合的に評価する。
学生へのメッセージ	配布プリントの内容だけでなく、口頭で説明した内容やビデオの内容もしっかり要約して，メモをとる習慣を身につけてください。
担当者の研究室等	７号館５階(原研究室)
備考	

科目名	社会学Ⅰ	科目名（英文）	Sociology Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武田　祐佳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」【教員免許状取得のための履修区分】選択必修【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学（国際経済を含む。）」【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	身近な例をあげながら、社会学の基礎的な概念（キーワード）と社会学的なものの見方について解説します。それらを通して、人が「社会的な存在」－他者から影響をうけ、また他者に対して影響を与える存在であることを理解するとともに、社会の仕組みについて学んでいきます。
到達目標	社会学の基礎的な概念を理解し、学んだ概念を使って人間関係や社会現象を解読する「社会学的思考力」を身につける。
授業方法と留意点	講義は１回完結のオムニバス形式でおこないます。教科書は使用せず、レジュメ・資料を配布します。参考書は授業中に適宜紹介します。時には視聴覚資料を用いることもあります。なお、講義の内容・順序が若干変更されることがあります。
科目学習の効果（資格）	社会学的なものの見方を学ぶことによって、これまであたりまえと感じていた日常生活や社会現象に対する見方が多少なりとも変わるようになります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義をはじめるにあたって	オリエンテーション	授業の進め方・目標を理解する
2	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間（1）―社会化	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
3	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間（2）―役割	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
4	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間（3）―社会秩序	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
5	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間（4）―自己	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
6	社会学における基礎的知識と発想	集団・組織のなかの人間（1）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
7	社会学における基礎的知識と発想	集団・組織のなかの人間（2）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
8	社会学における基礎的知識と発想	集団・組織のなかの人間（3）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
9	社会学における基礎的知識と発想	ラベリング	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
10	社会学における基礎的知識と発想	予言の自己成就	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
11	社会学における基礎的知識と発想	社会的ジレンマ	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
12	社会学における基礎的知識と発想	ジェンダー	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
13	社会学における基礎的知識と発想	相対的はく奪	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
14	社会学における基礎的知識と発想	アノミー	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習

関連科目：社会学Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	なし		
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験…70%、授業参加度（授業中に提出してもらうリアクション・ペーパーの内容を評価）…30%
学生へのメッセージ	「社会学」は高校までにはなかったカリキュラムなので、学問のイメージが浮かびにくいと思います。社会学では普段私たちがあたりまえと思っていたり、気にもとめないことがらを「見よう」「理解しよう」とするので、難しいことばが出てきますが、授業では身近な例をあげ、できるだけ平易に解説していきます。なお、授業中は私語を慎み、それなりの意欲をもって授業に臨んでください。
担当者の研究室等	11 号館 6 階　経営学部事務室
備考	

科目名	社会学Ⅱ	科目名（英文）	Sociology II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武田　祐佳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学」【教員免許状取得のための履修区分】選択必修【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）【施行規則に定める科目区分】「社会学、経済学（国際経済を含む。）」【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	この授業では、家族とジェンダー、コミュニティ（地域・友人）、階層と格差、社会意識の４つのテーマから、現代社会の動向を社会学的にとらえていきます。
到達目標	社会学的な視点から、日本社会の変動を読み解くことができるようになること。
授業方法と留意点	授業は講義形式でおこないます。教科書は使用せず、レジュメ・資料を配布します。参考書は授業中に適宜紹介します。時には視聴覚資料を用いることもあります。なお、講義の内容・順序が若干変更されることがあります。
科目学習の効果（資格）	日本社会の変化と現状について、正しく認識する力を養うことができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義をはじめるにあたって	オリエンテーション	授業の進め方・目標を理解する
2	家族とジェンダー	家族にかんする基礎的知識	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
3	家族とジェンダー	現代家族のかかえる諸問題（1）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
4	家族とジェンダー	現代家族のかかえる諸問題（2）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
5	家族とジェンダー	現代家族のかかえる諸問題（3）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
6	コミュニティ	人とのつながりの変容（1）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
7	コミュニティ	人とのつながりの変容（2）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
8	コミュニティ	人とのつながりの変容（3）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
9	階層と格差	階層にかんする基礎的知識	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
10	階層と格差	教育とのかかわり	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
11	階層と格差	労働とのかかわり	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
12	階層と格差	健康とのかかわり	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
13	社会意識	現代日本人の社会意識（1）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
14	社会意識	現代日本人の社会意識（2）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習

関連科目：社会学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験…70%、小レポート（授業中に提出してもらうリアクション・ペーパーを含む）…30%
学生へのメッセージ	日頃から新聞やニュースなどにできるだけ触れ、社会の動向や出来事に敏感になっておいてください。なお、授業中は私語を慎み、それなりの意欲をもって授業に臨んでください。
担当者の研究室等	11 号館 6 階　経営学部事務室
備考	

科目名	社会調査の方法	科目名（英文）	Social Research Method
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西浦　真喜子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	社会調査とは、社会のことがらを明らかにするために、主に現地調査によってデータを収集、分析し、その結果を公表する一連のプロセスのことをいう。授業の前半では、調査の設計・企画、データ収集の方法といった社会調査の基礎知識について解説する。後半は、実際に質問票を作成し、模擬的な社会調査を実施したり、実際に行われている調査の事例をとり上げたりして、結果の分析や解釈の仕方について学習する。
到達目標	（1）社会調査とはどのようなものか説明できる。 （2）社会調査を企画・設計することができる。 （3）データの解釈の基礎知識を身につける。
授業方法と留意点	講義形式での授業が中心であるが、個人やグループで行う課題を出し、提出を求めることがある。
科目学習の効果（資格）	レポート作成や卒業論文で調査を行う場合に、どのようにすればよいかという手法を学べる。 また、社会に出てからも、調査が必要な場面で社会調査に関する知識を応用できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	社会調査ってどんなもの？	・オリエンテーション ・社会調査とは？ ・いろいろな社会調査	参考書第 1 章を読んでおく
2	社会調査の実施方法	・調査方法の分類 ・調査倫理 ・量的調査と質的調査	参考書第 2 章を読んでおく
3	社会調査の進め方	・科学としての社会調査 ・よい問いの設定 ・データ収集と分析	参考書第 3 章を読んでおく
4	社会調査の計画	・調査方法の分類 ・調査の 5 ステップ	参考書第 4 章を読んでおく
5	サンプリングの方法	・母集団と標本 ・標本抽出の方法	参考書第 7 章を読んでおく
6	変数と測定尺度	・変数、データとは？ ・社会的態度の測定 ・信頼性と妥当性	参考書第 4 章を読んでおく
7	調査票の設計	・調査票の構成 ・質問文のワーディング	参考書第 6 章を読んでおく
8	調査票の設計	・質問文の作成 ・回答形式の設定	参考書第 5、6 章を読んでおく
9	調査実施のプロセス	・実査 ・エディティングとコーディング ・データの入力	参考書第 8、9 章を読んでおく
10	データの分析：単純集計	・度数分布表とヒストグラム ・基礎統計量（代表値と散布度）	参考書第 10 章を読んでおく 課題プリント
11	データの分析:2 変数の関連、統計的仮説検定	・クロス集計表 ・相関係数 ・カイ二乗検定	参考書第 11・12・13 章を読んでおく 課題プリント
12	社会調査の実際①:身近な調査	・新聞、雑誌、インターネットに出ている調査を例に挙げる	自分で関心のある調査例を探し、読む
13	社会調査の実際②:学術調査	学術的な調査の例を挙げる	学術的な調査の意義や感想をまとめる
14	調査の実施	自分たちの関心あるテーマの模擬調査 調査内容の報告の仕方	結果から言えることをまとめる
15	総まとめ	これまでの授業のおさらい 学期末試験に向けてのポイント	学期末試験に向けての学習

関連科目	なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門・社会調査法―2 ステップで基礎から学ぶ	轟亮・杉野勇	法律文化社
2			
3			

評価方法（基準）	講義内に実施する課題(30%)と、学期末試験の成績(70%)をもとに評価する。
学生へのメッセージ	社会調査、というとなんだかおおげさなように聞こえるかもしれません。しかし、視聴率調査、インターネット調査、街頭インタビューなどの結果をテレビや新聞などで見ることも多いでしょう。あるいは、卒業論文や就職先などで調査を行わなければならない人もいるでしょう。社会調査は非常に身近なものです。そのときに役に立つよう、授業を通してデータを読み取る力や調査を企画する力を養えるようにしたいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	原則、授業をシラバス通り進めるが、受講者の習熟度や授業の進度によって、順序などを変更することがある。

科目名	社会と人権	科目名（英文）	Human rights and Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬　善一.林田　敏子.松島　裕一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本科目は、人間が人間として尊重されるということの意味を、具体的な生活や行動と関わらせて考えること、またそのような思索の成果を実際の生活や行動に反映させることを目的とし、そのための知識や見方・考え方を受講生に提示する。 本年度は、有馬(倫理学)、林田(西洋史)、松島(法哲学)を専門する教員が、それぞれ４ないし５回ずつ授業を行う。
到達目標	本授業を履修した学生は、次の項目について一定水準に達することが期待されます。 ①　社会と人権にかかわる事柄について倫理学的観点から説明できる ②　社会と人権にかかわる事柄について西洋史的観点から説明できる ③　社会と人権にかかわる事柄について法哲学的観点から説明できる ④　社会と人権にかかわる事柄について、具体的な自分の生活と行動の場面に即して考えることができる
授業方法と留意点	（有馬担当分）板書・配付資料による講義形式。 （林田担当文）板書・配布資料による講義形式。少人数であればディスカッションもおこないます。
科目学習の効果（資格）	人権問題について、印象論ではなく、正確な知識に基づいた理解を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「社会と人権について考える」ことを考える	担当者:松島、有馬、林田 ・授業内容・評価方法についての確認 ・社会と人権について履修生がどのような考え方をもっているのかの確認	【事後学習】 人権にかかわるニュースを幅広く収集する(1 時間)
2	自由と自己決定	担当者:松島 日本国憲法にはさまざまな自由権が規定されていますが、そもそも「自由」とは何でしょうか？ J・S・ミルやI・バーリンらの議論を手掛かりにしながら、人権概念の根幹をなす「自由」というものの本質について考えてみます。	【事後学習】 パターナリズムにかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート 1000 字程度を提出してください。(4 時間)
3	表現の自由とその限界	担当者:松島 近年日本で社会問題になっているヘイトスピーチは、そもそも表現の自由（憲法 21 条）で保障される発言なのでしょうか？ アメリカとドイツの法規制の違いを手がかりにして、表現の自由の限界について考えてみたいと思います。	【事後学習】 ヘイトスピーチにかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート 1000 字程度を提出してください。(4 時間)
4	格差社会における「平等」	担当者:松島 「自由」と並び、「平等」は人権概念の根幹をなす重要な概念ですが、そもそも平等とは何なのでしょうか？ J・ロールズや R・ドゥオーキンらの議論を手がかりにして、平等の本質について考えてみたいと思います。	【事後学習】 積極的差別是正措置にかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート 1000 字程度を提出してください。(4 時間)
5	動物の権利	担当者:松島 人権とはもちろん「人」に保障される権利ですが、それでは、人以外の「動物」にはいっさい権利が認められないでしょうか？ ピーター・シンガーの議論を手がかりにして、「動物の権利」について考えてみたいと思います。	【事後学習】 動物実験の是非にかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート 1000 字程度を提出してください。(4 時間)
6	人工妊娠中絶の是非をめぐって（1）	担当者:有馬 ・人工妊娠中絶をめぐる「プロ・ライフ」（中絶反対派）と「プロ・チョイス」(中絶擁護派)の論争とその社会的背景について解説をする。 ・トムソンの論文について解説をした上で、トムソンの主張について周囲の学生とディスカッションをする。	【事前学習】 「プロ・ライフ」、「プロ・チョイス」という言葉の意味を調べておく。 【事後学習】 トムソンの主張についての自分の考えをまとめて、レポートを提出する。 （合計 4 時間）
7	人工妊娠中絶の是非をめぐって（2）	担当者:有馬 ・前回のディスカッションのまとめ。 ・パーソン論と人工妊娠中絶問題とのつ	【事前学習】 パーソンという言葉の意味を調べてくる。 【事後学習】 トゥーリの主張について自分の考えをまとめて、レ

		ながりを説明する。 ・トゥーリの論文について解説をした上で、トゥーリの主張についてディスカッションをする。	ポートを提出する。 （合計４時間）
8	安楽死をめぐって（１）	担当者:有馬 ・前回のディスカッションのまとめ ・終末期医療における人権問題の概要 ・日本における「尊厳死」の問題について解説をする。	【事前学習】 日本尊厳死協会のホームページを読んでおく。 「安楽死」、「尊厳死」という言葉の意味を調べておく。 【事後学習】 安楽死と尊厳死の違いについて、概念整理をして、レポートを提出する。 （合計４時間）
9	安楽死をめぐって（２）	担当者:有馬 ・前回のディスカッションのまとめ ・「死ぬ権利」に対するオランダやベルギーの考え方を紹介する。 ・安楽死の是非についてディスカッションをする。	【事前学習】 安楽死に関係する海外のニュースを調べておく。 【事後学習】 安楽死についてのオランダ、ベルギーの考え方について、自分なりの意見をまとめて、レポートを提出する。 （合計４時間）
10	生きることと善く生きること	担当者：有馬 ″善く生きる″とはどのようなことかを考えます。	【事前学習】 『ソクラテスの弁明』を通読しておく。 (3 時間)
11	女性と人権	担当者：林田 ・差別と区別 　　～女性専用車両をめぐって～ ・「女らしさ」と「男らしさ」	【事前学習】 「女性と人権」という言葉から連想する社会問題を列挙し、もっとも興味のあるものについて自分の意見をまとめてくる。（４時間）
12	人権宣言の歴史的背景	担当者：林田 ・人権概念の歴史的生成過程～アメリカ独立宣言を中心に～ ・もう一つのフランス革命～オランプ・ドゥ・グージュの「女性の人権宣言」～	【事後学習】 人権宣言の画期的な点と、「残された問題」についてまとめる。（４時間）
13	女性は戦争をどう「戦った」か	担当者：林田 ・犠牲者としての女性 ・戦いを鼓舞する女性	【事後学習】 「戦争があぶりだすジェンダー問題」についてまとめる。（４時間）
14	戦場における女性	担当者：林田 ・「戦う」女性～募兵運動、兵器製造、従軍～ ・女性兵士をめぐって	【事後学習】 「女性兵士」の是非をめぐる議論の要点をまとめてくる。（４時間）
15	「ジェンダー・フリー」の罠	担当者:林田 　セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスから女性専用車両にいたるまで、身近にあるジェンダー問題を通して、ジェンダー・フリーへ向けた取り組みが抱える問題について考える（ディスカッションもしくは、小発表形式）。	【事前学習】 ３回の授業内容を踏まえ、ディスカッション（もしくは小発表）の内容を踏まえて、自分の考えをまとめる。（４時間）

関連科目

法学などのさまざまな科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

３名の担当者が課す課題を 100 点満点で評価し、その平均点で評価します。

それぞれの担当者の評価方法については、授業計画で確認ください。

学生へのメッセージ

教室に来て、座って聞いているだけでも、もちろんためになりますが、それだけではなく、自分で考えてもらうための作業をたくさん行います。

担当者の研究室等

有馬(7 号館 4 階)
林田(7 号館 4 階)
松島(11 号館 9 階)

備考

有馬担当分　参考図書　加藤・飯田編　『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会
三井美奈　『安楽死のできる国』　新潮新書

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田　峻宣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦労する学生がとても多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って（もしくはそれ以前から）算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく
6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
8	テスト	中間テスト	2～7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目：キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの 3 回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田　峻宣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦労する学生がとても多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って（もしくはそれ以前から）算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく
6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
8	テスト	中間テスト	2～7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目：キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの 3 回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西座　由紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦労する学生がとても多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って（もしくはそれ以前から）算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく
6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
8	テスト	中間テスト	2～7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目：キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの 3 回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　朗子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦労する学生がとても多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って（もしくはそれ以前から）算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく
6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
8	テスト	中間テスト	2～7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目：キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの 3 回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松田　剛典
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦労する学生がとても多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って（もしくはそれ以前から）算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく
6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
8	テスト	中間テスト	2～7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目：キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの 3 回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松田　剛典
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦労する学生がとても多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って（もしくはそれ以前から）算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく
6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
8	テスト	中間テスト	2～7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目：キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの 3 回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西座　由紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦労する学生がとても多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って（もしくはそれ以前から）算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく
6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
8	テスト	中間テスト	2～7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目：キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの 3 回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田　峻宣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦労する学生がとても多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って（もしくはそれ以前から）算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講座の目的・意義	シラバス熟読
2	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
3	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
4	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
5	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくここと
6	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておく
7	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
8	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
9	テスト	中間テスト	2～8回目の範囲を事前に勉強しておくこと
10	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
13	論理	推論②	推論について復習しておくこと
14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目：キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小学校６年間の算数が６時間でわかる本	間地 秀三	PHP 研究所
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　40%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　10% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの３回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	７号館３階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	人文地理学	科目名（英文）	Human Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原　秀禎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）【施行規則に定める科目区分】「地理学（地誌を含む。）」【教員免許状取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目（高等学校　地歴）【施行規則に定める科目区分】「人文地理学及び自然地理学」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	・人文地理学のさまざまな分野の中から、今年度は「観光地理学」をとりあげ、詳細に論じる。 ・日本における観光地をさまざまな視点から分析し，その特色を明らかにする。 ・観光地の定義を行った後，観光資源，観光流動，観光産業について分析を加える。 ・観光地の諸特性を類型化し，観光調査の方法について説明したのち，観光開発の問題点を指摘する。 ・多数の観光地に関するビデオやスライドを使用し，具体的な事例をあげながら理解を深めていく。
到達目標	・日本における観光地の特色を理解する。 ・日本全国の特色ある観光地を把握し、日本の観光資源の豊富さを理解する。 ・日本の観光資源、外国人観光客の動向についても把握する。
授業方法と留意点	配布プリントを中心にして，ビデオ教材を毎回使用し，具体的な観光地について分析を行う。
科目学習の効果（資格）	・中学・高校社会科免許状取得必要科目。 ・日本における観光地の特性を把握できる。 ・旅行業界に就職を希望する学生諸君にとっては，地理的知識の修得につながる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人文地理学の諸分野 観光地理学の位置付け 旅・観光の定義	人文地理学と観光地理学 旅・観光とは何か，その定義	人文地理学の諸分野を整理する。 観光・旅等の定義内容を理解する。
2	研究の目的と方法	旅・観光研究の目的と方法	研究の目的と方法を整理し、理解を深める。
3	観光発達史Ⅰ	外国における観光地の発達過程	ヨーロッパにおけ観光地の歴史をまとめる。
4	観光発達史Ⅱ	日本における観光地の発達過程	日本におけ観光地の歴史をまとめる。
5	観光資源と観光流動	自然･人文観光資源の評価、観光の需要，観光圏の形成	観光の需要，観光圏の形成についてまとめ、理解を深める。
6	観光産業	観光産業の構成と分布	観光産業の構成と分布をまとめ、理解を深める。
7	第１回から第６回までのまとめと理解度確認テスト	第１回から第６回までのまとめを行った後、理解度を確認するためのテストを実施する。	テスト内容を確認し，理解できていない内容を復習する。
8	観光地の特性Ⅰ	温泉観光地とその特色	温泉観光地とその特色をまとめる。
9	観光地の特性Ⅱ	山岳観光地とその特色	山岳観光地とその特色をまとめる。
10	観光地の特性Ⅲ	海岸観光地とその特色	海岸観光地とその特色をまとめる。
11	観光地の特性Ⅳ	宗教・都市観光地とその特色	宗教・都市観光地とその特色をまとめる。
12	観光調査法Ⅰ	資料の吟味と収集法、グーグルによる検索、観光統計の入手法	観光調査法の内容を復習する。
13	観光調査法Ⅱ	アンケート調査、ヒヤリング調査、調査結果の整理法	アンケート調査、ヒヤリング調査項目を作成する。
14	第８回から第 13 回までのまとめと理解度確認テスト	第８回から第 13 回までのまとめを行った後、理解度を確認するためのテストを実施する。	テスト内容を確認し，理解できていない内容を復習する。
15	理解度確認テストの結果を踏まえ、全体を総括する。	旅・観光のまとめ、日本における観光地の特性	日本における観光地の特性をまとめる。

関連科目：東南アジア地誌学，中国地誌学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	観光地理学	寺阪昭信	古今書院
2	観光学	溝尾良隆	古今書院
3	アーバンツーリズム	淡野明彦	古今書院

評価方法（基準）	・２回の理解度確認テストの成績を中心に，授業参加，講義態度も加味して，総合的に評価する。 ・教員資格を取得する学生の教職科目であるため、評価は厳しくなる。
学生へのメッセージ	配布プリントの内容だけでなく，口頭で説明した内容やビデオの内容も要約して，しっかりノートにまとめる習慣を身に付けて下さい。
担当者の研究室等	７号館５階(原研究室)
備考	中学・高校の社会科免許状を取得するための教職科目でもあるため、講義内容は教養レベルを超えたものになる。

科目名	心理学Ⅰ	科目名（英文）	Psychology Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	河俣　英美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）【施行規則に定める科目区分】「哲学、倫理学、宗教学、心理学」【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	心理学はその行動法則を明らかにする行動の科学として、たいへん広い領域に関係している。実際に見ることができる、観察可能な行動から、人間の“こころ”の動きを検討したり、目で見て確認できないものについても、観察・実験・調査といった様々な方法を用いて客観的なデータを集め、心の働きを研究している。授業では、これまでに行われてきた多くの実証研究を学習することによって、心理学の専門的基礎知識を身につけることを目的とする。
到達目標	共通の法則となった心理学的事実を知ることによって、自分自身や他者の心の働きや行動を予測、理解、考えることから、いろいろな場面に応用できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	板書講義形式。ただし、授業の理解を深めるために課題、レポート等の提出を求めることがある。
科目学習の効果（資格）	脳の成り立ちや働き、感覚や知覚のプロセスを知るとともに、自分らしさとはというテーマで自分自身について考えてみることで、より深く自分自身や他人を知り、日常生活に役立てることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	心理学とは(1)	・オリエンテーション	心理学の領域について調べてみよう。
2	心理学とは(2)	・心理学の目的 ・心理学の研究方法	心理学の目的について考えてみよう。
3	知覚のプロセス(1)	・ものの見え方 ・感覚と知覚のメカニズム・錯覚	テキストのPart１の２「知覚のプロセス」のところを読んでおこう。
4	知覚のプロセス(2)	・知覚の体制化	テキストのPart１の２の「知覚の体制化」の大切なところを要約してみよう。
5	知覚のプロセス(3)	・知覚の恒常性	テキストのPart１の２の「知覚の恒常性」の大切なところを要約してみよう。
6	パーソナリティ(1)	・パーソナリティの定義。理論	テキストのPart2の６「パーソナリティ」のところを読んでおこう。
7	パーソナリティ(2)	・パーソナリティの分類・診断	本当の自分と見せかけの自分について考えてみよう。
8	パーソナリティ(3)	・パーソナリティの変化	テキストのPart2の６「パーソナリティ」の大切なところを要約してみよう。
9	記憶(1)	・右脳と左脳	テキストのPart1の１「心と脳」のところを読んでおこう。
10	記憶(2)	・記憶のシステム	テキストのPart1の１「心と脳」の「記憶と脳」の大切なところを要約してみよう。
11	行動の獲得と変容	・認知による学習	テキストのPart1の４「行動の獲得と変容」の大切なところを要約してみよう。
12	動機づけと感情	・動機づけの分類 ・感情	テキストのPart1の３「動機づけと感情」の大切なところを要約してみよう。
13	成長と変化	・遺伝と環境 ・生涯発達	テキストのPart1の５「成長と変化」の大切なところを要約してみよう。
14	協調できる社会をめざす	・犯罪特徴と背景	テキストのPart4の15「協調できる社会をめざす」を読んで大切なところを要約してみよう。
15	心理学Ⅰのまとめ	・心理学Ⅰの総括	これまで配布したプリントやノートをまとめて整理してみよう。

関連科目：心理学Ⅱと併せて履修することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	わたし　そして　われわれ　ミレニアムバージョン	大坊郁夫　編著	北大路書房
2			
3			

評価方法（基準）	授業内の課題試験を主とし、授業での提出物（講義の要約、感想文、課題レポート等）をふまえて、総合的に評価する。 【授業内の課題試験 80%、授業での提出物 20%】
学生へのメッセージ	事前に特別な知識を必要としないが、「性格判断」などの心理学の一般的なイメージと、実際の授業の内容とは大きく異なると思われるため、心理学の守備範囲がたいへん広いことと、科学としての心理学の講義であることを理解し、積極的に授業に参加することを前提として受講してほしい。
担当者の研究室等	11 号館６階　経営学部
備考	

科目名	心理学Ⅱ	科目名（英文）	Psychology II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	河俣　英美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）【施行規則に定める科目区分】「哲学、倫理学、宗教学、心理学」【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	心理学は、人間の行動を予測することを究極的な目標としている。私たちは、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことができる。
到達目標	到達目標：以下の項目の理解を目標とする。 １）集団の中での個々人の行動 ２）対人的コミュニケーション ３）文化と心理
授業方法と留意点	講義方式で適宜資料を配布する。視聴覚教材なども積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	取得できる資格は特にない。しかしながら、自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるために重要な科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。
2	心の健康(1)	心の健康と適応について解説します。	授業の前に、テキストの Part2 の 9「心の健康と適応」を読んで予習してください。
3	心の健康(2)	こころのトラブルについて解説します。	日常生活にある心の健康を支えるものについて考えてください。
4	心の健康(3)	適応と不適応、ストレスについて解説します。	自分が暮らしている環境への適応について考えてください。
5	自己(1)	自己を守ることについて解説します。	テキストの Part2 の 7「自己意識」を読んで事前に予習してください。
6	自己(2)	自己を意識することについて解説します。	自らの社会的経験も考慮して、自己をうまく表現する方法について考えてください。
7	自己(3)	自己を表現するテクニックについて解説します。	自分に対する他者の評価について考えてください。
8	心の健康と適応(1)	ストレスと健康について解説します。	テキストの Part2 の 9「心の健康と適応」の大切なところを要約して、レポートを作成し、提出してください。
9	心の健康と適応(2)	心の健康、精神障害について解説します。	社会で問題となっている精神障害について調べてください。
10	心の構造(1)	精神分析学について解説します。	テキストの Part2 の 8「こころの構造」を読んで、自分のこころについて考えてください。
11	心の構造(2)	局所論と構造論について解説します。	精神分析療法について調べて、レポートを書いてください。
12	心の構造(3)	神経症と防衛、フロイトと異なる立場をとる分析家たちについて解説します。	フロイトと異なる立場をとる分析家たちについて調べてください。
13	対人認知(1)	対人認知のプロセス、パーソナリティの認知について解説します。	他者の存在が与える自分に対する影響を考えてください。
14	対人認知(2)	対人関係の認知について解説します。	テキストの Part3 の 10「対人認知」の大切なところを要約してください。
15	心理学Ⅱのまとめ	心理学Ⅱについて総括します。	テキストおよびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

関連科目	心理学Ⅰを履修していることが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	わたし　そして　われわれ　ミレニアムバージョン	大坊郁夫　編著	(株)北大路書房
2			
3			

評価方法（基準）	授業内の課題試験を主とし、授業での提出物（講義の要約、感想文、課題レポート等）、授業態度をふまえて、総合的に評価する。 【授業内の課題試験 70%、授業での提出物 20%、授業態度 10%】
学生へのメッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めて下さい。
担当者の研究室等	11 号館 6 階 経営学部事務室
備考	

科目名	スポーツ医学の基礎	科目名（英文）	Fundamental Knowledge of Sports Medicine
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岡﨑　和伸
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	スポーツ・運動と健康の関わり、および、スポーツ・運動による身体の変化と疾病への影響について、さらに、スポーツ外傷・障害の概要とその対応について述べ、予防医学としてのスポーツ医学の意義についても言及する。
到達目標	スポーツ・運動と健康の関わり、および、スポーツ・運動による身体の変化と疾病への影響について説明できること、さらに、スポーツ外傷・障害の概要とその対応について説明できることを目標とする。また、自身とその周りの人々について、運動を通した健康づくりが実践できるようにする。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。なお、資料配布やＶＴＲなどを用い、教育効果を上げる。
科目学習の効果（資格）	スポーツ医学の基礎的知識とスポーツ傷害（内科的・外科的）についての理解と対処法について学ぶ。（公認スポーツ指導者資格取得対応科目）
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツと健康（1）	スポーツ活動と健康の関わり	テキスト P. 32-39
2	スポーツと健康（2）	身体活動（スポーツ活動や運動）の必要性	テキスト P. 68-71
3	スポーツ傷害（1）	スポーツ外傷・障害	テキスト P. 72-83
4	スポーツ傷害（2）	スポーツ外傷・障害の要因	テキスト P. 72-83
5	救急処置（1）	手当ての基本（観察）	テキスト P. 84-90
6	救急処置（2）	救命手当て（心肺蘇生法）	テキスト P. 84-90
7	救急処置（3）	ＡＥＤを用いた心肺蘇生法	テキスト P. 84-90
8	救急処置（4）	応急手当（きずと止血、包帯法、骨折固定）	テキスト P. 91-95
9	救急処置（5）	ＲＩＣＥ処置	テキスト P. 91-95
10	スポーツと水分補給	水分補給と熱中症	テキスト P. 102
11	スポーツと水分補給	水分補給と熱中症	テキスト P. 102
12	スポーツと栄養（1）	五大栄養素の役割	テキスト P. 96
13	スポーツと栄養（2）	栄養とトレーニング，コンディショニング	テキスト P. 96-102
14	ドーピング	ドーピングの定義，概要	資料
15	まとめ	授業の全体のまとめ	――――

関連科目	スポーツ医学の理論と実際
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ｉ	財団法人　日本体育協会	財団法人　日本体育協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	筆記試験及びレポートなどで評価する。
学生へのメッセージ	運動・スポーツと健康に関する身近な話題から、競技力向上のための最新スポーツ科学に関する授業です。毎回、簡単な実習、測定、調査などを行いながら、主体的な学習を通して理解を深めていきます。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	授業時間外連絡先：okazaki@sports.osaka-cu.ac.jp

科目名	スポーツ英語Ⅰ	科目名（英文）	Sports English Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松下　乃亜
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	総合的な英語運用能力の土台となる基礎英文法を重点的に学びます。教科書または配布プリントを使用し、学習した文法事項を実際のシチュエーションで使用することを意識しながら学習し、使える英語の習得を目指します。 学科の学習・教育到達目標との対応:
到達目標	初級レベルの聴解力、読解力、コミュニケーション力を習得し、英語資格試験のスコアアップを目指します。
授業方法と留意点	毎回の授業で、単語テストを実施します。小テスト、グループの発表を行います。 復習課題を指示しますので、必ず辞書を丁寧に調べて取り組んだ上で授業に出席してください。
科目学習の効果（資格）	英語資格試験に備えた基本的語彙の習得。 基礎英文法の理解と習得。 初級レベルの聴解力、読解力、コミュニケーション力の伸長。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業方法（小テスト実施、予習・復習課題等）の説明 単語の勉強方法	可能なら中学・高校で学習した英文法の復習
2	Unit 1 Be 動詞の現在形と過去形	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 １～４ページ	教科書　１～４ページ 単語集　単語番号 0001～0020
3	Unit 2 命令文	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ５～８ページ	教科書　５～８ページ 単語集　単語番号 0021～0040
4	Unit 3　現在形と現在進行形	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ９～１２ページ	教科書　９～１２ページ 単語集　単語番号 0021～0060
5	Unit 4 代名詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 １３～１６ページ	教科書　１３～１６ページ 単語集　単語番号 0061～0080
6	Review Test	復習と小テスト	教科書　１～１６ページ 単語集　単語番号 0081～0100
7	Unit 5 過去形と過去進行形	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 １７～２０ページ	教科書　１７～２０ページ 単語集　単語番号 0101～0120
8	Unit 6 過去形と現在完了	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ２１～２４ページ	教科書　２１～２４ページ 単語集　単語番号 0121～0140 発表のプリント提出
9	Unit 7 時を表す前置詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ２５～２８ページ	教科書　２５～２８ページ 単語集　単語番号 0141～0160
10	Unit 8 数えられる名詞と数えられない名詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ２９～３２ページ	教科書　２９～３２ページ 単語集　単語番号 0161～0180
11	Presentation	発表	教科書　１７～３２ページ 単語集　単語番号 0181～0200
12	Unit 9 be going to と will	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ３３～３６ページ	教科書　３３～３６ページ
13	Unit 10 助動詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ３７～４０ページ	教科書　３７～４０ページ
14	Unit 11 等位接続詞と２語で成り立つ接続詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ４１～４４ページ	教科書　４１～４４ページ
15	Unit 12 Yes-No 疑問文 リスニング day	英文リスニング	教科書　４５～４８ページ

関連科目：特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Upload	Robert Hickling／Satsuki Osaki	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Nishiya Koji	成美堂
3	プリント配布		

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 中学、高校で使用した文法書 / / 2 / 辞書 / / 3 / / /
評価方法 （基準）	TOEIC　ブリッジ　20% 統一英単語テスト　10% 期末試験 30% 小テスト 20% 平常点（単語テスト、課題等）　20%　欠席は３回までを評価基準とします。遅刻は三回で欠席一回。居眠り、私語、携帯電話の使用などは教室に来ていても欠席扱いとします。
学生への メッセージ	新たに覚えた英単語・文法事項を実際のシチュエーションで使用することを意識しながら勉強してください。たとえば、２～３文の短い文章でもよいので、毎日英語で日記を書いてみたり、自分の興味のある事を英語で読んだり、聴いたりする習慣をつけて下さい。楽しみながら学習しましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	

科目名	スポーツ英語Ⅰ	科目名（英文）	Sports English Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦　茂寿
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ英語を文法を中心にもう一度復習し、更なる語彙力、文法力の養成を目標とする。時間があれば教科書以外に英語の資格検定などの練習問題を用いて更なる知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。また、授業計画は進度によって変わる場合がある。
到達目標	今まで持っている英語力の更なる強化を目指そう。
授業方法と留意点	簡単な文法問題を中心にしたテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。授業計画は進度によって変わる場合がある。 指定する 200 単語について、テキストを使い語彙力の強化向上を図る。 法学部として実施する「統一英語単語テスト」を受験すること。
科目学習の効果（資格）	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 ＴＯＥＩＣテストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	――――
2	Unit1	be 動詞、現在	教科書 p. 6-9
3	Unit2	一般動詞,、現在	教科書 p. 10 - 13
4	Unit3	多様な疑問文	教科書 p. 14-17
5	Unit4	be 動詞、過去	教科書 p. 18-21
6	Unit5	一般動詞、過去	教科書 p. 22-25
7	Unit6	特殊な文	教科書 p. 26-29
8	Unit 7	未来形	教科書 p. 30-33
9	Unit8	進行形	教科書 p. 34-37
10	Unit9	助動詞	教科書 p. 38-41
11	Unit10	英文の型	教科書 p. 42-45
12	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	
14	総合復習１	定期試験対策	――――
15	総合復習２	定期試験対策	――――

関連科目：英語Ⅰc

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Steps to English Grammar　カレッジ英文法入門	大坂四郎	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test　学校語彙で学ぶ TOEIC テスト（単語集）	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、提出物、定期試験の点数を総合評価する。また、日頃の授業態度も重視する。 評価には、「統一英語単語テスト」の結果を 30%組み入れる。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	

科目名	スポーツ英語Ⅱ	科目名（英文）	Sports English II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松下　乃亜
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	総合的な英語運用能力の土台となる基礎英文法を重点的に学びます。教科書または配布プリントを使用し、学習した文法事項を実際のシチュエーションで使用することを意識しながら学習し、使える英語の習得を目指します。 学科の学習・教育到達目標との対応：
到達目標	初級レベルの聴解力、読解力、コミュニケーション力を習得し、英語資格試験のスコアアップを目指します。
授業方法と留意点	毎回の授業で、単語テストを実施します。小テストとグループ発表を行います。 復習課題を指示しますので、必ず辞書を丁寧に調べて取り組んだ上で授業に出席してください。
科目学習の効果（資格）	英語資格試験に備えた基本的語彙の習得。 基礎英文法の理解と習得。 初級レベルの聴解力、読解力、コミュニケーション力の伸長。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業方法（小テスト実施、予習・復習課題等）の説明 単語の勉強方法 前期の復習	前期に学習した英文法の復習
2	Unit 13 場所と移動を表す前置詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　４９～５２ページ	教科書　４９～５２ページ 単語集　単語番号　0401-0420
3	Unit 14　Wh-疑問文	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　５３～５６ページ	教科書　５３～５６ページ 単語集　単語番号　0421-0440
4	Unit 15　a, an, the / one と ones	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　５７～６０ページ	教科書　５７～６０ページ 単語集　単語番号　0441-0460
5	Unit 16 他動詞と自動詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　６１～６４ページ	教科書　６１～６４ページ 単語集　単語番号　0461-0480
6	Review Test	小テスト	教科書　４９～６４ページ 単語集　単語番号　0481-0500
7	Unit 17 能動態と受動態	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　６５～６８ページ	教科書　６５～６８ページ 単語集　単語番号　0501-0520
8	Unit 18 形容詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　６９～７２ページ	教科書　６９～７２ページ 単語集　単語番号　0521-0540 発表のプリントの提出
9	Unit 19 動名詞と不定詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　７３～７６ページ	教科書　７３～７６ページ 単語集　単語番号　0541-0560
10	Unit 20 形容詞の比較級と最上級	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　７７～８０ページ	教科書　７７～８０ページ 単語集　単語番号　0561-0580
11	Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ	発表	教科書　６５～８０ページ 単語集　単語番号　0581-0600
12	Unit 21 副詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　８１～８４ページ	教科書　８１～８４ページ
13	Unit 22 従位接続詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　８５～８８ページ	教科書　８５～８８ページ
14	Unit 23 関係詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　８９～９２ページ	教科書　８９～９２ページ
15	Unit 24　So do I. や Neither do I. などの表現 Listening Day	Listening 中心のクラス	教科書　８９～９２ページ

関連科目	特になし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Upload	Robert　Hickling　／　Satsuki	金星堂

			Onishi	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Koji Nishiya	成美堂
	3	プリント配布		

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学、高校で使用した文法書		
2	辞書		
3			

評価方法（基準）

統一英単語テスト　20%
期末試験 30%
小テスト 20%
平常点（単語テスト、課題等）　30%　欠席は三日までを評価基準とします。遅刻は三回で欠席一回。居眠り、私語、携帯電話の使用などは教室に来ていても欠席扱いとします。

学生へのメッセージ

新しく覚えた英単語・文法事項を実際のシチュエーションで使用することを意識しながら勉強してください。たとえば、２～３文の短い文章でもよいので、毎日英語で日記を書いてみたり、自分の興味のある事を英語で読んだり、聴いたりする習慣をつけて下さい。楽しみながら学習をしましょう。

担当者の研究室等

7 号館 2 階（非常勤講師室）

備考

科目名	スポーツ英語Ⅱ	科目名（英文）	Sports English II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦　茂寿
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ英語を文法を中心にもう一度復習し、更なる語彙力、文法力の養成を目標とする。時間があれば教科書以外に英語の資格検定などの練習問題を用いて更なる知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。また、授業計画は進度によって変わる場合がある。
到達目標	今まで持っている英語力の更なる強化を目指そう。
授業方法と留意点	簡単な文法問題を中心にしたテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。授業計画は進度によって変わる場合がある。 指定する 200 単語について、テキストを使い語彙力の強化向上を図る。 法学部として実施する「統一英語単語テスト」を受験すること。
科目学習の効果（資格）	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 ＴＯＥＩＣテストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習及びオリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	――――
2	Unit11	受動態	教科書 p. 46-49
3	Unit12	比較	教科書 p. 50 - 53
4	Unit13	完了形	教科書 p. 54-57
5	Unit14	不定詞	教科書 p. 58-61
6	Unit15	分詞	教科書 p. 62-65
7	Unit16	動名詞	教科書 p. 66-69
8	Unit 17	節	教科書 p. 70-73
9	Unit18	関係代名詞	教科書 p. 74-77
10	Unit19	熟語の整理	教科書 p. 78-81
11	Unit20	会話文と it の用法	教科書 p. 82-85
12	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	
14	総合復習１	定期試験対策	――――
15	総合復習２	定期試験対策	――――

関連科目：英語Ⅰa、英語Ⅰc、英語Ⅰd

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Steps to English Grammar　カレッジ英文法入門	大坂四郎	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test　学校語彙で学ぶ TOEIC テスト（単語集）	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、提出物、定期試験の点数を総合評価する。また、日頃の授業態度も重視する。 評価には、「統一英語単語テスト」の結果を 30%組み入れる。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	

科目名	スポーツ英語Ⅲ	科目名（英文）	Sports English III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦　茂寿
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ英語を文法を中心にもう一度復習し、更なる語彙力、文法力の養成を目標とする。時間があれば教科書以外に英語の資格検定などの練習問題を用いて更なる知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。また、授業計画は進度によって変わる場合がある。
到達目標	今まで持っている英語能力の更なる強化を目指そう。
授業方法と留意点	簡単な文法問題を中心にしたテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。授業計画は進度によって変わる場合がある。 指定する 200 単語について、テキストを使い語彙力の強化向上を図る。 法学部として実施する「統一英語単語テスト」を受験すること。
科目学習の効果（資格）	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 ＴＯＥＩＣテストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業、提出物、評価方法の説明	――――
2	Unit1	be 動詞	教科書 p14-16
3	Unit2	一般動詞(現在)	教科書 p. 17-19
4	Unit3	一般動詞（過去）	教科書 p. 20-22
5	Unit4	進行形	教科書 p. 23-25
6	Unit5	未来形	教科書 p. 26-28
7	Unit6	助動詞	教科書 p. 29-31
8	Unit7	名詞、冠詞	教科書 p. 32-34
9	Unit8	代名詞	教科書 p. 35-37
10	Unit9	前置詞	教科書 p. 38-40
11	Unit10	形容詞、副詞	教科書 p. 41-43
12	Unit11	比較	教科書 p. 44-46
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	――――
14	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	――――
15	総合復習	定期試験対策	――――

関連科目：スポーツ英語Ⅰ、スポーツ英語ＩＩＩ、スポーツ英語Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Primer(Revised Edition) 基礎からの英語入門　改訂新版	佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰	南雲堂
2	THe 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト（単語集）	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、提出物、定期試験の点数を総合評価する。また、日頃の授業態度も重視する。 評価には、「統一英語単語テスト」の結果を 30%組み入れる(統一英語単語テストを受験しなかった者は評価に大きく影響します)。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で感動を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	スポーツ英語Ⅲ	科目名（英文）	Sports English III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中本　明子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	基礎的な語彙と文法を中心とした実践的な英語力の向上を図ります。
到達目標	資格（TOEIC，英検など）取得の前提となる英語基礎力（特に、語彙・文法を中心として）を身に付けます。
授業方法と留意点	ユニットごとに基礎から語彙と文法を学習し、無理なく英語に慣れ親しみます。 （問題を解く）→（解説を読む）→（再び問題を解く）→（再び解説を読む）を繰り返します。 さらに小テストとして、単語集またはテキストの指定された単語の書き取りテストを毎回行います。
科目学習の効果（資格）	英検３級、準２級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などに関する説明	Unit 1の予習 単語集の指定された単語（201～218）の書き取り練習
2	Unit 1	be 動詞・現在	Unit 1の復習、Unit 2の予習 単語集の指定された単語（219～230）の書き取り練習
3	Unit 2	一般動詞・現在	Unit 2の復習、Unit 3の予習 単語集の指定された単語（231～252）の書き取り練習
4	Unit 3	多様な疑問文	Unit 1からUnit 3までの復習 単語集の指定された単語（253～276）の書き取り練習
5	Unit 1からUnit 3までの復習	be 動詞・現在、一般動詞・現在と多様な疑問文	Unit 1からUnit 3までの復習、Unit 4の予習 単語集の指定された単語（277～301）の書き取り練習
6	Unit 4	be 動詞・過去	Unit 4の復習、Unit 5の予習 単語集の指定された単語（302～325）の書き取り練習
7	Unit 5	一般動詞・過去	Unit 5の復習、unit 6の予習 単語集の指定された単語（326～350）の書き取り練習
8	Unit 6	特殊な文	Unit 4からUnit 6までの復習 単語集の指定された単語（326～350）の書き取り練習
9	Unit 4からUnit 6までの復習	be 動詞・過去、一般動詞・過去と特殊な文	Unit 4からUnit 6までの復習、Unit 7の予習 単語集の指定された単語（351～376）の書き取り練習
10	Unit 7	未来形	Unit 7の復習、Unit 8の予習 単語集の指定された単語（377～400）の書き取り練習
11	Unit 8	進行形	Unit 8の復習、Unit 9の予習 テキストの指定された単語の書き取り練習
12	Unit 9	助動詞	Unit 9の復習、Unit 10の予習 テキストの指定された単語の書き取り練習
13	Unit 10	英文の型	Unit 7からUnit 10までの復習 テキストの指定された単語の書き取り練習
14	Unit 7 から Unit 10 までの復習	未来形、進行形、助動詞と英文の型	前期の総復習
15	前期の総括	前期まとめテストと解説	テストの復習

関連科目：他の英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Steps to English Grammar	大坂　四郎	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - WORD BOOK -	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	統一英語単語テスト 30%、小テスト 20%と前期まとめテスト 50%で、授業態度は減点方式とし、総合的に評価します。
学生へのメッセージ	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておいて下さい。語彙力が英語の上達に大きく影響します。
担当者の研究室等	7号館２階　非常勤講師室
備考	休まず積極的に授業に参加して下さい。努力は実ります。

科目名	スポーツ英語Ⅳ	科目名（英文）	Sports English Ⅳ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦　茂寿
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ英語を文法を中心にもう一度復習し、更なる語彙力、文法力の養成を目標とする。時間があれば教科書以外に英語の資格検定などの練習問題を用いて更なる知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。また、授業計画は進度によって変わる場合がある。
到達目標	今まで持っている英語力の更なる強化を目指そう。
授業方法と留意点	簡単な文法問題を中心にしたテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。授業計画は進度によって変わる場合がある。 指定する 200 単語について、テキストを使い語彙力の強化向上を図る。 法学部として実施する「統一英語単語テスト」を受験すること。
科目学習の効果（資格）	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 ＴＯＥＩＣテストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習	前期に習った内容の復習など	――――
2	Unit13	接続詞(1)	教科書 p.50-52
3	Unit14	不定詞(1)、動名詞(1)	教科書 p.53-55
4	Unit15	受動態	教科書 p.56-58
5	Unit16	現在完了形	教科書 p.59-61
6	Unit17	接続詞(2)（時勢の一致を含む）等	教科書 p.62-64
7	Unit18	5 つの基本文型	教科書 p.65-67
8	Unit19	各種疑問文	教科書 p.68-70
9	Unit20	不定詞(2)	教科書 p.71-73
10	Unit21	It の特別用法	教科書 p.74-76
11	Unit22	分詞、動名詞(2)	教科書 p.77-79
12	Unit23	関係代名詞	教科書 p.80-82
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	――――
14	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	――――
15	総合復習	定期試験対策	――――

関連科目：英語Ⅰa、英語Ⅰc、英語Ⅰd

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Primer(Revised Edition) 基礎からの英語入門　改訂新版	佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test　学校語彙で学ぶ TOEIC テスト（単語集）	西谷恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点、提出物、定期試験の点数を総合評価する。また、日頃の授業態度も重視する。 評価には、「統一英語単語テスト」の結果を 30%組み入れる(統一英語単語テストを受験しなかった者は評価に大きく影響します)。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で感動を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	スポーツ英語Ⅳ	科目名（英文）	Sports English Ⅳ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中本　明子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	基礎的な語彙と文法を中心とした実践的な英語力の向上を図ります。
到達目標	資格（TOEIC，英検など）取得の前提となる英語基礎力（特に、語彙・文法を中心として）を身に付けます。
授業方法と留意点	ユニットごとに基礎から語彙と文法を学習し、無理なく英語に慣れ親しみます。 （問題を解く）→（解説を読む）→（再び問題を解く）→（再び解説を読む）を繰り返します。 さらに小テストとして、単語集またはテキストの指定された単語の書き取りテストを毎回行います。
科目学習の効果（資格）	英検３級、準２級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などに関する説明、前期学習事項の確認	Unit 11 の予習 単語集の指定された単語（600～619）の書き取り練習
2	Unit 11	受動態	Unit 11 の復習、Unit 12 の予習 単語集の指定された単語（620～633）の書き取り練習
3	Unit 12	比較	Unit 12 の復習、Unit 13 の予習 単語集の指定された単語（634～659）の書き取り練習
4	Unit 13	完了形	Unit 11 から Unit 13 までの復習 単語集の指定された単語（660～684）の書き取り練習
5	Unit 11 から Unit 13 までの復習	受動態、比較と完了形	Unit 11 から Unit 13 までの復習、Unit 14 の予習 単語集の指定された単語（685～710）の書き取り練習
6	Unit 14	不定詞	Unit 14 の復習、Unit 15 の予習 単語集の指定された単語（711～734）の書き取り練習
7	Unit 15	分詞	Unit 15 の復習、unit 16 の予習 単語集の指定された単語（735～760）の書き取り練習
8	Unit 16	動名詞	Unit 14 から Unit 16 までの復習 単語集の指定された単語（761～783）の書き取り練習
9	Unit 14 から Unit 16 までの復習	不定詞、分詞と動名詞	Unit 14 から Unit 16 までの復習、Unit 17 の予習 単語集の指定された単語（784～800）の書き取り練習
10	Unit 17	節	Unit 17 の復習、Unit 18 の予習 テキストの指定された単語の書き取り練習
11	Unit 18	関係代名詞	Unit 18 の復習、Unit 19 の予習 テキストの指定された単語の書き取り練習
12	Unit 19	熟語の整理	Unit 19 の復習、Unit 20 の予習 テキストの指定された単語の書き取り練習
13	Unit 20	会話文と it の整理	Unit 17 から Unit 20 までの復習
14	Unit 17 から Unit 20 までの復習	節、関係代名詞、熟語の整理と、会話文と it の用法	後期の総復習
15	後期の総括	後期まとめテストと解説	テストの復習

関連科目	他の英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Steps to English Grammar	大坂　四郎	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - WORD BOOK -	西谷　恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	統一英語単語テスト 30%、小テスト 20%と後期まとめテスト 50%で、授業態度は減点方式とし、総合的に評価します。
学生へのメッセージ	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておいて下さい。語彙力が英語の上達に大きく影響します。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　非常勤講師室
備考	休まず積極的に授業に参加して下さい。努力は実ります。

科目名	スポーツ科学実習Ⅰ	科目名（英文）	Practice of Sports Science Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＩＪ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤林　真美.堀　美幸.村上　陽一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。
到達目標	① 運動技術の向上 ② 競技ルールの理解 ③ 学生相互のコミュニケーション能力の向上
授業方法と留意点	実技形式で行う。（雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。） 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など） ・屋外種目（サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど） ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。 原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。
科目学習の効果（資格）	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	ルールの理解
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価
3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価
4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
10	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
11	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
12	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。
学生へのメッセージ	授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１Ｆ体育館事務室にきてください。
担当者の研究室等	総合体育館　１Ｆ　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ⅰ	科目名（英文）	Practice of Sports Science Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内部　昭彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	アスリート学生を対象に、スポーツ活動を通じて身体運動とスポーツ競技の理解を深め、競技力の向上を獲得する。また、スポーツ競技者として最低限必要とされる身体能力向上、怪我の予防、及びコミュニケーション能力向上のための実習を目的とする。
到達目標	①運動技能の向上 ②競技ルールの理解 ③学生相互のコミュニケーション能力の向上
授業方法と留意点	屋外での運動とスポーツ競技の実践を主な授業内容とする。実習科目としての性格上、出席を重視する。 （雨天の場合、講義形式を行う場合がある。）
科目学習の効果（資格）	現役スポーツ選手として活動している学生が、有意義な競技生活を送ることができるよう、アスリートとして、より高い競技力を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意およびコース説明	ガイダンス内容を確認し、次回の授業準備を行う
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価
3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価
4	球技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
5	球技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
6	球技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
7	球技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
8	球技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
9	球技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
10	球技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
11	球技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
12	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目：生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。
学生へのメッセージ	授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１Ｆ体育館事務室にきてください。
担当者の研究室等	体育館１Ｆ　体育館事務室
備考	【準備物】 トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名（英文）	Practice of Sports Science II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＩＪ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林　真美.岡﨑　和伸.村上　陽一郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。
到達目標	① 運動技術の向上 ② 競技ルールの理解 ③ 学生相互のコミュニケーション能力の向上
授業方法と留意点	実技形式で行う。（雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。） 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など） ・屋外種目（サッカー・ソフトボール・テニス・タグラグビーなど） ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。 原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。
科目学習の効果（資格）	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	ルールの理解
2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ
5	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ
6	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ
8	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
9	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
10	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
11	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
12	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。
学生へのメッセージ	授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１F体育館事務室にきてください。
担当者の研究室等	総合体育館　1F　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名（英文）	Practice of Sports Science II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	内部　昭彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	アスリート学生を対象に、スポーツ活動を通じて身体運動とスポーツ競技の理解を深め、競技力の向上を獲得する。また、スポーツ競技者として最低限必要とされる身体能力向上、怪我の予防、及びコミュニケーション能力向上のための実習を目的とする。
到達目標	①運動技能の向上 ②競技ルールの理解 ③学生相互のコミュニケーション能力の向上
授業方法と留意点	屋外での運動とスポーツ競技の実践を主な授業内容とする。実習科目としての性格上、出席を重視する。 （雨天の場合、講義形式を行う場合がある。）
科目学習の効果（資格）	現役スポーツ選手として活動している学生が、有意義な競技生活を送ることができるよう、アスリートとして、より高い競技力を獲得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意およびコース説明	ガイダンス内容を確認し、次回の授業準備を行う
2	球技	競技の概要説明、基礎技術練習	測定記録評価
3	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	測定記録評価
4	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
5	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
6	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
7	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
8	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
9	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
10	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
11	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
12	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	球技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズの理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。
学生へのメッセージ	授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１Ｆ体育館事務室にきてください。
担当者の研究室等	体育館１Ｆ　体育館事務室
備考	【準備物】 トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ教育学	科目名（英文）	Sports Education
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	近藤　潤
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	スポーツはさまざまな教育効果をもたらすが、その反面、体罰の問題など社会問題も多数発生している。またスポーツプレーヤーの言動が新聞に大きく取り上げられられることも多い。本講義では、スポーツの与える功罪について考え、スポーツ人として必要な基礎知識を学習する。
到達目標	スポーツに関わる道徳問題を理解する。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。またテーマに応じてグループ発表も行う。
科目学習の効果（資格）	スポーツの社会における功罪を知り、社会人としての基礎知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	基礎教育（1）	礼	新聞の社会欄などを読む
2	基礎教育（2）	道徳心	新聞の社会欄などを読む
3	基礎教育（3）	自己アピール	自己照会文作成
4	スポーツと教育（１）	スポーツ選手と犯罪について考える	配布プリントの読み返し
5	スポーツと教育（２）	体罰問題について考える（１）	配布プリントの読み返し
6	スポーツと教育（３）	体罰問題について考える（２）	配布プリントの読み返し
7	スポーツの功罪（１）	大学スポーツについて考える	配布プリントの読み返し
8	スポーツの功罪（２）	企業スポーツについて考える	配布プリントの読み返し
9	スポーツの功罪（３）	障がい者スポーツについて考える（１）	配布プリントの読み返し
10	スポーツの功罪（４）	障がい者スポーツについて考える（２）	配布プリントの読み返し
11	スポーツの功罪（５）	スポーツ特待生について考える	配布プリントの読み返し
12	スポーツの功罪（６）	燃え尽き症候群について考える	配布プリントの読み返し
13	スポーツの功罪（７）	スポーツ障害について考える	配布プリントの読み返し
14	スポーツの功罪（８）	ドーピングについて考える	配布プリントの読み返し
15	生涯スポーツ	ニュースポーツなど生涯スポーツについて考える	配布プリントの読み返し

関連科目　スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ　健康論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート、小テスト、プレゼン、平常点を加味する。
学生へのメッセージ	学生諸君はこちらが与える教材だけでなくさまざまな資料を集め、より深い内容にしてください。
担当者の研究室等	総合体育館　近藤研究室
備考	

科目名	スポーツ指導者入門	科目名（英文）	Sports Theory for Instructor
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山　喬之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	スポーツ指導者としての基礎的指導法を学びスポーツを一般的に広く定着させることのノウハウを身に付ける。 スポーツ指導の経験が浅い学生を対象とする。
到達目標	スポーツ指導者としての基礎を学び、指導者としての心得を理解する。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。なお、資料配布やＶＴＲなどを用い、教育効果を上げる。
科目学習の効果（資格）	スポーツ指導者の基礎的知識と指導法を学ぶ（公認スポーツ指導者資格取得対応科目）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス	――――――
2	指導者の役割（1）	スポーツ指導者とは	課題テキスト　P14
3	指導者の役割（2）	指導者の心構え・視点	課題テキスト　P15～P16
4	指導者の役割（3）	競技者育成プログラムの理念（一貫指導システム）	課題テキスト　P17～P25
5	指導者の役割（4）	競技者育成プログラムの理念（指導者の役割、ネットワーク）（小テスト・レポート提出）	課題テキスト　P26～P29
6	文化としてのスポーツ（1）	スポーツの概念と歴史（スポーツの歴史的発展と現代スポーツの考え方）	課題テキスト　P32～P33
7	文化としてのスポーツ（2）	スポーツの概念と歴史（スポーツを取り巻く環境）	課題テキスト　P34～P36
8	文化としてのスポーツ（3）	文化としてのスポーツ（小テスト・レポート提出）	課題テキスト　P40～P45
9	指導計画と安全管理（1）	指導計画の立て方（集団の指導計画、個人の指導計画）	課題テキスト　P106～P110
10	指導計画と安全管理（2）	指導計画の立て方（期別計画）	課題テキスト　P111～P112
11	指導計画と安全管理（3）	スポーツ活動と安全管理（スポーツにおける安全管理の知識）	課題テキスト　P113～P116
12	指導計画と安全管理（4）	スポーツ活動と安全管理（スポーツ活動における安全確保のための具体的行動）（小テスト・レポート提出）	課題テキスト　P117～P118
13	運動と健康（1）	運動と健康・スポーツプログラマーの役割	課題テキスト　P68～P69
14	運動と健康（2）	加齢臭現象と健康	課題テキスト　P68～P70
15	運動と健康（3）	急性障害と慢性障害	課題テキスト　P72～P75

関連科目	スポーツ文化論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツ指導者養成テキスト（共通科目Ｉ）		（公財）日本体育協会
2	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		（公財）日本体育協会
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	筆記試験及びレポートなどで総合的に評価する。
学生へのメッセージ	スポーツ指導者ニーズは年々高くなっている。
担当者の研究室等	総合体育館１階　横山講師室
備考	

科目名	スポーツトレーニングの基礎	科目名（英文）	Sports Training Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岡本　香代子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	スポーツトレーニングの原理・原則、およびコーチングにおける心理的面を理解し、スポーツトレーニング指導を実践する上の基礎を習得する。スポーツ指導におけるトレーニングメニュー作成や指導法について学ぶ。
到達目標	スポーツ指導に役立つトレーニングの基礎的知識について理解を深める。
授業方法と留意点	必要に応じてプリントを配布するが、パワーポイントなどを活用し視覚的にもわかり易く行う。毎回の授業スケジュールは、前回テーマの復習、本日のテーマ、質疑応答および小テストである。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	体力とは①	運動と健康、防衛体力と行動体力	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
2	体力とは②	トレーナビリティー	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
3	トレーニングの原理･原則①	スポーツトレーニングの３原理・５原則、特異性	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
4	トレーニングの原理･原則②	筋機能と呼吸循環機能	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
5	トレーニング処方	トレーニング計画	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
6	トレーニングの種類①	スポーツトレーニングの５つの内容	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
7	トレーニングの種類②	体力トレーニングと技術トレーニング	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
8	スポーツと心①	メンタルヘルス	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
9	スポーツと心②	スポーツとストレス	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
10	スポーツにおける動機づけ①	スポーツにおける動機づけとは	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
11	スポーツにおける動機づけ②	スポーツにおける目標設定	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
12	コーチングの心理①	スポーツ技能の習得	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
13	コーチングの心理②	メンタルトレーニング	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
14	コーチングの心理③	グループダイナミクス、チームビルディング	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
15	コーチングの心理④	コーチング評価	授業ノートのまとめと、小テストの確認。

関連科目：発育発達論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ		日本体育協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	受講態度点（40%）、レポート点（30%）、小テスト（30%）の総合評価。
学生へのメッセージ	スポーツ科学の基礎を理解し、実践に活かそう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名（英文）	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテータ養成講座」は、サービスラーニングの授業であり、青少年育成ファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に１度、90 分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	活動受入機関は、寝屋川市内の小学校、寝屋川市教育委員会関連団体、共学センター、交野市役所、門真市役所、すさみ町役場、寝屋川青年会議所等の主催・共催事業である。 ---------- ①　活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ②　守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③　安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④　救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、ＡＥＤの使用法を学ぶ ⑤　安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥　コミュニケーションスキル A：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ ⑦　コミュニケーションスキル B：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧　コミュニケーションスキル C：アイスブレーキング手法を学ぶ ⑨　コミュニケーションスキル D：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方 ⑩　活動プログラミング・スキル：課題設定・企画立案・実施・評価方法 ⑪　受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践 ⑫　青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり ---------- 履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前（2015 年１月・２月に実施済）に授業担当者（外国語学部・浅野教授）から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。 事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各１時間程度行う。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の４点を総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	７号館５階　（浅野研究室）
備考	

科目名	世界史概論	科目名（英文）	World History Introdution
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林田　敏子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	21 世紀を迎えた今、20 世紀という時代はすでに歴史研究の対象として重要な意味をもち始めている。二度にわたる世界大戦とファシズム、大量虐殺や民族紛争など、いまだ過去のものとはなっていない多くの問題を、われわれはどのようにとらえたらよいのだろうか。本講義では、第一次世界大戦からソ連崩壊までを、豊富に残るドキュメンタリー映像の分析を通して考察する。
到達目標	世界恐慌・ファシズム・戦争という三重の脅威にさらされながら、世界情勢はいかに変化したのか、その概要を理解する。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、板書と組み合わせて授業をすすめる。DVD 映像をもちいる。
科目学習の効果（資格）	歴史学に関する基本的な知識を獲得するとともに、現代社会を歴史的視点から読み解く力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第一次世界大戦	「新しい」戦争がもたらした負の遺産	20 世紀におこった事件から興味のあるものを一つ選び、その概要を調べてくる。
2	世界恐慌	ウォール街の大暴落とドイツのインフレ	第一次世界大戦の特徴についてまとめてくる。
3	ファシズムの台頭	ナチス一党独裁への道 ～ヒトラーによる大衆宣伝～	世界恐慌とファシズムの関係について調べてくる。
4	ヒトラーの野望	ドイツの再軍備とユダヤ人迫害	授業中に紹介したホロコーストに関する文献を読んでくる。
5	第二次世界大戦①	戦争捕虜問題	戦争捕虜に関する国際的取り決めについて調べてくる。
6	第二次世界大戦②	「追放」から「殲滅」へ ～ユダヤ人問題～	第一次世界大戦と第二次世界大戦の共通点と相違点についてまとめてくる。
7	帝国の終焉①	イギリスのインド統治とフランス領インドシナ	イギリス・フランスの植民地統治の歴史を年表化する。
8	帝国の終焉②	・インドの独立とカシミール紛争の勃発 ・中間テストの実施	前半の授業内容を復習する。
9	冷戦時代の幕開け	・ドイツ分割と朝鮮戦争 ・中間テストの解説	印パ戦争の経緯についてまとめてくる。
10	緊張の高まり ～キューバ危機～	キューバ危機が世界に与えたインパクト	ドイツの分断と統一の経緯についてまとめてくる。
11	ベトナム戦争	反戦思想のおこり	授業中に紹介したベトナム戦争に関する文献を読んでくる。
12	パレスチナ問題	第一次世界大戦から中東戦争まで	パレスチナ紛争の歴史を通して、現代のテロリズムの問題について考えてくる。
13	難民の世紀	紛争と難民問題	難民に関する国際的取り決めについて調べてくる。
14	ソ連の崩壊	崩壊過程と東欧の再編制	ソ連崩壊の意味を、20 世紀の歴史のなかに位置づける。
15	総括	小テストの実施と解説	全授業内容を復習しておく。

関連科目：ヨーロッパ史学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	第 15 回目の授業中に実施する小テスト（80%）と、中間テストおよび提出物（20%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歴史学とは過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
担当者の研究室等	7 号館 4 階　林田研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名（英文）	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れている。「境界線」も一つの視野では理解できない。さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ（多様性）を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティ・マネジメントをジェンダー視点で俯瞰することが目的である。
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果（資格）	ダイバーシティ・マネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ	ダイバーシティをイメージしてみましょう。
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	私たちの周りにある伝統や習慣について考えてみましょう。
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学＋男性学＝人間学	フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて考えてみましょう。
4	日本の近代化	・明治の落とし物	明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習とは何かを考えてみましょう。
5	国際統計比較①	・ジェンダーエンパワーメント指数	国際的な統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えてみましょう。
6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」	性役割を理解し、幼児期から振り返ってみましょう。
7	性役割形成②	・結婚と母性信仰	共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考えてみましょう。
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成	日本と世界を比較しながら、女性労働について考えてみましょう。
9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダー・マネジメント	ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べてみましょう。
10	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	アサーティブネス理論を学びましょう。
11	アサーティブネス理論②	・スキルを身に付ける	スキルを身に付けることで、実生活に活かしてみましょう。
12	国際統計比較②	・男女共同参画社会とは	男女共同参画社会に関して調べましょう。
13	ダイバーシティ・マネジメント①	・企業比較	発展している企業が必ず取り入れているダイバーシティ・マネジメントについて、事例研究してみましょう。
14	ダイバーシティ・マネジメント②	・プレゼンテーション	事例研究した内容をプレゼンテーションできるようにしましょう。
15	まとめ		

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	共に学ぶ女性学　－明日を共に生きるために－	石井三恵	泉文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ロールプレイ（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論にあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもにそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。事例を通して体験しながら、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。
担当者の研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities Ⅰ
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年１月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	事前教育１　（4 月 8 日水曜日 6 時限目：1134 教室）　活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前教育２　（4 月 15 日水曜日 6 時限目：1134 教室）　マナー講座・小中学校の教育現場について（学外講師を含む） 事前教育３　（4 月 22 日水曜日 6 時限目：1134 教室）「守秘義務」の意味とその内容について（教育委員会からの学外講師） 活動準備　受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動 1～25　受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出） 最終報告会　（1 月中旬・スカイラウンジにおいて）各自活動報告をする。 ※注意事項 事前教育１～3 のみ水曜日 6 時限目に教室で授業。事前教育授業に 1 回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。 事前・事後学習課題　学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各１時間程度行う。
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数（出席数）票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	７号館５階　（浅野研究室）　７号館４階　（浦野研究室）　７号館３階　（鳥居研究室）
備考	事前授業を４月８日　第６時限目 1134 教室で行います。必ず出席してください。

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年１月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、昨年度「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生のみが登録できる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	事前教育１　（4 月 8 日水曜日 6 時限目：1134 教室）　活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前教育２　（4 月 15 日水曜日 6 時限目：1134 教室）　マナー講座・小中学校の教育現場について（学外講師を含む） 事前教育３　（4 月 22 日水曜日 6 時限目：1134 教室）「守秘義務」の意味とその内容について（教育委員会からの学外講師） 活動準備　受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動 1～25　受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出） 最終報告会　（1 月中旬・スカイラウンジにおいて）各自活動報告をする。 ※注意事項 事前教育１～3 のみ水曜日 6 時限目に教室で授業。事前教育授業に 1 回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。 事前・事後学習課題　学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各１時間程度行う。
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数（出席数）票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	７号館５階　（浅野研究室）　７号館４階　（浦野研究室）　７号館３階　（鳥居研究室）
備考	事前授業を４月８日　第６時限目 1134 教室で行います。必ず出席してください。

科目名	チームビルディング	科目名（英文）	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。 本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。 ２回生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果（資格）	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の進め方 ・なぜチームが必要なのかを知る ・チームビルディングとは何か　を理解する	本科目のシラバスを精読すること。
2	チームビルディングとは何か	・自己紹介ワーク ・チームビルディングの理論を学ぶ ・チームビルディングのための技能を知る	チームにどのように貢献できるかを考える。
3	チームビルディング体験	・ペーパータワーワーク（予定） ・チームの 10 カ条 などに取り組み、チームビルディングを体験する	チームでの取り組みを振り返る。
4	チームを機能させるために必要なこと	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	配布資料を精読する。
5	チームビルディングを身につけるためのアクティビティ①	・チームでワークに取り組み、情報の読み取りと活用、合意形成を学ぶ	配布資料を精読する。
6	チームビルディングを身につけるためのアクティビティ②	・チームでワークに取り組み、情報の読み取りと活用、合意形成を学ぶ	配布資料を精読する。
7	ビジネス記事を活用したディスカッション①	記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える	チームでのディスカッションを振り返える。
8	メンバーを支援する	・質問だけで話し合いを進める ・ヒーローインタビュー	入学から今までを振り返って「最も達成した事柄」を思い出しておく。
9	チームでプロジェクトを企画する	・第二回チーム分け ・自己紹介ワーク ・チームでプロジェクトを企画する	チームにどのように貢献できるかを考える。
10	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
12	工程管理を意識したチームビルディング	ビジネスゲームを題材にリソースとコスト、工程管理を意識したワークに取り組む	工程管理に関して調べる。
13	プロジェクトのプレゼンテーション	第 9 回目の課題の報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの際に留意することを考える。
14	チーム力を上げる	・メンバーの力でチーム全体の力を上げる方法を考える	講義後日常生活で活かせそうな箇所を実践する。
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	提出物などの出し忘れがないか確認する。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学 PBL プロジェクト

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	チームでの提出物３０％、ワーク後の振り返りシート２０％、授業態度２０％、最終レポート３０％　で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室（水野研究室）
備考	

科目名	地誌学	科目名（英文）	Regional Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	稲田　克二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）【施行規則に定める科目区分】「地理学（地誌を含む。）」【教員免許状取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目（高等学校　地歴）【施行規則に定める科目区分】「地誌」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	地誌学は、地域を対象としてそこにある地理的事象を総合的に研究する学問である。講義では、まず地理学における地誌学の位置づけや研究目標を理解する。次に地域研究の基礎である自然環境、特に地形・気候の概観を学び、その後各地域ごとに自然環境・経済活動・文化・生活様式など、各地域の特色を学び、地域を総合的に理解する。
到達目標	世界各地の地域的特色を把握し、そこで生活する人々の生活様式や経済活動・文化を理解する。また中学校社会科・高等学校地歴科の教員を目指す者が、中学校・高等学校で授業をするための技術・手法を理解する。
授業方法と留意点	方法：講義を中心とし、適宜学生による研究発表を行う。そのため、毎回出席することが特に重要である。
科目学習の効果（資格）	中学社会・高校地理歴史教員職員免許

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の目的・方法・進め方を理解する。	事前に世界の国々の国名と位置を理解しておく。事後に講義内容を復習する。
2	地誌学とはどんな学問か？１	地理学全般の中における、地誌学の位置づけを理解する。	事後に講義内容を復習する
3	地誌学とはどんな学問か？２	地誌学の研究目標を理解する。	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
4	自然環境　地形１	自然環境を構成する地形について、地形区分の方法などを理解する。	世界の地形を概観しておく。事後に講義内容を復習する。
5	自然環境　地形２	区分された地形について、各地形ごとに詳細に理解する。	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
6	大阪と摂南大学周辺の地形環境	大阪と摂南大学周辺の地形環境を詳細に学ぶ。	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
7	自然環境　気候１	自然環境を構成する気候について、気候区分の方法などを理解する。	世界の気候を概観しておく。事後に講義内容を復習する。
8	自然環境　気候２	区分された気候について、各気候ごとに詳細に理解する。	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
9	中国１	中国の自然環境について理解する。	中国について概観しておく。事後に講義内容を復習する。
10	中国２	中国の経済活動や文化を理解する。	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
11	アングロアメリカ１	アングロアメリカの自然環境を理解する。	アングロアメリカについて概観しておく。事後に講義内容を復習する。
12	アングロアメリカ２	アングロアメリカの経済活動や文化を理解する。	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
13	ＥＵ諸国１	ＥＵの成り立ちを理解する。	ＥＵについて概観しておく。事後に講義内容を復習する。
14	ＥＵ諸国２	ＥＵ諸国の自然環境や経済活動を理解する。	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
15	まとめ	講義を通じて学んできた地誌学の研究方法を再確認し、地誌学の研究目標を理解する。	今までの講義全体を復習しておく。

関連科目：適宜指示をする。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新詳高等地図	帝国書院編集部	帝国書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の授業後に提出するレポート、適宜与える課題の提出。毎回出席することが最重要です。
学生へのメッセージ	世界にはどのような地域があり、そこではどのような生活様式や文化があるか考えましょう。地誌は暗記科目ではなく、地域について考える「科学」であることを理解しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　（非常勤講師室）
備考	受講生の状況により、研究発表の授業を行う場合もある。

科目名	中国語Ⅰ	科目名（英文）	Chinese Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	J
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	馮　艶
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。2年以後は外国語学部「中国語Ⅲ」「中国語Ⅳ」に継続可能。
到達目標	講義に使用しいている教科書にある日常会話の挨拶文や語彙をマスターしてもらい、簡単な日常会話ができることを目指している。
授業方法と留意点	この講義は中国語Ⅱａの講義と連携し、同一教科書を使用して週２コマをリレー式に進められる。（１コマだけの履修も可。）
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	四声，単母音，子音(1)，複母音(1)	発音編１	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	複母音(3)，鼻母音(4)，子音(3)	発音編３	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	形容詞述語文，副詞1，変調	第１課１	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	自己紹介，疑問詞疑問文	第１課３	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	是構文，副詞2，構造助詞１	第２課１	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	副詞語順，全否定，部分否定，疑問視疑問文	第２課３	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	動目構造，動詞重畳	第３課１	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	二重目的語，副詞４	第３課３	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第１課～第３課まとめ	第１回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	数詞2，副詞５	第４課２	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	会話４	第４課４	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	時間詞，名詞述語文	第５課２	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	会話５	第５課４	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	動詞「在」，副詞６	第６課２	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	会話６	第６課４	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目：「中国語Ⅱａ」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加と単元テストによる。
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。また休講があれば、その都度進度は順次繰り延べられるので注意すること。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	中国語Ⅱ	科目名（英文）	Chinese II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	J
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	馮　艶
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。2年以後は外国語学部「中国語Ⅲ」「中国語Ⅳに継続可能。
到達目標	前期と比べやや複雑になっている日常会話の文型や語彙をマスターする。簡単な日常会話をよりスムーズこなせることを目標とする。
授業方法と留意点	この講義は中国語Ⅱｂの講義と連携し、同一教科書を使用して週２コマをリレー式に進められる（１コマだけの履修も可。）
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	介詞 3，量詞 3	第 7 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	選択疑問文，副詞 7	第 7 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 7 課復習	第 7 課 1～4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	了 1，了 2	第 8 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	会話 8	第 8 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	状態補語，介詞 5	第 9 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	副詞 9，把字句	第 9 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 7 課～第 9 課まとめ	第 3 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	動量詞 2，副詞 11	第 10 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	会話 10	第 10 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	能願動詞 2，動量詞 3	第 11 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	比較文，能願動詞 4	第 11 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 11 課復習	第 11 課 1～4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	進行文，接続詞 1	第 12 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	会話 12	第 12 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目：「中国語Ⅱb」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加と単元テストによる。
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。また休講があれば、その都度進度は順次繰り延べられるので注意すること。
担当者の研究室等	7 号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	中国語Ⅲ	科目名（英文）	Chinese III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	J
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	兪　鳴蒙
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第１課　発音１	ピンイン，単母音，声調。	練習問題を解答する。
2	第２課　発音２	子音，無気音と有気音，捲舌音。	練習問題を解答する。
3	第３課　発音３	複母音，ｒ化音。	練習問題を解答する。
4	第４課　発音４	鼻母音，声調の変化。	練習問題を解答する。
5	第５課　発音の復習チェックシート	発音編の復習。 ☆単元テスト１	練習問題を解答する。
6	第６課　（会話）初めまして	人称代名詞，「是」構文，氏名の言い方，疑問文。	練習問題を解答する。
7	第６課　（会話）初めまして	副詞「也」，副詞「不」。	練習問題を解答する。
8	第７課　（会話）これはサンプルです	指示代名詞，疑問詞疑問文。	練習問題を解答する。
9	第７課　（会話）これはサンプルです	助詞「的」，副詞「都」。	練習問題を解答する。
10	第８課　復習チェックシート	第６課～第７課の復習。 ☆単元テスト２	練習問題を解答する。
11	第９課　（会話）お茶をどうぞ	動詞述語文，時間の言い方。	練習問題を解答する。
12	第９課　（会話）お茶をどうぞ	時間詞の用法，動詞「在」。	練習問題を解答する。
13	第 10 課　（会話）お近付きになれてうれしい	形容詞述語文，反復疑問文。	練習問題を解答する。
14	第 10 課　（会話）お近付きになれてうれしい	助詞「?」，副詞「有点」。	練習問題を解答する。
15	第 11 課　復習チェックシート	第９課～第 10 課の復習。 ☆単元テスト３	練習問題を解答する。

関連科目：中国語Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　ビジネス中国語	摂南』大学　外国語学部中国語教室編	（摂南大学）
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加と単元テストによる。
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。
担当者の研究室等	７号館３階（兪研究室）
備考	

科目名	中国語Ⅳ	科目名（英文）	Chinese Ⅳ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	J
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪　鳴蒙
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第12課　（会話）納品期日	数の数え方，年月日と曜日の言い方。	練習問題を解答する。
2	第12課　（会話）納品期日	助動詞「想」，動詞の重ね型。	練習問題を解答する。
3	第13課　（会話）説明書があります	所有の「有」，助数詞。	練習問題を解答する。
4	第13課　（会話）説明書があります	疑問詞「多少」，疑問詞「幾」。	練習問題を解答する。
5	第14課　復習チェックシート	第12課～第13課の復習。 ☆単元テスト１	練習問題を解答する。
6	第15課　（会話）全日空で上海へ行きます	連動文，前置詞「離」。	練習問題を解答する。
7	第15課　（会話）全日空で上海へ行きます	前置詞「在」，存在の「有」。	練習問題を解答する。
8	第16課　（会話）お電話をしました	完了の「了（1)」，前置詞「給」。	練習問題を解答する。
9	第16課　（会話）お電話をしました	前置詞「和」，接続詞「如果」。	練習問題を解答する。
10	第17課　復習チェックシート	第15課～第16課の復習。 ☆単元テスト２	練習問題を解答する。
11	第18課　（会話）売り上げは去年より多くなりました	完了の「了（2)」，比較表現の「比」構文。	練習問題を解答する。
12	第18課　（会話）売り上げは去年より多くなりました	接続詞「雖然・・・但是・・・」。	練習問題を解答する。
13	第19課　（会話）中国語ができません	助動詞「会」と「能」，動詞の進行表現。	練習問題を解答する。
14	第19課　（会話）中国語ができません	時間の長さを表す補語，二つの「了」の併用。	練習問題を解答する。
15	第20課　復習チェックシート	第18課～第19課の復習。 ☆単元テスト３	練習問題を解答する。

関連科目：中国語Ⅲ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学　ビジネス中国語	摂南大学　外国語学部中国語教室編	(摂南大学)
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加と単元テストによる。
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。
担当者の研究室等	７号館３階（兪研究室）
備考	

科目名	地理学Ⅰ	科目名（英文）	Geography Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	原　秀禎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）【施行規則に定める科目区分】「地理学（地誌を含む。）」【教員免許状取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目（高等学校　地歴）【施行規則に定める科目区分】「人文地理学及び自然地理学」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	・自然地理学の中でも特に地形環境を取りあげて詳細に解説する。 ・地理学の体系を述べた後，自然地理学の位置付けを行い、地形環境の重要性を明らかにする。 ・大地形の形成過程を説明し、日本における地形の特色について順を追って解説していく。 ・形成時期の古い山地地形から、最も新しい三角州に至るまで，系統的に解明する。 ・我々にとって，地形とはどういう意味を持つのか，土地利用を通じて，その利用形態を明らかにする。
到達目標	日本の地形について、その形成過程、特色、土地利用、人間との関わりを理解する。
授業方法と留意点	配布プリントを中心として、ビデオ教材を使用して具体例を示していく。
科目学習の効果（資格）	・日本の地形環境について系統的に把握できる。 ・自然観光資源に対する理解が深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地理学の位置づけと自然地理学	地理学とは何か，人文地理学と自然地理学	人文地理と自然地理の相違点を整理する
2	自然地理学の諸分野	気候地理学、植生地理学、水文学、地形学等	自然地理学の諸分野をまとめる
3	地形学と地形環境	地形環境とは何か	地形環境の意味を確認する
4	山地Ⅰ	世界の大地形とプレートテクトニクス，新期造山帯と火山帯	山地地形を整理する
5	山地Ⅱ	日本の山地地形の特色，活断層と山地	活断層の分布をまとめる
6	丘陵Ⅰ	丘陵地形の形成過程とその特色	丘陵地形を整理する
7	丘陵Ⅱ	日本の丘陵と土地利用，丘陵の分布と大規模住宅地開発	丘陵の利用法をまとめる
8	河岸段丘	河岸段丘地形の分布と特色，段丘面の土地利用	河岸段丘地形をまとめる
9	海岸段丘	海岸段丘地形の分布と特色，段丘面と農業開発	海岸段丘地形をまとめる
10	扇状地	扇状地地形の特色と土地利用，湧水帯と農業の発達	扇状地の分布を整理する
11	自然堤防と後背湿地	自然堤防と集落の立地，　後背湿地と水田耕作	自然堤防と集落の立地をまとめる
12	三角州	三角州の形成と地下構造	三角州の分布をまとめる
13	後氷期と海水準変動	縄文海進と弥生海退、弥生海退と平野の形成、大阪平野の形成過程	海水準変動の状況をまとめる
14	第１回～第 13 回のまとめと理解度確認テスト	第１回～第 13 回のまとめを行った後、理解度を確認するためのテストを行う。	解答できなかった内容について復習する
15	理解度確認テストの結果を踏まえ、全体を総括する。	日本の地形環境、生活と地形との関わり、地形利用のまとめを行う。	日本の地形環境をまとめる

関連科目：旅と観光の地理学，環境学、人文地理学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版・地形の教室	中野尊正・式　正英	古今書院
2	新版・地形学	渡辺光	古今書院
3			

評価方法（基準）	理解度確認テストの成績を中心に，授業参加状況，講義態度も考慮して，総合的に評価する。
学生へのメッセージ	配布プリントの内容だけでなく、口頭で説明した内容やビデオの内容もしっかり要約して，メモをとる習慣を身につけてください。
担当者の研究室等	７号館５階(原研究室)
備考	

科目名	地理学Ⅱ	科目名（英文）	Geography II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原　秀禎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）【施行規則に定める科目区分】「地理学（地誌を含む。）」【教員免許状取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目（高等学校　地歴）【施行規則に定める科目区分】「人文地理学及び自然地理学」【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	・人文地理学のさまざまな分野の中から、今年度は「観光地理学」をとりあげ、詳細に論じる。 ・日本における観光地をさまざまな視点から分析し，その特色を明らかにする。 ・観光地の定義を行った後，観光資源，観光流動，観光産業について分析を加える。 ・観光地の諸特性を類型化し，観光調査の方法について説明したのち，観光開発の問題点を指摘する。 ・多数の観光地に関するビデオやスライドを使用し，具体的な事例をあげながら理解を深めていく。
到達目標	・日本における観光地の特色を理解する。 ・日本全国の特色ある観光地を把握し、日本の観光資源の豊富さを理解する。 ・日本の観光資源、外国人観光客の動向についても把握する。
授業方法と留意点	配布プリントを中心にして，ビデオ教材を毎回使用し，具体的な観光地について分析を行う。
科目学習の効果（資格）	・中学・高校社会科免許状取得必要科目。 ・日本における観光地の特性を把握できる。 ・旅行業界に就職を希望する学生諸君にとっては，地理的知識の修得につながる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	人文地理学の諸分野 観光地理学の位置付け 旅・観光の定義	人文地理学と観光地理学 旅・観光とは何か，その定義	人文地理学の諸分野を整理する。 観光・旅等の定義内容を理解する。
2	研究の目的と方法	旅・観光研究の目的と方法	研究の目的と方法を整理し、理解を深める。
3	観光発達史Ⅰ	外国における観光地の発達過程	ヨーロッパにおけ観光地の歴史をまとめる。
4	観光発達史Ⅱ	日本における観光地の発達過程	日本におけ観光地の歴史をまとめる。
5	観光資源と観光流動	自然･人文観光資源の評価、観光の需要，観光圏の形成	観光の需要，観光圏の形成についてまとめ、理解を深める。
6	観光産業	観光産業の構成と分布	観光産業の構成と分布をまとめ、理解を深める。
7	第１回から第６回までのまとめと理解度確認テスト	第１回から第６回までのまとめを行った後、理解度を確認するためのテストを実施する。	テスト内容を確認し，理解できていない内容を復習する。
8	観光地の特性Ⅰ	温泉観光地とその特色	温泉観光地とその特色をまとめる。
9	観光地の特性Ⅱ	山岳観光地とその特色	山岳観光地とその特色をまとめる。
10	観光地の特性Ⅲ	海岸観光地とその特色	海岸観光地とその特色をまとめる。
11	観光地の特性Ⅳ	宗教・都市観光地とその特色	宗教・都市観光地とその特色をまとめる。
12	観光調査法Ⅰ	資料の吟味と収集法、グーグルによる検索、観光統計の入手法	観光調査法の内容を復習する。
13	観光調査法Ⅱ	アンケート調査、ヒヤリング調査、調査結果の整理法	アンケート調査、ヒヤリング調査項目を作成する。
14	第８回から第 13 回までのまとめと理解度確認テスト	第８回から第 13 回までのまとめを行った後、理解度を確認するためのテストを実施する。	テスト内容を確認し，理解できていない内容を復習する。
15	理解度確認テストの結果を踏まえ、全体を総括する。	旅・観光のまとめ、日本における観光地の特性	日本における観光地の特性をまとめる。

関連科目：東南アジア地誌学，中国地誌学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	観光地理学	寺阪昭信	古今書院
2	観光学	溝尾良隆	古今書院
3	アーバンツーリズム	淡野明彦	古今書院

評価方法（基準）	・２回の理解度確認テストの成績を中心に，授業参加，講義態度も加味して，総合的に評価する。 ・教員資格を取得する学生の教職科目であるため、評価は厳しくなる。
学生へのメッセージ	配布プリントの内容だけでなく，口頭で説明した内容やビデオの内容も要約して，しっかりノートにまとめる習慣を身に付けて下さい。
担当者の研究室等	７号館５階(原研究室)
備考	中学・高校の社会科免許状を取得するための教職科目でもあるため、講義内容は教養レベルを超えたものになる。

科目名	哲学Ⅰ	科目名（英文）	Philosophy Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田　清
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）【施行規則に定める科目区分】「哲学、倫理学、宗教学」【教員免許状取得のための履修区分】必修【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）【施行規則に定める科目区分】「哲学、倫理学、宗教学、心理学」【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	哲学とは、われわれが日常生活を送る中で暗黙のうちに前提としている考え方や振舞い方に関して、「何故、こんな風に考えるのか」、「何故、こんな風に振舞うのか」、こうした素朴な疑問から始まる。決して現実離れした学問ではない。授業では、映像（映画、写真、夢かという日常的経験の中で、何が起きているのか、これをテーマとしながら、従来の哲学史上の考え方・概念を紹介しつつ、日常的経験を可能にしている諸々の要因を洗い出していく。
到達目標	物を見る、写真を見る、夢を見る、映画を観る、こうした見る/観るという行為の複雑性に対する問題意識をもつこと。
授業方法と留意点	テキストは使用しない。板書は相当な量になるので、ノートは必ず準備すること。試験問題は、書き残したノートから出題されます。また、見逃せない時事的な出来事が起きれば、それについて考えます。
科目学習の効果（資格）	これまで見過ごしてきた日常性の複雑さを知ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の概要	――――
2	物を見ることの複雑性	ものの認識と行動への強迫	シラバスの熟読
3	――――	精神分析的見解	前回のノートの見直し
4	――――	現象学的見解	――――
5	――――	自己認識とそのほつれ	――――
6	写真を見ることの複雑性	バルトの写真論その１	――――
7	――――	バルトの写真論その２	――――
8	――――	ソシュールの言語論	――――
9	――――	ラカンの無意識論	――――
10	――――	写真・言語・無意識の交錯	――――
11	映画を観ることの複雑性	映画の物語世界の構成	――――
12	――――	メッツの映画論その１	――――
13	――――	メッツの映画論その２	――――
14	――――	ラカンの自我論	これまでのノートの見直し
15	試験対策	試験問題答案の書き方	――――

関連科目：思想系の科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加、筆記試験などをもとに総合的に評価します。
学生へのメッセージ	重要なのは、自分自身の日常生活に疑問を抱くことです。当たり前だと思っていることに、「何でやろ ?」と思ったときから、哲学が始まります。積極的に、しかも緊張感を持って授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	哲学Ⅱ	科目名（英文）	Philosophy II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	池田　清
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教科に関する科目（中学校　社会）　【施行規則に定める科目区分】「哲学、倫理学、宗教学」　【教員免許状取得のための履修区分】必修　【科目】教科に関する科目（高等学校　公民）　【施行規則に定める科目区分】「哲学、倫理学、宗教学、心理学」　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	哲学とは、われわれが日常生活を送る中で暗黙のうちに前提としている考え方や振舞い方に関して、「何故、こんな風に考えるのか」、「何故、こんな風に振舞うのか」、こうした素朴な疑問から始まる。決して現実離れした学問ではない。授業では、映像（映画、写真、夢かという日常的経験の中で、何が起きているのか、これをテーマとしながら、従来の哲学史上の考え方・概念を紹介しつつ、日常的経験を可能にしている諸々の要因を洗い出していく。
到達目標	物を見る、写真を見る、夢を見る、映画を観る、こうした見る/観るという行為の複雑性に対する問題意識をもつこと。
授業方法と留意点	テキストは使用しない。板書は相当な量になるので、ノートは必ず準備すること。試験問題は、書き残したノートから出題されます。また、見逃せない時事的な出来事が起きれば、それについて考えます。
科目学習の効果（資格）	これまで見過ごしてきた日常性の複雑さを知ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の概要	――――
2	エディプス論	フロイトのエディプス論	シラバスの熟読
3	――――	ラカンのエディプス論その１	前回のノートの見直し
4	――――	ラカンのエディプス論その２	――――
5	――――	自我の分裂あるいは統一	――――
6	映画論再考	映像単語説その１	――――
7	――――	映像単語説その２	――――
8	――――	映像単語説批判	――――
9	――――	映画論と言語論の交錯その１	――――
10	夢を見ることの複雑性	フロイトの夢理論	――――
11	――――	フロイトの「イルマの注射の夢」解釈	――――
12	――――	ラカンの「イルマの注射の夢」解釈	――――
13	映像技法の複雑性	映画論と言語論の交錯その２	――――
14	――――	映画論と言語論の交錯その３	これまでのノートの見直し
15	試験対策	試験問題答案の書き方	――――

関連科目：思想系の科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加、筆記試験などをもとに総合的に評価します。
学生へのメッセージ	重要なのは、自分自身の日常生活に疑問を抱くことです。当たり前だと思っていることに、「何でやろ ?」と思ったときから、哲学が始まります。積極的に、しかも緊張感を持って授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	

科目名	日本語上級会話ＦＩ	科目名（英文）	Advanced Japanese Speaking FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	髙井　美穂
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、「お金」「家族」「幸福」「労働」など、個人や社会の価値観にかかわるようなトピックについて、日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について、論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目および結果について議論する。その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	トピック⑦	議論	復習
8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
9	トピック⑧	議論	復習
10	トピック⑨	議論	復習
11	トピック⑩	議論	復習
12	トピック⑪	議論	復習
13	トピック⑫	議論	復習
14	トピック⑬	議論	復習
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み、２回のテストから総合的に判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター（３号館４階）
備考	

科目名	日本語上級会話ＦⅡ	科目名（英文）	Advanced Japanese Speaking FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	髙井　美穂
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本語会話ＦＩと同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習
8	トピック⑦	議論	復習
9	トピック⑧	議論	復習
10	トピック⑨	議論	復習
11	トピック⑩	議論	復習
12	トピック⑪	議論	復習
13	トピック⑫	議論	復習
14	トピック⑬	議論	復習
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への取り組み、２回のインタビューテストから総合的に判断する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	国際交流センター（３号館４階）
備考	

科目名	日本語上級作文ＦＩ	科目名（英文）	Advanced Japanese Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。
授業方法と留意点	授業は、実践と解説を中心に行う。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	―――
2	Ｅメールの基本１	Ｅメールの基本を学習する	復習
3	Ｅメールの基本２	Ｅメールの基本を学習する	復習
4	Ｅメール１	近況を知らせるメール	復習
5	Ｅメール２	お知らせメール	復習
6	Ｅメール３	お誘いメール	復習
7	Ｅメール４	リマインドメール	復習
8	Ｅメール５	問い合わせ／質問メール	復習
9	Ｅメール６	依頼メール	復習
10	Ｅメール７	アポイント／日程調整メール	復習
11	Ｅメール８	お礼のメール	復習
12	Ｅメール９	断りメール	復習
13	Ｅメール１０	クレームのメール	復習
14	手紙	お礼状を書く	復習
15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習

関連科目：総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1)宿題（教員へのメール送信）は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本語上級作文ＦⅡ	科目名（英文）	Advanced Japanese Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。
授業方法と留意点	授業は、講義と実践を中心に行う。
科目学習の効果（資格）	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	――――――
2	就職活動１	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
3	就職活動２	自己 PR を書く	復習
4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
6	ビジネスメール１	挨拶メール	復習
7	ビジネスメール２	報告メール	復習
8	ビジネスメール３	通知メール	復習
9	ビジネスメール４	案内メール	復習
10	ビジネスメール５	確認メール	復習
11	ビジネスメール６	依頼メール	復習
12	ビジネスメール７	問い合わせ／回答メール	復習
13	ビジネスメール８	アポイントを取るメール	復習
14	ビジネスメール９	お詫び／お礼のメール	復習
15	総復習・確認テスト	総復習・確認テスト	復習

関連科目：総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1)宿題（教員へのメール送信）は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。

科目名	日本語上級読解ＦⅠ	科目名（英文）	Advanced Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川　由理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では次の３点を目標にします。 ①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。
到達目標	日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。 JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する（N１、N２に限る）。
授業方法と留意点	この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確にていねいに読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。 １．キーワード・キーセンテンスを探す ２．接続詞に注意する ３．テキストの流れに注意する ４．予測して読む ５．テキストをまとめる
科目学習の効果（資格）	・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 （・JPT　N1 を持っていないものは取得を目指す。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する
5	キーセンテンスを探す（1）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
6	キーセンテンスを探す（2）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する
8	説明文を読む（1）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
9	説明文を読む（2）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
10	論説文を読む（1）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
11	論説文を読む（2）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
12	随筆を読む	2～3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する
13	小説を読む（1）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
14	小説を読む（2）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する

関連科目：日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験を実施（試験の形式については授業中に説明する） 出席・授業態度　＋　期末テスト　＝　100% 50%　50%
学生へのメッセージ	受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。 出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。

科目名	日本語上級読解ＦⅡ	科目名（英文）	Advanced Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川　由理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では次の３点を目標にします。 ①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。
到達目標	日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。 JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する（N１、N２に限る）。
授業方法と留意点	この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確にていねいに読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。 １．キーワード・キーセンテンスを探す ２．接続詞に注意する ３．テキストの流れに注意する ４．予測して読む ５．テキストをまとめる
科目学習の効果（資格）	・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 （・JPT　N1 を持っていないものは取得を目指す。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する
5	キーセンテンスを探す（1）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
6	キーセンテンスを探す（2）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する
8	説明文を読む（1）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
9	説明文を読む（2）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
10	論説文を読む（1）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
11	論説文を読む（2）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
12	随筆を読む	2～3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する
13	小説を読む（1）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
14	小説を読む（2）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する

関連科目：日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験を実施（試験の形式については授業中に説明する） 出席・授業態度　＋　期末テスト　＝　100% 50%　50%
学生へのメッセージ	受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。 出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。

科目名	日本史概論	科目名（英文）	Japanese History Introdution
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐伯　智広
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	目的：近代日本の成立についての歴史的な基礎知識を身に付け、その特質を理解する。 概要：私たちは、日本という「国」に暮らしていることを、当たり前のこと・自然なことだと思っています。 ですが、もしもそれが「自然ではないこと」だと言われたら…ちょっと「えっ？」と思いませんか？ 現在の私たちが暮らす「国」とは何なのか。それが誰によって、何のために、どのように作られたのか。この講義では、そうした国の成り立ちの歴史について学びます。それは、単なる歴史ではなく、現代社会について理解することにつながるでしょう。
到達目標	１．現代の日本がどのような歴史的経緯を経て成立したかを理解する。 ２．歴史的経緯が現代の日本に及ぼしている影響を理解する。 ３．上記の点について説明可能な能力を身に着ける。
授業方法と留意点	板書講義形式です。プリントを利用します。教科書はありません。参考書は講義内で適宜示します。
科目学習の効果（資格）	近代日本という国の起源・変遷・特色についての、歴史的な基礎知識と、それを説明する能力を身につけることができます。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション　「国」とは何か	私たちが現在暮らす「国」とは何なのかについて説明します。	なし
2	開国	幕末の開国について、江戸時代の鎖国と比較して考えます。	予習として、「開国」という語について辞書的な意味を調べる。
3	廃藩置県	廃藩置県について、江戸時代の幕藩体制と比較して考えます。	予習として、「廃藩置県」という語について辞書的な意味を調べる。
4	徴兵令	徴兵令について、江戸時代の武士と比較して考えます。	予習として、「徴兵令」という語について辞書的な意味を調べる。
5	文明開化	文明開化について、江戸時代の蘭学・国学と比較して考えます。	予習として、「文明開化」という語について辞書的な意味を調べる。
6	自由民権運動	自由民権運動について、現代の政治制度と比較して考えます。	予習として、「自由民権運動」という語について辞書的な意味を調べる。
7	大日本帝国憲法	大日本帝国憲法について、日本国憲法と比較して考えます。	予習として、「大日本帝国憲法」という語について辞書的な意味を調べる。
8	条約改正	不平等条約の改正について考えます。	予習として、「条約改正」という語について辞書的な意味を調べる。
9	日清戦争・日露戦争	日清戦争・日露戦争について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「日清戦争」「日露戦争」という語について辞書的な意味を調べる。
10	第一次世界大戦	第一次世界大戦について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「第一次世界大戦」という語について辞書的な意味を調べる。
11	ワシントン体制	ワシントン体制について、現代の戦争問題と比較して考えます。	予習として、「ワシントン体制」という語について辞書的な意味を調べる。
12	大正デモクラシー	大正デモクラシーについて、現代の政治制度と比較して考えます。	予習として、「大正デモクラシー」という語について辞書的な意味を調べる。
13	世界恐慌	世界恐慌について、現代の経済問題と比較して考えます。	予習として、「世界恐慌」という語について辞書的な意味を調べる。
14	第二次世界大戦	第二次世界大戦について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「第二次世界大戦」という語について辞書的な意味を調べる。
15	そして現代へ	第二次世界大戦後の日本について、現代と比較して考えます。	予習として、「日本国憲法」という語について辞書的な意味を調べる。

関連科目	ありません。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	予習シート３０％、定期試験７０％
学生へのメッセージ	教科書で勉強する高校の日本史とは違って、大学での講義はきゅうくつな枠組みはありません。過去の歴史が現代日本に与えている影響について学びながら、現代の私達にとって歴史が持つ意味についても、自由に考えていきましょう！ また、最新の学説なども紹介していくので、研究の最先端で教科書が書き換わっていく面白さも知ってもらいたいと考えています。
担当者の研究室等	７号館２階非常勤講師室
備考	

科目名	発育発達論	科目名（英文）	Growth and Development Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岡本　香代子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	スポーツ指導では、年齢や性別など対象に合わせた指導を行うことが、効果やケガの面でとても大切になる。特に、ジュニア期においては、運動の果たす役割は大きく身体の発達に働きかけるだけでなく、精神的な発達を促すものである。この授業では、発育発達期の身体的・心理的特徴を理解するとともに、高齢者や女性の特徴についても学び、スポーツ指導を実践する上での基礎的知識を得る。
到達目標	発育発達期のスポーツ指導に役立つ基礎的知識について理解を深める。
授業方法と留意点	テキストやプリントを用いた講義を行う。授業スケジュールは、前回テーマの復習、本日のテーマ、質疑応答および小テストである。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴①	からだの発育・発達、運動の健康への意義	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
2	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴②	筋力・持久力の発達	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
3	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴③	疾走能力・跳躍能力・投能力の発達	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
4	発育発達期に多いケガや病気①	スポーツ外傷とスポーツ障害	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
5	発育発達期に多いケガや病気②	肥満、骨折、ストレス	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
6	発育発達期のプログラム①	走る・跳ぶ・投げる	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
7	発育発達期のプログラム②	有酸素運動・無酸素運動	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
8	中高年者とスポーツ①	社会的要因・環境と運動不足病	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
9	中高年者とスポーツ②	中高年者における身体活動・運動の重要性	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
10	中高年者とスポーツ③	中高年者のトレーニング効果、運動能力	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
11	女性とスポーツ①	女性の身体特性	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
12	女性とスポーツ②	女性アスリートの身体特性とパフォーマンス	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
13	女性とスポーツ③	女性の特徴に応じたスポーツプログラム	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
14	障害者とスポーツ①	障害者スポーツの意義・課題	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
15	障害者とスポーツ②	障害別から見た障害者の体力	授業ノートのまとめと、小テストの確認。

関連科目：スポーツプログラミング

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ		日本体育協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	受講態度（40%）、レポート点（30%）、小テスト（30%）の総合評価。
学生へのメッセージ	ジュニア期のスポーツ指導は、その子の持っている才能を伸ばすこともあれば、競技生活を短くしてしまうこともあります。経験に頼りすぎず理論を基盤に指導に活かそう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	

科目名	犯罪被害者と法的救済	科目名（英文）	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。 ・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデート DV の被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。 ・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。 しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。 ・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。 ・犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。 ・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」（教養）でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。
到達目標	・「被害者」概念について説明できるようになる。 ・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できるようになる。 ・犯罪被害者の支援制度について理解する。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答も随時行いたい。
科目学習の効果（資格）	・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。 ・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義	事前：「犯罪被害者」について調べてみよう 事後：重要事項をまとめる
2	「犯罪者」をめぐる諸問題	・「犯罪者」の刑事責任 ・刑罰の正当化根拠 ・厳罰化をめぐる諸問題	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
3	犯罪被害の告訴・告発と証拠収集 犯罪捜査への対応	・告訴と告発の方法 ・証拠保全 ・犯罪被害者に対するメディアスクラム ・報道による被害（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネット） ・被害者連絡制度 ・被害者側からの問い合わせ ・被害者からの事情聴取 ・警察と検察によるカウンセリング体制	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
4	加害者との示談	・示談の意義 ・示談が与える影響 ・示談慰謝料の算定	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
5	加害者の不起訴と検察審査会	・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
6	刑事公判と被害者	・被害者による裁判傍聴 ・被害者による記録の閲覧と謄写 ・被害者の意見陳述 ・被害者等特定事項の非公開	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
7	犯罪被害者参加制度	・対象犯罪 ・被害者に認められる行為 ・参加の申出と参加時期 ・公判前整理手続への参加 ・被害者の証人尋問 被告人質問と意見陳述	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
8	小テスト	第７回目までの理解度確認	事前：前回までの復習 事後：わからなかった箇所を再確認
9	損害賠償命令制度	・制度の趣旨 ・対象犯罪 ・遺族による申立 ・請求対象とその範囲 ・管轄裁判所と申立期間	事前：「犯罪被害者への経済支援」を調べよう 事後：重要事項をまとめる
10	被害者通知制度 犯罪被害者等給付金制度	・加害者の施設内処遇と社会内処遇 ・加害者の仮釈放 ・犯罪被害者への経済支援制度 ・受給資格 ・支給要件と支給額 ・不服申立	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる

11	その他の経済的支援制度	・犯罪被害者救護基金 ・交通事故犯罪 ・犯罪による精神被害	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
12	少年事件における被害者保護	・少年法と犯罪被害者救済 ・少年事件における記録閲覧 ・少年審判の傍聴 ・少年事件での意見陳述 ・少年とその親に対する損害賠償 ・少年法と犯罪被害者救済	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
13	DV 被害	・DV とは何か ・配偶者による犯罪 ・DV 被害者の保護と支援 ・保護命令	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
14	ストーカー被害	・いわゆる「ストーカー規制法」の概要 ・ストーカーへの行政処分 ・ストーカー犯罪の類型 ・ストーカーへの対応策	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
15	修復的司法	・修復的司法の意義 ・わが国における修復的司法の展望	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる

関連科目

各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法
法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事政策	川出　敏裕＝金　光旭	成文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他の専門文献は開講時に紹介する。		
2			
3			

評価方法（基準）

・小テストおよび期末試験の成績を総合評価する。なお、質疑応答を交えた場合は、その応答内容をプラスの方向でのみ評価する。

学生へのメッセージ

・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。

担当者の研究室等

11 号館 10 階　小野准教授室

備考

事前学習：内容に記載した事項につき、毎回 0.5 時間以上の予習に取り組む。
事後学習：講義内容についてノートにまとめるなど、毎回 1 時間以上の復習に取り組む。

科目名	武道論	科目名（英文）	Budo-ron (Theory of Japanese Martial Arts)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山　喬之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「武道とは何か」、「なぜ今武道なのか」等、現代における武道の特性などを概説し、現状と課題について検討していく。 また、武道の特性が理解でき、日本人の行動様式やものの考え方についても知ることができることを一般的な目標とする。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	日本伝統文化である武道（意味・種類）についての理解を深める。 日本人の精神を「武士道」より学び、道徳についての理解を深める。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果（資格）	武道の特性を理解することができる。また、伝統的な行動様式を学ぶ中から現代にない思考力が育まれることを期待する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業内容の説明と武道について	武道について調べてくる
2	武道とは何か	武道の意味や言語について概説する	武道にはどのような種目があるのか調べる
3	武道と武術について	武道と武術の違いについて	武芸十八般について調べてくる
4	武道（柔道）	柔道について	柔道について調べ内容をまとめる
5	武道（剣道）	剣道について調べ内容をまとめる	剣道について調べ内容をまとめる
6	武道（弓道・相撲）	弓道・相撲について	弓道・相撲について調べ内容をまとめる
7	武道（空手・合気道）	空手・合気道について	空手・合気道について調べ内容をまとめる
8	武士道から見る日本人の道徳心①	武士道とは何か	著者・著作にいたる背景を調べまとめる
9	武士道から見る日本人の道徳心②	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる
10	武士道から見る日本人の道徳心③	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる
11	武道と修行	武道における修行について	修行とは何かを調べまとめる
12	武道の国際化	武道の国際化について	武道がどのように世界に普及したか調べまとめる
13	武道の身体技法①	武道特有の身体技法について	武道の身体技法とは何か調べまとめる
14	武道の身体技法②	実際の身体技法を行う（総合体育館）	武道の身体技法とは何か調べまとめる
15	武道論総括（テスト）	１４回まで行った授業の内容に関してテストを行う	これまでの授業の復習

関連科目

スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ
生涯スポーツ実習
健康論
保健論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	今、なぜ武道か	中村　民雄	日本武道館
2	武道を知る	田中　守／藤堂　良明／東　憲一／村田　直樹	不昧堂
3			

評価方法（基準）	出席率 75%以上のものを試験資格者とする。遅刻は 2 回で 1 回の欠席と同等とみなす。（遅刻は授業開始から 30 分以内に入室したことをいう） 武道論総括(15 回目)におけるテストを 100%の割合で評価を行う。（ただし、上記の出席率を満たした者のみを評価対象者とする。）
学生へのメッセージ	質問等がある場合には、横山講師室に来てください。
担当者の研究室等	総合体育館１F 横山講師室
備考	

科目名	文学	科目名（英文）	Literature
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾　佳津子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「最近余り本を読んでいないなぁ」と思っているあなた、でも、本当に読むことがずっとキライでしたか？　若い人たちの活字離れがあれこれ取り沙汰されている昨今ですが、視覚や聴覚に訴える作品とは異なり、文字を通じてしか伝えられない様々な表現や思いがあることを、ぜひ感じてほしいと願っています。現代の流行作品はきっとあなたが一人でも楽しむでしょうから、私はあなたが一人では決して開くことのないような扉を開いて、作品世界を提示しようと思っています。この講座では、俳句・和歌・短歌・詩・歌詞などの韻文作品を中心に扱います。文字作品の新たな魅力を一つでも発見して、あなた自身の言語生活の豊かな糧として下さい。
到達目標	表面的読解にとどまらず、作者の表現内容を読み解くこと。そしてそれを基にして考え、感じること。さらにその考えや思いを文章化すること。読んで「面白かった」で終わるのではなくその思いを言語化することを目標とします。
授業方法と留意点	３～４講ごとにテーマを絞り、プリント形式で授業を進めます。授業中に随時課題を提示しますので、それらに取り組むことで積極的な授業参加をあなたに要求します。
科目学習の効果（資格）	「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、表現やことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果でしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	短詩型文学の広がりを概観する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
2	短詩型文学（1）	散文文学との違いを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
3	短詩型文学（2）	歴史的な流れを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
4	現代詩（1）	表現の特徴を考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
5	現代詩（2）	「歌詞」を素材として考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
6	童謡（1）	子供のころに聞き覚えた歌詞を振り返る。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
7	童謡（2）	文学作品として歌詞を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
8	短歌（1）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
9	短歌（2）	創作の過程を追体験する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
10	短歌（3）	現代の作品と古典作品の感性の差を比較する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
11	俳句（1）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
12	俳句（2）	象徴表現の広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
13	俳句（3）	「俳句」から「ハイク」への広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
14	韻文の翻訳（1）	翻訳を通じて伝わるものと伝わらないものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
15	韻文の翻訳（2）	「現代口語表現訳」から見えてくるものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。

関連科目	こういった方面に興味のある人は、他に「日本語読解」「日本語表現」「などを学ぶことで、より理解を深めることができるでしょう。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	◇講義中に作成する小レポートが出席確認を兼ねます。近年散見する代筆提出については、代筆者・被代筆者共、成績処理時に大幅減点します。 ◇最終成績は、定期試験の結果７割と小レポートの回答状況３割とを合わせて判断します。 ◇私語・飲食・頻繁な離席・他授業の課題作成・居眠りなど、受講態度の著しく悪い学生には退室を指示して当日の出席は無効とし、さらに状況に応じてマイナス評価を下します。また、回収した小レポートの回答状況が著しく悪い場合も、当日の出席は無効とします。 ◇原則として出席が半分以下の場合は、成績評価を行いません。
学生へのメッセージ	遠いところに自分と同じ考えの人を発見する喜び。近いところに自分の思いも寄らないような発想の人に出会う楽しみ。・・・文学に触れる意味は、この二点に尽きるのではないかと、私は思っています。どうかあなたが「よい出会い」を経験できますように。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	

科目名	文学Ⅰ	科目名（英文）	Literature Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾　佳津子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「最近余り本を読んでいないなぁ」と思っているあなた、でも、本当に読むことがずっとキライでしたか？　若い人たちの活字離れがあれこれ取り沙汰されている昨今ですが、視覚や聴覚に訴える作品とは異なり、文字を通じてしか伝えられない様々な表現や思いがあることを、ぜひ感じてほしいと願っています。現代の流行作品はきっとあなたが一人でも楽しむでしょうから、私はあなたが一人では決して開くことのないような扉を開いて、作品世界を提示しようと思っています。この講座では、俳句・和歌・短歌・詩・歌詞などの韻文作品を中心に扱います。文字作品の新たな魅力を一つでも発見して、あなた自身の言語生活の豊かな糧として下さい。
到達目標	表面的読解にとどまらず、作者の表現内容を読み解くこと。そしてそれを基にして考え、感じること。さらにその考えや思いを文章化すること。読んで「面白かった」で終わるのではなくその思いを言語化することを目標とします。
授業方法と留意点	３～４講ごとにテーマを絞り、プリント形式で授業を進めます。授業中に随時課題を提示しますので、それらに取り組むことで積極的な授業参加をあなたに要求します。
科目学習の効果（資格）	「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、表現やことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果でしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	短詩型文学の広がりを概観する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
2	短詩型文学（1）	散文文学との違いを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
3	短詩型文学（2）	歴史的な流れを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
4	現代詩（1）	表現の特徴を考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
5	現代詩（2）	「歌詞」を素材として考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
6	童謡（1）	子供のころに聞き覚えた歌詞を振り返る。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
7	童謡（2）	文学作品として歌詞を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
8	短歌（1）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
9	短歌（2）	創作の過程を追体験する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
10	短歌（3）	現代の作品と古典作品の感性の差を比較する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
11	俳句（1）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
12	俳句（2）	象徴表現の広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
13	俳句（3）	「俳句」から「ハイク」への広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
14	韻文の翻訳（1）	翻訳を通じて伝わるものと伝わらないものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
15	韻文の翻訳（2）	「現代口語表現訳」から見えてくるものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。

関連科目	こういった方面に興味のある人は、他に「日本語読解」「日本語表現」「などを学ぶことで、より理解を深めることができるでしょう。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	◇講義中に作成する小レポートが出席確認を兼ねます。近年散見する代筆提出については、代筆者・被代筆者共、成績処理時に大幅減点します。 ◇最終成績は、定期試験の結果７割と小レポートの回答状況３割とを合わせて判断します。 ◇私語・飲食・頻繁な離席・他授業の課題作成・居眠りなど、受講態度の著しく悪い学生には退室を指示して当日の出席は無効とし、さらに状況に応じてマイナス評価を下します。また、回収した小レポートの回答状況が著しく悪い場合も、当日の出席は無効とします。 ◇原則として出席が半分以下の場合は、成績評価を行いません。
学生へのメッセージ	遠いところに自分と同じ考えの人を発見する喜び。近いところに自分の思いも寄らないような発想の人に出会う楽しみ。・・・文学に触れる意味は、この二点に尽きるのではないかと、私は思っています。どうかあなたが「よい出会い」を経験できますように。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	

科目名	マーケティングと歴史	科目名（英文）	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居　奈緒子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。 学科の学習・教育目標との対応：[II]
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式を基本としますが、実態分析にも力を入れます。
科目学習の効果（資格）	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
6	マーケティングのＳＴＰアプローチ	市場細分化について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
10	越後屋の仕入機構（１）	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
11	越後屋の仕入機構（２）	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。

関連科目：マーケティング論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の研究室等	武居教授室
備考	

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名（英文）	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようにする。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよいと考える。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果（資格）	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。１件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト１を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
5	街頭犯罪――ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
7	性犯罪――街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
9	ストーカー、DV（配偶者からの暴力）	ストーカーや DV は、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
10	詐欺――高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
11	サイバー犯罪――子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでの ID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識

		売の実態、取締の方法を紹介する。	を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。

関連科目

法学部「刑事政策」「経済刑法」「少年法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験 60%、講義毎回の確認ペーパー30%、受講態度（投げかける質問に対する発言など）10%で総合的に評価する。

学生へのメッセージ

勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。

担当者の研究室等

11 号館 9 階 中沼研究室

備考

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥野　竜平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生（大学３年）を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)環境問題/意識についての体験をする。(4)企業における品質問題を体験する。(5)原価管理の基礎知識を修得する。(6)PDCA サイクルによる課題解決を体験する。 学科の学習・教育到達目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
授業方法と留意点	パナソニック（株）より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック（株）の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁です。なお、1～5 回目までは 120 分授業とする。
科目学習の効果（資格）	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	企業・製造業・仕事の基本とは① 4 月 9 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得、および 5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事に基本①の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
2	企業・製造業・仕事の基本とは② 4 月 16 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得、および 5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
3	企業・製造業・仕事の基本とは③ 4 月 23 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得、および 5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本②～③の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
4	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5 月 7 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得、および 5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
5	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5 月 14 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得、および 5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本④～⑤の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
6	品質教育① 5 月 21 日（木）	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からＱＣ7 つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する（座学と実習）	-----
7	品質教育② 5 月 28 日（木）	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からＱＣ7 つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する（座学と実習）	-----
8	品質教育③ 6 月 4 日（木）	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からＱＣ7 つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する（座学と実習）	品質教育①～③の講義終了後、レポートを提出する（書式は別途）
9	原価・コスト教育① 6 月 11 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
10	原価・コスト教育② 6 月 18 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
11	原価・コスト教育③ 6 月 25 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①～③の講義終了後、レポートを提出する（書式は別途）
12	課題解決教育① 7 月 2 日（木）	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
13	課題解決教育② 7 月 9 日（木）	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
14	課題解決教育③ 7 月 16 日（木）	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①～③の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途） また、14 回目までの講義を総括して、最終回での質問事項を考えておくこと
15	全体討議・質疑応答 7 月 23 日（木）	14 回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目	『ものづくりインターンシップ実践』または『ものづくり海外インターンシップ』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	課題レポート（6 回）と受講レポート 50%、授業姿勢（積極性）20%、全体討議（プレゼンテーション）10%、期末試験 20%とした総合評価を行う。
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック（株）と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」または「ものづくり海外インターンシップ」を同時に受講することが前提です。
担当者の 研究室等	1 号館 4 階　奥野教授室
備考	毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回 1 時間程度。　レポート各回 3 時間程度，プレゼン準備と期末試験のための学習 20 時間程度。 ものづくり海外インターンシップ履修予定者については別途定める授業計画に沿って進める場合がある。 【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、山下秀行、福田祥一、高岡清

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川野　常夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本科目は，夏期の「ものづくり海外インターンシップ（川野ほか担当）」で，実際に海外に渡航し，海外で実習を受けるために必要な英語力やマナーなどを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では，将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ，海外事情や企業のグローバル化の実態を学ぶほか，英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も，文系・理系も問わない。また男女も問わない。本講義は，夏期の「ものづくり海外インターンシップ（川野ほか担当）」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため，希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。
科目学習の効果（資格）	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEIC や英検などを受験する契機となる。また，社会人としてのマナーが身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス，海外渡航手続き概要	パスポート，チケット予約（航空機，ホテル），保険，海外渡航準備	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
2	海外事情，日系企業のグローバル化	海外の文化，経済，グローバル化事情	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
3	研修先　事前調査	文化，歴史，経済事情，企業・大学	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
4	社会人基礎力	社会人として必要な基礎力	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
5	英語コミュニケーション実習１	海外渡航，海外生活	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
6	英語コミュニケーション実習２	自己紹介，大学紹介，日本紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
7	英語コミュニケーション実習３	専門科目の紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
8	英語コミュニケーション実習４	海外研修を想定したグループ実習１	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
9	英語コミュニケーション実習５	海外研修を想定したグループ実習２	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
10	英語コミュニケーション実習６	海外研修を想定したグループ実習３	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
11	マナー実習１	挨拶，礼儀，服装	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
12	マナー実習２	ミーティング，質疑，懇親会	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
13	マナー実習３	感謝，気配り，機転	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
14	海外渡航，海外生活	渡航準備，入出国，習慣，食生活，健康管理	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
15	英語による成果発表?	まとめ	成果発表の準備，反省

関連科目：ものづくり海外インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本企業が欲しがる「グロ-バル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版
2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社
3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店

評価方法（基準）	課題レポート６０％，取組み姿勢２０％，成果発表２０％として評価を行う。
学生へのメッセージ	これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は，海外実習後に顕著な成長が認められるので，大いにチャレンジしてほしい。授業方法，留意点にも記載のとおり，参加学生は専門分野も，文系・理系も問わない。また男女も問わない。
担当者の研究室等	１号館４階　川野教授室 １２号館７階　白鳥准教授室 ８号館３階　加嶋教授室 １２号館７階　榊准教授室
備考	【事前事後学習】レポート作成，復習の学習時間：20 時間程度 【共同担当者】　白鳥准教授，加嶋教授，榊准教授，理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	奥野　竜平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』 の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』 で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、 更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。
到達目標	(1)生産革新・改善を体験する。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験する。(3)チームワーク・ＱＣＤ問題を体験する。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。 学科の学習・教育到達目標との対応：[II]
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック（株）人材開発カンパニーで、計７日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	直前指導 ・1 回目　ものづくりインターンシップ基礎のまとめ，インターンシップⅡの準備　7/9（木）　6 限目 ・2 回目　ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導　7/16（木）　6 限目 宿泊実習（パナソニック人材開発カンパニー） ・1～3 日目 【授業テーマ】 生産革新演習 【内容・方法等】 1 個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。（グループ演習） 【事前・事後学習課題】 演習終了後、レポートを提出のこと ・4～5 日目 【授業テーマ】 モノづくりシュミレーション演習 【内容・方法等】 四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得（設計～生産）し、目標達成のためのチームワーク・QCD 問題意識の重要性を体得する。（グループ演習） 【事前・事後学習】 演習終了後、レポートを提出のこと ・6 日目 【授業テーマ】 工場見学 【内容・方法等】 パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2 工場) 【事前・事後学習課題】 見学終了後、レポートを提出のこと ・7 日目 【授業テーマ】 研修成果報告会 【内容・方法等】 研修成果報告会の実施。（グループ単位） 【事前・事後学習課題】 グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと 実習中指導 ・8 月 29 日（土）　2～5 限目　プレゼンテーション指導 実習後指導 ・1 回目　体験報告書の添削指導 ・2 回目　研修成果報告会（2 回目）に向けたプレゼンテーション指導 ・3 回目　研修成果報告会（2 回目）に向けたプレゼンテーション指導 ・4 回目　研修成果報告会（2 回目）に向けたプレゼンテーション指導 ・5 回目　研修成果報告会（2 回目） ・6 回目　全体報告会　学生代表者の発表・質疑 ・7 回目　全体報告会　企業管理者の講演と講評
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	実習成果 40%、研修成果報告会（2 回）20%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、実習・授業態度 20%とした総合評価を行なう。

学生への メッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。
担当者の 研究室等	奥野教授室（1 号館 4 階）
備考	期間：2015 年 8 月 24 日（月）～8 月 28 日（金）、8 月 31 日（月）～9 月 1 日（火）　パナソニック（株）人材開発カンパニーでの宿泊研修です。8 月 29 日（土）には摂大でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の、朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。 【事前事後学習】 レポート作成，プレゼン準備としての学習時間：20 時間程度。 【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名（英文）	International Internship for Manyfacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	川野　常夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は,「ものづくり海外インターンシップ」と呼び，世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。業種は製造業（機械・電気系），または建設業（建築・デザイン系）とする。研修先はとりわけ東南アジアとする。?研修先によっては，海外の大学でワークショップ体験も含める。
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。
授業方法と留意点	東南アジアは，フィリピン２箇所とタイ１箇所（合計３箇所）を予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約１０日間（予定）の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も，文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため，希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお，本講義を受講する学生は，前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班，川野ほか担当)」の受講を必須とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	直前指導 　ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導，海外実習の準備など 海外実習 ・1～2 日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学（英語）研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと ・3 日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習／ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の川上である企画・設計部門，または建築・デザイン部門。(グループ演習) 【事前・事後学習】実習終了後、レポート，アイディアスケッチなどを提出のこと ・4～5 日目 【授業テーマ】製造工場見学、建築・デザイン作品見学、交流会 【内容・方法等】関連工場，施設，建築，デザイン作品の見学、現地従業員，大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート，アイディアスケッチなどを提出のこと ・6～8 日目 【授業テーマ】製造系実習，または建設系のワークショップなど 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など、または建設系の建築・デザインワークショップなど。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと ・9～10 日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位で PPT でプレゼン，または部分模型やその他手法を用いてプレゼンしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成をを提出のこと 実習後指導 ・1 回目　最終レポート（体験報告書）の添削指導 ・2 回目　成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3 回目　全体報告会　学生代表者の発表・質疑 ・4 回目　全体報告会　企業管理者の講演と講評
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「日本企業が欲しがる「グロ-バル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版
2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社
3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店

評価方法（基準）	海外現地研修 60%（実習記録簿 20%，実習・授業態度 20%，実習成果プレゼン 20%)，実習前後の学習 5%，実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会（2 回）15%として評価を行う。
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は，海外実習後に顕著な成長が認められるので，大いにチャレンジしてほしい。授業方法，留意点にも記載のとおり，参加学生は専門分野も，文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため，希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。本講義を受講する学生は，前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班，川野ほか担当)」の受講を必須とする。
担当者の研究室等	１号館４階　川野教授室 1 号館３階　伊藤教授室 １２号館７階　白鳥准教授室 ８号館３階　加嶋教授室
備考	【注意事項】研修予定期間：2015 年 8 月中旬（研修先の都合により変更する場合があります。) 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成，復習の学習時間：20 時間程度

	【共同担当者】　伊藤教授，白鳥准教授，加嶋教授、理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	役立つ金融知力	科目名（英文）	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川　富盛
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となるためには、先ずは市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、様々なリスクや不確実性に果敢に立ち向かっていく必要があります。経済や法律そして金融に関する正しい知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単にお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせないのです。 本講義の目的は、人生のさまざまな局面で的確に決断し行動できるよう、金融知識を活用する実戦的な金融インテリジェンスの基本を身に着けることです。
到達目標	実戦的な金融インテリジェンスの基本を身に着け、経済生活やビジネスライフにおいて適宜的確に行動できるようになることを目指します。
授業方法と留意点	教科書を使用した講義形式の授業により、次の三つのステップで進めます。 ①　先ずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。 ②　次に、金融の基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実戦的に学んでいきます。 ③　更に、それらを統合的に活用する能力（＝金融インテリジェンス）を、社会生活に応用する方法を学びます。
科目学習の効果（資格）	経済生活やビジネスライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、金融知識を活用する実戦的な金融インテリジェンスの基本を身に着けます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「金融知力の必要性 」	テキスト＜P4～15＞ ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト＜P38～49＞ ・国際経済 ・国家の財政
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト＜P16～29＞ ・金融の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト＜P147～149・152～159＞ ・契約社会 Ⅰ ・ローン・クレジット ・契約社会 Ⅱ
5	リスクと向き合う ①	「リスクマネジメント」	テキスト＜P74～81・150～152・159～161＞ ・リスクマネジメント ・契約社会 Ⅲ
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト＜P82～91＞ ・年金制度 ・老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト＜P92～98＞ ・投資とは ・投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト＜P30～37・50～53＞ 景気 景気と株価
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品（株式等）」	テキスト＜P118～129＞ ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品 ・デリバティブ
10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品（債券他）」	テキスト＜P111～118＞ ・預貯金 ・信託 ・債券
11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト＜P99～111＞ ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
12	投資のリスク管理	「資産分散と時間分散」	テキスト＜P130～146＞ ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト＜P54～63＞ ・ライフプランニング
14	ライフプランニング ②	「ライフイベントごとの課題」	テキスト＜P64～73＞ ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題
15	最終まとめ 試験　及び　レポート提出	「講義のまとめ」 課題レポート提出 試験	全体まとめ 講義で得た金融インテリジェンスの確認と応用

関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎』		金融知力普及協会

		ISBN：978-4-907341-00-8　（必須。授業では毎回この教科書を使用しますので、必ず購入してください。）		
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

下記のとおり、本科目への取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。
・試験　　：　20%（知識の正確性）
・レポート　：　50%（自分で考え、問題解決する能力）
・平常点　　：　30%（受講状況、質疑応答、課題・討議など）

学生へのメッセージ

本講義でより高い成果を得るためには、下記の二点が非常に重要なポイントです。

①　受講内容の復習を行い、身近な経済・時事問題などに疑問を持って考えること。
②　最終回までに表計算ソフト「エクセル」（講義では教えません）で簡易な表を作成し、内容を精査すること。

担当者の研究室等

11 号館 1 階（教務課）

備考

・この授業は、ＳＭＢＣ日興証券グループによる「寄附講座」です。

・「事前・事後学習課題」について
予習（シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む）：３０分程度
復習（講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する）：３０分程度
当然の前提として、単位取得するには全講義を静かに聴講すること。

科目名	歴史学概論	科目名（英文）	A Survey of History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐伯　智広
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	目的：近代日本の成立についての歴史的な基礎知識を身に付け、その特質を理解する。 概要：私たちは、日本という「国」に暮らしていることを、当たり前のこと・自然なことだと思っています。 ですが、もしもそれが「自然ではないこと」だと言われたら…ちょっと「えっ？」と思いませんか？ 現在の私たちが暮らす「国」とは何なのか。それが誰によって、何のために、どのように作られたのか。この講義では、そうした国の成り立ちの歴史について学びます。それは、単なる歴史ではなく、現代社会について理解することにつながるでしょう。
到達目標	１．現代の日本がどのような歴史的経緯を経て成立したかを理解する。 ２．歴史的経緯が現代の日本に及ぼしている影響を理解する。 ３．上記の点について説明可能な能力を身に着ける。
授業方法と留意点	板書講義形式です。プリントを利用します。教科書はありません。参考書は講義内で適宜示します。
科目学習の効果（資格）	近代日本という国の起源・変遷・特色についての、歴史的な基礎知識と、それを説明する能力を身につけることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション　「国」とは何か	私たちが現在暮らす「国」とは何なのかについて説明します。	なし
2	開国	幕末の開国について、江戸時代の鎖国と比較して考えます。	予習として、「開国」という語について辞書的な意味を調べる。
3	廃藩置県	廃藩置県について、江戸時代の幕藩体制と比較して考えます。	予習として、「廃藩置県」という語について辞書的な意味を調べる。
4	徴兵令	徴兵令について、江戸時代の武士と比較して考えます。	予習として、「徴兵令」という語について辞書的な意味を調べる。
5	文明開化	文明開化について、江戸時代の蘭学・国学と比較して考えます。	予習として、「文明開化」という語について辞書的な意味を調べる。
6	自由民権運動	自由民権運動について、現代の政治制度と比較して考えます。	予習として、「自由民権運動」という語について辞書的な意味を調べる。
7	大日本帝国憲法	大日本帝国憲法について、日本国憲法と比較して考えます。	予習として、「大日本帝国憲法」という語について辞書的な意味を調べる。
8	条約改正	不平等条約の改正について考えます。	予習として、「条約改正」という語について辞書的な意味を調べる。
9	日清戦争・日露戦争	日清戦争・日露戦争について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「日清戦争」「日露戦争」という語について辞書的な意味を調べる。
10	第一次世界大戦	第一次世界大戦について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「第一次世界大戦」という語について辞書的な意味を調べる。
11	ワシントン体制	ワシントン体制について、現代の戦争問題と比較して考えます。	予習として、「ワシントン体制」という語について辞書的な意味を調べる。
12	大正デモクラシー	大正デモクラシーについて、現代の政治制度と比較して考えます。	予習として、「大正デモクラシー」という語について辞書的な意味を調べる。
13	世界恐慌	世界恐慌について、現代の経済問題と比較して考えます。	予習として、「世界恐慌」という語について辞書的な意味を調べる。
14	第二次世界大戦	第二次世界大戦について、前後の時代の戦争と比較して考えます。	予習として、「第二次世界大戦」という語について辞書的な意味を調べる。
15	そして現代へ	第二次世界大戦後の日本について、現代と比較して考えます。	予習として、「日本国憲法」という語について辞書的な意味を調べる。

関連科目：ありません。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	予習シート３０％、定期試験７０％
学生へのメッセージ	教科書で勉強する高校の日本史とは違って、大学での講義はきゅうくつな枠組みはありません。過去の歴史が現代日本に与えている影響について学びながら、現代の私達にとって歴史が持つ意味についても、自由に考えていきましょう！ また、最新の学説なども紹介していくので、研究の最先端で教科書が書き換わっていく面白さも知ってもらいたいと考えています。
担当者の研究室等	７号館２階非常勤講師室
備考	

キャリア形成科目

科目名	インターンシップⅠ	科目名（英文）	Internship Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に　1）仕事の社会における役割　2）仕事の成果とは　　3）仕事の責任と充実感　を直接肌で感じることである。 事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。
到達目標	インターンシップへ意欲的に自信を持って参加できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。 インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	インターンシップとは何かについて考えること。
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	ビジネスとは何かを考えること。
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	インターン受入企業等の組織のリストに目を通しておくこと。
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	プレゼンテーションができるように準備すること。
5	課題のプレゼンテーション①	・第４回目の課題をプレゼンテーションする	第４回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること。
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	マナーがなぜ大切なのかを考えること。
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること。
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	マナーの大切さを再度考えること。
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	履歴書を書く準備をしておくこと。
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	グループ内の自分の役割を考えること。
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	グループの最大の力を出すために、自分に何ができるかを考え、プレゼンテーションの準備をして下さい。
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること。
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること。

関連科目：この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発表（40%）、レポート等の提出物（30%）、授業態度（30%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	インターンシップの流れは以下のとおりである。 ※４月下旬にリスト公開→５月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→５月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→６月末頃に事前訪問→８月上旬からインターンシップ開始（予定） インターン先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。
担当者の研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）、７号館３階　キャリア教育推進室（富岡）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。

科目名	インターンシップⅡ	科目名（英文）	Internship II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性を広げること、職業観の涵養に努めることを目標とする。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。
科目学習の効果（資格）	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	直前学修① ６月２０日(土)　３限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認	社会人を意識したスーツ着用のこと。身だしなみを自分なりに整えてくること。
2	直前学修② ６月２０日(土)　４限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー・身だしなみの最終確認	マナーについて考えること。
3	直前学修③ ６月２７日(土)　３限目(予定)	・プレゼンテーション①	他者に何かを伝える際に気を付けることを考えること。
4	直前学修④ ６月２７日(土)　４限目(予定)	・プレゼンテーション②	インターンシップで何を学びたいのかを考えること。
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	実習中は毎日日誌をつけること。
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に 10 日間以上（原則）	事前に立てた目標を意識して参加すること。
7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 （担当教員への提出と教務課へ電子データを提出）	事前学修の通りに報告書を作成する。提出前に必ず推敲を行うこと。 提出期限を厳守すること。
8	事後学修① ９月２６日(土)　３限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
9	事後学修② ９月２６日(土)　４限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
10	事後学修③ １０月１７日（土）　３限目（予定）	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
11	事後学修④ １０月１７日（土）　４限目（予定）	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
12	事後学修⑤ １０月２４日（土）　３限目（予定）	・インターンシップを振り返る （実習記録簿の提出）	実習記録簿を見直してくること。
13	事後学修⑥ １０月２４日（土）　４限目（予定）	・インターンシップを振り返る	実習記録簿を見直してくること。
14	事後学修⑦ １１月１４日（土）　１限目（予定）	・全体報告会 ・学生代表者の発表	学生代表者はパワーポイントで１０分で報告ができるように準備すること。
15	事後学修⑧ １１月１４日（土）　２限目（予定）	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ（予定）	全員スーツ着用

関連科目	インターンシップⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	企業による報告書（20%）、体験報告書など提出物（40%）、発表を含む授業態度（40%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 「インターンシップⅠ」の履修には、２月のガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。

	履修希望者が多い場合は、選考することもある。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）、７号館３階　キャリア教育推進室（富岡）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。

科目名	エンプロイメントデザインⅠ	科目名（英文）	Employment Design Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵.富岡　直美.水野　武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	大学での学生生活の過ごし方、学修に対する姿勢、大学を卒業するにあたってどのような進路を選択し、またどのような職業へと導かれたかの３つのテーマに沿って本学の教職員から多様な生き方を聴く。大教室での多くの学生と共に話を聴くという態度を養い、４年間の学生生活をプランニングし、自分の意見を持つことを主な目的とする。
到達目標	講師の意見を聴き、自身のキャリア（職業生活）を通したライフプランニング（人生設計）を必ず描いてみること、またそのための試行錯誤することを学ぶことが目標である。
授業方法と留意点	人生の先輩方のお話を真摯な態度で聴く姿勢をもつことを心がける。また、話を聴くことが主となり、内容に関して調べ、まとめることを課題とするため、メモを取る習慣を身に付ける。
科目学習の効果（資格）	大学生活の過ごし方や将来への目標の設定の仕方から、職業人として働くことや人・社会とかかわることについて考える契機となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義を振り返る
2	学生生活① 未来の自分に何を渡すか！ ～大学生活を充実させる方法～（担当：教務課 係長 古屋豊吾）	大学生活で熱中できるものをみつけ、粘り強く取り組めば、働くことも怖くない！　みなさんと同じ摂大生としてラグビー部で身に付けた力を社会で活かせた経験をもとにお話しします。	・講義を振り返る
3	学生生活② 成功曲線を描くために！ ～諦めないコツ教えます～ （担当：入試部　田中恵三　）	学生時代の経験を活かして、いかに自分自身の力を養 えるか。目標達成へのプロセスとそれが将来の自分にどのように繋がるか。自身の経験と現在を合わせて伝えます。	・講義を振り返る
4	学生生活③ 講義の中間まとめ（担当：キャリア教育推進室講師　富岡直美）	・第２回、３回までの講義のまとめ ・レポートの書き方	・講義を振り返る
5	学修① 大学生活における学習への動機づけ（担当:経営学部 准教授 牧野幸志）	大学での学習における様々な動機づけについて考える 機会を提供する。大学の勉強とは？どこの席に座っている人が成績は良いのか？やる気はあるのか？など。また、どのように学習が大学では効率的かを心理学的に解説する。	・講義を振り返る ・第１回「学生生活」に関するレポート締切
6	学修② チャンスだらけの摂南大学-学生時代に飛躍する方法- （担当：経営学部　准教授 久保貞也	（１）摂南大学をうまく活かした先輩たち（事例紹介） （２）チャンスを失う典型的な学生（注意喚起） （３）摂大でチャンスを得る方法	・講義を振り返る
7	学修③ 基礎科学における大学院進学と研究職への道（担当：理工学部　講師　東武大）	本講義では基礎科学分野での大学院での研究の在り方、 及びポストドクター問題等研究職に就くまでの様々な現実について解説します。	・講義を振り返る
8	学修④ 講義の中間まとめ（担当　キャリア教育推進室　教授 石井三恵）	・第５回から７回までの講義のまとめ ・第１回「学生生活」レポートからの反省と第２回レポートに向けて	・講義を振り返る
9	キャリアパス① 法律とスポーツと将来の職 （担当:法学部　准教授　石井信輝）	法とスポーツとの関係性は見出しにくいが、様々な関係性を 有する。したがって、その関係性を解説しながら、担当者が研究に取り組むに至った経緯や大学における学習に向かう心構え等について講義する。	・講義を振り返る ・第２回「学修」に関するレポート締切
10	キャリアパス② グローバル人材ってどんな人？留学したらグローバル人材？英語ができたらグローバル人材？（国際交流センター　長谷川来夢）	グローバルに活躍する人が持っている能力とは何か。メキシコでの留学経験、国際交流センターでの業務を通して感じた「グローバル人材とは何か」という疑問について、みなさんと一緒に考えていきます。	・講義を振り返る
11	見えないものを見にいこう ～山登りとダイビングが教えてくれた人生で大事なこと～ （担当:就職部 部長 伊藤勝彦/キャリア教育推進室　講師 水野武）	山と海を趣味とする講師両名の経験談をもとに「人生に向き合う姿勢」や「社会人としての生き方」のヒントを探ります。	・講義を振り返る
12	キャリアパス④ 「私のキャリア」　キャリアアップを考える（担当：経済学部 教授　持永政人）	30 年間の民間企業でのキャリアアップ経験を披露することに よってキャリアアップとは何かを考えてもらう。パワーポイントによる講義形	・講義を振り返る

		式で行います。	
13	キャリアパス⑤ 自分の履歴を残す（担当：キャリア教育推進室　水野武）	自分の取り組んでいる事柄と結果に関してしっかりと『履歴を残す』ことの大事さを学ぶ。	・講義を振り返る
14	キャリアパス⑥ 私（藤林）の失敗談と、健康保持促進の秘訣　（担当：スポーツ振興センター保健体育教室　講師　藤林真美）	前半は、担当教員のこれまでの人生における数々の失敗のお話しをします。何かを　学んでください。キャリアパスの基本条件はまず、心身共に健康であること！ 授業後半では、健康を保持増進するための秘訣をお話します。	・講義を振り返る
15	講義のまとめ（担当：キャリア教育推進室　講師　水野武）	・キャリアパスを中心としたエンプロイメントデザインⅠの振り返り ・まとめのワークシート ・まとめのレポート書き方指導	・講義を振り返る ・講義のまとめのレポート

関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回のミニッツペーパー（30%）、レポート３回（60%）、まとめワークシート（10%）を総合的に判断する。
学生への メッセージ	学生生活４年間を以下に有意義に過ごすかをプランニングし、社会人・職業人としてのライフスタイルを考えるために、人生の先輩のお話を真摯な態度で聴いてほしい。また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切にし、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。
担当者の 研究室等	７号館５階（石井） ７号館３階（富岡・水野）
備考	教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名（英文）	Employment Design II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵.富岡　直美.水野　武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	外部講師（本学卒業生を含む）をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 また、さまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養を目的とする。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となり、社会人としての真摯な態度での話の聴き方やメモを取り、積極的に質問をする習慣を身に付ける。
科目学習の効果（資格）	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション（キャリア教育推進室）	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点（特に聴く態度）について	・講義の感想を提出
2	今から養う社会人に必要な「考える＝生み出す力」（摂南 OB/小売・アパレル）	社会人 4 年目現在で直面した体験談を基に「考える＝生み出す力」の必要性を具体例と共に皆様と共有します。	・講義の感想を提出
3	警察官の仕事-なくてはならない正義を守る仕事（警察官）	警察官の仕事を体験談や映像を交えて説明します。	・講義の感想を提出
4	スタープログラマーになれなかった男が NPO 法人を設立するまで（摂大 OB/NPO 法人代表）	理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリアアップをお話します。	・講義の感想を提出
5	衣料業界の概要と繊維専門商社について。ビジネスとは何か？（商社　営業）	1. ファッション業界・繊維商社業界概要 2. ビジネス感覚を養うために必要なことって何だろう？ 3. さて、新しい可能性を考えよう！ 4. その時、何を考え行動するか？（まとめ）	・講義の感想を提出
6	企業人の私が経験した摂大ＯＢとしての歩み方（摂南大学 OB・メーカー／営業管理職）	キャリアデザインへのアプローチ方法の観点から、先輩、同期、後輩のユニークなキャリアを紹介しつつ、在学中に人とのつながりを多く持ち、卒業後も自信を持って摂南大学卒ＯＢといえる人物であってほしい願いを込めてお話しします。	・講義の感想を提出
7	転職 5 回で鍛えられたつなげる力：正解の無い時代だからやってこれた（広告企画・制作/経営者）	納得解を導く要素（ディベート力・プレゼン力・コミュニケーション力）を意識して働いてきた経験から身に付けた「つなげる力」について解説します。また広告制作の仕事を紹介します。	・講義の感想を提出
8	新卒での就職活動で全てが決まる！？（摂南大学 OG・旅行代理店/カウンター業務）	・講義の中間まとめ ・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを実体験を交えてお話しします。	・講義の感想を提出 ・中間レポート
9	「ビジネス創造に必要な力」を実例から学ぶ（IT/役員）	現役のビジネスパーソンが日々実践している「ビジネスに必要な力」を事例を通じて解説します。	・中間レポートを提出 ・講義の感想を提出
10	「先人（企業家）に学ぶ　～仕事への心構え」（商工会議所 /管理職）	企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話します	・講義の感想を提出
11	高校教師の仕事（摂大 OB/高校教員）	高校の教師の仕事についてお話します。	・講義の感想を提出
12	「仕事のやりがい、生きがいを見出すために（民間企業と国家公務員の仕事を経験して）」（摂南大学 OB・公務員）	摂南大学（薬）一期卒業生として民間企業と国家公務員で 26 年間勤務してきた経験を通して、仕事のやりがい、生きがいをどのように見出していけば良いのかをお話します。	・講義の感想を提出
13	成りあがり（摂南大学 OB・経営者）	摂南大学卒業後新卒で入社し、平社員が社長に成るまでの道のりを、経験談をもとにお話しします。	・講義の感想を提出
14	今求められる公務員像（摂南大学ＯＢ／市役所職員）	安定・厚遇という言葉だけが独り歩きする職業としての公務員。経験談を通して、公務員になりたい自分を再度見つめ直していただきます。	・講義の感想を提出
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ	・最終レポートを提出

			・まとめのワークシート	

関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の感想（30%）、レポート２回（60%）、まとめワークシート（10%）を総合的に判断する。
学生へのメッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。
担当者の研究室等	教務部　キャリア教育推進室（7 号館 5 階/石井、7 号館 3 階/富岡・水野）
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名（英文）	Career Planning Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	社会に出て活躍するために大学時代に何をなすべきなのか、早い段階で目的意識を持ち、残りのキャンパスライフを有意義に送り、将来を見据えるための授業である。
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなく、個人でのワークならびにグループワークを課すので、積極的な態度で受講し、参加することが求められる。
科目学習の効果（資格）	自分を見つめなおす契機となり、次の一歩を踏み出す必要性を理解できるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション －キャリアデザインとはなにか	・受講のルール確認 ・キャリアデザインが何故必要なのかを再考	受講にあたっての心構えを 200 字で書いてくること。
2	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解し、企業等のビジネス組織において意味するものの考察	キャリアデザインⅠのテキスト P11～P17 を熟読してくること。
3	社会人基礎力	・社会人基礎力とは何かを再考 ・自分のこれまでの言動の振り返り	キャリアデザインⅠのテキスト P71～P91 を熟読してくること。
4	私たちの生きる社会とその仕組み①	・進路についてのイメージづくり ・GDP から見る社会の仕組み	キャリアデザインⅠのテキスト P19～P26 を熟読してくること。
5	私たちの生きる社会とその仕組み②－歴史編	・経済的復興 ・災害からの復興	参加と参画の相違を事例を挙げて 1000 字でまとめてくること。
6	私たちの生きる社会とその仕組み③－社会の課題編	・税の種類と役割 ・医療福祉	キャリアデザインⅠのテキスト P27～P37 を熟読してくること。
7	会社の仕組みと社会で活躍する OB・OG グループ	・２０代の内に身につけたい力を知る ・未来予想図を描く・業種/職種を知る ・進路の多様性　（進学（院・専門学校）、資格、公務員、企業、海外等）を知る	卒業後の進路について考える。 キャリアデザインⅠのテキスト P27～P37 を熟読してくること。
8	お金と社会	・正社員とフリーターの相違	キャリアデザインⅠのテキスト P53～P57 を熟読してくること。
9	自己分析から自分づくりへ①	・自分の関心事柄を知る ・性格、適性、能力を考える ・自分の大事にしているモノ（価値観）を整理する課題の設定	自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聞いておく。 キャリアデザインⅠのテキスト P59～P69 を熟読してくること。
10	自己分析から自分づくりへ②	・キャリア理論を知り、自分の関心事、性格、適性や能力の喚起へと繋げる	キャリアデザインⅠのテキスト P59～P69 を再読してくること。
11	スケジューリング	・未来予想図 ・ワークライフバランス	キャリアデザインⅠのテキスト P71～P79 を熟読してくること。
12	グループワーク	・与えられた課題をグループで取り組む ・チームの中で「自分はどんな役割を果たしたいか」を考える ・PDCA サイクルを身につける ・問題解決の思考法からグループワークに取り組む	グループ内のプランをまとめておく。
13	プレゼンテーション基礎	・プレゼンテーションの基礎を学ぶ	プレゼンテーションの準備を行うこと。
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	良かった点、改善点等の意見を持つこと。
15	まとめ		夏休み以降の大学生活の目標を考える。

関連科目

キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ・Ⅱ
エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャリアデザインⅠ	摂南大学就業力向上運営委員会	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャリアデザインⅠ	摂南大学就業力向上運営委員会	
2			
3			

評価方法（基準）	個人ワークやグループワーク等（50%）、複数回のレポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	まずは、積極的に参加すること。
担当者の研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	教科書・・・『キャリアデザインⅠ』を１年次に配布されていない学生は、授業最初の日に申し出ること。 参考書・・・必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 受講の状況において、グループワークから個人ワークへ切り替えることもある。

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名（英文）	Career Planning Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水野　武.津村　英二.富岡　直美.橋本　朗子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	１）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３）専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること。
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	大学で学ぶ意味について考えること。
3	摂大学①	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・学生生活において“目標とするもの”を考える	キャリアデザインⅠのテキスト P11～P17 を熟読すること。
4	摂大学②	・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること。
5	グループ課題の設定	・グループワーク（インタビュープロジェクト）の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	チームの中で「自分はどんな役割を果たしたいか」を考えること。
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	社会で求められる人材について考えること。
7	社会の仕組み	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	キャリアデザインⅠのテキスト P27～P37 を熟読すること。
8	自分づくり①	・自分の良いところを１００挙げる ・ペアワーク	自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと。 キャリアデザインⅠのテキスト P59～P69 を熟読すること。
9	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	キャリアデザインⅠのテキスト P59～P69 を熟読すること。
10	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	キャリアデザインⅠのテキスト P79～P88 を熟読する事。
11	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	他者に紹介したい本を選んでおくこと。
12	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること。
13	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
14	グループ活動の振り返り	・グループ活動を振り返り、コミュニケーション、ホスピタリティ、マナーについて考える	グループ活動の経緯を振り返ること。
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	夏休み以降の大学生活の目標を考えること

関連科目

キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップⅠ 、インターンシップⅡ
エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャリアデザインⅠ	摂南大学就業力向上運営委員会	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	７号館３階　キャリア教育推進室（富岡・水野）
備考	参考書・・必要に応じて授業内でレジュメを配布する

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名（英文）	Career Planning II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵.富岡　直美.橋本　朗子.水野　武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考える。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことを等を考えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	大学生活１年目で経験したことを思い出しておくこと。
2	就活体験①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	キャリアデザインⅡのテキスト P33～P４１を熟読すること。
3	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための提案から自分を振り返る	キャリアデザインⅡのテキスト P42～P44 を熟読すること。
4	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むかを考える。
5	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	講義の内容を日常生活で実践してみる。
6	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	キャリアデザインⅡテキストの Ｐ９～Ｐ１７を熟読すること。
7	社会を知る②	・講義４と講義５の実践報告 ・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議	グループで討議する準備をする。
8	社会を知る③	・ライフイベントを考える ・他者受容力を磨く ・ライフイベントにかかる費用を考える	キャリアデザインⅡのテキスト P45～P55 を熟読すること。
9	社会を知る④	・講義７の課題プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする。
10	社会を知る⑤	・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解 ・付加価値について考える	キャリアデザインⅡのテキスト P59～P79 を熟読すること。
11	社会を知る⑥	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・会社・業種・職種の発見の仕方を学ぶ	キャリアデザインⅡのテキスト P59～P79 を熟読すること。
12	社会を知る⑦	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	キャリアデザインⅡのテキスト P55 を熟読すること。
13	社会を知る⑧	・グループプレゼンテーション	グループにおける役割を考える。
14	社会を知る⑨	・グループプレゼンテーション	ここまでの講義を振り返る。
15	授業のおさらい	講義のおさらいと期末レポートの振り返り	自分の学生生活と就職活動への思いを宣言する。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	キャリアデザインⅡ	摂南大学キャリア教育推進委員会	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	

科目名	キャリアデザインⅢ	科目名（英文）	Career Planning III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	石井　三恵.安久　典宏.富岡　直美.水野　武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本講義は、就職部主催の「就職ガイダンス」と連携した講義になっており、就職活動に関する知識と実践技法も学ぶことができる。 学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材（人財）になるために何をすべきかを考える。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の事を他者に伝えられるようになることを目標とする。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	就職部主催の全４回の「就職ガイダンス」と連携した講義であり、全 23 回の変則的な講義になっているため、実施日に注意を払うこと。
科目学習の効果（資格）	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意思が伝えられるようになる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	４月 10 日　オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説	シラバスを熟読すること。
2	４月 24 日　自分を知る①	・現時点での自分の長所を知り、卒業後の社会への活かし方を考える	自分の長所を考えること。
3	５月８日　自分を知る②	・自己 PR の事例を基に自分の自分の長所と活かし方を見直す	自分の活かし方を考えること。
4	５月 22 日　社会を知る①	就職ガイダンス① ・卒業後の進路、　就職環境の現状 ・正社員とフリーター ・就活に向けての準備と就職部の利用	配布資料を熟読すること。
5	６月５日　社会を知る②	社会人の常識 ・身だしなみ/姿勢、挨拶/発声、お辞儀等の基本的なマナーを知る ・時事/一般常識の重要性を知る	講義で身につけたマナーを実践すること。
6	６月 12 日　社会を知る③	・ビジネス研究の着眼点を学ぶ	新聞の経済・社会面に目を通す習慣をつけること。
7	６月 19 日　社会を知る④	就職ガイダンス② ・国内の会社数、　大企業と中小企業、業種と職種 ・業界研究・企業研究のツール/ポイント	配布資料を熟読すること。
8	６月 26 日　選択肢を発見する	・一般消費者にはとっては知名度が高くないが活躍している企業があることを知る	興味のある会社を研究すること。
9	７月３日　自分を知る③	・学生生活での経験を振り返る ・自分が大事にしている事は何かを考える ・自分の特性を社会にどう活かすかを考える	自分の学生生活を振り返ること。
10	７月 10 日　自分の事を伝える①	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する ・実際に自己 PR を書いてみる	エントリーシート作成のポイントを復習すること。
11	７月 17 日　自分を知る④	・「学生時代に力を入れてきたこと」の事例を基に自分の学生生活の振り返り、夏休みを使って何にチャレンジするのかを考る ・前期の振り返り	夏休みの目標を立てること。 夏休み明けにある時事・一般常識の問題に目を通しておく計画を立て、実行に移すこと。
12	９月 18 日　後期のオリエンテーション	・後期のオリエンテーション ・夏休みの振り返り	夏休みを振り返ること。
13	９月 25 日　自分の事を伝える②	・エントリーシートや履歴書を書くために自分取材（夏休み後にどう変わったのかをチェックする） ・実際にエントリーシートの設問「学生時代に力を入れたこと」を記述する ・難問奇問、少し変わった問題も紹介	就職活動に向けての計画を立てること。
14	10 月２日　自分の事を伝える③	就職ガイダンス③ ・エントリー方法　・摂大指定の履歴書/自己紹介書の書き方	自己 PR を 400 文字程度提出することを前提に書く。
15	10 月６日　グループでのコミュニケーション①	クラスを分割してグループディスカッション① ・GD とは何か、何を見られているか等を知る	課題提出（自己 PR・学生時代に力を入れたことをそれぞれ 400 文字で書いて提出、提出先の指示あり）。
16	10 月 23 日　グループでのコミュニケーション②	クラスを分割してグループディスカッション②	次回に向けての改善案を考えること。
17	11 月６日　グループでのコミュニケーション③	クラスを分割してグループディスカッション③	集団の中でのコミュニケーションについて復習すること。
18	11 月 13 日　仕事研究と志望動機	・企業研究のポイント ・「共感と提案」を考える ・聴き手に共感される志望動機の組み立て方を学ぶ	現時点での志望企業向けの志望動機を書いてみること。 模擬面接の準備をしておくこと。
19	11 月 20 日　面接におけ	・面接における対人コミュニケーション	仕事研究レポートの提出。

	る対人コミュニケーション①	について考える	模擬面接の準備をしておくこと。
20	11 月 27 日　面接における対人コミュニケーション②	・クラスを分割して模擬面接を実施する	模擬面接の準備をしておくこと。
21	12 月 4 日　面接における対人コミュニケーション③	・クラスを分割して模擬面接を実施する	模擬面接の準備をしておくこと。
22	12 月 11 日　面接における対人コミュニケーション④	就職ガイダンス④ ・面接の種類と流れ ・面接のポイント、マナー ・学内求人システム	配布資料を熟読すること。
23	12 月 18 日　成果を上げるための行動計画	・行動計画を立案する ・学生の行動事例の紹介 ・講義の振り返り	卒業までの行動計画を立てること.
24	－	－	－
25	－	－	－
26	－	－	－
27	－	－	－
28	－	－	－
29	－	－	－
30	－	－	－

関連科目	インターンシップⅠ・Ⅱ、キャリアデザインⅠ・Ⅱ、ビジネスマナーⅠ、就職実践基礎、コミュニケーション能力開発
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法 （基準）	講義での提出物（（30%）、期末レポート（40%）、授業への参加度（30%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	皆さんの将来のことを一緒に考えましょう。
担当者の 研究室等	７号館５階　　石井研究室 就職部
備考	

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名（英文）	Development of Communication Ability
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松田　剛典
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（言語、一般常識）について学びながら、社会で必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの４技能は社会で必要なスキルですが、すぐに身に付くことはできません。この授業では毎回、話す、聴く練習をしながら、就職活動で必要な一般常識や言語の知識について学びます。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンを練習する機会はあまりありません。講座を通して社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。
到達目標	
授業方法と留意点	一般常識、言語に関しては毎回小テストで自分の理解を確認しながら、言語の基礎を学びます。 また、授業を通してコミュニケーションスキルを養います。 グループワークや読み書きの体験を中心にした実践型の授業ですので、積極的な姿勢で参加してください。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な言語の知識とコミュニケーション能力を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは？	コミュニケーションとは？ なぜ、コミュニケーションが必要なのか？	シラバス熟読
2	聞く技術、話す技術	聞く技術、話す技術について基本的な方法を学びます。	前週に配布する”２語の関係①”をしっかりと復習してきてください。
3	企業について知る（時事）	就職サイトの求人情報を参考に、企業の情報や仕事内容の見方を知り、時事との関連を考えます。	前週に配布する”２語の関係②”をしっかりと復習してきてください。
4	グループディスカッション基礎	グループディスカッションの上手な進め方、役割を知ります。また、実際に体験します。	前週に配布する”語句の用法①”をしっかりと復習してきてください。
5	ビジネスと経済＋GD 体験①	企業のお金の流れと、経済の仕組みについて学びます。	新聞、ニュースを見ておいてください。
6	ビジネスと法律＋GD 体験②	企業活動と法律について学びます。	新聞、ニュースを見ておいてください。
7	長文読解と書く技術	ロジカルシンキングや論理的な文章を書ける議寿を学びます。	新聞、ニュースを見ておいてください。
8	グループディスカッション発展①	就職活動等で頻出される、アイデアを出すタイプのグループディスカッションを体験します。	中間レポートを提出します。 前週に配布する”長文問題”をしっかりと復習してきてください。
9	グループディスカッション発展②	就職活動等で頻出される、ディベートタイプのグループディスカッションを体験します。	前週に配布する”長文問題”をしっかりと復習してきてください。
10	プレゼンテーションについて	人前で上手に話す技術や聞き取りやすく分かりやすいプレゼンについて学びます。	前週に配布する”時事”をしっかりと復習してきてください。
11	敬語とマナー①	社会に出るための最低限のマナーや態度について学びます。	前週に配布する”敬語”をしっかりと復習してきてください。
12	敬語とマナー②	メールの書き方、電話対応など基本的なマナーと履歴書の書き方を学びます。	前週に配布する”敬語”をしっかりと復習してきてください。
13	面接演習①	グループ面接を体験します。	面接の準備をしっかりとしてきてください。
14	面接演習②	グループ面接を体験します。	レポートを提出があります。
15	講義の振り返り	言語・一般常識確認テスト レポート振り返り	全ての範囲を事前に勉強しておいてください。

関連科目	キャリアデザインⅡ,数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点４割　授業内レポート＆テスト６割（中間と最終レポート）で評価します。
学生へのメッセージ	３年生の後半からは始まる進路選択に向けて実践的なコミュニケーションを体験しながら、筆記試験で出際される言語分野や一般常識について学びます。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名（英文）	Development of Communication Ability
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	ＥＧＨＩＪ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松田　剛典
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（言語、一般常識）について学びながら、社会で必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの４技能は社会で必要なスキルですが、すぐに身に付くことはできません。この授業では毎回、話す、聴く練習をしながら、就職活動で必要な一般常識や言語の知識について学びます。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンを練習する機会はあまりありません。講座を通して社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。
到達目標	
授業方法と留意点	一般常識、言語に関しては毎回小テストで自分の理解を確認しながら、言語の基礎を学びます。 また、授業を通してコミュニケーションスキルを養います。 グループワークや読み書きの体験を中心にした実践型の授業ですので、積極的な姿勢で参加してください。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な言語の知識とコミュニケーション能力を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは？	コミュニケーションとは？ なぜ、コミュニケーションが必要なのか？	シラバス熟読
2	聞く技術、話す技術	聞く技術、話す技術について基本的な方法を学びます。	前週に配布する”２語の関係①”をしっかりと復習してきてください。
3	企業について知る（時事）	就職サイトの求人情報を参考に、企業の情報や仕事内容の見方を知り、時事との関連を考えます。	前週に配布する”２語の関係②”をしっかりと復習してきてください。
4	グループディスカッション基礎	グループディスカッションの上手な進め方、役割を知ります。また、実際に体験します。	前週に配布する”語句の用法①”をしっかりと復習してきてください。
5	ビジネスと経済＋GD 体験①	企業のお金の流れと、経済の仕組みについて学びます。	新聞、ニュースを見ておいてください。
6	ビジネスと法律＋GD 体験②	企業活動と法律について学びます。	新聞、ニュースを見ておいてください。
7	長文読解と書く技術	ロジカルシンキングや論理的な文章を書ける議寿を学びます。	新聞、ニュースを見ておいてください。
8	グループディスカッション発展①	就職活動等で頻出される、アイデアを出すタイプのグループディスカッションを体験します。	中間レポートを提出します。 前週に配布する”長文問題”をしっかりと復習してきてください。
9	グループディスカッション発展②	就職活動等で頻出される、ディベートタイプのグループディスカッションを体験します。	前週に配布する”長文問題”をしっかりと復習してきてください。
10	プレゼンテーションについて	人前で上手に話す技術や聞き取りやすく分かりやすいプレゼンについて学びます。	前週に配布する”時事”をしっかりと復習してきてください。
11	敬語とマナー①	社会に出るための最低限のマナーや態度について学びます。	前週に配布する”敬語”をしっかりと復習してきてください。
12	敬語とマナー②	メールの書き方、電話対応など基本的なマナーと履歴書の書き方を学びます。	前週に配布する”敬語”をしっかりと復習してきてください。
13	面接演習①	グループ面接を体験します。	面接の準備をしっかりとしてきてください。
14	面接演習②	グループ面接を体験します。	レポートを提出があります。
15	講義の振り返り	言語・一般常識確認テスト レポート振り返り	全ての範囲を事前に勉強しておいてください。

関連科目	キャリアデザインⅡ,数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点４割　授業内レポート＆テスト６割（中間と最終レポート）で評価します。
学生へのメッセージ	３年生の後半からは始まる進路選択に向けて実践的なコミュニケーションを体験しながら、筆記試験で出際される言語分野や一般常識について学びます。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	数的能力開発	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	亀田　峻宣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多いですし、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数学力が身についていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	速度算の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	算数・数学の文章題⑤	場合の数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学①	集合問題・領域問題	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	推理問題①	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題②	講義で取り扱った問題の復習
14	復習	復習	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目：キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を別途指示します。Smart SPI も利用します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します。
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　教子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック	課題１のフィードバック	前回の復習
7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
11	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
12	フィードバック レポートの書き方２	課題２のフィードバック レポート作成の注意点をおさえる	前回の復習
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩＪ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	細川　知佐子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック	課題１のフィードバック	前回の復習
7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
11	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
12	フィードバック レポートの書き方２	課題２のフィードバック レポート作成の注意点をおさえる	前回の復習
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	丹下　暖子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック	課題１のフィードバック	前回の復習
7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
11	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
12	フィードバック レポートの書き方２	課題２のフィードバック レポート作成の注意点をおさえる	前回の復習
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	髙嶋　藍
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック	課題１のフィードバック	前回の復習
7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
11	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
12	フィードバック レポートの書き方２	課題２のフィードバック レポート作成の注意点をおさえる	前回の復習
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　教子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章の書き方を習得することができる。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につけることができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	社会生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポートの作成	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩＪ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	細川　知佐子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章の書き方を習得することができる。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につけることができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	社会生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポートの作成	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	丹下　暖子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章の書き方を習得することができる。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につけることができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	社会生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポートの作成	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	丹下　暖子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な文章の書き方を習得することができる。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につけることができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	社会生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポートの作成	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	

科目名	ビジネスマナーⅠ	科目名（英文）	Bisiness Manner Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本　朗子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパースンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果（資格）	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ーあいさつの重要性（理論と実践）	授業のオリエンテーション 授業のルール あいさつの真の意味とは 正しい基本姿勢を学ぶ	ビジネスマナーとは何かを考える。
2	仕事の進め方と組織活動	仕事の基本動作とサイクル 定型業務と非定型業務 コスト意識とエコ活動	仕事とは何かを考える。
3	目標設定と PDCA サイクル	目標設定（MBO） PDCA とは チームと個人の役割	あなたの MBO と PDCA について考える。
4	スケジュールと出張業務	スケジュールの作り方 業務としての出張	あなたの予定表作成について振り返ってみましょう。
5	ビジネスの場での敬語表現	基本的な敬語表現の復習 ビジネスの場での使用方法	ケーススタディを通してことばの重要性を認識し、ロールプレイングでことばと態度と気持ちの三位一体化を体現する。
6	法的業務	押印と印鑑の意味 内容証明 個人情報保護（P マーク） コンプライアンス	一般的な法律に即した業務を遂行できるよう、基礎的知識を習得する。
7	ホウ・レン・ソウ	ビジネスにおける報連相を知る 指示の受け方 業務の優先順位	ホウレンソウとメモを取ることの重要性を認識し、ロールプレイングを行う。
8	電話応対	ビジネスフォンの扱い方 ５W２H から６W３H へ 簡潔メモの作り方 不在処理と伝言	第一印象の重要性、代表として電話応対をしているということを自覚する。
9	来客応対	組織図と対応 簡単な応対から不在処理や重複処理まで 名刺交換	電話と同じで、企業等のビジネス組織の第一印象が決まることを理解する。
10	設営の基本	YTT 方式からの業務遂行 確認の必要性 他部署とのコミュニケーションの必要性	会議だけでなく、イベント（セミナー、説明会、シンポジウムからゴルフコンペまで）おける効率化が図られた手順を考える。
11	ビジネス文書の基本①	社外文書が基本 商取引文書と社交文書の相違 社内文書と社外文書の種類 ファイリング	日本語の基本と日本の企業文化を学ぶ。
12	ビジネス文書の基本②	実践	ひとりで完全な文書を作成できることを目標とする。
13	ビジネス通信の基本	通信手段（電子メール、ファックス等）の選択 作成上の注意点 郵便・宅配便の知識	郵便の知識をまとめる。
14	慶弔と贈答	慶弔時の基本的マナー 「式」について 業務としての贈答	一般知識と日本の企業文化を学ぶ。
15	協働とコミュニケーション	外国人同僚・異文化への対応 働き方とキャリア開発 公共の場でのマナー	ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	ロールプレイ等のワーク（20%）、複数回のレポート（30%）、期末試験（50%）を総合評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、新入社員研修のような研修制度が充実できるほど経済的・時間的余裕がなくなった。今、企業等のビジネス組織からはみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的なものではなく、学生時代から培うことのできる資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致が可能となる。			
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）			
備考				

科目名	ビジネスマナーⅡ	科目名（英文）	Bisiness Manner II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	企業等のビジネス組織においての積極的なコミュニケーションや人間関係調整の必要性をビジネスマナーの視点から考え、ビジネス実務能力とは何かを理解する。 社会生活におけるマナーの重要性を認識し、社会人としての基礎であるビジネス実務能力を養う。
到達目標	社会人としてのコミュニケーション能力（非言語ならびに言語能力）とビジネス実務能力の向上を図ることである。
授業方法と留意点	第一に、社会人として理解し、行動に移さなければならない知識や技能としての実務領域を体得する。 第二に、ロールプレイやワークを取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務能力が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ビジネスマナーとは	・授業のオリエンテーション ・ビジネスにおける最低限のルール確認	ビジネスマナーⅠを受講した学生は学んだことを復習しておくこと。 受講していない学生は自身のマナーについて考えてみること。
2	正しい姿勢と動作	・第一印象の重要性の確認 ・姿勢のワンポイントアドバイス	自身の第一印象の良い点、改善すべき点をメモしておく。
3	PDCA サイクルと YTT 方式	・PDCA サイクルの重要性 ・YTT 方式の活用法	日常において段取りが悪かった事例の内容を６W３Hでまとめておくこと。 また、その改善点を考え、記録する。
4	アサーティブな自己表現	・自分の意思を伝える方法 ・ロールプレイ	日常において伝えたくても伝えられなかった内容を思い出し、メモしておくこと。 また、相手に理解される伝え方を考える。
5	敬語表現と逆説得	・敬語の復習とビジネスにおける「NO」の伝え方	敬語を復習しておく。
6	環境プロデューサーとしての言動と「誠意」	・相手の適切な言動を引き出す環境づくりから、空間的及び心理的距離からみえる「誠意」とは何かの考察	「環境プロデューサー」の意味を考え、理解する。 「誠意」の意味を考え、コミュニケーションにおける距離を理解する。
7	「確実・迅速・丁寧」と信頼関係	・信頼関係の構築方法とコミュニケーションを築くキーワード	日常生活において「確実・迅速・丁寧」に行動できているか振り返る。 ビジネスにおいてなぜ「信頼関係」が必要なのか理解する。
8	処理業務の基本と応用	・来客応対、業務処理、重複業務処理とTPO の関係性ににについて考え、具体例とその解決手順を考察	TPO の意味を考え、処理業務の事例からその解決手順を考える。
9	設営の基本	・設営業務の基本	会議等を開催する手順を考え、工程表を作成する。
10	設営の応用とドキュメント作成	・文書処理、ならびにビジネス文書の書き方とファイリング	手順を理解したら、人が集まる会合等を企画・計画してみる。
11	ケーススタディ①	・事例研究	自ら優先順位を決め、処理する手順を考える。
12	ケーススタディ②	・事例研究	実務処理能力を高める。
13	ビジネスマナー再考 ーわかることからできることへー	・必要とされるビジネスマナー	ビジネスマナーを再考し、その必要性を頭の中で理解し、「わかる」という段階から、身体と心の一致である行為を促し、「できる」という実践へ移行させると同時に、自信へと繋ぐ。
14	キャリア開発と自己啓発	・自分で実践するキャリア開発	キャリア開発の必要性は何を意味しているか、将来にとってどのように必要か考えてみる。
15	振り返りまとめ	・授業の振り返り	ライフプランの中のキャリアプランを立ててみる。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス実務ワーク	石井三恵、他	泉文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ワークプレイス共生論	佐藤啓子、石井三恵、他	嵯峨野書院
2			
3			

評価方法（基準）	ワークならびに小テスト（30%）、レポート（30%）、期末試験（40%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ビジネスマナーの基本は、幼いころから家庭や学校で学んだことの延長線上にある。決して初めて学ぶことではなく、だれもが過去に成功体験や失敗体験を数多く持っている。まずは、TPO を考え、自分の言動を意識することから始めてみること。
担当者の研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	

教　職　科　目

科目名	教育課程論	科目名（英文）	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野　順子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・教育課程の意義及び編成の方法　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	（１）教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 （２）わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 （１）学校教育における教育課程の意義について理解できる。 （２）将来、教職に就いた際、適切な教育課程（カリキュラム）を計画でき、かつ、実践できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進めるが、そのほとんどは学生主体の発表（プレゼンテーション）を行うなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を複数概観しておくことが望ましい。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か／オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後（経験主義～系統主義：高度経済成長期）の教育課程変遷について。	課題：テキストの該当する部分と授業（第１回目）で配布する資料に目を通しておくこと。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970 年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：テキストの該当する部分と授業（第１回目）で配布する資料に目を通しておくこと。
4	教育課程（カリキュラム）の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素（内部要因と外部要因）について。	課題：シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当する分を読んでおくこと。
5	教育評価	発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。
6	『総合的な学習の時間』について	・導入の背景とそのねらいについて（学生グループによる発表を予定）	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
7	学校化された社会	「隠れたカリキュラム」について（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
8	新しい教育課程　その１	「キャリア教育」について（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
9	新しい教育課程　その２	「人権教育／平和教育」について（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
10	新しい教育課程　その３	「シティズンシップ」教育について（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
11	教育課程と教育改革　その１	特色のある学校づくり＝小中編（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
12	教育課程と教育改革　その２	特色のある学校づくり＝高校編（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
13	教育課程と教育格差　その１	学力格差と学力低下問題について（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
14	教育課程と教育格差　その２	教育格差に抗する学校の取り組みについて（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向と国内の問題について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育課程	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	有斐閣アルマ
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験、レポート及び授業態度や授業への貢献度（発表を含む）など総合的に評価を行う。特に、試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習を怠らないこと。また、欠席が多い者については成績評価の対象から外すので注意すること（全回出席すること。）。
学生へのメッセージ	第一回目欠席者に対しては別途課題を課すので担当者（大野）に直接問い合わせること。問い合わせのない場合、成績評価から外すことがあるので注意すること。 教職科目の特質をよく理解し、実践的理解を深めることが大切である。そのため、各自の中学校・高等学校での体験をふりかえり、学ぶことの視点に立った、計画的学習を考えること。また「教育実習」を視野に入れた授業計画を考えることが重要。
担当者の	７号館３階(大野順子研究室)

研究室等	
備考	2009 年度以前入学生は、（高校）教免取得上選択

科目名	教育経営論	科目名（英文）	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	本科目では、公教育システムに関してなじみの深い事例を参照し、そこから政策や法制、機構、理論や論争、現実や実態を明らかにし、検討していきます。これを通して、私たちにとってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのしくみやはたらきについて理解します。
到達目標	例えば「何をどう教えるのか」という内容的・技術的な事柄も実はさまざまな制度やその運用のし方などによって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をするほか、掲示版機能を使用しディスカッションもします。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としての LTD、「未来ポートフォリオ」の使用について説明 公教育の成立前史 教育における「公」と「私」	「未来ポートフォリオ」のリマインダを設定しておく。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」「学習する権利」 教育権論争について簡単なグループワーク	テキスト第３章１節を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育の制度原理 「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第３章２節を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第７章１・２節を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合 「選抜・選別」について簡単なグループワーク	テキスト第３章３節を読んでくる。 学校の機能に関する配布資料を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか 学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第７章２・３節を読んでくる。 学校統廃合に関する配布資料を読んでくる。
7	学校の組織管理	教職員配置と組織編制	テキスト第４章１・２節を読んでくる。
8	学校経営の新しい動向	「開かれた学校」 学校評議員制度、学校運営協議会制度 地域運営学校について簡単なグループワーク	テキスト第４章３・４節を読んでくる。 コミュニティスクールまたは学校参加に関する配布資料を読んでくる。
9	教育課程経営	学習指導要領の性質と特徴の変遷 学力論争と教育評価論 学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第１０章１・２節を読んでくる。 学力低下論争に関する配布資料を読んでくる。
10	教科書制度と指導行政	教科書検定 教科書採択 制度をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第１０章３・４節を読んでくる。 教科書検定または教科書採択制度に関する配布資料を読んでくる。
11	社会教育行政	社会教育と生涯学習 社会教育の理念と展開	テキスト第８章１・２節を読んでくる。
12	生涯学習社会への移行と生涯学習振興	社会教育行政の運営原則 社会教育の諸制度 社会教育不要論をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第８章３・４節を読んでくる。 社会教育不要論に関する配布資料を読んでくる。
13	教育行政のはたらきと地方教育行政組織	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク	テキスト第２章１節を読んでくる。 教育委員会制度の動向に関する配布資料を読んでくる。
14	国の教育行政と地方との関係	国の教育行政を動かす組織のしくみとはたらき 教育行政関係の新しい動向	テキスト第２章２・３節を読んでくる。
15	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第６章を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育行政学　改訂版	勝野正章・藤本典裕編	学文社
2			
3			

教職科目

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1		適宜指示します。	
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験 60%、レポート内容 30%、受講に係る積極的態度 10%の割合で総合的に評価します。定期試験を受験しなかった場合は成績評価をしません。
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。 遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	「未来ポートフォリオ」のリマインダを、すべてを受信するよう設定し、情報を確実に受け取ることができるようにしておきましょう。

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　裕樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	「そもそも、「教育」とはいったい何なのだろう」、このような問いを立てたことはありませんか。例えば、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか」。「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか」。「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについてもう一度丁寧に考え直してみることを目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができるようにします。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたうえで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭１種免許状　（2）中学校教諭１種免許状の取得　（3）学芸員資格の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考える。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについて、考える。
3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、もう一度「野生児」は教育されるべきであったかについて、改めて考える。
4	教育をめぐる諸論理①：「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要因である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。
5	教育をめぐる諸論理②：「子ども」観の歴史的変遷と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変遷してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史的変遷を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	自分の「子ども」一般に対するイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、もう一度自分の「子ども」観について考えてみる。
6	教育をめぐる諸論理③：「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」（あるいは「人間形成」）観の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の考え方の違いを、授業後にもう一度整理しておく。
7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
8	教育の思想の歴史②	カント、ペスタロッチらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
11	日本の教育の歴史②	大正自由教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。
13	教育と権力②	①権力論の新たなる展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。
14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「過去と未来の媒介者」という観点から考える。	「自分がどのような教師になりたいか」を考えておく。
15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目：教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は特に指定せず、授業中にレジュメと資料を配布します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	参考書に関しては、授業中に適宜紹介します。		
	2			
	3			

評価方法 （基準）	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	７号館３階（小山研究室）
備考	

科目名	教育実習Ⅰ	科目名（英文）	Teaching Practice Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日　素明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育実習　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	教育実習に関する実践的なテキストや視聴覚教材を用いて、またディスカッションや模擬授業を通して、教育実習に必要な教育実践の基本を理解します。
到達目標	(1)教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的な姿勢・態度を身につけます。(2)教科の有効な指導計画を立案し、授業を効果的に展開できるようになります。(3)生徒指導の実際についての有効な指導計画を立案できるようになります。
授業方法と留意点	視聴覚教材を有効に活用し、演習・実習形式あわせて授業を進めます。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出、ディスカッションをします。 欠席や遅刻・早退等は厳禁です。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教員養成･免許制度と教育実習の意義	科目概要・「未来ポートフォリオ」の使用について 教員養成カリキュラムにおける教育実習の位置 教育実習の意義と目的	教育実習校開拓報告書の提出 テキスト pp. 12-28
2	教育実習の実際（1）	教育実習の内容・形態	テキスト pp. 29-37
3	教育実習の実際（2）	実習中の勤務の要領 教育実習の１日（視聴覚教材の視聴、意見交換）	テキスト pp. 78-103 実習生の立場についてレポート提出
4	教育実習への準備（1）	事前準備と心がまえについて	テキスト pp. 46-77
5	教育実習への準備（2）	生徒指導・生徒理解について	テキスト pp. 140-163
6	学校における人権教育等について	人権教育とは 人権教育の現状と課題について 学校保健と安全指導について	授業時に指示する
7	特別支援教育の現状と課題	特別支援教育とは 障害の種類と配慮事項 障害児理解と交流教育について	授業時に指示する
8	教育実習における学習指導	教育実習生の授業（視聴覚教材の視聴、意見交換）	授業分析に関する配布資料
9	教材研究と学習指導案の作成（1）	授業の準備と配慮事項	テキスト pp. 104-139
10	教材研究と学習指導案の作成（2）	指定された分野・単元の教材研究（グループワーク） 指導計画・学習指導案の作成（グループワーク）	指定された分野・単元の教材研究（個人ワーク）
11	教材研究と学習指導案の作成（3）	指導計画・学習指導案の作成（個人ワーク） 板書計画の作成（グループワーク）	板書計画の作成（個人ワーク）
12	模擬授業（1）	作成した学習指導案に沿った模擬授業	学習指導案・板書計画案の提出
13	授業分析（1）	模擬授業の逐語記録による分析批評	逐語記録の作成
14	模擬授業（2）	作成した学習指導案に沿った模擬授業	学習指導案・板書計画案の提出
15	授業分析（2）	模擬授業の逐語記録による分析批評	逐語記録の作成

関連科目：教職科目全般。既習内容を復習、整理しておいてください。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新編　教育実習の常識―事例にもとづく必須 66 項	教育実習を考える会	蒼丘書林
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1		適宜指示する。	
2			
3			

評価方法（基準）	レポート、模擬授業の成果、授業や教育実習関連行事への参加に係る積極的態度等により、総合的に成績を判定します。
学生へのメッセージ	教育実習において生徒を指導するに際しては、いかに微細であっても不明点があってはなりません。教育実習はこれまでのあらゆる学習の総まとめであることを自覚して、十分に準備を整えていきましょう。 専門職業人・教師としての適格性が問われます。指示されたこと・決まりごとは守りましょう。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	年度内に開かれる教育実習体験発表会、教育実習総括講義には原則として必ず出席してください。 「未来ポートフォリオ」のリマインダを、すべてを受信するよう設定し、情報を確実に受け取ることができるようにしておきましょう。

科目名	教育実習Ⅱ	科目名（英文）	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育実習　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において２週間以上の実習を行う。（１）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（２）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（３）教育実習は所定期間内に実習校の指導教諭の下で行う。（４）事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（１）教育実習校での実習を行う。（２）大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。（３）事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上選択必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育実習特別個人指導（４月）	教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。	個別の呼び出しに速やかに応じること
2	教育実習事前指導（４月～５月）	教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論	申請書類等の記入・提出
3	教育実習個人指導（４月～５月）	教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。	教材・学習指導案を作成して提出（必要な者のみ）
4	前期教育実習開始（５月～６月）	実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
5	教育実習体験発表会（６月～７月）	教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
6	後期教育実習開始（９月～１０月）	後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
7	教育実習体験発表会（１０月）	後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
8	教育実習総括講義（１０月）	教育実習のまとめとして、その意義を確認する。	教育実習記録の提出
9	教育実践指導（１月～３月）	教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。	指示された課題
10	――――	――――	――――
11	――――	――――	――――
12	――――	――――	――――
13	――――	――――	――――
14	――――	――――	――――
15	――――	――――	――――
16	――――	――――	――――
17	――――	――――	――――
18	――――	――――	――――
19	――――	――――	――――
20	――――	――――	――――
21	――――	――――	――――
22	――――	――――	――――
23	――――	――――	――――
24	――――	――――	――――
25	――――	――――	――――
26	――――	――――	――――
27	――――	――――	――――
28	――――	――――	――――
29	――――	――――	――――
30	――――	――――	――――

関連科目	教職関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。
学生への	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。

メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館３階
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。

科目名	教育実習Ⅲ	科目名（英文）	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育実習　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において４週間以上の実習を行う。（１）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（２）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（３）教育実習は所定期間内に実習校の指導教諭の下で行う。（４）事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（１）教育実習校での実習を行う。（２）大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。（３）事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上選択必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育実習特別個人指導（４月）	教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。	個別の呼び出しに速やかに応じること
2	教育実習事前指導（４月～５月）	教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論	申請書類等の記入・提出
3	教育実習個人指導（４月～５月）	教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。	教材・学習指導案を作成して提出（必要な者のみ）
4	前期教育実習開始（５月～６月）	実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
5	教育実習体験発表会（６月～７月）	教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
6	後期教育実習開始（９月～１０月）	後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
7	教育実習体験発表会（１０月）	後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
8	教育実習総括講義（１０月）	教育実習のまとめとして、その意義を確認する。	教育実習記録の提出
9	教育実践指導（１月～３月）	教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。	指示された課題
10	――――	――――	――――
11	――――	――――	――――
12	――――	――――	――――
13	――――	――――	――――
14	――――	――――	――――
15	――――	――――	――――
16	――――	――――	――――
17	――――	――――	――――
18	――――	――――	――――
19	――――	――――	――――
20	――――	――――	――――
21	――――	――――	――――
22	――――	――――	――――
23	――――	――――	――――
24	――――	――――	――――
25	――――	――――	――――
26	――――	――――	――――
27	――――	――――	――――
28	――――	――――	――――
29	――――	――――	――――
30	――――	――――	――――

関連科目	教職関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。
学生への	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。

メッセージ	
担当者の 研究室等	７号館３階
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。

科目名	教職実践演習（中・高）	科目名（英文）	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教職実践演習　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。 ○中学・高校での現場体験学習を基に、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。 ○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。 ○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	○教職課程の専任教員５名による全体指導と、各専任教員毎のグループ学習を中心に進める。１グループは 15～20 名。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねる中で、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。 ○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。
科目学習の効果（資格）	○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く）　の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。 ○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」のガイダンス	・科目の目的、内容方法についての確認 ・各自の教育実習後の課題についての確認 ・３回以降のグループ学習の各課題の確認	・教育実習ノートの点検と再確認
2	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する個々の課題について教科担当教員が指導。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
3	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野と実践上の課題について、教科担当教員が指導。その上で、研究交流する。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
4	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場を全体で参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
5	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場をグループ毎に参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。 近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないか。 そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点を用い、学校教育を改めて考えてみたい。 特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、Ａ４サイズの用紙１?2 枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
9	学校の中のマイノリティ：外国にルーツをもつ子どもたち	1990 年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。 それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。 ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、Ａ４サイズの用紙１?2 程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
10	教師の「自律性」、あるいは「市民」としての教師	皆さんは、教師という職業についた後、どのように生きていきたいだろうか。教師は、職業人としては教師であるが、同	（事前）自分は教師としてどのように生きていきたいかを考えてみる。 （事後）小レポートの提出。

教職科目

		時に「人間」であり、「自律した市民」でもある。ここでは、こうした二重の生を送ることになる教師のあり方を、哲学的に考えていく。	
11	「学び続ける教員像」再考	昨今、社会の急激な変化に伴い、知識・技能の絶えざる刷新が不可欠であることから、政府の側からも「学び続ける教員像の確立」が求められてきている。ここでは、教師が学び続けることの意味、さらには、学ぶこと一般の意味について、改めて考えていく。	（事前）自分にとって学ぶことの意味とは何かを考えてみる。 （事後）小レポートの提出。
12	生活背景を視野に入れた生徒支援	貧困や虐待等、生活背景に課題のある生徒に対する支援のあり方について事例研究及びグループ討議を行う。	「子供の貧困対策に関する大綱」を一読しておくこと。授業後にミニレポートを課す。
13	コミュニケーション能力のとらえ方とその育成	生徒間の相互関係を深め、共感しながら人間関係やチームワークを形成する方策についての事例研究及びグループ討議を行う。	文部科学省コミュニケーション教育推進会議審議経過報告「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」を一読しておくこと。授業後、ミニレポートを課す。
14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応，保護者への対応に応用する。	（事前）カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を３つあげる。 （事後）小レポート
15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り，そのための１方法としてのエゴグラム作成を行う。	（事前）「自分」について考える。 （事後）小レポート

関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科毎の必修科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループ学習が中心であり，それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。その中で、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けること。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日素明、大野順子、小山裕樹、林茂樹、吉田佐治子
備考	

科目名	教育社会学	科目名（英文）	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部のみで対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。皆さんがこれまでの学校生活で直接経験してきた身近な教育問題から地域や国の政策レベルでの取り組み、そして海外における事例等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性を学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 １．教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 ２．現代社会における様々な教育問題について理解する。 ３．教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力が養える。 ４．様々な教育問題に対して、それぞれ意見を表現し、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。
授業方法と留意点	講義形式を中心としますが、適時、受講生全員で講義で取り扱う教育問題についてどのように考えているかそれぞれ発表してもらい、問題解決に向け議論する手法を取り入れるなど、演習（ゼミ）方式を取り入れ、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。そこで、よりよい議論の時間を保証するためにも、毎時、取り扱うテーマに関する文献等を読み（事前配布かテキスト使用）、それを講義日までに要約してきてもらいます（毎回それを提出してもらうことになります。提出が不十分な学生は成績対象から外す。）。 〇準備学習の具体的な方法 指定しているテキストを購入し、講義で扱うテーマに該当する部分を要約しておいて下さい。そして日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておいてください。また、履修する学生の皆さんには本講義用に1 冊ノートを作成してもらいます。そのノートに上記、予習や新聞等の切り抜き等を貼り付けるなど利用して下さい（まとめかたは自由）。※ノートは提出してもらうこともあります。
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭１種免許状　　（2）中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション　教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題：教科書の第 1 章、第 2 章の要約。
3	教師と子ども	「教師－生徒の関係性」という視点から学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題：教科書の第 3 章、第 4 章の要約。
4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題（体罰等）が発生する背景や要因について考える。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
5	いじめ	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにする。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
6	不登校	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
7	教育格差・階層問題Ⅰ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。	事前課題：教科書の第 7 章の要約。
8	教育格差・階層問題Ⅱ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
9	国の教育政策：海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
10	地域と学校Ⅰ	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
11	地域と学校Ⅱ	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行う。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事後課題：教科書の第 9 章、及び事前に配布する論文資料を読み、要約する。
14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題：教科書の第 10 章の要約。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『〔教師教育テキストシリーズ５〕教育社会学』	久富善之・長谷川裕編	学文社
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	出席・授業参加度、試験、課題・ノートにより総合的に評価（予定） ※欠席が 80%に満たない場合は成績評価の対象外とします。
学生への メッセージ	本講義を履修する者は、学校現場での活動経験（学習支援、授業支援、部活指導等内容は問わない無償・有償ボランティア活動）をしている（過去に長期間にわたり経験したことがある）ことが望ましい。活動経験のない者、現在、学校等において活動していない者は活動することを義務づけることがあるのでよく考えて履修することを決めること。
担当者の 研究室等	７号館３階(大野順子研究室)
備考	

科目名	教育心理学	科目名（英文）	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田　佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	学校での教育活動において、教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、様々な形で援助していくためにはどうすればよいのか、それを考えていくにあたって必要な、基礎的な知識を身につけることを目標とし、特に、認知的な側面に焦点を当てて議論していく。具体的には、教育について考える際に、ある意味基本となる「発達と学習」、学習者が主体的に学ぶための「学習意欲」、個人差の理解、障害の理解と特別支援教育について考える「個に応じた教育」を中心とする。また、学校を学習の場としてとらえたときの「人間関係」についてもふれることとする。
到達目標	教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」６単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	――――――
2	教育を支える認知機能１	思考(1)……人間の思考の特徴	テキスト第８章、第９章を読む
3	教育を支える認知機能２	思考(2)……思考の発達、メタ認知	テキスト第７章の１、第８章、第９章を読む
4	教育を支える認知機能３	言語(1)……言語の機能、言語の発達	テキスト第９章の２、第11章を読む
5	教育を支える認知機能４	言語(2)……文章理解	テキスト第11章を読む
6	教育を支える認知機能５	記憶(1)……記憶のメカニズム	テキスト第４章、第５章を読む
7	教育を支える認知機能６	記憶(2)……記憶の発達	テキスト第４章、第５章を読む
8	こどもの学び１	様々な学習(1)……学習とは何か、古典的条件づけ	テキスト第１章を読む
9	こどもの学び２	様々な学習(2)……道具的条件付け、観察学習	テキスト第１章を読む
10	学習を支える動機づけ１	意欲とは何か……動機づけ過程、期待×価値理論、学習性無力感	テキスト第２章、第３章を読む
11	学習を支える動機づけ２	さまざまな学習意欲(1)……外発的動機づけ	テキスト第２章、第３章を読む
12	学習を支える動機づけ３	さまざまな学習意欲(2)……内発的動機づけ	テキスト第２章、第３章を読む
13	学習を支える動機づけ４	学習意欲を育むために ……報酬と罰、評価、目標、教師の対応	テキスト第０章の２、第２章、第３章を読む
14	個に応じた教育１	個人差の理解と教育……ATI、学習方略	テキスト第０章の３，第６章を読む
15	個に応じた教育２	「障害」の理解と特別支援教育	テキスト第13章を読む

関連科目：心理学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学―実践の理論、理論を実践―	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 30%　期末試験 70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	

科目名	教育相談	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える.
到達目標	教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」４単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	――――
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第 1 章、第 2 章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	――――
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第 12 章、第 13 章を読む
5	学校におけるカウンセリング活動 1	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第 10 章を読む
6	学校におけるカウンセリング活動 2	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第 10 章を読む
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	――――
8	問題の理解と対応 1	問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第 3 章を読む
9	問題の理解と対応 2	ストレス、欲求不満，葛藤	テキスト第 3 章、第 4 章を読む
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習
11	相談援助活動の実際 1	不登校……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 5 章を読む
12	相談援助活動の実際 2	いじめ……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 6 章を読む
13	相談援助活動の実際 3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 7 章を読む
14	相談援助活動の実際 4	反社会的行動……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 8 章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために，教員への対応	テキスト第 14 章を読む

関連科目：教育方法論、生徒指導論、教育心理学、教育社会学など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	学校教育相談	一丸藤太郎・菅野信夫	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループ発表 50%　期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	

科目名	教育方法論	科目名（英文）	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林　茂樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	(1) 自己の被教育体験を出発点に、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を経て、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。 (2) 生徒の生活背景を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しつつ、教室を学びの場に変えていくことをめざす授業を構想、構成する。 (3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師の専門性を向上させることだけでなく、相互に学び合うことを可能にする同僚性を構築すること、及び教育学研究の新しい知見を摂取し続けることが重要であることを理解する。
到達目標	(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、チーム内での協議を踏まえて指導案を改善することができる。 (2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる力を養う。
授業方法と留意点	講義が中心となるが、インタラクティブな授業となるよう努める。また、学習指導案の作成に向けて、個人ワーク、グループワーク、グループ討議を適宜織り交ぜる。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教育方法の実践的探求にむけて	学習観・授業観・学校観の問い直し、教育方法学の学際的性格、多様な学びのあり方、学校教育における教師の役割	教科書第１章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
2	学校とは何か	学校観の変遷、教室の観察、授業の会話分析、なぜ勉強するのか、現代社会における学校の役割	教科書第２章及び配布プリントを読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
3	学習の再定義	学習の理論、新しい学力観、学びのメカニズム、学習の方法、客観主義的知識観と構成主義知識観	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
4	教室という空間	教師・生徒関係、授業のルール、授業のめあてと流れ、隠れたカリキュラム、生徒の生活背景・文化的背景を視野に入れる	第５章、第８章４以下をよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
5	カリキュラムの編成	学習指導要領と教育課程、カリキュラムの構造と類型、教科学習と総合的な学習、トラッキングと社会的再生産	教科書第３章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
6	情報化社会と教育	デジタル教材、ICT を活用した授業、情報活用能力の育成、情報リスクへの対応、校務事務処理の情報化	教科書第４章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
7	学習の組織化	学習のスタイル、教授のスタイル、教材とメディアの活用	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
8	授業の設計	生徒の実態把握、目標の設定、授業方法の決定、指導案の作成、授業、評価活動	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
9	学力調査と学力の構造	学力低下論争、学力調査の実施、学力格差の拡大、キー・コンピテンシー	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
10	教育評価	教育測定、相対評価と絶対評価、診断的評価、形成的評価と総括的評価、指導と評価の一体化、授業評価アンケート	教科書第６章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
11	対話的･協同的な学びと学級づくり	学習意欲低下の背景、授業崩壊、不登校・高校中退、関係づくり、学び合い	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
12	教育思想の歴史と教育方法	コメニウスからエンゲストロームまで近代学校に影響を与えた教育思想を振り返る	教科書第８章３までを読んでおく。学習内容を整理する。
13	授業研究の現状と課題	公開授業・研究授業、授業観察、校内授業研究、校種間連携、キャリア・アップ	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
14	教員間の協力協働	課題意識と実践の共有、協同的同僚性、バーンアウト、教員文化・学校組織文化の変革	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
15	学び続ける教員像	教師のライフサイクル、情報技術の革新、反省的実践家、学びの専門家、各種研修	教科書第７章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。

関連科目：教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育の方法・技術	岩川直樹編	学文社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	子どもに向き合う授業づくり	生田孝至	図書文化
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験（50%）、レポート（30%）、コメントペーパー（20%）により総合的に評価する。
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。
担当者の 研究室等	７号館３階(林研究室)
備考	

科目名	教師論	科目名（英文）	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教職の意義等に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・教職の意義及び教員の役割　・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）　・進路選択に資する各種機会の提供等　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や責任は何か」「教師の職務とはどのようなものか」「教師として生きるとはどのようなことか」などについて基礎的な知識を講義し、これを基づいてグループワークを行います。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 課題提示・レポート提出をするほか、掲示版機能を使用しディスカッションもします。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）・進路選択に資する各種の機会の提供等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要・「未来ポートフォリオ」の使用について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	「未来ポートフォリオのリマインダ設定」 本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	テキスト第１章
3	教師教育と教職の専門性（1）	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	テキスト第１０章
4	教師教育と教職の専門性（2）	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	テキスト第４章・第１２章
5	教師教育と教職の専門性（3）	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	テキスト第３章
6	教師教育と教職の専門性（4）	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料 テキスト第１１章
7	さまざまな教師像（1）	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	テキスト第２章・終章
8	さまざまな教師像（2）	「不良教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「不良教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	さまざまな教師像（3）	「熱血教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	さまざまな教師像（4）	「人間教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「人間教師」に関する配布資料を読みレポート提出
11	さまざまな教師像（5）	「プロ教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
12	教員の役割・職務（1）	教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第５章・第８章
13	教員の役割・職務（2）	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第７章 教職員の構成と校務分掌に関する配布資料
14	教員の役割・職務（3）	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 教員の勤務条件	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務（4）	教員のメンタルヘルス、バーンアウト 教育改革と教員	テキスト第９章

関連科目：教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版　教職論―「よい教師」への扉を開く―	佐島群巳・小池俊夫編	学文社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1		適宜指示します。	
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験を実施します。その他、レポートの内容、受講に係る積極的態度も成績判定の資料とします。
学生への メッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	「未来ポートフォリオ」のリマインダを、すべてを受信するよう設定し、情報を確実に受け取ることができるようにしておきましょう。

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Civic Education Method Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・各教科の指導法　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	本授業は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、意欲と責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （１）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な知識を確実に身につける。 （２）中学社会科、高校公民科の教師として、高い授業実践力をつける。 （３）地授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力がつく。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践的・参加型の授業」を目指します。よって、履修者は各回の授業テーマについてのレポート作成が課せられます。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。 ※該当するテキスト部分の要約
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※該当するテキスト部分の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（１）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（２）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（３）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
6	教育方法と技術（１）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術（２）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方（１）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（１）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（２）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（２）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（１）	模擬授業の実践と指導（１）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（２）	模擬授業の実践と指導（２）	模擬授業の準備。
12	模擬授業（３）	模擬授業の実践と指導（３）	模擬授業の準備。
13	模擬授業（４）	模擬授業の実践と指導（４）	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※該当するテキスト部分の要約
15	総括ー社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目：社会科・公民科教育法１、社会科・公民科教育法２は連続して受講することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	出席（全 15 回出席することを目指すこと。成績評価については少なくとも 80%以上は必要）、レポート（レポート提出の締め切りは厳守すること）、平常点（授業への貢献度、模擬授業等）、及び、最終試験により総合的に評価する。遅刻も欠席とする。
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　大野順子研究室
備考	授業計画は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野　順子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・各教科の指導法　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	本授業は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、意欲と責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （１）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な知識を確実に身につける。 （２）中学社会科、高校公民科の教師として、高い授業実践力をつける。 （３）地授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力がつく。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。よって、履修者は各回の授業テーマについてのレポート作成が課せられます。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。 ※該当するテキスト部分の要約
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※該当するテキスト部分の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（１）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（２）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（３）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※該当するテキスト部分の要約
6	教育方法と技術（１）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術（２）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方（１）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（１）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（２）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（２）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（１）	模擬授業の実践と指導（１）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（２）	模擬授業の実践と指導（２）	模擬授業の準備。
12	模擬授業（３）	模擬授業の実践と指導（３）	模擬授業の準備。
13	模擬授業（４）	模擬授業の実践と指導（４）	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※該当するテキスト部分の要約
15	総括ー社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目：社会科・公民科教育法１、社会科・公民科教育法２は連続して受講することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	出席（全 15 回出席すること。成績評価については少なくとも 80%以上は必要）、レポート（レポート提出の締め切りは厳守すること）、平常点（授業への貢献度、模擬授業等）、及び、最終試験により総合的に評価する。遅刻も欠席とする。
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　大野順子研究室
備考	授業計画は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	井上　正英
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・各教科の指導法　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	学習指導要領を元に具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。全員が模擬授業を実践し将来の教員として必要な授業技術の向上を目指す。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の模擬授業実践発表や討論を中心として行うので、積極的な発表、発言が望まれる。
科目学習の効果（資格）	中学・高校教員免許（社会科、地歴科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	学習指導要領歴史的分野の内容等の確認。	歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認	事前　学習指導要領の通読 事後　講義後指示する
2	学習指導要領地理的分野の内容等の確認。	世界と日本の地理的分野での基礎的事項の確認	事前　学習指導要領の通読 事後　講義後指示する
3	各個人による模擬授業実践発表と批評　１	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
4	各個人による模擬授業実践発表と批評　２	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
5	各個人による模擬授業実践発表と批評　３	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
6	各個人による模擬授業実践発表と批評　４	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
7	各個人による模擬授業実践発表と批評　５	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
8	各個人による模擬授業実践発表と批評　６	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
9	各個人による模擬授業実践発表と批評　７	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
10	各個人による模擬授業実践発表と批評　８	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
11	各個人による模擬授業実践発表と批評　９	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
12	各個人による模擬授業実践発表と批評　１０	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
13	各個人による模擬授業実践発表と批評　１１	各個人が地理・歴史科学習指導案を元に模擬授業を実施し、内容を批評検討する。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
14	授業実践発表の年間総括１	後期授業全体についての総括と反省点を討論する。	事前　全員の授業計画案を再度確認 事後　レポート作成、提出
15	授業実践発表の年間総括２	後期授業全体についての講義担当者からの総括。	事後　レポート作成、提出

関連科目：社会科・地歴科教育法Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
学生へのメッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
担当者の研究室等	１１号館　１階　教務課

備考	

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Geography and History Education Method Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	井上　正英
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・各教科の指導法　【教員免許状取得のための履修区分】選択必修		

授業概要・目的	近代教育制度の変遷を考察する中で、社会科・地歴科が果たすそれぞれの使命と責任を理解する。そのうえで具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。このほか現場で起こる各種の問題についても適宜説明する。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論等を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の発表や討論を中心として行うので、積極的な発言が望まれる。
科目学習の効果（資格）	中学・高校教員免許（社会科、地歴科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと年間計画	年間講義内容の概略・受講上の注意点・成績評価について	事前　既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく。 事後　授業終了時に指示する。
2	近代学校教育制度の変遷と社会科教育　1	江戸末期から明治の学制の発布について学ぶ。	事前　江戸末期から明治期の教育問題について調べておく。 事後　授業終了時に指示する。
3	近代学校教育制度の変遷と社会科教育　2	明治期の教育制度の変遷ついて学ぶその１。	事前　明治期教育の大まかな変遷について調べておく。 事後　授業終了時に指示する。
4	近代学校教育制度の変遷と社会科教育　3	明治期の教育制度の変遷ついて学ぶその２。	事前　明治期教育の大まかな変遷について調べておく。 事後　授業終了時に指示する。
5	近代学校教育制度の変遷と社会科教育　4	大正自由教育から国民科の成立について学ぶ。	事前　大正期から昭和初期の教育について調べておく。 事後　授業終了時に指示する。
6	近代学校教育制度の変遷と社会科教育　5	戦時下教育から占領下での民主化、および社会科の成立までを学ぶ。	事前　戦時下教育から占領下での教育の変遷を調べておく 事後　授業終了時に指示する。
7	学習指導要領について　1	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前　中高学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。 事後　授業終了時に指示する。
8	学習指導要領について　2	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前　中高学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。 事後　授業終了時に指示する。
9	学習指導案の作成と活用を学ぶ　1	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前　学習指導案とは何かを調べておく。 事後　授業終了時に指示する。
10	学習指導案の作成と活用を学ぶ　2	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前　与えられたテーマで各自学習指導案を作成し発表に備える。 事後　授業終了時に指示する。
11	学習指導案のプレゼンテーション　1	グループ毎に同一テーマでの学習指導案を作成・発表し、問題点について討議する。	事前　グループ内で指導案を作成しておくこと。 事後　授業終了時に指示する。
12	学習指導案のプレゼンテーション　2	グループ毎に同一テーマでの学習指導案を作成・発表し、問題点について討議する。	事前　グループ内で指導案を作成しておくこと。 事後　授業終了時に指示する。
13	学習指導案のプレゼンテーション　3	グループ毎に同一テーマでの学習指導案を作成・発表し、問題点について討議する。	事前　グループ内で指導案を作成しておくこと。 事後　授業終了時に指示する。
14	授業記録について	社会科教員として授業を見る目を鍛える為の授業記録の形式や方法について学ぶ。	事前　どのような授業記録方法があるかを考えておく。 事後　授業終了時に指示する。
15	評価の方法と理論	生徒の学習成果を検証するための視点と評価方法について学ぶ。	事前　評価方法の種類について考えておく。 事後　評価は自己の教育技術の反映であることを考える。

関連科目：社会科・地歴科教育法Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
学生への	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動

メッセージ	きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
担当者の 研究室等	１１号館　１階　教務課
備考	

科目名	生徒指導論	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counceling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・生徒指導の理論及び方法　・進路指導の理論及び方法【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、多くの具体的な問題事象に通底する基本的で普遍的な原理について学びます。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導の意義や指導の方法に関する基本的な事柄について必要最低限の知識を獲得し、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐってのディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生徒指導の目標と意義	科目概要・「未来ポートフォリオ」の使用について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり 生徒指導の目標と意義	「未来ポートフォリオ」のリマインダ設定 テキスト pp. 3-10
2	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 10-24
3	生徒指導の理論（1）	理論の重要性 発達に関する理論	テキスト pp. 32-39
4	生徒指導の理論（2）	生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 39-42
5	生徒理解の進め方（1）	生徒理解の意義と目的	テキスト pp. 43-46
6	生徒理解の進め方（2）	生徒理解の方法 生徒の自己理解の支援	テキスト pp. 46-56
7	生徒理解の進め方（3）	教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 56-61
8	中間試験	これまでの授業内容についての試験	前回までの復習
9	学級経営の進め方（1）	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
10	学級経営の進め方（2）	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-74
11	学級経営の進め方（3）	教師のリーダーシップ	テキスト pp. 74-79
12	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
13	進路指導の意義と課題	進路指導の意義と課題 進路指導に関する諸理論	テキスト pp. 135-159
14	勤労観・職業観の形成と変容	青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導における「ガイダンスの機能」 進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 215-234

関連科目：教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生徒指導・進路指導	高橋超・石井眞治・熊谷信順編	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1		適宜指示します。	
2			
3			

評価方法（基準）	中間試験、定期試験の得点の他、レポートの内容、受講に係る積極的態度により、総合的に成績を判定します。定期試験を受験しなかった場合、成績判定はしません。
学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
担当者の研究室等	7号館3階　朝日研究室
備考	「未来ポートフォリオ」のリマインダを、すべてを受信するよう設定し、情報を確実に受け取ることができるようにしましょう。

科目名	道徳教育の研究	科目名（英文）	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山　裕樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・道徳の指導法　【教員免許状取得のための履修区分】必修　　【科目】教科又は教職に関する科目（高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教科又は教職に関する科目　【教員免許状取得のための履修区分】選択		

授業概要・目的	この授業では、日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方（日本の道徳教育の歴史、道徳教育の内容を構成する諸概念、道徳性の発達理論、等）について解説を加えたうえで、実際に学校でどのように道徳教育を行えばよいのかを考えていきます。
到達目標	受講者が日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方を身に付けながら、道徳教育に関する具体的な授業計画を立案することができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。
科目学習の効果（資格）	中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：道徳の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:道徳教育をどのように考えるか	①現在、道徳教育がどのように考えられているかを、確認する。 ②読み物教材の分析を通して、道徳教育に対するアプローチ法を考える。	自分が受けてきた道徳教育がどのようなものだったか思い出しておく。
2	日本の道徳教育の歴史①:戦前の道徳教育	①明治から昭和初期にかけての道徳教育の歴史を概観する。 ②「個人主義」について多角的に考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「個人主義」についてより深く考える。
3	日本の道徳教育の歴史②:戦後の道徳教育	道徳教育に関する戦後すぐの教育改革の動向と、それに対するいわゆる保守反動的な動きとについて考える。	政治的・経済的状況との関わりから、道徳教育の歴史的変遷を整理する。
4	日本の道徳教育の歴史③:現代の道徳教育	①近年の道徳教育をめぐる教育改革の動向を概観する。 ②道徳教育推進論の論拠の一つともなっている「いじめ」問題について考えを深める。	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
5	諸外国の道徳教育	①諸外国の道徳教育の状況について概観する。 ②諸外国の道徳教育を事例として、道徳教育と「宗教教育」との関係について考える。	諸外国の道徳教育と自分の受けてきた道徳教育とを比較検討し、共通点と相違点とを整理する。
6	道徳教育の内容①：自我	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として自分自身に関すること」をめぐり、「自我」（＝「私」）について道徳教育の視点から考える。	普段の生活や授業の内容を振り返り、「私」のあり方についてより深く考える。
7	道徳教育の内容②：他者	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として他の人とのかかわりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「他者」との関わりのなかで「私」を捉え直す。	普段の生活を振り返り、そこでの「私」と「他者」との関わりについて考えておく。さらに、授業を踏まえたうえで、それについて再考する。
8	道徳教育の内容③：自然	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」をめぐり、道徳教育（とりわけ「いのちの教育」）の実践例を検討する。	「いのちの教育」の実践例について、授業の内容を踏まえたうえで、より深く考える。
9	道徳教育の内容④:美と崇高	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」をめぐり、道徳教育をいわゆる「情操教育」との関わりのなかで考える。	自分が受けてきた「情操教育」について思い出しておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、「情操教育」の可能性について再考する。
10	道徳教育の内容⑤：社会	①学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として集団や社会とのかかわりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「社会」との関わりのなかで「私」を捉え直す。 ②いわゆる「スクールカースト」について考える。	自分の周囲に生じた「スクールカースト」の体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
11	道徳性の発達	①コールバーグおよびギリガンによる道徳性の発達理論を検討する。 ②道徳性の発達理論を応用したいわゆる「モラル・ジレンマ授業」について理解を深める。	「モラル・ジレンマ授業」について構想するための準備をする。
12	道徳の授業の位置づけ	①教育課程編成上の道徳教育の位置づけを確認する。 ②教科教育のなかで行われた道徳教育の実践例をもとに、道徳教育の幅広い可能性について考える。	各教科教育と道徳教育との関わりについて整理する。
13	学習指導案の作成と授業の展開①	①学校における道徳教育の「要」とされている「道徳の時間」の位置づけについ	授業時に指示する。

教職科目

		て考える。 ②「道徳の時間」を計画的に進めるための学習指導案の書き方について具体的に考えていく。	
14	学習指導案の作成と授業の展開②	「道徳の時間」の学習指導案の書き方について、引き続き具体的に考えていく。	授業時に指示する。
15	まとめ:道徳教育と教師の責任	①道徳教育についてまとめとして考えるために、ある実験授業の記録を扱う。 ②この実験授業において生じた結果から、道徳教育が有する「可能性」や「限界」等について考察する。	授業時に指示する。

関連科目

教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教科書は特に指定せず、授業中にレジュメと資料を配布します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説：道徳編	文部科学省	日本文教出版
2	その他の参考書に関しては、授業中に適宜紹介します。		
3			

評価方法（基準）

授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。

学生へのメッセージ

受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。

担当者の研究室等

７号館３階(小山研究室)

備考

科目名	特別活動の理論と方法	科目名（英文）	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林　茂樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目（中学校・高等学校）　【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目　【各科目に含めることが必要な事項】・特別活動の指導法　【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	(1)学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事についての指導目標や内容に関する基礎的・基本的な知識を整理する。(2)学校現場では、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割をも果たしていることについて理解を深める。(3)「学級づくり」に焦点をあてて、教師と生徒の関係づくり、生徒どうしの関係づくりが課題の解決にどのように作用しているかについて、事例をもとに考察する。
到達目標	学級担任として、集団活動を育て、教育諸課題に対応するとともに、安心して学校生活を送ることができる学級をつくる実践的な方法を身に付ける。
授業方法と留意点	テキストやプリント教材、視聴覚教材をもとに講義をすすめる予定である。特別活動は「自主的実践的な態度を育む場づくり」を目標とし、「為すことによって学ぶ」スタイルが求められている。そのことを踏まえ、集団をファシリテートすることができるよう、自身の「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定」の充実を図るために、グループワークやグループ討議への積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：特別活動の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 特別活動の意義と課題	特別活動とは何か、特別活動の教育的意義、社会の変貌と子どもたちの状況、学級担任の役割	教科書第１章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
2	特別活動と学級づくり	学級づくりとは何か、なぜ学級づくりなのか、「いじめ」「子どもの荒れ」「学級崩壊」「進路の壁」について	教科書第９章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
3	特別活動の歴史、領域、方法	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい	教科書第２・３章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
4	特別活動と生徒指導	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	教科書第 10 章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
5	学級活動	学級活動の目標・内容、年間計画、課題、実践的手法	教科書第４章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
6	生徒会・学校行事	生徒会活動の歴史・目標・内容、学校行事の歴史・種類・内容・観点	教科書第５・６章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
7	学習指導要領における位置づけと改定の要点	教育課程における位置づけ、現行学習指導要領における課題、改定の要点、言語能力の重視について	教科書資料編をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
8	特別活動の評価	評価の対象、機能、方法、評価結果の活用	配布プリントをよく読んでおく。
9	特別活動と総合的な学習の時間・道徳教育	総合的な学習の時間・道徳教育との関連とそれぞれの教育的意義	教科書第７・８章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
10	特別活動と教育課題①いじめ・不登校	事例をもとにグループワーク、グループ討議を行う。	当該教育課題に関する報道内容等をチェックしておく。ミニレポートを作成し提出する。
11	特別活動と教育課題②体罰・非行	同上	同上
12	特別活動と教育課題③ジェンダー・マイノリティ	同上	同上
13	特別活動と教育課題④キャリア教育・進路選択支援	同上	同上
14	指導計画・指導案の作成	全体計画・年間指導計画の作成と内容の取り扱い、配慮事項等、指導案の作成	配布プリントをよく読んでおく
15	まとめ～子どもの自尊感情を高めるということ	集団的な自尊感情を育むことの重要性について	全学習事項について再度振り返り整理する。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の特別活動	相原次男・新富康央・南本長穂	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	担任力をみがく！	磯野雅治	雲母書房
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(50%)、レポート(30%)、コメントペーパー及び授業への参加状況(20%)を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。
担当者の研究室等	７号館３階(林研究室)
備考	